小川直也 橋本戦直後に人間UFO激白!「頂上が見えたらつまらない!」

2000 **26**

紙のプロレス RADICAL



「小川vs橋本戦」徹底討論、敢行ーッ!!

長州力戦への本音が爆!
今後の戦略を語りまくるん邪!
大仁田厚

逆風のエンセン怒る!
「プロ魂」に火がついた!!
エンセン井上

5・1ホイス戦目前!
"怒りのエネルギー"充填完了!!
やっちゃってくれサク!! **桜庭和志**

セーム・シュルト戦決定!
捲土重来「炎の三番勝負」に出陣! **山本宜久**

ドームを激震させたこの言葉を、サク、船木、田村にも贈ろうぜ!
「プロレス」を頼むゾーッ!!(アントン調)

WWF特集チェケ!
『紙プロAMERICAN』
「語ろう、レッスルマニア!」

リングス勢参戦決定!
アブダビ王子も来日?
船木vsヒクソン戦だけじゃない!!
ガ然ヒートアップ!! 5・26
「コロシアム2000」の見どころ

村浜がプロレスのリングに上がるのは是か非か?
セメント・インタビューを読めェェェ!
村浜武洋

遂にこの男を発見!
維震魂はまだ燃えているか?
斉藤彰俊

例え負けても、この男に注目!!
村上一成

「WWF」「みちのく」に悪ガキ咆吼!
TAKAみちのく

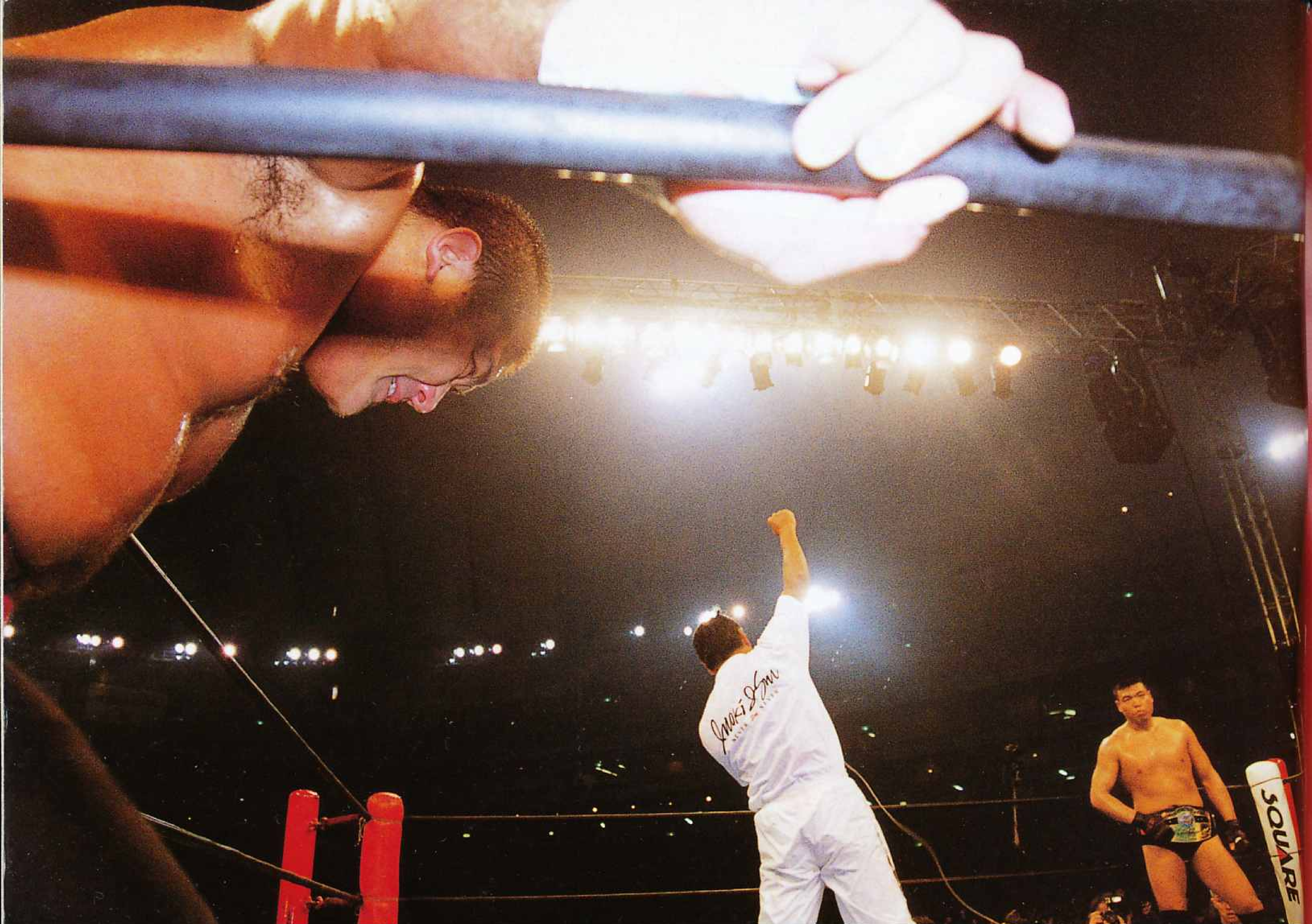
「女子格闘技界に万里の長城を築く!」
注目の女子格闘技・ReMiXの全貌

女子プロマットにも「格闘技」の驚異!
この状況になにを考える——
長与千種&ライオネス飛鳥

前田総帥、田村に金無垢のロレックスをホントに贈呈! その現場を独占取材!

紙のプロレス RADICAL 2000 NO.26 「プロレス」を頼むゾーッ!! 小川、桜庭、船木、田村が究極始動!

発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体800円



4・7は「プロレス黄金狂時代」への序曲か——?

平均15.7%!
オーちゃん激勝!!
やめるな破壊王!!!

1・2・3・ダー!!!



プロレスを頼むゾーッ!!

オーちゃん、もっと高度を上げろ!!

『プロレス』という〝拡大鏡の世界〟が再び世間と対峙した!!





悲鳴と「橋本コール」がドームを包むなか、敗れた破壊王は、中央の長い長い花道を独り歩いて戻った。そして最後にステージで深々と頭を下げる。破壊王よ、「迷わずゆけよ、ゆけばわかるさ」

「橋本！ ありがとう。小川！ ありがとう。プロレスを頼むゾーッ!! 1・2・3・ダーッ!!」

猪木さんは元気よく右手を空に突き上げた。引退を賭けた橋本の敗戦にボーゼンとする場内の空気をまったく無視することこの上なし！ 試合後に、「猪木ワールド」がたっぷり見られると思っていた者は、予定調和的な気分を完全に狂わされ、見事に肩すかしを食った。

しかし、どんなにこちらがキャリアを積んだとしても、猪木さんには良くも悪くもビックリさせられっぱなしである。

約13年ぶりに「金曜夜8時」のゴールデン・タイムにプロレスが帰ってきた。そうだ。僕らは「金曜8時」には、いつも猪木さんにビックリさせられていたのだ。

4・7東京ドーム、生中継。

その格闘ロマンの大舞台のメインに立ったのは、小川直也と橋本真也だった。

オーちゃんはプロレス界を〝黄金狂時代〟へと導く重責を背負い、破壊王は再起への執念と屈辱感——強い部分も弱い部分もすべてをさらけ出してリングに立った。

右に落ちれば「シュートマッチ」、左に落ちれば「WWF」となってしまいかねない〝綱渡り〟なこの一戦は、猪木さんが言うところの「格闘芸術」をリング上に立ち昇らせた。この〝綱渡り〟は選ばれた者、尋常じゃないエネルギーを持った者にしかできる芸当ではない。

「プロレス」と「格闘技」を分けて語るのはあまり気乗りしないのだが、敢えて分けるとすれば、「格闘技」は、見る側が〝顕微鏡〟を用意しないと、実に見えにくい世界だ。たとえば技術の攻防にしても、見る側が〝顕微鏡〟の焦点を合わせなければ見えないことが多い。

しかし、プロレスは「拡大鏡」がリングの四面に張り巡らせてある世界である。

格闘技としての技術、喜怒哀楽、エネルギーの大小、キャラクター（人格）、辿ってきた道程などが、一瞬にして「拡大」されて見える仕組みになっている。だからこそ、チンケな技術やチンケなプライド、チンケな思考などは、すぐに見破られてしまうジャンルとも言える。



なんと破壊王は花道に続くエプロンから水面蹴りを放った。これにはオーちゃんも飛び上がるかのように足を掬われた！　不慣れなパンチを繰り出すなど積極的に攻めた破壊王だが、肩を脱臼したオーちゃんを仕留めきれなかった



昨年の10・11にも炸裂三昧だった“恐怖のＳＴＯ”。それを、紙一重の差でＤＤＴ気味に切り返すというシーンをつくった破壊王。しかし最後に破壊王を破壊したのは、やはりこのＳＴＯだった！



グローブをはずした破壊王の拳には、バンテージがグルグル巻きに！　まさに石の拳と化した鉄拳を武器にオーちゃんに殴りかかっていった。頭に血が昇った村上一成が抗議しにリングイン！　場内は騒然とした雰囲気に包まれた



マウントからのタコ殴りから顔面への蹴りというエグイ攻めに出ると、たまらず破壊王は場外へエスケープ。かなり長い間呼吸を整え、オーちゃんのイラダチを誘う作戦に出る。このとき、破壊王の脳裡にはなにがよぎっていたのか？



すぐに見破られてしまうジャンルとも言える。

天才と言われる写真家・アラーキーがこんなことを言っていたことがある。

『『男を張る』とか、『身体を張る』とかの『張る』っていうのは、さらけ出すことだから』

アラーキーは、ファインダー越しに被写体の奥底に眠ってるものを抜き出し、拡大してフィルムに焼きつける。

プロレスもそうだ。野性、色気、強さ、弱さ、才能、純粋さ、残酷さ——単なる勝負だけではなく、プロレスラーの身体の奥底に眠っている〝生〟を、闘いを通してさらけ出したとき、リング四方にある「拡大鏡」には、もの凄いものが映し出されているはずなのだ。

日常には立ち昇らないものが映し出されたときに、人々は細胞を叩き起こされる。

平均15・7%。瞬間最高視聴率24%——。

この日、オーちゃんは、破壊王をまたまた逆破壊したが、もうひとつ「世間」という魔物に対して闘いを仕掛けた。この「世間」というのは、不用意に近づくとアッという間に手のひらを返す。アントニオ猪木は長い年月、常に全力でその「世間」と対峙してきた。だが、あの猪木さんでもこのやっかいな強敵には手こずった。

プロレス界には魔物が棲むとよく言われるが、実は「世間」のほうに魔物が棲んでいるのである。

「世間」に対峙するには、魔物を跳ね返す人間力が必要になってくる。

つまり、プロレスとは「総合人間力」を競うものなのである。

4・7では、オーちゃんが紙一重の差で勝利したが、さらけ出したのは破壊王のほうだった。「世間」との第一戦を突破したオーちゃんだが、まだまだこれから、さらなる試練が待っているだろう。待っていないプロレス界だったら、永久に〝黄金狂時代〟などやってこない。

オーちゃん、もっと高度を上げろ！　破壊王も続け！　プロレスを頼むゾーッ　【Ｎ・Ｙ】

オーちゃんのインタビューはＰ73より～

〝プロ魂〟か？〝決闘魂〟か？
その答えは5・1に出る——!!

ホイス戦で〝炎のダスキン〟は炸裂するか!!

〝世紀が変わる一戦〟間近!!
サク、〝怒りのエネルギー〟充填完了!!



　去る3月13日、ホイス・グレイシーは兄のホリオンと共に自らの意思で来日し会見を開いた。すでにトーナメントの1回戦が終わっているにも関わらず、そこでは「無制限ラウンド判定なし」という「ジス・イズ・グレイシールール」を突きつけてきた。当然、この要求が通らないときは、「出場拒否」という巨大なオマケ付きである。

　グレイシーは、時間無制限、第三者の判定なしの勝負こそ「本物の闘い」であると主張。膠着をも全面肯定したのである。

　そこには興行の論理や観客論が入り込む隙はなかった。

　前号でも報じたが、これに対しサクは緊急会見を開き、要求を全面的に受け入れた上で、「1週間でもやってやります。先にトイレに行ったほうが負けってことで」と憤慨気味に切り返した。しかもオムツ姿で（最高！）。

　ここにきてバーリ・トゥード、そして『PRIDE』は、〝決闘の概念〟を受け入れるか、〝競技化〟の方向性を推し進めるかという選択を迫られ、「闘いの本質とは何か？」という命題をはからずも突きつけられることになったわけである。

　もちろん、その中には『プロの闘いとは何か？』というテーマも含まれている。

　確かにグレイシーの技術、神秘性には日本マット界も目を覚まされた部分も実に多いのだが、ここは一度は口にチャックをさせなければ、〝グレイシー・ショック〟というトラウマは癒されない。そしていつまでたっても、グレイシーのわがままを受け入れなければならなくなる。我らがサクは、4月11日の会見で「ファイトマネー争奪マッチ」を逆要求。決戦前ホイスから一本取ることに成功した。

　さあ、5・1、ホンバン！　やっちゃってくれ、サク！　と異様に力が入るこちらを尻目に、サクは絶賛発売中の初の自叙伝が、「野グソの話から始まります」とニコニコ語り、普段通りなこと、この上なしだったのである。（ニコニコ）

桜庭和志

炎のロングインタビュー



聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／森“モーリー”鷹博
photographs by Morry
出演／ダスキンのモップ
（高田道場所有&紙プロ所有）

——さ、野グソの話はともかく（笑）、昨日の記者会見には、桜庭さんの標的とするホリオンが来ませんでしたね。

桜庭　残念ですねぇ（ニコニコ）。

——あれ？　もうだいぶ鎮火してるんですか、ホリオン&ホイスに対しては。

桜庭　そうですね。ボクもそろそろ鎮まらないとダメかなって（ニコニコ）。

——試合前に鎮火するっていうのは、いいことなんですか？

桜庭　ボクにとってはいいことですね。

——あ～、桜庭さんはそういう構造ですもんね。試合前には絶対に無駄なエネルギーは使わない（笑）。で、昨日の会見では、「ファイトマネーを賭けて、勝ったほうが全額もらえる要求」をしましたね。

桜庭　相手がもうちょっと戸惑うかと思ったんですけどね、即「いいよ」っていう返事が来たから、つまんなかったですけどね。

※その後、4月13日、大磯で恒例の「海篭り特訓」を公開したホイスは、その要求について、「それはまた別の話だ」ということで、サクの要求を本気で受けるつもりのない心境を吐露した。

——「ホイス・グレイシー33歳、桜庭和志に負けたら、ファイトマネー即没収スペシャル」になったら面白いですけどね（笑）。昨日の会見中、ホイスはずっとガンつけてましたね。

桜庭　無視してました（あっさり）。

——ガハハハ！　冷たいですねぇ。

桜庭　だって、ガンつけるのは強さのうちに入らないですからね。

——桜庭さん、圧倒的にそっち方面ですからね（笑）。

桜庭　「弱い犬ほどよく吠える」って言うじゃないですか。ワンワン横で吠えてるから、「うるさいなぁ」って思って。

——桜庭さんがバツグンなこと要求するからですよ（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。な～んか、いつも損してる気分なんですよね。そのファイトマネーの件もホントはどうでもいいんだけど、戸惑わすっていうか。だから、返事もどうでもよかったから、言うだけ言って返事もロクに聞いてない（笑）。

—ガハハハ！　タチ悪い。向こうは絶対ムカついてますよ。「こいつ、俺の話聞いてないぞ」って。

桜庭　でも、彼とその場で話をするために行ったわけじゃなくって、「記者会見を開きますから来てください」って言われたから行っただけで。

—でも、ホイスのマネージャーとは話したらしいじゃないですか。

桜庭　話したって言っても、向こうが帰り際に話しかけてきただけですよ。「どうも～、失礼します～」って感じで。「いつも冗談ばっかり言って面白いね」って言ってきたから、「ハハハハ！」って笑ってボクは去りました（笑）。

—向こうは嫌味っぽく言ったの？

桜庭　いや、普通にですよ。日本語ペラペラだったんですよ。思いっきりガイジン顔なのに。

—「いっつも損ばっかりしてる気がする」って言ってましたけど、グレイシー側の要求は、なんか車の割り込みみたいな感じしますよね。

桜庭　ヴァァ～ッ！　そう言われるとそうですね!!　自分が右側走ってるときに、左側で信号の前に止まってる車が、青になった瞬間にビューンって前に割り込んでくるヤツ！

—なにも、「そんなにムキになって割り込まなくってもいいだろう」っていうの、いますよね（笑）。

桜庭　1台2台、待てばいいじゃないかって。

—桜庭さんは普通にウィンカー出してくれれば、入れてあげるタイプですよね。

桜庭　ウィンカー出せば入れますよ。ウィンカー出さずにきたら腹立ちますよね。バイクに乗ってると、ウィンカーつけない車って危ないんですよ。

—だから、ホイス側の要求は、トーナメントで、しかもすでに1回戦を闘ってるにも関わらず、自分たちの試合だけルールを変えろっていうのは、割り込みみたいだなぁと思って。でも、桜庭さんは要求を全部飲んだわけですよね。

桜庭　まだボクは引っ掛かってますけど。

キチンと割って、使って、ポイ！ 1回使うくらいだったら許せますよ、割り箸も



【右】1・30でサクと闘ったG・メッツァー戦が決まった佐竹雅昭も出席した4月11日の会見。ここでサクは「ファイトマネーを賭けて闘うこと」と要求。「それはいいアイデアだ」と笑顔を見せたホイスだが、目は笑っていなかった。【左】3月13日に来日し、ルール変更を突きつけたグレイシー陣営。この日、ホイスはほとんどしゃべらず、ホリオンがしゃべり倒した

Kazushi Sakuraba

—ガハハハ！　もう正式発表されましたよ。

桜庭　まだ直前のルールミーティングがあるから。そこでゴネる（笑）。

—タチ悪いなぁ（笑）。

桜庭「ここでまた言うのもなんですけど、1ラウンド5分ぐらいにしませんか？」って（笑）。

—またホイスに睨まれますよ（笑）。

桜庭　あの人、目が怖いッスね！　目がイッちゃってますよね。

—怖さは感じますか？

桜庭　違う怖さが……。

—違うって、たとえば変質者的とか、そういう感じですか？

桜庭　いきなり殴りかかられそうな。強盗っていうのかなぁ？

—強盗！（笑）。

桜庭　そのへん歩いていて、いきなり殴ってきそうな人。最近多いじゃないですか。それっぽい目をしてる。でも睨み合いやったら、鼻毛がちょっと伸びてました（笑）。「鼻毛切る時間もないんだろうな～」って感じですね。記者会見やる時間はあるんですけどね。ホリオンとホイスが会見やったときだって、自分たちで望んで来たらしいんだけど、来なくてもファックスとかで十分だと思うんですよ。自分の練習する時間を放っぽり出して来たから。ま、疲れてるからしょうがないんでしょうけど、鼻毛ぐらい切っとけよ、と。目をギョロッとされても、鼻毛ベロッて出てたら、気合入らないですよ（笑）。

—ギョロッにベロッですか（笑）。でも威圧感は感じるんじゃないですか？

桜庭　全ッ然、感じない。あ、色が黒かったから、「肝臓悪いのかな？」って思いました。前に来たときより黒くなってましたよ。ただ日焼けしただけかもしれないですけど（笑）。

—これ通訳されて向こうが読むと思うと怖いなぁ（笑）。向こうの言い分で終始一貫してるのは「グレイシーの優位性」を示す姿勢で、「本物の闘い」とか「真の闘い」っていう言葉をよく口にしますよね。

桜庭　なにが「本物の闘い」なのか、わかんないですよね～。だって、ボクシングだって、アマレスだって、柔道だって、「本物の闘い」だと思うんですよ。ルールが整備されてるだけで。「本物の闘い」って広辞苑引いても載ってないでしょうし（笑）。だから、もっと詳しく言ってほしいですね。

—ボクがグレイシーの代わりに、もうちょっと詳しく言うと……。

桜庭　ストリート・ファイトがどうのですよね？

—ええ。実戦性のある闘いをやりたいということを訴えてますよね。ホリオンは、「見ていて飽きるファイトもあるかもしれないけども、それが本物の闘いだ。それは毒と同じで、飲み物に入れて飲むと、その人は毒を入れられたのを知らないで死んでしまう。飛んだり蹴ったりではなく、本当に頭を使う闘いの中で、グレイシー柔術という毒を飲んだら、知らないうちに死んでしまうかもしれない」と言ってます。

桜庭　………。だからどうしたんだ！　さっぱりわからない。例え話がな～んかわかんないんですよね。前にも砂漠がどうとか言ってたじゃないですか。わかりやすい例え話にしてよって感じですね。

—では、わかりやすくグレイシーの代わりにボクが言うとすると（笑）、「第三

者の判定はおかしい」ということです。

桜庭　それ、こないだのことですよね（桜庭vsホイラー戦）。いまさら言ったって、そのときはそういうルールでサインしてるんだから、それが「おかしい」って言われても変だと思いますよね。あれこそ「真の闘い」ですよ。ちゃんと契約して、お互いそのルールをわかってやってるわけですから。

――でも、単純な疑問として、桜庭さんはなんで「判定なし、無制限ラウンド」の要求を受けたんですか？

桜庭　「やれ」と言われたから。

――ガハハハ！　気が抜ける（笑）。「これでグレイシーが撤退しちゃって、大会がなくなっちゃったら関係者やファンに迷惑がかかるから」とかの思いはない？

桜庭　いや、そう言われればそうですけどね。

――「責任感からやりました」とか。

桜庭　責任感はないですね！

――ガハハハ。ない！（笑）。

桜庭　ここで言わせといて、割り箸！　キチンと割って、使って、ポイ。

――グレイシーは割り箸（笑）。でも、その割り箸にずいぶん長い間、日本のマット界は席巻されてるんですよね。

桜庭　ホイスはこないだ来たのは初めてですけどね。1回使うぐらいだったら許せますよ、割り箸も。水で洗って使えますから。でも3回、4回ってなると、前の醤油とか染みてて、嫌じゃないですか。湿った感じで。だから、「使って捨てようかな」と。言葉は悪いですけど（ニコニコ）。

――実にいい例えです（笑）。でも、その「第三者の判定」っていうことで言うと、「高田vsホイス戦は判定勝ちではなく、2Rになっても出てこなかった高田の戦意喪失だ」とも言ってますよね。

桜庭　お、お、おまえら！　おまえら、判定決まって大喜びしてたじゃないか！（ちょっとコーフン）。



――確かにセコンドがバーッと入ってきて抱き合ってましたよね。

桜庭　じゃあ、その場で言えよって。だ～って、向こうは絶対相談して来てるんですもん。

――は？　相談？

桜庭　会議！　会議開いて、みんなで口裏合わせて来てますよ。だから、なにかあったら必ず1回会議開かなきゃいけないんですよ。だから、その場では出てこないんですよ。

――なるほど、一族で意見をまとめてから後から言うということですか。

桜庭　そうそう。誰かが「ここはこうだ！」って言うと、「あ、そうか」ってなって。「作戦タ～イム！」ってなると、こうやって繋がってた（グレイシー・トレイン状態）のが、今度は丸くなって話し合うんですよ、きっと。真ん中に爺さんがいて。

――ガハハハ！　それは凄いチームワークですよ（笑）。あともう一つ、「自分より体重の重い相手と私たちは一夜で3人と闘ってきた」というのがありますよね。これもたぶん桜庭さんに対する優位性を示す見解だと思うんです。なんでかって言うと、桜庭さんは「重い人とやるのはイヤだ」と言ってるじゃないですか。これは「サクラバより俺たちのほうが、技術的にも闘いの姿勢においても優位だ」ということを言いたいのかもしれない。

桜庭　でも、みんな重い人と道具持たずにやってますからね。彼は道具持ってるけど。

――道具？

桜庭　道衣っていう道具。武器持てば、そりゃあ体重が重い人にだって勝てるでしょう。その武器の使い方をマスターしてれば。裸で自分の身に付いてる技術じゃないですもんね。だから、黙って柔術の試合してればいいのに、裸の闘いに出てくるから、言い訳しなくちゃいけなくなっちゃうんですよね。

――グレイシーが道衣を着ていいんだったら、他の人も何か着ていってもいいわけですよね？

桜庭　いいんじゃないですか？　ジーパンにTシャツでも（ニコニコ）。

――ホイラー戦の前には、桜庭さん、「フリフリつけていく」って言ってましたよね（笑）。

桜庭　カッコ悪いからやめました（笑）。

――ところで、体調はどうなんですか？

桜庭　体調は、普通です。

――前回（ガイ・メッツァー戦）はオーバーワークだったじゃないですか。

桜庭　いまは普通ですね。

――またスパーリングは重い人たちとばっかり？

桜庭　重い人たちばっかりですね（笑）。でも、途中でやめますもん。

――体重はいま何キロですか？

桜庭　85～86キロですね。あ、でも80キロぐらいまで落とそうかなぁ？　同じ体重にしたほうが、あとから文句言われないじゃないですか。文句のつけようのないパターンのほうがいいかなって思って。減量なら、アマレスで慣れてますから、お手のものですよ。

――グレイシーに一泡吹かせる確率っていうのは、どんなもんなんでしょうね？　本人に聞くのも、なんなんですけど（笑）。

桜庭　五分五分じゃないですか？　やってみないと、わかんないし。

――勝負ですからね。

桜庭　初めから決めてもいいんですけどね。向こうが乗ってくれれば、ボクの勝ちっていうことで。

――それは楽でいいですね（笑）。その場合ファイトマネーはどうなるんですか？

桜庭　ボクの分もあげますよ。そこで勝ちになった時点で、あとからおいしいのはボクですからね（ニコニコ）。

――それはでも、たぶん会議にかけても、なかなか結論は出そうもないですね（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。「賛成の人～」、「反対の人～」って？　何割以上が賛成すればゴーなんですかね？

――ガハハハ！　わかりません。実際、グレイシーサイドの怖さって、どういうとこなんですか？　一族を背負ってるところとか？

桜庭　それは別に。まとめてやるわけじゃないんで、なんとも思わないですけど。

――セコンドのホリオンが気になっちゃうとか（笑）。

桜庭　向こうのコーナーに行ったら、一発バチーンってチョップ入れる場面、タッグマッチでよくあるじゃないですか。「おまえが来い、バカヤロー！」っていうの。あれやろうかな。

――ガハハハ！　ホリオンには、相当頭にきてたみたいですね。

桜庭　だ～って、自分がやりもしないのに、うるさいから！　ホイラーとやったときに「次はお兄さん、ボクと勝負してください」って言ったじゃないですか。おまえのことだよ、ホリオン！

――ヒクソンじゃなくて（笑）。

桜庭　なんで弟が出て来るんだよ！　全部弟まかせにしやがって！

――これも面白いんですけど、そのホリオンは、「もしサハラ砂漠のようなところで、その人が一人になってしまったら、その人の頭の中はパニックが起こる。でも、その人に『明日迎えに来るよ』と言ったら、彼の頭の中からはパニックが消える。暑い日射しの中で1日過ごせばいいのだから。闘いもまったく同じだ。時間制限がないということで、初めてその人のマインドをテストすることができる」と言ってます。テストされてるわけですね、桜庭さんは。

桜庭　あぁ～、テストか。厳しいなぁ。でも、テストはカンニングできますからね。カンニングの技術は凄いですよ、ボク。大学のときにさんざんしましたからね（笑）。

――ちなみに、どういう方法で？

桜庭　簡単なんですけど、縮小コピーしてポケット入れとくだけ。ジャンパーとかのポケットから出して、手の中に入れて。ある程度は覚えといて、パッと見たらわかるようにして。それで試験官が来たら、スラスラ書いてるんですよ。

――ゆるいぞ、中央大学（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。

――桜庭さんは、そのカンペ作ってるときに覚えてるんですよ、きっと。

桜庭　ああ、そうですね。なるべく覚えるようにしてましたね。

――コツとかツボ掴むのはメチャメチャうまいから（笑）。

桜庭　ま、それは置いといて（ジェスチャー付き）、砂漠に迎えが来るか、来ないかですよね。ボク、迎えに来なくても自分で出ますから。「どっちの方向に行こうかなぁ？」って考えて行っちゃう。

――周りは見渡す限り砂漠だらけですよ。どっちに行っていいか迷うじゃないですか。

桜庭　迷っててもしょうがないから、行っちゃう。

――「迷わず行けよ、行けばわかるさ」（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。そうそう。行かないとわかんないから。それでもし力尽きたら、それがボクの運命ですから。それはしょうがない。

――じゃあ桜庭さんは、一人ポツンと砂漠に置かれても、パニックを起こすことはないと。

桜庭　はい。とは言っても、砂漠知らないからなぁ。

――それでグレイシー側の考えるバーリ・トゥードの定義は、「なんでもあり。路上の実戦と一緒だ」って言ってますね。

桜庭　路上でやってたら、時間無制限じゃねぇよぉぉぉ！　警察が迎えに来るよぉぉぉ！（再びちょっとコーフン）

――早く倒さなきゃいけないですよね。

桜庭　ホンット、早くカタつけなきゃ路上の喧嘩なんて勝てないですよ。ガーッてやってバーッて逃げる。チンタラチンタラやってたら、1週間ぐらい牢屋に閉じ込められるんだから。

――しかも、相手の仲間がいつ援軍に来るかもしれないし。

桜庭　路上の喧嘩で1対1なんて、ないんだから。

――ただ、グレイシーの言葉や要求することは、やっぱり「決闘」ムードを出すのには確かに有効なんですよね。

桜庭　でも、例えば路上で引き込んだらボコボコにされるぞ、コノヤロー！って。顔、グチャグチャですよ。警察か病院か、どっちかじゃないですか。あの闘い方だったら。

――「路上なら病院沙汰」（笑）。言っちゃえば、一時代前の格闘技ビジネスの売り込み方というか、そういうものを感じますね。それが逆に新鮮な部分もあるし。

桜庭　そうですね、古いっていうのはありますね。自分たちは人間じゃないように売り込んでるじゃないですか。そのへんがイヤ～なイメージありますね。

――桜庭さんから見ると、ホイスもホイラーもヒクソンも同じ人間だと。

桜庭　ズルい！　ズルい人間にしか見えない。鼻毛は出てるし（笑）。

――でもね、いろいろ言った上で、実際闘いの場に上がってくるわけだから、その点では凄いと思わないですか？

桜庭　ホイスが出てきたときは、「誰とでも闘う」みたいなこと言ってたんで、凄いとは思いましたよ。でもルール変更を要求してきた時点で「な～んだ、一緒か～」って。「だったら初めから言えよ。また金かい？」って思いました。

――グレイシーばっかり特別扱いされることに対してはどう思ってるんですか？

桜庭　頭にくるっていうか、ホンット、さっきの車の割り込みの話じゃないけど、こっちが損してる感じはありますよね。

――ずっと何台も何台も割り込まれてたら、さすがに温厚な桜庭和志であっても頭に来ると。

桜庭　割り込んでくる車って、次の信号が赤で止まると、まだ横にいるんですよね。

――ガハハ！「追いついてんじゃん」って（笑）。

桜庭　あわててるのか、自分が運転がウマイっていうのを見せたいのかわかんないけど、た～だ自分とその周りを危なくしてるだけですよね。こっちが追いついたときには「なんだよぉ～！」って思い

ますもんね。逆に割り込まれたときに、ボクが事故起こすかもしれないし。

――その強引なまでの割り込みをするっていうのが、いままでの格闘家とかプロレスラーのイメージだったんですよね。事故を起こすのもいとわずに「ナンビトたりとも俺の前を走らせない」っていう。そういう気概を持ってるのが格闘家って部分はありましたよね。

桜庭　ま、割り込みするのが、ただウマいだけなんじゃないかと思いますけどね。だ〜って、交通事故の話だって、第三者として聞けば面白い話はいっぱいあるじゃないですか。それが自分に関わってくると、腹立ちますよ。「こないだトラックに幅寄せされてさぁ」って話を言われたら「危ねぇよな〜」って簡単に言うけど、実際に自分がされたら「バカヤロォ〜〜！」って思いますからね。

――そりゃそうだ（笑）。

桜庭　ボク、やられたことありますよ。ムカついたから、追っかけてって、車の窓開けて「オメー、後ろ見てんのかよ！」って言ったら、「見てねーよ」とか言いやがって。

――ガハハハ。「見てねーよ」。ムカつく開き直り方ですね、それは（笑）。

桜庭　「おまえ、バカか？」って（笑）。もうあきれて「おまえみたいなヤツがいるから事故があるんだよ！　運転するな！」って言いましたけど。

――だからグレイシーは見てないんですよね、周りを。見て見ぬふりしてるのかもしれないですけどね。

桜庭　そういう奴は、事故を起こして人を傷つけたときに初めて気づく（ニコニコ）。

――グレイシーのわがままさ加減とか、自分の我を通すのって、いまの日本じゃなかなか通用しないから、それで幻想が広がってるとこもありますよね。

桜庭　あ、それだ！　○○聖子と一緒ですね、わがままだから。

――「そういう聖子ちゃんが好き」っていうファンもいるんですよ。

桜庭　それだ！　ボクだってそういう立場になりたいですよ。

――グレイシーはそういう部分でも憧れなのかもしれない（笑）。ホリオンは、グレイシーが出場する"場"になにを要求しているかというと、「大切なのは第一に『本物の闘い』であること」。二番目に「テレビがあること」と言ってますね（笑）。

桜庭　ヴァァ〜〜ッ！　また金か！

――そのテレビがつくには「面白い闘いじゃないとダメだ」っていう前提が抜けてるんですよね。

桜庭　それも恐ろしい話ですね。まだヒクソンの闘いは面白いかもしれない。あとヘンゾ。テレビのあとは、なんですか？

――「ルールに関して要求が通るような場を探し続ける」ということです。もし『ＰＲＩＤＥ』がこの要求を通さなかったら、ずっと場を探し続けるつもりでしょうね。

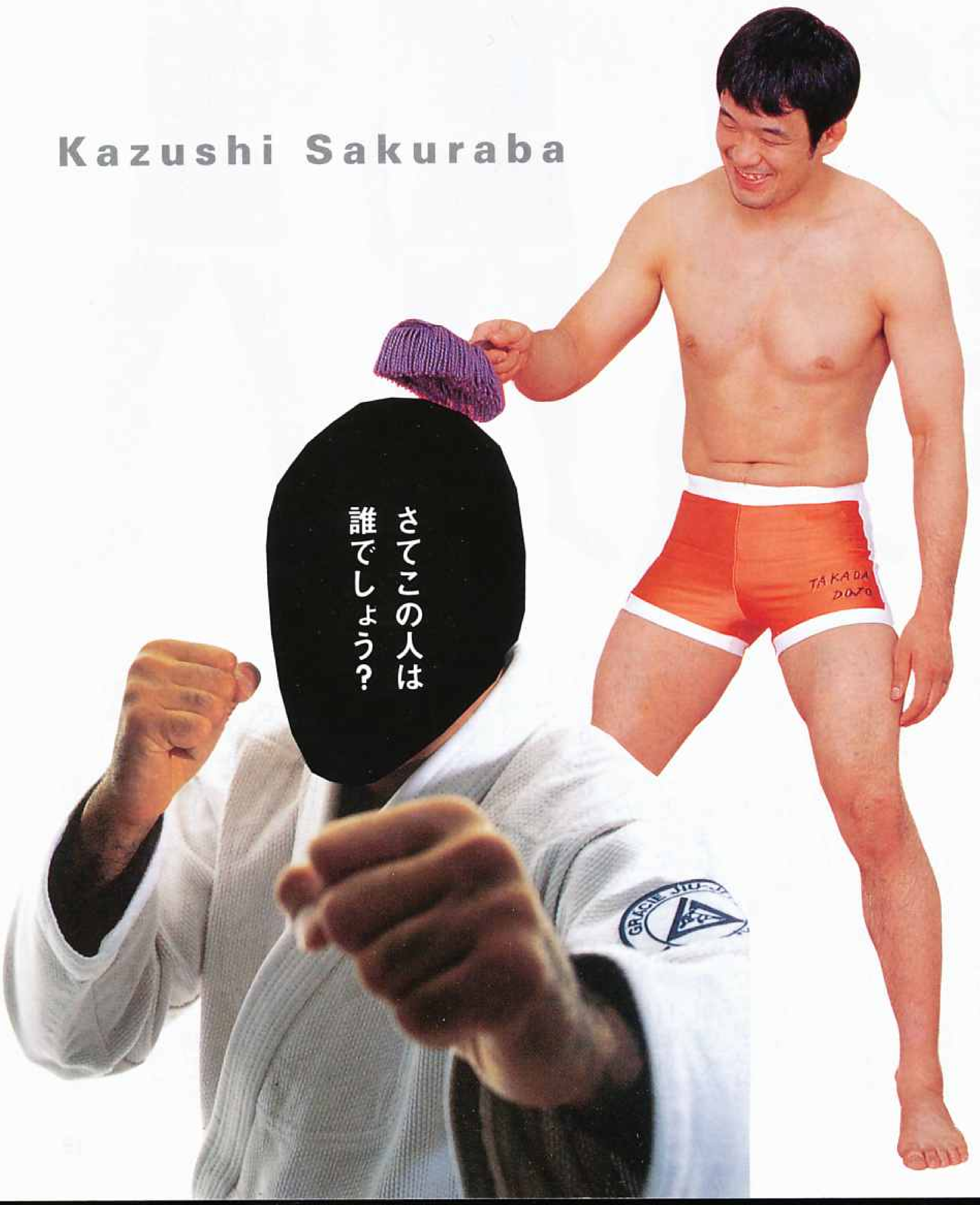
桜庭　どこですかね？

――たぶん砂漠だと思います（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。砂漠で一人ぼっちで試合してろって。も〜う、確かにヒクソンもホイスも強いとは思いますけど、考え方が外れてるというか、自己中心的というか。

路上なら時間無制限じゃないよ〜 すぐに警察が迎えに来ますよ〜

Kazushi Sakuraba



――彼らにとってはグレイシーの闘いが「真の闘い」だし、桜庭さんにとっては桜庭さんの闘いが「真の闘い」だろうし、だから5・1は「真の闘い」観のぶつかり合いですよね。

桜庭　ちょっとズレますよ。合ってないから（笑）。

――単純な話、引き込まれたときはどうするんですか？

桜庭　なんとか抜け出そうとしますよ。向こうがタラタラ試合しようとしたら、ボクは短く行こうとします。向こうが短く決めようとしたら、ボクはタラタラやります。合わせない！（ニコニコ）。

――ガハハハ！　それは面白い！　ぜひファンの人は、そういうところも見てもらいたいですね。

桜庭　なんだかんだ言いながら、早く決めようとしますからね、あっちは。やっぱり仕事は短くパッと終わったほうがいい

いんでしょうし。同じファイトマネーで1分やるのと1時間やるのじゃ、全然疲れ方も違うし。ボクは仕事は楽しくやりたいほうなんで、長くても楽しければ付き合いますよ。そんなに無制限にこだわるんなら、前は「1週間でもやりますか?」とか記者会見で言いましたけど、21世紀までやりますか?って（ニコニコ）。

——ガハハハ。でも、自分たちの要求がすべて通って、テレビもついて、ファイトマネーもたくさんもらってっていうのは、ビジネスとして考えたら、そんなにおいしいことはないですよね。どこの団体だって、テレビをつけるためには努力してますからね。自分たちの要求が通らないこともあるだろうし。

桜庭　それはお互いに話し合って、どっちかに寄らなきゃいけない部分は譲って、その分こっちに寄ってくれる部分もあるっていう風に、お互いにお互いのことを考えてやればいいんですけど、この人たちは自分たちのことばっかりですもん。インタビューとか見ると、「自分たちのことしか考えてねえなぁ」って思いますね。毎回他のインタビューでも言ってるんですけど、「おまえらのファイトマネー、どこから出てくるのか考えたことあんのか、おまえ！」って。

——さっきの車の件じゃないけど、「考えてねぇよ！」って言われそうですね（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。たぶん言われるでしょうけどね（笑）。だったら試合するな！お金のかからないところで黙って試合してればいいんですよ。でも結局、お金じゃないですか。お客さんっていうのは、お客さんが自分で仕事して給料もらって、その給料の中から自分のお小遣いがあって、そのお小遣いの中からお金を出してチケット買ってるんですよ。お客さんが汗水垂らして働いたお金じゃないですか。「みんながいっぱい来てくれるから」ってことで、テレビもついて、スポンサーもお金出してくれる。みんなが見てくれるってことは、面白くなきゃ見ないですもんね、なんでもそうですけど。

——たぶん、グレイシーの“面白い観”は、まったく違うんでしょうね。

桜庭　なにが面白いんですかね?「勝つ負ける」が面白いんだったら、「じゃあ、お客さんが入る前からやれば?」ってことですよ。お客さんが入る前に“カ～ン”って始まって、決まりそうな頃に「ハイ、開場、開場！」って入れるとか（笑）。

——第0試合（笑）。だから今回はドームを使用できる時間も限られてるだろうし、桜庭さんとホイスの試合は同時刻に後楽園ホールでやればいいと思ったんですよ。入場料10万円ぐらい取って。

桜庭　ヒャハハハ。試合が決まりそうになったら「ストップ！　ドント・ムーブ！」って言って、東京ドームまで運んで「始めっ！」って。

——ガハハハ！　ホイスの背中ズル剥けますよ！　炎のコマどころじゃないですよ（笑）。

桜庭　レフェリー3人ぐらいで引きずるの。途中で道衣破れちゃって、そのあと背中の皮がベロベロベロッて剥けちゃって（笑）。そのあと東京ドームから後楽園ホールにまた戻ってきますよ、引きずって。そういえば、最近警察もいろいろ問題ありますけど、あんたがたの給料は、お客さんがチケットを買うのと一緒で、ボクらが働いて貰ったお金を税金で払って、それが給料になってるわけですから。それがいい加減な仕事して、いま、ぼろぼろバレてるじゃないですか、不祥事が。そういう意味じゃグレイシーと一緒じゃないですか。

「俺は絶対負けてねぇ」って言えば負けてない。それが『無敗』のカラクリ



——でもグレイシーは別に麻雀やってたわけじゃないし（笑）。

桜庭　麻雀やってたら怖いですね（笑）。

——やっぱり、お金を出してくれる人に対して、なにを与えるかですよね。

桜庭　警察は国民の安全とか、そういうのを与えなきゃいけないのに、事件を起こした人は、麻雀やってたりとか、中学生が5000万円恐喝されてた事件も、警察に言ってたのになにもしてくれなかったっていうじゃないですか。自転車とかバイクとか盗まれたって、書類書くだけで、なんにもしてくれないですからね。

——まさにお役所仕事なんですよね。

桜庭　〝気持ち〟も見えないですからね。たまに道端でチャリンコ調べたりとかしてるじゃないですか。ああいうのも、もうちょっと力入れればいいのに。盗まれた本人にしてみれば、やっぱりイヤじゃないですか。自転車だって、たかが1～2万円のものだけど、盗まれたら腹立ちますからねぇ。

——ガハハハ！　盗まれましたか?

桜庭　盗まれたことありますよ！

——全国1千万の読者の皆さま、もし桜庭選手のチャリンコだったら返してください。

桜庭　でも、ボクも昔盗んだことあります。盗んだっていうか、拾ったんですけどね。捨ててあるようなチャリンコを拾って乗ってたら、警察に連れてかれた。

——ガハハハ。連行されましたか（笑）。

桜庭　だから、グレイシーも、これから

プロとしてやっていくつもりがあるんだったら、自分の仕事はなんなのか、しっかり考えないと。

——桜庭さんが一貫して言ってるのは、「自分たちはなにでお金を稼いでるのかっていうのを、ちゃんと考えろよ」ってことなんですよね。警察に対しても、「警察は人間として正しくあるべきだ」とか、そういうことを言ってるわけじゃないでしょ?(笑)。

桜庭 「給料分、仕事をしっかりしなさい」ってことですね。

——別に正義感から言ってるわけじゃないと(笑)。

桜庭 あんま、正義感ないですねぇ(笑)。……。あっ！ なんか言おうとしたのに忘れちゃった……。

——ガハハハ！ 健忘症じゃないですか。そういえば、最近飲んでるんですか？

桜庭 飲んでますよ。朝までとかじゃないですけど、家で。

——どこかの飲み屋で「サインしてください」って言われて、高田道場のポスターに「アントニオ猪木」って大きく書いたらしいじゃないですか(笑)。

桜庭 ………。やったようなやんないような。あ！ 去年の納会のときですかね？ 結構飲んでたんで(照)。

——ホリオン&ホイスだけじゃなくて、ヒクソンにも怒ってましたよね。覚えてます？

桜庭 ぶぁ〜。覚えてますよ、山口さんに電話したこと。家で酒飲みながら『ゴング格闘技』見てて。そしたらいろいろ言ってたから。

——ヒクソンは、「サクラバはあまり好きではない」って、そのインタビューでは言ってましたね。

桜庭 ぶぁ〜。好きじゃないのは構わないよぉ！ 俺だっておまえのことは好きじゃないよぉ！ ただ、あの試合(桜庭vsホイラー戦)について、ま〜だどうたらこうたら言ってるじゃないですかぁ。

——「確かにテクニカルだし、実力もある」と桜庭さんのことは認めつつも、「だが、リングの上では闘いだけに集中せずに、レフェリーを味方につけ、さらに観客に問い掛ける」と言ってます。



Kazushi Sakuraba

桜庭 ぶぁ〜。それがプロなんだよぉぉぉ！ まぁ、ボクもやりすぎの部分もありますけどね(笑)。

——いや、せっかく強いんだから、なにやったっていいんですよ!!

桜庭 それで負けちゃったら、あれですけどね。でもレフェリーを味方につけるって、当たり前のことだと思うんですよ。いちいち「レフェリーを味方につけた」とか「(ホイラーのほうが)体重が軽い」とか、そういうことを言うんじゃないよ！

——「言うんじゃないよ」って、なんかお母さんみたいになってますね(笑)。

桜庭 自分が体重軽いの知ってて、「試合する」って言ったわけじゃないですか。ルールも飲んで契約書にサインしたわけじゃないですか！ レフェリーストップもあるっていうルールで。そこ読んでなかったんですかね、本人たちは。

——いや、そんなわけはないですよ。

桜庭 でも、ルールミーティングのときは、そのことは全然言ってこなかったですよ。

——絶対負けを認めたくないんですね。

桜庭 それが『無敗』のカラクリですね。自分たちは負けてんだけど「俺は絶対負けてねぇ！」って言えば、負けてないうちに入りますから。

——さっきの車の話じゃないけど、「負けてねぇよ！」ですね(笑)。あと、「サクラバは積極的に闘おうとしなかった」っていうんですよね。これが解せませんね。

桜庭 あれは柔術の試合じゃないですから。バチバチ蹴っていったのは、あれは積極的じゃないんですか？

——桜庭さんの動きは、いちいちアクロバチックな動きに見えるんでしょうね(笑)。

桜庭 ヒクソンにしても、その場で言えばいいじゃないですか。そしたら「もう1回やります」ってなったかもしれないけど。ヒクソンとか納得して、ボクらと握手して引き上げて、2〜3日後にあれですからね。ビデオに残ってますもんね。「しょうがねえな」って顔して、握手して。ヒクソンは親指立ててなかったでした？

——あ〜、立ててました。

桜庭 立ててたでしょ、ほら！ も〜う。

——ガハハハ。「サクラバは、あるときはライオンのように激しく闘い、あるときはキツネのようにズル賢い。頭はいいが、そこにはスピリットが感じられない」って大胆なこと言ってますね、ヒクソンは(笑)。

桜庭 ぶぁ〜。人間って、なんで他の動物と違うかって言ったら、頭使えるから人間なんですよね。ライオンだったらライオンらしくガーッて行くけど、それだけだったら、ただのライオンで終わるじゃないですか。

——ガハハハ！ 「ただのライオン」。

桜庭 人間だから頭使ってライオンにもなるし、キツネにもなるし、たまにはタヌ

キになったり。人間は考える動物なんですから。あ！ 思い出した。テクニックがあるとかないとか、ホイスが人をバカにしたようなインタビューありましたよね？

――どんなこと言ってましたっけ？

桜庭 小路（晃）さんは小さい身体で大きい相手を倒す。それはテクニックがある。でも、サクラバはテクニックがない、みたいな。それ自体は、その人の考え方だからいいんだけど、「おまえ、自分のテクニックに自信があって言ってるんだろうな」って。あんたのテクニックは抱きつくだけだ！ 初心者の人に「スパーリングやれ」って言ったら、抱きつくことは誰だってできるんだから。10年前と変わらないテクニックじゃないですか。進歩してない。

――でもホイスのテクニックは、「ケレン味がなく観客には受けないだろうが、確実かつ正確」らしいですよ、ヒクソンに言わせると。小川（直也）選手のことも、「オガワが同じスピリットを持った格闘家とは思えない」って言ってますね（笑）。

桜庭 小川さんは小川さんの良さがあるから、お客さんも見に行くわけじゃないですか。みんながみんな、同じ考え持って、同じ闘い方したら、面白くないでしょ～。

――「私だったらエンターテイメントの世界に身を染めて、リングの上でタップして見せたりするぐらいだったら、死んだほうがマシだ」とまで言ってますね（笑）。

桜庭 あー、そうスか。ふうん。

――不機嫌モード突入（笑）。

桜庭 『PRIDE』だってエンターテイメントじゃないですか。自分たちだって、その世界でやってるじゃないですか。

――エンターテイメントだって思われることが、ホントにヤみたいですね。

桜庭 （ブ然として）じゃあ、お金取んなきゃいいじゃん！

――いや、ボクを睨まれても……。

桜庭 結局「お金、お金」じゃないですか。途中が欠けてるんですよね。お金がどこから入ってくるかっていうのが欠けちゃってるから、そういうことをヘーキで言うし。

――わざと言ってるんじゃないですかね？ 挑発するために。

桜庭 それか言わされてんのか……あ！ 会議だ！（笑）。

――ガハハハ。プロレスラーが嫌いなんでしょうね（笑）。

「どこでタップするかわかってる」って ヒクソンは言ってた。だからタップしますよ



【右】昨年の11・21有明。ホイラーをレフェリーストップで破り、グレイシー神話に風穴を開けたサク。しかしこの後、どう見ても勝ち目のなかったグレイシー陣営の言い訳三昧の日々が始まった。これには温厚なサクも開いた口がふさがらず、"怒りのエネルギー"をぶつけた。【左】1・30、"20世紀最後のまだ見ぬ強豪"ホイスが来襲。高田延彦を判定で撃破した！

桜庭 ボクなんて、Uインターが潰れて、キングダムが潰れて、ファイトマネー貰えないときもありましたからね。やっぱり面白い試合をしないとお客さんは来てくれないっていうのを身をもって知ってますから（笑）。グレイシーは潰れたことがないですからね。そこは経験と感覚の差ですよ（笑）。

――身をもって知ってる（笑）。でも、真面目な話、「判定は真の決着じゃない」とか「闘いの精神性」とかの部分で、グレイシーの打ち出し方って、『空手バカ一代』だとか梶原劇画っぽいじゃないですか。ボクも子どもの頃『空手バカ一代』とか『柔道一直線』とか読んで「あぁ、凄ェ」って思ってましたからね。

桜庭 それ、子どもの頃ですよね。子どもは騙されるものなんですよ。大人になってみたら「嘘つけ～！」って感じじゃないですか（笑）。

――じゃあ、5・1は、グレイシーを黙らせるための闘いになりますね。

桜庭 もし勝ったら……。（口にチャックのジェスチャーをして）こうやってやりますよ。

――ガハハハ！ 口にチャックですか。でも、タップしないことへの怖さはないんですか？

桜庭 やってみないと、わかんないですね。ホントにタップしないのかどうか。だって、前にホイラーとやったときもヒクソンが、何日か後に言ってたじゃないですか。「ホイラーは柔術の師範なので、ホイラーはどこでタップすればいいかわかってる」って。だからタップしますよ。タップしなければ、とりあえず腕折って、反対の腕も折って、脚も左右折って、最後に落として終わり！

――グ、グ、ヒドイ。「笑顔の陰に隠された桜庭和志の残忍性を見た」って感じですね（笑）。バッグンです。

桜庭 それでもし折るのがイヤだったら、ボクはギブアップします！

――は？

桜庭 もし、その場になってそう思ったらですよ。

――例えばアームロックを極めて、「ホントにタップしそうもないな」って思ったら……。

桜庭 もっともっとやりますよ。グゥゥ～ッて。バキッとやりますね、多分。あとは別の技に変えるとか。アームロックやりながら首取るとか。「これがプロの仕事だぁ～」って。「バキバキバキッ！」って。

――例えば、「試合はつまんないけども勝った」。「負けたとしても、面白い試合ができた」。今回は桜庭さん的には、どっちがいいですか？

桜庭 やっぱり勝ちたいですね（キッパリ）。

――今回は、面白くならないかもしれないけども、勝つほうを選ぶと。


桜庭 基本的には勝つ。あ、じゃあ勝ったら「1・2・3ダーッ」でもやりましょうか？（ニコニコ）。

――それはいいですね、春一番風に、「せん・ろっぴゃく・ななじゅうえん・ダーッ！」でもいいですよ（笑）。

桜庭 ヒャハハハ！ でも、もしホイスに勝っても次（トーナメント）がありますから、できないッスよねぇ（残念そうに）。

――ところで、5・26には船木（誠勝）vsヒクソン戦もありますけど、これはどっちに勝ってほしいですか？

桜庭 やっぱり船木さん。チャック閉めさせないと。



—田村潔司選手も判定とはいえ、ヘンゾに勝ちましたし。これで3連チャンになったら凄いですね。

桜庭　もう日本じゃ働けないですよ、彼らは。

—ガハハハ！「職場はないぞ」と。高田vsホイス戦も間近で見てるわけですけど、ホイスとホイラーって実際どっちが強いと感じます？

桜庭　ホイスとホイラーですか？　向こうが言ってる通り、ホイラーのほうがテクニックがあるんですかね？　ホイラーは女の子のようなタックルだったけども（ニコニコ）、まだ人を倒す技術はあるんじゃないですかね。ただ、ホイスはイヤらしさがあるから。

—ホイスは徹底的に相手のミスを待つ戦法が主だから、5・1は桜庭さんはミスするのを待たれる立場なわけですよね。

桜庭　ボク、ミスターですよ。

—ズコッ！

桜庭　なんでもないです。カットしてください（照）。

—いや、これはカットしません（笑）。

桜庭　前回はボクのミスを待ってたんでしょうけど、向こうがミスしてくれましたからね。今回も、そううまくいけばいいんですけどね。あ、向こうはボクのミスを待ってるんですよね？　今度はボクがミスさせます!!

—それは、向こうも人間だから。

桜庭　そうです。向こうは人間でも、人間しかできないから。ボクはライオンにもなれるし、キツネにもなれますから。妖怪にもなれますよ（ニコニコ）。

—グレイシーにとって桜庭さんは「オレンジ色の憎い奴」なんでしょうね（笑）。

桜庭　ぷぁ〜。フザけてるのが嫌いなんですかね（笑）。

—そうそう、ヒクソンにしても「あいつはフザけてる」ってことだと思うんですよ（笑）。

桜庭　でもね、人生楽しくなきゃ。余計なことを深く考えすぎると、頭も薄くなってくるし。いつも冗談ばっかり言ってるのが、人生楽しくていいですよ。人生なんて限られてるんだから。

—でもね、ホイスって日本に来たら、クラブとか行くらしいですよ。

桜庭　それで目ギョロッとさせて、ジロジロ睨むんですか？

—でも乳のデカい女の子が通ると、「あの娘はヘルシーだ。なぜなら、あの娘の胸にはミルクがたくさん詰まってるから」とか言うらしいですよ（笑）。

桜庭　……（絶句）。くっだらねぇ！　ダメだ、やっぱり（笑）。

—ギャグセンスの差？（笑）。

桜庭　だから、ああいう顔つきになってくるんですよ。面白くねぇ〜（笑）。酒飲んでも面白くないでしょうね。ボクは付き合っていけないなぁ（笑）。

—向こうは逆に、桜庭さんに対して「おまえ、真面目に仕事しろよ！」って思ってるかもしれないですよ。「フザけて飛んだり跳ねたりしやがって」って。そういうズレなんじゃないですかね？　桜庭さんのサクラバードキックとか、「凄ぇ」とか思えないんですよ、きっと。

桜庭　ムカつくんですかね？（笑）。

—ムカつくんですよ、きっと（笑）。

桜庭　（小声で）やってやろ。

—ガハハハ！　だから『紙プロ』なんか読ませたら、大変なことになりますよ。

Kazushi Sakuraba

ボクがミスするのを待つ？ ボク、「ミスター」ですよ。……。



桜庭　ヒャハハハ。「なんだ、これは！」って（笑）。

—そうそう。「こいつらは闘いをバカにしてる」とか。

桜庭　面白きゃいいんですよ、仕事ですからね。彼らは自分たちがやってることが面白くてやってるんですかね？　それともやらされてやってんですかね？　やらされてやってるような気がするんですけど。

—それで思い出しましたけど、彼らに「プロフェッショナルとはどういうことですか？」って聞いたら、「生活のために闘うこと」って言ってました。

桜庭　あんたら、よっぽど贅沢してんじゃねえか！

—「ファイトをして、お金を貰ってるかどうかがプロかアマかの違いだ」って。

桜庭　そこで、また欠けてる。お金はどこから出てくるのかっていうのが。誰からも食事誘われないんじゃないですか？

—ガハハハ！　また、そういうことを言う！

桜庭　なにが楽しくて生きてんだか、わかんないですよね。

—生真面目さを演出することが、一番お金になるっていうことをわかっちゃったから、やってるかもしれないですね。

桜庭　じゃあＮＨＫに出ればいいじゃん。やっぱりね、あれはやらされてますよ。

—ガハハハ！　誰にですか？

桜庭　会議で。「今日はおまえが言う番だ！」とか言われて。順番決められるんですよ。順番決めるのはジャンケンだったりして。「ジャンケンポイ、アァァ〜〜〜ッ、俺かぁ〜〜っ」って（笑）。なんか好きでやってる感じがしないんですよね。

だから、その場で意見が出てこないんですよ。あ！　前回は「高い受講料くれたら〝炎のコマ〟を教えてやる」って言ったけど、今回は「高い受講料くれたらモンゴリアン・チョップを教えてやる！」ってどうですか？

――ガハハハ！　プロテクを（笑）。

桜庭　この前、ちょうど天山（広吉）さんと会って「すいません、使わせてもらってます」って言ったら、「どうぞ使ってください」って言われましたよ（笑）。ホイスは大磯行くんですよね？

――はい。恒例の海篭りですね。

桜庭「女だらけの芸能人水泳大会」じゃないんだから。あれ、騎馬戦とかで水着脱がしたりするじゃないですか？　ボクも道衣脱がしていいんですかね？

――とんでもないこと考えますね（笑）。ところで、トーナメント全体に関してはどう思ってるんですか？

桜庭　あんまり考えてないんですよね。ホイスとやることしか考えてない。でも、これ言うとフジテレビに怒られるかなぁ？　前に「ホイスに勝ったら棄権する」って言ったら怒られたんですよ。そんなの嘘に決まってるのに（笑）。

――嘘も仕事のうちですからね（笑）。

桜庭　だからボク、グレイシーの前に1回フジテレビに泡吹かしてるんですよ。だからまた泡吹かすの、簡単だ。真剣味の足りないヤツには、泡吹かしてやんないと。

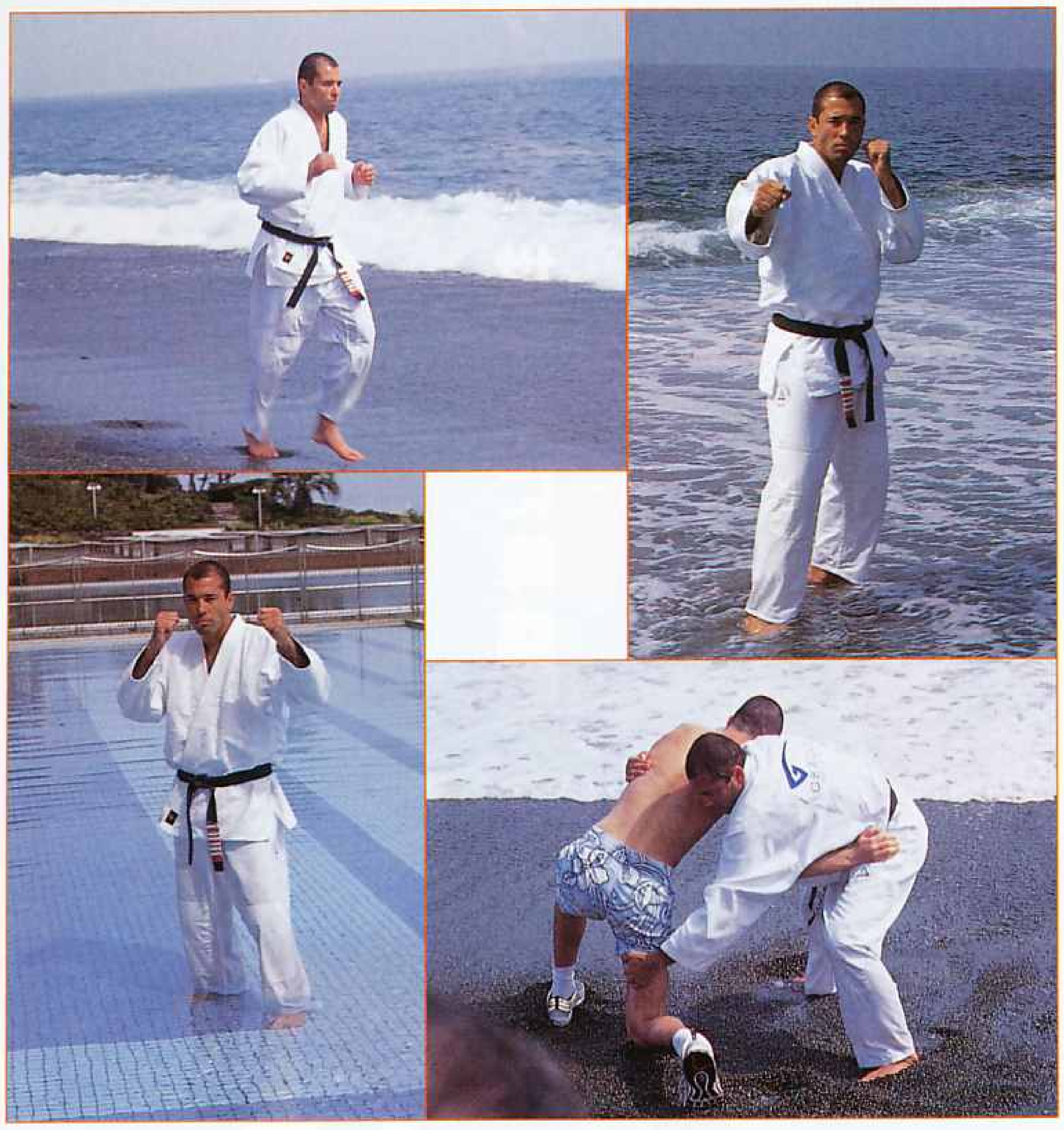
――いや、だから、グレイシーには、逆に真剣味が足りないと思われてるんですよ、桜庭さんが（笑）。

桜庭　じゃあ、ボク、泡吹いて入場しますよ（ニコニコ）。

――ガハハハ！　ライオンにもタヌキにもキツネにもなるし、ついでにカニにもなっちゃう（笑）。

桜庭　そう。最後に尻でも出します（笑）。それから、5・1はボクは分身の術を使って増殖しますから。楽しみにしといてください。

【4月12日・東京・スタジオエビスにて収録】



1・30の高田戦の前にも敢行した、恒例の大磯での海篭りを今回も行ったホイス。4月13日には報道陣の前で練習風景を披露。波打ち際でファイティング・ポーズを取るのはわかるが、なぜプールにまで入ってポーズを取っているのかはわかりかねる。この日、サクの要求した「ファイトマネー争奪マッチ」を拒否したホイス。どうなる5・1！

大一番を前に、まったく普段通りなことこの上なし！　なサクだが、ホイス戦にかける意気込み、そして日本のマット界がグレイシーという黒船に掻き回されてきたことに対する〝怒りのエネルギー〟の充填ぶりは、そこはかとなく伝わったことだろう。

「真の闘い観」「プロフェッショナル観」「面白い観」そして「ギャグ観」と、なにからなにまで対照的なサクとグレイシー。

しかし、「それは違うぞ、グレイシー」とこちらがいくら思っても、言い訳できる隙を与えてしまっては、どうにもならない。

長きに渡ってはびこった〝グレイシー幻想〟を一度断ち切るために、ここは気持ちよくホイスを打ち砕いてほしいものである。

このインタビューの後日、新聞に「ホイスが道衣を着てこないかもしれない」という記事が載ったことを知人に知らされたサクは、「もし裸で来たら、ホイスは全然怖くない」と答えたという。

頼もしいぞ、サク！

5・1東京ドーム――プロレスファンはあらん限りの「元気玉」をサクに注入しよう。

サク、「プロレスを頼むゾーッ!!」（アントン調）

格闘 GOLDRUSH

「イエス・サクラバ、世紀末に降臨」

フジテレビ系グレイシー一族最強の男と我らがサクの対戦がついに実現。「邪道！　外道！　オレがホイスだ！」とばかりに理不尽要求連発するホイス（っていうかホリオン？）にはさすがに温厚なサクも「オレは久しぶりに怒ってる！」とばかりに激怒。観客を無視したハンチクなことばかりしてくるグレイシーに対し、キラー・サクとなって必ずや制裁を加えてくれることだろう。無制限ラウンドということで、いつ試合は終わるのかは未知数であるが、一つ間違いないことは世紀末のマット界にイエス・サクラバが降臨することである。歴史的瞬間を見逃すな！

桜庭和志
KAZUSHI SAKURABA

VS

ホイス・グレイシー
ROYCE GRACIE



編集部予想	
山口日昇	➡桜庭 羽根折り顔面絞め
吉田豪	➡桜庭 炎のダスキンから足関節
スモーノブ	➡桜庭 キムラロック
松澤チョロ	➡桜庭 魔神風車から腕がらみ
大西タマリン	➡桜庭 サクラバロック
堀江ガンツ	➡桜庭 腕ひしぎ逆十字
中村カタブツ君（37歳）	➡桜庭 腹固め

松澤チョロ

オイオイオイオイ！ お前さんがた、なんで桜庭vsホイスばかりに注目するんじゃ～！ なんでボブチャンチンばかりが勝つと思っとるんじゃ～。オレは、オレは、オレは、オレは、小路が好きなんじゃ～！ ガンガン行くぞ、ガンガン！ みんな～バーリ・トゥードはどうだ～い！ っていつから小路に変わってしまったんじゃ！ とにかく！ コピィロフ直伝の足関節で狙うはコールマンの首ひとつ！　でも、ひとつじゃ優勝できないんじゃ～！（弱火）

桜庭
ホイス
グッドリッジ
ボブチャンチン
小路
コールマン
藤田
ケアー

小路

スモーノブ

どすこ～い！『PRIDE』には失望したでごわす！ なんで大刀関が出てないんでごわすか！『誇りGP』優勝など実績作りに励んだ大刀関が不敏でたまらんですタイ！ こうなったらワシの興味はもうひとつしか残っとらんバイ。シャムロック関に決まってるでごわすよ！ ついでに妹さんのライアン・シャムロックさんも登場して欲しいでごわすなぁ。リングは土俵と違って女人禁制じゃなかとです、ノー問題でごわしょう。は～どすこ～い、どすこい！

桜庭
ホイス
グッドリッチ
ボブチャンチン
小路
コールマン
藤田
ケアー

ボブチャンチン

吉田豪

アレクがシャムロック相手に結構行けるような気がするね。でも、シャムロックの場合、知名度としてはおいしいけど、プロレスラー同士ってことで痛くもない腹を探られそうな危惧はある。あとは1Rが終わった時点でシャムロックが帰らない限り大丈夫でしょう。それで次からシャムロックが時間無制限を要求して、ホイスvsシャムロック実現。アメリカのVYファン大喜び。永遠と続くガードポジション。誰が見に行くかって（笑）。

桜庭
ホイス
グッドリッジ
ボブチャンチン
小路
コールマン
藤田
ケアー

ボブチャンチン

山口日昇

サクがもし負けるとしたらボブチャンチンだろう。しかし、懐にさえ入ってしまえばアッサリ勝つ可能性も高いので、ボブに勝ったら「確変」で3連チャンいけること、この上なし！ それにしてもホイス、ボブチャンチン、ケアーを1日で全て破って優勝したら、まさに世界に敵ナシ。サクにはこれを実現させて「次はノブ兄さん、ボクを休ませてください！」というマイクを期待したい。行け、サク！

桜庭
ホイス
グッドリッチ
ボブチャンチン
小路
コールマン
藤田
ケアー

桜庭

決戦直前! 本誌編集部による

PRIDE・GP2000 大予想&見どころ大解剖!!

本誌23号で大好評だった、『PRIDE・GP』大予想&見どころ大解剖。今回はホイスの理不尽要求でルールは変更になったため予想は極めて困難。はたしてサクはホイスに勝ったらホントに棄権するのか、大会終了は何時になるのか。どうなる、どうなる、どうなる。世の中どうなるだらけだ!

構成/堀江ガンツ
text by Gunts Horie



「例え相手がケアーでも、笑っていこうぜ!」

『PRIDE．7』ボブチャンチン戦での失態で、一時は失墜したかに思えた「霊長類ヒト科最強」だが、グランプリ1回戦でエンセンを完封、『アブダビ』では2階級を制覇し「やっぱり最強」を証明。絶好調でドームに乗り込んでくる。こんな男が相手ではさすがの藤田も分が悪いと思われがちだが、「猪木イズムを携えた野獣」を侮ってはならない。アントンばりに「風車の理論」を駆使して相手が強ければ強いほど、その秘められた実力を発揮してくれそうな気がしてならないのだ。よーし藤田、プロレスを頼むゾーッ!

藤田和之
KAZUYUKI FUJITA

VS

マーク・ケアー
MARK KERR



編集部予想	
山口日昇	➡ケアー 判定
吉田豪	➡ケアー 何か関節技
スモーノブ	➡藤田 首ねじ切り固め
松澤チョロ	➡藤田 判定
大西タマリン	➡ケアー アームロック
堀江ガンツ	➡藤田 アームブリーカー
中村カタブツ君(37歳)	➡ケアー 判定

中村カタブツ君(37歳)

まぁ、佐竹vsメッツアーは空手vsキックなわけよ。そうなるとK-1見てもわかるとおり、キックが絶対有利。だからメッツアーのKO勝ちで決まり! ……あれ!? オレ、佐竹が勝つって予想したんだっけ? まぁ、いいや。それより遂にiBook買いましたよ~。そしたらネットの「2ちゃんねる」でさぁ、カタブツを名乗るオレのニセモノが現れたのよ。そうかと思ったら今度はカタブツ本人を名乗る別のニセモノまで現れてさ、オレどうしたらいいの?

ボブチャンチン ― 桜庭 / ホイス / グッドリッジ / ボブチャンチン / 小路 / コールマン / 藤田 / ケアー

堀江ガンツ

ここで気になる豆情報をひとつ。サクは「1週間でもやってやる」と言っているが、翌日の5月2日から7日までは野球で埋まっていることが発覚。しかしここで試合を止めたらホイスは2度と出てこない可能性があるので、野球が始まったら甲子園のラッキーゾーンで試合をした超人オリンピックBブロックばりに、「ストップ・ドント・ムーブ」でリングごとライト線のファールゾーンあたりに移動してでも桜庭にはホイスを逃がさないで欲しい。

グッドリッジ ― 桜庭 / ホイス / グッドリッジ / ボブチャンチン / 小路 / コールマン / 藤田 / ケアー

大西タマリン

『PRIDE』ですか? ……み、見たいです。やっぱり……桜庭の勝つ姿が見たいです。あとは……ケアーが勝つと思うんですけど、予想はボブチャンチンって書いちゃったので、ボブが優勝だと思います。あとは……アブダビ王子は『PRIDE』来たらいいのにナァと思います。

ボブチャンチン ― 桜庭 / ホイス / グッドリッジ / ボブチャンチン / 小路 / コールマン / 藤田 / ケアー

格闘 GOLDRUSH



本誌前号で石川社長から「情念」を授かった小路の相手は、筋肉オバケ（ｂｙ小路）コールマン。約20キロの体重差に不利は避けられないと思われるが、実はこの体重差がカギ。2回戦からは10キロ以上の体重差がある場合、膠着ブレイクが採用されており、このルールならスタンドの展開が多くなりやすく、そうなると見かけによらず打撃も得意でボブチャンチンとも打ち合った小路なら、打撃の防御に不安を残すコールマンをＫＯ可能性は十分ある。ホイスも小路の勝利を予想しており、優勝するまで自粛のマイクがトーナメントのエンディングを飾れるか？



「小路、お前にもプロレスを頼むゾーッ！」

小路晃
AKIRA SHOJI

VS

マーク・コールマン
MARK COLEMAN

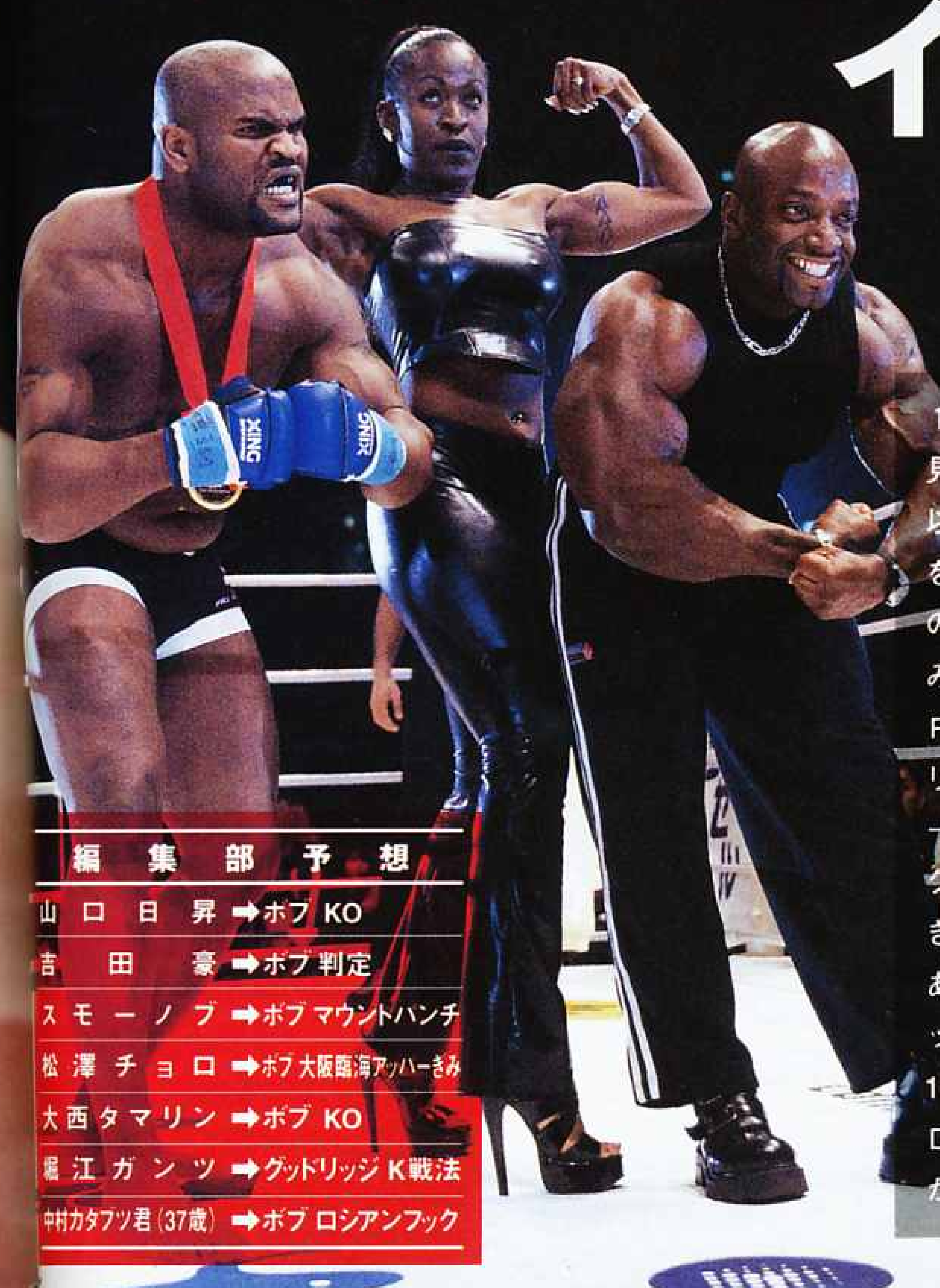
編集部予想	
山口日昇	➡小路 判定
吉田豪	➡コールマン 十字固め
スモーノフ	➡コールマン 判定
松澤チョロ	➡小路 コヒ直伝足関節
大西タマリン	➡小路 判定
堀江ガンツ	➡小路 判定
中村カタフツ君（37歳）	➡小路 ヒールホールド

ゲーリー・グッドリッジ
GARY GOODRIDGE

VS

イゴール・ボブチャンチン
IGOR VOVCHANCHYN

with 通訳のオバチャン

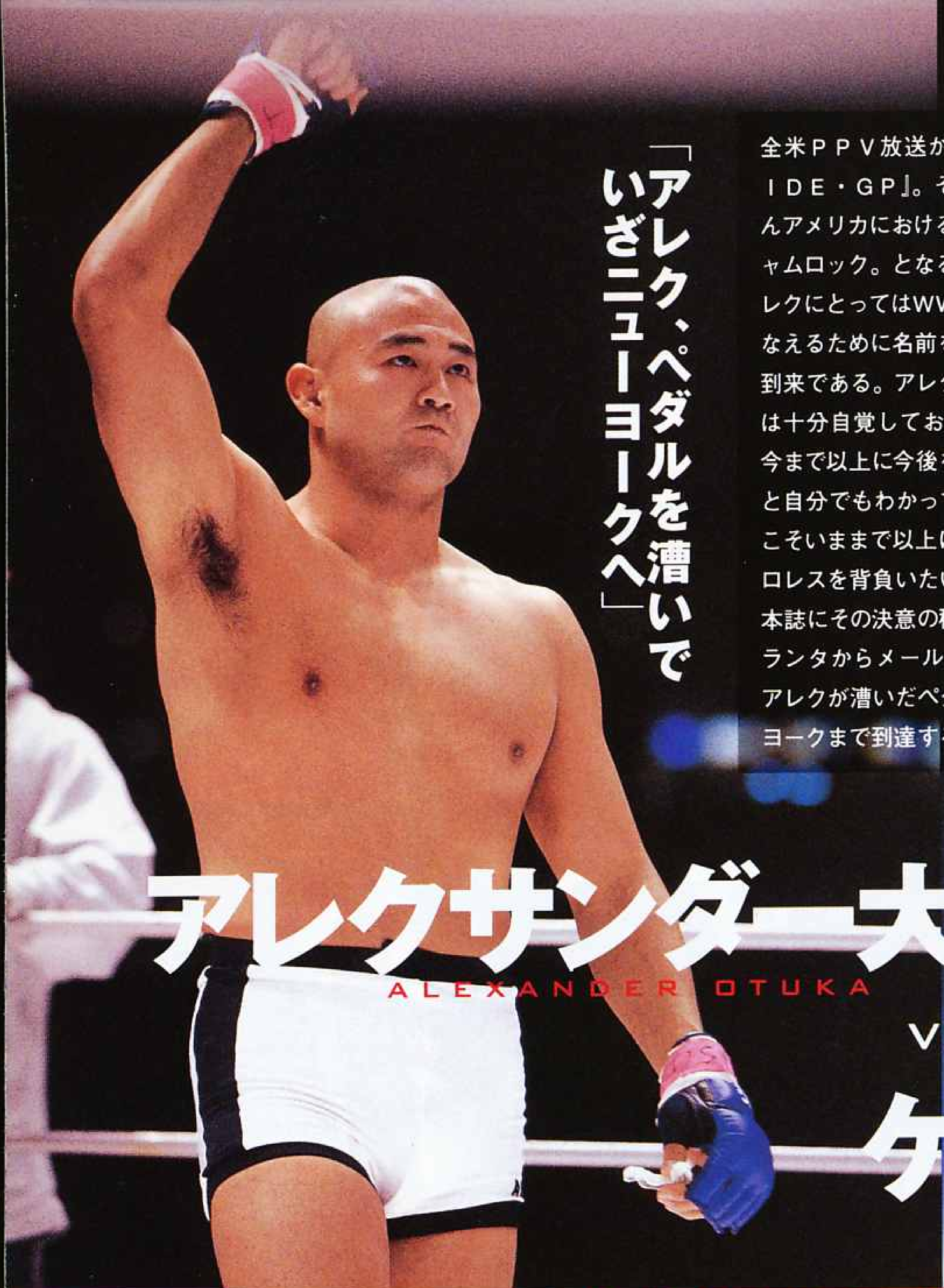


1・30ドームの会場での「5・1で見たいカードアンケート」で4000票以上という不自然なほど絶大な支持を集めて決定したこの対戦。実はこの2人、「ＰＲＩＤＥ．４」で対戦済み。ボブチャンチンの記念すべき『ＰＲＩＤＥ』デビューの相手がグッドリッジだったのだ。ともに"超"ハードパンチャーで片やアレクのタックルを全て切り、片や大刀光をはたき込みで下す「Ｋ戦法」の使い手である両者。揃って掣圏道アルティメットボクシング出場も噂されており、10年早すぎる佐山イズムで『ＰＲＩＤＥ』に再び革命的事件を起こすか？



『ＰＲＩＤＥ』に新たな革命的事件」

編集部予想	
山口日昇	➡ボブ KO
吉田豪	➡ボブ 判定
スモーノブ	➡ボブ マウントパンチ
松澤チョロ	➡ボブ 大阪臨海アッパーきみ
大西タマリン	➡ボブ KO
堀江ガンツ	➡グッドリッジ K戦法
中村カタフツ君（37歳）	➡ボブ ロシアンフック





「アレク、ペダルを漕いでいざニューヨークへ」

全米ＰＰＶ放送が決定した『ＰＲＩＤE・ＧＰ』。その目玉はもちろんアメリカにおける知名度抜群のシャムロック。となると対戦相手のアレクにとってはWWF出場の夢をかなえるために名前を売る大チャンス到来である。アレク自身もそのことは十分自覚しており、「次の一戦は今まで以上に今後を左右する試合だと自分でもわかっています。だからこそいままで以上に大口を叩いてプロレスを背負いたいと思います」と本誌にその決意の程を修業先のアトランタからメールで伝えてくれた。アレクが漕いだペダルは遂にニューヨークまで到達する！

編集部予想	
山口日昇	➡アレクSTF
吉田豪	➡アレク 試合放棄
スモーノフ	➡アレク TKO
松澤チョロ	➡アレク アレハンドロック
大西タマリン	➡アレク 判定
堀江ガンツ	➡アレク 判定
中村カタブツ君（37歳）	➡アレク ジャックハマー

アレクサンダー大塚
ALEXANDER OTUKA

VS

ケン・シャムロック
KEN SHAMROCK

SPECIAL ONE MATCH





佐竹雅昭
MASAAKI SAKATE

VS

ガイ・メッツアー
GUY MEZGER

「掣圏道を学んだ佐竹に膠着はありえません」

ＶＴデビューとなったコールマン戦では、空手を見せることができずに終わってしまった佐竹。仕切直しの第２戦の相手は「ガイ・メッツアー戦法」という言葉を生み出すほど、必要以上に試合巧者ぶりを見せ付けてくれるメッツァー。なにかとつまらない試合の代名詞に使われるメッツアーであるが、総合の経験が浅い佐竹相手ならばデフェンス中心ではなく打撃でガンガン攻めてくることも考えられ、そうなれば佐竹にとってもチャンス。佐山直伝の”ロシアンフック”で膠着大王をマットに沈め、久しぶりに怪獣王子が雄叫びをあげるか？

編集部予想	
山口日昇	➡メッツアー チョーク
吉田豪	➡佐竹 試合放棄
スモーノフ	➡佐竹 判定
松澤チョロ	➡佐竹 試合放棄
大西タマリン	➡メッツアー チョーク
堀江ガンツ	➡メッツアー チョーク
中村カタブツ君（37歳）	➡佐竹 ロシアンフック

「『PRIDE』さん、露払いしてくれてありがとう」（テレビ東京）



2000年5月26日(日)東京ドーム(18:00ゴング)

船木vsヒクソンのセミに田村潔司登場!!
第3次UWFの夢爆発か!?

5・26コロシアム2000が
U-COSMOS
になる!!

不思議なくらい一向に盛り上がりを見せなかった5・26『コロシアム2000』がここにきて大きな巻き返しを図ってきた。

田村潔司、金原弘光出場決定！

このニュースが与える影響はあまりに大きい。なぜなら田村vs船木、もしくは田村vsヒクソンが実現するのかという、試合後の興味がプラスされることによって船木vsヒクソン戦が俄然注目度を増し、また、大会自体もリングスとパンクラスという「混ぜるな危険」表示のついた両団体が交じわうことにより「パンクラスのドーム大会」のようなイメージからの脱却に成功したからである。

その田村はセミに出場が決定。試合内容はもちろんのこと、テーマ曲、試合後のマイク（もしくはコメント）すべてに注目である。

主催者側もリングス勢参戦により「『PRIDE』さん露払いをしてくれてありがとうという感じです」とすっかり鼻息が荒い。確かにイベントとして完成された感のある『PRIDE』に対して、この『コロシアム2000』は未完成であるが故の、何が起きるかわからない期待感が充満している。

前田、船木、田村が顔を揃え、さらにアントン&オーちゃんの来場も噂される5・26東京ドーム。はたしてこれは第3次UWFの夢なのか、それとも混乱のマット界の幕開けなのか。かつてのターザンのコピーではないが、「COSMOS（宇宙）かKHAOS（混沌）か、それが問題だ！」である。

（堀江ガンツ）

“実力者”金原に今度こそ大ブレイクの時は来た！
柔術界の超大物
マリオ・スペーヒーと激突決定!!





金原弘光
（リングス・ジャパン）

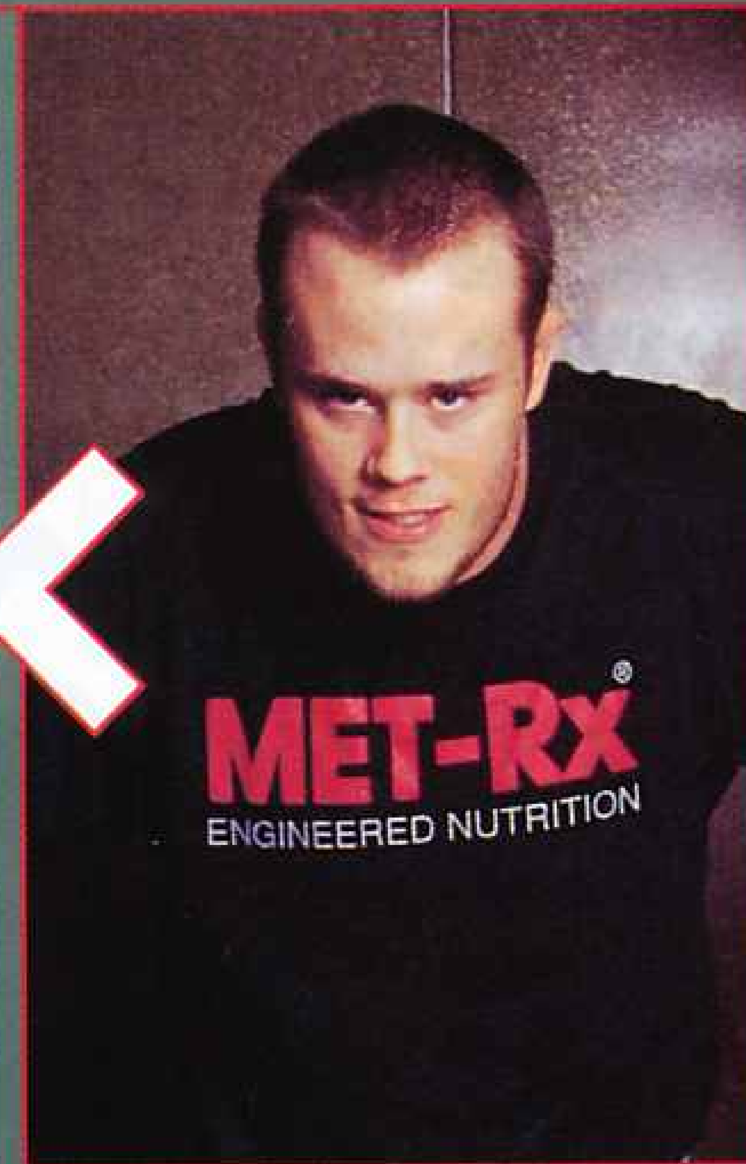
スペーヒーは『アブダビ』で見たんですけど、20分間手で探ってただけなんで、何にも印象はないですね。だから安全策をやるんじゃないですかね。じっとしてるのが好きなんでしょう。まぁ、王子様のお抱え選手みたいなんで、ボクが逆におかかえ選手になるチャンスかなと(笑)。なんかひとつプロレス技出して勝ちたいたいですね。サソリ固めとかセントーンとか（笑）。

マリオ・スペーヒー
（カーウソン・グレイシー柔術アカデミー）

プロフィール 今回が初来日となる、柔術界の超大物。主な戦績としては柔術世界選手権に96年〜99年まで4年連続優勝。近年主戦場にしている『アブダビ』では98年に88〜98キロ級と無差別級の2階級制覇。99年、2000年はスーパーファイトでエンセン井上、ホベルト・トラヴェンをそれぞれ破る。果たしてこの実力がKOKルールでどれだけ発揮されるか注目である。

田村は“NHBの鉄人”と対決





田村潔司
（リングス・ジャパン）

ジェレミー・ホーン
（リングス・USA）

田村のコメント 参戦の話は10日ぐらい前にもらいました。まぁ、前田さんに「出ろ」って言われたら「ハイ」しか言えないんで（笑）。東京ドームっていう舞台ですから、ボクが出ることによって、格闘技界全体が盛り上がればいいと思いますね。でも、試合については4月20日にタイトルマッチが組まれてるんで、それが終わらない限り言えません。（船木さんと同じリングに上がることについては）どうですかねぇ。自分では特にありません。（ヒクソン戦は視野に入ってるか）船木さんが勝ってくれると思うんで、まぁ、自分が出る必要はないと思います。とりあえずタイトルマッチを怪我しないで勝って、『コロシアム2000』でいい試合をして、ちょっと休みたいですね（笑）。



“前田節”炸裂！「オレが作った業界やから、責任持つ！」

（ネットワーク拡大について）ブラジルとUSAが決まって、アフリカ大陸はわかんないけど（笑）、とりあえず世界の主要大陸に支部を置いたんで、昔のプロレスみたいないい加減なものじゃない、真のワールドタイトルを作りたいですね。（今回のカードはリングス提供のカード？）そうです。ルールはKOKルール。（今回同じ大会にパンクラスが参戦してますが）問題があるのは一部のね、子供じみたね、なんかこう、みっともないね、そういう人間に対してだけなんですよ。団体がどうとか個人がどうとかないからね。ただ、オレはこうして、後ろから殴られたら殴り返すし、それだけですよ。
（その件とは全然別の話？）別。第一今、売れてないじゃないチケット。船木がヒクソンとやるからって中途半端に終わってしまうと、こっちまでとばっちり受けるんですよ。
（業界全体を見越してということか？）オレが作った業界ですからね。オレが作った業界やから、オレが責任もたなきゃいけないでしょ。選ばれた人間しか責任とれないでしょう。



オレのインタビューいつやるんスか!!（金原）
金原選手とファンの皆様お待たせしました
次号で田村、金原両選手のロングインタビュー決定!!
乞う御期待！

本誌独占!! ㊗ "グレイシー"撃破記念企画第２弾

ヘンゾを破った田村に前田総師がロレックスを贈呈

田村潔司30歳、ロレックスをしてない所を３度見られたら、即没収スペシャル



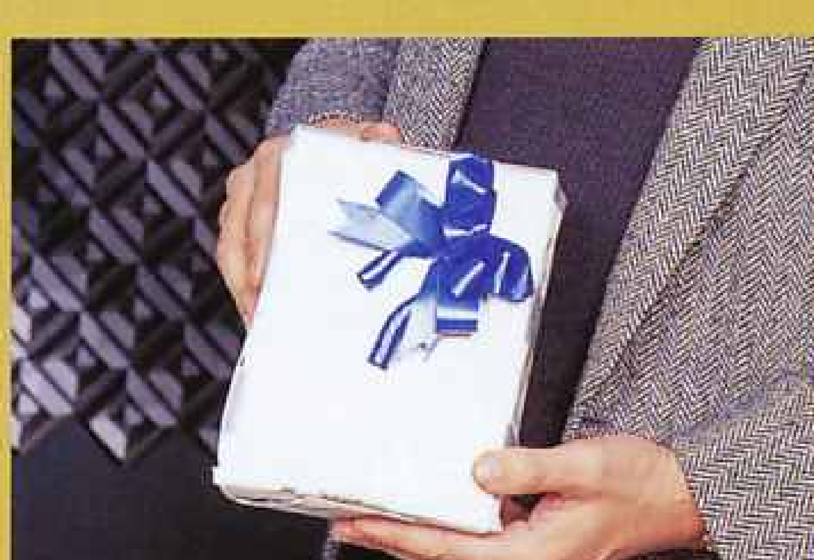
自腹やで、自腹!! 金無垢やで、金無垢!!

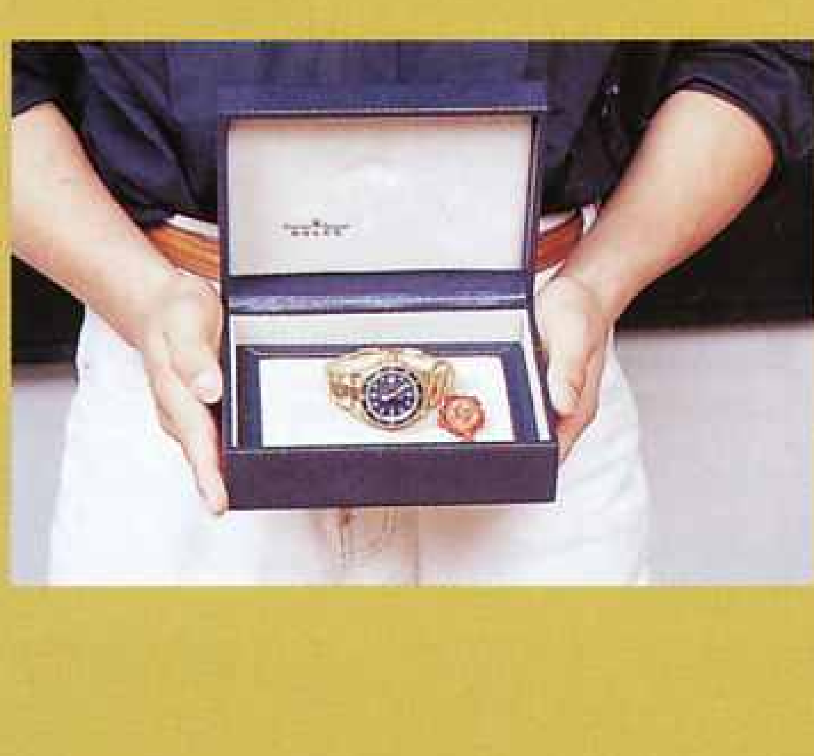
田村、これから時計してこなかったら

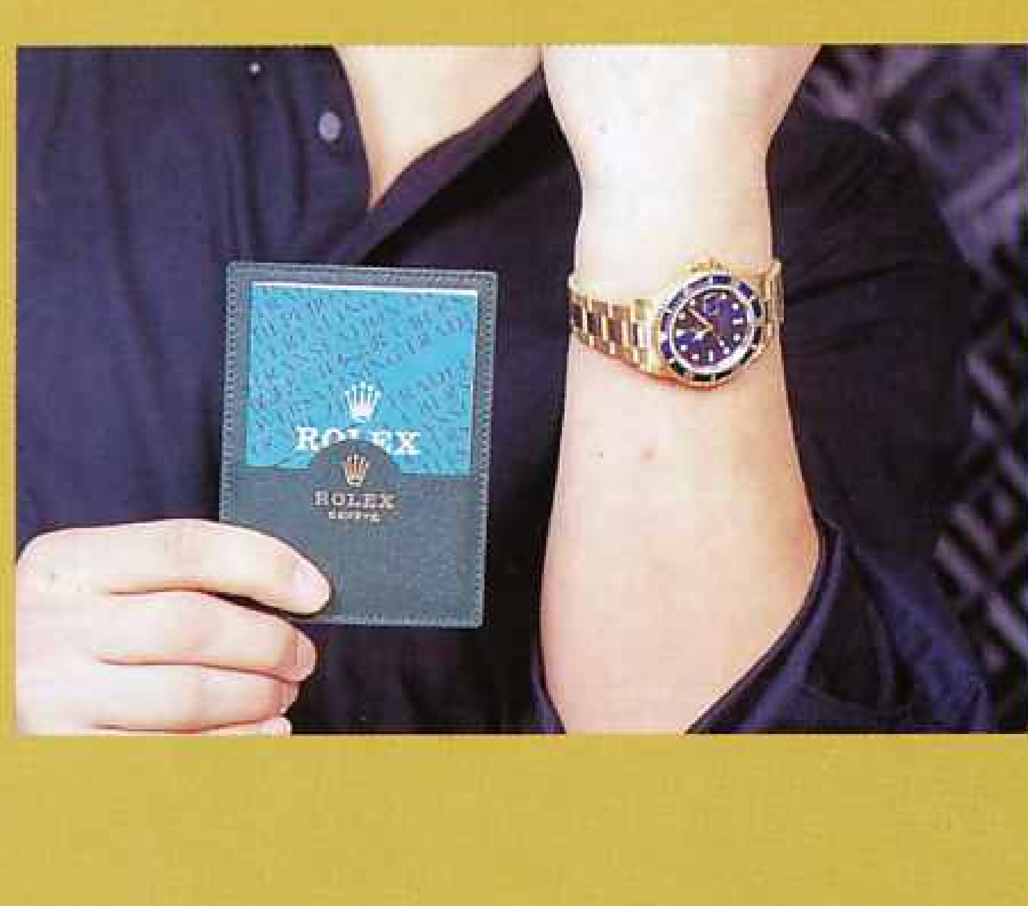
没収やぞ!!（前田）

ハ・ハァ（田村）

本誌前号で前田日明CEOが語っていた通り、「男の子の宿命」を背負ってヘンゾ・グレイシーを破った田村に、前田から金無垢のロレックスがプレゼントされることになった。本誌では去る3月16日に執り行われたこのロレックス贈呈式の模様を独占取材。読者の皆様にはぜヒ、その場の雰囲気を想像しながら読んでいただけると幸いです。







特別立会人（自称）／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／森鷹博
photographs by Morry

構成／堀江ガンツ
text by Gunts

タムタムの丸マル劇場

リングスの事務所で行われることになったこのロレックス贈呈式。「いつも俺が30分くらい遅れるんやけど、今日は30分早く来ちゃったよ」と言いながら、あげる立場なのにウキウキした前田は予定より随分早く到着。実は、あと1日渡すのが早ければこの模様は前号で掲載できたのだが、専用のゴージャスな箱が届かず、日明兄さんが、ムキ身で渡すのを嫌がっていたのである。おまけに当日は、箱に入れるだけでなく、豪華なラッピングまで施してあった。まるで田村の到着を待つ前田は、プレゼントを抱えて恋人を待つ乙女のように、田村が30分遅れても机を叩き割ることもなく上機嫌。（でもホントは「あと10分待っても田村が来んかったら、このロレックスはオレのもんや」と勝手な制限時間を設けて子供のよう）。そこへ田村が到着（間にあった！）。満面の笑みをたたえた前田がド恐縮する田村にロレックスを手渡す。リングスCEOと無差別級王者のロレックス贈呈式&ビッグ対談、ここからスタートです。

前田　（田村に向かって）お前、言っとくけどな、コレ自腹やからな！　ホントだよ！　マジだからな、お前！　オレはな、嫁ももらってないし、家も建ててないのにさ。高田（延彦）なんか2軒目の家、成城に買ったんやで！　1軒売って、新しい家買ったのかなんなのかわかんないけど。

田村　ハ、ハァ。

前田　それに比べてオレなんか、マンションの家賃払いながらさ、猫と一緒に暮らして、カーテンとカーペットボロボロにされて、オシッコかけかけられてさ、くせ～くせ～言いながら住んでるんだよ！（笑）。

田村　ハァ。

――前田さん、ヘンゾ・グレイシーに勝ったら金無垢のロレックスをプレゼントするっていうのは、田村さんと約束してたんですか？

前田　オレは賞品やるって言ってたんですよ。でもオレが賞品やるって言ったら凄いよ。高阪なんか昔、まだ半分アマチュアみたいなエンセンの兄貴（イーゲン井上）に勝ったとき（95・10・13トーナメント・オブ・J）もね、当時一番いいって言われてた時計やったからね。

――それも自腹ですか？

前田　自腹ですよ。ほんっっっとオレ偉いよ！

――ガハハハハ！「オレ偉いよ」（笑）。

前田　誰も誉めてくれないから言うけどさ（笑）。オレらの頃なんかどんなに頑張ってもものくれる人いなかったからね。

――猪木さんはくれなかったんですか？

前田　くれないよ、あの人ケチだもん（キッパリ）。一回付き人のときにマッサージしたら3万か4万もらったことあったけどね。

家も建てずに、嫁ももらわずにオレはホントに偉いよ！（前田）

前田　田村、開けてみ。

田村　ウウッ！

――（田村が恐縮しつつ箱から取り出したロレックスを見て）おぉ～、これは凄いですねぇ。

前田　だからちゃんとしたもんやるって言ってたやろ（満足げに）。

――でも武道館では「ボクの操をやる」って言ってたじゃないですか（笑）。

前田　だから女に生まれてたら、田村に最初にやらせてたよ（笑）。

田村　（ロレックスをはめてみて）コ、コレ重いッスよ。

前田　当たり前やんけ、お前！　ホントの金なんやから軽いわけあらへんやないかお前、何言うてんねん！

田村　ハァ。

前田　見てみ、バンドも全部金やで。

田村　ハァ。

前田　そんでさ、もしバンドが大きいとしても、そのままハメるんだよ。ブレスレッドみたく、ユルユルにしたのがカッコいいからな！

田村　ハァ。

前田　嬉しいやろ。オレもな、この金の指輪をアブダビの王子様にもらったんや、友情の印で。いいやろ？

田村　ハ、ハイ（いつにも増して、必要以上に恐縮する田村であった）。

前田　オレは王子様に指輪をもらって初めて、指輪を欲しがる女の子の気持ちがわかったね。いまは指輪見る度に王子様を思いだすんや。ふっふっふ。田村、お前もロレックス見る度にオレのこと思い出せよ（笑）。

田村　ハァ（苦笑）。

前田　お前、ロレックスの金を溶かして指輪にして女の子にあげたりとかするんじゃないの？

田村　ハハハ、いやぁ…。

前田　それかお前、変な女に騙されて時計貢ぐなよ！

――ガハハハ！「貢ぐの禁止令」（笑）。

前田　お前、この（ロレックスが入れてあった）箱もなくすなよ！　ちゃんと保証書とか全部この箱に入ってるからな。それから日付と時間は自分で合わせてな。

――前田さん、子供じゃないんですから、そこまで細かく説明しなくてもいいですよ（笑）。ところで田村さんは、何がもらえると思ってました？　何ももらえないとか（笑）。

田村　いやいや！　それはないですけど……。見当がつかない……。

前田　見当つかないって、アブダビからロレックス買ってやるって電話したやんけ、お前！

田村　い、いやっ、あの……。

前田　でも金無垢やとは思わなかったやろ、金とシルバーのコンビのやつかと思ったやろ。

田村　あの……和田（良覚）さんがシルバーの持ってるんですよ。











「よく来たよ～」とばかりに満面の笑みで田村を迎え入れる前田。そして田村は恐縮しつつも笑顔でロレックスを受け取り早速その場ではめてみせた。この日明兄さんの心遣い、田村はさぞかし嬉しかったことだろう。しかしFC誌のインタビューでは「ホントは車が欲しかった」とポツリ。いいのか、タムタム！



前田　あれはスチール（キッパリ）。
田村　あ、そうですか……。
前田　金無垢と完全なスチールと、真ん中が金で周りがスチールのやつと3種類あるんだよ。金無垢が一番高い！（キッパリ）。
田村　ハァ。
前田　それでね、アブダビから帰ってきていつ渡そうかと思って、田村の留守電に「田村くん、連絡ちょうだいねぇ〜」って入れといたのに全然連絡がない！「ちくしょう！せっかく貯金下ろして買ったのに、もうあげない」って思ったよ（笑）。お前また、電話したらなんか怒られるんだと思ったんやろ。
——言いがかりをつけられると思った（笑）。
田村　い、いや…そういうわけじゃあ…。
——どうですか田村さん、もらった感想は。日本で買うと160万ぐらいするらしいですよ。
田村　ゲッ!!　ホ、ホントですか？
前田　180万ですよ！
——さっき、160万って言ってましたよ（笑）。
前田　それはね、『エバンス』という専門店で買ったら160万だけど、正規の値段は180万から200万ですよ！（と遠くを見つめる前田であった）
——じゃあ、この時計は下手したらリングス無差別級のチャンピオンベルトより高いかもしれませんね（笑）。
前田　（すかさず）なに言ってんねん！　あのチャンピオンベルトは高いんだよ！
——あ、そうでしたか（笑）。
前田　ベルト作るのにクマさん（篠原勝之）に頼んで200万ぐらいかかって、その他に宝石もスターサファイアとかムーンストーンとかいいの使ってるんやで！　時価ン千万円ですよ、ン千万円！
——それは失礼致しました（笑）。でも前田さん、これからグレイシーに勝つ度に賞品出してたら大変じゃないですか（笑）。
前田　まあ、そうそうはないでしょう。でもこれからオレも貯金の減り分を元に戻すために、いろんなインタビュー受けたり仕事いっぱいやって貯金を元に戻さないと。
——インタビュー何回分やる気ですか（笑）。
前田　だからね田村、お前、飾っとくんじゃなくて、いっつもしなきゃアカンで。試合のときも道場に来るときもジムに来るときもこれつけてこなきゃダメやで！
田村　ハ、ハァ。
前田　いつもしないと没収するよ！
——没収！（笑）。
前田　イエローカードと同じで、3回してないとこ見たら没収するから。
田村　ハ、ハァ。（リアクションをどう取っていいのか困り果てる）
前田　お前チャンピオンとしていろんな人に注目されてるんやから。
田村　ハァ。
前田　こいつ、いっつもバカボンみたいな格好してるからさ、なんの選手か全然わからないんだよ。いつだったか、どっかパーティーに行ったときも「ちゃんとスーツ着てこいよ」って言ったら、足はスニーカーで来るしさ、記者会見でもそうやねん。

Jリーガーとか見てみィ お前の方が数10倍頑張ってるよ（前田）

田村　ハァ。
前田　みんなお前を見てな、「あっ、いい時計してるな」とかさ、「いい車乗ってるな」とかさ、「綺麗な彼女いるな」とか思わせて、またいろんないい選手入れなきゃならないんやからな。リングスの広告塔や。
田村　ハ、ハァ。
——田村さんは普段なんで時計しないんですか？
田村　う、う〜ん。
——もしかして時計が嫌いとか（笑）。
田村　い、いや、嫌いじゃないんですけど……、忘れちゃうんですよ。何度かなくしたり……。
前田　（すかさず）お前なくすなよ!!
——ガハハハ！「なくすの禁止令」（笑）。
前田　高いぞ！　お前これ高いぞ！　頼むからなくすなよ、ホントに。頼むぞ！　絶対なくすなよ、お前！
——あげたんですから、もういいじゃないですか（笑）。
前田　なくしたらオレの方が泡食うよ（笑）。ほんっっっとになくすなよ！　なくしたら没収やからな！
——なくしたら没収できませんよ（笑）。
前田　でもホント高いからな、お前。オレに頭にきたときがあっても、時計にあたって「ちくしょう」って言って床に叩きつけるなよ！
——ガハハハ！「叩きつけ禁止令」（笑）。
田村　ハァ、大丈夫です。
——でも田村さん、普段の格好だと、これ合わないですよね（笑）。
前田　こういう格好で、いい時計するのがカッコいいんだよ。
田村　ハァ。
——「複雑な笑みを浮かべる田村潔司であった」（笑）。では田村さん、そろそろもらった感想を言ってください。
田村　う〜ん、……だからやっぱ憧れの時計じゃないですか。
前田　お前、時計に興味あったの？
田村　ハ、ハイ、……以前から。
前田　オレはお前が何に興味あるか全然わからないんだよ。
田村　興味っていうかやっぱり……。
前田　「いつかは欲しいな」みたいなの？
田村　す、……そうですね。
——それにしても噛み合わない会話ですね（笑）。
田村　いやぁ、でもボクには高すぎる……。



――高すぎませんよ、たぶん（笑）。ヘンゾに勝ったからもらえたんですから。

前田 「ヘンゾ」にじゃなくて、「グレイシー」に勝ったからや。グレイシーっていうのが、とりあえずは、マット界にとって一番大きな課題やったからね。

――ああ、なるほど。

前田 あのね、（グランドファイナルの）1回戦マッチメイクしたときに、オレは田村にグレイシーとやって欲しかったんだよね。「誰とやりたい？」って田村に聞いたら、自分から「グレイシーとやる」って言ったんだよ。それでやってちゃんと結果出してる。すごい「いい子」ですよ。

――「男の子の宿命」を背負って結果を出したわけですからね。

前田 でも田村はたまに自分の行動に酔っちゃうんだけどさ（笑）。

――ガハハハ！

前田 「オレは頑固だ」とか言って、遠くを見て自分に感動しちゃうんだよ（笑）。

――前田さん、ちなみにこの時計はどこで買ったんですか？

前田 アブダビ。

――あ、アブダビ！

前田 アブダビとか中近東っていうのは、ヨーロッパからジュエリーとか買いに来るぐらいだから、品数が豊富で割と安いんだよ。安いって言ってもな、これはデューティーフリーにはないんだよ。だからちょっと割高やったね。

――金原さんにも、もしアブダビで優勝したらあげるはずだったんですよね。

前田 いや、あれはだから金原の対戦相手の（ヒカルド・）アローナっていうのがさ、（アントニオ・ロドリゴ・）ノゲイラに言わせると「いまのブラジルのナンバー1」だっていうからさ。「よしっ、勝ったらロレックス買うたるぞ」って言ったんですよ。それなのに金原は観光気分でさ「前田さん、誰が金の延べ棒持ってるんですかね～」とか言ってるんだよ。あれじゃあ、勝てませんよ（笑）。

――では田村さん、そろそろもらった感想を言ってください（笑）。

田村 いやぁ……。ボクがしていいのかなっていう……。

前田 なに言っとるんやお前！ チャンピオンなんだからもっと堂々とせいや！

――ガハハハハ！

前田 お前な、Jリーガーとか見てみィ、あんな大したことないワールドカップで1勝もできないやつらがさ、えらい稼いでるやん。あいつらと比べたらお前の方が何十倍も頑張ってるよ。Jリーガーなんてしょうもないやつが女優だとかたぶらかしてさ。

――たぶらかして（笑）。

前田 茶髪にしてチャラチャラしやがってさ。でもね、オレがなんで時計とか靴とかのこと言うかといったらね、オレが若い頃イギリスに海外修行してたときに、ウエイン・ブリッジが「西洋の人間は、ホテルでもレストランでも靴と時計を見てその人へのサービスの態度を決める。だから靴と時計は無理してもいいものを買った方がいい」って言ってたんだよ。

――それはジーパンを履いていてもそうなんですか？

前田 そうそう。すごいスーツ着てビシッとしていても、靴と時計が貧しいものだったら、そういう扱いは全然されないんだよ。だから、こいつはチャンピオンなのに、ちゃんとスーツ着たりとかしないんだけど、時計だけでもいいモンしてたらどんな格好しても、「ホントはスーツとかたくさん持ってるんだけど、めんどくさいから着ないんだな～」とか思われるやん。

――ああ、なるほど。靴と時計が紳士のたしなみ。ロレックスを腕にはめるのは「男の子の宿命」なんですね（笑）。

前田 そうそう（笑）。だから田村、ロレックスしてないところ見たら没収、そして罰金な。わかった？

田村 ハ、ハァ。



終始笑いが絶えない、和やかなムードで行われたロレックス贈呈記念対談。写真ではタムタムの笑顔の目が笑っていないように見えるが、きっと気のせいだろう。



見てみ、この色！　見てみ、この艶！　さすがに超高級腕時計は輝きが違う。タムタムもしっかり見とれてしまったようだ。（注・うつむいているわけでは決してありません！）

アイブルとのタイトルマッチ、『コロシアム2000』出場、さらにはヒクソン戦まで噂され、大一番が続きまくりそうな「宿命」を背負う田村。そしてそんな田村にニンジンを与えることが「宿命」になっている前田。

「宿命」は連鎖する！

やはりマット界を動かすのは、「男の子の宿命」を背負う者なのである。



6・7リングスオランダ大会でセーム・シュルト戦決定!!

前田道場で培ったプライドを賭けて 勝つ!!

山本宜久

沈黙を破り、シュルト戦、「KOK」、田村vsヘンゾ、ネットの書き込みを語りまくる！

YAMAMOTO YOSHIHISA

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie

撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri saitou

捲土重来！　昨年10月B・コーラーの剛腕で、『KOK』まさかの1回戦負けを喫して以来、戦線を離れていたヤマヨシが遂に復活。怒涛の巻き返しを図るかのように、1ヶ月半の間に3試合、しかも開催国、ルールがすべて違うという、「炎の3番勝負」が決定した。しかもその中にはセーム・シュルトの名が！　沈黙を破りヤマヨシが大咆吼。よーし、ヤマヨシ頼むゾーッ！

リングスの実績を無視して、『KOK』だけで比べる見方がおかしいんだよ！

──いま、少し練習見せてもらいましたけど、もの凄いハードトレですね。

山本　今日は軽めですよ。

──え⁉　あれで軽いんですか？

山本　今日は土曜でしょ。1週間の練習の疲れがピークの時だから、月曜とか火曜に見に来たら全然迫力が違うよ。

──仕上がりは順調そうですね。ところで山本さんは、思えば半年ぶりの復帰になるんですよね？

山本　半年ぶりって言っても休んだのは武道館だけだからね。やっぱりリングスも2ヶ月に1回の興行になったから、1回ケガとかで休んじゃうと、次まで間隔が凄く開いちゃうから、コンディションに気をつけないと。だからいまオレは風邪ひかないようにうがいを欠かさないからね、イソジンで（笑）。

──風邪と言えば、当初復帰戦として発表されていた『アブダビ』はインフルエンザで欠場だったんですよね？

山本　そう。熱が最高で42度まで出てね、しかも2、3日40度以下に下がらないんだよ。だから〝種〟が死ぬんじゃないかと心配で心配で（笑）。

──やっぱりそっちが心配でしたか（笑）。

山本　ホントに心配だったから即入院（笑）。そしたら肺炎寸前までいってたんだよね。

──聞くところによると、熱があるのに練習しまくってたのが原因らしいですね。

山本　汗かいたら熱が下がると思ってさ、ガンガン練習したんだけど、どうやら汗かきすぎたみたいで（笑）。

──山本選手ってケガが直りかけの時に練習して痛めたり、オーバーワークで墓穴を掘ることが多いように感じるんですけど（笑）、練習しすぎなんじゃないですか？

山本　なんかみんなにそう言われるんだよね。だから最近オレも練習やりすぎちゃってるのかなって思い始めたんだけど（笑）。

──ようやく気づきましたか（笑）。練習しないと不安になってくるんですか？







前田道場の中に入るとヤマヨシは練習の真っ只中。タイ人コーチのエッティーさんが持つミットに向かって、道場中に響きわたる雄叫びをあげながらキック、膝蹴りを叩き込む。まさにド迫力。この日は所用で留守だったが、今月はTKが日本にいるため、TKとのスパーリングを中心とした練習メニューをこなしているという。

YAMAMOTO YOSHIHISA

山本　不安になるっていうか、のめり込んじゃうんだよね。

──やめられない止まらない（笑）。

山本　そこまでいかないけど、自分をイジメ抜いて、追い込んでから試合に勝ったときの喜びっていったら最高だからね。

──それじゃあ、半年も試合してなかったら、相当フラストレーションが溜まってるんじゃないですか？

山本　フラストレーション？　それより性欲のほうが溜まるね（笑）。

──アハハハハ！　そっちのほうは発散してないんですか？（笑）。

山本　そうじゃないけど、すぐに溜まるものだからね（笑）。（傍らにいる和田レフェリーを指さして）でもオレより溜まるのが早い人があそこにいるから（笑）。

和田　なに言ってんの！

山本　和田良覚37歳。自称独身だから（笑）。

和田　だからウソばっかり言ってるんじゃないの！

──アハハハハ！

山本　和田さんはスパーリングしようって言ってワンワンポーズ取るんだよ（笑）。

和田　バカ！　ぜ〜んぶウソ！　書かないでくださいよ！　本気にされますから！

──全部、ウソです！って力強く書いておきます（笑）。

和田　平和な家庭を崩壊させないでくださいよ！　頼みますよ！

（和田レフェリー立ち去る）

──いや〜、和田さん面白いですね（笑）。

山本　和田さんはベンチプレスで230キロ挙げるんだよ。そんなレフェリーいないよ（笑）。

──で、なんの話でしたっけ（笑）。山本さんは『アブダビ』のどんなところに興味を持ったんですか？

山本　超一流の選手が集まった日本じゃ実現不可能な大会なんで、自分の力を試してみたかったですね。

──別に金の延べ棒に目がくらんだわけじゃないと（笑）。なんでも山本選手は欠場しなかったらマーク・ケアーと1回戦で当たる予定だったらしいですね。

山本　そうらしいですね。彼のパワーと圧力は一回体験してみたかったですね。リングスにも（グロム・）ザザとかパワーの凄い選手はいるけど、それともちょっと違うと思うし。

──でも普通の選手は「あいつのあの技は食らいたくない」とか言うもんですけど、山本選手の場合、アイブルのフックを食らいたいとか、普通と逆ですよね（笑）。

山本　なんでも経験だから。一回強烈なの食らったら、次からなんでも耐えられるからね。

──ブラッド・コーラーにやられた肋骨はもう大丈夫なんですか？

山本　一回くっついたと思って練習やっちゃって、また痛めちゃったんだけど（笑）。

──またですか（笑）。

山本　でもいまはもうくっついてるから大丈夫。骨も一回折って直ると強くなるんだよ。

──ホントですか？（笑）。

山本　ホントホント。オレもカルシウム取ってるから、いまはカチカチの強い骨になって

（ネットに）何を書き込もうが勝手だけど、俺の前で言ってみろ！

るよ。

―代々木のジェレミー・ホーン戦（4・20）が半年ぶりの復帰戦になるわけですけど、欠場している間は焦りとかってありました？

山本 焦り？ そんなもんはないですね。なんでオレが焦るの？

―いや、休んでる間に格闘技界の流れに乗り遅れるんじゃないかという危機感とかがあるのかなと思ったんですけど。山本さんは『KOK』ではまだ1試合しかやってなくて、試合もすぐ終わってしまったわけですし。

山本 なに、そのすぐ終わっちゃったって！（怒）。

―す、すいません！ 言い方が悪かったです。1Rで終わってしまった……これじゃ同じか（笑）。

山本 だからね、いままでのリングスでの試合を無視して『KOK』だけを比べるからいけないんだよ。オレはリングスで9年間試合をしてきて結果も出してきたし、それをなんでいまさら、これまでやってきたものを全部焼却して『KOK』の実績だけで見るの？ あのねぇ、あなたの見方ががおかしいんだよ！（怒）。

―でもファンも『KOK』になって、今までのリングスを一度リセットして見てる人も多いと思うんですよ。『KOK』になってから見始めた人も多いみたいですし。

山本 だから自分の中では今度の代々木がスタートだと思ってるから。まだ『KOK』も始まったばかりだし、遅れをとったとも思ってないしね。いままで自分がやってきたことに自信もあるから。

―ではルールが変わって戸惑いとかありませんでしたか？ やっぱり練習内容も変わってくるでしょうし。

山本 練習はいままでどおりですよ。ガラリと変える必要もないし。何で変えるんですか？

―ルールが変わったらやることも違ってくると思うんですけど……。

山本 だからいままでやってきたことプラスアルファですね。別にいままでやってきた練習を否定することもないし、いままでやってきたことは間違ってないしね。

―シアトルでやっていたケビン（・ヤマザキ）さん流の練習は続けてるんですか？

山本 あれも自分に合う部分と合わない部分があったからね。だからいい部分は残して、自分に合わない部分は省いてね、でもやっぱりオレには前田道場が合ってるんだよね。

―自分をとことん追い込む練習が好きなんですね（笑）。

山本 そう。

―ケビンさんは、練習で乗せたり追い込んだりしてくれるんじゃないですか？

山本 まぁ、ケビンさんは「行け！」と「カモン！」しか言わないからね（笑）。

―アハハハ！ 極端に少ないボキャブラリーですね（笑）。犬の調教じゃないんだから（笑）。

山本 「行け！」と「カモン！」だけでやる気にさせるから不思議だけどね。



YAMAMOTO YOSHIHISA

―そのケビンさんも巨人軍の清原選手のトレーナーになって有名になりましたよね（笑）。

山本 東スポの一面になってたね（笑）。「ケビンが悪い」（笑）。

山本 本人は全然気にしてないみたいだけどね。（ケビンさんのマネで）「ボクが有名になったからいいデ〜ス」って（笑）。

―イッツ・オーケー（笑）。

山本 でも良くも悪くも一面になるんだから凄いよ。

―まぁ、清原選手が活躍したら「ケビンのおかげだ」になるんでしょうしね。ところで山本選手が出稽古してるって話を聞いたんですけど、前田道場以外でどんな練習をしてるんですか？

山本 それは秘密。ま、自分の足りないところを補う練習をしてますよ。別に言うことでもないしね。試合を見ていただければ少しづつわかりますよ。

―では、それは試合を見てのお楽しみということにしましょう。ところで山本さんはリングスルールから『KOK』に変わったのはいいことだと思いますか？

山本 いま格闘技界全体の流れがそういう感じになってますからね。『KOK』は蓋を開けてみたらお客さんの反応が良かったし、記者の人の反応も良かった。それにタイミングも良かったしね。ファンが膠着に飽き飽きしてるのと、『KOK』が出てきたタイミングがピッタリ合ったから。

―そうですね、『PRIDE・GP』1回戦もあれだけ注目されて、ドームに満員の観客が集まったのに、膠着状態がファンには不評でしたからね。

山本 でも真剣勝負でトップの選手同士が闘ったら、どうしても膠着してしまっていうのはわかるんだよね。どちらも負けられないからギャンブルできないし。だからルールで膠着できないようにするしかないんですよ。

―そういう点ではファンにとっては『KOK』ルールっていうのはありがたいですけど、選手は大変ですよね。

山本 ホント大変だよ。休んでる暇ないからね。全力疾走ですよ！

―前田さんは「オレが現役だったらKOKルールなんて絶対やらない」って言ってましたよ（笑）。

山本 前田さんはスタミナ的にきついと思うね。それに前田さんのスタイルはグラウンドで上になって、そこからジワジワと極めにいくでしょ、『KOK』だとすぐブレイクかかって立たされるから、「ブレイク」って言われたらたぶん前田さん切れるでしょ（笑）。

―自分で作ったルールなのに（笑）。あと『KOK』はジャッジの基準がわからないっていうファンの声が多いんですけど。

山本 選手も誰もわかってないでしょ（笑）。

―判定をコールされるまで誰もわからない、それはスリリングですね（笑）。

山本 だから『KOK』もどんどん改良されていくんじゃないですか。ジャッジの基準もキチンとして。やっぱり判定で決まることが多いわけだからね。

―山本選手は判定についてはどう思いますか？

山本 ボクは判定は絶対嫌ですね！（キッパ

リ）。寝技だったら絶対一本取りにいくし、スタンドだったらKOを狙いますね。

——では、『KOK』になっても判定狙いの試合はしたくはないという感じですか？

山本　判定狙いぃ!?　そんなの誰に向かって聞いてるの？　オレがそんなの狙うわけないでしょ。だって練習で苦しい思いして一本とる練習して、試合で判定狙ったら練習した意味がないでしょ！（怒）。

——でも『KOK』だけじゃなく、『PRIDE』や『UFC』なんかでも、合理的な考えで、判定で勝てる戦略を立てる選手が多くなってますよ。

山本　それはひとそれぞれだけど、やるかやられるかの闘いがオレのポリシーですからね。それはリングスルールでも『KOK』でも変わりませんよ。そっちの方がお客さんも面白いでしょう。

——この判定決着というと田村選手がヘンゾ・グレイシーに判定勝ちしたことに対して「判定狙いのセコイ勝ち方」っていう批判も一部であったんですけど、あの勝利については山本選手はどう思いましたか？

山本　まぁ、記者とか評論家が言ってるんでしょうけど、ファンと闘った本人が満足してるんですから、それが全てなんじゃないですか。記者とか評論家があれこれ言おうとも、そんなの関係ないでしょ。

——山本選手自身のあの試合の感想は？

山本　まだ突っ込むの？　またオレに毒吐かせようと思って（笑）。

——まぁ、ぶっちゃけた話ですね、山本選手と田村選手は〝宿命のライバル〟と言われてたじゃないですか。以前は山本選手も「あの人を潰すためならなんでもやります」っていう発言をしてましたけど、あれから4年経って、いま山本選手にとって田村選手っていうのはどういう存在なのかっていうことに、すごい興味があるんですよ。

山本　（長考）う〜ん……どういう存在っていうとわからないですね。でも彼はいまチャンピオンですよね。オレはまだタイトルマッチが組まれたことないですから、もし組まれたら彼からリングス無差別級のベルトを奪いたいですね。あとはもう、見る側にどう捉えてもらっても構いませんので。田村さんの話はこれぐらいでいいでしょ。オレのインタビューなんだからオレのこと聞いてよ。

——わかりました。では今度は田村選手のこと以上に聞きにくい話なんですけど、山本選手はインターネットって見たりします？

山本　いや、リングスのホームページに来たのを、会社の人にプリントアウトして見せてもらうくらいだね。

——それがですね、インターネットって顔も名前もわからない媒体なんで、いろんな格闘技のサイトで勝手なことが書き込まれてるんですよ。

山本　なに？　オレの悪口とか書いてあるの？

——ハッキリ言っちゃうと結構あるんですよ。

山本　何て書いてあるの？

——本人を前にして言うのは非常に恐ろしいんですけど（笑）、「コーラーに秒殺されて、『アブダビ』から逃げた〝ヘタレ山本〟」とかですね。

山本　（アキレ顔で）もうね、そういう連中にはいちいち構ってられないね。そんなね、顔の見えないところで人の悪口書いてね、ほくそ笑んでる暇があったら……勉強しろ！

——「勉強しろ」と来ましたか！

山本　いちいち構ってられない。でも、そういうパソコン好きの少年がね、面白おかしく書くのは自由だけど、あんまりふざけたこと書くとねぇ……それならオレの目の前で言ってくれたらねぇ。

——絶対に言わないと思います（笑）。

山本　言ってくれたら、ちゃ〜んと口の利き方教えてあげるのにねぇ。

——ネット上で山本選手やリングスのファンとアンチ・リングスが闘ってたりするんですよ。だからファンからしたら、結果出してアンチを黙らせて欲しいっていうのがすごくあると思うんですよ。

山本　でも選手はなに言われても闘うだけだから。自分のスタイルを貫いて結果を出していきますよ。だけどそんなことが書いてあるんだ、初めて知ったよ。

——で、そういう声を黙らせるにはもってこいの対戦相手が決定しましたよね。

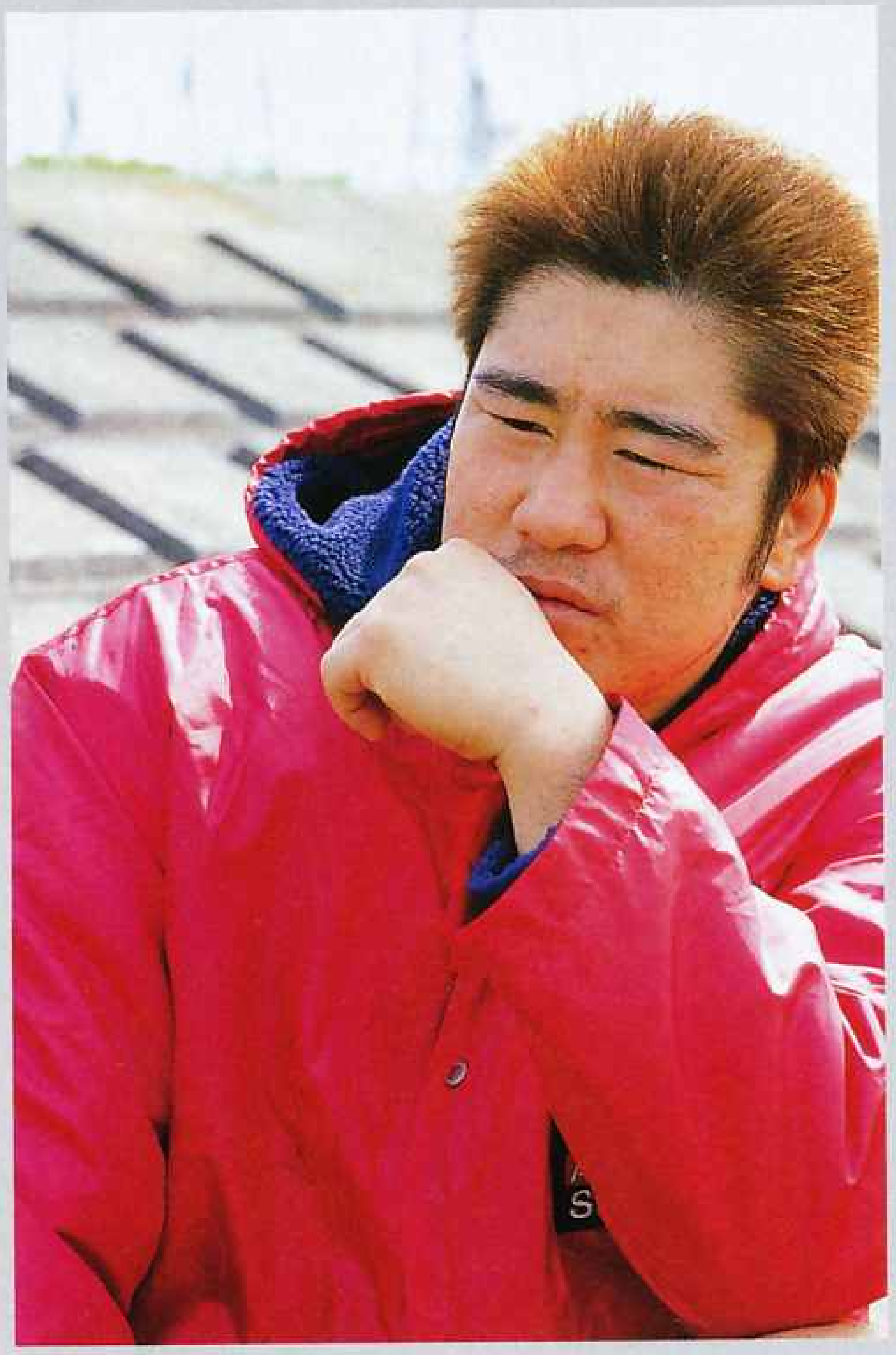
山本　誰に決まったの？（笑）。

——またまた〜、とぼけないでくださいよ（笑）。リングスのトップファイターと現役のパンクラスのチャンピオンが闘うんですから、ファン大注目の一戦なわけですけど。

山本　でもその前に2試合ありますからね。「炎の3番勝負」ですよ！

——「炎の3番勝負」ですか！　まず4・20代々木でジェレミー・ホーン戦で、次が5・14アメリカでブランドン・リー・ヒンクル戦、そして最後が6・4オランダでセーム・シュルト戦ということなんですけど、これ全部違うルールなんですよね？　こんなムチャする選手なかなかいないと思うんですけど、山本選手的にはいいんですか？

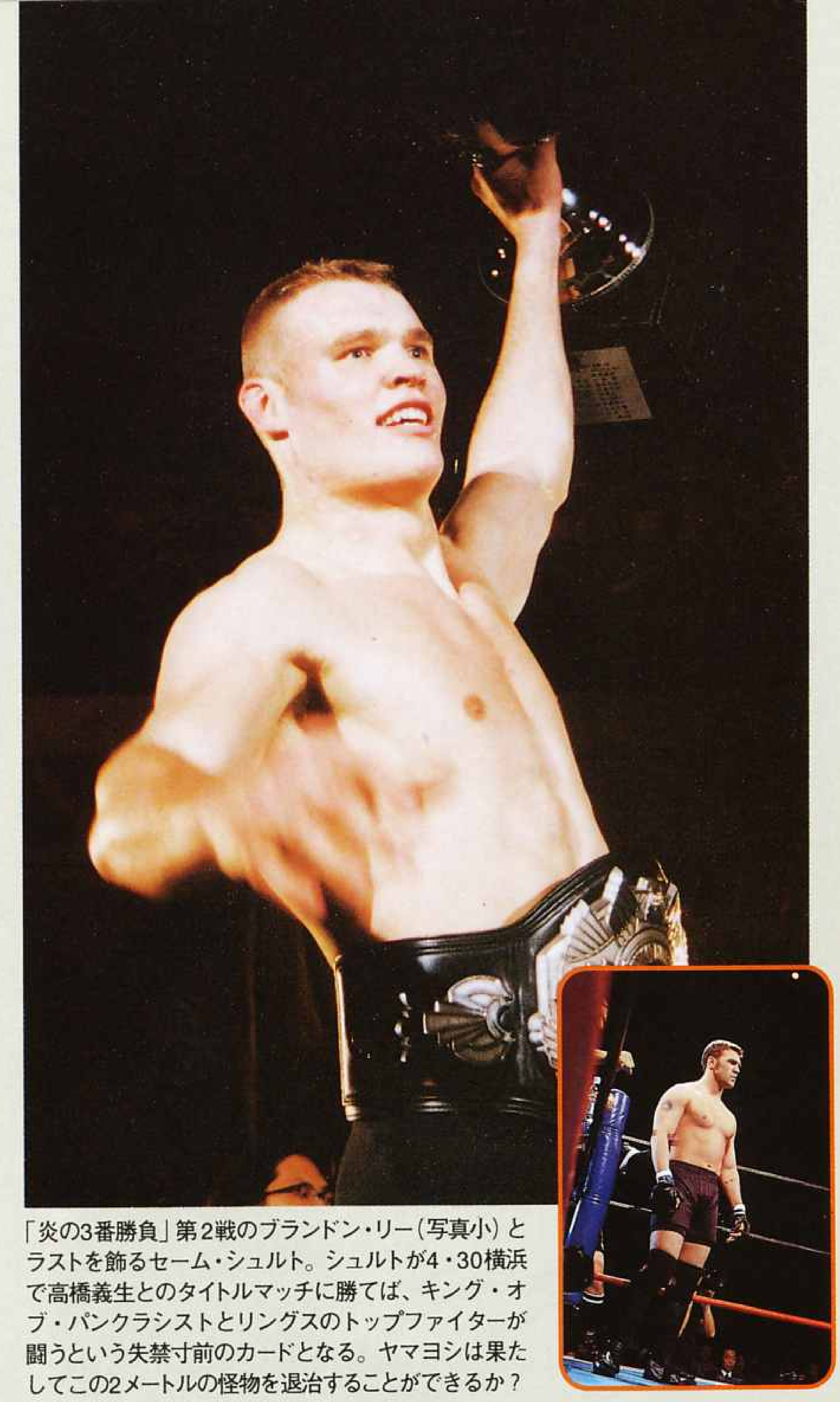






周りがリングスVSパンクラスって煽るなら負けられない、いや、勝つ！

YAMAMOTO YOSHIHISA



「炎の3番勝負」第2戦のブランドン・リー（写真小）とラストを飾るセーム・シュルト。シュルトが4・30横浜で高橋義生とのタイトルマッチに勝てば、キング・オブ・パンクラシストとリングスのトップファイターが闘うという失禁寸前のカードとなる。ヤマヨシは果たしてこの2メートルの怪物を退治することができるか？

山本 KOKルールはだいたい覚えたんだけど、他のルールはオレ自身よくわからないんだよね（笑）。

——ホントにそれでいいんですか、山本さん！（笑）。

山本 もう、全部KOKルールでいいでしょう！

——「いいでしょ」って言われても、もうルール決まっちゃってるんですから（笑）。ルールとか気にしない方なんですか？

山本 ルールひとつで闘い方も違ってきますからね。まあでも気にしない！ ちっちゃい事は気にしてらんない!! KOか一本取るかっていうことで試合的には一緒だから。

——では1試合ずつお話を伺っていこうと思うんですけど、まずジェレミー・ホーン戦。このインタビューが載る頃には試合は終わってるんですけど、どんな印象を持ってますか？

山本 ジャレミーはアメリカでノー・ホールズ・バードの大会に出まくって有名みたいですね。

——なんてったって1年間にVTを25試合やった男ですからね（笑）。聞くところによると、ジェレミーの海外での評価はかなり高くて、金原選手も『KOK』の1回戦でジェレミーに勝ったことでアブダビでも名前が知られてたらしいですよ。

山本 そのVTで勝ったから凄いとか、ノールールじゃないから凄くないっていう風潮は腹立ちますね。だからリングスで勝つやつが凄いっていう風に変えていかなきゃならないですね。

——それには「炎の3番勝負」に勝たなきゃしょうがないですね。もう攻略法とかは考えてるんですか？

山本 あいつかわいい顔してるから"男前"にしてやりますよ。

——おぉー、この場合の「男前」は当然……。

山本 バチバチのシバキ合いをしてやりますよ！

——やっぱり（笑）。

山本 それとあいつはグラウンドでの足の使い方が巧いみたいだけど、オレはTK（高阪剛）とのスパーリングで「7色のTKシザース」を防いでるから大丈夫。

——前田さんの7色のスープレックスならぬ、7色のTKシザースですか！

山本 TKが言うにはね。オレは2種類しか見たことないけど（笑）。

——ホントに7種類あるんですか？

山本 あるのかなぁ（笑）。

——アハハハ。では、ジェレミー戦が終わったら今度は5・14『WEF（ワールド・エクストリーム・ファイティング）』でブランドン・リー戦ですけど。

山本 オレ最初にその話を電話で聞いたとき、聞き間違えてWWFだと思ったんだよね（笑）。

——アハハハ！「山本宜久WWF入り」はビッグニュースですよ（笑）。で、WWFじゃなくて『WEF』は山本さんには久しぶりのVTとなりますけど、そういうのは意識しますか？

山本 全っ然！ ルールはまだ知らないんだけど、ビデオで見る限り初期のUFCみたいなルールじゃないかな。グラウンドポジションの相手の顔面を蹴っていいみたいだし。

——今年1月の『WEF』で（レナート・）ババルが寝ているコーラーの顔面を蹴ってKOしたのは凄かったですよね。

山本 だから今のUFCとか『PRIDE』なんかよりルールはずっと過激だよね。

——あと前田さんも審議委員で行くらしいけですね？

山本 でも、前田さんルール知ってるのかなぁ（笑）。

——アハハハ！「ディス・イズ・ジャパニーズ・ルール！」って叫ぶかも知れませんね（笑）。

山本 レフェリー怒鳴ったりね（笑）。

——アハハハ。そういえば試合は金網で行われるんですよね。

山本 そうみたいだね。あの金網はよじ登ってもいいの？

——まあ「金網はよじ登らないこと」っていうルールはないと思いますけど（笑）。

山本 じゃあ金網の天辺から踏みつぶしてやりたいね（笑）。

——アハハハ！ ブル中野のギロチンじゃないんですから（笑）。

山本 でもこんなことやる奴いないでしょ？

——そりゃいませんよ（笑）。

山本 これやったらオレもアメリカで有名になるでしょ。アメリカでTV生中継するみたいだから、ピザ食べながら見てる視聴者の度肝を抜いてやりますよ。

——海外で試合することで意識することってありますか？

山本 いや、全っ然！ 海外好きだけどね。

——どんな部分でですか？

山本 ヒールになれるし。ブーイングとかすごいでしょ。それが客が満足する試合を見せて勝てば、スタンディング・オベーションに変わるんですよ。それがまたね、気持ちいいんですよ。

——今年は山本選手も海外の試合が多くなりそうですか？



山本　海外派遣みたいなのが増えていくみたいですね。選手が知らないうちにどんどんブッキングされてますね（笑）。

――アハハハ！　成瀬さんなんか復帰が決まったと思ったら、ロシアですからね（笑）。

山本　だから日本で2ヵ月に1回のペースで興行やって、空いた1ヵ月に埋め込むみたいな感じですよね。オレは2週間に1回ですけど（笑）。

――よりキツくなってるじゃないですか！　選手の体調を整えるためという最初の頃の目的が全く生きていない（笑）。

山本　ねぇ（笑）。

――では対戦相手のブランドン・リー・ヒンクルについて聞いてませんでしたけど、いま話題のチーム・OBAKEの選手ですよね。『KOK』ではモーリス（・スミス）に僅差の判定で敗れてますけど、あの試合を見た感想はいかがでした？

山本　モーリスが上手くなってたね。

――モーリスの方の感想でしたか（笑）。

山本　だって相手に上になられても、ことごとくひっくり返してたでしょ。レスラー相手に普通できないよ。

――モーリスはセンスが相当いいんでしょうね。

山本　センスもいいし、身体能力もズバ抜けてるね。モーリスはあんな凄い身体してるけどウエイトとか一切やってないんだよ。

――え!?　そうなんですか？

山本　モーリスがウエイトやってるの見たことないからね。TKに聞いても見たことないって言うし、だからベンチプレスとかカールとかやらないとつかないような筋肉がナチュラルについてるんだよ。

――そりゃ強いはずですね。で、モーリスじゃなくてブランドン・リーの話ですよ。あの『WEF』って彼が最も得意とするルールなんじゃないですか？

山本　でしょうね。彼はレスリング系の選手なんで、テイクダウン取ってパンチでこちょこちょと殴ってくるでしょうね。決め技を持ってる選手じゃないんで『KOK』よりか、『WEF』みたいなリングのほうが本領を発揮するんじゃないですか。

――じゃあ、かなり要注意じゃないですか。

山本　あんま考えてないですね。

――頼もしい……っていうか、それでいいのかなぁ（笑）。では、いよいよ「炎の3番勝負」の最終戦〝現キング・オブ・パンクラシスト〟セーム・シュルト戦ですけど。

山本　本当に決まってたの？

――遂に正式発表されました！　この試合はリングスオランダルールでやりますよね。どんなルールか、あまりご存じないですか？

山本　う〜ん、ロープエスケープがあるんですよね。だから初期のリングスに近いんじゃないですか？

――いや、グラウンドの時間が20秒とか30秒で、あっという間に立たされるっていう。『KOK』より早いっていう話です。しかも肉厚のオープンフィンガー・グローブ着用なんで旧リングスルールとは、大分違うと思いますよ。

山本　ああ、あのグローブすごい厚いんですよ。脇を差したりとか、グリップしたりっていうのが難しいんで、グラウンドが凄くやりにくいんですよ。だから『KOK』で使ってるオープンフィンガー・グローブでいいと思

ルールなんて気にしてられない！ どの道KOか一本奪えればいいんだから

うんだけどね。

――ハッキリ言ってこのルールだと、打撃系のセーム・シュルトの方が断然有利だと思うんですけど。ロープエスケープもあのデカさですからね、あっという間に手が届いちゃうんじゃないですかね。

山本　（ボソッと）『KOK』でいいでしょ。俺ルールはわかんないから。まだこれからって感じで、20日の代々木もあるんでね。先長いし。先長いって言ったって1ヵ月位か（笑）。

――そもそもなんで、この怒涛の3連戦をOKしちゃったんですか？

山本　二つ返事！　何も考えてなかったですからね。「これスケジュールすごいんじゃない？」って人に言われたんですよ。よ〜く考えたら、あっそうだなと思って。気付くの遅いですね。フフッ。どうやって調整しようかなと思って。2週間の間隔だから練習する期間もねぇ……まあでもあんまり難しいこと考えてもしょうがないしね（笑）。試合でコンディション作ればいいでしょ。

――巡業してるレスラーみたいですね（笑）。

山本　でもシュルトってデカイんだよね？（ヒカルド・）モラエスとどっちがでかいの？

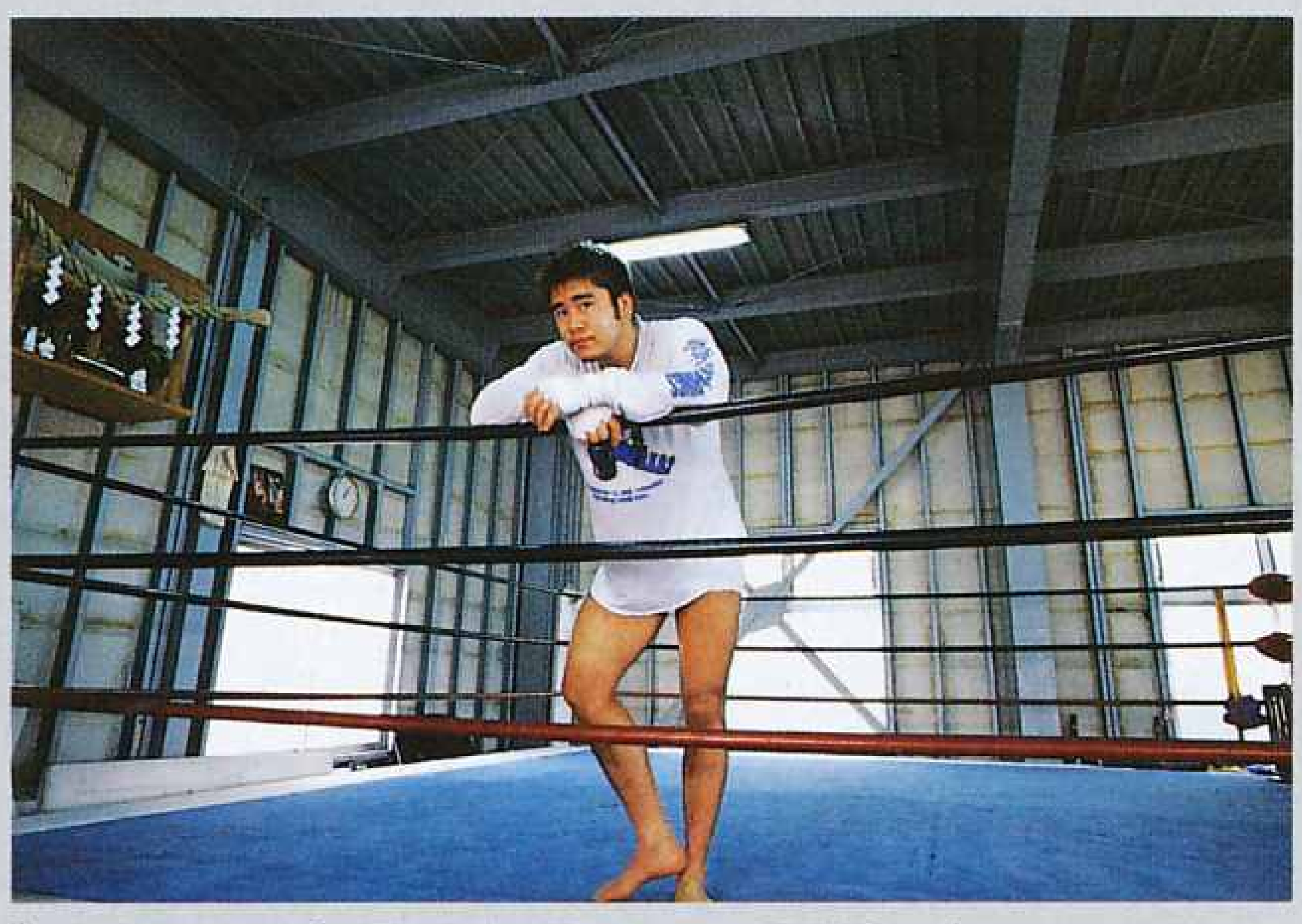
――モラエスが確か205センチですから、シュルトの方が5センチ位高いですよ。

山本　モラエスよりでかいんだ。モラエスと向き合ったときはバケモノかと思ったけどね。でもそんなデカイやつの代わりになるスパーリングパートナーなんていないなぁ。

――ところでシュルトに注文はないですか？「キング・オブ・パンクラスのベルト賭けろ」とか（笑）。

山本　フハハハ！　それはねぇ……。パンクラスのランカーでもなんでもないんだから。

――でも海外ですから超法規的措置ということで（笑）。（ビターゼ・）タリエルもリングス無差別級タイトルをグルジアで勝手に防衛戦やってたらしいですから（笑）。まぁ、ベルト云々は冗談として、でもやっぱりシュルトはパンクラスのチャンピオンですよね。見る側としては、どうしてもそういうのを意識してしまうんですけど。山本さんはそういう意識とかないですか？



【やまもとよしひさ】昭和45年7月4日、山口県下松市出身。190センチ、100キロ。リングス第1回入門テストに合格。平成4年5月16日、有明コロシアムでの成瀬昌由戦でデビュー。その後わずか3年でヒクソン・グレイシーと闘い善戦し、一躍その名を格闘技界に轟かす。以来リングスのトップ選手として活躍。ファンからは前田イズムの後継者と目されている。

YAMAMOTO YOSHIHISA

山本　あんまりないですけどね。ただ見てるファンとかはどうしてしてもそういう風に取ってしまうんでしょうね。でもそういう風にどんどん煽ってくれれば、僕もやっぱり負けれないと思うし。まあ、勝つ！っていうそれしかないですけどね。

――ホントこれがオランダじゃなくて、東京ドームの『コロシアム2000』なんかで組まれたらエライ騒ぎになってるでしょうね。

山本　でもまだ対戦の実感ないですよ。とにかく一つ一つ落とさないでクリアしていかなきゃいけないんで。1面クリアしたら2面に行くっていう、ボスキャラみたいなもんですよ。でっかいボスキャラ（笑）。

――そのセーム・シュルト戦の話がきたときどう思いました？

山本　まあ、強い選手ですよね。でも畑が違うんでね、どういう選手かっていうのは実際やってみなきゃわからないっていう未知の部分があるんですよ。逆に言えば向こうも自分に未知の部分があると思うし、それがぶつかり合ったときって面白いと思うし、ワクワクしますね。

――いいですねぇ、それでこそ山本宜久って感じですね。それと、やっぱりどうしてもリングスvsパンクラスっていう見方をされると思いますけど、リングスの看板背負って闘うという意識はありますか？

山本　看板だとかそういうのはあまり考えたことないですね。

――でも結構山本さんっていうとリングスの看板、前田道場の看板っていう見方をどうしてもされると思うんですけどね。

山本　そうですね。オレは前田道場で培ってきたものにプライドがありますから。だからそのプライドを賭けて闘います。勝ちますよ！

――いいですね！　それはファンも燃えますよ。では、これからの活躍期待してます！

【99年4月7日、前田道場にて収録】

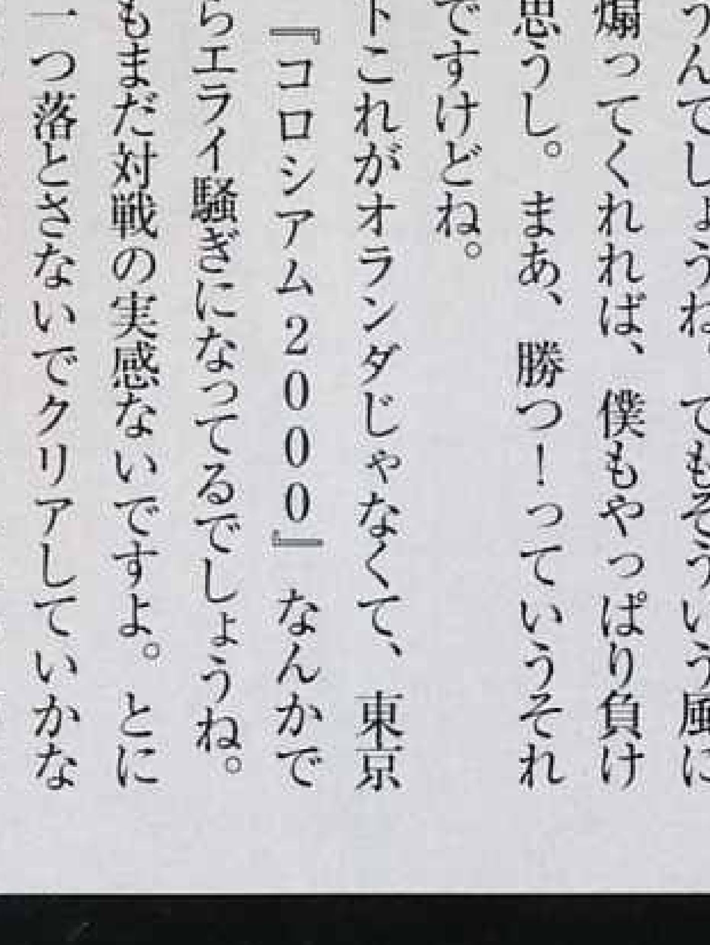
世界制覇！ リングス海外情報

5・13『ワールド・エクストリーム・ファイティング』
山本宜久 vs ブランドン・リー・ヒンクル
坂田亘 vs アンソーア・ヘイダーリ

5・20リングス・ロシア大会
成瀬昌由 vs イリューヒン・ミーシャ（予定）

6・4リングス・オランダ大会
山本宜久 vs セーム・シュルト
（G・アイブルも出場予定）

5・20ロシアで復帰予定 成瀬昌由



昨年6月の後楽園大会以来、第5腰椎分離礁で欠場を続けている成瀬。以前、本人は桜が散る前には復帰したいと語っていたが、どうやらそれには間に合わなかった模様。日本で成瀬の「妖刀・村雨」が見れるのはもう少し先になりそうだ。本人にコメントを求めたところ「今はノーコメント」とのこと。1日も早い復帰、そして田村とのWタイトル戦を期待しよう。

5・1『PRIDE.GP』包囲網完成!! 5・26『コロシアム2000』爆発の予感

格闘 DreamCast 座談会



船木vsヒクソンを『囲め！囲め！』

グレイシー幻想終結か？

やっちゃやってくれサク!!





リングス勢はどう動く？

グランプリ優勝は？

アブダビ王子来日か!?

扉イラスト／中川雅博
本文イラスト／キャプテン名倉

ある日、編集部・山口日昇宛に大きな荷物が送られてきた。箱を開けると、中にはなんと『ドリームキャスト』が！　しかも『バイオハザード』のソフトまでついているぞ。送り主はSEGAにお勤めの読者・Sさん。Sさーんッ！　ありがとッ！（4・7の猪木調）。嫁と社員にはやたらと強いが、プレゼントには滅法弱い山口日昇が「よーし、いまから『ドリームキャスト』座談会をやるぞ！」と突如言い出した。というわけで、いきなりだがマット界のドリームキャストが大集合となる（はずの）『コロシアム2000』『PRIDE・GP』の話題を中心に、夢や妄想を語りまくったドリキャス座談会、敢行――ッ!!

『コロシアム2000』に猪木、小川、アブダビ王子が大集結するらしい!?

高尚で厳格な、妄想を排除した世界に人は集まらない

スモー　どすこ～い。この座談会のテーマは5月の総合系興行戦争についてでごわす。

山口　またおまえは、誰も喜ばない相撲キャラか（笑）。

豪　ほっときましょう、こいつは。この間、『LaPoo』って雑誌でターザン（山本）と対談したら、「『コロシアム2000』と『UFC—J』は貧乏長屋ですよォ！」って言ってましたよ（笑）。

山口　あいかわらずムチャクチャなこと言ってるな。言わんとしてることはわかるけどね（笑）。でも、『SRS・DX』では「これからは『PRIDE』の一人舞台ですよォォ！」とか言っておきながら、その対談では「『PRIDE』なんて、一人勝ちしませんよォォ！」とか言ってたらしいね、あのオヤジ。

豪　ええ、「『PRIDE』はプロレスが体勢を立て直すまでの噛ませ犬にしてるだけだ」「敢えて俺が『PRIDE』を噛ませ犬にしてやってるんだ」ということみたいなんですけど（笑）。

山口　あのオヤジは何様のつもりなんだ！　どうする？　そろそろドブにでも捨てますか（笑）。

豪　まあ、でも強引にあそこまで言い切られると、抜群に面白いですけどね。

山口　それに対してムキになって怒る関係者もいないだろうしな（笑）。たしかに『PRIDE』は一人勝ち状態になるかなと思ったんだけど、1月の大会でコケ気味だったから、5・1はどうなるかなと思ってたんだけど、僕は大丈夫だと思うね！　何しろサクvsホイスがあるから！

豪　その試合が終わったら？

山口　正直なところ、あとは考えてない（笑）。でも、『PRIDE』は個人個人に焦点を当てて試合を見れるから面白いよ。藤田（和之）vsマーク・ケアーも、（ガイ・）メッツァーvs佐竹（雅昭）も見たい。藤田選手は1回戦で豪快に勝ったし、佐竹選手はあいう負け方したから、2人とも5・1は違う角度で注目でしょう。佐竹選手は打撃を得意とするメッツァー相手だし、佐竹選手が総合でどこまでやれるかっていう格闘技的な興味だけでも見れるよね。この試合は膠着してもいいな、俺は（笑）。

チョロ　（小声で）メッツァーはアマレスも実績あるんですよ……。

山口　（無視して）で、それともう一つの注目カードはアレク（サンダー大塚）vsケン・シャムロックだね。5・1はアメリカでのPPV放映が決まったでしょ。ケンシャムは向こうではビッグネームだから、もしアレクがシャムロックに勝ったら、これは知名度的な部分で大変なアップセットだよ。マルコ（・ファス）に勝つことよりもデカいと思うよ。そういうことも含めて考えれば、唐突に見えるアレクvsケンシャムもガ然面白いカードになってくる。

豪　でも、カードとか、出てる人たちの魅力は爆発してるんだけど、なんで停滞ムードが出てきたんですかね？

山口　きっと対抗馬の『コロシアム2000』がもの凄い幻想を生んでるからかもね。潜在的な部分では「船木vsヒクソン」は誰もが見たいだろうし、それにリングス勢というより前田日明色が加わったことで、とんでもないハレーションを起こしそうだから（笑）。でも現時点では、幻想というか完全に妄想なんだけどね（笑）。

豪　いろんな要素が重なり合って、非常に妄想を抱かせやすい状態になってきましたからね。まず猪木さんとアブダビ王子が来るっていう噂が、水道橋博士のHPで書かれてたりして（笑）。

山口　さらにオーちゃんまで観戦にくるという噂がある。

豪　もし、仮に王子が来たらですけど、要人だから警護が必要ですよね。そんなときは「新日本プロレス・セキュリティー」以外は考えられないですよ！

山口　ミスター高橋の会社ね（笑）。

豪　猪木さんのボディガードとしてヤクザ相手に身体を張ってきたドン荒川さんや藤原組長も特別参加してくれるはずですよ！

山口　図らずも、5・26に全盛期の昭和・新日本の蜃気楼が見え隠れしちゃうかもしれないわけね。「プロレスを頼むゾーッ」という雰囲気になってきたね（笑）。

チョロ　せっかくだからSWSの田中八郎（元）社長にも来てほしいですね。

山口　当然、前田日明は会場に来るよね。で、安生洋二はどうするのかっていう問題もあるし（笑）。田村が『KOK』ルールで出たりとか、空手ルールの試合があったりとか、確かに寄せ集め的なムードは高いんだけども、『コロシアム2000』からは何かが生まそうな感じがすごいするんだよね。

豪　逆に『PRIDE』は、すでに完成しつつあると思うんですよ。

山口　サクがホイスに勝てば、第一次、いや第二次『PRIDE』は完成したっていうことでしょ。

スモー　どすこ～い。でも、着々と『PRIDE』包囲網が出来上がってるでごわす。

山口　どすこいどすこい、うるさいよ、デブ。『コロシアム2000』に、パンクラスとリングスと『UFC—J』勢が図らずも揃ったからね。これこそナチュラル共謀ですよ（笑）。

豪　集まったのか囲んだのか、よくわからないですけどね（笑）。

山口　ガハハハハ！　誰が『PRIDE』を「囲め、囲め」って言ったのかわかんないけどね（笑）。それは『PRIDE』が頭一つ抜きん出てる「杭」であったっていう証拠じゃない？　各団体の意識下の中に『PRIDE』は当然「杭」としてあったからでしょう。

スモー　危機感があったんでごわすね。

山口　その遥か上空をUFOが飛んでるわけですよ（笑）。

豪　今後、『コロシアム2000』と『PRIDE』が全日と新日みたいになっていくような気がするんですよ。おそらく、これから交流戦が望まれたりしながらもなかなか実現しないとか。

山口　どっちが新日？

豪　一時期、『PRIDE』こそが真の新日だって言われてたじゃないですか。それが『コロシアム2000』のほうが新日になりそうな予感がするってとこが、面白いわけなんですけど。結局、僕らは新日に乗るわけですよ。

山口　概念としての新日ね。

豪　今まで『PRIDE』はいい意味での新日っぽかったから乗ってたけど、最近は新日性が徐々になくなってきてる。

山口　逆に『PRIDE』は、試合時間ばっか延びちゃって、全日っぽくなっちゃってるよね（笑）。

豪　ウマい！　『K-1』化してるかと思ったら『全日』化してたんですね。

山口　そう、『全日』化してた（笑）。

ガンツ　じゃあ、このグランプリはチャンピオンカーニバルなんですか？

山口　ガハハハハ！　7秒で負ける奴も出てくるかもしれないぞ。じゃあ『UFC—J』は『国際プロレス』かな。両方とも売りは金網だし（笑）。

座談会出席者プロフィール

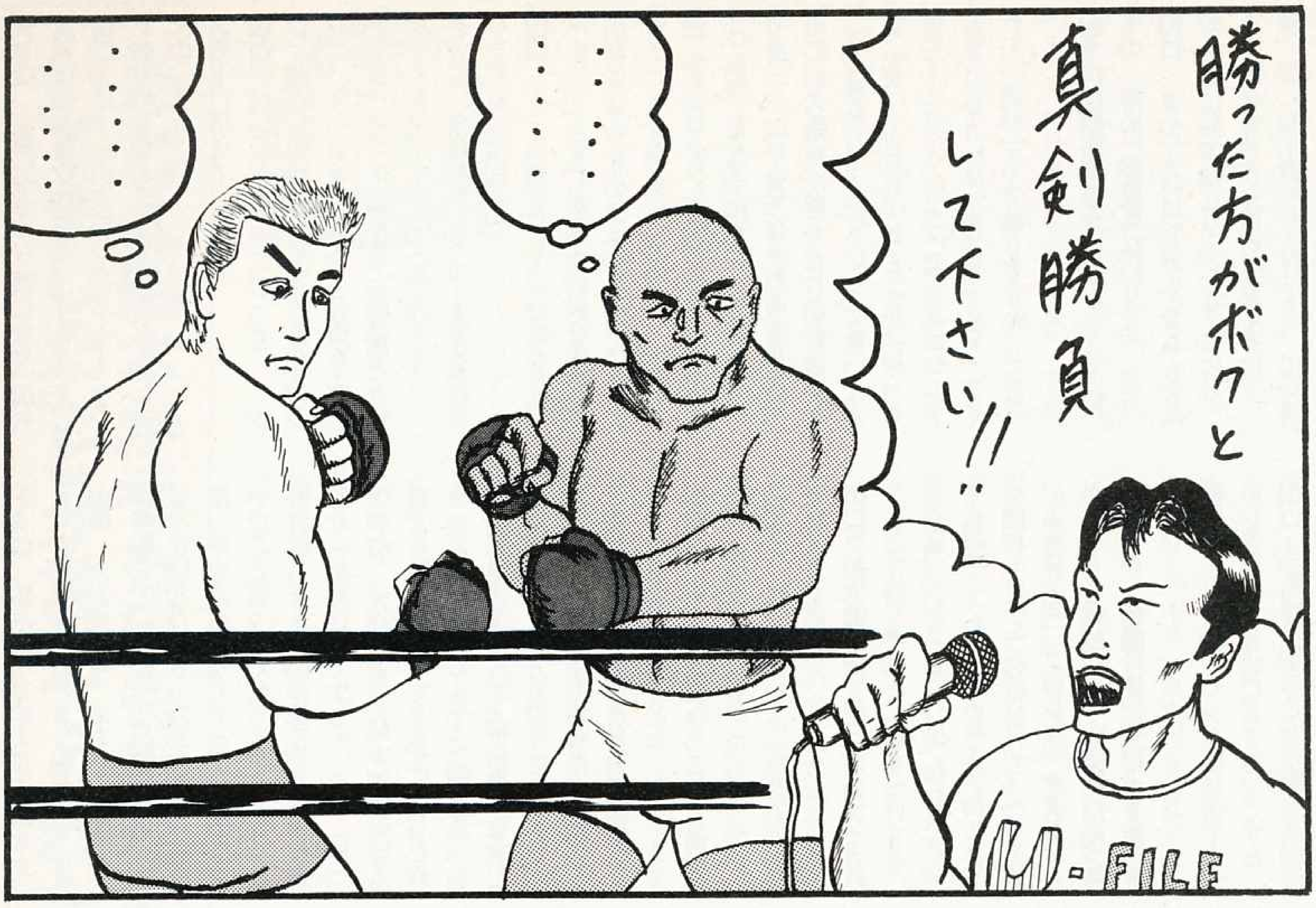
山口日昇■“犬殺し”でおなじみの本誌鬼畜編集長。最近は、「自分がホントに好きなのは椎名林檎か？aikoなのか？」で真剣に悩みまくり1週間も失踪した若造りの36歳。

吉田豪■“金髪鬼”こと本誌スーパーバイザー。最近は、1週間に3回も『ロフト・プラス1』に出演しながら、連載の締切に追われる超多忙な日々を送る。ガンツよりは絶対若いと言い張る29歳。

スモーノブ■「飲む、寝る、食う」しか能のない本誌デブ。最近、コンビニで買い物をしてたら、レジで「スモーノブさんですか？」と聞かれ赤面。ハゲ進行中の23歳。

松澤チョロ■読者ハガキを送ってきた女性（怜美ちゃん）にマジで恋する本誌エロ＆ヨゴレ担当。自分の弱火ギャグに、自分で爆笑する、お寒い28歳（結婚願望アリ）。

堀江ガンツ■若手陣の中ではいちばんプロレスファン歴が長い本誌大型新人。熱狂的吉田拓郎ファンで年齢詐称の疑いもある26歳。



ガンツ　ダハハハハ！　『コロシアム2000』はオールスター戦というか、お祭り的とか言われてますけど、そういう感じってあります？

山口　いや、全ッッッッ然！　むしろお祭りムードはないよね。パンクラス勢が主体っていうのもあるけど、暗く重いムードが覆ってた。でも、そこに前田日明が乗り込んで来たことによって、俄然、光を帯びてきたよね。

豪　異物が次々に入る予感がしますね。

山口　そこにUFOが着陸するのかどうかわからないけど、上空を飛んでるわけだし、何かあると思いたいね。

豪　襲撃三昧になりそうな予感がプンプンしてますよね。そこにヒクソンがいる限り、オーちゃんが絡んでくる可能性大ですからね。当然花束ぐらい渡したりとかするだろうし。今度は止められても聞かないだろうしね。ヒクソンの入場前に村上（一成）が襲ったりすれば文句なしですよ（笑）。

山口　それをやっちゃたら、すごいことになるよ（笑）。

豪　船木がマイク取って「小川ぁ～、なんで試合前にヒクソンを襲わせたぁ」なんて言ったりしたら（笑）。それで船木もヒーローになりますよね。

スモー　破壊王よりは、舞台慣れしてるから上手いはずでごわす（笑）。

豪　（無視して）ドキドキするよなぁ。

ガンツ　そんなドキドキの仕方でいいんですか？（笑）。

豪　ヒクソンの横に、なぜかブラックキャットが立ってたりしてさあ（笑）。

山口　ガハハハハ！　猪木さんが出てきて「1、2、3、ダァーッ！」をやっちゃったりするかもしれないし。「プロレスを頼むゾーッ！」って（笑）。

チョロ　猪木さんが「ダァーッ！」ってやった瞬間、引退試合と同じように花道の向こうにコロシアムの垂れ幕が降りてくるかもしれないですよ。『コロシアム2000』だけに（笑）。

山口　なんか、5・26は面白くなりそうじゃん。でも、もしこの妄想が全部当たらなかったらごめんね、読者の皆さん。そんなときは試合だけを純粋に見てね（笑）。

豪　何かひとつでも当たってればOKですよ。猪木さんが来ればそれでOKだし。そもそも前田日明が現場にいるだけで、ワクワクしますからね。

山口　前田日明とパンクラスが、同じ場に立っていうことをだけでも考えるだけでもワクワクするな。

豪　「控室をなるべく離してくれ」ってパンクラス側がゴネてるという噂もありますからね（笑）。

ガンツ　当日のバックステージが楽しみでしょうがないなあ。

豪　テレビでは伝わらない何かがあるだろうから、俺も絶対行くよ！

山口　で、ここからが肝心なんだけど、『コロシアム2000』は、リングス勢が投入されるまでは、そういう妄想さえもシャットアウトしちゃうような、なんというか高尚で厳格な雰囲気を醸し出そうとしてたでしょ。

豪　船木のヨガ特訓にしか幻想を持てないっていう、すごく狭～い世界でしたよね（笑）。

山口　でもさあ、妄想をシャットアウトしていく方向では、やっぱり大勢の人が来る場所には成り得ないわけでしょう。格闘技の人たちの中には「俺たちは真剣にやってるんだから、そんなバカなことは考えないでください。そんなこと考えるほうが間違ってる」ってよく言う人いるでしょ。でも、「妄想すらするな」って言って、人からお金を取ろうっていうのが、俺は間違ってると思う。格闘技だろうがなんだろうが、むしろ行く人は想像するためにお金を払ってるんだからさ。そういう雰囲気にファンは敏感だから、『コロシアム2000』はいまひとつ盛り上がらなかったのかもしれない。

豪　極真（緑健児派）の空手マッチがひとつ入ってもプロレスファンには届きにくいですからね。高田延彦vs緑健児を組むぐらいの刺激は欲しいですね。

山口　ガハハハハ！　それはコロシアム2000が六本木でやるとき用にとっておこう。だから、面白い試合を期待していったのに、「それは観客が勝手に想像したものでしょ」って言って、つまんない試合まで自己肯定はしてほしくないよね。プロの方々には。でも、そういう妄想ができるっていう意味で『コロシアム2000』はすごく面白いね。現実的に面白くなるかどうかっていうのはまだわからないけど、みんなの妄想が場を熱くすることってデカイからね。なんていうの、〝想念〟みたいなものが〝場〟に反映することって絶対あると思うな。逆に『PRIDE』は、ファンの妄想を駆り立てよう駆り立てようとシャカリキになってて、そればっかりが見えちゃうから沈滞ムードが出ちゃうのかもしれない。

豪　前田は船木vsヒクソン戦はどう見てんのかっていうのを考えるだけでも楽しいですよね。いまの日明兄さんの中では、「ヒクソンは友達」っていうことにもなるわけじゃないですか。

ガンツ　日本刀仲間ですからね。

豪　これで前田vsヒクソン対談も出来るわけでしょ。なぜか二人で延々と日本刀のことだけを語る、「武道通信」の巻頭対談になっちゃったりして（笑）。そんな「友達」のヒクソンと、船木は「後輩」でしょ。そのへんの感覚は微妙ですよね。

山口　それぞれの関係が綱渡りじゃん（笑）。試合とは別の意味で緊張感あるでしょ。「そんなことは売りにしたくありません」とか言う人もいるかもしれないけどね（笑）。でも、そういう人がいたら偽善者だよ。偽善者は興行やっちゃいけないし、ハッキリ言って。

チョロ （急にヤマケン調になり）田村潔司は偽善者なんや！　……じゃない。

山口 は？　いまもしかしてヤマケンが降りてきたの？　誰に向けてやってんの、それ？

スモー 弱火でごわす。

山口 ほっとこう、こいつら。しかし、前田日明がどんな場所で見るのかっていうのも気になるところだよね。アブタビ見てきた影響で貴賓席とか作りそうな気がするし（笑）。

チョロ 俺はラウンドガールが気になりますね（笑）。

山口 キミは勝手にしゃべってなさい、そこで。「はたして船木の試合の前に、田村はＵＷＦのテーマで出てくるのか？」とかね。

豪 もしヒクソンが勝てば日明兄さんが「断言します。田村がヒクソンとやります！」って言ってくれるだろうし、もし船木選手が勝ったら田村選手が「真剣勝負してください」って言いますよ（笑）。『ＰＲＩＤＥ』が「やっちゃってくれ！　サク」なら、『コロシアム２０００』は「次はやっちゃってくれ！　田村」って感じですね。

船木には期待するが その“本心”が見えない!!

山口 その『コロシアム２０００』のヘソは船木 vs ヒクソンなんだけど、その試合をみんなはどう見てるの？

豪 仮に船木選手が負けても、田村選手がＪ・ホーンに勝ったとしたら今後が本当に楽しみですよね。

山口 じゃあ、その試合に付随する部分で楽しむっていう感じ？

豪 そうですね。この次のドラマがどうなっていくのかを見ますよ。

山口 もし船木選手が負けたとしたら、ショックはないの？

チョロ 船木選手が手も足も出なかったら辛いですよね、さすがに。

山口 大丈夫だろ、手も足もあるんだから（笑）。『ジョニーは戦場へ行った』じゃないんだから、大丈夫だよ（笑）。

豪 手も足も出なくても、船木がまたいいこと言ってくれたらそれだけで絶対許せますよ。「全部見えてました」とか「風邪ひいてました」とか（笑）。

チョロ 大会名を「船木誠勝31才負けたら即引退スペシャル」にしたら、きっと盛り上がりますよね（笑）。船木は引退するっていう噂もありますし。そりゃあ、見る方も燃えますよね。

ガンツ 船木選手の場合は、前振りなしのマイクで、いきなり引退発表するかもしれないですけどね。

山口 でもさ、正直なところ、俺はヒクソンに勝ってほしいね。

スモー どすこ〜い！　なぜでごわすか!?

山口 船木選手はまだプロレスっていうものに対して落とし前をつけてないからね。「パンクラスはプロレスだ」って名乗ってたにせよね。プロレスと格闘技っていうのは分けちゃつまんないんだけど、「プロレス」を名乗りながらも、心情的には、完全に川向こうというか、格闘技側に立脚点を置いてたでしょ。

豪 船木自身は、パンクラス内ではプロレスラーらしいにしても、ですね。

山口 「前田日明のことは誰も格闘家なんて思ってないでしょうけどね」っていう安生選手の発言も、プロレスはプロレスと割り切って、格闘家というものに立脚点を置いたから出る発言だよね。ヤマケン祭り。でも、船木が今「プロレスに恩返しがしたい」って言ってるのが、本音かどうかっていうのがわかんない。本当にプロレスに対して恩返ししたいのかどうかが、見えないんだよ。パンクラスが「プロレス」と名乗ってるときも戦略的な感じがしたんだけど、それと同じだったら悲しいよねぇ。

豪 じゃあ、船木がプロレス色を取り戻すには、ビック・サカに柔道習ったりすればいいわけですか？（笑）。

山口 なぜだ（笑）。

ガンツ プロレスに戻らなくても、「これが船木の本心なんだな」っていう言葉が聞ければ、それでいいんじゃないですかね。

山口 そうなんだよ。でもね、今度こそ俺、船木選手はプロレスラーの根性、つまり「プロコン」を持って挑まないと勝てないような気がするなあ。だって、ヒクソンは地球の裏側から来たプロレスラーだからさ。暫定的に前々号で使った「プロコン」を持たないと勝てないと思うよ。相手がアッと驚くことやらないと勝てないでしょ。

ガンツ ア然とすることはやるんですけどね、突然金髪にしたりとか（笑）。

山口 おまえは、なんか悪意があるね（笑）。でも「ヒクソン戦が終わったら海に行きたい」とか、そういう発言を聞くと、どうも潮がサーッと引くように自分の気持ちが引いてっちゃうのを感じるんだよ（笑）。でも、船木選手はＵＷＦの頃も新日本の頃も期待してない人はいないっていうくらいみんな期待してたわけじゃない。なのに、なぜか自分で狭い方向にいっちゃったよね。それで船木自身の中で自己完結しちゃってたじゃん。だから「これで終わりじゃなくて、ここからが始まりだよ」というものを見せてほしいんだよね。結果的にやめようがどうしようがいいんだけど、『キッズリターン』調というか、デビュー10周年記念のビデオの中のグレートサスケ調というか（笑）。こっから始まりですよっていうのを見せてくれないとファンも乗りづらいと思うんだよな。

チョロ ホントにこの一戦で引退しちゃうんですかね？

山口 でもね、たとえ勝っても負けても、パッと引退したら、ただのプロボクサーみたいだよな。いや、ボクサーの人には失礼な言い方しちゃったけど、でも、プロレスってそんなもんじゃないでしょ。ボクシングはちゃんとしたシステムが出来てて、選手数も多いし誰が抜けたって安泰なシステムが出来



たとえ船木が手も足も出なくても「風邪ひいてました」とか言ってくれたら許す!!(豪)

てるから、いいんだよ。でも、総合のパイオニアであるUWF勢を含めたその人たちが、特にまだまだ若い船木選手が、基盤をつくるまでは頑張らなきゃしょうがないじゃん。というか、例え嘘でも「死ぬまで頑張る」っていう気が伝わらないとなかなかね。だって、まだ完成にはほど遠いんだから、総合は。

チョロ パイオニア戦志ですからね。ウヒャヒャ（ひとりでウケまくる）。

山口 だからお前は黙れっつってんだよ！ でもいざ当日になったら、気持ちをスッと切り替えて船木選手を応援するかもしれないけどね（笑）。でもさ、『コロシアム２０００』は妄想を追いに行って、『ＰＲＩＤＥ』は、現実を見に行くって気がするね。

スモー どすこ～い！ どういうことでごわすか？

山口 サクが勝っても負けても、現実を直視しに行く。それも思いきり緊張しつつも、どっかで楽しく直視できるような気がする。打倒グレイシーに王手をかけてる現実そのものが、もうファンタジーになってるもん。『コロシアム２０００』は逆に、膨らんだ妄想の中でどんなリアリティが立ち昇るかだね。興行や二次的なものも含めて。

「プロ」vs「賞金決闘屋」のプライドの激突!!

山口 もう一つ大きなテーマは『ＰＲＩＤＥ．ＧＰ』の決勝トーナメントで、ホイスが「判定なしの無制限ラウンド」を主張しだして、ホイスの試合だけ判定なしになったでしょ。これは新しい試みだよね（笑）。

豪 「トーナメントとは何か?」ってことを考えさせられますよね。

山口 ホイスの言う「無制限ルール」に対して、4月11日の記者会見では、桜庭は勝ったほうがファイトマネーを全額もらうというルールを要求したわけだよね（笑）。ホイスは「ナイス・アイディア！」と言って、ジッと桜庭を睨んでたらしいんだよ。ホイスは受けないだろうけど、このやりとりは、ナチュラル・アングルというか、いい意味で非常にプロレス的だよね。いままでの格闘技の大会の概念ではありえないことだよ。その要求を通したというのは、グレイシー一族は本当に「プロレスラー」だっていうのを証明してるようなもんでしょ。ホイスが主張した「無制限＆判定決着なしという決着のつけ方こそが『最強』を決めるのに相応しいルールである」という主張は、問題提起としては面白いんだけど、相手がミスをするまで何がなんでも待つという戦法から考えてみれば、これはグレイシーが有利なルールなんだよ。

豪 「誘いながら待つ！」ってやつですよね。

山口 誰かが「誘いながら待つ」ことこそ「色気」であるって定義してたね。ターザンは。あれ、なんだっけ？

豪 何言ってるんですか！ 小さい版型の頃の『紙プロ』本誌ですよ！（笑）。

山口 そっか（笑）。いや、まだあの頃のターザンには色気があったね。

豪 当時は定義する元気もありましたよね（笑）。

山口 いまや臭気しかないけど（笑）。で、ホイスは今度も道衣を着てよくて、グレイシー・ルールをゴリ押ししたわけでしょ。「飲まなきゃ出ない」って。そのわがままぶりは、逆に色気に繋がってきてる部分もあると思うね。

豪 猪木さんが異種格闘技戦の最中にグローブ外すようなもんですよ（笑）。

山口 ガハハハ。そこまでわがままを通せるのはたいしたもんだと思うし、その要求を呑んじゃう『ＰＲＩＤＥ』って一体何なんだよっていう問題もあるし。でもさ、そのルールこそが「決闘」だとか「真の闘い」だとか言われてるけど、実際に路上で喧嘩になったら、むしろ時間には制限があるでしょ。

豪 警察が来るまでにケリを付けなきゃいけないだろうし。

山口 路上で誘いながら相手のスキを待つなんて出来るわけないんだからさ。ヨーイ、ドンで始まる喧嘩なんてあんまりないでしょ。あの前田日明だって後ろから殴られれば一発で倒されるし、すぐ仲間が来て囲まれちゃったでしょ（笑）。俺、あの事件をきっかけに「ＫＯＫ」ルールに自信を持ったと思うんだよ、日明兄さん（笑）。これは完全に俺の妄想だけど。

豪 「時間無制限が最良だ」っていうのも、しょせん幻想ですからね。グレイシーの逃げ場がそこだっただけで。

山口 グレイシーの言うルールは、厳流島に闘う2人を放りこんで、出てきたほうが勝ちっていう感じで、〝決闘ムード〟を出すにはもってこいなんだよね。だけど、島で2人っきりで闘うということが、すでにあらかじめ設定してある「ルール」でしょ。だから、「真の闘い」とは言っても、自分たちの有利な方へ〝決闘ムード〟を利用して導いてる部分はあると思う。だからサクvsホイスは、「プロ」のプライドvs「賞金決闘屋」のプライドのぶつかり合いだと思うね。俺は、それこそ「お互いのプライドがルール」というアントンルールで闘える人のほうに凄みをと怖さを感じるなぁ。

豪 やっぱり、それが原点ですからね。

山口 だからサクが、グレイシーの要求を飲んだのは凄いことですよ。これでサクがホイスに勝っちゃったら、グレイシーは、サクが要求したルールでリベンジしてくるのかな?

豪 「ギャラはいらないからサクラバとやらせろ！」って、イズマイウみたいなことを言い出してくれれば面白いですけどねえ（笑）。でも、いまの調子だと、負けたらゴネていなくなるだけのような気がしてならないですね。

山口 『ＰＲＩＤＥ』は、この先、グレイシーを失ったらどうするんだろうっていうのが、ここにきて問題になってきたよね。

豪 とりあえず『ＰＲＩＤＥ』幻想よりグレイシー幻想の方が強いから、今回は桜庭vsホイスの決着をつけてくれっていう流れなんじゃないですかね。つまりトーナメントの決勝戦よりも、桜庭vsホイスの決着戦が見たいっていうだけで。

山口 一般層を取り込むために「世界最強を決めるトーナメント」という手法は、「橋本真也34歳小川直也に負けたら即引退スペシャル」という打ち出しと何ら変わりはないということだよね。今回のトーナメントには、「世界最強の男は誰だ?」っていうコピーがついてたけど。

豪 「強い外人たちが集まって闘うんですよ」っていう、わかりやす～い打ち出しが必要なんでしょうね。

山口 でも、そもそも『ＰＲＩＤＥ』っていうのは、花くま(ゆうさく)さんの言葉を借りれば「共通のタイマン場」だよ。「最強は誰か?」を決めてくれる純粋な場として盛り上がってる部分もあるけど、俺はそんなこと1ミリたりとも期待してないから（笑）。『ＰＲＩＤＥ』に出てくる個人を追っていったほうが面白い。あれだけ、おもしろい人材が揃ってるんだから。

豪 最近は「テーマはなくていいから大物同士をぶつけていこう」みたいなマッチメークになりつつあるでしょ。

山口 オーちゃんは、『ＰＲＩＤＥ』に限らず、「トーナメントなんかやりだしたら終わりだよ」っていうような言い方をしてたけどね。俺もトーナメントっていうこと自体、元々あんまり好きじゃないんだよね。1日に何試合もやったりするのは。

豪 「最強は誰か?」を見たいんじゃなくて、「誰と誰が闘ったらどっちが強いのか?」を見たいんですよね。主催者はそれを誤解してるような気がするなあ。

山口 究極的には〝ヒト〟を見てれば、対戦相手は誰でもいいんだよね。俺、

究極的には"ヒト"を見てれば、その相手は誰でもいいんだよ（山口）

サクの試合は、相手は誰でもいいもん。サクが何をやってくれるかが見たいんだからね。

スモー どすこ〜い！ ワシも太刀光関がバーリ・トゥードでリベンジするまで、タチ関を追うでごわす。

リングスの"世界制覇"は、KOKならぬPKOから始まる!!

山口 それから、グレイシーの「決闘ムード」とは対極に見られがちな『KOK』は、ルールを決める人が「This is JAPANESE STYLE」な人だし、「いつなんどき、誰の挑戦でも受ける」っていう人だから、こっちはこっちでどう転がっていくのかわからない（笑）。今度のリングスの4・20の大会のコピーが「世界制覇」でしょ。あれは誰が世界制覇するかっていうんじゃなくって、「リングスが世界制覇」するか、もしくは「前田日明がデザインしていくものが世界を制覇する」ってことだよね（笑）。

豪 『東スポ』の何十周年かでいろんな団体が祝福のコメントを寄せてる中でも、リングスだけは「世界制覇」でしたから（笑）。言葉は悪いけど、すごい思い上がりが感じられて（笑）。そんな日明兄さんが素敵なんですけどね。そど、これもこの広告風に言い方を換えれば海外派兵だよね（笑）。

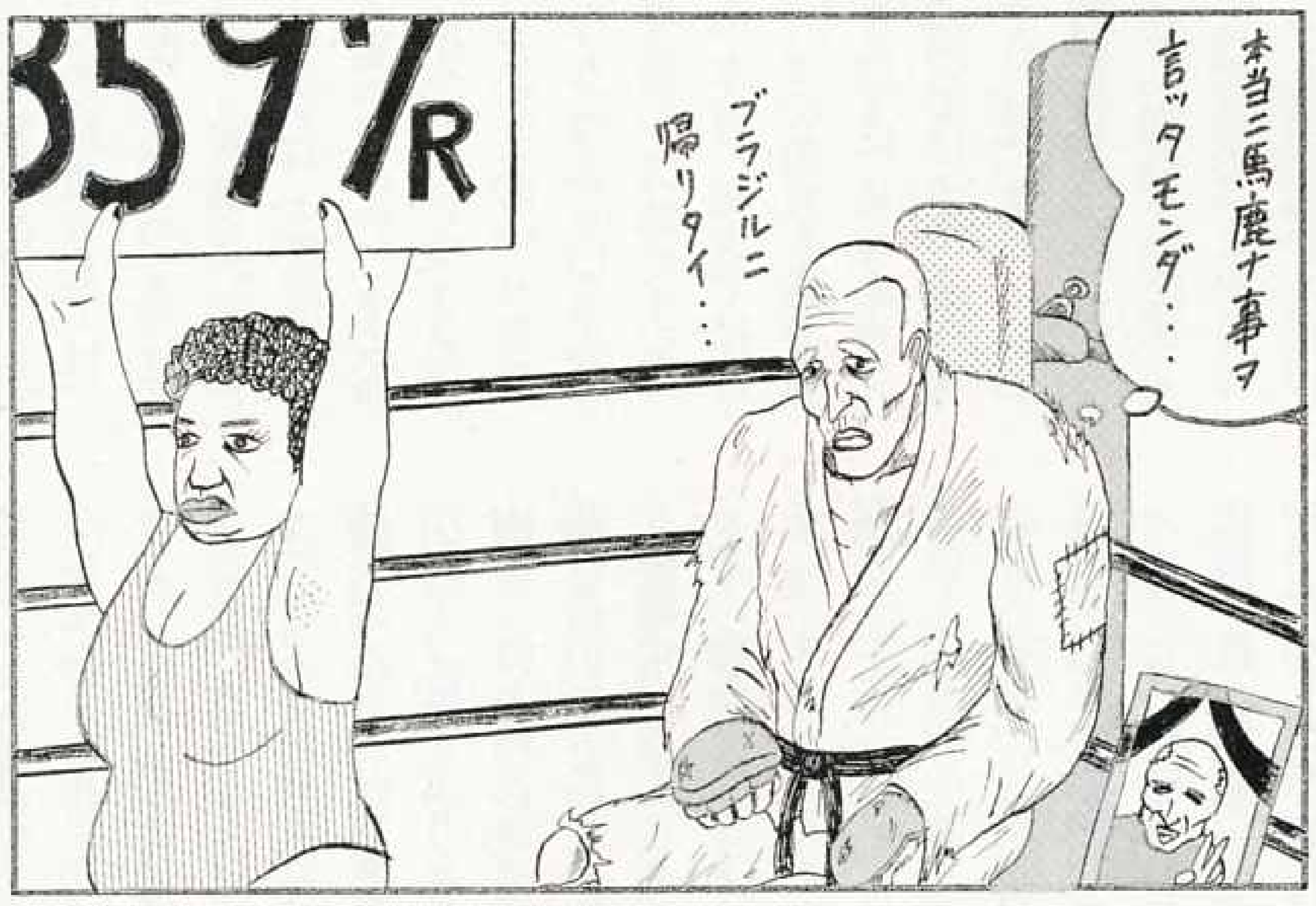
山口 そのうち入門テストも徴兵制になったりして（笑）。

ガンツ そういえば、ヤマヨシ（山本宜久）はアメリカとオランダの試合に出るんですけど、その間がたったの2週間しかないらしいんですよ。

山口 でもね、そこで「おもしれぇじゃねえか」って思える選手じゃないと、これからは生き残っていけない時代なんだよ。（ギルバート・）アイブルとか（リカルド・）フィエートとか凄い短い間隔で試合してるもんね。

ガンツ しかもヤマヨシは、3試合とも全部ルールが違うんですよ。これは応援したいですね。しかもオファーが来たときに考えないでOKしたらしいですから（笑）。

豪 海外の危なっかしい試合に出たっていうだけでも十分凄いことですよ。この海外派兵システムはいいですね。海外ならヤマヨシと（セーム・）シュルトも、とりあえず試合が出来るわけですよね。だから、これからは『KOK』ならぬ、『PKO』ですよ！ 新間寿調に言うと「パンパン、コイコイ、オマ○チョ野郎！」ですけどね（笑）。



山口 ガハハハハ！ 懐かしいね。「女性記者の皆さん、耳を塞いでください」（笑）。

豪 もう、リングスはいっそ日本で興行しなくていいんじゃないですか？

ガンツ 今年は海外でリングスの名前が上がるんじゃないですかね。

豪 リングスブラジル設立構想もあるし、リングスUSAも出来るからね。

山口 リングスは転がってるよねぇ。

スモー じゃあ、パンクラスはどうなるでごわすかね？

山口 まあ、パンクラスやリングスがどうなろうと知ったこっちゃないんだけどね（笑）。結局、俺は個人にしか興味がないから。

豪 そんなことより自分たちがどうなるかを考えたほうがいいですよ（笑）。

山口 でも、こっちがドボンにならないためには、面白くしてもらわなきゃ困るでしょ（笑）。面白くしてもらうためには、「ウチらがちゃんと言うべきことは言っていかないとね」という思い上がりのもとにやっていくしかないんだよ。これが面白いと思ったら、それに自惚れてやっていくわけさ。「その根拠は？」って言われても、「根拠なんかねえんです！」って言うしかない（笑）。「俺が面白いと思ったものは面白い」（笑）。

豪 ターザンみたいな体質ですね。

山口 ゲ！ やめてよ!!

豪 でも、矛盾してて当たり前なんですよ。

山口 だから例えば、オーちゃんやサクや田村なんかは、どこに行っても見続けるだろうし、前田日明が新しい団体つくったらそっちも見に行くだろうしね（笑）。そういった魅力ある選手が活躍できる"場"は注目するし、なくなってもらっちゃ困るよね。とにかく『PRIDE』は、時間がどれだけかかろうが何だろうが、サクvsホイスを見にいきましょう！「やっちゃってくれ、サク！」これに尽きるね。

豪 それで十分ですよ！

山口 『コロシアム2000』は裏舞台の緊張感を含めて、どういうお祭りになるのか、どういう"場"になるのか、それを確かめに行こう！

チョロ 『UFC-J』に言いたいのは、代表取締役は坂井ノブじゃありません！

山口 そんな失礼な手紙来てるの？

豪 嫌がらせですよ、会長（山口日昇）に対しての。

山口 おい、デブ！ 頑張れよな（笑）。おまえ、代表取締役だってさ。紙のプロレスを頼むゾーッ!!

スモー どすこ〜い！ 代表取締役はチャンコいっぱい食えるでごわすか！

山口 お前は、破壊王と一緒に断食でもしてろ！

【00年4月11日、ダブルクロスにて収録】

■4・7座談会はP42〜スタート!!

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間 月～土 AM11:00～PM7:00 日祝祭 AM10:00～PM6:00
年中無休

GWはプロレスビデオでGO!

全日 新日 パンクラス ガイア アルシオン 新作続々登場!

ジャンボ鶴田伝説 Vol.3 最強の章

4/21発売 137分5,040円



ジャンボ鶴田伝説の最後を飾るのがこの3巻目の「最強の章」。この「最強の章」ではファンが待ち望んだ日本人対決、長州戦と天龍戦が収録されています。長州戦は唯一のシングル対決となった1985年 11/4大阪城ホールでの一戦。短期決戦を挑む長州に対し、じっくり腰を据えて冷静なファイトに徹した、鶴田のクレバーな一面が光った好勝負。それも60分時間切れ引き分けを収録。試合直前の鶴田と長州のインタビューも必見!(長州が試合前のこの状況でインタビューに答えているのは超珍しい!ちなみにインタビューしてうるのは若林アナ)天龍戦は1989年に行われた3冠戦。天龍を失神させ、完璧な防衛戦を飾ったのがこの試合。天龍はこのダメージによりシリーズを欠場に追い込まれた。鶴田のパワーの凄まじさを物語る。この2試合だけでも凄いのに各試合までの流れが収録。長州戦の場合は昭和59年12/8ジャパンプロレス軍の乱入、60年2/5鶴龍vs長州＆マサ、4/23NWA戦フレアーvs長州、6/2長州＆谷津＆浜口vs鶴田＆天龍＆大熊、6/21日本武道館天龍vs長州を短時間ですが貴重映像収録。天龍戦では、昭和62年6/11鶴田＆タイガーvs龍原、63年3/9＆3/27&7/27UN&PWF天龍vs原、3/27鶴田vsブロディー、10/28鶴田vs天龍、平成元年3/9ハンセンvs天龍、4/4鶴田＆谷津vs天龍＆ハンセン、4/18鶴田vsハンセンをこちらも短いが収録。(ハンセン失神の龍原vsハンセン＆ゴディもほんの少し入ってます。)

発売中 Vol.2 天才の章 ¥5,040



今回は約3年に渡って行われた、「ジャンボ鶴田・試練の十番勝負」を取り上げる。1976年、鶴田のアマレス時代の恩師であった故・八田一郎氏を選考委員長に「今こそ鶴田を馬場の後継者として世界に通用するスーパースターに成長させよう」というテーマのもと、ファン投票によって世界トップクラスのレスラーが一対戦相手に選出された。そしてその中から15人が候補選手となり最終的に10人が決定した。テリー・ファンク、ハリー・レイス等、当時の世界王者レベルの相手と戦い、鶴田は4戦2敗4分の成績を残し、その将来性を大いにアピールした。

収録内容 ※Nはノーカット

試練の十番勝負 ●vsラッシャー木村(1976.3.28※N)●vsテリー・ファンク(1976.6.11)●vsビル・ロビンソン(1976.7.17)●vsアブドーラ・ザ・ブッチャー(1976.10.22※N)●vsクリス・テーラー(1976.12.3)●vsハーリー・レイス(1976.12.3※N)●フリッツ・フォン・エリック(1979.1.15※N)

発売中 Vol.1 怪物の章 ¥5,040



1999.3.6.武道館にて引退セレモニーを行い、アメリカに旅立った希代の天才レスラー"ジャンボ鶴田"の軌跡を振り返る。天才・怪物と称され、日本マット最強とまで言われた鶴田。全日のシングル三冠を統一。谷津とのコンビでタッグ二冠を統一等、その偉大なる足跡を検証。若き日の鶴田や全盛期の鶴田の勇姿も感動ものだがファンクスやロードウォーリアーズも必見!

収録内容●1973.10.9. 蔵前 インターナショナルタッグ選手権 ザ・ファンクスvs馬場・鶴田組●1976.5.1 日大講堂 チャンピオンカーニバル公式戦 馬場vs鶴田●1988.6.10.武道館 PWF世界タッグ&インターナショナルタッグ選手権 ザ・ウォーリアーズvs鶴田＆谷津

プライドグランプリ2000開幕戦



120分9.970円

1/30東京ドーム。プライドの最強トーナメント、プライドグランプリ2000!今回は全試合日本人vs外国勢!佐竹vsコールマン、エンセン井上vsケアー、藤田vsナイマン、高田vsホイス、小路vsブラガ、アレクサンダー大塚vsボブチャンチン、大刀光vsグッドリッジ、桜庭vsメッツァーと凄いカード!ビデオでもう一度高度な技術の攻防を見て下さい!

フラッシュバックオブGAEA JAPAN VOL.11

4/下旬発売 140分8,000円



人気のガイア・ジャパンベストバウトシリーズ第11弾!今回は1999年9/22～12/27後楽園を収録。飛鳥へのリベンジを果たし、全権奪回に成功した長与千種。全権を失い猛武闘賊に裏切られたライオネス飛鳥、全権闘争終結、SSU崩壊…時流はクラッシュ再結成へと大きく傾き始めたかに見えたが、その影で新たな勢力が動き始めた。その名はチーム・ノストラダムス。勝利のためには一切の手段を問わぬ世紀末集団の前に、GAEAマットが鮮血で染められていった。しかし、12/27後楽園、ノストラダムスの暴挙で無法地帯と化したリングについに伝説の拳が甦った。

収録試合 1999年9/22 後楽園広田vsアジャ、長与＆KAORU＆山田＆里村vs飛鳥＆下田＆三田＆加藤、10/11京都 里村vs加藤、10/23後楽園 里村vs竹内、長与＆山田vs北斗＆尾崎、11/23 6vs6手錠マッチ長与＆KAORU＆山田＆里村＆植松＆広田vs北斗＆アジャ＆尾崎＆シュガー＆永島＆中山、12/5新潟 山田＆里村＆植松vs尾崎＆シュガー＆中山、12/12IMP 飛鳥＆加藤vsアジャ＆永島、12/27後楽園 長与＆里村vs飛鳥＆加藤

新日本一触即発ザ・ケンカファイト

4/25発売 150分7,140円



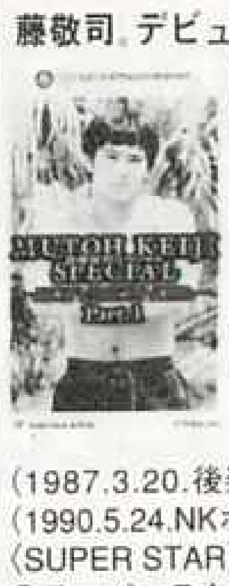
'95&'96年に行われた新日本vsUWFインターの対抗戦を収録。注目は永田や大谷や現・カシンの石沢や金本と現・全日の垣原やUFCジャパン王者・山本や現・リングス金原、そして日本格闘技界の救世主・桜庭の試合。

収録試合 '95年9/23長州＆永田vs安生＆中野、10/9永田＆石沢vs桜庭＆金原、長州vs安生、健介vs垣原、'96年1/4永田＆大谷＆石沢vs金原＆桜庭＆山本、長州vs垣原、2/3永田＆大谷＆石沢&高岩vs金原＆桜庭＆垣原＆山本、2/4飯塚＆永田＆金本＆キャットvs金原＆桜庭＆垣原＆山本、6/17大谷vs桜庭

武藤敬司スペシャル PART.1 PART.2

各約120分￥10,200

時代を変えるために、そして、時代に頂点に立つために生まれてきた男、武藤敬司。デビューから16年、今、武藤敬司が"武藤ワールド"を熱く語る!



PART.1 1985年のYL杯での蝶野戦から1999年天龍戦までのベストバウト集!

〈ヤングブラッド〉昭和59年4月に新日に入門。わずか半年での練習期間でデビュー、さらにその半年後にはムーンサルト・プレスを初披露。非凡なる才能をまざまざと観衆に見せつけた。新日の激動の時代を圧倒的なスピードで駆け抜ける若き日の武藤敬司を見よ!

収録内容 ●vs蝶野(1985.3.15.鹿児島)●WHITH NINJAvsデニス・ブラウン(1986.2.14.フロリダ)●武藤＆木村vs猪木＆ケリー・F.エリック(1986.11.3.後楽園)●武藤＆越中vs前田＆高田(1987.3.20.後楽園)●武藤＆猪木vs長州＆藤波(1987.8.20.両国)●vs長州(1990.5.24.NKホール)●vsスコット・ノートン(1991.4.30.両国)

〈SUPER STAR〉ゴージャスな華やかさを放つ唯一無二のレスラー、武藤。世界のスーパースターと対峙しても臆するどころか己の光で包みこんでしまう。そのオーラは誰も真似出来ない。

収録内容●vsオーエン・ハート(1990.7.5.釜石市)●武藤＆蝶野vsザ・ロード・ウォーリアーズ(1990.7.20.月寒)●武藤＆馳vsベイダー＆ビガロ(1992.3.1.横浜)●vsフレアー(1995.8.13.両国)●武藤＆スティングvsザ・ロードウォーリアーズ(1996.7.16.札幌)

〈リアルチャンピオン〉IWGPヘビー級を3度、IWGPタッグを5度、IWGP王者としてG1完全制覇を成し遂げた。武藤にとってチャンピオンとは?

収録内容●武藤＆蝶野vs橋本＆マサ斎藤(1990.4.27.NK)●武藤＆馳vsノートン＆R.スタイナー(1991.11.5.武道館)●vs橋本(19905.5.3.福岡)●vs佐々木(1999.2.14.武道館)●vs天龍(1999.5.3.福岡)



PART.2 1986年の藤波戦から1999年のG1決勝の中西戦までのベストバウト集!

〈MOMENTS〉観衆の目前で武藤の全身からまばゆい光りが放たれる瞬間、そしてリング上で忽然と躍動感が出現する瞬間、そして華やかな勝利の瞬間。武藤が持つ武藤だけの瞬間。

収録内容●vs藤波(1986.10.13.後楽園)●武藤＆橋本＆蝶野vs藤波＆木村＆越中(1988.7.29.有明)●vs藤波(1991.8.10.両国)●vs長州(1994.8.5.両国)

〈ナチュラル・ボーン・マスター〉非凡なプロレステクニックは日々の積み重ねによって得られたもの。人は武藤を"天才"と呼ぶ。しかし、武藤自身は"天才"と呼ばれることを拒否。"ナチュラル・ボーン・マスター"には努力、血と汗が隠されていた。

収録内容●vs蝶野(1990.6.12.福岡)●vs馳(1990.10.25.前橋)●vsビガロ(1990.12.11.名古屋)●vsアームストロング(1993.7.14.札幌)●vs佐々木(1995.6.12.大阪)●vs山崎(1998.2.15.武道館)

〈ファイナリスト〉大事な局面で、いつもメイン・イベンターとして赤コーナーに立っている武藤。激動のプロレス界で真のメイン・イベンターは数少ない。新日の、日本のプロレス界の看板を背負って闘いつづけなければならない。決戦の最終局面に"ファイナリスト武藤"は"今、なにを考える

収録内容●vs橋本(1995.8.15.両国)●高田(1995.10.9.東京ドーム)●vsフライ(1999.4.10.東京ドーム)●中西(1999.8.15.両国)

全日本2000エキサイトシリーズ ベイダーvs小橋＆三沢vs秋山

153分5,040円



小橋＆秋山が全日本プロレスの新時代の扉をこじ開けた記念すべき試合を永久保存版にしよう!小橋にとって四度目のベイダー戦はベイダー戦初勝利だけでなく小橋のワールドとなった試合。そして、三沢vs秋山は今年のベストマッチ有力候補と断言できる試合。この2試合に全日本の新しい時代を見よ!他にも2/12後楽園ホールの世界タッグ挑戦者決定戦大森＆高山vsベイダー＆ウイリアムス、2/17札幌・北海道立総合体育センターの小橋vsウイリアムス、川田vsベイダー、2/20神戸ワールド記念ホールの世界タッグ戦小橋＆秋山vsベイダー＆ウイリアムスまでも収録。このビデオは買いです!

橋本真也vs小川直也 THE死闘

4/26発売 123分10,200円



この4/7新日本ドーム大会では橋本が引退を賭けて小川と激突!20世紀最大の遺恨抗争、男と男のプライドを賭けた、世紀の死闘をプレイバック!全試合完全ノーカット!ビデオ初収録を含むインタビュー満載!

収録試合 1997年4/12東京ドーム 小川デビュー戦 橋本vs小川、同年5/3大阪ドームIWGP戦橋本vs小川、1999年1/4新日本vsUFO橋本vs小川、同年NWA戦小川vs橋本、2000年1/4遺恨決着タッグ橋本＆飯塚vs小川＆村上

NBM V スペシャル4 4/23発売

前田日明vs武藤敬司 90分5,040円



人気の武藤対談シリーズ第4弾!プロレス界、格闘技界大注目の顔合わせが実現!リングス代表、前田日明と武藤敬司の魂が大激突!そして1月に引退した山崎一夫も加わり大混乱に…。前田vs武藤対談では「強さとは」「強さの根源」「大和魂」「男らしさとは」「ケンカ」「WWF、WCW」「プライド」「アントニオ猪木」等がテーマ。山崎を加えた対談では「3人の出会い」「引退」「ケガ」「UWF」「夢」等がテーマ。他にもビデオ初収録試合'99年4/27武藤＆天山＆小島＆ヒロvs藤波＆山崎＆飯塚＆永田、'99年3/24武藤＆ヒロvs山崎＆ライガー、'97年9/12ムタ＆天山＆ヒロvs健介＆山崎＆平田、'97年11/24飯塚vs藤田

アルシオン STARLET2000

5/7発売 120分6,980円



2000年3/15後楽園＆4/7川崎市体育館。2/18後楽園で正規軍、ReDRUG、VIPの3派に分かれた激震のアルシオン。アルシオンマットの主導権争いは激化!軍団抗争はツインスターのベルト争いへとなっていく。2周年大会のメインでタイトルを獲得したアジャ＆吉田にReRDUGの初代ツインスター王者でもある玉田＆矢樹の挑戦が決定。3/15後楽園大会ではツインスターの挑戦の他にもReDRUGvsCAZAIの頂上決戦二上vs奥津、ReDRUGの新人高瀬のデビュー戦とReDRUG一色の大会。他にもASARIのスカイ王座の防衛戦、VIPのJの日本再登場、VIPvs浜田＆メキシコ軍と見所沢山!4/7川崎大会では3/15で防衛したアジャ＆吉田に今度はVIPがツインスター挑戦。何と下田＆大向がタイトル奪取、VIPvsReDRUGでもVIPが勝利。これからのアルシオンマットはVIPが仕切るのか?もう一つこの大会の見所は浜田親子vsアパッチェ親子の親子ミックスドタッグマッチ。親子ならではの試合をじっくり見て下さい!アルシオンマットの重要なターニングポイントのこの2大会をじっくりビデオで見て下さい!

収録試合

●アジャ＆吉田vs玉田＆矢樹●府川＆下田＆三田vs浜田＆ファビー＆リンダ●奥津vsGAMI●ASARIvsマリー●バイオニック・JvsAKINO●藤田vs高瀬(3/15後楽園)●アジャ＆吉田vs下田＆大向●グラン浜田＆浜田文子vsアパッチェ＆マリー●三田＆府川＆JvsGAMI＆玉田＆矢樹●奥津＆リンダvsASARI&藤田●AKINOvs高瀬(4/7川崎市体育館)

STARDOM 2000 ～創立2周年記念日～

120分6,930円



2000年1/30ZeppTOKYO&2/18後楽園ホール。二上＆玉田の造反、ラスカチョとナテュラルツインビーの急接近と波乱の幕開けとなった2000年のアルシオン。今回は節目となるZepp大会と2周年の後楽園ホール大会を全試合収録でビデオ化!その波乱のアルシオンの中でまたも名勝負誕生!2/18ホールの2周年記念興行で行われたツインスターオブアルシオンタイトルマッチ、浜田＆AKINOvsアジャ＆吉田。1/7後楽園でアジャ越えを宣言した浜田文子が果たしてタッグとはいえアジャとどのような試合をするかがポイント!勿論、AKINOvs吉田、AKINOvsアジャ、浜田vs吉田とどれをとっても現在のアルシオンで最高のものが見れます!セミの大向＆下田vs府川＆三田では激闘の末、何といがみ合っていた4人が緊急合体!ファンも信じられないユニットが実現。他にもタッグ屋としての技術を見せたツインスタータイトルマッチの二上＆玉田、復活を果たした奥津のタイトル戦、矢樹の裏切り、リンダのミステリオラナの妙技、マリー＆ファビーのタッグ復活、高瀬のエキジビションマッチ、3軍団入り乱れての大乱闘と見所満載!

収録内容

●藤田 vs ファビー●吉田 vs リンダ・スター●大向&三田vs府川＆下田●浜田＆二上vsAKINO＆玉田●アジャvs キャンディー(2000.1/30.ZEPP TOKYO)●二上vs 高瀬●マリー＆ファビーvs藤田＆リンダ・スター●キャンディー＆矢樹vsGAMI＆玉田●大向＆下田vs府川＆三田●浜田＆AKINOvsアジャ＆吉田(2000.2/18.後楽園)

コンプリート アルシオン Vol.4



～ラスカチョ台風から2000年幕開けまで～ 120分6,930円

'99年8/6～'00年1/7日本津々浦々。女子プロNO.1ビデオシリーズ「コンプリート アルシオン」のVOL.4が登場!今回も、トーナメントZION、下田、大向のクィーンオブアルシオンタイトル挑戦、スカイリーグ戦、タッグリーグ戦、カーニバルアルシオン'99とあげたらきりがない!(沢山試合も入ってます。)今回のナビにはプロフェッサー府川を起用。(前回は藤田。)「アルシオン講座」でしっかり勉強しましょう!試合以外のお楽しみ映像は、府川のドライビングテクニックが白日の下にさらされる「府川でGO」、府川宅をAKINO&藤田が襲う「ガサイレ」とファンにはたまらない。今回も内容ぎっしりです。

FMWマグニチュード2000

～激震!ECWジャパン出現!～ 150分￥9,500



1999.12/11・12&2000.1/5.後楽園。Hと雁之助の"親友タッグ"が好調発進!最高の形で1900年代を締めくくったFMW。しかし、2000年.1/5の後楽園は信じられない光景に会場中が大パニック!冬木追放、H・雁之助がいきなりタッグ王者に。金村、大日本と開戦。冬木＆京子ECWジャパンで逆上陸!などなど!控室インタビュー、記者会見などTV未放映のオリジナル映像を収録!

収録内容 ●中山vs元川●中川＆邪道＆外道vsリッキー＆市川＆向井with若菜●金村vsラットゥン●田中vsマホーニー●H＆雁之助vs黒田＆大矢with谷本(1999.12/11後楽園)●ウィリー高山vs山崎●リッキーvs市原with若菜●金村＆中川＆邪道＆外道vsマホーニー＆ラットゥン&TAJIRI&クレイジー●H＆雁之助vs田中vs黒田(1999.12/12後楽園)●ウィリーvsバスカ●中山vs元気●保坂＆佐々木＆山崎vs中川＆邪道＆外道●金村vs市原with草凪●H＆雁之助＆大矢＆リッキーvs冬木＆ビットブル1号＆マホーニー＆京子(ECW JAPAN) 他

新日本魂 2

4/23発売 120分9,870円



「新日本プロレスの根底に流れる魂を感じよ!」と副題であるように今回は何と「新日本社長の藤波vs武藤の対談」や「蝶野の心中告白」、「永田の道場インタビュー」を収録。試合も勿論盛り沢山!注目はヤングライオン＆アグアヨ引退ツアーの試合!

収録試合 '99年11/21永田vs小原、同年12/23大谷vs柴田、高岩vs棚橋、金本vs井上、2000年2/16越中＆鈴木vs安田＆福田、同年3/5健介＆飯塚＆中西＆永田vs蝶野＆小島＆後藤＆小原、アグアヨ＆アグアヨJr＆ライガーvs浜田＆サムライ＆カサス 他

●営業時間変更のお知らせ 日曜日＆祝日の営業時間も平日と同じくAM11:00～PM7:00とさせて頂きます。●

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本につき￥500、2本以上サービス、グッズは表示に送料が含まれています。

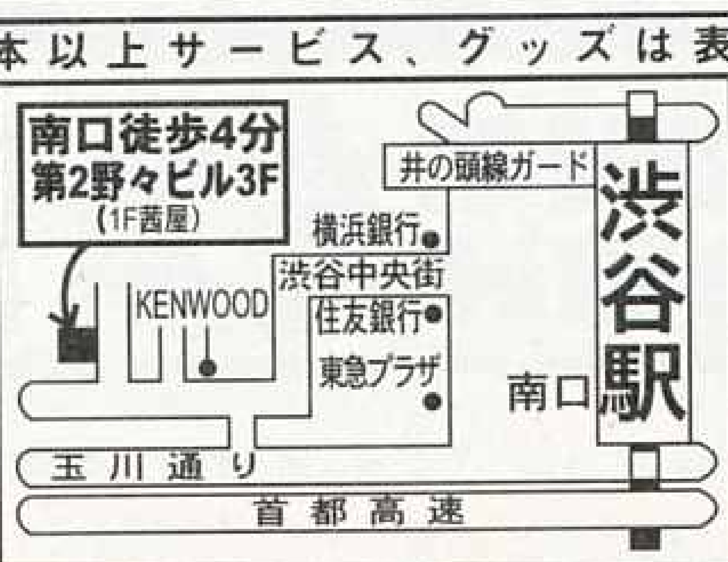
1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる!(店頭・通販共)

【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。ビデオ送料は1タイトルにつき500円、2タイトル以上はサービスです。

●郵便振込口座番号 00180-8-65236 レッスル通販

レッスル渋谷店
通販部 03-3464-1780 TEL 03-3464-0078
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル

レッスル池袋店 通販部 03-39877817 TEL 03-3989-0056
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306





★最新グッズ情報満載レッスルレターをご希望の方は80円切手をお送りください。

ハミダシ情報!! ●闘魂V特集フェアー開催中!! ～5/21(日)まで! 詳細タイトルなどはお気軽にお問い合わせ下さい。

快挙！ ビートたけしのご子息"あっちゃん"がブラジル人柔術家から見事一本勝ち!!……でもその後、何本もとられちゃいましたとさ。

No.26 Main-Event

紙のプロレス RADICAL

2000
No.26
CONTENTS



Art Director
出田さん●San Ideta

Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
村松さん●San Muramatsu
セッキー●Sekky
グッチー●Gutty

Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae

Cover Model
桜庭和志●Kazushi Sakuraba

Cover Photo
森モーリー鷹博●Takahiro"Morry"Mori

※RADICALとは何か？「根源的」「根本的」って意味なんじゃーッ!!

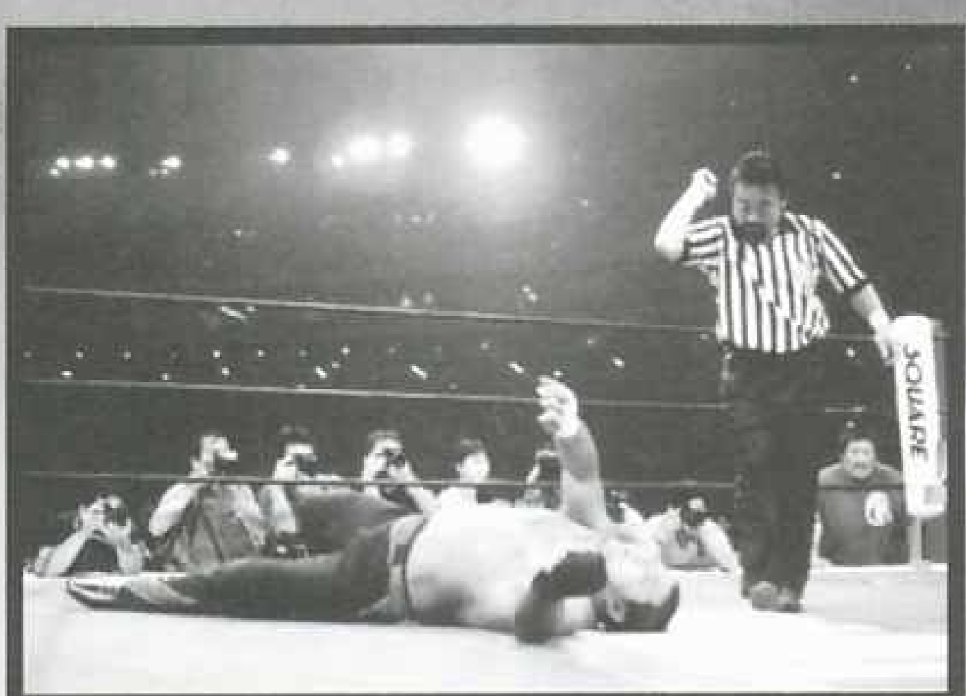
※真樹日佐夫先生の「無比人」は今回はお休みです。次回をお楽しみに。

RADICAL特製ピンナップ
"マタハリ"最終回プレゼント
アレクサンダー大塚ダンスクラブ結成！

RADICALぬりえホートレート
キミの手でアントンを塗れ！

8年3カ月ぶりのゴールデンタイム生中継
平均視聴率は15・7%
この数字はプロレス復権と言えるのか!?

どうする橋本!
どうなる新日本!



小川vs橋本戦から見えた

プロレスの可能性をナメるな! 座談会



『金曜夜8時』に新日本プロレスが帰ってきたゼーッ! 8年ぶりのゴールデンタイム生中継となった4・7新日『導夢衝激』。『橋本真也34歳小川直也に負けたら即引退スペシャル』効果で、平均視聴率は15.7%、注目の小川vs橋本戦試合終了時の瞬間視聴率は24%という数字をたたき出した。前田総帥は「人間の可能性をナメるな」という名言を吐いたが、本誌では、今回の小川vs橋本戦から見えた「プロレスの可能性をナメるな!」座談会を決行ーッ!!

構成/松澤チョロ
text by Choro

はぁ～、どすこ～い！ どすこ～い！
「ストロングスタイル」は眠いでごわす（スモーノブ）

チョロ　え～、とゆーわけで『超豪華二本立て座談会』の二本目は、4・7新日本『導夢衝激』です！　いきますか～っ！

山口　お前が司会やってるほうが、衝撃だよ。お前、会場に行ってねえじゃん（笑）。

チョロ　い、いや、ちっと、行きたかったけど、ちっと、大仁田厚の取材があったもので……その代わり、ギリギリ間にあって、会社で思いっきり生テレビしてましたから。な、生テレビ……ウヒャヒャヒャ（意味不明だが、自分で言って自分でウケまくる）。

山口　（冷たく）始まったよ。弱火自家中毒。

チョロ　（無視して）というわけで、まず8年と何ヶ月振りかに、新日本で「金曜午後8時ゴールデンタイム伝説」が復活したわけですけど。

山口　違うよ！「金曜午後8時」は約13年ぶり！　ゴールデンタイム生中継が8年3ヶ月ぶり！　それに伝説が復活したわけじゃねえよ！

チョロ　（うろたえながら）せ、正解です！　じゃあ次に行きます。え～、吉田さんは会場に何で行かなかったんですか？

豪　まあ、試合前の煽りがあまりにもネガティブなものばかりだったからね。

チョロ　確かに、「橋本真也34歳、小川直也に負けたら即引退スペシャル！」ですからね。

豪　それにオーちゃんの体調不良とか、行く気を削ぐような流ればかりだったでしょ。

山口　オーちゃんの赤血球が薄くなってスタミナがなくなっちゃったんだっけ（笑）。でも、豪ちゃんは、その煽りが橋本がリベンジする布石に見えたわけ？

豪　だからプロレス的な流れで言えば、「そろそろ橋本だろ」っていうような誰もが当然思ってたわけですよね。

山口　じゃあ逆に、破壊王にスポットを当てまくったテレ朝の策略にハマッたとも言えるね（笑）。

豪　現場に行かせずにテレビを見せるっていうね（笑）。逆に言えば、新日的にはしくじったとも言えるんでしょうけど。

山口　俺は会場には、まぁ、ひと言で言うと行って良かったね。

ガンツ　会長（山口日昇のアダ名）は、しっかり8時から来ましたからね（ニヤニヤ）。

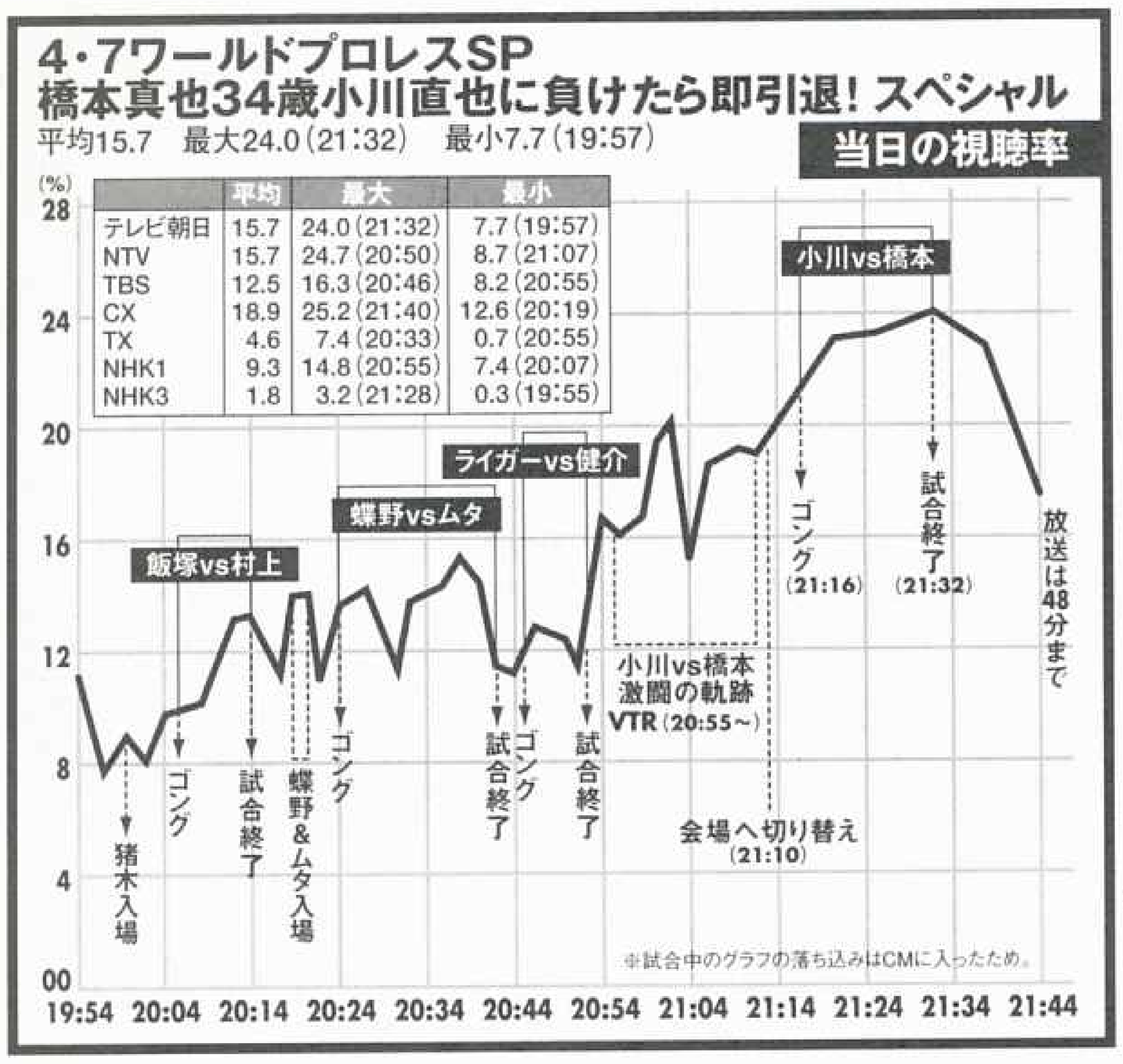
山口　バラすなよ（笑）。そういうことを言うんじゃないよ、お前！（笑）。

チョロ　（小声で）8時だべ全員集合！

山口　あ！　すすき野に「8時だべ全員集合！」っていう素晴らしいキャバクラがあるんだよ。「だべ」っていうのがいいよな、「だべ」っていうのが。あそこは本当にいいぞお……（と、遠くを見つめる山口であった）。

チョロ　（無視して）スモーノブは一言で言って今回のドームはどうだったんですか？

山口　（スモーを指差し）こいつ寝てたもん！



	平均	最大	最小
テレビ朝日	15.7	24.0（21:32）	7.7（19:57）
NTV	15.7	24.7（20:50）	8.7（21:07）
TBS	12.5	16.3（20:46）	8.2（20:55）
CX	18.9	25.2（21:40）	12.6（20:19）
TX	4.6	7.4（20:33）	0.7（20:55）
NHK1	9.3	14.8（20:55）	7.4（20:07）
NHK3	1.8	3.2（21:28）	0.3（19:55）

左が、4・7当日のワールドプロレスＳＰ視聴率の推移をグラフに表したものである。同時間帯に、『ものまね王座決定戦!!スペシャル』『ロスト・イン・スペース』『たけしの誰でもピカソ』などといった強力番組が重なりながら、平均視聴率15.7％、最大瞬間視聴率24％という数字をたたき出したのは充分合格点と言えるだろう。今回は小川対橋本戦に尽きる。

見事なぐらいに（笑）。なんかメモしようとしてるなあと思って、一瞬目を離して振り向くと、もう「グワ～～ッ」って口開けて寝てんだよ。何人も目撃してるからね（笑）。

豪　こいつは会場に行かしちゃいけない人間なんですよ（笑）。

チョロ　スモーノブとしては高田ノブ兄さんが言うように「ストロングスタイルは眠い」って感じだったんですね。

スモー　そ、そうでごわす。今回は全体的に「ストロングスタイル」って感じばい。「ストロングスタイル」は眠いでごわす。

山口　は？　何がよくないの？

スモー　例えばでごわすよ、今回は珍しくジュニア対ヘビーっていうテーマがあったばい？　そこで何を見せてくれるんだと思ったら、いつも通りの「ストロングスタイル」たい。でっかいのとちっちゃいのがやってるだけでごわす。あれはただのぶつかり試合でごわす！

豪　そんなこと言ってお前、これから新日の事務所に行って倉掛さんに会えるのか？

スモー　（急に怯えて）そっ……、その辺は原稿チェックをさせてほしいでごわす。

山口　「ごわす」じゃねえよ！　え～っ、全国一千万の『紙プロ』読者の皆さま!!　前回の「KOK」座談会はスモーが我々にノーチェックで原稿を載せました。

スモー　（逆ギレして）いや会長にだけですよ、チェック受けなかったのは！

山口　は？　お前、みんなに受けさせて俺にだけ受けさせなかったの？　あとから見たら肝心なとこ削りまくって、どーでもいいとこだけで構成しやがって。キミ、ボクに喧嘩売ってる？

スモー　グ～グ～グ～（振り向けば熟睡中）。

山口　おい、デブ！　寝るな！　見事な生き方だな、こいつは（笑）。〈バシーンという大音響と共に、スモーを引っ張たく〉

スモー　どっ、どすこ～い……。ワシは、お、小川対橋本戦は本当に見て良かったでごわす。

豪　ただ他の試合に関しては、結末が順当というか、予想通りなものしかなかったでしょ。『週プロ』のドーム増刊でシッシーがメインを除いて「とくに印象に残る"結末"がなかった。僕の見方が厳しい？」って書いてたけど、それは非常に同感だね。だからこそ、最後の試合が誰も想像しなかった結末だったっていう驚きがあったわけだから。

スモー　橋本選手はどーするでごわすかね。ちょうどアメリカで橋本選手と同じ34歳でミック・フォーリーが引退したでごわすよ。夢だった『レッスルマニア』に出て、それで完全にフィニッシュだったばい。もう廃業ばい！　それでフロント入りするでごわすよ。

豪　でも破壊王はフロント入りは出来ないでしょ（笑）。

ガンツ　翌日の日刊スポーツには「橋本、猪木入り」っていう衝撃的な見出しがありましたけどね（笑）。

チョロ　ガンツはひと言でいうとどうなの、ドームはなんか衝撃はあった？

ガンツ　ボクは勝敗云々より、『東スポ』毎日読んでたおかげで、猪木さんとか坂口会長とか藤波社長とか周りの動きがどうなるのかっていうことしか興味がなかったんですよ。だから、会社に帰ってきて、もう一回試合を見たら面白かったけど、その3人が何にもしなかったんで会場ではあんまり面白くなかったんですよ。

チョロ　会場でもテレビ中継と同じＶＴＲを流してたみたいですね、橋本選手の奥さんが出てきたりの。現在人気急上昇中です！

座談会出席者

山口日昇■天才アラーキーとプロレスラーの格闘フォトセッション"格闘男"を編集し、「アラーキーです。写真集イケてる！」と電話で天才からお墨付きをもらう。その瞬間、「オレって天才？」と豪語する本誌天災編集長。

吉田豪■本誌でコラム連載中のロマンポルシェと、『ロフト・プラスワン』でトークバトルを決行。掟ポルシェと、いいプロレスを展開し、会場を爆笑の渦に。だが相方のアフガンゲリラことロマン優光は泥酔、違った意味で会場を盛り上げた。

スモーノブ■本誌アフリカ人。というのもスモー言語はとびきり遅い肉体言語。気が付けば耳に綿棒を差し、テッシュで鼻を咬みまくり、いつもゴミ箱は世紀末。だが全く捨てる気配なし！　当然異臭が漂うハゲ（進行中）ふてぶてしい顔の23歳。

松澤チョロ■性病にかかってみたり、家の立ち退きを迫られたり、最近いいことなし？　と思いきや、マジで恋する5秒前という衝撃の出会いが待っていた!?　なんだかわからないがニコニコ顔で17歳の乙女と愛を育む28歳。

堀江ガンツ■うどんは月見派という、ニヤニヤしてるけど、いいことを言う本誌大型新人。ラーメンと大阪をこよなく愛し、いつ何時でも麺番長を気取るフォーク野郎。最近、一人暮らしを始め、絶賛食い物募集中！　の26歳。

豪　お涙頂戴のね（笑）。でもやっぱり今回のテーマはテレビでしょ。

スモー　カメラのスイッチワークとか、そういうものに関して言えば酷かったと思うでごわす。

チョロ　でも単純に数字っていう結果で見ると大成功なわけですよね。平均視聴率15・7％、瞬間最大視聴率が24％！

豪　藤波社長は「10％いけば大成功」ってちっぽけなこと言ってたらしいからね（笑）。

スモー　フジの「ものまね王座決定戦」まで、あと一歩だったでごわす。

山口　テレビは視聴率がハッキリ数字で出ちゃうからね。最初の猪木、坂口、藤波の入場の時から中継が始まって、飯塚対村上戦でちょっと上がって、ムタ対蝶野戦、あとは小川対橋本戦の前の健介対ライガー戦まで、そんなに数字は良くないんだよね。

豪　まあ今回の放送に関しては橋本対小川スペシャルだったから、他の試合には期待してなかったと思うんですよ。

山口　でも、この数字はテレビ局だけの責任じゃないよね。蝶野とムタの試合なんて、「蝶野対ムタ」じゃなくって、「蝶野対武藤」の試合なんだもん。毒霧吹いたり机の上でパイルドライバーやったりしてたけども、要は蝶野対武藤の「オールド・ストロングスタイル」の試合をやったわけでしょ。で、ライガー対健介も結末の呆気なさはともかく、「ニュー・ストロングスタイル」というか「長州力スタイル」というか、パワーファイトだったよね。でも、この二つの試合スタイルが全くリアリティがないっていうことが数字で出ちゃった。っていうのも、小川対橋本のＶＴＲでまた視聴率が跳ね上がって、しかも小川対橋本戦はゴングが鳴って試合が始まっても数字は上昇し続けてるんだよ。もう常に20％以上越えてるわけ。単純にどっちが勝つかってことに興味があるわけだよね、視聴者は。

豪　「負けたら即引退」っていう煽りがあるわけだし。

山口　カメラワーク云々っていう問題だとか、辻アナの実況がうるさいとかそういう問題はあるにせよね（笑）。

豪　まあ、辻アナがうるさいのは今に始まったことじゃないですけどね（笑）。

山口　それでも、要はゴールデンタイムの番組としては視聴率取るような作りになってたわけだよ。

豪　番組の構成は、会長の嫌いな「おちまさと」だったにせよ（笑）。

山口　なんてこと言うんだよ、俺は……大っ嫌いだよ（笑）。でも作り方はともかく数字取ってるんだから、テレビ的にはいいんじゃない。結局は試合そのものを全面に出して、「レスラーは日一杯やってます」とか「プロレスは身体を削ってやってます」ってことだけじゃ通用しないっていうのを、もっとフロントとか選手とか他団体の選手もハッキリ認識しなきゃいけないわけだよね。それが、データとして完全に表れてるんだから。これは凄い残酷だけど、ヒントになるデータだよ。

豪　蝶野選手とかは、もっとその辺を理解してるのかと思ってたんですけどね。

山口　だから、蝶野対ムタ、ライガー対健介。小川対橋本戦にスポットが当たってるとはいえ、おいしいとこ持っていけるカードなのに、それができないっていうのは、言葉は悪いけど、この4者はプロとして頭悪いと思ったね（キッパリ）。

豪　言葉悪すぎですよ（笑）。みんな頭のいい選手ではあると思うんですけどね。

山口　もっとクレバーなはずっていう期待はあったでしょ。

豪　今回に関しては、橋本対小川に関するアンチテーゼを試合で見せるつもりだったと思うんですよ、みんな。「違いを出してやるぜ！」みたいな。それがなんでこんな空回りしちゃったんだか、不思議でしょうがないんですけど（笑）。

山口　愕然とするでしょ、あの試合見たら。だって蝶野対ムタなんて、ちょっと前だったらそれこそゴールデンタイムに相応しいゴールデンカードになりえるわけでしょ？

豪　手は合うし、いい試合が出来て当たり前だっていう。

山口　アッと驚かせることも出来たはずなんだよ。健介対ライガーだって、マッチメイク的には唐突だったとはいえ、ライガーや健介のポテンシャルを考えれば、もっといけたはずじゃない。にも関わらず「ここ一番！」って時に生真面目になっちゃったよね。「ここ一番！」って時にフザけなきゃダメなんだよ、プロレスラーは！……いや、この言い方は誤解を生むな（笑）。

豪　要するに、ハジけっぷりが足りないんですよね。

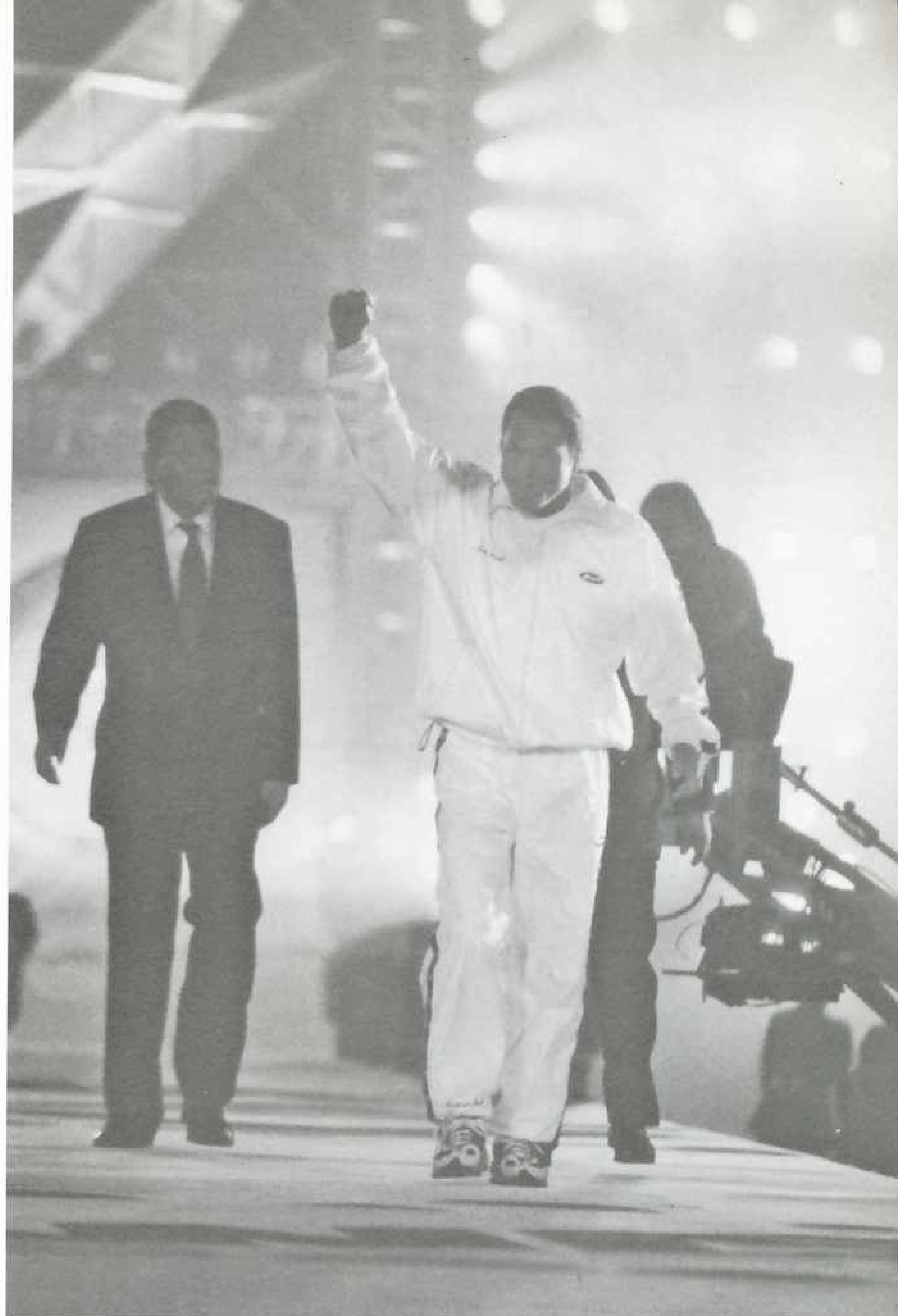
山口　そう、ハジけられなかったのよ、蝶野対ムタ、ライガー対健介は。ボクの敬愛するフリー解剖学者の養老猛司さんは、「リアリティ」っていうのを「真・善・美」と訳すのが一番いいんじゃないかって言ってるんだけど、「小川対橋本戦」は、時代の中での「真実」があって、「善と悪の対称」があって、格闘芸術としての「美」があったわけでしょ。

スモー　む〜、なんだかよくわからんでごわす。

山口　永久に寝てろよ、お前は。だから、「真・善・美」を裏返せば、「偽・悪・醜」でしょ。逆もまた真なりじゃないけど、「偽・悪・醜」に徹すれば、これまたリアリティがあるんだよね。

豪　ターザンみたいなもんですね（笑）。

山口　ガハハハ。そうそう。で、蝶野対ムタ戦




BATTLE BATTLE
プロレス復権？
EVENING SPORTS
金曜8時生中継
月刊格闘技
8年ぶり 橋本VS.小川に“街頭テレビ”も
モヤモヤ吹っ飛んだ
高田文夫のバトル裏事情
朝日にプロレス！ゴールデンに生！
K-1 THE MILLENNIUM

プロレスが帰ってきたのは「金曜夜八時」だけではなかった。ドーム翌日の朝日新聞夕刊にもプロレスが帰ってきたのだ。スポーツ面の一番大きいスペースで、小川対橋本戦の模様と、高田文夫先生のコラムが掲載された。

朝日新聞に プロレスが帰ってきた！

は「偽・悪・醜」で勝負すれば小川対橋本戦を食えたかもしれない。徹底的に反則するとか、ドーム中使って場外乱闘するとか（笑）。だけど、「真・善・美」を狙って「ストロングスタイル」っぽくいっちゃった。

ガンツ　オーソドックスでしたよね、展開が。

山口　一番いけないのは、この4選手がプロとして自分の反省材料にすればいいんだけども、「テレビが悪い」とか「団体が悪い」とか「首脳部が悪い」とか、そっち方面にいきそうな雰囲気があるのがダメなんだよ。せっかく自分の力量を見つめ直す機会を「小川対橋本戦」がくれたんだから、それに対して向き合わないとね。

豪　単純に試合のクオリティーで比較すれば、いま挙げた4選手の方がオーちゃんより高いと言えるじゃないですか。

山口　技の繋ぎとかね。健介なんか、世界に出しても通用するパワー持ってるわけだしさぁ。

豪　パワーだけですか（笑）。

山口　お前、余計なツッコミ入れるなよ（笑）。パワー・ウォリアーも5・5福岡で復活することだし。ライガーだって世界に通用するスピードと頭脳とキャラクターを持ってるわけじゃない。

豪　会長なんか、イギリスにまで追いかけて行ったくらいですからね。

山口　そうだよ、俺はライガーのこと大好きなんだからさ。っていうか、この4選手は凄い好きなんだよ。だから、すごく歯がゆい！

豪　健介だって、日明兄さんがUWFに欲しいと思ったぐらいの選手なんだから。

山口　そうそう。逸材なわけだし、ムタは天才だし、蝶野だってクレバーなわけじゃん。だけどこの4者が、一所懸命やってるにせよ、深い部分でプロレスに対して向き合ってないというのが明らかに数字に表れちゃってる。

豪　結局、本当にプロレス内プロレスになってますよね。凄いビジネスライクな感じがして。

山口　だから、小川対橋本戦は単純にどっちが勝つかっていう「勝負論」の部分でも興味を持たせたわけでしょ。

豪　「真剣勝負」云々というよりも「負けたら即引退」っていう部分でね。でも考えてみたら「即引退」って、破壊王本人は一度も言ってないんですよね（笑）。

スモー　あれはテレビが勝手に出しただけでごわすね。「引退を賭ける」とは言ってたでごわすが。

豪　とんでもない追込みだよね（笑）。

ガンツ　ここ3試合くらいの辰吉丈一郎の世界戦も同じですよね。辰吉は引退するなんて一言も言ってないのに毎回「即引退」スペシャルになってますから（笑）。

山口　だから、逆に言えばそれが緊張感持たせたんじゃないの？　テレビが勝手に暴走したって仮定すればね。で、イザ試合が終わってみると、それを超えたところで「凄い試合だった」っていうところが、重要な要素でしょ。

豪　そもそも試合自体、辻アナが客前で「私たちは橋本と小川のタッグではなくシングル対決が見たいんです！」ってフライングしたことに始まり、生中継も辻アナが強行したらしいじゃないですか。

山口　だから、テレビサイドは辻アナが強行かつ執念で局にゴーサインを出さして、ゴールデンタイム対応のために外部の売れッ子構成作家のおちまさと先生とかを呼んだわけだよね。

豪　ちなみに大仁田劇場で脚光を浴びていた真鍋アナのマイクが入ってなくて声が聞こえなかったのも、辻アナの真鍋潰しじゃないかとボクは勝手に思ってるんですけど（笑）。

山口　ダハハハ！　だから外部のアイデアと、新日首脳部のアイデアと、それから選手のアイデアと、それぞれがバラバラっていうところが、逆に緊張関係を醸し出したかもね。テレビも団体も選手もそれぞれが、お互いの立脚点を持って勝負したわけでしょ。だから、蝶野対ムタ、ライガー対健介は負けたんだよ、完全に。

豪　テレビに負けたと。

山口　そう。テレビのフォール勝ち（笑）。首脳陣にも負けた。自分たちがやりたいことあるんなら、それが出来るチャンスだったんだよ。できない事情があったのかもしれないけど、それこそ反則すりゃあいいんだもん。フライングすりゃあいいんだから！　ターザン用語で言うところの。

蝶野対ムタ、ライガー対健介。この4者はプロとして頭悪いと思ったね（山口）

豪　結果出せばいいだけですからね。でもテレビ主導になったっていうのがアメプロっぽくって面白いですよね。

山口　それと、小川対橋本戦の結果自体、かなりのビックリマークが出たよね。

豪　単純に考えれば、橋本がプロレスで勝つか、小川が生中継で暴走するか、ノーコンテストかだと思ってたんですけど、プロレス的な意味での小川の勝利は誰も予想してなかったでしょうからね。普通は「負けたら即引退」って煽られた時点で、「あぁ〜、じゃあ破壊王の負けはないだろうな」って思うわけじゃないですか。この間の『J―CUP』でサスケが「優勝したらサスケJに改名する」って言えば、「じゃあ優勝はないな」と思うようなものでね（笑）。

山口　それでも優勝すんじゃねえかって思わせるのが、サスケの凄いとこなんだけどね（笑）。

チョロ　それから今回は「猪木劇場」がハズしたっていう声もありましたけど、会場ではどうだったんですか？

豪　良くも悪くも、それすら見事にスカされたわけですよね。

山口　2月に桜が咲いちゃったような、「1、2、3、ダーッ！」をやられちゃったわけじゃん（笑）。早いよって（笑）。

豪　みんなビックリしちゃいましたよね。これは今回の小川対橋本の一連の流れに対して、猪木さんがかなり不満だったからっていう部分もあるわけですよね。

山口　それはテレビ局に対して？

豪　っていうか、辻アナに対して。

山口　それからテレビ局主導に対して何も言えない新日本内部に対して、「俺は本当に怒ってる！」という状態だったって聞くけど、それは直接猪木さんにコメント聞いたわけじゃないからわからないね。

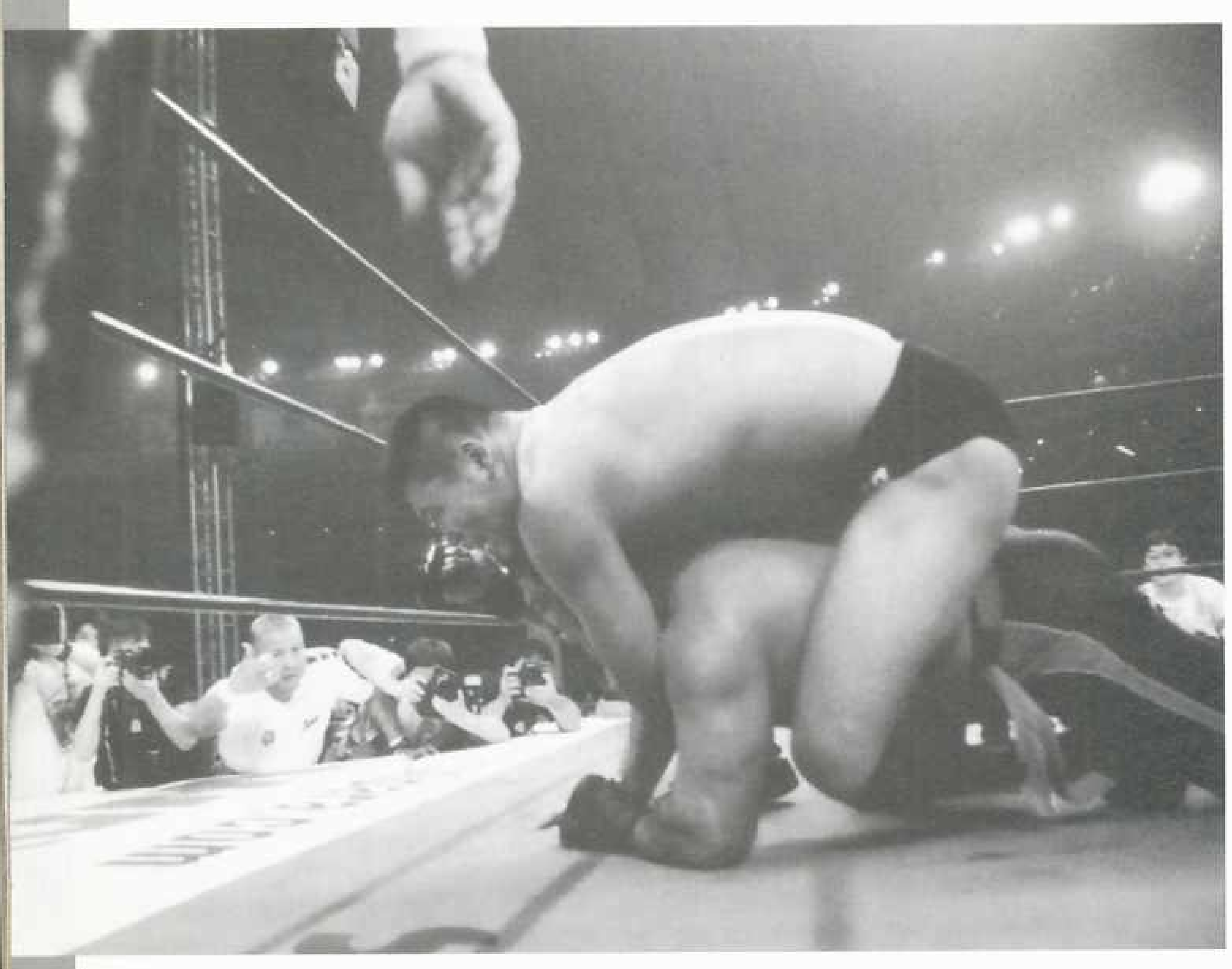
チョロ　猪木さんの唐突なシメは、会長は確信犯的なところがあるって言ってましたよね。

山口　オーちゃんは、あれは「猪木さんが橋本に手を差し伸べた」って言ってたよ。あそこで、要はベタベタになって泣き崩れて、みっともない姿をさらけ出す前に、猪木さんが「1、2、3、ダーッ！」をやって、パッと幕引きをさせてあげた優しさだって言ってたね。

豪　ターザンは「小川と橋本につまらないマイクをさせないための行為だ！」って言ってましたけどね（笑）。

山口　そうなんだよ。俺は、猪木さんは3・11でも「橋本劇場」を良しとしなかったわけだから、猪木さんはもう一度橋本を突き放したように見えたけどね。ヘタなマイクでもやられたら試合のリアリティが吹っ飛んじゃうっていう。

ガンツ　「ありがとう」と言いながら突き放したわけですね（笑）。



破壊王はハッキリ言って俺の想像を越えるものを演じてくれたから（笑）（山口）

豪　でも、正直に言えば、この二人の絡みではこれまでで最も盛り上がりはなかったと思うんですよね。それがネットを見ると、こんなにファンに届いてるっていうのはどういうことなんだろうって思いますね。

山口　サダハルンバ（谷川貞治）が「プロレスはもう無理に考えて語る必要はない。大仁田とかWWFとかに任せておけばいい」って言ってたんだけど、そういう二極分化の考え方の人には「小川対橋本」は宙ぶらりんのプロレスに見えるかもしれないよね。マニアにも現実的にそういう人は結構いると思うんだよ。なのになんでこれだけ浅草キッドを始めとして、あれだけ熱くなって、みんな考えて語って、ネットにもあれだけの書き込みがあるのかってことだよね。だってこれは『PRIDE』でも『KOK』でもないんだよ（笑）。プロレスでしょ。俺、去年の「10・11」では「〝プロレス〟の逆襲が始まった」って書いたけど、その根拠はないんだよ。漠然とそういう匂いがするっていうさ。でも、その「プロレス」は、蝶野対ムタでも、ライガー対健介でもないんだよね。

豪　単純な話、それだけ注目度が高かっただけじゃないかって気もするんですけどね。これまでの「1・4」以降の絡みも毎回面白かったわけじゃないですか。だから今回がズバ抜けて面白かったわけじゃなくて、絶対それまで見なかった人にも届いただけだと思うんですよ。

スモー　っていうか橋本が引退を賭けた、後のなさが届いたっていうのが大きいでごわす！

山口　いや、スモーの発想はそれはあまりにも短絡的すぎるよなぁ（笑）。

豪　でも実際、一般層に届きましたよね。ネットでも、いつもマメに書き込むレベルじゃない人ばかりが発言してたわけじゃないですか。常連は今回の小川対橋本戦については割と引いてましたからね。

山口　橋本が負けたら本当に引退するのかどうかっていうのは、プロレスを長年見てるファンとしては、「そんなわけねえじゃん」っていう気分があるわけでしょ。

豪　だから、そういった邪念のない人にはビンビン届いたっていう。

ガンツ　でも一番は、新日本プロレスファンに届いたと思うんですよ。新日本ファンって新日本プロレスをズッと見てて、新日は好きだけど、毎年ズッと見てると「なんだかベルトも持ち回りみたいな気がするな」とか思って。だからタイトルマッチでも勝敗の重みがなくなってきてるじゃないですか？

山口　かわりばんこにベビーフェイスになっていくシステムね。

豪　今回もそろそろオーちゃんが星返す番だなっていう。

山口　星返す番？　いいのかなぁ（笑）。ひと昔前だったらケーフェイ言語じゃん。

チョロ　いまでも十分ケーフェイですよ（笑）。

山口　まぁでも、怒られようが何だろうが、プロレス自体がケーフェイとか語ってるわけじゃないから。ケーフェイ言語についていま言っただけだからね。言語に関してはこっちのフィールド（笑）。そんなことはどうでもいいんだけど（笑）。で、今回の橋本対小川戦は、そのケーフェイ言語を使わないで楽しむ気分にさせてるってところがデカイよね。すれっからしの見方をする人たちも試されてるよ、これは。

ガンツ　いわゆる総合が出てきちゃってから、プロレスでそういう楽しみ方はなかなか出来ないですよね。

山口　その想像を越えるとしたら去年の「10・11」でも言ってたけど、3分位でオーちゃんが反則負けして大暴動が起きた方が面白いとかさ、今回だって猪木さんとか大仁田とかいろいろな人が出てきて、いっそWWF化に思いきり針を振った方が面白いとかっていう気分はあるんだよね。見事なくらいに裏切ってくれっていう。そういう風に極端なところに針を振らないと楽しめないっていうファンも大勢いるわけだよね。それは俺ら雑誌の作り手としてもそうだよね。「橋本よくやりました」「小川も頑張りました」なんてこと、ぶっちゃけて話しちゃえば書けないでしょ、いまさら（笑）。そういう風に書けって言われるかもしれないけどね、団体には（笑）。でも俺はどうやってもそんなこと書けない。だから『PRIDE』とか『KOK』とか出てきてる中で、じゃあ、「人間そのもの、人間ドラマにスポットを当てましょうよ」っていうテレ朝の選択、方向性は間違ってなかったと思う。作り方に関しては問題は多々あるけどね（笑）。

豪　テレ朝としては正解ですよね。ただ、それをやったのが辻アナだから、「ちょっと待て、コラ！」っていうのがあるけど。

山口　その手法自体は間違ってないと思う。でもやっぱり「1・4」を通過してるかしてないかっていうのが大きいと思うんだよ。「1・4」を境に『PRIDE』も浮上したし『KOK』も出てきたし、いままでファンが経験しなかったものを「1・4」で経験してるわけでしょ。それが昔の見方に戻るなんてことはまず出来ないはずなんだよ。一回やっちゃってんのに「処女です」って言い張ったって無理があるんだから、物理的にも科学的にも人間的にも（笑）。

チョロ　処女云々も、演技力次第でわかんないですからね。流血疑惑とか（笑）。

山口　（無視して）だから、総合格闘技が出てきてるなかで、「シュートだワークだ幼稚なこと言ってないで、それ以外を見ていこう。そういうことには目をつぶって楽しみましょうよ」っていうのも無理があるのも事実なんだよね。俺は今回の試合とかに対してシュートだワークだ言い出す頭悪すぎる論争には付き合えないけど（笑）。でも、例えば「1・4」の衝撃を越えてくれる「プロレス」ってなんなのかって言ったら、橋本なり小川がどこまでさらけ出せるかっていうことにかかってくるじゃない。破壊王はハッキリ言って俺の想像を越えるものを演じてくれたから（笑）。日々の『東スポ』に書いてあるいろいろな事件の背景とか推移とかそういうものを含めて。坊主になったりとか、柔道特訓したりとか、試合後に猪木さんを訪ねて号泣したりとか、あれを芝居がかったっていうのは簡単なんだけど、例え芝居だとしてもあれは面白い！

豪　やっぱり切実だからですよね。

山口　そう！　写真家のアラーキーが「『男を張る』とか『身体を張る』とか、『張る』っていうのは、さらけ出すことだ」って言ってたけど、破壊王は演じることを通してちゃんと自分の内面を表現してると思うよ。またそれがズレまくってるところが非常に面白い（笑）。演じないと自分の内面はさらけ出せない部分もあるし。だから、なんで今回破壊王が負けたかっていうと「1・4」を通過してたから、よ〜くわかることなんだけど、肉体改造してないからだよね（キッパリ）。

豪・説得力がない以上、勝ちはないと？

山口　そう。破壊王に勝ってほしいっていう願望があるのはわかるけど、破壊王が勝つことには説得力がないもん。いまの橋本があの身体でオーちゃんに勝てるわけないじゃん。今回は破壊王がリベンジするっていう嫌な空気を感じとったファンは、なにが見たくなかったかって言うと、いま豪ちゃんが言った説得力がないものを見たくないっていうことでしょ。髪の毛を落とすよりも、まず脂肪を落とせって（笑）。でも、「そんなことは関係ない」っていうのが従来のプロレスだったわけでしょ。でもオーちゃんは今回のドームのビジョンにも出てたけど、30キロ近くダイエットして、精悍な顔つきになって、しかも前髪立てて、イラストになるようなキャラクターまで作って改造してきたわけじゃない、実際（笑）。

豪　いつでも顔をキッチリ作ってね。

山口　「作って」って誤解を招く表現はやめろって（笑）。オーちゃんには、総合にも対応できる肉体改造したリアリティーっていうのがあるわけだよ。だから「1・4」を乗り切れたわけでしょ。

ガンツ　小川は長期の海外武者修行もしてないのに、変身して帰ってきてるって凄いですよね。



久々のゴールデンタイム生中継ということで、K－1、『PRIDE』なみの有名人が来場。リングサイドの、近藤真彦、安西ひろこ、安達祐実の他にも、泉谷しげる、川淵チェアマン、そしてもちろん、浅草キッドも熱狂観戦。

山口　一人凱旋帰国！（笑）。橋本は肉体改造だけが全てじゃないけれども、それに匹敵する努力をしなければ勝てない。だから俺が言うのもなんだけど、努力しないと勝てない時代だよっていうのが突きつけられてるわけじゃん。

豪　会長が努力って言ってもまったく説得力ないですけど、要は説得力なんですよね。破壊王が「1・4」で説得力なくしちゃった以上は、別の説得力を身につけるしかないだろうし。

山口　そうそう、1枚剥がれ落ちたら2枚重ねるくらいじゃないとダメな時代が来たのを知らしめたのが「1・4」じゃないの？　蝶野対ムタとかライガー対健介はハッキリ言って試合スタイルそのものが、「1・4」以前の平和な時代を取り戻そうっていうか、ノスタルジーにしか見えないもん。あれだけバブリーな時期を経験しちゃったから、その頃の幸せな平和な時代に戻せばいいじゃんって感じに見えるんだけど、戻るわけねえじゃねえかっていうの、そんなの（笑）。

豪　ライガーが健介を秒殺するくらいになれば、新日も変わったたって思いますけどね。

山口　「オーちゃんはプロレスをナメてる」とか『PRIDE』から逃げてる」っていうコアなファンや関係者の意見もあるけど、でもやっぱりそういう声に、一番敏感なのはプロレスラーの中ではオーちゃんだと思うんだよね。だってオーちゃんはキッチリ練習してるもん（笑）。それだけの危機感がキャリア3年のオーちゃんの中にあるっていうことなんだから。オーちゃんにとってみれば切実な問題なんだよ、「対世間」っていうのは。「世間」という魔物に対してどれだけ説得力が持てるかっていうのが勝負だから。自分がいる業界がなくなっちゃったら食えなくなっちゃうんだから、オーちゃんがいろんな選手に噛みつくのは、切実さの裏返しですよ。

豪　オーちゃんの場合は肉体が説得力ですから。

山口　あと、そういうオーちゃんというタマを持った猪木さんの運の強さ！　これは凄まじい運の強さがあるよね。それで、タマはいっぱいあっても現場監督も説得力を失いつつある（笑）。

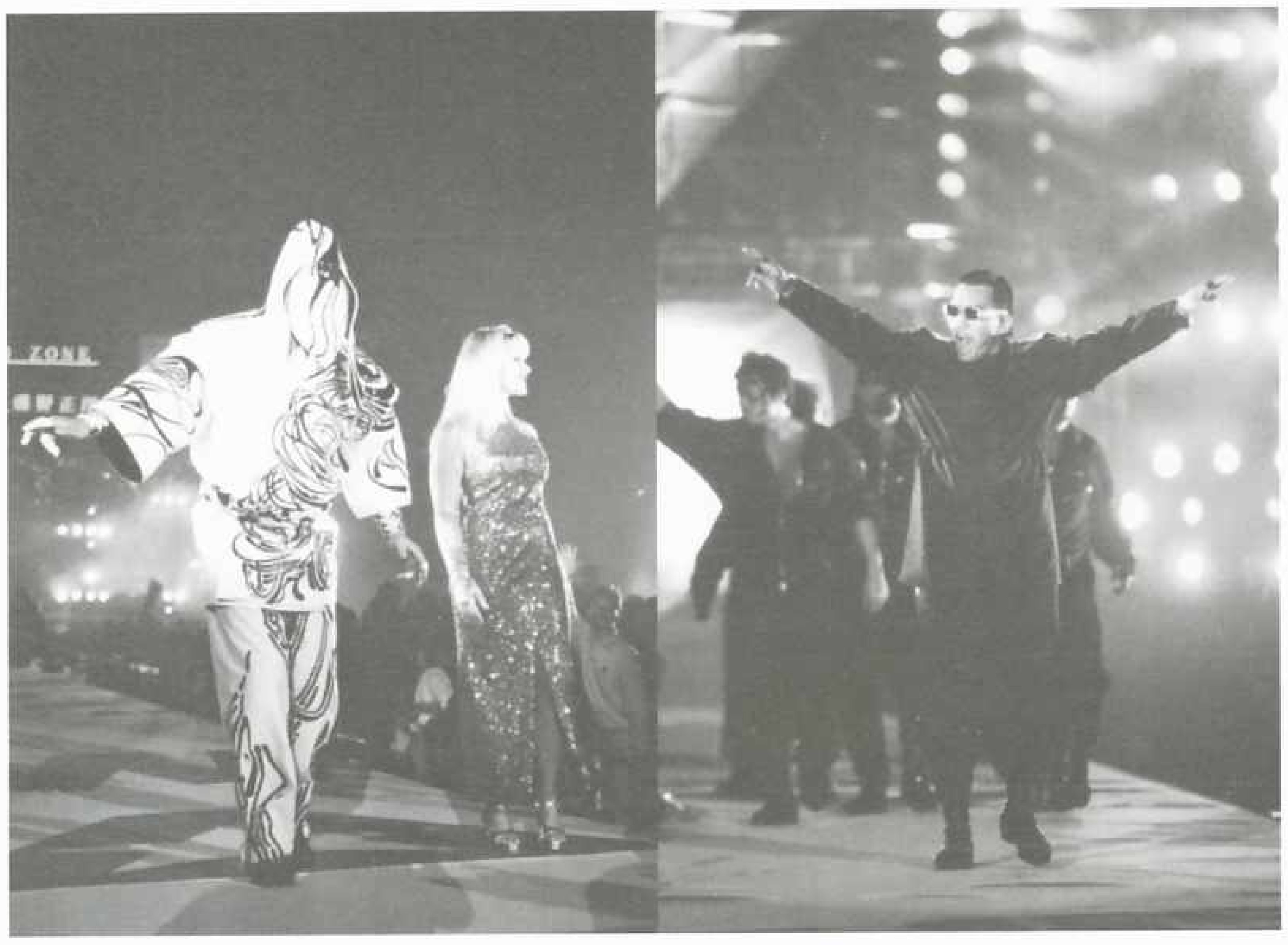
豪　控室でも、長州監督は橋本に対してコメント一言ですからね。「会社としても話し合いはする！」っていう。

ガンツ　のけ者ですね、完全に！

山口　だから、いくらいいものを作り上げたって、時がくれば壊れるもんですよ、っていうのを如実にわからした存在がオーちゃんだったわけじゃない。そういう意味では〝気付いて〟ない人たちはたくさんいるよね。

豪　まだ目が覚めてない人がいますか！

山口　あと『PRIDE』とか『KOK』とかにしか目がいかない人たちからは、今回の闘いをみて、「所詮プロレスじゃん」っていう意見は出てくると思うんだよ。もうそれはマスコミには止められないから。でも、多分その人たちも気付いてないことって、まだまだたくさんあると思うんだよね。



蝶野はTEAM2000総出で花道を行進、一方のムタはどこの誰だか知らないけれど、ブロンドマネージャーを従え入場。テレビ中継では確認できなかったが、金髪マネは試合後のドサクサに紛れ天山にミサイルキック！

スモー　グ〜グ〜グ〜（絶賛熟睡中）。

山口　このバカはほっといて話を続けると、「格闘技」を見る時は〝顕微鏡〟を用意しなきゃいけないわけだよね。顕微鏡は自分で調整して焦点を合わせなきゃいけない。その〝顕微鏡〟を持ってなきゃ楽しめない部分も多いでしょ。膠着した際の技術の攻防とか特に。でもプロレスはリングの四方に〝拡大鏡〟が付いてる世界だから。一般の人が見たってわかる「格闘技」になってるわけよ。「格闘技」の技術の部分を拡大してくれてる部分、試合の背景を拡大してくれてる部分、選手の内面を拡大してくれる部分、選手の辿ってきた道程を拡大してくれる部分。それだけじゃないんだけど、リングの四方、それぞれに〝拡大鏡〟が付いてて、見えやすくなってるわけ。

ガンツ　素晴らしい発想ですね（ニヤニヤ）。

山口　というわけで、「プロレス」にも「格闘技」は見えるんだよ。でも、「プロレスは格闘技と違う」って割り切っちゃたら、拡大する部分がひとつ減っちゃうってことだから、狭くなっちゃうんだよ、世界が。だから今回は、興行をやる側、テレビ側、選手側、ファンっていうのがハッキリ分離してたような気がしたね。そういう意味では昔のプロレスを見てるような雰囲気があったと思うんだよ。いまは逆に言えばリングをファンが作ってる部分があると思うんだよ。で、プロレスファンのニーズに合わせるのは大事だけど、作り手側の意思も重要でしょ。今回は作り手の部分までにはファンの余計な思いは介入出来なかった。作り手の頭脳にかかってたっていうか。こっちはただ見るだけ。見てモノを考えて租借してどう語り合っていくかっていう部分だよね。

スモー　（急に甦生して）その辺はWWFみたいでごわす！

山口　デブ、起きてたの？（笑）。だから逆に言えば『PRIDE』なんていうのはファンがいなかったら絶対に出来てないことだからね。マニアの思いが結実してるようなリングでしょ。でも小川対橋本はマニアが決して望んでない闘いだったわけでしょ。

豪　ファンは「もうやらないでいいよ」っていう。

山口　むしろ、そっちの気分の方が大きいわけでしょ。

豪　「オーちゃんの負ける姿は見たくない！」とか。

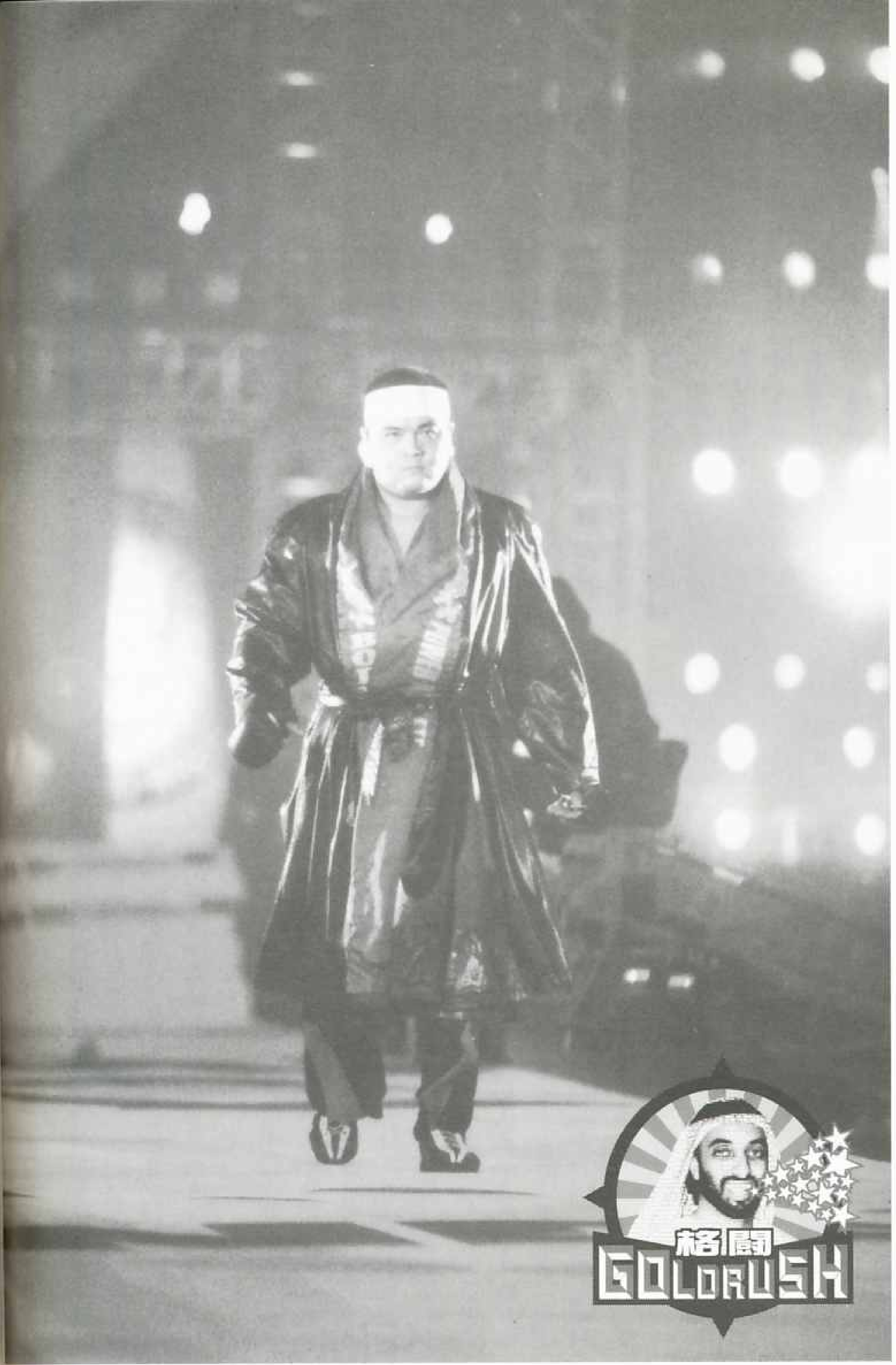
山口　オーちゃんが負けるのも見たくないし、破壊王が負けるのも可哀想だしっていう（笑）。凄く残酷なマッチメイクだと思うんだよね。でも、新日主導で行ってたら、残酷なことにはならなかったでしょう。優しく破壊王を守る方向に行ってたと思うんだ。でも、そこにテレビ局が入って、さらに猪木さんが入って、残酷な中にも破壊王が光れる土壌をつくったっていう。それで正解ですよ。

豪　それにしても、橋本と小川っていうのはまだ続くんですかね。さすがに、もう封印しちゃいそうな気がしますけど。

山口　今後のことについてもファンとかマニアの思いっていいのは介入出来ないような気がするんだよね。介入出来ないんだったら預けちゃってね。そこから出てきたものを語るなりなんなりしていきゃあいい世界だから、健全って言えば健全だと思う。昔なんて、猪木さんがやることに預けっぱなしだったんだから。それで出てきたものが、あまりにヒドかったら暴動起こしたりしてさ。作り手とファンが緊張関係持ってないと面白くないよ。

豪　作り手側に預けると、「小川には俺が挑戦する」っていう藤波社長の衝撃発言が現実になっちゃいますよ！（笑）。

山口　抜群に面白いじゃない（笑）。あと、猪木さんが、「小川の次の標的は長州だ！」って言ったりとかさ。もうグチャグチャだし（笑）。だから橋本対小川戦を見た率直な感想を言えば、『PRIDE』とか『KOK』とかで行われてる世界をわかりやすく拡大して伝える試合だよね。だからUWFがなぜ必要だったかと言うと前田日明の言う通りで、いきなり15年前に『KOK』やったって通用するわけないんだから。見方を伝える期間がなきゃダメなわけじゃない。その役割を引き受けてる人たちに対して、ああだこうだって言うのはお門違いだよね。パフィーが『アジアの純真』を歌えば井上陽水と



初めて会長がいまの『週プロ』を誉めましたね（笑）。ボクは断じて『ゴング』金沢派ですよ（豪）

奥田民夫の実力にスポットが当たるでしょ。そのパフィーに対して、「あいつらは音楽がわかってない」って言うみたいで、みっともないでしょ。最近の「格闘技」のファンは、それに近い物言いを「プロレス」にするから、それはいただけないよ。俺らもハッキリいって、『週プロ』がなければ成り立たないよ。『週プロ』の役割はそれはそれであるわけだからさ。

豪　初めて会長がいまの『週プロ』を誉めましたね（笑）。

山口　面白くないから悪口は言うけどね（笑）。

豪　ボクは断じて『ゴング』金沢派ですよ。あんなに『紙プロ』っていう単語出してくれる媒体はないですからね（笑）。

山口　まあ、だから『週プロ』とか『週ゴン』みたいな情報誌がなきゃダメなんだよ、ウチらは。それと一緒で、プロレスがなきゃ『PRIDE』もないし『KOK』もないよ。『PRIDE』とか『KOK』が中心になって、プロレスを全然切り離してやれるのかっていうと、まだ無理じゃん。確かにターザンが言うようにジャンルとしては終わりつつあるのかもしれないけど、まだプロレスの可能性をナメちゃいけない。

ガンツ　ところでこれはどうですかね？（『SRS・DX NO．20』の破壊王の表紙を指差し）「引退↓お前には『PRIDE』があるやれ！」っていうのは。

山口　その戦略の目的がわからない（笑）。

ガンツ　破壊王の『PRIDE』参戦って見たいですか？

豪　出るっていう煽りぐらいまでなら見たいよね。入場するぐらいまでなら。出る途中に村上に襲われちゃったりするんだったら、ぜひ見たいけど（笑）。

山口　橋本に対して期待してるのは『PRIDE』のリングに上がるってことじゃないよね。

豪　再起する道として、そのための説得力として『PRIDE』があるっていうのはわかるけど、それを破壊王に求めてもしょうがないですよ。

山口　確かに、『PRIDE』っていうリングはそういう求心性はあるけどね。だけどなんでもかんでも『PRIDE』があるからって言うと、逆に『PRIDE』の発展性を閉じてるような気がするけどね。どうよ、ガンツ、その辺は？

ガンツ　ん～……単純に破壊王とかは向いてないと思いますけどね。それにニーズがないんじゃないですかね。『PRIDE』を見たい人の。

豪　破壊王が「PRIDEに出る！」って言う発言自体にはニーズもあると思うよ。そういうハートが見たいって部分で。

山口　出る気概を持って欲しいというのはわかるよね。だから昔に豪ちゃんが引き出した橋本のキック論があるじゃない。

豪　ああ、「俺のキックなんかK―1のリングじゃ当たらんっ！」っていう（笑）。

山口　ガハハハ！　まあ、それを断言されても困っちゃうけどね（笑）。

豪　「だから俺は新日からは出ない！」って言ってたら、よりによって新日でオーちゃんに全部崩されちゃったわけですよね。「お前ら呑気にしてんなよ」っていう猪木さんの荒療治によって。

山口　どっちにしても橋本の完全復活っていうのは、本人のやる気次第でしょ。そこから再び幻想をどう作っていくのか。

豪　結局、猪木事務所入りっていうことに落ち着くしかないんですかね。

山口　橋本は「1・4」、「4・7」と3連敗したわけだけど、「10・11」、それから今回の田延彦もグレイシーに3連敗してるでしょ。ヒクソンに2回、ホイスに1回。でも高田の3連敗よりも橋本の連敗の方が国民的な比率でいえば関心は高いわけだよね（笑）。そういう意味では、高田の負けを〝拡大〟してみせたのが破壊王じゃない。

豪　しかも、プロレスラーの連敗の方が切ないっていう（笑）。

山口　本当に切ないと思うよ。むしろ格闘技よりもさらけ出さないと伝わらないジャンルだから。猪木さんが破壊王に贈った「かいてかいて恥かいて　裸になったら見えてきた　本当の自分の姿」っていう詩は、ある意味でプロレスそのものを表してますよ（笑）。

豪　こうやって話してる間にも、また破壊王の車のボンネットに「小川」って書かれてるんでしょうからね（笑）。

ガンツ　橋本はドンドン悲惨な姿を見せていくっていうのが凄いですよね。同じ3連敗でも高田の場合はドンドンまんざらじゃなくなってきてるっていう（笑）。

山口　だから格闘技の方が悲壮感が漂うはずなのに、プロレスの橋本の方が悲壮感漂ってる。そこらへんに「プロレス」と「格闘技」の関係性、プロレスの役割を考えるキーがあるよね。

豪　プロレスの方が連敗に意外性があるわけですよね。格闘技だと連敗しても当たり前だけど。橋本は新日のトップだったのに、いまじゃ連敗してるんだからね。

山口　一時期のウチでのブチ（中村カタブツ君）状態だね。よくここまで負けれるなっていう（笑）。もしくは現在のノブ状態（笑）。やっぱりノブは破壊王のタフさをよく見て研究した方がいいよ。

スモー　（花粉症で鼻をムズムズさせながら）はぁはぁっ、ごっつあんで…クシュン。

山口　ノブ、『紙のプロレス』を頼むゾォー!!

スモー　はぁっはぁっ、へ～～～ッピ（中途半端なクシャミ）。

【4月11日、本誌編集部にて収録／文中一部敬称略】



（愛知県／たっつあん）5点★「本当に終わりか、破壊王？　大仁田さんよ『狙うは破壊王の首ひとつ!!』とか言って橋本を復帰させてやって下さい。引退なんかくそくらえ邪！」。得点は次号で加算するん邪！

世界で一番、新日本プロレスを愛し、誇りを持っている男・福田雅一選手が急逝

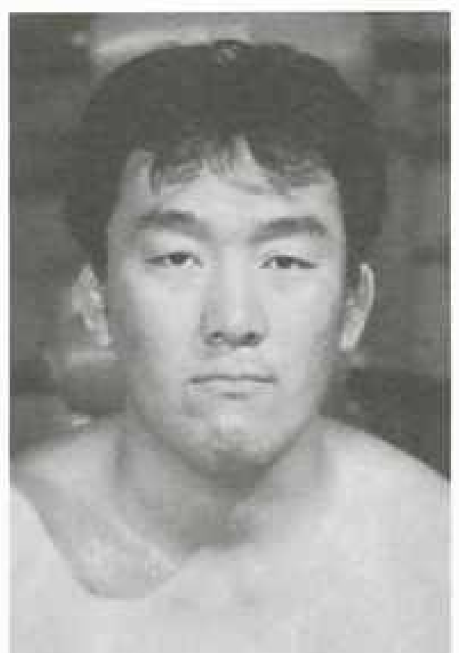
4月14日、宮城県気仙沼市総合体育館での試合中に意識不明の重体となっていた新日本プロレスの福田雅一選手が、19日午前3時27分、脳内出血のため仙台市内の病院で亡くなった。まだ27歳という若さであった。

福田選手は、14日の試合で、柴田勝頼選手と対戦、ミサイルキックを受けてから急に動きが悪くなり、フライングエルボーを受けた直後に口から泡を吹き出して失神。そのままフォール負けを喫したのだが、福田選手はピクリとも動かず、イビキをかきはじめたため救急車で病院に運び込まれた。検査の結果、脳内出血があったために緊急開頭手術を行い、約2時間の手術。一時は人工呼吸器も外され周囲の声に反応するまでに回復した。病院には坂口征二会長をはじめ、新日本隊、T2000、外国人全選手、全スタッフ、福田選手の家族や婚約者、さらに15日未明には引退問題で揺れる橋本真也も駆けつけ、福田選手の回復を祈っていた。

福田選手は、昨年10月、今年3月5日の後楽園大会後と、二度に渡り硬膜下出血で倒れ欠場していたが、医師からGOサインが出て、現在開催中の『ヤングライオン杯』に出場していた。藤波社長は大事をとって欠場を勧めていたが、福田選手自身の強い希望で出場を認めたという。

あの谷津嘉章が、直観的に、「福田は俺の後継者だよ。なっ!!」とその才能に惚れ込んだほどの男である。また、今シリーズからは新日マットを支えていく新軍団『G—EGGS』にも所属し、輝かしい実績を持つアマレスのキャリアと、あまり知られてはいないが短期間リングスにも入門していたこともある福田雅一。本誌NO.11に登場してくれた時には「バーリ・トゥードもできて、受け身もできて」と進むべき方向性を語ってくれたが、それが実現する目前だったのだ。その矢先の悲報は、関係者、新日ファンのみならず、マット界全体に衝撃を与えることとなった。

福田選手のご冥福を心からお祈りいたします。合掌。



携帯新WEBサイト『エムスタ』

携帯界の革命児現る！

m-sta.com

4・25 ↓ 5・31 無料！

申し込み方法

このサイトを利用するには手続きが必要。

下記の電話（もしくはホームページ）にアクセスすると、取り扱い店をご紹介いたします。

m-sta.comってこんな便利！
佐藤エミさん（本誌風雲広告嬢）の場合。

普段電車にのってる時とかぁ～、電話できないでしょ。でも、m-sta.comを見ればちょっとした情報交換もできるし、超便利なの。それで、今度『紙のプロレスDIGITAL』ができるから、毎号発売日を楽しみにしながら、2週間に1回、電話でみれるなんて1ヶ月のうち3回も『紙プロ』が見れるんだよ！　最高じゃない？

【月会費】（6月1日～）300円。※尚、紙のプロレスDIGITALを利用するには別途200円が必要です。

"m-sta.com"とは何だ!?

"m-sta.com"とは、今までになかった携帯新システムのサイト。どの携帯電話会社（インターネットサービス対応の機種のみ）からも通じるという新サービス！　別会社の携帯電話を持つ人たちにも、写真やイラスト、地図などメールで送ることができる！　そして、注目はWeb上で仲間同士がひとつのスケジュールを共有するメモパッド。今まで他機種のためできなかったことが完璧解決されるのです。4月25日から使用できるサイトはニュース、スポーツ、音楽、ゲーム、占い、メール、チャット、などなど（ちなみに『桜金造の百物語』は気になるところ）満載の約40サイト（4月12日現在）も楽しめます。そしてなんと、将来的には99サイトまで増えるというから見逃せません！　そのうち約30サイトを4月25日から5月31日まで無料でためせるというスペシャル期間を実施いたします。"m-sta.com"だからできた、このネットワークはためす価値ありです。※くれぐれも、インターネット対応機種じゃないとダメで～す。お気をつけください。



紙のプロレス DIGITAL

なんと、『紙プロ』も電撃参入決定！
その名も"紙のプロレスDIGITAL"だ!!

本誌編集部（死の匂いがする©井上きびだんご）の中で、携帯マニアックレビューと言えば編集長山口日昇（趣味・恋煩い）。その、のびぃ～率いる『紙プロ』軍団でお送りする、携帯版『紙プロ』発進！　みなさ～ん、『紙のプロレスDIGTIAL』を頼んだゾーーーーーッ!!

4月25日からの無料期間中は、この3コーナーをおためしあれ！

★"紙の新聞"デジタルバージョン

マット界丸わかりコーナー『紙の新聞』特別版！　毎日、めまぐるしくマット界は動きまくるその情報をデジタルならではの切り口でお伝えしちゃいます。なんと、記者会見上からそのままダイレクトにメールで送信したり、最新情報を通信！　これは世界最高速で情報GETであります！

★"今週のおことば"

プロレスラーや格闘家にはハッキシ言って名言吐く人多し！　そんなステキな"おことば"をくまなくお伝えします。モチのロン！　本誌編集部最大の名言家で最近、女性ファン急上昇の中村カタブツ君37歳（自称ジャン・レノ似）の大迷言も随時、送信!!（ウソ）

★"BOUT REVIEW"

本誌編集部員（スモーノブ、松澤チョロ、大西タマリン、堀江ガンツ&助っ人たち）が各団体の試合観戦をレポート！　激闘の瞬間から控え室でのちょいといい話まで惜しみなく書き殴ります!!　そして、取材で起こった珍事件、編集部内での出来事など日常バウトもレビューいたします。

これは「紙の子が背負った宿命」なんです。（by 前田日明兄さん風）

※おためし期間中は隔週更新。この3コーナーが中心ですが、5月中旬よりパワーアップ宣言！　盛りだくさんの内容で毎週更新いたします。心して見ておくれ！

[お申し込み・お問い合わせは]
"m-sta.comカスタマーセンター"➡03-5469-8765
"m-sta.comホームページ"➡http://www.m-sta.com

株式会社
モバイルステーション・ドットコム



格闘GOLDRUSH

「ワタシ、何でも教えるヨ!!」

1・30PRIDE GP VSマーク・ケアー戦は「単なるつまらない試合」か?「高レベルの技術の攻防」か?そしてホントに「大和魂、不発!!」じゃなかったのか?

エンセン井上

Enson Inoue INTERVIEW

聞き手/坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影/古澤聖三
photographs by Seizo Furusawa

「アナタ、ボコボコにするヨー!」

本誌前々号の自分の試合リポートに激怒したエンセンは、ボクの携帯電話に怒りの電話をかけてきた! というのは、前号で書いたが今号から読み始めた人は、そういった経緯があったことを踏まえてこのページを読んで下さいね ちなみに、その記事を書いたのはボクじゃないです これ、ホント!

ただ実際のところ、怒ったエンセン自身も「あの試合はつまらないネ」と言い切るほど、誰もが認める「つまらない試合」であったことは間違いない。

だが、「あれはエンセンが悪いワケじゃない」といった声も選手の側からは上がっているのも事実である

この問題の根源には、「見る側」と「やる側」のどうにも埋まらない温度差というテーマが横たわっている その温度差を縮めるために、今回、本誌は初の試みに着手する 技術解説とインタビューで、この闘いを多角的に検証するのだ! あの試合を面白いと感じた人も、つまらないと感じた人も必読のワイド企画です!

1・30 エンセン井上VSマーク・ケアー戦、4つのポイント解説

これがVTの見方です!!

【こんなときの対応策】



ケアーの突進が止まった瞬間に足を引いて、タックルを潰してフロントチョークを極めてしまう。これは思いっきり絞められたので非常に痛かった。



タックルが止まったら、踏ん張って相手のバランスを崩すという対処法もある。ただし、相手がケアーの場合は体重差もあるので難しいかもしれない。



相手がバランスを崩したら、そのまま馬乗りになってしまえ！　この後「ケアーの20%」と言いながらパンチを頂戴したが、目から★が出てきた。

試合開始直後



POINT 1

ゴング直後のパンチ

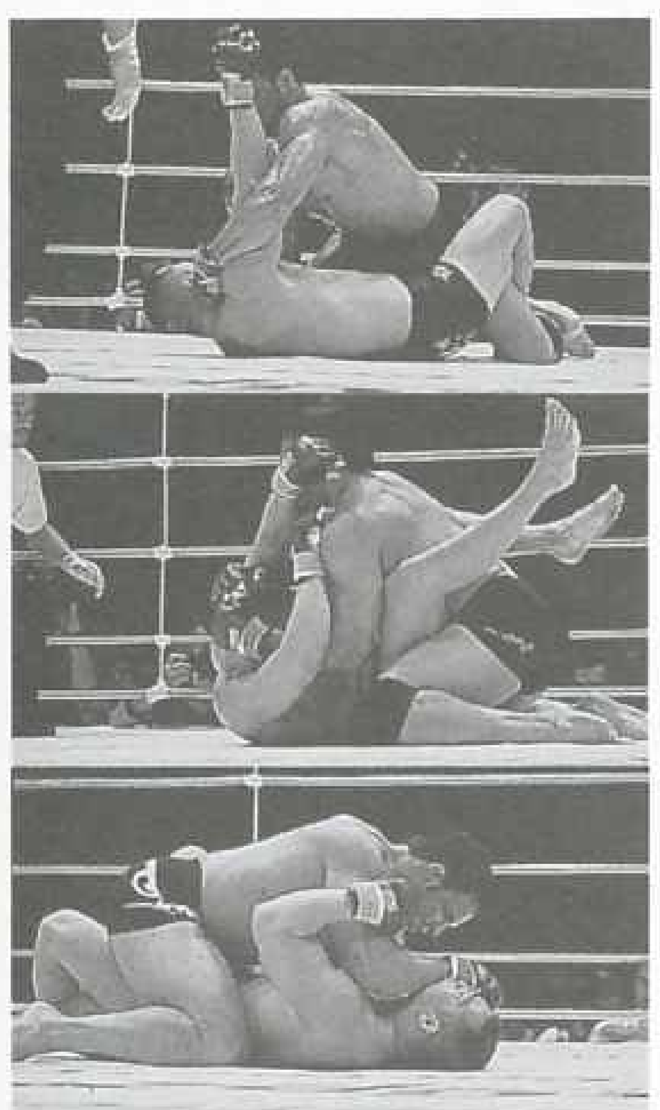
エンセンは、いきなりギャンブルに出た。街の喧嘩のようにノーガードで近づいて、いきなり殴りかかったのだ。ここまでは誰もが、この試合でエンセンの大和魂が爆発するものと思っていた。だが、ケアーはパンチをかわしてタックル成功！　テイクダウンを奪う。

「オレはケンカしに行った！　試合がつまんないのはオレのせいじゃないヨ（笑)。でも、オレも『つまんない試合』という意見にも賛成します」

このタックルで、試合の大勢は決まってしまったように思う。一度上に乗ったケアーは試合の大部分を「上になってコツコツ殴る」という安全策で攻める。

「いちばん最初にタックルに入った後、ケアーは一瞬動きを止めたヨ。あのとき、ムリヤリにでも離してれば……」とエンセンは言う。「れば」「たら」は格闘技の世界に禁物だが、このときタックルを切れたら爆発的な試合になっていたかもしれないと思うと残念でならない。

【ケアーの攻撃】



エンセンが「慎重だった」と振り返ったケアーの攻撃。相手にガード・ポジションを取られても、上からのパンチ、ゴールマンが佐竹からタップを奪った首ねじ切り、ギロチンチョークなど、あらゆる手を使ってエンセンを追い込んでいった。どれも非常に強烈だが、一発で試合を決めてしまうような破壊力はなかったようだ。

3:00経過



POINT 2

ガード・ポジション

両足でケアーの胴を挟み込むエンセン。いわゆるガード・ポジションだ。まだこの時点ではブーイングもなく、観客も逆転を期待していた。

「このとき相手との距離が離れると、パンチが思いっきり来るヨ」

下になったエンセンは、ケアーの首と腕を抱え込んで出来るだけ密着しようとする。

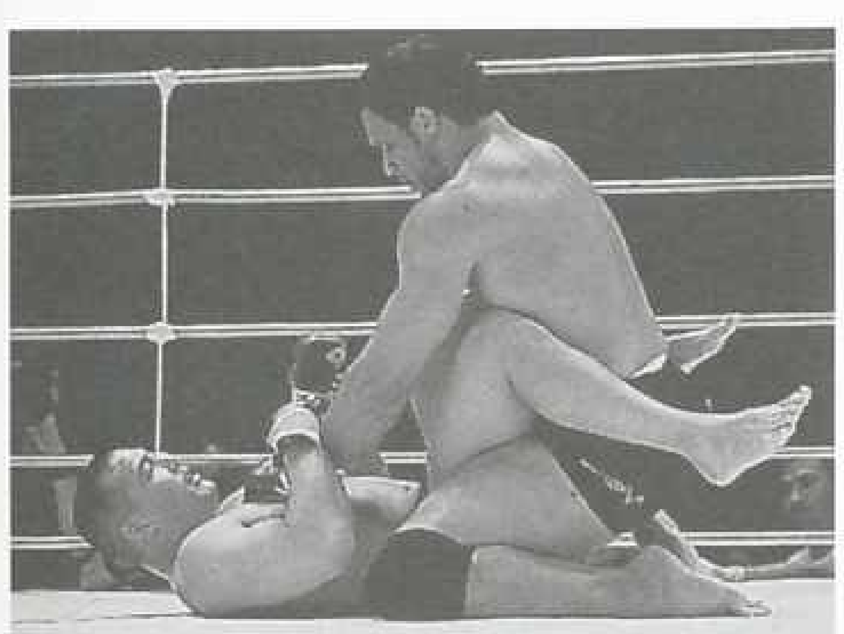
ただ、汗をかくと滑ってしまい、密着しにくくなるという。

実際、ケアーのハンマーのような重いパンチが何度もエンセンに襲いかかる。エンセンも下からパンチで応戦するが、下からのパンチでは決定的なダメージは与えられないという。

非常に地味に見えるこの攻防だが、ここでは腕と腕が激しい陣地争いを繰り広げているのだ。

ここでは、胴をホールドした足を解き、三角絞めや腕十字で逆転を狙うか、上の選手を巴投げのようにひっくり返すスウィープが有効手段だ。

【エンセンの反撃】



エンセンは下から腕十字or三角絞めを狙ったが、ケアーは警戒して絶対に腕を取らせなかった。

本誌が技術解説する理由

文・坂井“スモー”ノブ

前号でボクの携帯に電話を掛けてきて「ボコボコにするヨ！」と爆発したエンセンの怒りは、いまだ収まっていない。今回の取材中も「なぜか自ら立たなかった」という一文には不快感を隠さず、エンセンの主張を話してくれたので、ここで掲載しよう。

「この記事、『ピストル撃てるチャンスがあるのに、エンセンは何で撃たないの？』って書いてるようなもんだヨ！　試合を見ればわかるけど、撃つチャンスはなかった！　間違いない！　でも、いいよ。編集長の雑誌なんだし。あの試合で本当にワタシにムカついて、ああいう記事を書きたいんだったら、それでもいいヨ！　ただ、嘘ついて『そうじゃない！　アナタを応援してるからこそ、こういう記事を書いた』って言うなら気持ち悪い！　ホントの気持ち、直接会って確認したいヨ！」

エンセンの主張も、じつによくわかる。個人的な感想を言えば、是非直接会って話して頂きたい。そもそもウチの鬼畜編集長はいつもムチャな注文ばかりつけてくるのだ。まあ、そのへんは愚痴になるのでまたの機会に……。

さて、いままで本誌では、選手本人による技術解説のページは一切作ってこなかった。それは、本誌が一貫して「やる側」の雑誌ではなく、徹底的に「見る側」の雑誌というスタンスを貫いてきたからだ。ただ、いまのマット界はプロレスと総合格闘技がボーダレスにシンクロしている。プロレス側でも道場を開放し、その技術を一般人に教えた団体も少なくない。こうした時代の流れに応じて、本誌も必要な場合は今後もこういったページを割くだろう。

ただし、「強くなるため」「実戦のため」といった目的で技術を解説するつもりなどサラサラないので、そういったモノが読みたい人は『格闘マガジンK』や『ゴング格闘技』を読んでほしい。本誌はあくまでも「見方を提示する雑誌」なので、そこんとこヨロシク。編集サイドではなく、選手自身が見方を提示するという意味では、これも「見る側」のための企画なのだ。スタンスは何ら今までと変わるモノではないと思っている。

ただ、こういった技術解説だけで選手と観客の温度差が埋まるなどとは、到底思えない。キッチリと聞くべきことは聞いてきたので次のページからインタビュー開始だ！

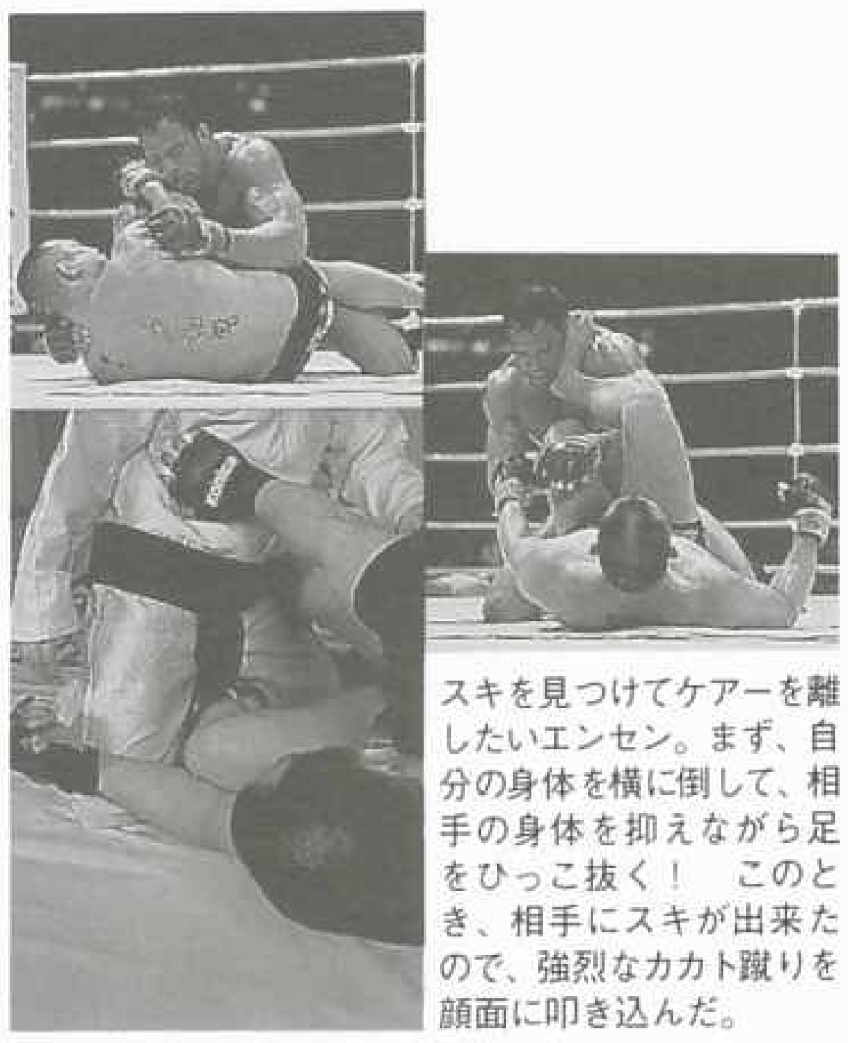
【防御方法アレコレ】



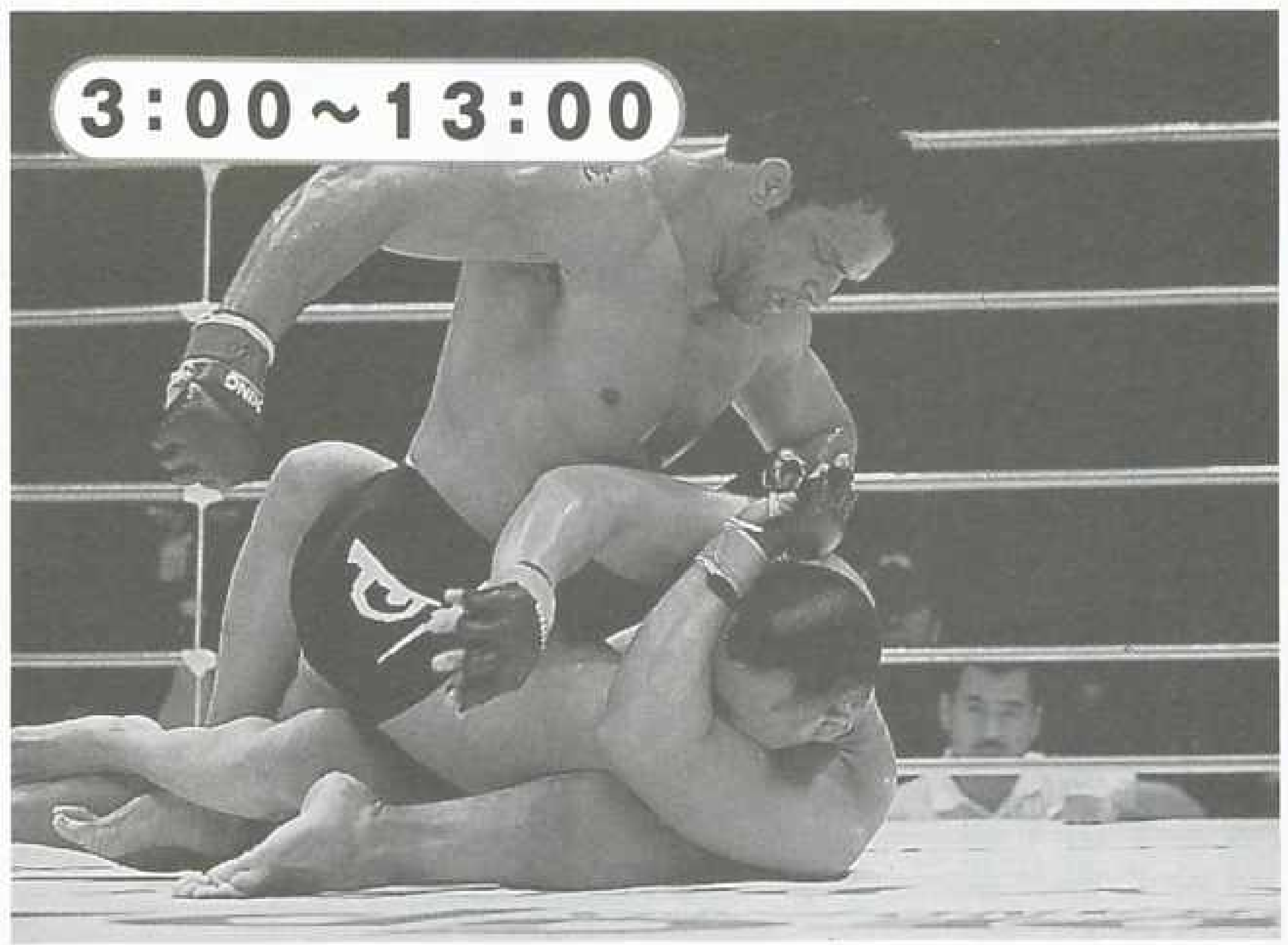
ハーフガードだと肘で相手の太ももをグリグリできる。地味ながらも強烈な痛め技だ。



エンセンはハーフガードに移行して、防御しながら、攻撃のチャンスをうかがう。下からでも、細かいパンチを顔面に入れていく。



スキを見つけてケアーを離したいエンセン。まず、自分の身体を横に倒して、相手の身体を抑えながら足をひっこ抜く！　このとき、相手にスキが出来たので、強烈なカカト蹴りを顔面に叩き込んだ。



3:00～13:00

POINT 3

ハーフガード

エンセンは、相手の胴体を挟むガード・ポジションから、相手の足を両足でホールドするハーフ・ガードに移行する。ここでエンセンは顔を横にそむけたり、ギロチンチョークを食らったりと防戦一方。この状態が長く続いたため、試合は完全にこう着して試合の流れが止まり、観客のブーイングを招いたフラストレーションのたまる展開だ。

「寝技のパンチを防ぐんだったら、ハーフガードの方が全然いいヨ。相手の重心が不安定になるから細かいパンチは出せるけど、KOパンチが出せなくなるネ。肘で相手の足を痛めることも出来るし」。

エンセンは早い段階から立ち上がろうとはしたが、ケアーのポジショニングの巧さに阻まれる。ケアーは慌てず騒がず確実に勝ちを狙いに来たので、時間だけが過ぎていく。

さすがに時間的にキツくなってくるとエンセンはケアーのアゴに蹴りを叩き込み、素早く足を抜いて、相手をようやく離したのだった。

【猪木vsアリ状態は危険!!】



相手にスキを与えないように、常に至近距離に立つケアー。下になったエンセンは足で相手のヒザを蹴るぐらいしか防御法がない。



気を緩めると蹴りが飛んでくる。佐藤ルミナはVTJ'98でここからKOされた危険なポジションだ。vsホイラー戦での桜庭は、この状態から相手の足が紫色に変色するまで蹴りまくった。

【間合い地獄だ！】



vsクートゥアー戦では、クートゥアーが蹴りも届かない非常に遠いところにいたのでエンセンは立てたわけだ。立つ際には、半身を起こしてチャンスをうかがう。



ただ、ずっと上体を起こしたままだと、相手の蹴りをモロに顔面に食らってしまうので要警戒。間合いによって膠着もするし、大きな展開も生まれてくる。



13:00～試合終了

POINT 4

猪木vsアリ状態

本誌編集長がNo.24で「なぜか自ら立たなかった」と書き、その記事にエンセンが激怒したこの攻防。たしかに立てない状況だろうが、そこで立って闘志を見せてこその「プロ」ではないのか？　観客の大多数も、編集部の人間もエンセンにはギャンブルしてほしかったのだ。エンセンは何度か上半身を起こして起きあがろうとするが、ケアーが間合いを詰めて蹴りを放ってくる。もし、ここで間合いを無視してエンセンが立ち上がったら、どうなっていただろう？　直接聞いてみた。

「蹴りかパンチかタックルが来ると思う。立ち上がってもムダになっちゃうヨ。また、グラウンド状態になるかもしれない。オレはうまくタイミングを見て、立てるときに立つ！　vsR・クートゥアー戦では、1分近く“猪木vsアリ状態”になって相手も遠かったから立ったヨ。でも、今回は時間も20秒ぐらいしかなくて、ケアーも近くに来てた！」

映像を見れば立つチャンスがなかったのは誰もが認めるところである。

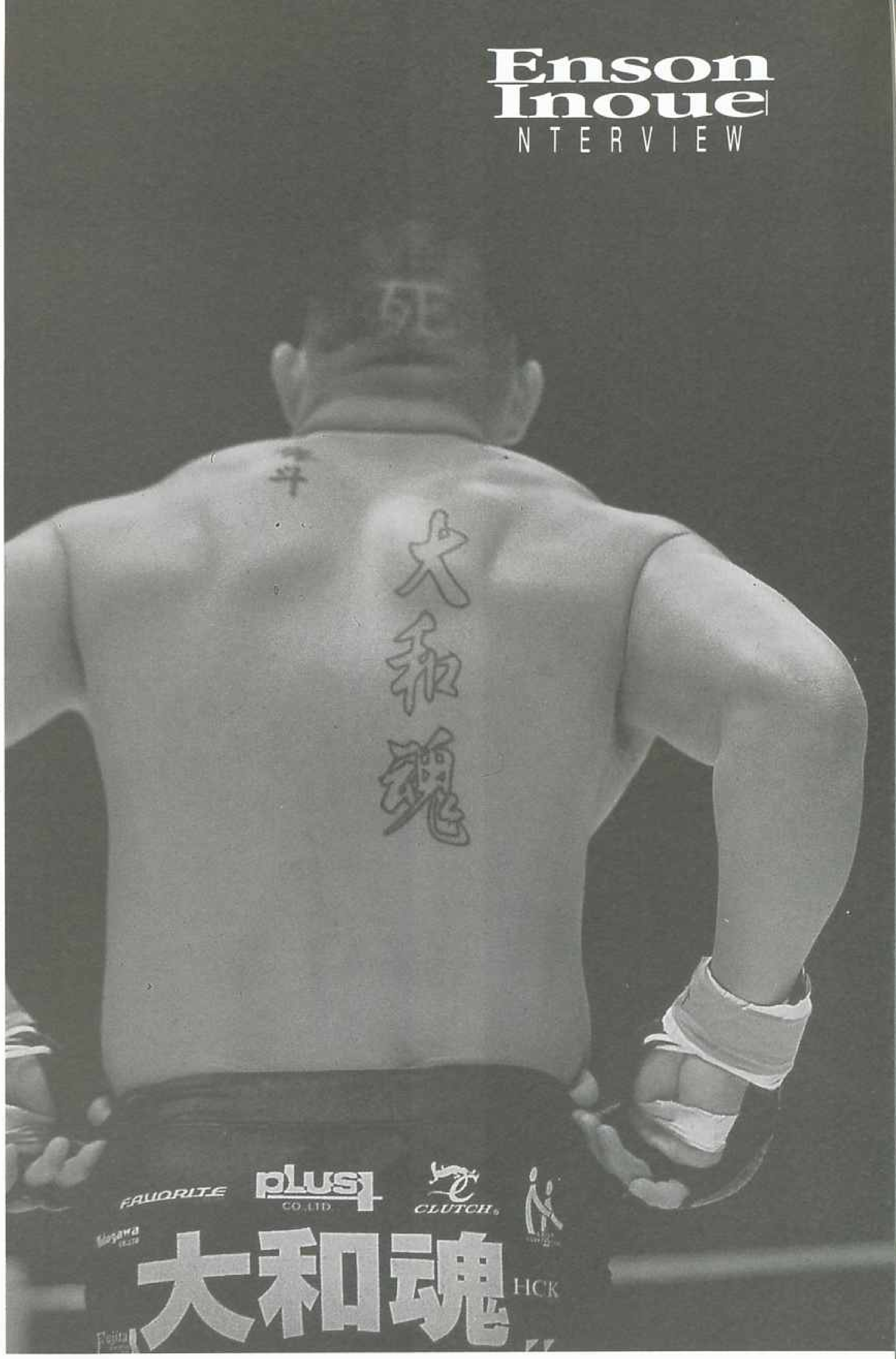
Enson Inoue INTERVIEW

本誌に激怒した今、改めて問う!!

大和魂とは何か?

~そしてエンセンにプロ魂はあるのか?~

いま、エンセン・バッシングがネット上で吹き荒れている。ズバリ言って非常にミクロな現象だが、これは簡単に無視もできない。『PRIDE.GP』のvsマーク・ケアー戦でファンが失望したのは間違いないところだが、その書き込みを読み、エンセンに対する期待の大きさの裏返しといった印象をボクは受けた。さらにアレクや桜庭といったプロレスラーたちの試合から立ち昇った「プロ魂」がエンセンからは感じられなかった、という点についても突っ込んで聞いてみた。すると、エンセンからは非常に意外な答えが返ってきたのだった!





——この興行全体的に言われてることですけど「膠着が多くてつまんない」という声が多かったんですよ。

エンセン たしかに、膠着するのはつまんないヨ。だから、みんなが「エンセンの試合、つまんない」って言ってもワタシは怒らない。たしかにつまんなかったヨ!

——自分でもそう思いますか。

エンセン ホントは殴り合いたかったネ。ファンもガッカリしたと思うけど、ワタシは直接ガッカリさせられたヨ(笑)。まあ……負けだヨ。でも、ケアーは試合後に「こういう試合でゴメンナサイ。でも、オレが勝つにはこの作戦しかない」って言ってきた。

——勝ったのに謝ったんですか?

エンセン 久々の試合で自分の体調が不安だったんじゃない? ケアーは全然悪くないと思う。お客さんのことを考えずに、上に乗ってコツコツパンチをするのがいちばん勝ちやすいからネ。でも、リング上で100キロ以上もある怪物みたいなヤツと殺しあいになったら、お客さんのこと考えられなくなるヨ。

——なるほど。その試合も大きな原因だと思うんですけど、いま『紙プロ』の読者がやってるホームページでエンセンさんのことがムチャクチャ書き込まれてるんですよ。

エンセン どういうことが書いてある?

——まあ、「『PRIDE. GP』での試合前の発言のわりに試合がつまらなかった」っていう内容が多いですね。あとは「エンセンが嫌い」っていう内容も多いですけど。

あなたたちの雑誌は心がつながってると思うから怒ったヨ!

エンセン そう? エンセンのことを知る人が多くなれば、嫌いになる人も多くなると思うヨ。でも、嫌いな人を気にするよりも、応援してくれる人を気にしたいね。応援する雑誌もあれば反対する雑誌もあるのと同じネ。あなたたちの雑誌は心がつながってると思ってるから、何かあったら怒るヨ。

——何かあるとボコボコにされかねないわけですね(笑)。

エンセン 逆に『週刊P』とかはどうでもいいヨ(笑)。

——どうでも良くないでしょう。「エンセンが暴行した」って記事が出ましたけど。

エンセン あれ、嘘ばっかりだヨ。あの記事を書いた記者が来た日、ジムの見学に来るお客さんがいたネ。で、オレと記者のやりとりも見学してたみたい。その人、記事が出て、それを読んだら事実と全然違うから、修斗コミッションに手紙を書いたらしいヨ。だから、コミッションも事実を調査してる。オレが「1時間暴力した」って書いてあったけど、そんなことしたら普通の人は死んじゃうはずだヨ。あれはいきなり

ルールを無視して取材して来た。バカ過ぎ！

——まあ、いろんなマスコミとのトラブルもあって、いまのエンセンさんは悪役になりやすい状況にいますよね。

エンセン　そう。流れが悪いネ（笑）。

——エンセンさん、いっそのこと悪役キャラクターになっちゃうっていうのはどうですか？

エンセン　どういうこと？

——いままではプロレスに理解のある数少ない格闘家ということで好感度も高かったですけど、今後はひたすら悪の部分だけを強調してみるのも……。

エンセン　（話の途中で）でも、オレは一番最初から言ってるでしょ。「ワタシはヒドい人」って（笑）。オレが怒るのは、自分がやらないようなことを他人にされたとき。でも、オレ以上に悪いことをするのは最低のヤツ！

——なるほど。いままで、ファンは「エンセンっていいヤツだ」と思って見ていたのが、「なんだ、ホントはヒドいヤツなんだ」って勝手に気付いてきただけなんですね（笑）。

エンセン　そうネ（笑）。でも、ヒドいヤツのままだと「大和魂」の言葉に失礼。だから、オレも直すところは直さないといけないと思う。「ガマンする大和魂」もわかってきたヨ。男は言いたいことでも、時間、場所、タイミングでガマンするときもあるネ。「大和魂」の言葉の意味は、「ギブアップしない」とか「やりたくないこともやる」のこと。「男らしく、自分のため闘う」っていうのは、いちばん簡単なやり方。これからは、つらいこともガマンするヨ。それでイメージが少し変わっちゃうかもしれないけど、それでもエンセンのことを応援したい人はお願いします。

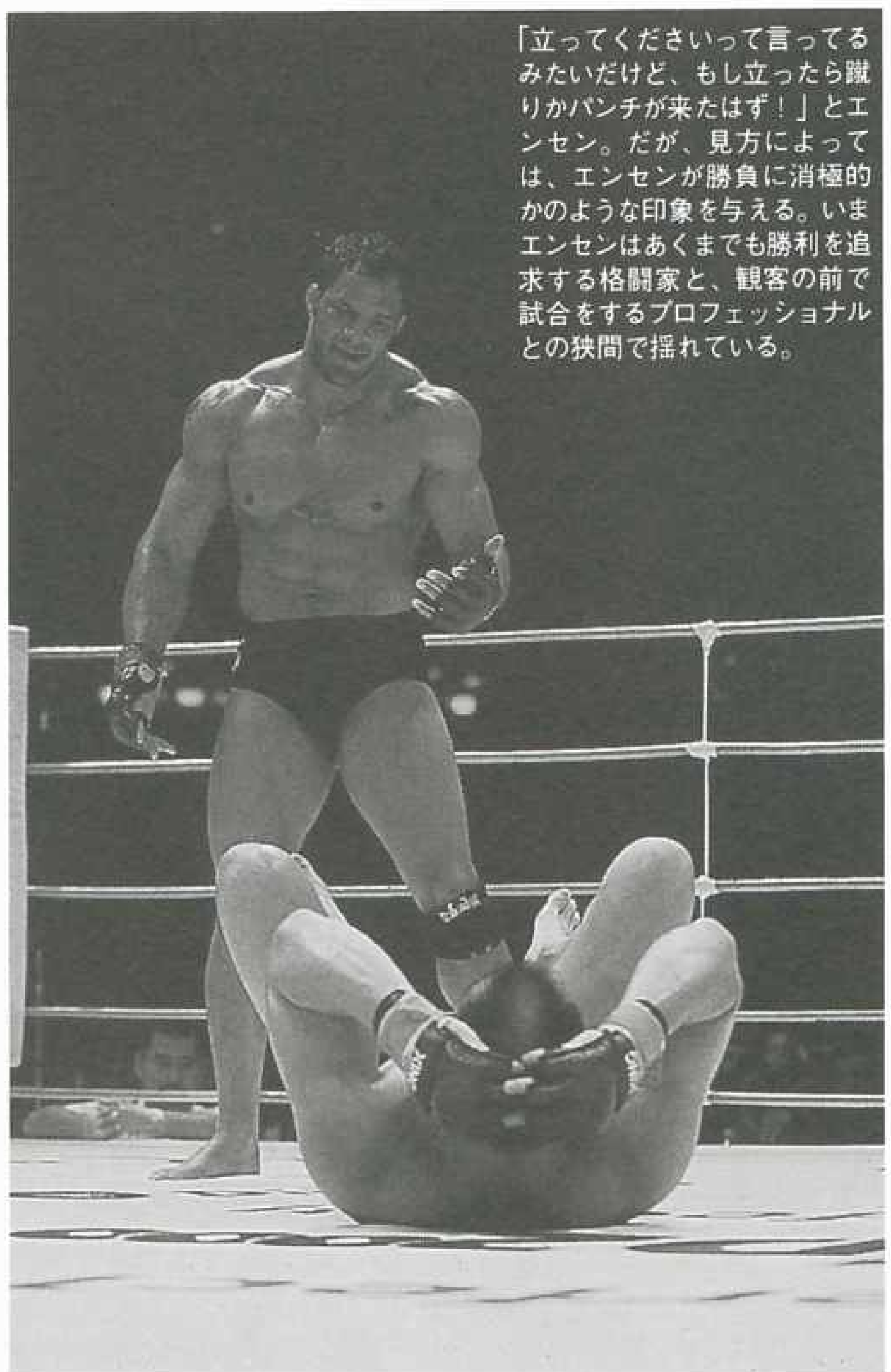
——いままでのファンが離れちゃう可能性もありますよね。

エンセン　しょうがないヨ。これから、ワタシは桜庭（和志）のようにならないとネ（笑）。冷静なときもあれば、怖くなるときもある。試合を見てると、桜庭とか（アレクサンダー）大塚は、ワタシより全然「プロ」だヨ！

——アレクも、こないだボブチャンチン相手に凄い試合をしましたよね。

エンセン　根性、ハートが凄いヨ。リングの中でも、外でも、お客さんの楽しめるような態度を自然に取ってるネ！　2人とも態度と闘い方の先輩だと思う。本当の「プロ」だヨ。

プロ意識？　ないヨ！ でも、プレッシャーは感じてる



「立ってくださいって言ってるみたいだけど、もし立ったら蹴りかパンチが来たはず！」とエンセン。だが、見方によっては、エンセンが勝負に消極的かのような印象を与える。いまエンセンはあくまでも勝利を追求する格闘家と、観客の前で試合をするプロフェッショナルとの狭間で揺れている。

——エンセンさんは自分では「プロ」だという意識はあるんですか？

エンセン　ないヨ！

——えっ!?　ない!?　たとえば、ケアー戦では、お客さんのことはあまり考えてなかったんですか？

エンセン　うん。オレは、お客さんのために対戦相手を殺しに行くわけじゃないネ。自然に闘うと、相手を殺しに行くような闘い方しか出来ない！　それをお客さんも面白いと思ってくれるネ。一石二鳥みたい（笑）。

——まあ、今回はちょっと違いましたけどね。

エンセン　普通、格闘技の選手は自然に試合するとお客さんがすごくつまんなく感じる場合もあるでしょ？　お客さんを楽しませようとしたら、無理矢理楽しませないといけない。でも、オレは無理矢理じゃない。

——それが自然であると。

エンセン　でも、オレは「大和魂」の看板を背負ってる。お客さんも「エンセン、勝負しろ！」みたいな目になってきてる。そういうプレッシャーは感じてるヨ。だから、オレは死ぬまでタップしない。それだけは約束する！　（佐藤）ルミナみたいに、「6秒で勝つ！」とか、バカなことは約束できないけど（笑）。

——ルミナさんの「6秒で勝つ！」発言が、プロ意識だという捉え方も一部ではありますよね。

エンセン　でも、こないだ大仁田（厚）さんと話して「死ぬほど入場にこだわる」っていうのもプロフェッショナルだと思ったヨ。「これがプロ」なんてことは、いくらでもあるんじゃない？

——それでも、エンセンさんにはプロ意識はないわけですよね？

エンセン　オレはたまたまプロのレベルになって、プロのリングで試合をやってるだけだヨ。

——たまたまって……。

エンセン　自分が有名人のつもりは全然ないヨ。だから、悪いことすると10倍大きくなるってまだ気付いてない。

——あっ、まだ気付いてませんでしたか（笑）。

エンセン　遅いよネ（笑）。もっと、うまく生きるようにわかった方がいいと自分でも思うネ。でも、オレは鼻高くなりたくないから、「自分は普通の人なんだ」ってずっと思ってた。ワタシは普通の人だヨ。寝るときもある、泣くときもある、ゲームセンターも子供みたいに好きだし、ピンが刺さったら痛い、女の子を見たらいいなって思うヨ……みんなと変わらない。だから、見られ方もみ

「やる側」の選手の意見は、「エンセンは悪くない！」

本人の希望により、あえて名前は出さないが、何人かの選手にエンセンvsマーク・ケアー戦の感想を聞いてみたところ、ほとんどが「あの試合はエンセンがかわいそうだった。ケアーが上に乗って動かなかったからね」という意見だった。他にも『ゴン格PLUS vol.6』で佐山聡が「GP1回戦の中では一番いい試合だったと思いますよ。一生懸命取り合っていたしね（中略）まあ、良く頑張ったよ」と語っていたのが印象的だった。だが、「見る側」には、その「取り合い」の攻防がいちばん分かりづらいのだ。



んなと同じになりたい。

――普通でいたいわけですか。

エンセン でも、いまの状況で「それは無理」って認めた方がいいのかもしれない。

――逆に、ファイトマネーをもらって人前で闘いを見せてるんだから、立派なプロフェッショナルだという考え方もできますよね。

エンセン う～ん……そうネ。ファイトマネーをもらってリングに上がってるんだから、自分が思わなくても「プロ」だネ。だから、リング上だけじゃなくて、普段の生活でも大和魂で勝負しないといけない。

――それは、さっき言ってた「ガマンするべきところでガマンする」ということですよね？

エンセン そうネ。

――いま変わりつつあるんですね。

エンセン さっき、あなたが言った「エンセンが悪役キャラクターになる」っていうのも、面白いかもしれないネ。お客さんは、エンセンの負けるところを見に来て、ブーイングばっかり（笑）。

――エンセンさんは「くたばれ！」とかお客さんに言ったりして（笑）。

エンセン ハハハハ！　それも出来るけど……やっぱり「大和魂」の看板背負ってるから。「大和魂」は心に付いてるもの。エンセンの売り言葉じゃないから。「大和魂」の看板は、お客さんやマスコミやファンにつけてもらったものだヨ。オレが言いだしたことじゃないんだけど、「大和魂」の人間になりたくなった。

――あっ、あれはエンセンさんが言いだしたんじゃなかったんですね。

エンセン そう。でも、ワタシはまだ「大和魂の男」ではないと思う。

――へっ？　どういうことですか？

エンセン 夢は「大和魂の男」になりたい！　やりたくないことをやる、家族のためにすべてを犠牲にする、つらくてもギブアップしない……普段からそういう男になりたい。

――なりたいってことは、まだこれからなんですね。

エンセン いま、いちばんカッコいい男になる途中だヨ。いまのオレは「大和魂」の言葉を使うのはまだ失礼！「大和魂」なんて言っていいわけないヨ！　まだ、ワタシは追いかけてる途中ネ！

――じゃあ、自分に「大和魂」がなかったから、「大和魂」に憧れたから、そういう人間になりたいと思ったわけですか？

エンセン う～ん、「大和魂」はあるヨ。必ず、ワタシの心の一部に「大和魂」の部分はある。でも、ないときも多いヨ。まったくないわけじゃないけどネ。いま「エンセンこそ大和魂だよ」って言ってくれる人もいるから。そういう人たちにエンセンの弱さがバレる前に、「大和魂の男」になりたい！　もう、バレてるかもしれないけど（笑）。

――アハハ！　今日のエンセンさんは、さらけ出しますね（笑）。

エンセン 「大和魂」が仕事用の言葉だったら、いくらでもワタシは悪役になれるヨ。「大和魂」にバッテンをつけたTシャツも作ると思うし（笑）。でも、仕事じゃないから、それは難しいネ（笑）。だから、いまエンセンのことを悪く言ったりする人が出てくるのも、おかしくないと思う。自然に、そういう立場になってるヨ。

――まあ、いまエンセンさんに飛んでるブーイングも、いい試合をすれば評価は一変すると思いますから。次の試合で「エンセンさんが望む「殺し合い」の試合を見せてください。

エンセン うん。わかったヨ！

【00年3月24日PURERBRED大宮にて収録】

※赤裸々に自分の弱さやダメな部分をさらけ出したエンセン。怒るときも、落ち込むときも、非常にストレートすぎるその生き方に、好き嫌いが分かれるところだろう。もし、エンセンがこのままプロ意識を持たないままだったら、エンセンの将来は正直言って見通しが暗かったと思うが、今回のインタビューでプロ意識の芽生えだけでも確認できたのは大きな収穫だった。本誌鬼畜編集長が何と言おうがボクはエンセンのさらなる成長を期待しながら待つつもりだ。

いまのオレが「大和魂」の言葉を使うのはまだ失礼！

キミも直接、大和魂に触れてみないか？

エンセン井上、朝日昇、加藤鉄史、桑原卓也、池田久雄などプロ修斗に多くの選手を送り込んでいる『PUREBRED大宮ジム』（PUREBREDシューティング大宮ジムから改名）。総合格闘技や柔術を学びたい人、身体を鍛えたい人、シェイプ・アップやダイエットなども出来ます。もちろん女性も歓迎です。エンセンが教える柔術クラス、朝日昇が教えるトータル・ファイティングや関節技教室など、目的によってコースが選べるので、初めての人でも安心です。

お問い合せ：PUREBRED大宮ジム

〒330―0001埼玉県大宮市丸ヶ崎2919-1大宮健康センター湯の郷別館

TEL.048-686-3328

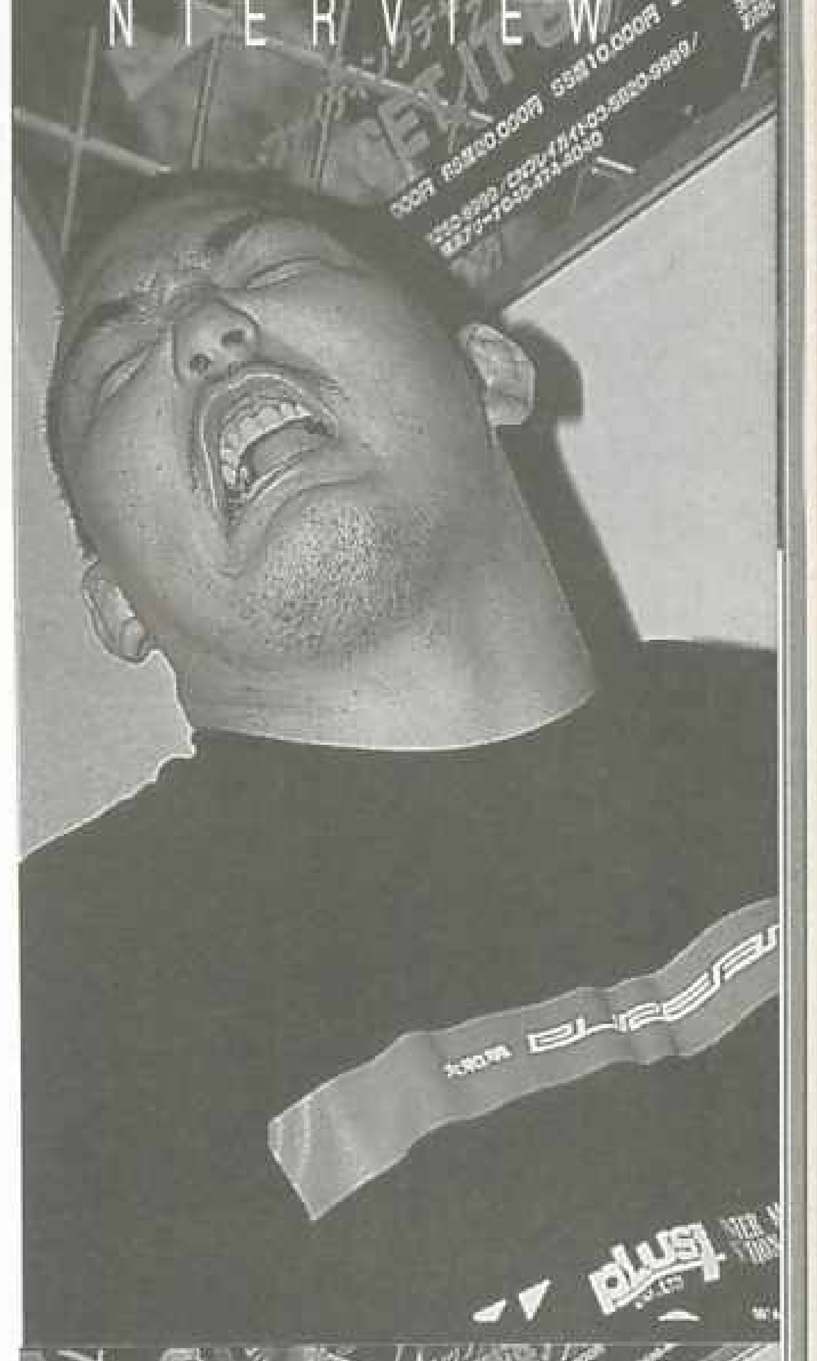
付録：『PRIDE.GP』優勝者予想 エンセン断言！「ケアーが優勝するヨ！」

「ケアーが優勝するヨ！　ワタシとの試合のときは、体調が戻ってるかどうか、心配だったから、あまりギャンブルしなかったみたい。でも、アブダビでのケアーの闘いを雑誌で見たり、話を聞いたら、負ける要素がないみたい。藤田さんもレスリングの人だしグランドも強いネ。だけど、バーリ・トゥードのキャリアだったらケアーの方があるからネ。桜庭は間違いなく勝つ！　彼が試合でいろいろ技をやろうとして遊びすぎるのが怖いけど（笑）。それ以外は大丈夫ヨ、でも棄権するんだって？　もったいないネ（笑）。決勝戦はケアーvsボブチャンチンになると思うけど、ケアーはいまの体調なら大丈夫。まあ、ワタシが負けた相手だから、優勝して欲しいの気持ちもあるヨ（笑）。



えんせん・いのうえ■1967年4月15日、アメリカ・ハワイ州ホノルル生まれ。ハワイ時代にヘウソン・グレイシーの道場でグレイシー柔術を習う。ラケットボールのプロ選手（日本ランキング1位）だったが、VTJ'94のヒクソン・グレイシーの活躍を見て、本格的に格闘技に転向。佐山聡の元でシューティングを学び、修斗ヘビー級王者になったが、強敵を求めて現在は『PRIDE』のリングで大暴れ中。いずれは、修斗のリングに戻ってきて試合をするつもりである。180センチ、95キロ。

Enson Inoue
INTERVIEW





発売日遅れちゃった記念!







プロレス スーパースター 外伝

新日本プロレス元レフェリー&外人係

ミスター高橋

Mr.TAKAHASHI

新日のイタズラ番長、ついに登場!!

聞き手／吉田 豪
interview by Go Yoshida

構成&撮影／中村カタブツ君（37歳）
text & photographs by Katabutsukun Nakamura

前号で紹介した通り、新日本プロレスを引退後、「新日本プロレスリング・セキュリティ」を興したミスター高橋。

長年に渡って新日のレフェリー&外人係を担当してきた、その人生は実に波瀾万丈だ。それは最近刊行した著書『プロレス、至近距離の真実』を読んでもわかる通りだが、やはりナマの言葉で聞きたいのが人情。

昭和新日の抜群に面白い試合を陰からしっかりと支えてきたミスターのイタズラ心たっぷりありすぎの人生に迫る。

プロレスラー時代の話から、新日入り後、外人係としてウィリアム・ルスカやダイナマイト・キッドなど気持ちいいほどデタラメな男たちとガップリ四つに組んずほぐれつしてきた、その骨太の生きざまをたっぷりとお届けしよう!

――いや～っ、今日は聞きたいことがたっぷりありすぎて困るぐらいなんですよ（笑）。

高橋　そう？　ここんとこプロレスの雑誌も見ることが少なかったんだけど、送っていただいた雑誌（『紙プロ』）を見てると懐かしくて涙が出そうなところもありましたよ（笑）。まだ引退して日が浅いから、もう少し経てば冷静に見れるのかもしれないけどねえ。そういえば雑誌読んで初めて知ったんだけど、男子と女子が一緒んなって闘う試合があるの？

――ミックスド・マッチですか？　最近は一部団体で当たり前のように行われてますね。

高橋　ミックスド・マッチは昔からアメリカにもあったけど、女子と男子は実際には闘わなかったもんですよ。でも、いまは普通に闘ってるんだねえ。引退して2年足らずなのに、なんか違う世界を見てるような気がしたな。全体的には格闘技的な世界と、そうじゃない世界がハッキリ分かれてるような感じだね。

――昔の新日本はその中間にいたと思うんですけど、変に割り切ってないからこそ腹の括り方が違ったと思うんですよ。高橋さんにも、そういう土性骨をビンビン感じるというか。

高橋　あ、そう（笑）。まあ新日本にいたときは、「プロレスはこうあるべきもので、それ以外はレスリングじゃない」なんて思ってたけど、今はもうそうじゃないよ。インディーの団体だって一生懸命プロレスやってんだから、お互い批判しあったりしないほうがいいねえ。スタイルが違うっていうだけで、あれもプロレスなら、これもプロレスですよ。

――そういえば、高橋さん自身が「僕は元祖インディーレスラー」と言われてましたよね。

高橋　まあ元祖インディーというか、単純に行き場がなかったからなんだけどね（笑）。もともと俺は力道山のところに入りたくて身体を鍛えちゃあ何回も直にお願いに行ったんだけど、そのたびに「もう少し大きくなってから来い」って言われてね。「柔道3段です」なんて言っても笑われちゃうだけだから。

――3段程度じゃお話しにならない、と。

高橋　「ウチには5段6段がザラにいるよ」なんて言われてさ（笑）。柔道の選手でも日本選手権に出た人とか、お相撲さんでも幕内まで行った人とかばっかりだったからねえ。そのうち、昔、山口利夫先生のところにいた方がプロレスの団体を作りまして、そこから誘われたんですよ。で、そこの団体はある理由があって日本では興行ができなかったんですよ。だから外でやろうってことで東南アジアなんかで興行したんですよね。

――東南アジアでは、噂によるとパク・ソンナンと闘ったことがあるらしいですね。

高橋　ああ、あるよ。

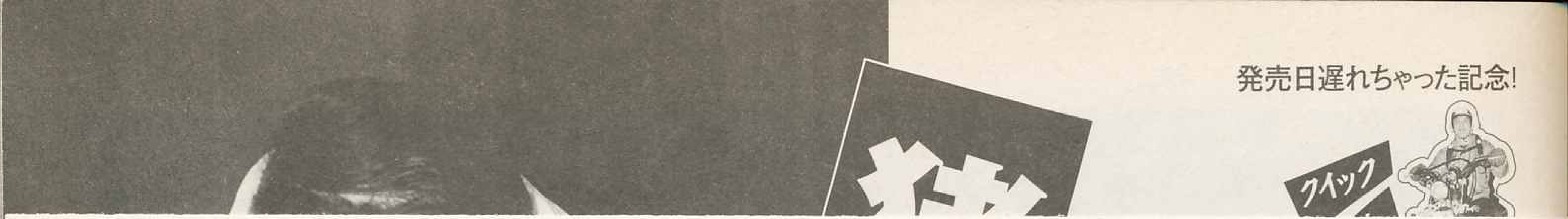
――ズバリ言って、パクは強かったですか？

高橋　技術的にはたいしたことはないと思うけど、身体はかなり凄かったですよ。練習もガンガンやってたからねえ。その団体では何シリーズか出てたんだけど、そのうち潰れちゃったんですよ。でもまあ、僕は英語ができたもんで一緒に来てた外人選手に声を掛けられてね、ひとりでシンガポールやタイなんかをサーキットしてたんですよ。

――その後に東郷さんと新団体設立を目指してたって聞いたんですけど、それっていわゆるTBSプロレ



1976年パキスタン遠征の時のスナップ。中段一番左のヒゲの男がアクラム・ペールワンだ。また、前段左端に座っているのが、アクラムの甥のジャラで、彼は一族の名誉挽回のため、生涯にわたって猪木さんを追い続けた



プロレススーパースター外伝

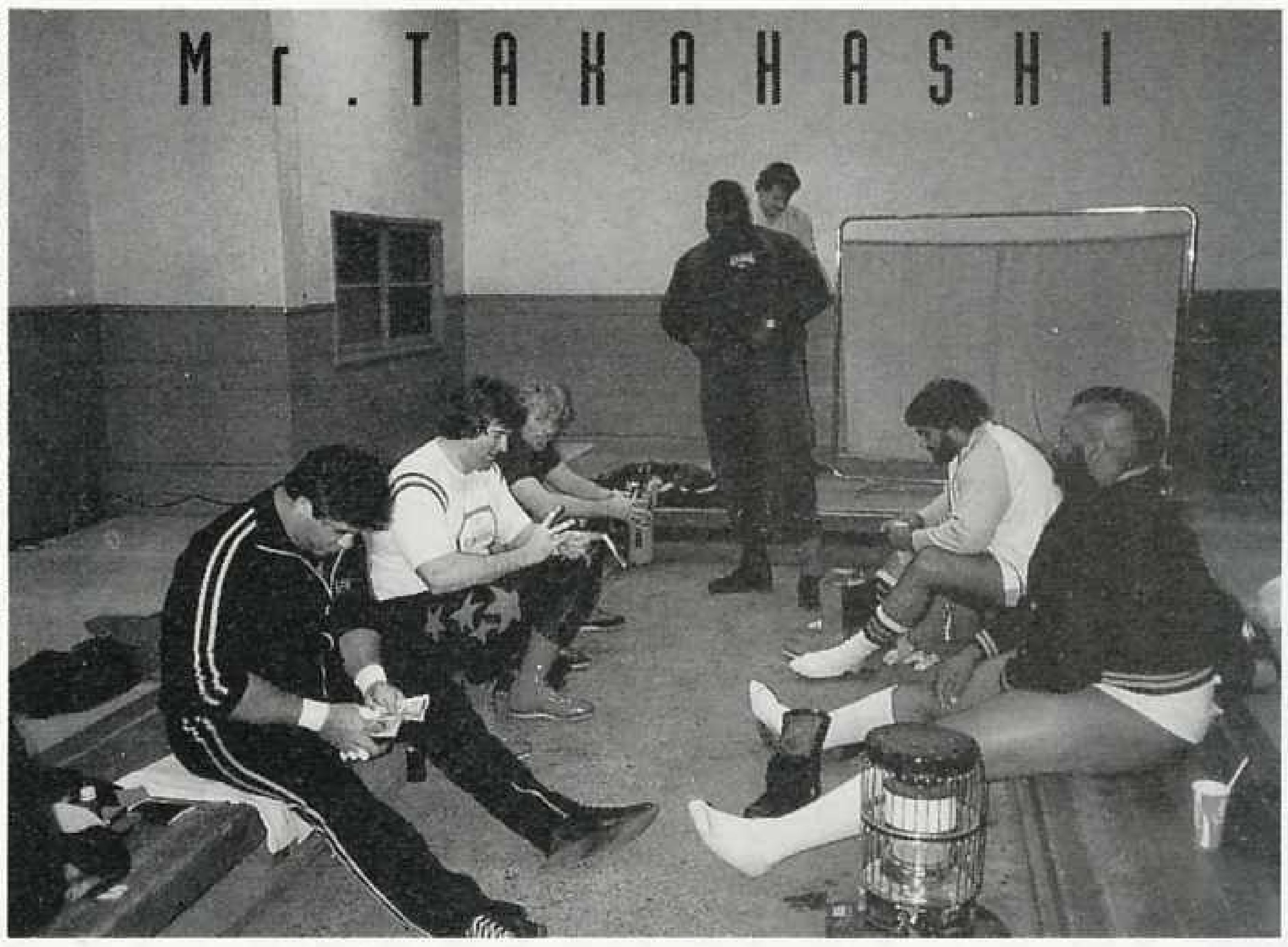
スのことじゃないですか？
高橋　いや、僕は選手で入っただけだから、よく知らないねえ。結局、旗揚げせずに終わったから、僕もハッキリとは覚えてないけど。日本プロレスの創成期からレスラーとして活躍されていた金子武雄さんという、僕がずっと懇意にしてもらってた方とルー・テーズとグレート東郷さんと、なんていう名前だったか忘れちゃったけど新団体（テーズ&トーゴー・エンタープライズ）を旗揚げしようって話だったんですよ。確か、昭和44、5年ぐらいの話で。旗揚げ第1戦はサンフランシスコでやるっていう話もあったんだよね。

――は～っ、夢のような話ですねぇ（笑）。

高橋　そう。当時、日本プロレスにいた吉村道明さんも、キチンと形ができあがったら参加するっていう話もあったみたいですねえ。あと、僕が新日に入ってから平田がね、「僕、高橋さんが練習してるところを見てました」って言うんだよ。当時、中学生ぐらいだった平田が「いつかはここに入ろう」と思ってて、よく見学に来てたみたいだったんだね（笑）。

――その後、昭和40年代の中頃に、今度は高橋さん自身がボディビルダーたちを率いて「日本プロビルダー・ファイト」という新団体を旗揚げしようとするわけですよね。

高橋　僕はね、前号のプロフィールで「初代ボディービルチャンピオン」って書いてあったけど、ボディビルの大会で全日本7位になったことがあるんですよ（正確には「初代パワーリフティング全日本ヘビー級チャンピオン」の間違いでした。スンマセン。byブチ）。その大会で彼らの身体を見たときに、「見せるだけじゃもったいないな、格闘技に生かせるだろう」と思って、これを始めたんですよ。



蔵前時代の国技館の外人側控え室の風景。当時、記者たちは決して控え室には入れなかったという

――当時の『ゴング』によると、これはメリケンサック着用で殴り合う古代パンクラチオン路線の競技だって書いてあったんですが。

高橋　いやいやメリケンサックなんてとんでもない！ そんなもの使やしないよぉ（笑）。今、格闘技で使われてる指が自由に動くグローブを付けさせてたんですよ、自分で作って。

――うわっ！ あれは、これまで日本だと佐山聡さんが作ったって言われたんですけど。

高橋　俺はそのときに作っちゃったんですよ。当時、あんなグローブなんてないからさ。

――ブルース・リーより先じゃないですか！

昭和40年頃、勝敗はギブアップのみの新団体を旗揚げしようとしたんですよ

高橋　いわゆる顔面殴って関節を極めてもいいというルールにしてたもんで、素手で殴っちゃうと殴った方も殴られた方もダメージが残っちゃうでしょ。でも、佐山が作ったってことでいいんじゃないですか？ だってあれは外に出ることはなくて、あれっきりで終わっちゃったから。当時、佐山はまだ子供だし、そんなもの知ってるわけないんだからさ。

――しかも、打・投・極で時間内に何回極められるかっていうルールだったんですよね。

高橋　そうそう。で、勝敗はギブアップのみだったんですよ。

――まさに、いまの総合格闘技ですよ（笑）。

高橋　まあ、実際に立ち上げるまではいかなかったんだけど、公開練習はしたんだよ。で、それを見た『ゴング』の竹内さんに「これはリングでやるよりも、どっかの原っぱでやったほうが合うね。最初は馬に乗って登場して、馬同士のぶつかりあいから格闘に流れていくといいんじゃないか」なんて言われて（笑）。

――それで衣装がローマ時代の剣闘士スタイルになったんですか（笑）。ちなみに最初にアルティメット大会とか見たとき、「なんだよ！ これ、俺がやろうとしてたやつじゃねえか！」とか思いませんでした？（笑）

高橋　う～ん、まあねえ（笑）。

――ダハハハハハ！ つくづく20年ぐらい早すぎましたね（笑）。

高橋　でもねえ、僕も若かったもんで結構無茶な稽古をしたりさせたりしたから、選手の怪我が続出してね。多かったときで、20人ぐらい選手がいたんですけど、最終的には5、6人しか残らなかったんですよ。そうなっちゃったら興行的にはとてもねぇ。これはいままで話したことなかったんだけど、女子プロレスの興行の中で、そういった試合をいくつか組んでみてもいいんじゃないかって話もあったんですよ。だけど、ウチの選手にその話をしたら「嫌だ！」って言われてねぇ……。

――それで結局、女子プロレスのリングに上がる話も実現せずに終わっちゃった、と。

高橋　実現しなかったねえ。なにせ選手が5人ぐらいしかいないから、カードも組めないしね。俺が3試合ぐらいやればよかったんだろうけどねぇ。

――あっ、じゃあ高橋さんが試合に出るつもりもあったんですか？

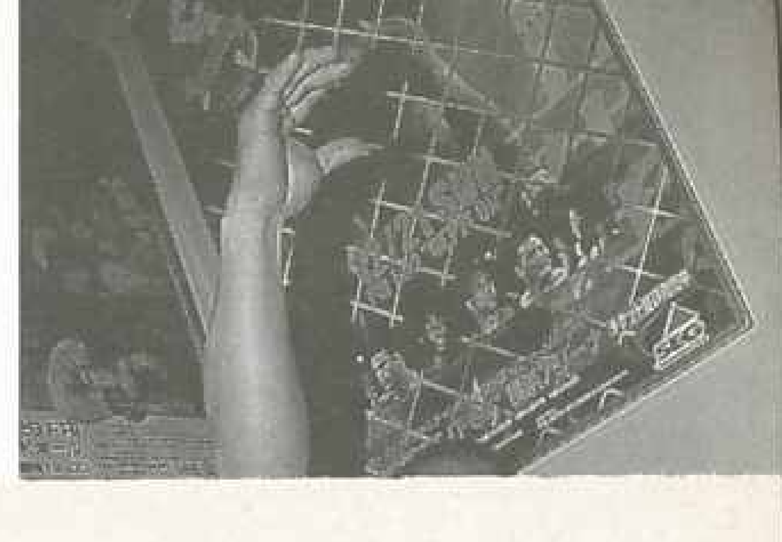
高橋　もちろんもちろん。俺が初代のチャンピオンになるつもりだったから。だって私は道場でも圧倒的に強かったからね（笑）。

――いいなあ（笑）。その選手を引き連れて、別の団体と対抗戦を行うみたい考えはなかったんですか？ 例えば日本プロレスとか。

高橋　いやあ相手にしてもらえんでしょ。体が違いすぎますからね。ウチの選手は平均して80キロぐらいしかなくて、今のジュニアの選手より小さかったんですよ。また、当時の日本プロレスの選手はみんな大きかったですしね。仮に、こっちからお願いして闘ったとしても壊されちゃうだけですよ。

――本当に早過ぎた修斗だったんですねえ（笑）。それで、その団体がなくなった後に新日から誘われるっていう流れなんですか？

高橋　いやいや、なくなったというわけじゃなくて、選手がそれしかいなくなって、「どうしようかなあ」と思ってたときに新日本プロレスが旗揚げしたんですよ。それで（山本）小鉄ちゃんが、新弟子だった藤波（辰爾）さんと木戸（修）さんを連れて僕の家にきたんですよ。「選手が足りないんだよ。高橋、お前上がってくれないか」って。でもそのとき、僕は怪我でヒジがまったく動かない状況だし、盲腸をこじらせてたっていうのもあって「いま体調が悪いからもう少し待ってくれよ」って言ったんですよ。それでまあ新日本



んなと同じに
――普通で
エンセン　で
れは無理」っ
もしれない。
――逆に、フ
て人前で闘
立派なプロフ
考え方もでき
エンセン　う
イトマネーを
ってるんだか
も「プロ」だ
だけじゃなく
和魂で勝負
――それは、
ンするべき
いうことです
エンセン　そ
――いま変
エンセン　さ
「エンセンが
る」っていう
ないネ。お客



が旗揚げしてしばらくしたら、「まだ体調が良くないなら、レフェリーと外人係をやってくれないか」って言われたんですよ。でまあ、山本に2度も来てもらったっていうのもあったんで「わかった」と。実はまったく同じ時期に全日本からも誘われてたんですよ。

――レフェリーで、ということでですね。

高橋　はい。当時、田鶴浜弘先生が全日本のテレビの解説をしてたんですよ。それで、そのときのレフェリーがジョー樋口さんとジェリー・マードックだったんですけど、ジェリーが故郷に帰りたがってたらしいんですよ。そういうこともあって先生から「実は馬場くんにも話してあるんだよ。ウチでレフェリーやってくれないか」って言われたんですよ。

――当時から全日はテレビ局もついてたわけですから安定してたわけじゃないですか。普通なら、そっちを選びたくなりますよね。

高橋　でも、やっぱり友達が来て「頼む」って言われてるのに、全日に行くなんて言えないじゃないですかぁ（笑）。

――男としては当然の選択ですね（笑）。選手としての未練はなかったんですか？

高橋　「最初はレフェリーで入って、体調が良くなったら選手として」っていう話だったんだけど、なんかいつの間にかズーッとになっちゃった（笑）。だけど練習はしてたんですよ。当時、猪木さんのタッグパートナーだった柴田（勝久）さんがまだ現役で、いつも僕に胸貸してくれてたなあ（笑）。

――その習慣がずっと続いて練習してたから、いまみたいなナチュラルないい体を保ち続けられていられるわけですね？

高橋　私がいい身体かどうかはわかりません（キッパリ）。だけど、その頃は105キロぐらいあって、腕まわりも50センチぐらいありましたよ（笑）。まあ実際レフェリーをやってたら、立場とか選手のことを考えると戻れっこないっていうのはわかってましたけどね。それでも体を鍛えておかなきゃいけないと思ってたのは、当時の新日本はならず者同然の外人がゴロゴロいましたからね（笑）。喧嘩なんて、もう日常茶飯事ですから。

――体力ないとやってられませんよね（笑）。

高橋　それもそうだし、「いつでもやってやるぜ！」っていう気持ちでいないとナメられるからね。「やるからにゃあ、身体がなきゃできねえ」って思いまして。実際殴り合いは何回かやってますからねぇ（笑）。

――包丁突きつけたりとかもしたし（笑）。

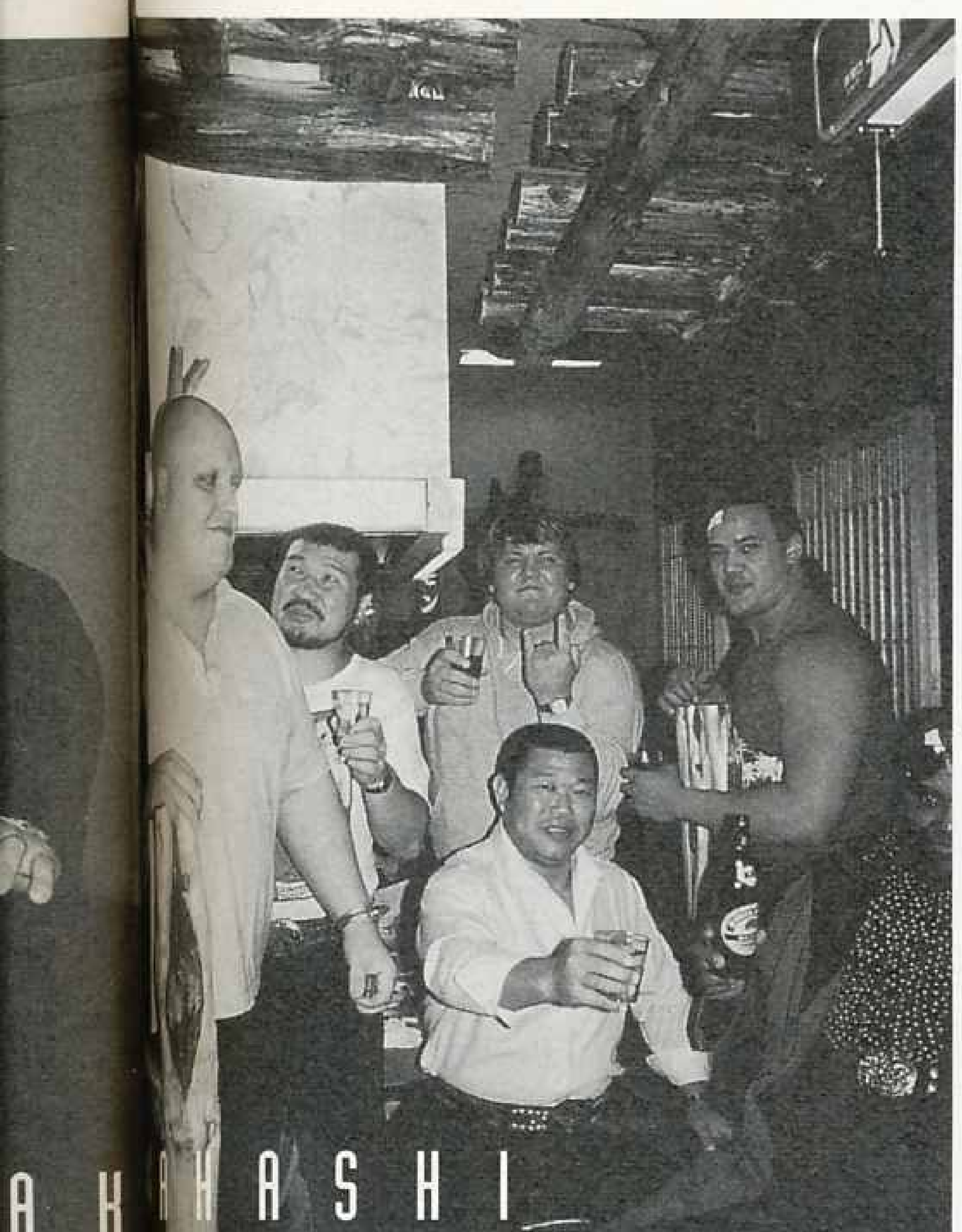
高橋　いま思い出すと、よく殺されなかったなぁって（笑）。旅館の人がせっかく用意してくれた食事をキラー・カール・クラップが「こんなもん、食えるか」って蹴飛ばしたんですよ。それで俺も頭に来てね、喉元に包丁つきつけて「蹴っ飛ばしたお膳、全部拾って食え！」って言って（笑）。

――そんな状態だったら、普通はメシなんて食えないですよねえ（笑）。でもナメられたら最後っていうのは、よくわかりますよ。

高橋　でもねえ、外人がストレス溜まってたのはよくわかりますよ。当時のファンは「日本人勝った？　外人負けた？」って感じなんです。外人は悪い奴っていうイメージがあるから、宿帰って女中さんに「日本人が勝った」って言ったら喜ばれるんですよ。「外人が勝った」って言ったら機嫌悪くなったりね（笑）。

――外人にしてみたら、そりゃあたまったもんじゃないですよね（笑）。

高橋　いまみたいに女性ファンがいるような時代じゃなかったからね。ならず者みたいに怖がられてたところもあったし、当時はそういうのが売り物の選手ってたくさんいたじゃないですか。実際、喧嘩でメシ食えるんだったらこんないい世界はないって言って入ってくる奴も大勢いたしね（笑）。



左からキングコング・バンディ、柴田レフェリー、ひとりおいてワイルド・サモアン、アブドーラ・ザ・ブッチャー。北海道巡業中のアイヌ酒場で和む強者たち

――だからこそ出てくる迫力もあったし。

高橋　それはあるね（笑）。金遣いが物凄く荒い選手とかね。一番凄かったのはムーンドッグ・ロニー・メーンっていう選手がいたんですよ。1ドル360円の時代でギャラが一週間に3000ドルだか3500ドルだか払ってたんですよ。当時としてはかなり高いランクですよ。それで5週間居て帰るときに一銭も持ってないんですよぉ（笑）。

――ダハハハハ！　豪快ですね（笑）。

高橋　で、帰国の際に羽田空港まで送っていったときに、何千円か財布から出して「あげるよ」って言うんですよ。「もうこれで全部なくなった」なんて笑いながらね（笑）。

――ホント気持ちいいですね、その無駄遣いっぷりは（笑）。そういえば高橋さんってウィリアム・ルスカが大好きなんですよね。

高橋　ルスカ、大好きですねぇ（笑）。その本（『プロレス、至近距離の真実』講談社刊）にも書いたけど、ルスカが生の喧嘩やってるのに2、3件立ち会ってますから（笑）。

――当時の話を聞くと、ルスカがいかに凄かったのかわかりますよね（笑）。高橋さんの本によると、ルスカと長州さんのスパーリングも凄かったらしいじゃないですか。長州さんがいくら投げても効かなかったっていう。

高橋　そう。最初のうち、ルスカは日本人側と一緒に移動してたんですよ。ある日、僕が会場に入ると小林邦昭たちが「やっぱりルスカは凄いよ」って言ってるんですね。「どうしたの？」って聞いたら「長州がアマレスのスタイルでルスカを投げたんですけど、投げられたはずのルスカが上になっていて、下になっていたのが長州のほうだった」って言うんですね。「ルスカは投げられながら長州のこと投げた」って小林たちが騒いでいて驚いてねぇ。奴はケタ外れに強いよ（笑）。

――ブラジルで75年（8月7日）に行われたルスカ対イワン・ゴメス（当時のバーリ・トゥード王者）戦も、かなり壮絶な試合だったみたいですね。

高橋　あれは凄い試合だったねぇ、俺はああいう喧嘩みたいな試合が大好きだからさ（ニヤリ）。止めるよりも、できることならもっと見ていたかったくらいだよ（笑）。

――レフェリーなのにですか。あれは、いまでも絶対に金を取れる試合ですよねえ（笑）。

高橋　あれはね、ゴメスが火ィつけちゃったんですよ。ゴメスは日本で修行してたもんだから、生半可なプロの演出を覚えちゃったんでしょうねぇ。僕がルール説明をしてるときにルスカの顔をいきなり張ったんです。そのとき、僕は「相手を考えろ！」って思ってたんだけどさ（笑）。物凄い張り手でしたよ。さすがのルスカもグラグラッときてましたからね。そっからはもう、ルールも何もあったもんじゃないんだ。もう殴り合いだけ（笑）。

――あの試合は完全にバーリ・トゥードだったっていまでも言われてますよね。

高橋　そうですね。両方ともビンタでもって顔の皮膚が裂けちゃって、あっちこっちに血が飛び散ってましたからね。で、アッと気が付いたらゴメスがもう虫の息になっちゃってたもんで、「こりゃまずい」と思って急いで止めたんですよ（笑）。



プロレス スーパースター 外伝

——夢中になって見てたんですね（笑）。

高橋　いやぁ、やっぱりお客さんもエキサイトしてたから見せてあげたいじゃないの、僕もそうだけど（笑）。

——プロとしては当然の姿勢ですね（笑）。

高橋　ホント、盛り上がったからねぇ（笑）。それで僕は、試合のあとにコパカパーナで飲んで酔っぱらって帰ってきて、猪木さんの部屋に行ったんですよ。冷蔵庫の酒飲ませてもらおうと思って（笑）。そしたら山本がいてさ、「お前、何やってんだ！　ゴメスの弟子がお前のことブッ殺すって言って街ん中を探し歩いてるから、今日は部屋から出るな！」って言われてさ。エキサイトさせ過ぎちゃったんだね（笑）。だから、結局猪木さんの部屋にいて、冷蔵庫のビール全部飲んでそのまま寝ちゃったよ（笑）。

——肝っ玉が座ってますねぇ（笑）。

高橋　で、次の日「ルスカとミスター高橋は国外追放」って新聞に出たんですよ。でも、猪木さんが「高橋が帰ってしまうとジャッジがいない」って頼んでくれて、結局このシリーズに限って滞在が許されて。だけど、ブラジルへの入国禁止はいまだに続いてるよ（笑）。

——いまだにですか（笑）。ちなみに、バーリトゥードっていうものがあるっていうことはみなさん御存知だったんですか？　猪木さんは当時の本にちょっと書いてましたけど。

「スクワット1000回やって一升酒飲めば、風邪なんか治る!」って言われたよ（笑）



高橋　猪木さんは知ってたのかもしれないけど、あとは誰も知らなかったんじゃないですか。僕なんかそういう名前の選手だと思ってたから（笑）。でも、ゴメスが日本にいる間は、藤原さんとまったく気が合わなかったね。

——あっ、そうなんですか!?　たしか藤原さんは「友達は俺しかいなかったんじゃないかな」って言われてたと思うんですけど。

高橋　いや、藤原さんが嫌ってたっていうのは、練習でどうこうっていうんじゃなかったんですよ。普通、新弟子っていうのはセコンドについたり、控え室の雑用だとかを全部こなさなきゃいけないんですけど、ゴメスはまったくそういうことをやらなかったからね。リングサイドにつけるとドッカリと客席に腰を下ろして試合見ちゃってるんだもん（笑）。

——それはダメですね（笑）。まあ、そんなゴメスもかなり強かったらしいですけど。

高橋　強かったですよ。その試合の前にもブラジルには何度か行ってるんだけど、そのとき（74年12月）にゴメスが猪木さんに挑戦してきたのが最初ですね。で、猪木さんはどういうわけだか木戸さんに「お前やれ！」って言ったんですよ。でも、木戸さんってそういうこと嫌いじゃないですか。

——確かに、それは嫌いそうですね。

高橋　それでさんざん嫌がってたんだけど、結局リングに上がったんですよ。でも、向こうのコミッショナーが止めたらしくて、ゴメスは来なかった。それで結局、木戸対ゴメスはなくなったんですけど、それで良かったですよ。でもゴメスも偉いよね。プロレスの試合をずっと見てて、これは凄いって新弟子として新日に入ってきたわけですからね。

——そういえば、猪木さんは木戸さんの他にゴッチさんにも話をふったらしいですね。

高橋　でも、ゴッチさんもやらなかったね。

——まあ歳も歳でしたしね。高橋さんから見たゴッチさんはどんな印象だったんですか？

高橋　やっぱり、すごい極めた人だと思いますよ。僕は巡業でも何度か一緒にまわってますけど、他の外人選手に比べてとにかく真面目。ホント運動選手っていう感じですよ。一度、新日の道場でゴッチさんがスパーリングやってるときに僕が怪我して練習できないでいたんですよ。それでゴッチさんに「なんで練習しないんだ？」って聞かれて、「怪我してる」って言ったらゴッチさんに「上がれ」って言われてね。リングでガンガンいわされちゃったんです。この世界では怪我してるなんて通用しないんだってことでしょうねえ。

——しかしレスラーならまだわかりますけど、高橋さんはレフェリーですからね（笑）。

高橋　でも、当時は「怪我したら練習やりながら治せ」っていうのがあったからね。

——実際、それで治るもんなんですか？

高橋　うん、治りますよ（キッパリ）。だから、僕が山口先生の流れをくんだ団体で練習してたときなんか、「風邪ひいた」とか、うかつなこと言えないですよ。そんなこと言ったら「スクワット1000回やって一升酒ガバーッと飲んで布団かぶって寝れば治る」って言われてね（笑）。

——ダハハハハ！　豪快ですねぇ（笑）。

高橋　あとはメシでも酒でもなんでもドンブリですよ。ビール飲むんでもドンブリなんですよ（笑）。それが忘れられなくてねえ、いまだに思い出すと家ではドンブリで飲みます。あれはいいですねぇ（しみじみと）。

——そんなにいいですか（笑）。

高橋　新日本も最初の何年間かはビール飲むんでもドンブリだったし、昼のチャンコ食うのでも、必ず酒が置いてあったからね（笑）。

——酒と喧嘩では負けちゃいけないっていうのが昭和の新日イズムですからね（笑）。道場で日常的に喧嘩して酒飲んで、喧嘩して仲良くなるみたいな（笑）。

高橋　そうそう（笑）。

——ちなみに、高橋さんもお酒はかなりいける口なんですか？

高橋　きだし強いほうですよ。道場で飲んで帰ってきて、家帰ってまたメシ食いながらビール大瓶10本ぐらい空けてましたよ。

——はーっ（笑）。じゃあ旅先でも相当……。

高橋　いや、家で飲むから旅先ではわりと控えてた。外人の世話をしてたからねえ。自分が酔っぱらってフラフラしてたら、ルスカあたりに何されるかわかんないからね（笑）。担ぎ上げてブン投げられるぐらいのことは平気でやるから（笑）。

——ダハハハハ！　軽くこづくとかじゃなくて、ブン投げますか（笑）。

高橋　あるときなんて、岸壁のところに建ってるスナックで飲んでたんですよ。で、店を出たときに後ろから「ウォーッ！」って叫びながらルスカが走ってきたんで「やられる！」と思ったら、ルスカがそのまま海に飛び込んじゃったんですね、洋服着たまんまで。真っ暗でなにも見えない岸壁からですよ（笑）。

——ヘタすりゃ死にますよね（笑）。

高橋　死ぬよ！　でも、置いて帰ってきちゃったけどね（笑）。

――ダハハハハ！　最高ですね（笑）。そういえば高橋さんは『プロレスラーをめざして夢を勝ちとる方法』で『プロレスラーになる以上はいい車乗っていい女つかまえて、いい酒飲んで』書かれてましたよね。

高橋　それでデカい家建ててね。

――まったくその通りだと思いますよ！

高橋　あっ、そう（笑）？　でもね、いつか猪木さんが「レスラーはいい車乗って大きな家建てるぐらいのちっぽけな夢じゃなくて、もっと大きな夢を持て！」って言われたことがあったんですよ。ちょうどアントンハイセルやってた頃でしたから。それを聞いた坂口さんがえらい怒ったんですよ。「いい車乗って大きな家建てる夢の、どこが小さいんだ！　できない人のほうが多いじゃないか」ってね。

――まあ、それがアントンハイセルとなると夢がデカすぎるんですけどねぇ（笑）。

高橋　でも、夢だけじゃなくて、それを実行する猪木さんは凄いよねぇ。

――猪木さんといえば、高橋さんの中ではパク・ソンナンを母国で潰しちゃった試合（76年10月）がいちばん印象的だと言われてましたよね。

高橋　試合そのものじゃなくて、試合の後のことなんかがあるんでね。あの試合は1万人ぐらい入ったんだけど大暴動になって、お客さんたちが控室にまで押し掛けてドア蹴飛ばしたりなんかで凄かったんですよ！　中からドア押しつけてバリケード作ったりしてね。日本だと、そういうことが起こったときは向こうの選手が止めるじゃないですか。でも向こうの選手まで興奮しちゃってさあ、「猪木ブッ殺す！」だとか言って、本当に大変で。

――生きた心地しないですよねぇ。

高橋　結局、軍隊が来て暴動は一応おさまったんですけど、それでも帰りのバスに石ぶつけられたりして窓ガラスが割れたりとかね。それでホテルに帰ったら、猪木さんと新間さんはそのまま帰っちゃったんですよ！

――ダハハハハ！　高橋さんを残して（笑）。

高橋　それで私もあわてて空港まで行ってね。猪木さんと新間さんはスムーズに乗れたんですけど、私はうまいこと乗れなかったんです。それで見送ってたら「ゆっくりしてこい」って言われてねぇ（笑）。

――ダハハハハ！　猪木さんたちに（笑）。

高橋　俺だって、あの試合でレフェリーやってるのに、ゆっくりできるわけないじゃない（笑）！　でもキャンセル待ちしてたら1枚だけ取れたんですよ。で、そのときにストロング小林さんも空港に来て、もちろん小林さんもチケット持ってないわけですよ。だから、「これで帰ってください」って言ってチケット渡して、私はソウルの街にトボトボ帰っていったんですけど、あのときの心細さっていったらなかったよぉ（笑）。

――つらい立場ですねぇ（笑）。

高橋　それで同じホテルに戻ったら、一緒に来てたテレビ朝日の山崎アナウンサーなんかが来てて「高橋さん、このホテルはヤバいです」って。で、他の宿を探したんですけど、当時は戒厳令があって、何時からは外出禁止ってあったんですよ。でも違うホテルで空き部屋を聞いても「ない」って言われて、3件目かなんかでいよいよ時間がないってことになったから、なけなしの1万円を渡したら「やっぱりあった」って言われてね（笑）。で、次の日にまた空港行ってキャンセル待ちして帰ってきたんですよ。日本に戻って新間さんに「あのときのギャラは貰えないんですか？」って聞いたら「もらえるわけないだろう」って。「じゃあ向こうで立て替えたホテル代とかは？」って聞いたら「そんなものは自腹だよ」ってあっさり言われました（笑）。

――それは印象的にもなりますよね（笑）。で、試合としてはどうだったんですか？

高橋　ああ、もう猪木さんの一方的な試合ですよ。上から猪木さんが馬乗りになってフェイスロック決めたときに、パクの歯が上唇突き抜けちゃったから。で、もうそっから一方的にメチャクチャだったから。

――「この人は気が狂っていて手が付けられないと思った」って言われてましたからね（笑）。高橋さんとしては、パクとは昔の知り合いだし複雑な心境だったんでしょうけど。

高橋　まあ、あの試合はやらない方が良かったと思うよ。だけど、僕の中で思い出に残る試合っていうのとは別に、いい試合っていうのは喧嘩みたいな試合のことなんだよね（笑）。

――同感です！　やっぱり緊迫感溢れるゴツゴツした試合のほうがいい、と。

高橋　そういうことでよく覚えてるのが、やっぱり小林邦昭対斉藤彰俊（92年1月30日）かなあ。

――ボクもあの試合は燃えましたよ（笑）。

新日本vs誠心会館の抗争、実は俺が焚き付けたんだよ（笑）



Mr.TAKAHASHI

高橋　いまだから言うけど、あのマッチメークを仕組んだのは実は僕なんですよ。小林を焚き付けたのも俺なんですけどね（笑）。

――いやあ、噂は聞いてますよ（笑）。あれはわざとらしい団体抗争とかじゃなくて、控室のドアを閉めた閉めないっていう異常にリアルなところから始まった、本当にわかりやすい喧嘩だったわけじゃないですか。

高橋　そうです。青柳館長が後楽園ホールに来たとき（91年12月8日）、彼とその弟子と通路で会ったんですよ。で、そのときに青柳館長が僕に挨拶してるのに、その弟子の野郎は黙ってて挨拶もしなかったんですよ！　それで「このクソガキがぁ！」と思って、控室のドアが閉めにくいことを思い出したから、小林に「あのドアは閉めたと思っても開いちゃうから、『ドアも閉められないのか』って言って食らわせてやれ」って言ったんですよ（笑）。

――ダハハハ！　あれは確信犯だったんですね（笑）。でも、それがきっかけで殺気溢れる抗争に発展したから、あの試合は本当に客席の盛り上がりもハンパじゃなかったですからね。客同士の喧嘩もあったりとかして。

高橋　いい緊張感があったよねえ（しみじみと）。で、その後のシリーズであっちこっちの興行師から「ウチの試合でもああいうの取り入れてくれ」ってたくさん言われましたよ。でも、あんな試合続けてたら体もたないからねえ。だって、喧嘩だもん（笑）。

――正直、選手として当時の彰俊選手は知名度があったとは言えないじゃないですか。それなのにあれだけ熱くなれたのは、やっぱり喧嘩だったからだと思うんですよね。

高橋　そうそう。あの後、彰俊が平成維震軍に入ってから「小林さんとのあの試合は自分の生涯でも忘れられない試合です。高橋さんが小林さんを焚き付けてくれたおかげです」って変な感謝されちゃったんだよな（笑）。

――でも、新日はそうやって荒川（真）さんなり誰かが焚き付けたことで良い結果が生まれることがよくありましたよね（笑）。

高橋　俺は荒川さんの試合、大好きだったね（笑）。ひょうきんプロレスみたいなのが荒川さんのイメージになってるけど、荒川さんの場合は実力の裏付けがあるからああいうことができるんだよ。仕掛けられたら絶対に引かなかったからね、リング上で喧嘩になっちゃうような試合もけっこう多いんですよ。荒川対栗栖なんていうのはホント凄かったしね。で、やっぱり俺、そういう試合が好きだから、「そろそろ見たいな





アンドレらがビールをがぶ飲みし、肉を食いまくった伝説のサッポロビール園で記念写真。これだけの大男が一気に飲み食いすりゃあ、それは何十万円にもなるってもんだ

プロレス スーパースター 外伝

ぁ」と思ったら勝手に『鹿児島県選手権』なんてタイトルつけてマッチメークしてたからなぁ（笑）。

——そうしたら、必ず期待通りの喧嘩マッチになると（笑）。

高橋　両方とも引かないからねえ。荒川さんに「高橋さん、面白がって作ってるでしょ」って言われたからねえ（笑）。

——ボクらファンも、そういう試合が大好きですからね。佐山さんと荒川さんの深夜の道場マッチもかなり凄かったみたいですけど。

高橋　あれでしょ、荒川さんが酔っぱらって帰ってきて、佐山を夜中に叩き起こしたときの話でしょ（笑）。

——そうです。佐山さんが目突きして、荒川さんは耳を食いちぎる凄い喧嘩になったら、すっかり仲良くなったという伝説の（笑）。

高橋　荒川さん、そのあと両目が腫れ上がっちゃったんだけど、荒川さんが当時「これは打ち身にもいいし、切り傷にもいい」って熱弁してた粉薬があって新日本の選手がみんな飲んでたんだよ。俺も飲んだけど（笑）。それを怪我した両目に突っ込んだから、よけいおかしくしちゃってさぁ（笑）。

——ホント、荒川さんらしいですね（笑）。

高橋　あとね、前田が聞いたら怒るかもしれないけど、タイガー・ジェット・シンが連れてきたサイレント・マクニーっていう喋れない選手に、僕こう言ったんですよ。「前田っていうのは手強いやつで、たまにキレるときがあるから、そうなったら凶器でも使わないと収まらないぞ」って。前田はまだ中堅時代だったんだけど、面白そうな試合になりそうだったから、ついね（笑）。

——ダハハハハ！　また、そうやって焚き付けちゃったんですね（笑）。

高橋　そう（笑）。で、試合（79年4月2日）になったらホントにそいつ凶器を持ち出して前田に向かっていったんですよ。それを見た前田がまた逆上しちゃってねぇ、ボッコンボッコン殴ってさぁ（笑）。あれは面白かったよ！（マクニーは前田にとっては初の外人選手であり、試合後、前田は「こういうことには練習で慣れている！」と言い放って素敵、どんな練習だよ。まさになんでもありだ）

——そうやって焚き付けてたら、そりゃあ試合も面白くなるはずですよ（笑）。昔の新日の前座は喧嘩みたいだったってよく言うけど、ホントの喧嘩だったんですね（笑）

高橋　そういうところはあるんだよね（笑）。

——高橋さんの功績で（笑）。

高橋　ワハハハハ！　いやいやいや（笑）。そういえば猪木さんから焚き付けられたこともあったなあ。ディック・マードックっているでしょう。あいつは喧嘩やらせたら物凄く強いし、迫力も物凄いあるんですよ。でもそうじゃないときはケツ出したりしてたいした試合にならないの。で、あるとき猪木さんから「マードックを焚き付けてくれ」って言われてね。ちょうどその日は藤波とのシングルだったんだけど、マードックに「藤波がお前のことえらいバカにしてるよ」ってあることないこと吹き込んだんですよ（笑）。

——また、あることないことを（笑）。

高橋　そしたら「よし、わかった！」ってなって、試合の最初から藤波さ

プロレス スーパースター 外伝

んをバッカンバッカン食らわしにいってるんだよ。で、藤波さんはそれを全部受け切ったんだけど、試合の後に「高橋さん、何言ったの？」って聞かれたよ。バレてるの（笑）。でも試合は良かったよ。ホント、マードックを怒らせるといい試合になるんだよねえ（しみじみと）。

——ちょっとしたイタズラ心が、必ずいい結果を生むんですかね（笑）。

高橋　イタズラで言えばさ、実は俺イタズラが過ぎて荒川さんに追っかけ回されたことがあるんだよ。なんかタニマチのところに持っていくっていうんで海亀の剥製を荒川さんが沖縄から買ってきて、それを巡業のバスの網棚の上に載せてロープできちんと縛ってたんですね。そのロープを俺が全部ナイフで切って旅館にあげちゃったんだよ。なおかつ〝寄贈・ドン荒川〃って書いて（笑）。旅館の人はもちろんそれを飾るんだけど、メシから戻ってきた荒川さんが見て怒ったねえ（笑）。

——そりゃあ怒りますよ（笑）。

高橋　「冗談じゃねえ！　旅館なんかにゃやらねえ！　東京のタニマチんとこ持って帰るんだ。あれ持ってかえれば小遣いになるんだから！」って言って外して、さっきよりも厳重に網棚に縛ったの。で、それをまた俺がナイフでぶった切って、今度は荒川さんの部屋のベットに〝そんなに大事なら一緒に寝ろ〃って書いた紙と一緒に入れといたんだよ（笑）。

——ダハハハハ！　懲りないですねえ（笑）。

高橋　で、飲んで帰ってきた荒川さんがそれに気がついて、えらい剣幕で「ミスター！」って怒鳴ってさあ（笑）。だけど、荒川さんは俺の部屋を知らないから、廊下で走り回ってるだけなの。こっちは笑いを噛み殺してズッと聞いてたんだけど（笑）。

——高橋さんはイタズラする外人が好きなだけじゃなくて、自分もイタズラ好きだったわけですね（笑）。だから、ダイナマイト・キッドともルスカとも手が合う、と（笑）。

高橋　そう（笑）！　外人用のバスの運転手さんが、「今日は夜走りだから、我々が試合してる昼間のうちに仮眠とらなきゃいけない」って言ってたら、ダイナマイト・キッドが「これ飲むと短時間でグッスリ眠れるよ」って薬を渡したんだけど、これ寝られない薬だったんだよ（笑）。それでもってさあ、その車にキッドも乗るし、我々も乗るんだよ。眠れる薬貰ったのに眠れないって騒いでて、運転はじめたら眠くなっきてるんだもん（笑）。

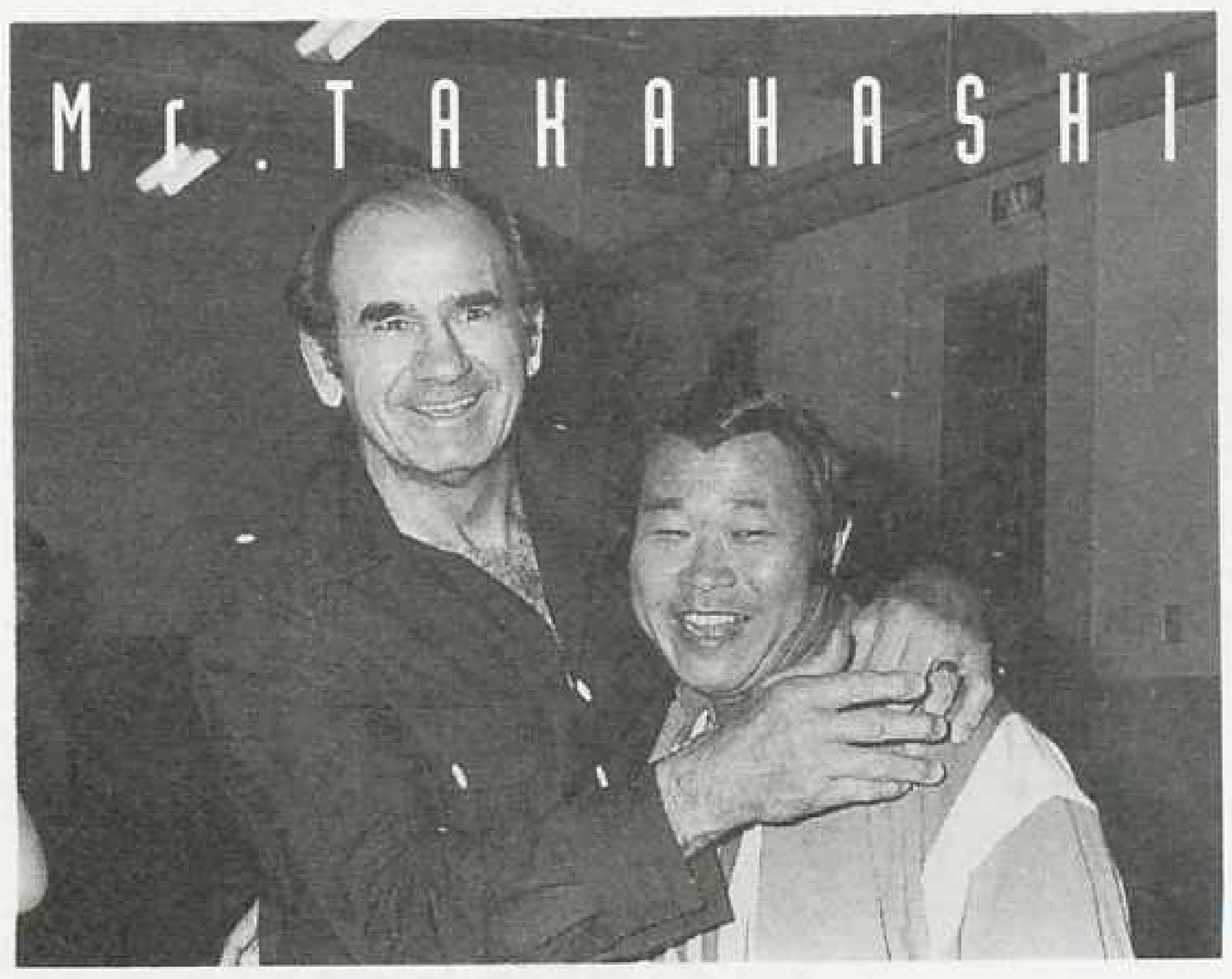
——命懸けでイタズラするわけですね（笑）。ところで、いま考えて高橋さん的に心残りになってる試合とかってありますか？

高橋　ああ、船木とジャッキー・チェンの試合（89年、欧州から帰国した船木のために新日が用意した夢のカード。が、帰国後、船木はＵＷＦに）かな。あの試合は、どうしても実現させたくてねえ。俺も一生懸命動いたんだけど、船木はヨーロッパから帰ってきてとうとう新日のリングに上がらなかったんだよなあ……。

——あっ、もしかしてあの試合は高橋さんが発案したんですか？

高橋　そうですよ。ジャッキー・チェンの話は僕がつけたんですから！

——うわ〜っ、そうだったんですか！　あの試合はボクもホントに見たかったんですよ！



船木とジャッキー・チェンの試合は実現させたかったねぇ

高橋　僕の知り合いが、ジャッキー・チェンが「自分とそう体格が変わらないならレスラーと戦ってもいい」って言ってるのを聞いて、話を進めたんですよ。それと、新日本が香港で興行したことがあったでしょう。あれも僕が全部やったんですよ、オフの間にいろいろ手配して。新日の中で香港で試合してたのは僕しかいなかったっていうのもあるんで。それで、その興行のときにジャッキー・チェンが来てくれたんですよ。彼は撮影で足の骨を折っちゃってたんだけど、ギプスはめてくれたんで、「控室も行くよ」って言ってくれたんで、それで選手も楽しみにして待ってたんですよ。

——それは楽しみにもなりますよね。

高橋　で、そのときですよ。橋本が天山に「ジャッキーはドリアンが好きだから買ってこい！」って買いに行かせたんですよ。もちろんそんなのはウソなんですけどね（笑）。それで天山は、あの臭いドリアンを1日持ち歩いててねえ（笑）。でも結局、ジャッキーは控え室には来なくて、橋本は天山に「いつまでそんなものを持ってるんだ。臭い！　捨てろ！」って。自分が買わせたのにだよ（笑）。

——ダハハハハ。破壊王にもイタズラの血が脈々と受け継がれているわけですね（笑）。ちなみに後から聞いたら話だと、ジャッキー・チェンとの試合は船木さんも別にまんざらではなかったらしいですよ。

高橋　そうなの？　実は船木とはヨーロッパから戻ってきてから直接話してないんですよ。だから、もしかしたら船木の耳には入ってなかったんじゃないかって思ったんだけど。

——船木さんはもともとジャッキー・チェンとブルース・リーのファンだったんで、話を聞いてそれは面白いと思ったらしいですよ。でもライガーさんに「お前そんなことやるためにやってきたのか」って言われて、「ああそうか」って思って止めたって話で。しかし、つくづくもったいないことしましたよねぇ。

高橋　もう絶対やってくれないよなあ（しみじみと）。あれから10年ぐらい経ってるしね。あーっ、でも船木はちゃんと知ってたんだ。

——ちなみに船木さんがもうすぐヒクソン・グレイシーと戦うのは御存知ですか？

高橋　知ってます。どうしても船木に勝ってもらいたいねえ。あの、高田とヒクソンが最初戦ったときに、高田が負けたでしょ。あのときにねえ、僕の友だち柔術の道場を持ってる人がいるんですよ。その人とどっちが勝つかって話をしてて、僕は「高田が絶対勝つ！」って言ったんだけど、その人は「ヒクソンのほうが強い」って言っててさ。結果は、ねぇ。でもまあ、ホントいま業界を離れて冷静な目で見てると、みんなそれぞれの考えがあって一生懸命やってるんだよね。

——あと、最後にどうしても個人的に聞きたかったことがあるんですよ。（『幸運の守護色』美健ガイド社刊を出しながら）やっぱり高橋さんといえば色の話だと思うんですけど。

高橋　（本を指指して）え？　それ買ったの？　どうやって？

——池袋の『レッスル』で売ってたんですよ。

高橋　へーっ。その本は書店に並ばなかったんですよ。版元の会員さんだけに案内して販売してるもので。じゃあ、もうずいぶん経つけどレッスルさんにお礼言っとかなきゃならないねえ（しみじみと）。で、色についてては、その本に書いてある通りですよ（キッパリ）。

——わかりました（笑）。

【00年3月30日横浜のピーター邸にて収録】

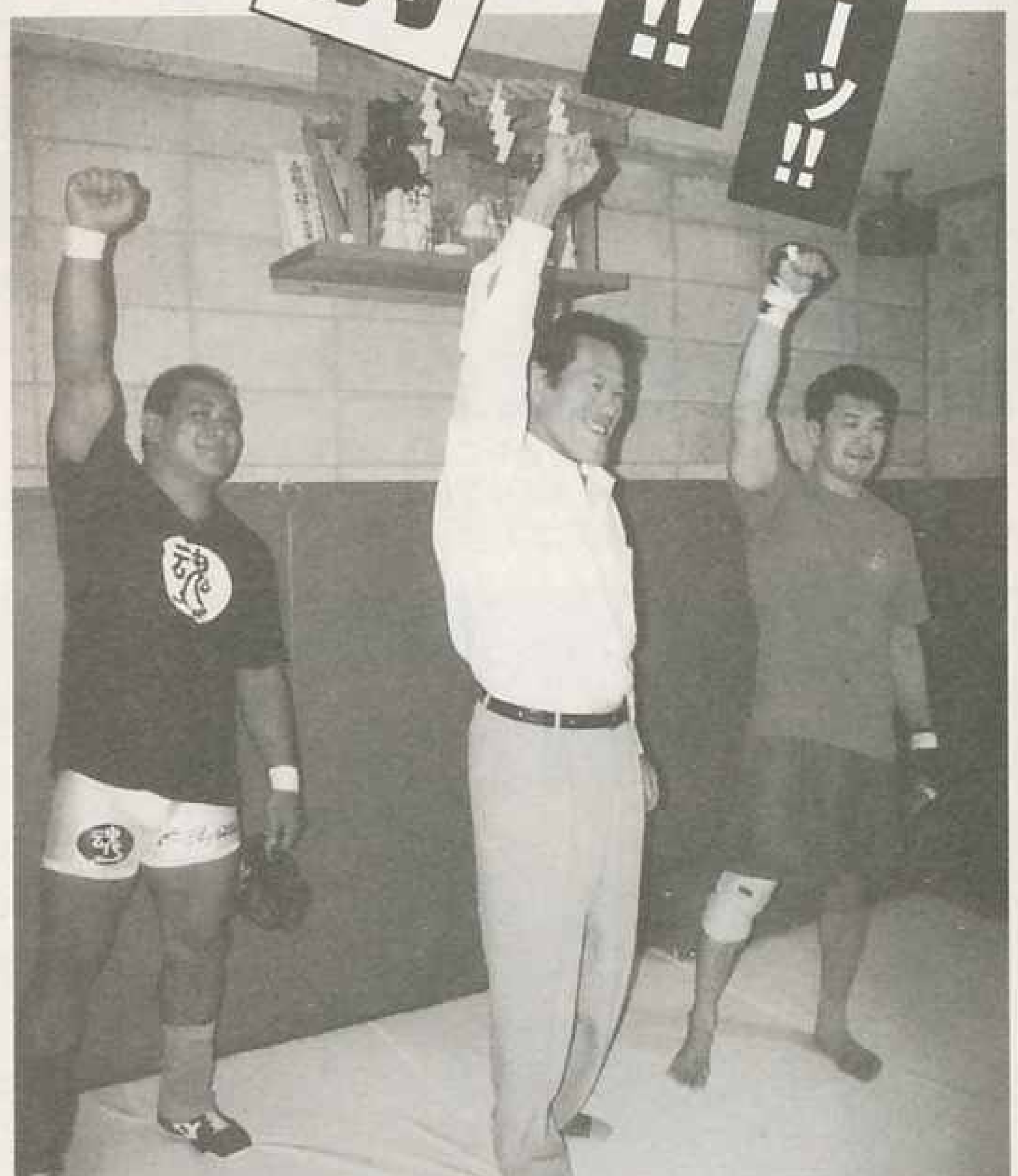
発売日遅れちゃった記念!



クイック速報便

『PRIDE GP』を頼んだゾーッ!!
1、2、3、ダァー!!
5・1ホイス戦目前
サク、猪木入り!?





なぜか「猪木さんが来るまで回してま〜す（クルクル）」と、いきなり〝炎のコマ〟を暇そうな記者陣にサービスで披露する桜庭和志。

そう、この日（4・17）は、5・1東京ドームで打倒ホイスを確実にやってくれる（のっけから断定）サクと打倒ケアーをやってくれるはずの藤田和之の打投（極）スパーリング公開日!! そこになんとアントニオ猪木が絡むという、ドリームステージだけに、まさに夢のような顔合わせが実現したのであった。

しばし待つこと約30分。高田道場に思わぬ緊張感が走る……遂に、満面の笑みでアントンが現れた!! 開口一番「いやぁ〜、久しぶり!」なんてフランクなんだ!? アントン。そして、サク&藤田のスパーリングを厳しい目で見守ると「(サクvsホイラー戦のビデオ)テープを昨日観たんだけど、いっぱいチャンスがあった」と突然スーツの上着をほおり投げ、サクをチョークで絞め落とす! サク思わず「グヘッ」とタップ。さすが、いつ、何時、誰とでも闘う男!! 「ダーッハッハッハ! 現役に指導しちゃいけねえなぁ」やっぱ凄いよ、アントン。

そして、グレイシー側が要求してきた条件について話が及ぶとアントン総帥は、「別にどうってことねえです! ノールールっていったら目潰しありか? 金的ありか?ってことになるでしょう。結局、レフェリーがいるんだから」おっしゃる通り! これは所詮、ノールールという名のルール内での闘い。「上になってれば負けることはねえんです」とサク勝利宣言! そこでサクには極秘作戦があるという。なんと、腹話術を習っていると告白!「ホイスの声マネで混乱させてやる（ニコニコ）」やはり、どこまでもサクは楽しませてくれるのだ。一方、藤田の闘い方については「本人から言うなって言われてるんで、ムフフフ」とお茶を濁し「とにかく、2人とも頑張ってください!」とエールを送った。

ちなみに、渦中の橋本真也については「私に任すと言われても非常に面倒臭いというか。でも、やる気なら身体も意識も絞らせます。とりあえず、うまいメシでも一緒に食って断食させてやる! ダーッハッハッハ!!」と破壊王復活のために断食の時が来たと示唆。

会見中、サク&藤田は終始ニコニコ顔で口数は少なかったものの、アントンパワーを注入されたことは間違いなし。最後にアントンは「役があれば出ていきますよ。ンフフフ」と意味深発言!――ってことはサクvsホイスの特別立ち会い人をやるのか!?

ガ然、面白くなりそうな雰囲気を醸し出しつつ、今日の教訓は、やっぱり「どんなに道は厳しくても笑いながら歩こうぜ!!（ニコニコ）」ってことなのです。ダーッ!!

（大西タマリン）

UFC JAPAN
4・14
代々木第2

4・14UFCJにポジティブクーデターぼっ発
美濃輪、激情パンクラスを頼むゾーッ！

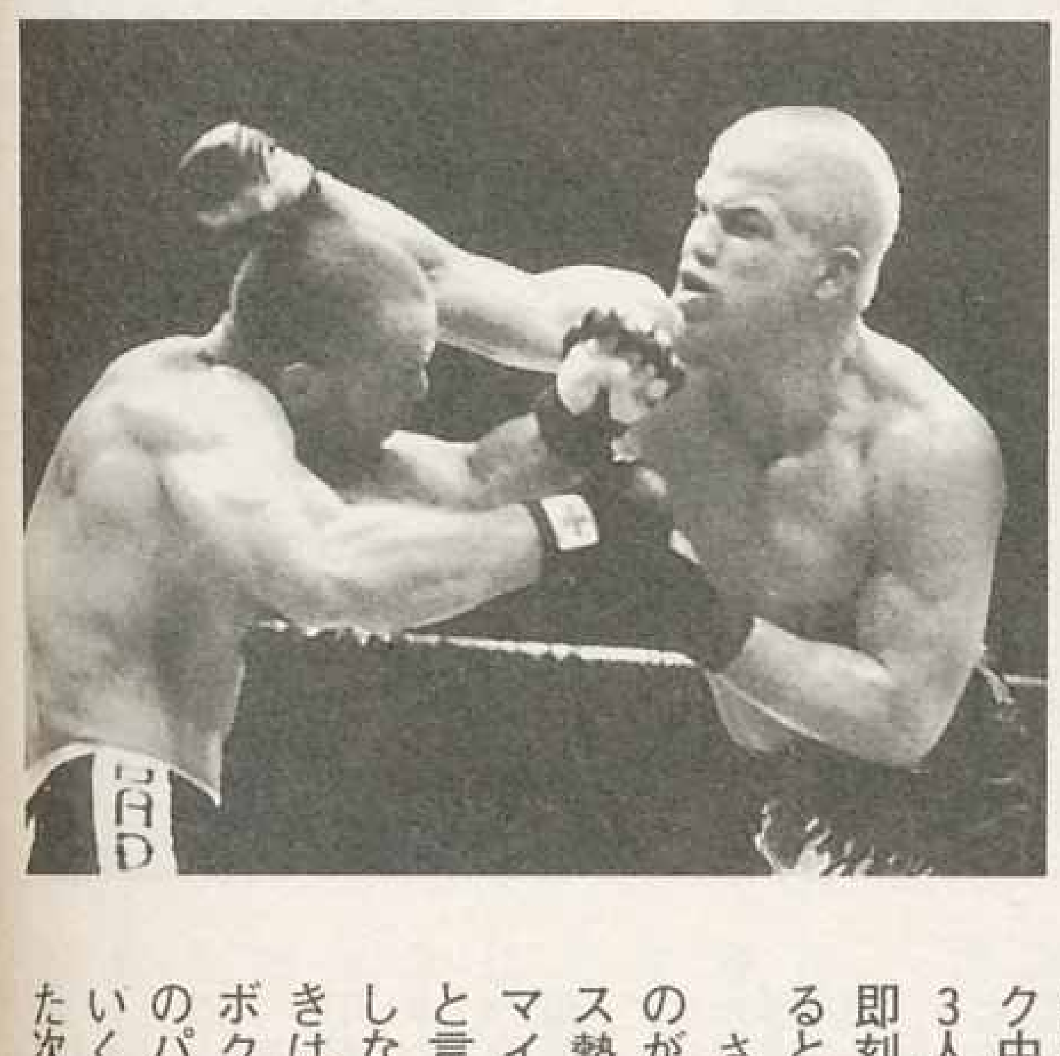

この日のMVP・美濃輪がオクタゴンの天辺に登って歓喜の咆吼！　ハイキックによる実に鮮やかな逆転勝利だった。

尾崎社長、坂田代表アリガトーッ！

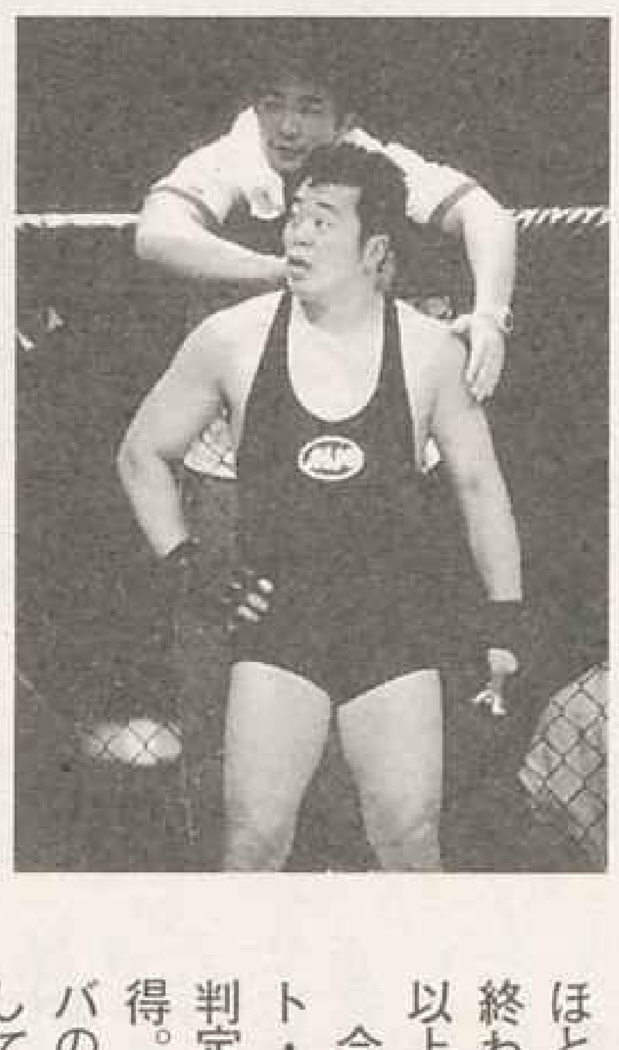

膠着大王返上！　山宮をKOしたユージンを見事秒殺した菊田。「尾崎社長、坂田代表ありがとうございました」のマイクは歴史に残るだろう。

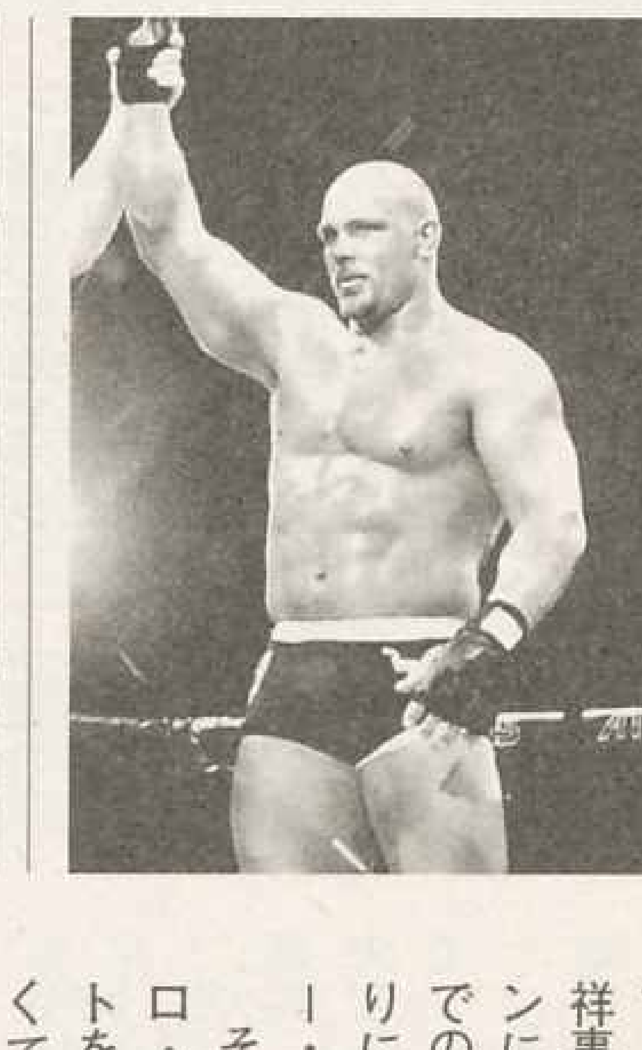
シウバの「K戦法」を完封ティトUFCミドル級王者に！




▲▼見事「K戦法」のシウバを破りUFCミドル級王者となったティト。試合後は腹立つほど綺麗なフィアンセとオクタゴンサイドでディープキス。ホント腹立った。




▲▶鉄の結束でつながれた、はぐれゴールデンカップス。ブスタマンチに完封された安生は、試合後ホントに落ち込んでいた。


ゴールドバーグを思わせるその肉体。パワー、タックルからマウントに移行する素早い動き。ロン・ウォーターマン、この名前を覚えておいて損はない。

前回の前田日明狙撃事件により、すっかりダーティーイメージが付いてしまったUFC－Jが、その不祥事の張本人である安生洋二をメインに登場させるという、見事なまでの反業界的な開き直りで5カ月ぶりに帰ってきた。まさにアナーキー・イン・ザ・UFC。

その安生は柔術界の超大物ムリーロ・ブスタマンチと対戦。マウントを一度返した以外は、前歯がなくて踏んばりがきかないためかほとんど一方的な展開で一本負けに終わってしまった。安生の頑張り以上に、ブスタマンチは強すぎた。

今回の目玉〝まだ見ぬ強豪〟ティト・オーティズはV・シウバに5R判定勝ちでUFCミドル級王座を獲得。しかし内容はというと、シウバの打撃とボトムからの極めを警戒してか、タックルに入ったあとはガードを取られたまま、上のポジションをキープするのみ。これじゃあ寝技のガイ・メッツアーですよォォォォ！　とターザン調で叫びたくもなるものになり残念。それにしてもマッチメイクのせいか前回のランデルマンといい、スター性抜群の選手がブレイクのチャンスを見事に逃しているのは実にもったいない（でもランデルマンは鉄パイプ失神事件からボクの中では大ブレイク中）。問題をひとつ。セコンドが3人も4人もエプロンに上がるのは即刻禁止すべき。アリーナ席に座ると試合が全く見えない。

さて、そんな中素晴らしかったのが前回2連敗に終わったパンクラス勢。鮮やかな秒殺劇と衝撃的なマイクの菊田も良かったが、なんと言ってもこの日は美濃輪。そのしなやかな肉体とケレン味溢れる動きは若き日の田村潔司を彷彿させ、ボクはこの試合を見て「これからのパンクラスは美濃輪が引っ張っていくんやろうな」と前田風に思った次第なのだ。（ガンツ）

衝撃！ 快挙！ LLPWの風間社長がカレリンと会談実現!!



ReMixの出現で風雲急を告げる女子格闘技界に激震！ 4月18日付の『東スポ』最終面を見た瞬間、「ヌオッ！」と声にならない声を上げてしまった。それもそのはず。"人類最強の男""ロシアの英雄"アレクサンダー・カレリン（趣味：読書、クラシック音楽鑑賞）と、"悪"の"お色気路線"を爆走する風間ルミ社長（趣味：下着集め）の思わず目を疑うツーショット写真がデカデカと掲載されているのだ！ 合成ではない。今年1月、選手発掘のためにロシアの極東・ウラジオストックを訪れた神取忍が、たまたまカレリンの弟子と接触。カレリンに会えるということで、風間がロシアに乗り込んで行ったのだ。カレリンは日本vsロシアの女子格闘技対抗戦プランに興味を示し、「選手を派遣しましょう。私も日本に行きたい」と約束。これによって、今年の秋にも女子格闘技の祭典がＬＬＰＷ主催で行われる見通しとなった。現在、モハメド・アリの娘レイラや浜口京子にも出場を打診しているというが、もし実現したら世界的な規模のイベントになるだろう。今後のLLの動きには要注目だ!!

3月25日札幌テイセンホール 情念で『情念』を売る石川社長!!



バトラーツの石川社長が全国で自伝『情念』を売り歩いている。先月の発売以来、巡業に行った先では自ら売店に座っているのだ。「いまの若いファンに読んでもらいたいね」と語る石川社長が1冊ずつ情念をたっぷり込めてサインをしてくれるぞ！ たとえ文部省が推薦しなくても、本誌はこの本を推薦するぞ！





アメリカチーム監督
ニックボック・ウインクル

"チーム藤原"4勝1敗で圧勝!! 泣きたければJPWAへ行け!!

JPWA旗揚げ戦　4月14日後楽園ホール

「お客さんから金をとった時点で全てエンターテインメントなんですよ」と村浜武洋はＳＢ時代に気付いたという。「客から金とったら全てショウなんだよ！」これはＴＡＫＡみちのくの言葉である。奇しくも今号、私がインタビューした対局の位置にいたはずの2人は口を揃えたかのように言ってのけた。

この日、セミで登場したのは佐藤耕平（本誌22号参照）。試合前「オレの試合が一番面白いに決まってるじゃないですか！ あ〜〜早く試合終わってエビスジュース（ビール）飲みてぇ」って全く図体もデカけりゃ、態度もデカい！ そして対戦相手の外人もデカい!! しかし、このデカさは尋常じゃなかった。なんと入場から退場まで観客を『コーヘーワールド』へ引き込んでしまったのだ。この男、修斗公式戦2試合、キングダム1試合しかプロになって闘ってはいない。「修斗＝格闘技。ＪＰＷＡ＝プロレス。格闘技とプロレスは別モノと言っていた。だが、



組長の目にも涙

試合後「リングに立つとそんなこと関係ないですね。同じように楽しかったし、お客さんも面白かったと思う」という。自分も楽しく見る側も楽しけりゃ、んなことどうだっていいんだよ!! ってことなのだ。

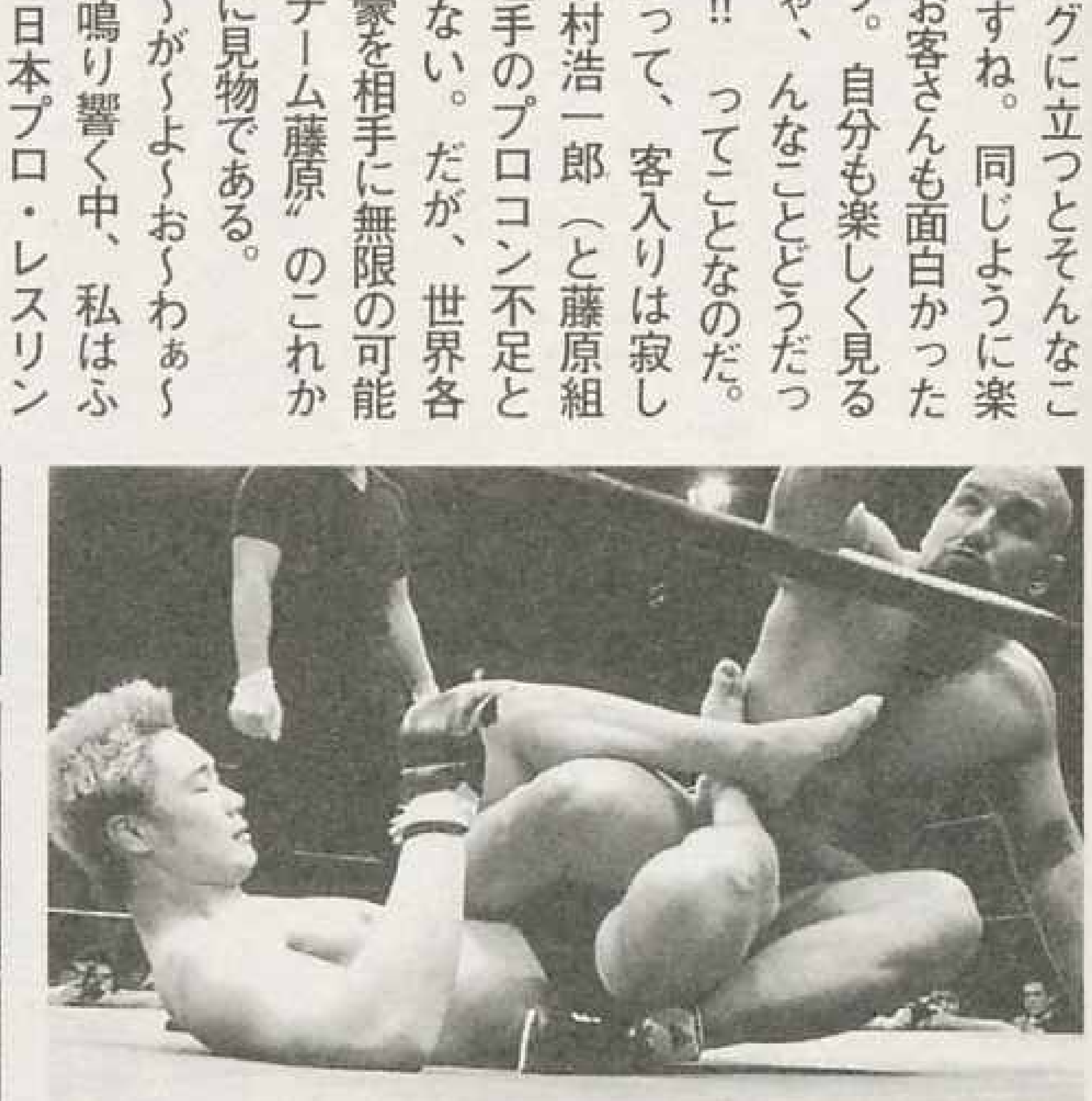
ハッキリ言って、客入りは寂しかったし、木村浩一郎（と藤原組長）以外は選手のプロコン不足というのは否めない。だが、世界各国未知なる強豪を相手に無限の可能性を秘めた"チーム藤原"のこれからの闘いは実に見物である。

♪き〜みぃ〜が〜よ〜お〜わぁ〜という国歌が鳴り響く中、私はふっと思った。日本プロ・レスリング協会＝日本＝日の丸……とりあえず旗揚げと成功いうことで、藤原組長万歳！ ＪＰＷＡ万歳！ 高橋代表万歳！

（タマリン）

4・14 セミ&メインプチレビュー





残念ながら岡本衛は敗れるも見事日本勢勝利！▲（上）佐藤耕平VSケーシー・ガイヤー（第4試合）「お前、アマチュアだよ！ あんなヤツ3分で倒せる!!」とは組長談ではあるが、修斗選手だけに修斗の試合を観ている感覚であった。◀（左）木村浩一郎VSショーンヘルナンデス（第5試合）DDTで見せる顔とは全く別人のキムコウ。やはり、1番プロコンを持つ選手である。30分一本勝負、残り2分で決着がつくという素晴らしい勝利!! ※次回は6・15後楽園大会を予定！

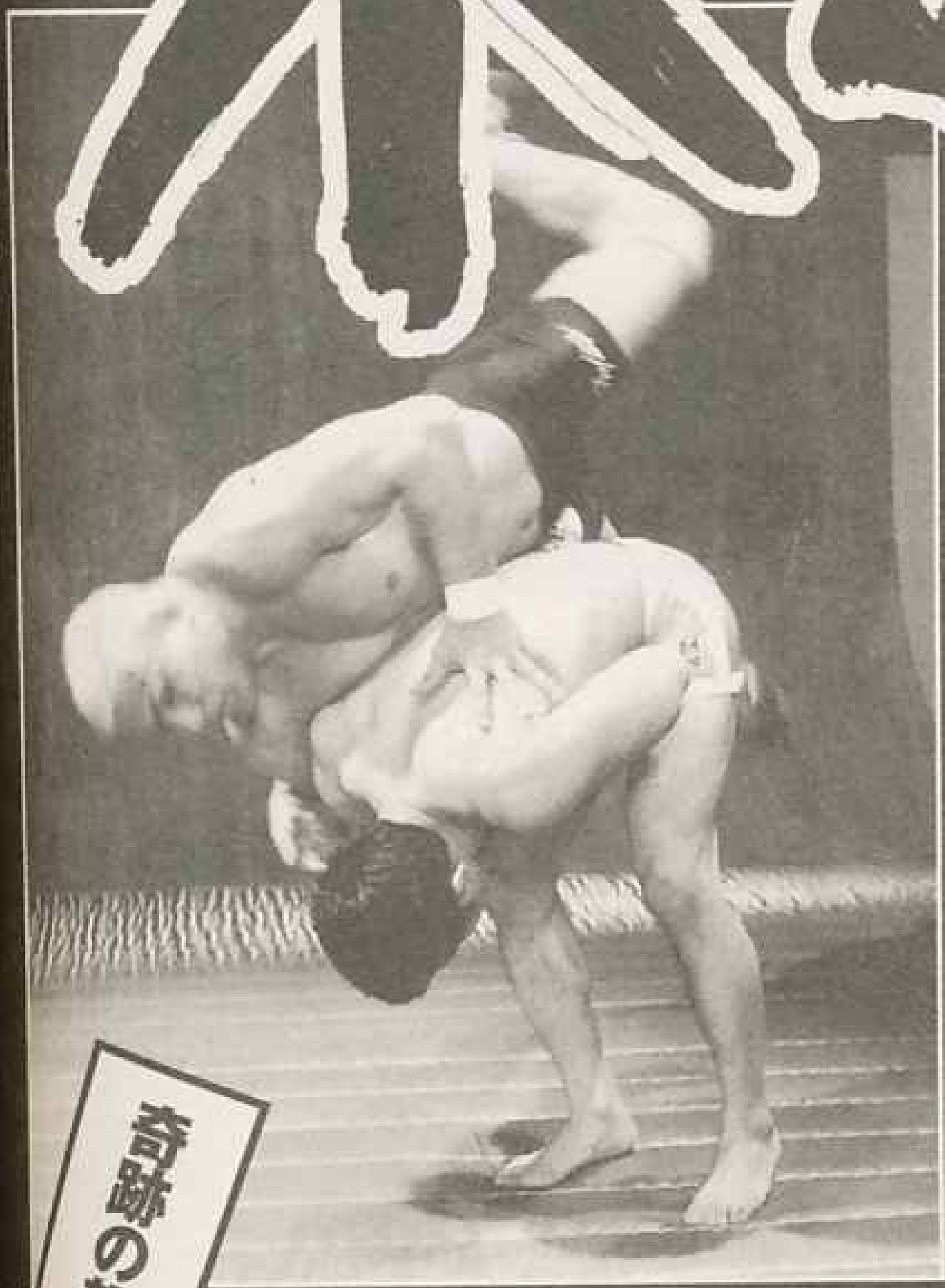
『スターウォーズ』主演決定（？）の南部虎弾プロデュース作品

天才アラーキーが11人のプロレスラー一人ひとりとサシで勝負した驚愕写真集

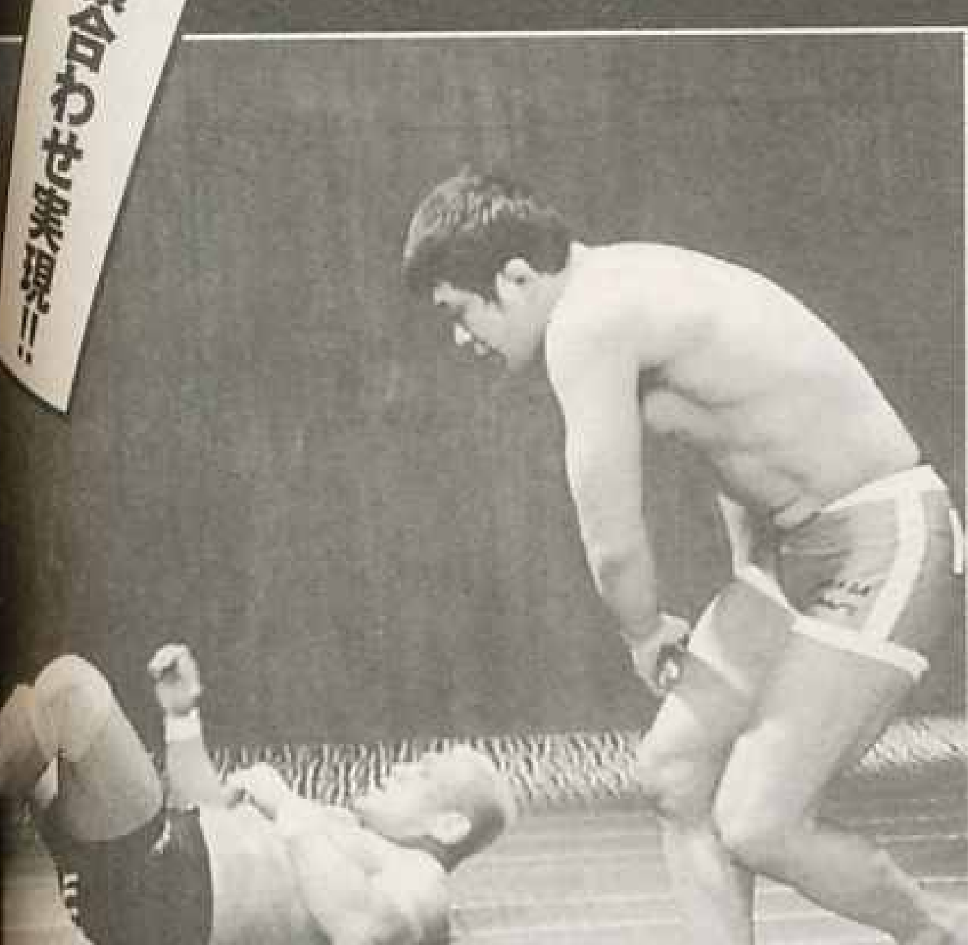
格闘力

完成一ッ!!

記念スペシャルプレビュー



奇跡の顔合わせ実現!!





野獣の筋肉芸術を接写



桜庭と藤田が夢のスパーリング競演

ズバリ言って、この写真集は仰天ものである。

あの天才・アラーキー（荒木経惟）が11人のプロレスラーと一人一人、まさにサシで勝負したフォト・バトルが一冊になったのだ。女を撮らせたら世界一のアラーキーが、〝男〟しかもプロレスラーを撮ったらどうなるのか。各方面から注目されていた（新宿2丁目方面も含む）のだが、本誌が完成前に勝手に一部をプレビューしてしまおう。

もちろんここに掲載しているのは、ほんのサワリであり、しかもホンバン用の写真ではない。当然の如く、ホンバンはもっと過激な仕上がりになっているわけである。

いまやプロレス・トークショーの殿堂と化した渋谷ロックウエストの社長・田中俊樹氏と、銭の取れる謎のダメ人間・西川満氏、そしてこの3月に双子の父となり、ますます沈黙恐怖症がヒドくなってきた日本が誇る名レフェリー・島田裕二氏。

この3人が昨年末、真冬の寒い日に交わした茶飲み話から始まったのが、この「プロレスラー写真集大構想」だった。

そこに、各界著名人が名を連ねた「プロレスをおもしろがる会」なる秘密組織の発起人・電撃ネットワークの南部虎弾氏がプロデューサーとして絡んだことから、このプロジェクトは本格的に動き出したわけである。

そして、顔の広さとキ●タマの面積なら誰にも負けない南部氏のネットワークで、天才・アラーキーが電撃的に撮影するという豪華すぎるシチュエーションが実現してしまったのだ。おまけに編集作業は、本誌鬼畜編集長の山口日昇が担当しているとは、ついこの間まで、神どころか紙プロの連中でも知らなかったことである。

しかも登場するレスラー陣は、その南部氏の出演が噂される『スターウォーズ・エピソード2』の如く、まさにキラ星のような人たちが集まった。

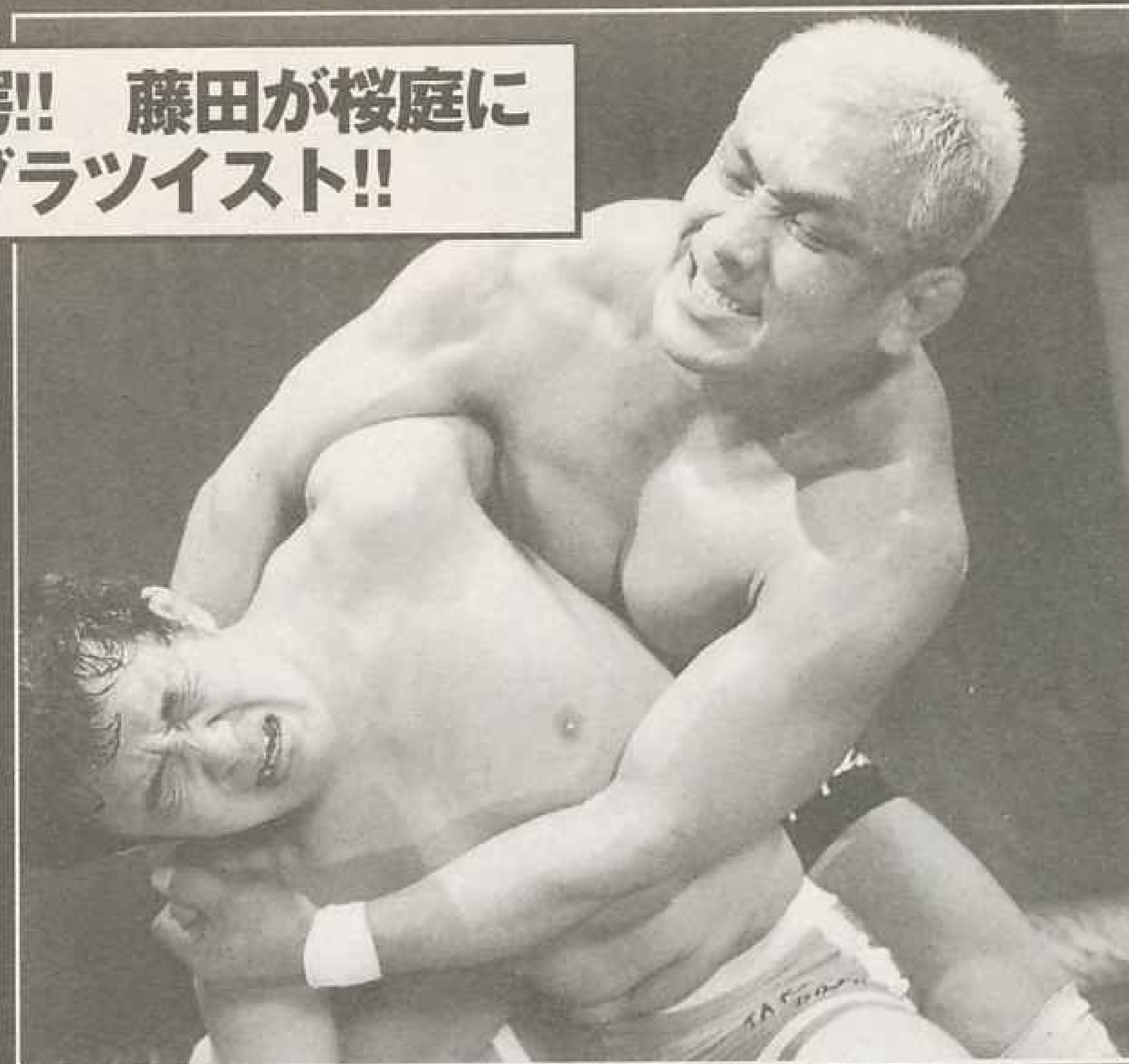
「みんな〝男〞だよね、男」(byアラーキー)



桜庭がプロレスファン仰天の姿を初公開!!



怪物に急接近!! 藤田和之を熱写!!



驚愕!! 藤田が桜庭にコブラツイスト!!



人間UFO・村上一成が男っぷりを全開!!

「知性と知能は肉体の中にあるんだよ」(byアラーキー)



南部虎弾vs村上一成 ふとん圧縮機に挑戦!!



衝撃! 本邦初公開!! アレクのヘアヌード!!

5・1『PRIDE・GP』で、それぞれのレスラー人生の節目となるビッグマッチを迎える、桜庭和志、藤田和之、アレクサンダー大塚の「プライド3人衆」を始めとして、マット界には欠かせない元気玉、ザ・グレート・サスケ&石川雄規のイカレ社長コンビ。UFOの核弾頭・村上一成、H（エイチ）、モハメド・ヨネ、タイガーマスク、藤田穣、そして飛ぶ鳥を落とす勢いの田中稔——。

「俺は男でも女でも格闘してる人間にしか興味ないから」

「『男を張る』とか『身体を張る』とか、『張る』っていうことは、さらけ出すっていうことだから」

「あのね、知性とか知能とかは肉体のなかにあるの。毛細血管のなかにあるんだよ」

と、人間の内面を写し出す天才・アラーキーは言う。そのアラーキーが、〝プロレスラーが素顔を見せた〟というよくありがちなレベルを超えて、それぞれの奥底に眠る〝生〟の男っぷりを切り撮ったのが『格闘男』なのである。

レスラー11人が、驚くべき〝生〟を公開してくれるわけだが、その全貌は掲載した写真から想像してもらいたい。サクと藤田の極秘スパー、衝撃のアレクのヘアヌード、村上の圧縮ふとんパック、そしてサスケ、石川らが驚愕の格好で迫るド迫力写真は、まさに〝格闘芸術〟といった趣である。

プロレス界のみならず、写真界、アート界、出版界からも注目されているこの写真集は、5月1日、後楽園ホールのプリズムホールⅡで行われる「プロ格祭り」で先行発売され、5月中旬にワニマガジン社から全国一斉発売となる（2500円＝税抜）。

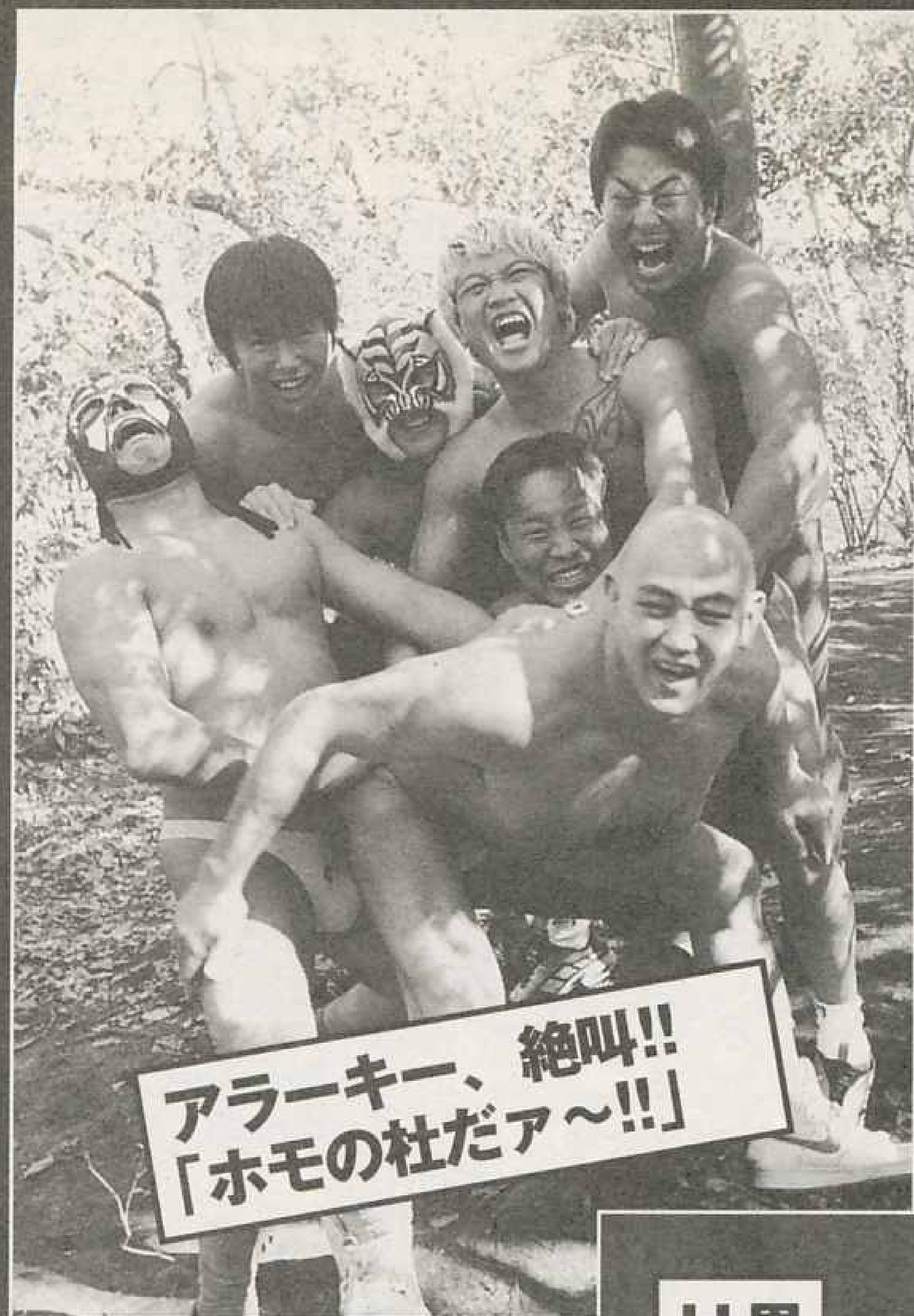
まさにパブっぽいシメとなってしまったが、これは自信を持ってオススメできるシロモノなので、ノー問題なことこの上なし！

男も勃つ！　女も濡れる！　世間も騒ぐ！　実に永久保存版なこの写真集を頼むゾーッ!!（アントン調）

「俺は男でも女でも格闘してる人にしか興味ないから」（byアラーキー）



サスケよ、一体どこを見つめているんだ!?



アラーキー、絶叫!!
「ホモの杜だァ〜!!」



石川雄規が禁断の世界に踏み込む



タイガー、そこで何をやってるんだ!!



男も勃つ!! 女も濡れる H（エイチ）の裸身!!

PRIDE. GP決勝戦当日！　試合直前なのにアレクがサイン会&トークにやってくる!!

プロ格祭り

この超ゴージャスな写真集の発売を記念して、写真集に登場したプロレスラーをゲストに招いて『PRIDE. GP』の当日にイベントを行います！　なお、会場では写真集『格闘男』の先行発売も行います。プロレスと格闘技の壁を超えてぶつかりあう究極のイベントに参加しよう！

日時■5月1日(月)12：00〜16：30（入場は16：00まで）
場所■東京ドーム・プリズムホールⅡ
内容■12：00〜　サイン会の整理券配布
12：30〜　サイン会&写真集『格闘男』先行発売開始
13：30〜16：00　トークバトル　プロレスvs格闘技大戦争

※当日、『PRIDE. GP』に出場するアレクサンダー大塚をはじめ、写真集に登場したプロレスラーたちがサイン会を行います。トークバトルでは本誌鬼畜編集長・山口日昇と、『SRS・DX』編集長・サダハルンバ谷川氏が公開バトルトークを繰り広げる！　島田裕二（バトラーツ）&三田佐代子（Fighting TV SAMURAI!）というダブル司会が両者の闘いを裁く！　さらには当日発表のプロレスラーが急遽、イベントに参加していくロイヤル・ランブル形式を採用したので何が飛び出すかわかりません！　飛び入り参加も受付中！

[広告の□□ージではありません]

格闘家！ 女子プロレス！ 競艇！ 何とでもリンクする世界一フットワークの軽いプロレス団体

バトラーーツは是か？ 非？

このページを読めエエエエ！



噂の格闘家・平直行がプロレス転向！ 最初の関門はアレクサンダー大塚だアァァァ！

かねてからプロレス転向を熱望しており、本誌21号でもその熱い思いを語ってくれた平直行が、ついにプロレスのリングに立つ！ 5月4日のみちのくプロレスでデビューして、その約1週間後には、いきなり強敵と闘うことになった。迎え討つのはアメリカ帰りのアレクサンダー大塚だ!!

じつはアレクと平は、エキシビション・マッチながら、K—1のリングで闘ったことがある。

ここ最近は格闘技のリングにプロレスラーが上がっていくというパターンが多かったが、今回に関してはまったく逆。それだけ、今回、平の行動は賞賛に値する。この勇気あるチャレンジをアレクは果たしてどのように受け止めるのか？ 大注目のこの1戦をはじめ、石川vs長井という通好みのカードまで組まれている。はたしてバトラーツ勢は押し寄せる外敵の波を跳ね返せるのか？ 今回はバトラーツの胃袋の大きさが試される大会となった！ バトファンも、そうじゃない人も必見だ！

格闘探偵団バトラーツ　春のビッグマッチ 5・11後楽園大会「MAY KING of BATTLARTS」 全対戦カード決定！

第1試合
モハメド・ヨネ&土方隆司 vs トニー・ジョーンズ&マッハ純二

第2試合　P★MIX　GRAND　PRIX1回戦
小野武志&バイオニックJ(アルシオン) vs つぼ原人(フリー)&ガミ・メタル(アルシオン)

第3試合　P★MIX　GRAND　PRIX1回戦
日高郁人&AKINO(アルシオン) vs 藤田穣(みちのく)&藤田愛(アルシオン)

第4試合　インディペンデントワールドJr.ヘビー級タイトルマッチ
<王者>田中稔 vs 臼田勝美<挑戦者>

第5試合　平直行、注目の初参戦!!
アレクサンダー大塚 vs 平直行

第6試合　大型爆撃機、バトラーツの本陣に来襲!!
石川雄規 vs 長井満也　　（18：30試合開始）

みちのく&バトラーツ&アルシオン合同!!　究極の“破廉恥”トーナメント

P★MIXグランプリ開催！ 6／29 後楽園で決勝戦!!

「リングというキャンバスに絵を描いたことがあるか？」とUFO総帥・アントニオ猪木は村上一成選手に質問したという。リングに絵を描く——数々の名画をリング上で描いてきた猪木ならではの言い回しである。さらに猪木は言う、「キャンバスに絵を描くっていうことは、観客とのキャッチボールだ」と。結局、観客に何も投げない選手は「アマチュア」なのである。

さて、そんなアントニオ猪木の投げたボールが脳天直撃デッドボールしてしまったわけだが、サスケと石川である。この2人もマット界では様々な絵を描きまくってきたが、またもやとんでもない絵を描き始めた。なんと、みちのく&バトラーツ&アルシオンの3団体がミックスド・タッグ・トーナメント（題して「P★MIXグランプリ」）を開催し、ベルトを創設するのだ！ “女”に関してはプロレスと同じくらいの情熱を注いできた越谷のエロ社長&東北のバカ社長が、ビジュアル・ファイターを相手に何をしでかすのか？ とにかく、とんでもない魔球を投げてくることだけは間違いないゾ！

P★MIXグランプリとは？■このグランプリは、トーナメント形式で全14チームが男女ペア日本一の座を競い合う。公式戦は、この3団体を股に掛けておこなわれ、決勝戦は6月29日（木）東京・後楽園ホールで3団体共催で行われるという画期的なスタイル。参加チームは右の通り！ これは絶対見逃せない!!

<出場全チーム>

- ●ザ・グレート・サスケ&チャパリータASARI
- ●グラン浜田&浜田文子
- ●タイガーマスク&矢樹広弓
- ●藤田穣&藤田愛
- ●石川雄規&アジャ・コング
- ●田中稔&府川唯未
- ●アレクサンダー大塚&吉田万里子
- ●モハメド・ヨネ&玉田凛映
- ●臼田勝美&中野知陽呂
- ●日高郁人&AKINO
- ●折原昌夫&三田英津子
- ●つぼ原人&ガミ・メタル
- ●アパッチェ&マリー・アパッチェ

水上の格闘技“競艇”vsリング上の格闘技“プロレス”

激突！　史上初の競艇場（開催中）プロレス開催！

5月20日（土）埼玉・戸田競艇場イベントホール（当日はレース開催中！）
試合開始　第1&2試合9：50～　第3試合13：13～　第4試合13：43～　第5試合14：14～
※アジャ・コング（アルシオン）、タイガーマスク（みちのくプロレス）参戦決定！



4月7日、大会PRのために競艇場を訪れたバトラーツの精鋭たち。ガマンしきれずに、舟券をみんな買ってたぞ！



この大会は土方の実兄である日本レジャー八木氏が企画したもの。この場内の中央にリングが組まれる予定だ。

またもや、バトラーツが世間に闘いを挑む！ 競艇場がファンサービスの一環として、レースの合間の発売時間にバトラーツのプロレスを提供するというもの。入場料100円さえ払えば、試合を見られるので必見!!

バトラーツ　梅雨も吹き飛ぶ怒涛のスケジュール

4月23日(日)　東京・TOKYO FMホール(18：00～)
5月11日(木)　東京・後楽園ホール(18：30)
5月14日(日)　新潟・新潟フェイズ(15：00)
5月20日(土)　埼玉・戸田競艇場イベントホール(当日はレース開催中！)
5月28日(日)　東京・TOKYO FMホール(18：00～)
6月10日(土)　埼玉・所沢くすのきホール(18：00～)

プロレス・トークライブの殿堂　ROCK　WEST　イベント・スケジュール

4月27日(木)　モハメド・ヨネ　トークライブ
前売¥2000　当日¥2500(共に1ドリンク)　開場18：00　開演19：00
5月19日(金)　『浜田文子とは誰だ！』～島田裕二プロデュース～
前売・当日¥1000(1ドリンク)　開場18：30　開演19：00
5月25日(木)　『コロシアム2000とは何か！』～島田裕二プロデュース～
前売・当日¥1000(1ドリンク)　開場18：30　開演19：00

ロックウエスト：東京都渋谷区宇田川町4—7トウセン宇田川町ビル7F
お問い合せ■TEL.03—5459—7988

●5月4日（木・祝）みちのくプロレス宮城・岩沼大会で平直行のデビュー戦が決定!!　相手はナント！　アレクの先輩・新崎人生だ!!

紙のプロレス RADICAL Back Number Information



はぁ〜、どすこ〜い！ どすこ〜い!!

←お前はスモーノブだろ!?

本誌編集力士"スモーノブ"勇み足？
調子に乗って遂にレスラーデビュー!?

3・23DDT後楽園大会でデビューを果たしたDOSUKOI選手。

No.25

★「新プロレス」へ突き進めーッ！ 格闘ロマン、続行ーッ!!



猪木イズムを携えた「思考する野獣」誕生ーッ!!
藤田和之ロングインタビュー
ヘンゾ討伐記念！田村潔司
アブダビ・KOK・田村の勝利を語り倒す!!前田日明
椎名基樹のいい日アブダビ紀行文！
「UWF」が立ち昇った座談会
4・7ゴールデンタイムで破壊王と激突 小川直也
UFOの特攻隊長、爆進!!村上一成
石川雄規&小路晃対談
ミスター高橋の新日本セキュリティボディーガード
アカデミー秩父合宿リポート

No.5

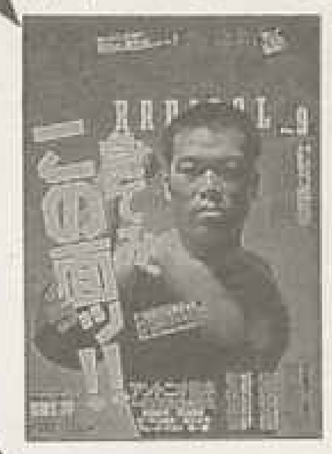
★すべてはここから始まった！



高田延彦ロングインタビュー
猪木、Puffyほか有名人33人が
高田vsヒクソンを大予想
ドン荒川vs藤原喜明超過激対談！
前田日明の「人生は語らず」
世界格闘技連盟を語りたおす！
佐山聡（タイガーキング）
長井満也／柳澤龍志／ディック東郷
愚乱・浪花／ザ・グレート・サスケ
長与千種／ライオネス飛鳥／ビクター・クルーガー
パンクラス旧合宿所誌上大公開！

No.9

★「アントニオ猪木・闘魂連鎖！無礼講大特集!!」



前田日明／ザ・グレート・サスケ
高田文夫／春一番／ターザン山本／石川雄規
衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!座談会
見てみぃ、この面ッ!!
高阪剛ロングインタビュー
前田日明ラス前インタビュー&炸裂人生相談
日プロOB吉村道明&ユセフトルコ
&遠藤幸吉&駿河海
『格闘家からみたプロレス！』
朝日昇★谷津嘉章／佐野友飛
下田美馬&三田英津子

No.10

★特集「灼熱の地殻変動'98」



大和魂は連鎖する!!
前田日明vsエンセン井上スクープ対談！
とにかく元気！高田延彦ロングインタビュー
まだもや大爆発！
谷津嘉章インタビュー第2弾！
社長&会長対談・ザ・グレート・サスケVS
松永高司
「紙のプレイボーイ」発進!!ダイアナ&宮内美穂
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
「紙プロスーパースター列伝」
北沢幹之★冬木弘道（金村ゆきひろ&伊藤豪）
ロングインタビュー

No.11

★特集「格闘Viagra'98」



高田延彦vsエンセン井上
エネルギーエクスチェンジ烈談!!
前田日明ラストマッチ後初インタビュー
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
「格闘か？芸術か？それとも格闘芸術か!?」
佐山聡／スーパー宇宙パワー（木村浩一郎）
福田雅一
★ザ・グレート・カブキ／ダンプ松本
★バト両国進出記念石川雄規
トンパチ・マシンガンズ
★とうとう語られるSWSの真実
「S多重アリバイ」アポロ菅原

No.12

★特集「格闘TEPODON!!'98」



2度目のヒクソン戦直前！
高田延彦ロングインタビュー
「プロレスファンよ踊れ！
祭り囃子を鳴らせ!!」浅草キッド
人気大炸裂！「S多重アリバイ」
第2弾アポロ菅原
★桜庭和志／アレクサンダー大塚
山本喧一／神取&北尾／八木淳子
ダンプ松本／猪木イズム世界一決定戦
石川雄規&ザ・グレート・サスケ
格闘王から相談王へ前田日明「人生は語らず」
話題騒然!! What is プロ格闘家？
菊田早苗&郷野聡寛

No.13

★特集「四角いジャングルRADICAL」



実写版「1・2の三四郎」降臨！
アレクサンダー大塚インタビュー
「10・11 PRIDE.4」とは何か？
ザマアミロ雑談会!!
高田延彦がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
前田日明・エンセン井上が語る
「高田VSヒクソン戦!!」
谷津嘉章・島田裕二・浅草キッドが見た
「10・11 PRIDE.4」
大反響！「S多重アリバイ」第3弾
ケンドー・ナガサキ
★ボブ・バックランド／松永光弘
リッキー・フジ／堀辺正史

No.14

★特集「格闘DREAM CAST」



前田日明独占ロングインタビュー
これがカレリンの発した言葉だ!!
山本美憂・聖子vs父・親子ゲンカ!? 対談
連勝街道爆進中！金原弘光
RADICAL版 ゆく年くる年座談会
谷津嘉章のマット界、目えつぶって30秒!!
「高田道場1999！」高田延彦／桜庭和志
佐野友飛／松井大二郎／豊永稔
「S多重トンパチ」第4弾 折原昌夫
★「虎の尾を踏む男たち'99」小路晃
4代目タイガーマスク／村上一成／宇野薫

No.15

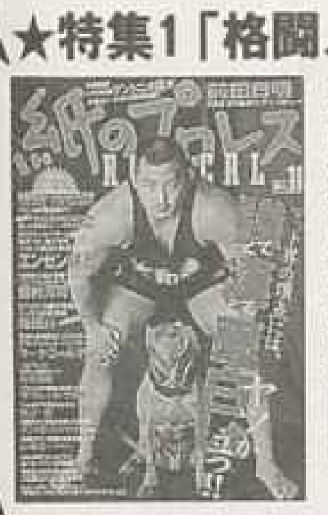
★特集1「格闘MARS ATTACKS!」



橋本戦の核心を語る
小川直也with.S.Sインタビュー
佐山聡／4代目タイガーマスク
UFO襲来緊急座談会
★特集2「格闘LAST VOYAGE」
前田日明USA特訓を直撃！
アレキサンダー・カレリン
浅草キッド／アニマル浜口親子
★ジャイアント馬場追悼特集
本誌初登場！SASUKE
「語ろうマサ・サイトー！」
「S多重アリバイ」2連発！
佐野友飛&Mr.W

No.16

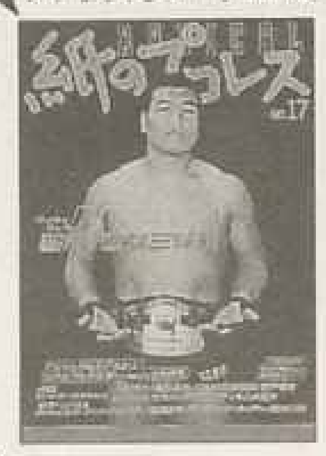
★特集1「格闘ノストラダムス'99」



エンセン井上ロングインタビュー
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一
村上一成／マーク・コールマン
石川雄規／ザ・グレート・サスケ
★特集2「それぞれの旅立ち'99」
アントニオ猪木ロングインタビュー
前田日明引退後初の独占インタビュー
大好評！「語ろう」シリーズ第2弾！
「語ろうジャンボ鶴田」
「S多重アリバイ」第7弾石川孝志

No.17

★特集1「格闘MAKE JUNGLE」



UFO襲撃三昧小川直也インタビュー
桜庭和志／高田延彦／アントニオ猪木
豊永稔／マグナムTOKYO／池田大輔
宮戸優光
★特集2
「新生リングスBone&Blood」
前田日明／山本宜久／成瀬昌由
R・クートゥアー
★タイガー・戸口／矢口壹琅／『怪物通信』
「ターザン山本さん、目を覚ましてください!!」
イベント炎上鎮火ドキュメント!!

No.18

★特集「格闘STAR WARS」



カーウソン・グレイシー一派を壊滅!!
桜庭和志VIVAVIVAロングインタビュー
小川直也e-mailインタビュー／高田延彦
エンセン井上／イーゲン井上／小路晃&宇野薫
格闘STAR WARS座談会
★「S多重アリバイ」第8弾将軍KYワカマツ
「外人さん、いらっしゃ〜い」
F・シャムロック／G・グッドリッジ
R・グレイシー
『怪物通信』G・アイブル
『闘魂猪木塾とは何か？』

No.19

★いま一度高田延彦を注視せよ！



マーク・ケアー戦直前高田延彦インタビュー
リングス、パンクラスにも咆哮三昧!!小川直也
マット界の今後を前田日明CEOが激白！
「紙プロスーパースター列伝」ドン荒川
佐山聡／エンセン井上／成瀬昌由
TARUwith AYAKA／宇野薫
アレクサンダー大塚
『怪物通信』4連発！
M・ケアー&G・グッドリッジ&
E・F・ブラガ&G・メッツアー
上田馬之助／井上貴子／川口健次

No.20

★人間UFO吠えまくる！小川直也インタビュー



独占!! 公開インタビュー前田日明
アレクサンダー大塚
高田延彦爆説記者会見／佐山聡とは何か？
「語ろう藤波辰爾」／バス・ルッテン
「S多重アリバイ」第10弾ドン荒川
滑川康仁／カール・マレンコ／高阪剛
山本宜久／成瀬昌由／小路晃&宇野薫
ケビン・ヤマザキ／内藤恒仁
ティト・オーティズ
敗者『紙プロ』追放試合！
ジャイ子vsトイレの大西さん（仮）

No.21

★恐怖のプロレス大魔王降臨！



小川直也ロングインタビュー
「紙プロRADICAL」初登場じゃあ！
大仁田厚／前田日明総師激白
本誌独占！ 発見八木淳子
「S多重アリバイ」第11弾鶴見五郎
G・アイブル／R・フィエート
本誌先取りB・コーラー
桜庭和志IN青空プロレス道場
エンセン井上／山本喧一／高瀬大樹
アレクサンダー大塚／モハメド・ヨネ
CIMA／田中健一／平直行
コーラ・パワーズ／本誌独占G・サスケ死す！

No.22

★サク、グレイシーに完勝この上なし！



桜庭和志ロングインタビュー
前田テロ事件サプライズ座談会
ヤマケン？…俺は逃げる！田村潔司
俺は逃がさない！山本喧一
スモーノブ初土俵！大刀光
好評につき第2弾！田中健一／馳浩／小川直也
ゴールドバーグ／坂田亘／木村浩一郎／長井満也
池田大輔／B・コーラー&A・ウォリアー
佐藤耕平／渡辺千景
ヒクソン&ホイラー兄弟の
「ああ言えばこう言う録」

No.23

★道はどんなに厳しくとも笑いながら歩こうぜ!!



ホイス戦直前！高田延彦インタビュー
超異次元対談大仁田厚VSエンセン井上
つっぱれ大刀光
スモーノブがっぷり四つインタビュー佐々木嘉則
ヒクソン・グレイシー／W・ウィリアムス
ジャイアント馬場1周忌追悼座談会
レスラー生活10周年記念ザ・グレート・サスケ
★「リングス『KOK』大特集！」
襲撃事件後『紙プロ』初インタビュー前田日明
ヘンゾ・グレイシー他
刺青女多和田初美／木口宣昭

No.24

★頭打ちすぎたかアレク!!



アレクサンダー大塚
ロングインタビュー&1・30密着ドキュメント
「新プロレス」とは何か？緊急座談会
5・1ホイス狩りに王手！桜庭和志
グレイシー討伐を公約！田村潔司
VTの見方全て私が教えます！堀辺正史
「柔道多重アリバイ」守山竜介
KOK大予想大会！／中西百重
語ろう船木VSヒクソン座談会
「紙のプロレスAMERICAN」
プチ抜き17ページWWF大特集
ザ・グレート・サスケ×矢追純一UFO対談

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）
●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス「RADICAL通販」係まで送って下さい。
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130-3-769154（株）ダブルクロスまで。代金はNO.5〜NO.10=680円 NO.11〜NO.19=780円 NO.20=880円 NO.21=840円 NO.22〜NO.23=880円 NO.24〜NO.25=840円 送料1冊=310円 2冊=340円 3冊〜4冊=450円 5冊=520円 6冊以上=700円
●「紙のプロレスRADICAL」バックナンバー常備のえらい店
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・横浜"AO"CORNER・下北沢バンバンビガロ・ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）

※「紙のプロレスRADICAL」創刊号から NO.4、NO.6〜NO.8は完売しました。 サンクス。

人間UFO、
4・7ゴールデンタイムで
破壊王を壊滅!!

小川直也

NAOYA OGAWA



「プロレスの頂上？頂上が見えたらつまらないじゃない」

破壊王！ 坂口会長！ 長州力！
ヒクソン！ 全日本！ 他を語り倒す!!



聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／モーリー
photographs by Morry
撮影協力／茅ヶ崎公園野球場

Qフロントのでっかいビジョンで見せられなかったのが残念だね

4・7の死戦から3日後、破壊王はアントニオ猪木総帥を訪ねた。そこでは、試合前まで「橋本、おまえは死ね！」などと非常&愛情ある罵詈雑言を猪木総帥に浴びせられたこと。それに対する感想を報道陣から求められた。すると、声を詰まらせた破壊王は、「それでも、アントニオ猪木が好きなんですッ！」と大号泣！

過剰な自己陶酔に浸りつつも、〝生身〟をさらけ出す素敵な破壊王を、またしても逆破壊してしまった「大魔王」オーちゃんは、闘いを終えたいま、一体なにを考えているのか――。破壊王が号泣した翌日に訪ねてみると、そこには三角巾で右腕を吊った痛々しいオーちゃんの姿があった。

しかし、破壊王の〝生身〟と〝重み〟を投影したかのような〝捨て身〟のジャンピング・エルボーで完全脱臼した肩の痛みを振り切るように、メンタルな部分ではオーちゃんは非常に元気だった。

それでは早速行きますかーッ!! 小川ーッ、出てこーいッ（アントン調）

――小川さん、4・7は特異な熱気で、会場のみならず、ゴールデンタイムで放送されたわけですけど。

小川 凄いですねぇ。

――ガハハハ！ 他人ごと（笑）。

小川 でも、終わっちゃうと他人ごとになっちゃうよね。逆に他人ごとのようにならないと、違った視点から見れないからね。

――小川さんに聞くのもなんですけど、橋本選手は引退するんですか？

小川 ん？ どうなんですかねぇ？ まぁ、ようやく始まりじゃないのかなって思いますけどね。

――高田文夫さんが、『日刊スポーツ』のコラムに、小川vs橋本戦のことを書いてたんですよ。試合当日、高田さんは出先で、小っちゃいテレビを手配して見てたらしいんですよ。そうしたら有名人を含めて30～40人集まってくるんですって。それで「小川、行け！」とか「橋本負けるな」とか、まるで街頭テレビみたいな雰囲気だったらしいですね。

小川 あ、そういえば！ 渋谷の〝街頭テレビ〟もね、なに考えてんのかなぁ？

――ああ、Qフロントのでっかいビジョンで映してたらしいですね。

小川 試合の宣伝じゃねぇんだからさ、全部流せよって。

――試合が始まる前に終わっちゃったらしいですね。

小川 ねぇ？ それだけが残念だね。

――渋谷っ子に見せられないのが（笑）。

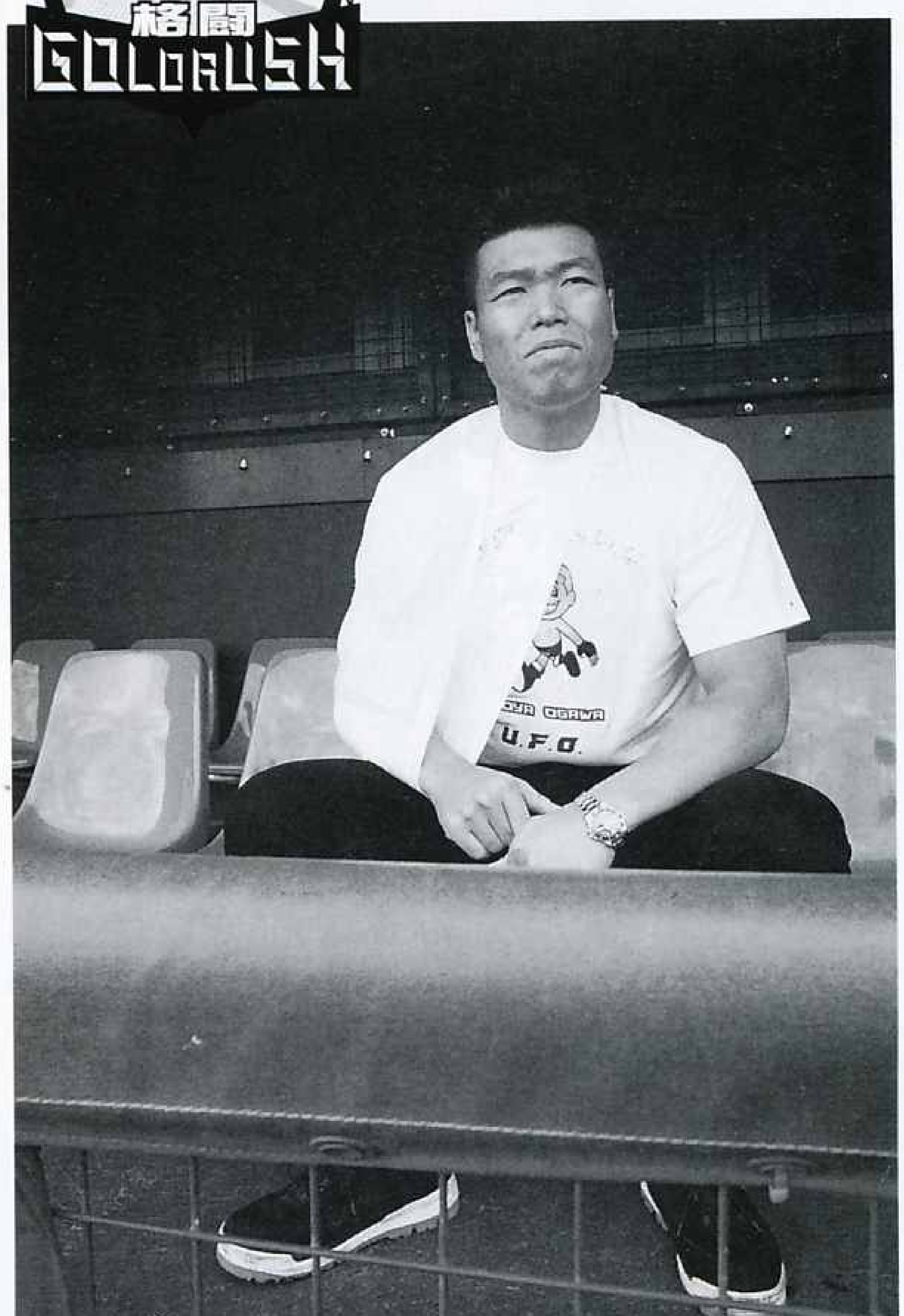
小川 だってさ、渋谷っ子って若いからね。

――そりゃ若いですよ（笑）。

小川 いやいや、これから何年かして「俺たちはあの試合を渋谷のQフロントで見て、釘付けになって微動だにしなかったよ」とか、ハチ公の前が人でいっぱいになって歩けなかったとか語り草になったかもしれないじゃない。逆に言えば、〝歩けなくしたかったな〟って思ってね。

――それが残念（笑）。で、高田文夫さんは、試合後の小川さんの「橋本に感謝している。1回2回嘘をついたっていいじゃないか。UFOは大歓迎」っていうコメントに痺れたらしいですよ。

小川 そうだね、ホント今回は紙一重だったからね。もしかしたら肩の脱臼が偶然ハマんなかったら、そのまま試合続行は不可能だったから。



――「不続行ーッ」（笑）。肩の脱臼はジャンピング・エルボー喰らったときでよね。

小川 そう！ あの場面は「顔面蹴りくるかな？」って思ったんだけどね。大阪で一発もらってるし（97・5・3）、「ヤバい！いままでの仕返しされる」って思ったら、肩ハズれちゃいました、ズドーンと乗られて。軽くとなったとはいえ、「ホントに113キロかいな？」っていうような重さだったからね（笑）。

――それが逆十字取られたときに偶然ハマったんですか？

小川 そこで腕を上げたときに、ポキンって入ったんですよね。ハズれたときは、「ヤバい、これはアクシデントで終わってしまう！」と思って青ざめたけどね。

――柔道時代って、自分で肩を入れたりしたことはあるんですか？

小川 ないですね～。見たことはあるけど。自分のヒジを曲げてグッと押さなきゃいけないんだけど、俺の場合は初めてだからね、完全脱臼は。偶然入ったときに痺れてね、手がダラーンとなっちゃって。その後は崖っぷちですよね、後がないって感じ。最後の絞め（スリーパー）でタップしたような気がしたけど、逃げられちゃったからね。

――確かにあのスリーパーは、タップしたように見えましたよね。

小川 辻アナによると、「掻きむしられた」っていうことらしいけどね（笑）。

――ガハハハ！ 凄いな、辻アナは（笑）。

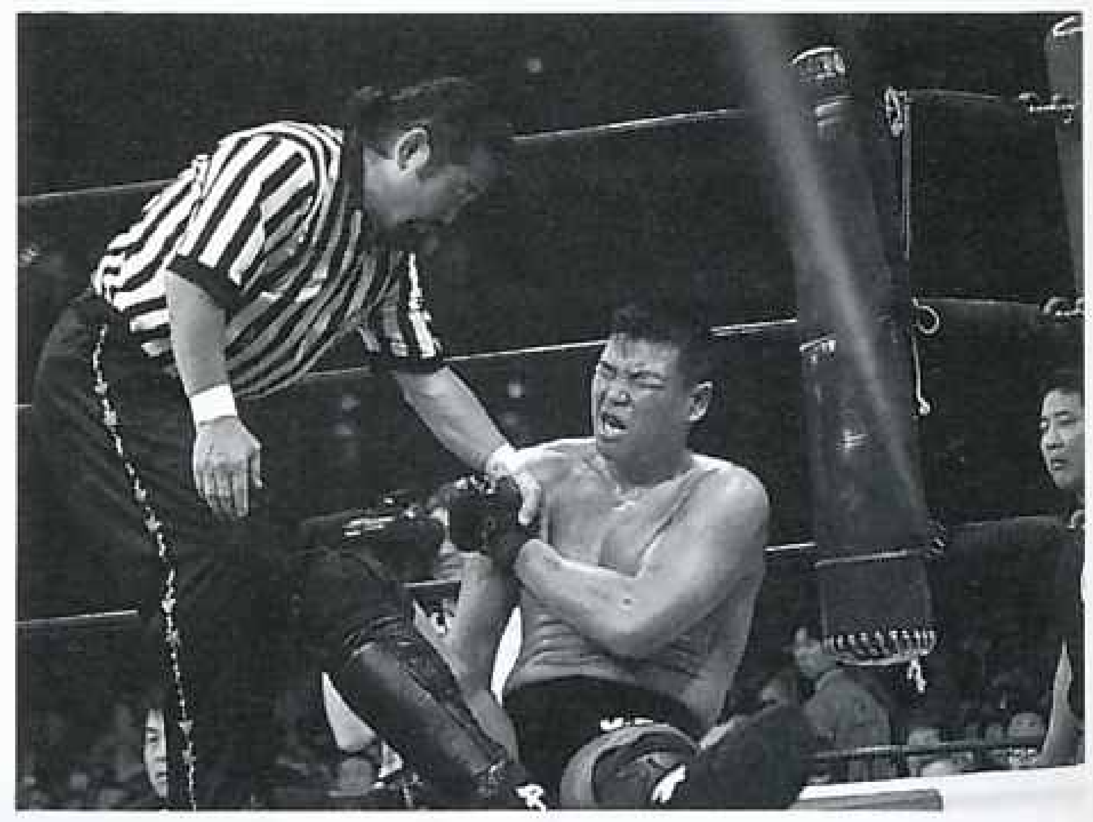
小川 でもね、あそこで勝負かけて逃げられたときは「ヤバい！」って思ったけど、向こうが余力なくてよかったな～って。最後にゴング聞いてホッとしましたよ。

――小川さんも最後、ロープにもたれかかるような感じで、結構ヘトヘトでしたよね。

小川 ヘトヘト（笑）。肩がジンジンしちゃって。痛いっていうより、感覚がなくって焦ってたね。

――今回の橋本選手は、具体的に言うと、どこが違いました？

小川 目つきと、心構えが違いましたね。俺が言うのも変だけど頼もしかった。気迫っていうか、開き直ってるって言うのかな？ 俗に言う「死んでもいいや」ってい



4・7——。破壊王の虚を突いた、文字どおり破壊的なジャンピング・エルボードロップで右肩を完全脱臼してしまったオーちゃん。これまでの恨みと怒りが破壊王の113キロにプラスされたのだから、たまらない。この後、偶然にも肩が入りSTO地獄に引きずり込んで勝利したが、まさに紙一重の勝利と言っても過言ではなかった

う感じだったからね。

——途中で村上（一成）選手が乱入してきて、かなり熱くなってましたね（笑）。

小川　あとで聞いたら、橋本選手がグローブを外したら、なんか「バンテージをグルグル巻きにしてた」って聞いてね。それを見て熱くなったみたいだけどね。

——バンテージでガチガチに固めてたことに抗議に入ったということですか。

小川　いま思えば橋本選手は、そうでもしなきゃ勝てないという思いもあったのかなぁ、と。俺だって絶対かなわない相手と街の喧嘩をしにいくときには、木刀とかバットとか、最後の武器を持っていくかもしれないしね。

——小川さんがかなわない相手は、そうそう街にいませんよ（笑）。

小川　ダハハハ。だから、それをやりやがったなって思ったけどね。

——そういえば、村上選手の"3・11橋本襲撃事件"っていうのは、小川さんは一切関係ないんですか？

小川　関係ないです！　彼（村上）なりにアピールしたかったっていうか。飯塚選手がいるかと思ったら、いなかったから橋本選手がターゲットになったっていう（笑）。

NAOYA OGAWA

——ストレートですね（笑）。でも3・11の試合後、猪木さんが橋本選手のふがいなさに「俺は久しぶりに怒ってる」って言ってましたけど、そういう部分は吹っ切れてましたか、橋本選手は？

小川　3・11に俺が頭にきたのは、俺が黒幕か黒幕じゃないかの問題は、お客さんが知るわけねぇだろうって話。「小川ァァ、なんで村上に俺を襲わせたァァ」って、知らねぇよ、そんなの！　俺も知らなきゃ、お客さんも知るわけねえだろって。でも、それはともかく、ドームでは、まず構えが違うっていうのが一番ですよね。ちゃんとパンチで応酬できるようになったし。昔は空手を意識してたのかもしれないけど、手が身体の下のほうでヘラヘラしてたでしょ。でも今回は研究してきたのかなって。冷静になって見ると、まだ短期間だからしょうがない部分はあるけどね。

——某格闘技道場で練習してたらしいですね。

小川　だから、橋本選手は、その気持ちでいいんじゃないですか？　負けたからって気にすることたぁねえよ、って思いますけどね。

——あくまでも「人間・橋本真也」との闘いっていうことですか。

小川　そうです。だからプロレスラーだとか格闘家だとか、そういう枠にはまるんじゃなくて、いい意味での来世紀に向けてのプロレスラー像を橋本選手が新たにつくっていけばいいんじゃないですかね。負けたから引退とかなんとかじゃなくて。

——橋本選手がUFO入りすれば、新たな広がりは出ますけどね。小川さんが肉体改造法を教えて、破壊王がガラッと変わったりしたら、なお面白いですよ。

小川　そうですね、広げたいんですけどね。でも本人がどうコメントするのか、いまはまだわかんないから。去年から言ってることなんだけどね、「UFOに来たほうがいい」っていうのは。橋本選手は違った意味で意固地になってたからね。

——その意固地にさせたものって、小川さんなりに考えると、なにが原因だったと思いますか？

小川　新日本プロレスを愛してたことじゃないですか？

——やけにストレートな答えですね（笑）。

小川　それしかないでしょ。好きじゃなきゃ、いないわけだから。

——逆に言えば、あのポジションにこだわってたっていうか。

小川　そうだね。でも俺も『裸の王様』状態っていうのに気づいて、最初っから言ってたんだけどさ。「あの人は裸の王様だ！」って。

——裸の王様ですか！

小川　俺もそうかもしれないし（笑）。

——小川さんは王様って感じしませんよ（笑）。

小川　裸の悪魔かな？（笑）。

——試合内容は自分的にどうでしたか？

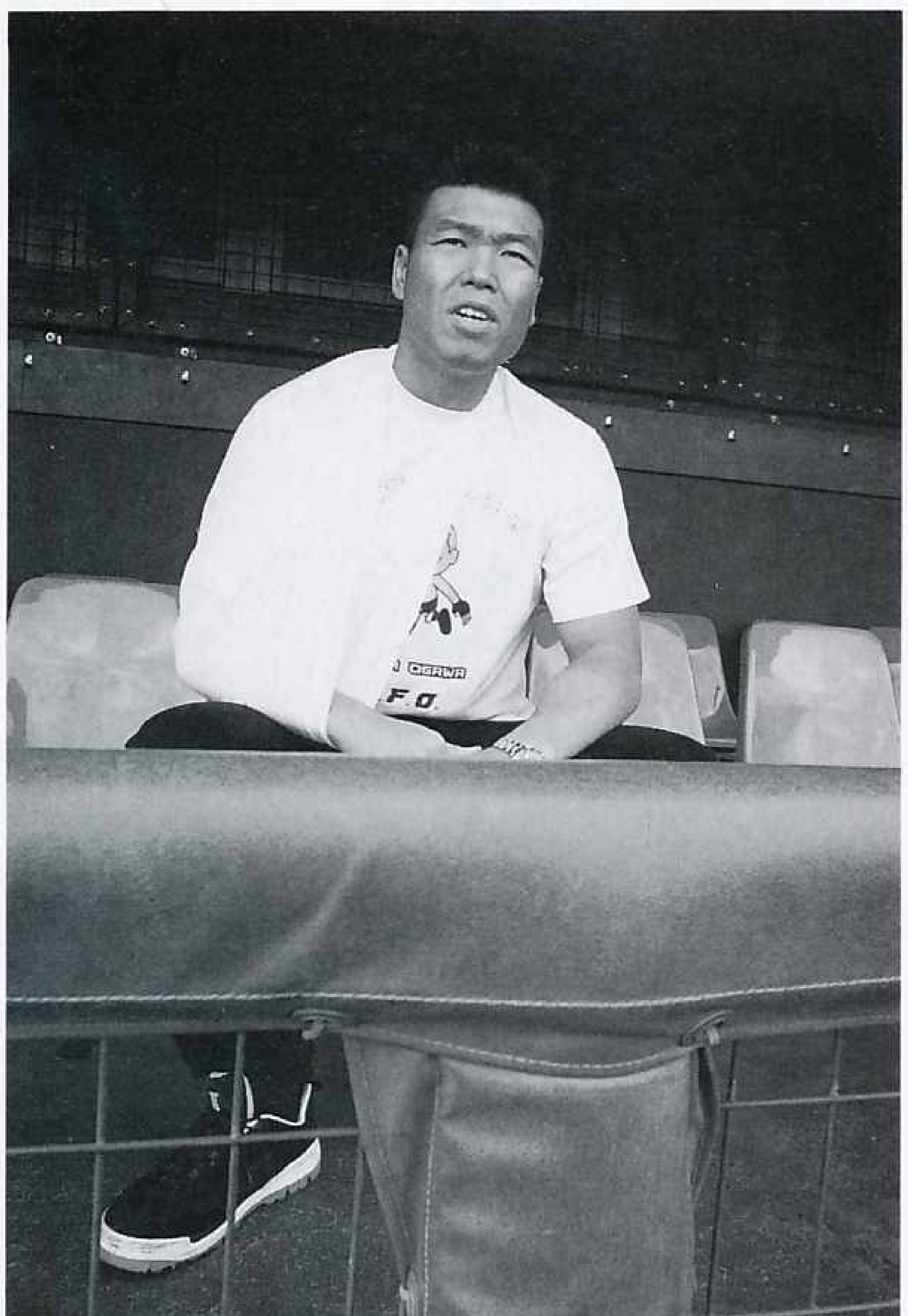
小川　みんなが「面白かった」って言うから、いいんじゃないですか？　そういう判断っていうのは、プロなんだから自分でするもんじゃなく、他人が評価するもんじゃないですか。アマチュアの場合の評価はメダルって形があるけどね。自分で「いい試合した」って思っても、それは自分の中でのいい試合であって、お金払ってくれたお客さんの中では、また違う場合もあるだろうしね。

——「いい試合」ってことで言えば、4・7の視聴率のデータ（P42参照）を見ると、それが如実に表れてるんですよ。（視聴率表を取り出して）例えば、蝶野vsムタ戦は、入場のときの視聴率より、試合のほうが低くなる場合があるんですよね。蝶野とムタというトップスター同士の、しかもあの日はストロング・スタイルを意識した闘いにも関わらず、試合で中だるみがあると、如実に数字が下がっちゃうんですよ。

小川　でも、ライガーvs健介戦でちょっと上がってるじゃないですか。

——あ、健介vsライガー戦のフィニッシュに近いところですね。これは次の小川vs橋本戦が近づいてるのがわかってるからですよ。

小川　そこを説明してもらっとかないと





オーちゃんのサザン好きは有名だが、そのサザンがこの夏、茅ヶ崎でライブを行うのが決定したという。場所は茅ヶ崎公園野球場である （P77のキャプションに続く）

（笑）。

――ガハハハ！　実に誘導がうまいですね。で、逆に小川vs橋本戦はゴングが鳴ってから、さらに数字が尻上がりに上がってる。だから最近のストロング・スタイル的な「いい試合」っていうのは、確実に時代のニーズからズレてるっていうのが数字に出てるんですよ。これは悪口じゃなくて（笑）。

小川　まあね（笑）。だけど平均視聴率はトップじゃない？

――いや、「スターものまね王座決定戦」のほうが若干上です（笑）。

小川　あ、ホントだ！　あちゃ～、やられた（笑）。

――でも、ゴールデンタイムは約8年振りですからね。それを考えたら、凄い数字ですよ。小川さん、番組は見たんですか？

小川　ビデオで見ましたよ。

――番組の作りはどうでした？　橋本物語オンリーでしたけど（笑）。

小川　いいんじゃないですか？　だって、別にUFOの中継じゃないんだから。新日本の中の試合だから、それはもういいですよ。ってことは、テレ朝に限るんじゃなくて、他局でもなんでもいいと思ってるってことなのかな（笑）。

――それが言いたかったんですか（笑）。

小川　そう（笑）。

――テレ朝はテレ朝のやり方でやってくれて結構だと。

小川　そう。そういう番組を作るのがテレ朝の色なんですよ。俺はプロの選手である以上、ちゃんとした試合すればいいのかな、と。俺はテレ朝に縛られた選手でもなんでもないんだし。最初はね、煽りで俺ばっか特集してたからヒヤヒヤしてたけど、結果的にはよかったですね。

――その番組のタイトルが……。

小川　「これができたら100万円」！（笑）。

――ガハハハ！　近いですけどね。橋本真也34歳……。

小川　これができたら100万円！（笑）。

――そういうこと言ってるから怒られるんですよ（笑）。

小川　「あいつは言うことが軽すぎる！」って？　でも俺からしてみれば、そっちの作り方のほうが問題あるけどなぁ（笑）。似てるんだもん！　同じ10チャンなんだもん。

――確かに炎チャレ（『炎のチャレンジャー』）チックな作りではありますね。

小川　なんかね、凄いそっくり。一つの枠にはまってしまってんのかなぁ？　でも、自分で自分の試合を見てたら、メシを食う箸は止まってましたね。

――猪木さんも「小川を誉めてやりたい」と言ってましたね。

小川　猪木会長にはね、ブッ飛ばされるかと思いましたけどね。「もっと差をつけて勝て！」とか言われて（笑）。なんせ抹殺命令がありましたからね。

――抹殺命令！　そういえば、驚くことに藤波辰爾社長が「小川と俺がやってもいい」と対戦の名乗りを上げてますね。

小川　……。あのさぁ、寂しいよな。社長一人でさ、可哀想だよ。全部この流れを作ってるの社長でしょ？　それに選手がすぐに名乗りあげないっていうのは、どういう会社なんだよ、一体？　社長の心意気とか、あるじゃないですか。アントニオ猪木の勧めるものに、「新日本もぜひ、そういうのをやっていきたい」って応えてくれたわけでしょ。こういう形でやっていけるのも、藤波社長が俺たちの進めるプロレス像っていうのに協力してくれなかったら、ありえないことですからね。そういった意味では、藤波さんには感謝してますよ。結局あの人の勇気。自分とこの選手が壊れるか壊れないかっていう崖っぷちに踏み出してるっていうね。踏み出せない人たちもいるわけでしょ、新日本プロレスは。だから社長には男として協力できることはしたいですよね。

――今日はいい話が聞けるなぁ（笑）。

小川　それよりね、聞き捨てならないのはさ、試合翌日の『日刊スポーツ』の一面にあった坂口（征二）会長の談話!!　あれはね、俺、今度会ったらブッ飛ばしもんだよ。

――ブッ飛ばしもん！（笑）。

小川　「小川が強いのはわかったから、他に行って試合やってくれ」って、なにそれ？

――「小川はこれから世界にどんどん羽ばたいてくれ。新日本にはいらない」っていうやつですね（笑）。

小川　そうそう。自分で「新日本は弱い」というふうに言ってしまったのと一緒じゃない。立場わきまえなさいよ、もう。俺を張ったとこまでは「あ、坂口会長も変わったのかな？」と思ってたけどね。（98年）6月の仕返しを大衆の目の前でバッチリされたということなら、それは百歩譲ってしょうがないことですよ。でも次の日のあのコメントは、百歩譲っても許せない！　要は「あいつにウチに来られると困るから、来ないでくれ」ってことでしょ。パチンコ屋で「あいつ、出しすぎるから出入り禁止だ」みたいなもんでしょ。

――ガハハハ！　うまいですね！　「プロお断り」ってやつですか（笑）。

小川　そうそう。その貼り紙を堂々と張り出されちゃった感じ（笑）。

――それは確かに情けないですよね。

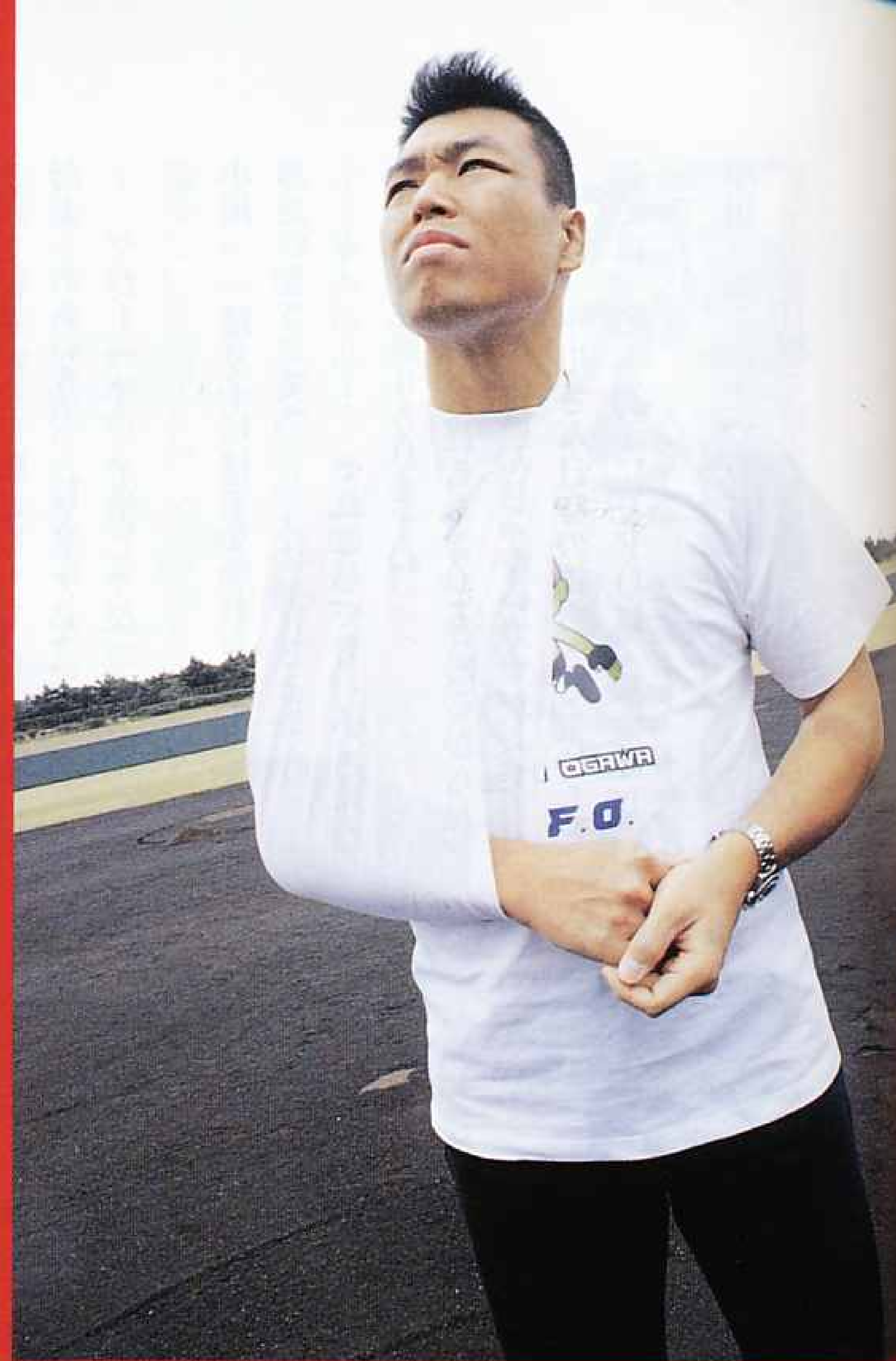
小川　ズバリ言って、情けない！

――いままで、出玉の多さと「プロでもなんでも来い」というのが売りだったんですけどね、「パチンコ・新日本」は（笑）。



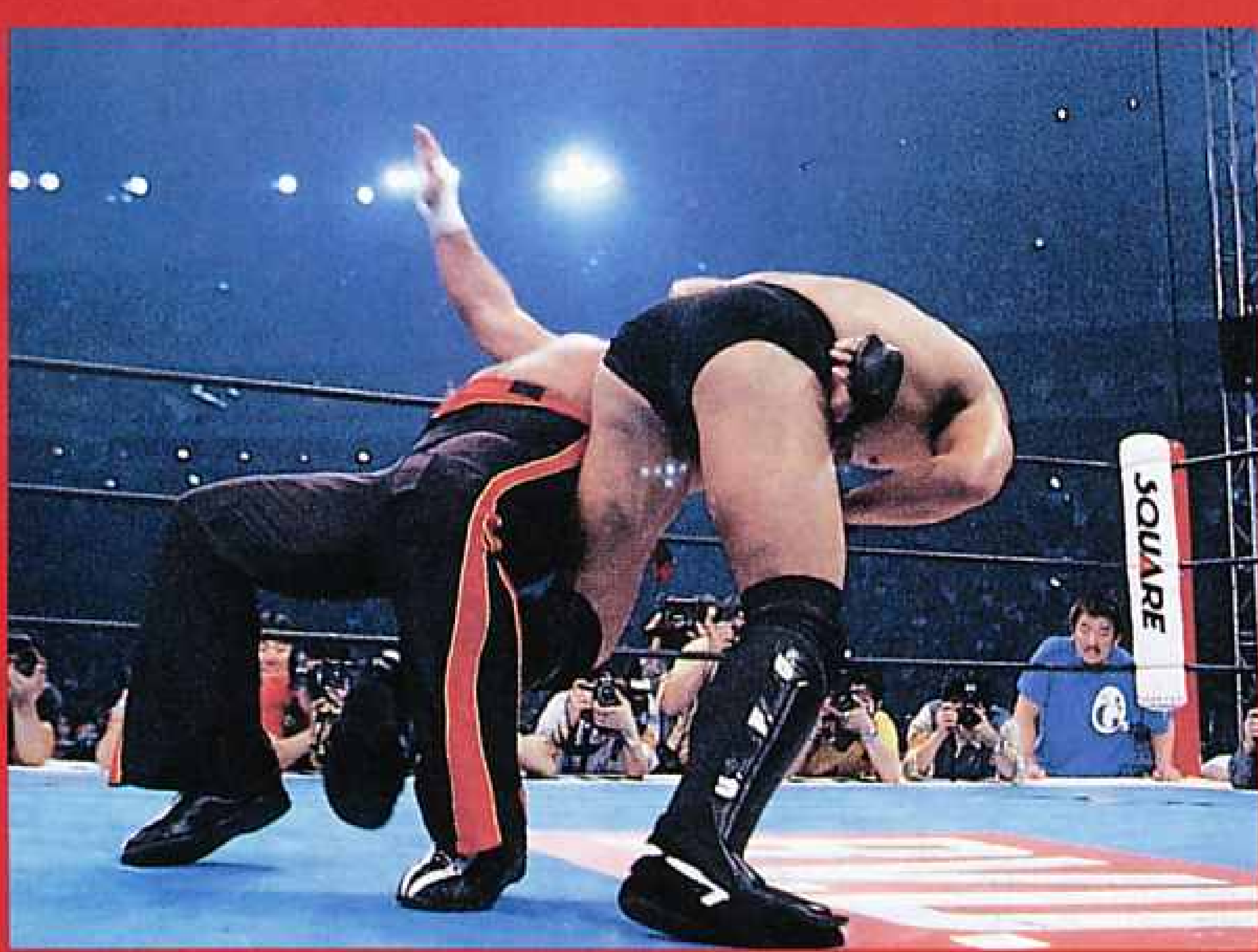
「小川は新日本にはいらない」？『パチプロ出入り禁止』だよ、それ

小川　店に顔出ししたら、お金だけ持ってきて、「これで勘弁してください」って言ってるみたいなもんじゃない。今回の試合で残念なのはね、渋谷の街頭テレビと、坂口征二先輩の談話だね。それに尽きるね（笑）。
――それに尽きちゃうんですか！（笑）。
小川　そのコメントについて怒る人がいないから、また困っちゃうんだよね。敢えて俺が言ってるから。「先輩、それはないッスよ。新日本の会長なんだから、そういうこと言っちゃいけませんよ」って言ったら、「お前、後輩のクセに生意気言うな」ってブッ飛ばされるだろうけどさ。これは、敢えて殴られる覚悟で言ってる言葉ですよ。俺は3・11で会長が怒ってたぐらいの心境ですよ。
――「俺は久しぶりに怒ってる！」っていう心境ですか？
小川　いくら先輩でもね。俺たちがやってる試合に対して、ケチつけてるようなもんで、試合の質を落とすようなこと言ってるわけじゃないですか。せっかく価値が上がってるものを落としちゃってどーすんだってことですよ。
――「新日本は新日本」という枠を作りたいんでしょうかね。
小川　せっかく枠を取っ払ったのに、また塞ごうとしてるからさ。わかってねぇよ。こっちは新日本だUFOだにこだわることなく、プロレス界全体の浮上を考えて、「対世間」まで考えてやってるのにね。これだけみんなが「成功してよかった」って言ってる中で、トップがこういうコメントしてるようじゃ、ちょっとね。だから……（この件をこれ以上話すのはめんどくさそうに）あの〜、面白いですよ。ダッハッハッ。
――なんですか、それ！（笑）。
小川　でも、猪木会長は、ヒクソンに高田選手が負けたときに、心を鬼にして「高田が一番弱い」って言ったじゃないですか？
――「よりによって一番弱いヤツが出て行った」ってヤツですね。
小川　プロレスラーの威厳を保つためには、それは必要な言葉じゃないですか。例え高田選手が一番弱くなくても、「一番弱い」って言ってしまえば、「ウチには強いのがいっぱいいるよ」って言えるじゃないですか。なのにさぁ、坂口会長は……「新日本プロレスは橋本だけじゃねえゾ」っていうセリフが一番必要でしょ？「小川は強い。だけど、あれで新日本に勝ってもらったと思われちゃ困る」って言うんだったらわかるけどさ。それもね、『日刊スポーツ』の一面だからね。専門誌の人たちには悪いけど、プロレス誌だけ読む人たちがターゲットじゃないんだよ。全国の購読者が、その発言を読むと思うと、恐ろしいですよ。インターネットなんてもんじゃないわけでしょ。それについて、ボクは怒り狂ってる！
――オーちゃんは久しぶりに怒ってる！（笑）。
小川　久しぶりに（笑）。もう頂点！
――しかし、その坂口会長に張られたときは、強烈でしたね。
小川　いや〜、あれは効いた！
――ガハハハ！　効きそうですよね。坂口会長、フルスイングでしたからね。
小川　恐ろしいねぇ、あの手のデカさは。
――掌底気味に入ったらしいですね（笑）。
小川　ちょっとね。しばらくホワンホワンしててね、気がついたら村上が向こうのほうで揉み合ってるんだけど、「村上、頑張れよ」って思うのが精一杯（笑）。
――怒ると怖いですね、坂口会長も。
小川　テレビで見てたらね、すかさず安田（忠夫）選手の陰に行ったたっていうのが、なかなか笑っちゃうんだけどさ（笑）。
――ところで新聞報道によると、肩の負傷は「全治一ヶ月」ってなってますけど。
小川　そうですね、「治りました。ハイ、次の日に試合」というわけにいかないですからね。カサブタとかの怪我じゃないから、どうしても休まなきゃいけない。そういう意味で考えれば、一ヶ月半から二ヶ月ぐらいかかるかな？　試合ができる筋力に戻すのに、また時間がかかりますから。3日間ぐらいで筋肉つけばいいんだけどね（笑）。
――で、小川さんの今後なんですが、猪木さんが「小川の次のターゲットは長州力だ」っていう発言をしてますよね。
小川　嬉しいねぇ〜。ようやく『ゴルゴ13』になった気分だよ。
――「とうとうヒットできるぞ」ってことですか？
小川　公にヒットできるっていう。
――「長州復帰後、大仁田戦の次に小川戦か」という報道もありましたね。
小川　大仁田戦で火傷しちゃって、「できない」って言われたくないからさ（笑）。力があるうちにやっときたいよね。大仁田戦で疲れちゃったら、つまんなくなるから。
――4・7のドーム大会は、長州監督とニアミスはなしですか？
小川　どこにいたんだろ？　どこに隠れてんだ！　俺は「やる」って言ったら、ホント



で、その茅ヶ崎公園野球場のグラウンドに感慨深げに立つオーちゃん。サザンのライブで「目を覚ましてくださ〜い」という曲を歌うことがあるかも（ないか？）

NAOYA OGAWA

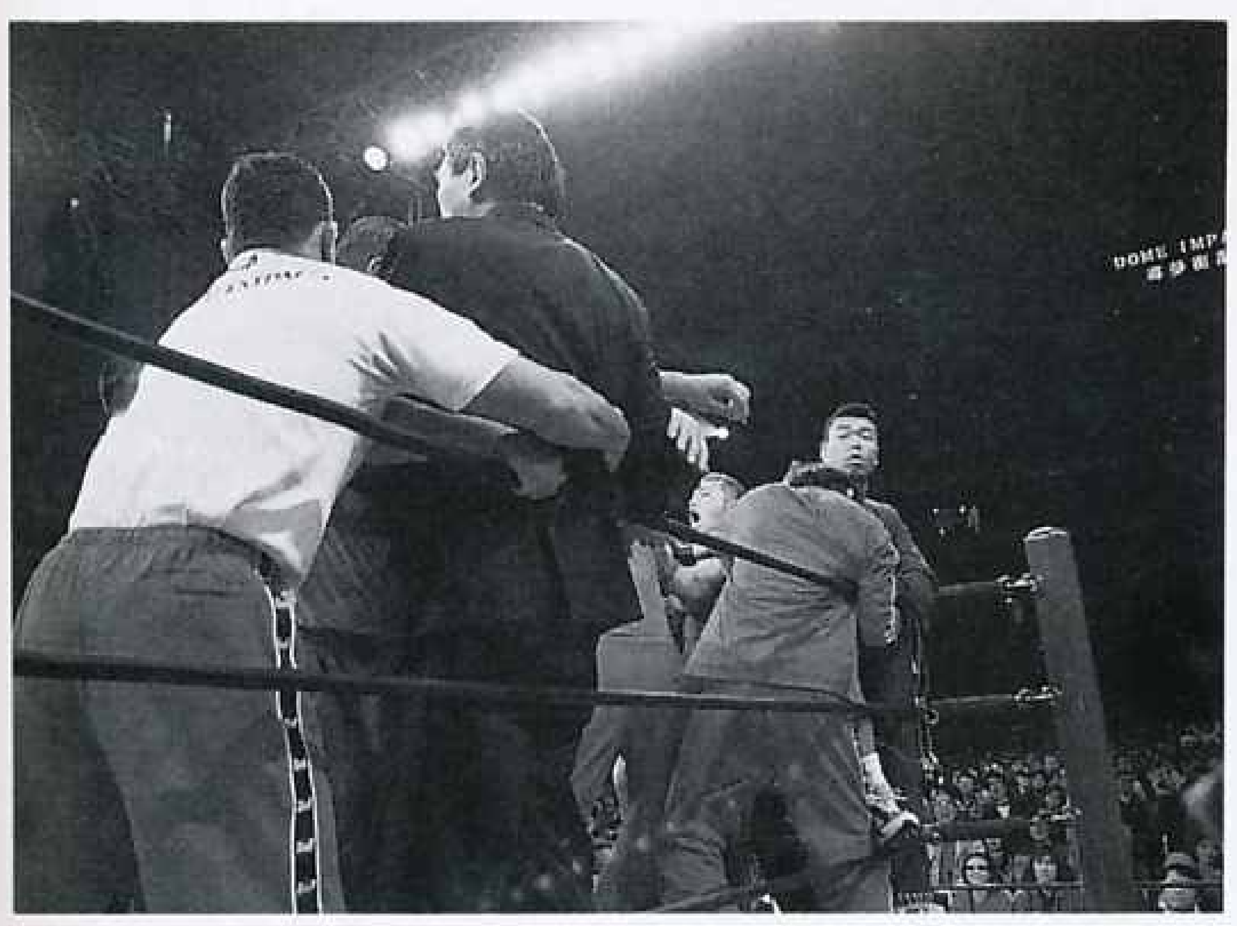


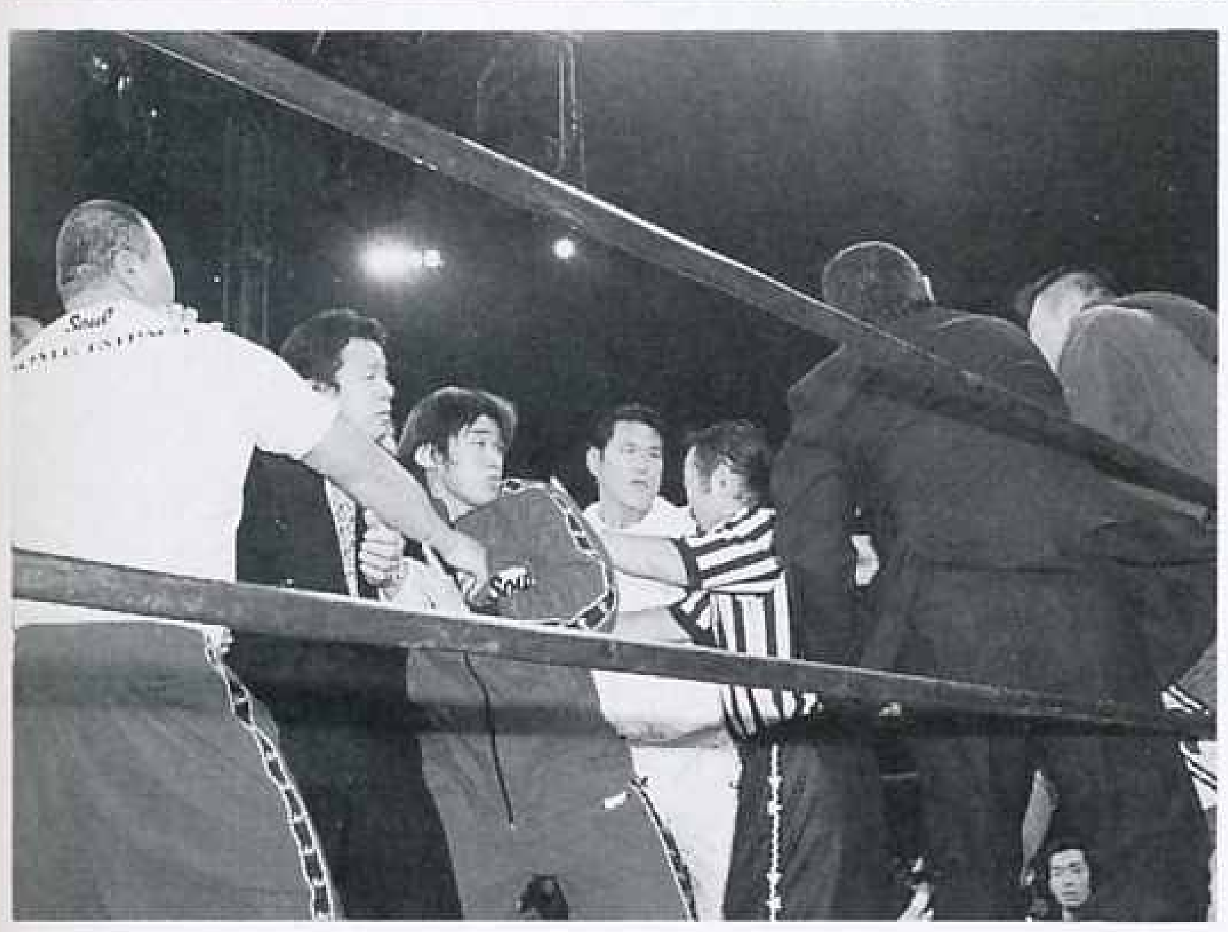


にやるからね。あれだけ『週刊・長州力』で煽ってんだから。「やっと来たか！」って感じですよ、順番が。
──大仁田厚みたいですね（笑）。
小川　おいおいおい、冗談じゃねえよ～。大仁田選手とはニュアンスが違うよ。ただ心配なのは、また村上が乱入するかもしれないから手錠つけときたいね、アメリカみたいに。あいつ興奮しすぎるから（笑）。
──それと、「5・26の船木vsヒクソン戦に猪木&小川が観戦に来る」っていう、ネットレベルでの噂とかもありますね。
小川　ない！　見る必要なし！　会場行くと結局ね、「ヒクソンだけはイジらないでくれ」とか主催者が及び腰になっちゃうから、ヤだ！　ああいうの、行きたくない。
──ヤだ！って、子供じゃないんですから（笑）。
小川　「踊り子には手を触れないで下さい」みたいなさ（笑）。
──ガハハハ！　それにしても、いろんなところでお断りされますね。
小川　俺が怒られちゃうときあるからね。ま、それは、いいんじゃないですか（笑）。
──で、小川さん自身の偽らざる気持ちとしては、橋本選手にUFOに入ってほしいんですか？
小川　あそこまでできるんだから、UFOに来て新日組を構成したほうがいいんじゃないの？　図式から見れば、橋本選手が一人で頑張ってるみたいで、みんなバラバラじゃないですか。だったら、こっちに来てね。こっちからなら新日本のこともよく見えるし、そのほうがいいんじゃないですか？

NAOYA OGAWA

──もし橋本選手が引退せずにUFOに来たら、凄い戦力になりますよね。念願の自主興行ですよ！
小川　自主興行よりは、まだ他のとこに出ていくほうがいいかなぁって。
──まだやらない！（笑）。
小川　ここでやっちゃいけないんですよ、まだ（笑）。もう少し、戦力を厚めにしないとね。新戦力については近々面白いことが発表できると思いますよ。飯塚選手もホントは欲しいんですよ。
──ゲ！　飯塚選手ですか!?
小川　飯塚選手はサンボとかで基本ができてるけど、でも間違いなく「新日本にいたって……」っていうのはあるじゃないですか？（笑）。こっちに来て、新日本以外の選手とやってったほうがいいと思いますよ。例えば、全日の選手とやるとか、『PRIDE』に出てる選手とやるとか、パンクラスとかさ、あのへんあるじゃないですか。
──飯塚高史vsパンクラス勢っていうのは、実にド新鮮ですね！
小川　新鮮っていうか、どう見ても村上のほうが強いのかな？って思うけど、村上が勝ちきれないっていうのは、一日の長が向こうにあるね。しぶといっていうかね。落ちそうで落ちないから、あの飯塚選手っつーのは。村上はあの髪の毛が問題！　ゴマアザラシみたいな（笑）。
──ガハハハ！　あれは、間近で見ると何色なんですか？
小川　知らない！「なんて頭してんだよ！」って思うけど、若いヤツらには受けるだろうからね。俺なんか、茶髪さえも理解できないのに、さらに進化した色でしょ（笑）。
──進化（笑）。でも、いまでは茶髪、金髪は当たり前になってますからね。
小川　その考えが、俺は抵抗あるから。受ける受けないじゃなくって、理解できない（笑）。ちょっと抵抗あるんだよね～。俺はそんな見栄えとかより勝負が大事だから！
──ところで小川さん、一部の新聞では「7月に小川vs小橋戦実現か？」とか、もういろんな噂が飛びまくってますよ（笑）。
小川　だけどね、プロレス界を活性化する意味では、いいんじゃないですか？　だから全日本だなんだかんだじゃなく、プロレスは"やること"に対しての重要性っていうのがある。勝敗ももちろん大事だけど、やるかやらないか。だからさっきの、テレ朝じゃなくて日テレでもいいんじゃないのっていう話と一緒ですよ。
──なるほど。そういう風穴を開けたいということですね。でも、これだけ次から次へいろんな噂が出るってことは、小川さんを中心に回ってるってことなんだろうけど、それにしては試合数が少なすぎるっていうのもあるんじゃないですかね？
小川　う～ん、試合が少ないのはね、さっきの「出入り禁止」があったから（笑）。逆に、やるかやらないかの問題になると、いい話が来てもポシャっちゃうのが多いよね。
──そのポシャる原因はなんなんですか？
小川　勝ち負けの問題についてでしょうね。勝ったらいいんだけど、勝負じゃないですか？　負けたときのことを考えちゃう人が多いんでしょうね。ヒクソンだって、勝ったときの効果とか、負けたときのダメージとか、どっちが得かを考えて「この橋を渡ったら危険すぎる」とか思うわけでしょ。でも、そっからが勝負じゃないですか。そのリスクを度外視して、やるかやんないか決めちゃえば、あとは本人の頑張りでね。どうなるかは「やればわかるさ！」ですよ。
──小川さんがよく言う、「やらなきゃニーズは生まれない」「やってナンボ」ってことですね。
小川　そういうこと。さすがUFOの機関誌！　よくわかってますね～（笑）。
──ズコッ！　またそのネタか（笑）。
小川　ダーッハッハッハ。うちも早く『紙プロ』さんに機関誌になってもらわないと。
──小川さん自身は『PRIDE』であろうが『コロシアム2000』であろうが、出ていく"場"はどこでもいいんですか？
小川　そうですね。一番のターゲットは、





生中継が始まった時間。『炎のファイター』が鳴り響く中、村上vs飯塚戦の特別立会人として、ジャージ姿のアントン総帥を先頭に、背広姿の坂口会長、藤波社長が揃って花道を入場してきた。猪木総帥がリングインする際、オーちゃんはロープを広げて迎え入れたが、藤波社長には知らんぷり。それを見たビッグ・サカ会長の怒りの張り手が火を吹いた！　怖ェ！

「対世間」の闘いまでもっていけた だから、いまが始まりじゃない？

東京ドームがいっぱいになるくらいにお客さんが入って、注目されてれるんだったらいいんですよ。1～2万人じゃ、ちょっとシンドイかな～？　なんでかっていうと、大観衆の前でやるのが最大の能力を発揮できますから。そういった意味では、今回は生放送っていう部分とか二次的要素で盛り上ってたっていうのがあるじゃないですか。「小川vs橋本」っていうだけじゃなくて。世間にアピールするっていう部分でも「闘い」でしたからね。ある意味、「橋本戦」以上の闘いというか。テレビの影響力っていうか、それによって、試合が終わったあとでも、プロレスの話をして盛り上ってくれる。それはとりあえずクリアしたかなって。「小川vs橋本」について語り合いながら帰るプロレスっていうのができたんじゃないかと思うんですよね。

——いずれにしても、ネットの書き込みの量とかはハンパじゃなかったですからね。そこには、猪木さんの「1・2・3・ダーッ」のタイミングがいつにも増して早かったっていう話も含まれてたんですけどね（笑）。今回は猪木ワールドが爆発する前に締めちゃいましたから。



小川　あのこともね、聞くところによると、猪木会長のメッセージがわからない人もいるみたいだけど（笑）、意味がわかれば、俺はよく理解できるし。あれはアントニオ猪木流に橋本選手に手を差し延べてるっていうかね。どう見ても引退ムードになってたじゃないですか。ファンはショック受けてるし。でもあれで、クッションになった部分ってあるんじゃないですか？　「プロレスを頼むぞ」っていうのは、支えてくれよと。ファンあってのプロレスだってことを意味してるんでね。

——あれは、そう解釈すればいいんですか。

小川　だって、あそこで、あれがなかったことを考えるとゾッとしますよ。ジメーッとしたムードの中で、そのまま俺が勝ち名乗りを上げて、橋本選手をほっぽといていいのかっていう問題もあるし（笑）。

——あの試合では、背景も含めて、負けたとはいえ橋本選手の〝顔〟はよく見えましたよね。だけど、〝強さ〟はよく伝わった反面、小川直也の〝顔〟が見えづらかったという声もあるんですよ。小川さんに、より高いグレードを望むファンの間では。だから、これから小川さんが、〝強さ〟以外のなにを見せてくれるかですよね。もちろん、〝強さ〟も〝怖さ〟も何度でも見たいんですけど。

小川　いまが始まりじゃないですか。いままでは、プロレスファンに対しての闘いをやって、ようやくこないだ「対世間」の闘いまでもっていけた。プロレスは世間ではいい取られ方してないんだけど、それを打破するのも闘いだし。要するに、誰が強い、誰が弱いんじゃなくて、「昨日プロレス見た？」って普通にみんなが言う時代？　それくらいプロレスっていうものを素晴らしいものにしていかなきゃいけない。昔って、どうしても血が出るシーンが多かったり、いいイメージじゃなかったけど、こないだの試合みたいに、単なるスポーツを越えた「闘い」として捉えてくれればいいなって。

——はぁ～。今日は小川さんのプロレス観がおぼろげながら見えましたね。

小川　でも、すぐ考えは変えていかなきゃいけないから。いまはそういう気持ちでやってるけど、何年かしたら、自分自身の考え方もニーズに合わせて変えていかなきゃいけないこともあるかもしれないし。そのニーズは、やらなきゃ生まれないだろうしね。

——クリエイティブなニーズってやつですね（笑）。

小川　いまは「これは間違ってねえんじゃねえかな？」って模索しながらやっていこうと。

——でも、生中継で久しぶりにプロレスを見た人は、いきなりグローブしてるし、これまでのプロレスとあんまり違うんでビックリした人も多いかもしれないですね（笑）

小川　俺の試合に限ればね。それぞれの選手に「俺がプロレスを守る」っていう感覚はあるんだろうけど、その感覚にもいろいろあるからね。だから、それは見た人たちが、どれが面白いかってチョイスしてくれればいいからね。

——チョイスした結果が、この視聴率の表に出てるんじゃないですか？

小川　だから、次だろうね。毎回、勝負していかないとさ。今回がよかったからって、同じことやったってしょうがないだろうし。もっと違う展開をしないとね。次に新しいことするには、終わったことは忘れなきゃいけないから。猪木会長にも「そういうクセをつけとかなきゃいけない」って言われてるからね。

——それ聞いて、なんとなく安心しましたよ。猪木さんじゃないけど、「小川はそろそろ天狗になってんじゃないか」っていう杞憂も出てくるじゃないですか。

小川　天狗っていうかね、天狗になれたほうがいいですよ、ホントに（笑）。

——なるヒマがない（笑）。

小川　ずっと厳しい山を登ってるんだけど、〝頂上が見えるな～〟っていうのもないしね。「こっちに行けば頂上だ」って信じながら歩いてるようなもんだから。

——プロレスの頂上は、まだ小川直也にさえも見えない？

小川　一生見えなくてもいいんですよ！　見えちゃったらつまんないんだから。女の子の裸でもね、見えるか見えないかギリギリがいいでしょ？（笑）。

——ガハハハハ。しかし今日はいい話が聞けますねぇ。

小川　今日はね、ギャグじゃないから。たまにはピシッとしたこと言わないと、また「軽い」って言われちゃうから（笑）。画面を通じて橋本選手にだいぶ釘打たれたからね。「軽い発言ばっかりするな」って（笑）。俺に言わせりゃ「あんたがしゃべんないから、しゃべらすまで頑張ってんだよ！　わかってねぇな」っていうのがあるんだけどね（笑）。

——ガハハハ。いま、しがらみを抜きにして個人的に闘ってみたい選手は？

小川　試合するとしたら、ヒクソンでしょ

うね。前から言ってる通り。これだけ名前があってね。例えば、『PRIDE』の話とかあんまり好きじゃないんだけど、「対世間」をアピールしていくには、あれじゃわかんない。昨日だって、相手が橋本選手だからこそ、みんなは見たわけじゃないですか。

——それは言えてますね。

小川　あれでね、30分も1時間も膠着が続いちゃって、「小川選手が勝ちました」ってなっても、絶対「なにやってんの、あいつら？」ってなりますよ。でも、そういうことを抜きにしても、ヒクソンなら名前が通ってるからトドメは刺したいね。全日本の選手でも有名な選手で、世間的にアピールしてくれる選手がいれば盛り上がるし。こないだの試合にしろ、橋本選手が負けたから弱いっていう評価はないと思いますよ。プロレスファンの間ではわかんないけど、世間から見れば、「橋本が弱い」とか「強い」とかじゃなくて、なんか記憶に残る試合だったで終わるっていう。要するに、力道山と木村政彦戦も「記憶に残る試合だった」って話があるじゃないですか。どっちが勝った負けたとかじゃなくって。いまは、勝ち負けを超越した部分で世間的にアピールして歴史に残す。そういう試合をするのが自分の役割なのかなぁって。

——それだけのものを「見せたい」というか、「見られてもいい」というか、小川さんは自信があるんですね。

小川　いや〜、自信ないッスよぉ……。

——また（笑）。

小川　自信ないからこそ、練習するんですよ！　自信あったら慢心しちゃって、それこそ天狗ってヤツですか？　練習しなくなっちゃうし。常に崖っぷち。今回もホントは体調崩してて、京都で診断受けたときはストレスが凄くってね。

——赤血球が減ってるという映像がありましたね。

小川　それで2週間ぐらい体調が優れなかったんですよ。無気力になって、「ヤベぇな〜」って思って。要は協力がなかったじゃないですか。自分たちの興行なのに、煽りがないというか。「なんで俺が新日本の興行煽んなきゃいけねえんだよ」っていう気持ちがあったけど、「いや、これをやることによって、自分に返ってくるんだ」って思って踏ん張った。でも俺、新日本の人間じゃないのにまいっちゃうよね。おかしな話だよね。ポスターにしても、俺の顔ひとつも載ってないしさ（笑）。

——そういえばそうだ！　あれじゃいつのドーム大会のポスターかわかんないですよ（笑）。

小川　認めたくない部分があるのはわかるんだけど、いいじゃないですか、そんなことは。でも、そう思えないのがいまの新日本プロレス。

——これから、小川直也の〝顔〟がどんどん浮き彫りになる闘いをしていってほしいもんですけど、最後に、夏に向けてUFOはどこに飛んで行くわけですか？

小川　いまはね、肩を怪我してるから。喧嘩売られてもさ、俺負けるから。いまは手負いの虎ですよ。虎じゃないけど、手負いのオーチャン（笑）。

——動物占いは象でしたからね（笑）。

小川　象なんだけどね（笑）。宮本武蔵だって怪我したとき逃げたんだから。いまは、なにやっても左手1本でやんないといけないから。正直な気持ち、治してからのほうがもっといい発想が出るし、ガンガン言えると思うんですよ。いまは言っても逃げるしかないから（笑）。

——とはいえ、いつ何時でも目が離せないのがUFOですからね（笑）。

小川　いや、いろいろ動いていきますよ。

——小川直也32歳、治ったら即大暴れスペシャルで行ってください！（笑）。

【4月11日／神奈川県茅ヶ崎球場の近くにて収録】



NAOYA OGAWA

というわけで、「対世間」との闘い第一弾を突破したオーちゃんだが、やはり負傷休養していても、その周辺は常に慌ただしい。

4月14日には新日本側から、中西学&永田裕二の持つIWGPタッグ王座に、オーちゃん&村上の龍撃コンビが5・5福岡ドームで挑戦することが電撃発表された。

そういえば今年の1月。村上が「ふたりでタッグのベルトを巻きたいですね」と言うと、オーちゃんは「俺はいいよ。おまえ一人でやってこい」と素気なかったことが思い起こされる。

そして、この件は当然の如く紛糾し始めた。「おいおいおいおい、冗談じゃねえよ〜、なにも聞いてませ〜ん」「怪我をしているのに出れるわけないでしょう」とオーちゃん。

これに対して因縁の坂口征二・新日本プロレス会長は、またしても「そんなにやりたくないならヨソでやればいい」とネガティブ荒鷲発言を爆発させ、「小川はホントに怪我してるのか？」と右腕にまで懐疑の目を向け始める。そして「UFO迎撃」に気を吐く中西&永田は「エルボーくらいで脱臼して、プロレスラーがつとまるか！」とオーちゃん誘い出しに本腰を入れてきた。

そこで再びオーちゃんを直撃してみると、「中西&永田？　こっちが怪我で手出しできないときにギャンギャン吠えやがって。吠えるんならもっと早く吠えろ」と、オーちゃん節を炸裂三昧。

その中でもっとも興味深いのが、「俺を怪我させた張本人は橋本選手なんだから、責任を取って橋本選手が村上と組んでやればいい」というコメントである。

破壊王がUFO戦士として福岡ドームに立つドリームプランを提示したのだ！

本誌が発売される頃になんらかの決着は付いているだろうが、これを書いている4月17日時点では、5・5がどう転がっていくのか、オーちゃんの出場を含めて、まったくわからない（今後は東スポ参照）。だが、オーちゃんを中心に回る格闘人間模様は一時たりとも目が離せなくなってきたのは確かだ。

他にはインタビュー中にもあったように、UFOの新戦力の件もある。これは、「格闘技系の大型選手のUFO入り」が水面下で決まりつつあることを指しているわけなのだが、UFOがいよいよ戦力補強に本腰を入れ始めたということである。

ズバリ言って、プロレス界的に言えば、「ゴールデン・タイム生中継」の座に一夜限りの復活をしたというだけで満足されては困る。これからが始まりなのである。

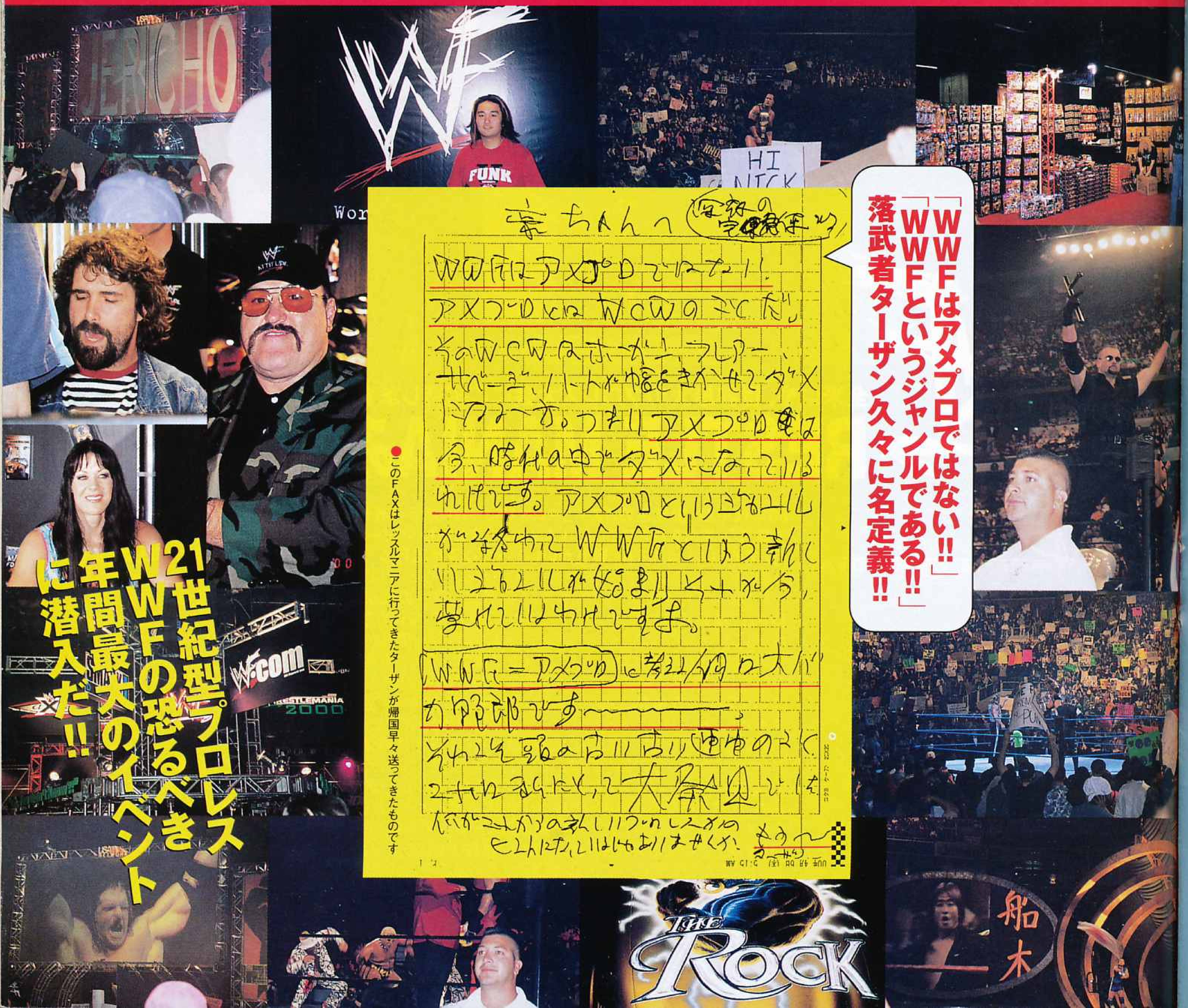
そして、真の〝黄金狂時代〟を築けるかどうかは、やはりオーちゃんの脳味噌と肉体にかかる比重が実に大きいのだ。

よーし、プロレスを頼むゾーッ!!

WWFに行けなかった杉作J太郎が大暴れ!!

紙のプロレス ~~AMERICA~~ WWF

WWF WRESTLEMANIA それぞれの観戦リポート



「WWFはアメプロではない!!」「WWFというジャンルである!!」落武者ターザン久々に名定義!!

21世紀型プロレスWWFの恐るべき年間最大のイベントに潜入だ!!

宗ちゃんへ（宗教の定義提出!?）
WWFはアメプロではない!!
アメプロとはWCWのことだ。
そのWCWはホーガン、フレアー、サベージ、ハートが幅をきかせてダメになった。つまりアメプロ自体は今、時代の中でダメになっているんです。アメプロというジャンルが終わってWWFという新しいジャンルが始まり、[illegible]が今、愛されているんですよ。
「WWF＝アメプロ」と考えている人は大バカ野郎です〜〜〜。
それこそ頭の古い古い連中のことで、これはまったくもって大誤解ですね。
僕がこれからの新しいプロレスの[illegible]になってはいけませんか。[illegible]

●このFAXはレッスルマニアに行ってきたターザンが帰国早々送ってきたものです



レッスルマニアに行った人
世界一のデザイナーHARU江川

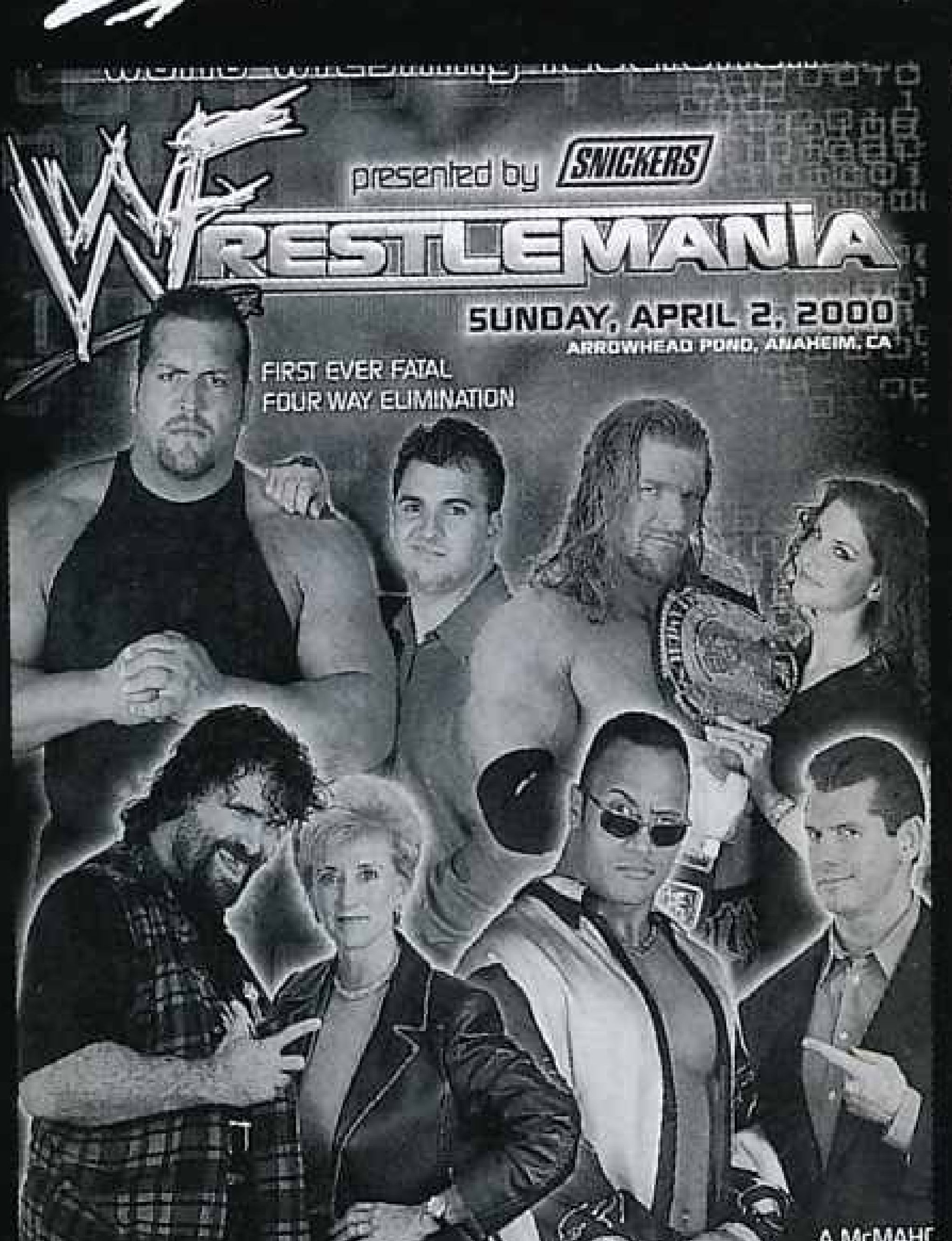
レッスルマニアに行けなかった人
スキーブ・オースチン杉作J太郎

サクラチル!! 杉J無念のアメリカ行き断念!!

構成／恒遠"おりこうさん"聖文
interview by Kiyohumi Tsunetou
現地撮影／HARU江川＆阿部猛
photographs by HARU&A.T.
撮影／リキシ・ノブゥー
photographs by Rikishi Nobu

全米いや、世界最大のプロレス大会にご招待します!!（気持ちだけ）

WRESTLE MANIAみやげ話対談



80年代中期、蛍光色のコスチュームを身につけド派手に着飾った、LAメタルなる音楽がロック・シーンで能天気革命を巻き起こした。LAメタル…すなわちヘヴィーメタルが今、アメリカでは形を変えて再び流行してるらしい。なんでも「景気がいいとヘヴィメタが流行る」らしいのだが、プロレス界にも同じことが言えまいか？　アメリカは今、景気がいい。だから、ヘヴィメタ以上に脳天気な、そして痛快なWWFが大ブームとなっているのである!　対して、不景気真っ只中の我が国。シリアスで格闘色の強い試合が持て囃され、脳天気に大声はりあげて、後ろ髪伸ばして、なにも考えずプロレスしてたバブル・レスラーたちが危機にさらされつつあるのだ。確かに、そんな暗い世相では、エンターテイメント・プロレスでバカ騒ぎする余裕はないかもしれない。だが、「どんなに景気が悪くても笑いながらプロレス観たいぜーッ!」ってな感じで、楽園にも似たレッスル・パラダイス、WWFに、心の安らぎを求める者も増えつつあるのだ!
ズバリ言って、日常常日頃「パンクとは生き方で…」なんて唇をひん曲げて主張するバンドマンだって、マイケル・ジャクソンの大仕掛けのショウを目の当たりにしたら、その馬鹿馬鹿しいほどのスケールのデカさに、ショックを受けてしまうことは間違いない（筆者体験済）。別に、マイケル・ジャクソンじゃなくても、ハリウッド映画でもデヴィッド・カッパーフィールドでもいいんだけどね。とにかく、生で体験しなきゃWWFの凄さはわかんねぇんです!…なんて言ってみたところで、このボクもブラウン管の中でしか、その妙技を味わったことのないWWF。そのWWFの最大級のイベント『レッスル・マニア2000』が4月2日に開催されたのだ!　今回は、この"現代娯楽スポーツ界で最もシビれるお祭り『レッスル・マニア2000』を体験して来たという、なんとも羨ましい方々、杉作J太郎氏とデザイナーのHARU江川氏に話を聞いてみることにした。相槌&リアクション担当はもちろんこの人、『紙プロ』唯一のWWF支持力士、リキシ・ノブゥー。しかし、ここで衝撃事実発覚!　なんと、杉作さんは……　まぁ、それは、本文を読んでもらうとして、（唐突に）みなさん、アメプロを頼むぞーッ!
　いくぞー!　ウェルカム・トゥ～・レッスル・パラダイス!!　ドカーン!!（花火）。

リキシ　どすこ～い！　桜が綺麗でごわすなぁ。さあ、Jさん！　レッスル・マニアはいかがでごわした？　花見でもしながら、土産話ごっつあんです！

杉J　……（無言）。

リキシ　Jさん、ど、どうしたでごわすか？　約束してた、お土産のリキシ・ファトゥーフィギュアを見せて欲しいでごわす！

杉J（唐突に）ガッデーム！　シマダサーンのJABRONI！

リキシ　ユージ・シマダ？　ど、どうしたでごわすか？

杉J　島田レフェリーにレッスル・マニア・ツアーのしきりを任せっきりで安心しきってたら、急遽中止になったんですよぉ～！　ウォー（号泣）。

リキシ　どすこ～い！　中止⁉　そ、それじゃあ行けなかったでごわすか！　む～、今日の企画は『杉Jのレッスルマニア・レポート』だったのに……どうしたらいいでごわすかのぉ……。

杉J　ウォー！（号泣）。

※号泣する杉Jを横目に、とりあえず四股を踏みながら考えるリキシ・ノブゥー。そこへ、さっそうとHARU江川氏登場。

HARU　ハーイ！　S2J！（S・UGI　S・AKU　J・ーTAROの略）なに泣いてるんですか？　それにラキシー（リキシの米国的発音）、なにこんなトコで四股踏んでるんですかい？

リキシ　あっ！　デザイナーのHARU関ではないですか！　じつはJさんが…（以下、事情説明のため略）…どすこ～い！

HARU　なんだ、そんなことで困ってるんですか？　レッスル・メ～イニアなら、この僕が行ってきましたよぉ！

杉J　へ？

リキシ　どすこ～い！『地獄に仏。FMWに新崎人生』とはこのことでごわす！　では、急遽仕切り直して『HARU江川のレッスルマニア・レポート』でいくでごわ～す！







今回、WWFを語るトゥー・クールな野郎ども とリキシ

スギーヴ・オースチンa.k.a. 杉作J太郎

本誌コラムページでも大好評連載中のおなじみの漫画家・杉J。いまやWWF伝道師として、様々な媒体で絶賛旗振り中！　本誌WWFページの主人公であり、欠かせない存在である。前々号では愛知県とあったが、愛媛県出身の間違いでした。スンマソン（編集部）。

娯楽スポーツ界で最もシビれるデザイナーa.k.a. HARU江川

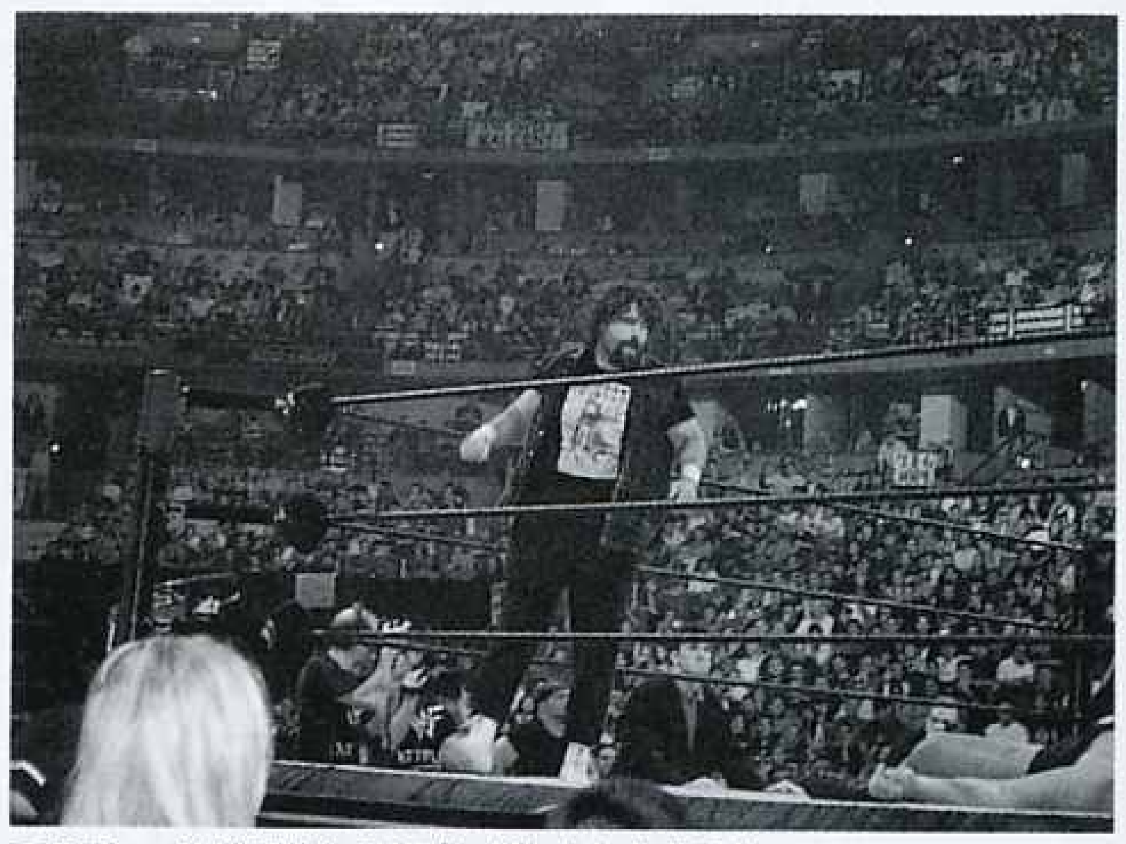
本誌初登場のデザイナー・江川さん。名作『FUNK U』TシャツやECWのTシャツやFMWグッズのデザインをしている。毎年欠かさず「レッスルマニアツアー」に参加している強者だ。今後は世界的デザイナーとして活躍（予定）。

デブa.k.a. リキシ・ノブゥー

このページの担当編集者で、『紙プロ』でただ1人のWWFファンなので肩身が狭い。今回、レッスルマニアに行こうとしたが諸事情により断念。これからもWWFのページは取り続けるのでP87のアンケートに御協力よろしくお願いします。

ウェルカム・トゥ～・ファン・フェスティバル！

HARU　まず、アメリカに着いたら、ホテルにも寄らず、すぐにファン・フェスの会場に直行なんですよ。キッかったけど、面白かったですね。



このTシャツが江川さんがプレゼントしたものだァァァ!

リキシ　ファン・フェス会場の様子はどうだったでごわすか？

HARU　入り口がもう選手の入場ゲートと同じ形になってるんですよ。

リキシ　それは入場してみたいでごわす！　ねえ、Jさん？

杉J　……（うなだれる杉J）。

HARU　中に入ると、（スティーブ・）オースチンにコンクリート詰めされたビンス（・マクマホン）の車が展示されてたり、リングがあってカイエンターイとかが試合してるんですよ。あと、上が事務所になってて、たまにリンダ（オーナービンスの奥様）が顔を出すと、みんな『うぉぉぉ！　リンダだぁ！』って盛り上がったりして、それにリンダは手を振って応えたりしてましたね。

リキシ　ほとんど皇族でごわすなぁ（笑）。

HARU　それから、いろんなブースで選手がサイン会して、そこにロックやミック・フォーリー（カクタス・ジャック、マンカインド、デュード・ラヴなどの多重人格レスラーの本名）がいました。

リキシ　ロック様やM・フォーリーにも会えるでごわすか！

HARU（平然と）ええ。欠場中のオースチンもアンダーテイカーも来てましたよ。

リキシ　どすこーい！！　Jさんの好きなオースチンもいたでごわすか！（現在、首の負傷で長期欠場中）



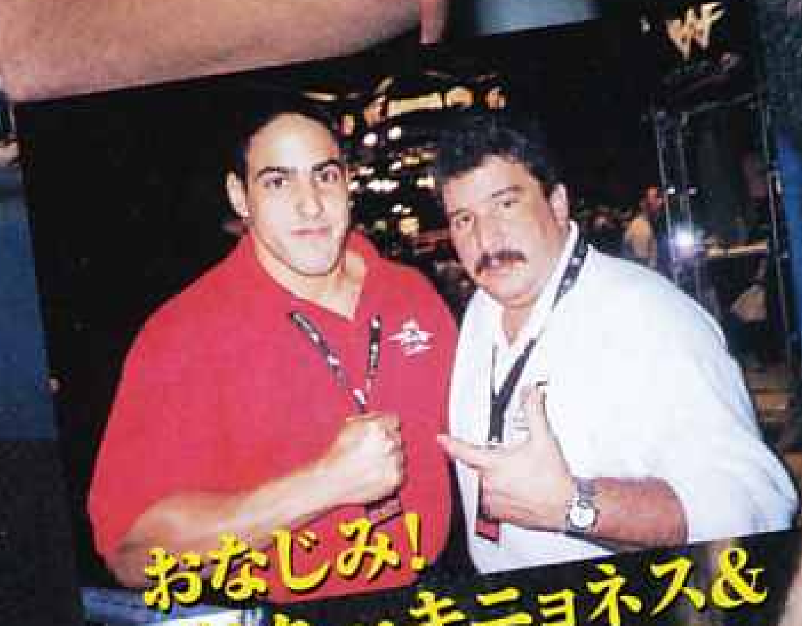


❶これがファン・フェス会場入口。巨大なタイタントロンが組まれている。❷中は東京ビッグサイトのような巨大展示場。25ドルもするのに、入場者は1万人以上いたとか。❸10mはあるオースチン人形もそびえ立つ。❹ビンスのリムジンに乗れる！　これは嬉しいサービスだ。❺トップスターにサインをもらうには2時間以上も行列に並ばないといけない。カート・アングルでさえ、この行列！❻人気のない選手（写真はスティービー・リチャーズ）ならすんなり撮れた。❼WWFが作る新アメフトリーグ『XFL』のグッズもすでに販売中！


テリーに首ったけ!!


ホントに引退!!
マンカインドa.k.a.
ミック・フォーリー


なぜだ!?
ボブ・バックランドがいた!!


おなじみ!
ビクター・キニョネス&
リッキー・バンデラス

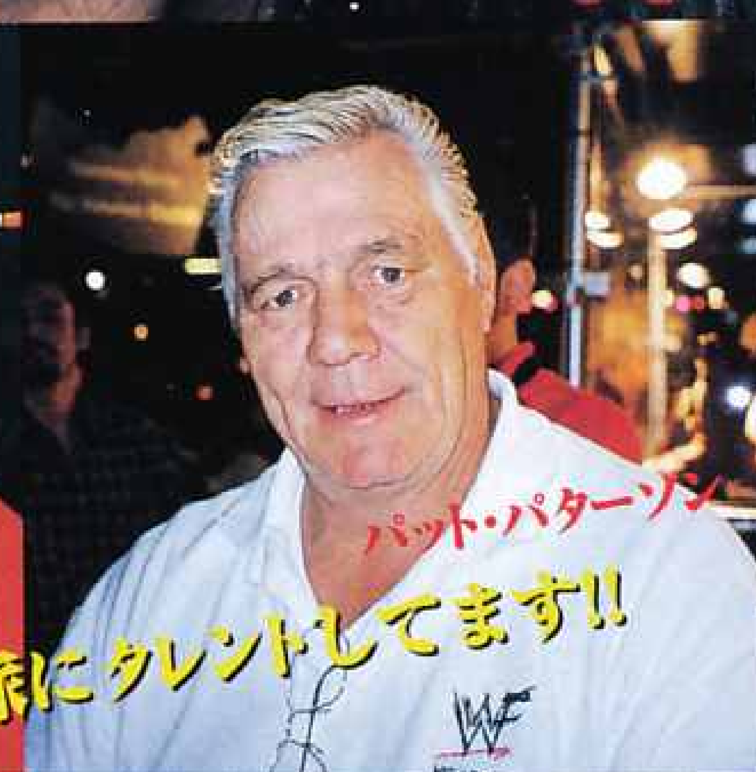
ファン・フェスティバルで世界に名だたるスーパースターたちに思いっきり急接近できました!!


極限まで急接近
チャイナ超ドアップだァ〜!!
注：ジャイ子ではありません


絶倫セクシャル・チョコレート&
淫乱メイ・ヤングが
カップルでサイン会!!


長寿ファビュラス・ムーラ


ジェリー・ブリスコ


パット・パターソン
フロントも立派にタレントしてます!!


マイケル・ヘイズだ!!

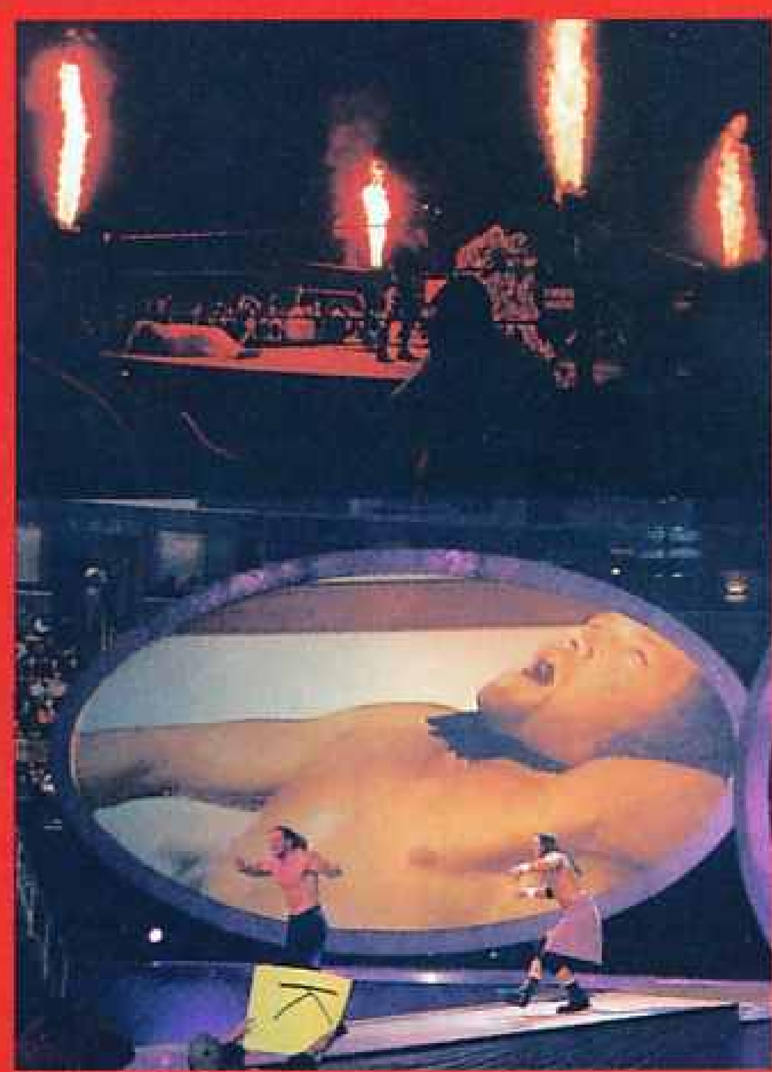
杉J　………（うなだれっぱなしの杉J）。
リキシ　で、で、江川さんは誰にサイン貰ったでごわすか？
HARU　僕、サインとかは別にいらなくて、M・フォーリーに自作のTシャツ渡したかっただけだから。
リキシ　そ、それは、渡せたでごわすか？
HARU　ええ。そしたら試合で着てくれたんですよ（笑）。
杉J　えええええええ！（我慢出来ずに復活した杉J）じゃあ今度のレッスルマニアのメインエベントで、M・フォーリーがそれを着てたんですか！　これは日本一ビッグなデザイナーですよ！　俺のTシャツなんか、高円寺文庫センターでやった自分のサイン会で売ってただけなのにぃ！
リキシ　すごい差でごわす（笑）。
杉J　世界百数十カ国の人が江川さんのTシャツを見るわけですよ！　すごい！　もう、イッセイ・ミヤケですよ！　江川さんの手、触っとこ！（と江川さんの手をサワサワ）。

ウェルカム・トゥ〜・レッスル・メイニア！

リキシ　試合会場の雰囲気でごわすが、やっぱ、TVで観るより凄いでごわしょ？　なにが一番違うでごわすか？
HARU　やっぱオープニングの花火の迫力ですね。新日のはパンパンパンって感じですけど、W

メインは恒例のWWFタイトル戦!! 今年の主役はマクマホン一家だった!!

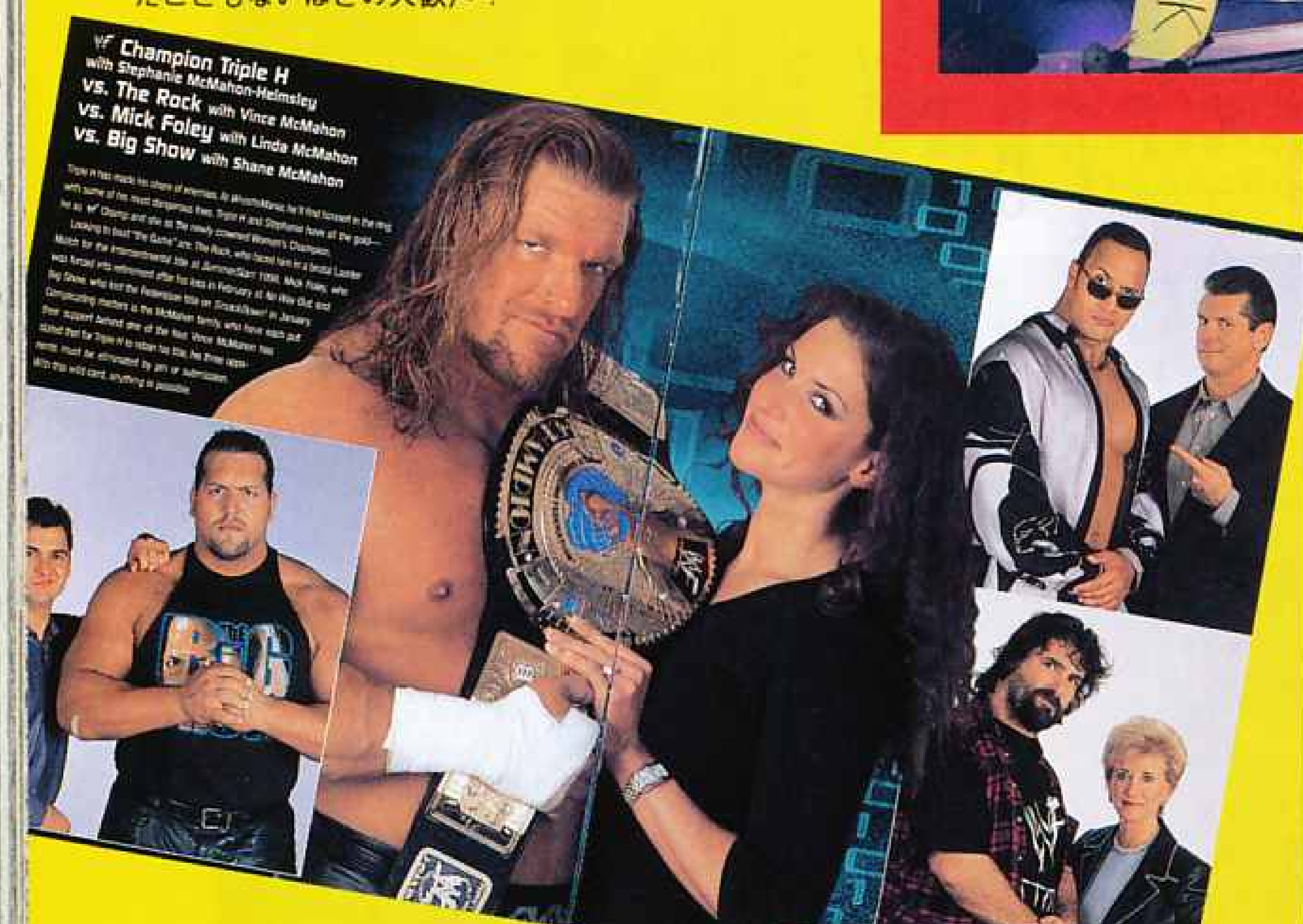
ストーンコールドという絶対的主役がいない今回のレッスルマニアのメインイベントは、WWFヘビー級王者HHHに、ビッグ・ショー、マンカインド、そしてロック様が3人で挑戦するイリミネーションマッチとなった。ビンスはロックに、リンダ夫人はマンカインドに、長男シェインはビッグ・ショーに、ステファニーがHHHについて、家族大戦争の様相を呈していたが、結局は王者候補の最右翼だったロックがHHHに負けて、王座奪取はならず。試合後、HHHを蹴散らしたロックがベルトを持って見栄を切ると聞いたこともないほどの大歓声！

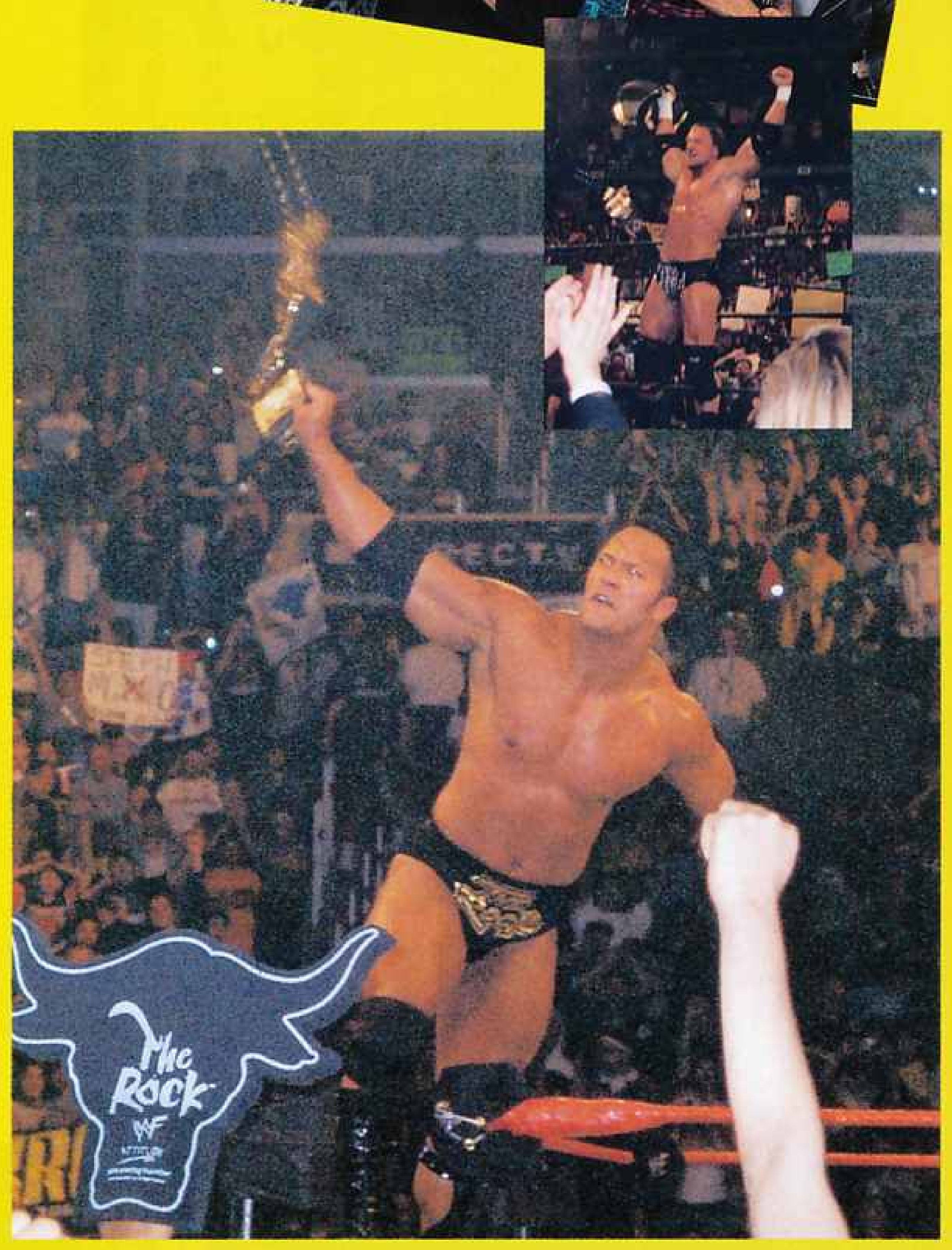


花火が爆裂!! 火柱が炸裂!! ゴージャスきわまりない演出!!



『RAW IS WAR』のオープニングで、大爆発するあの花火。驚きを超えて感動するという。さらには、ケインの入場シーンでお馴染みの４つのコーナーから火柱が出るシーン、超巨大スクリーンなどすべてに圧倒された。





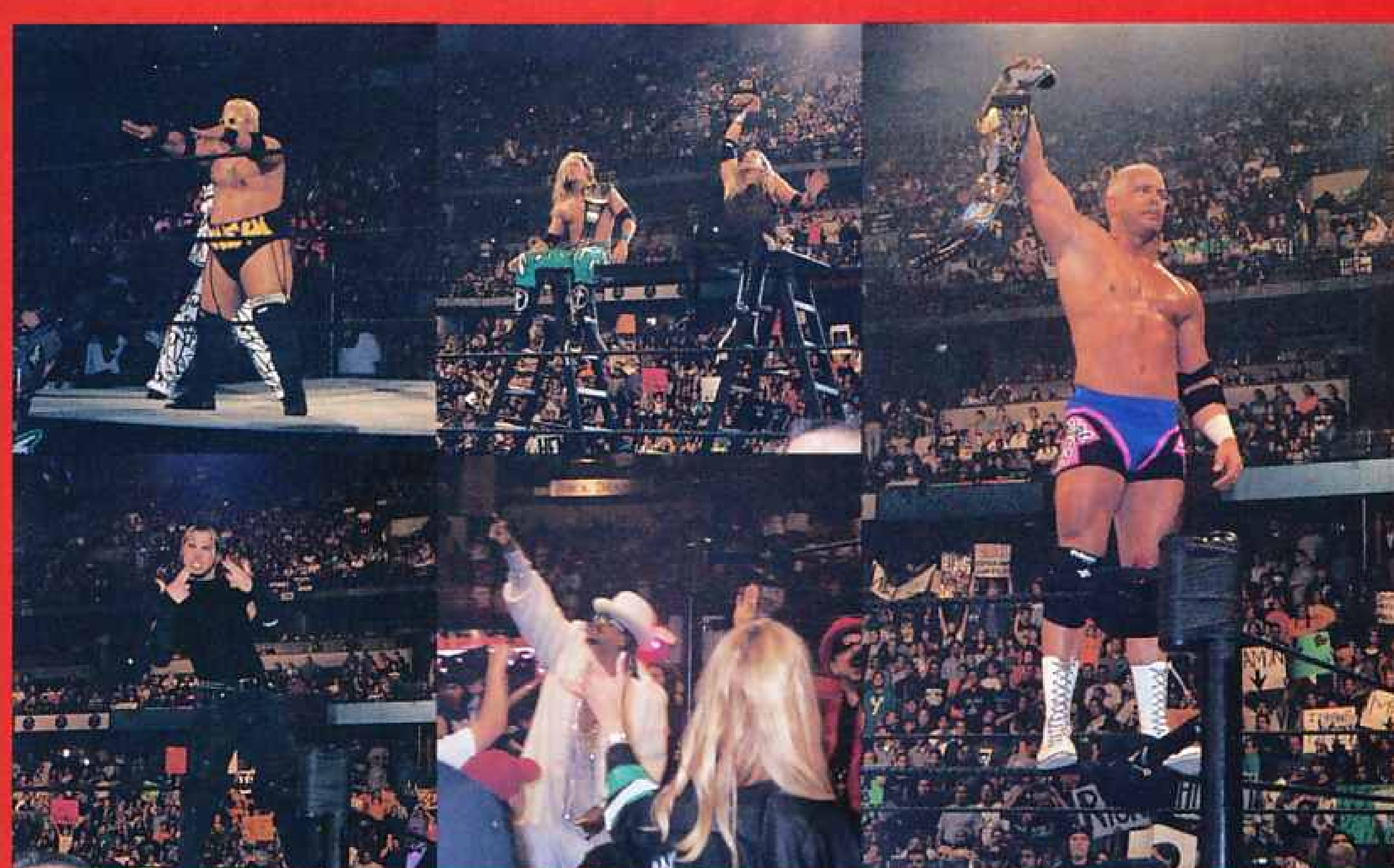
ボード持参が当たり前!! 客席もエンターテイメント!!





アメリカの観客は、家でボードを作って持ち込んでくるのだ。自分のボードがＴＶに映し出されることが至上の喜びだという。日本からのツアー客も持っていったゾ。

主役も脇役もお祭り騒ぎだ!! レッスルマニアは世界一ののバカ祭りだ!!



WFはバカバカバカバカ！って大爆発するんですよ。いつもそれで、寝てたターザン（山本）が起きるみたいな（笑）。

リキシ 贅沢なオヤジばい（笑）。

杉J ホントだよ！（怒）。

リキシ ターザン山本さ〜ん、目を覚ましてくださ〜い！ で、客席の盛り上がりはどうだったでごわすか？

HARU 凄いですよ！ 日本みたいにシーンとなったり沸いたりするような波はなくて、ずっと沸点が続いてるんですよ。（メッセージを書き込んだ）ボードにしても、持ってこない人の方が少ないですよ。持ってくるのが当たり前。で、気が付くと客同士がケンカしてたり、お姉ちゃんが脱いでたり。

杉J ナッ、ナニィィ〜！

リキシ 祭りでごわすなぁ〜。

杉J （真剣な目付きになり）裸で踊ってる人達もいるでしょ？

HARU いますね。たまに（オッパイ）ポロンもあります。

杉J （遠い目をしながら）俺が思ってた通りの楽園だ……。まさに、僕が体験した、おニャン子クラブのラスト・コンサートみたいなもんですよ！ みんな最初から最後まで踊ってましたからね。

リキシ ハハハハ！ おニャン子でごわすか！ では、試合内容についても教えて欲しいでごわす。

HARU まず、開場したらあおり映像が1時間くらい流れるんですよ。あとに花火が大爆発し

て、イベントが始まって。その後リングアナのお姉ちゃんがアメリカ国歌を歌って。なんか、アメリカ人って国歌を聴くと、それだけで出来上がっちゃうじゃないですか（笑）。出来上がったとこで、すっと試合が始まりますね。

リキシ　ケロちゃんの前説みたいなのはないわけでごわすな？

HARU　ええ。『モノを投げないでくださいネ』とかはないですね（笑）。で、試合で一番最初に盛り上がったのは『ハードコア選手権』ですね。『ハードコア選手権』はエニイウェア・フォール・マッチで、どこでもフォール出来るんです。でも、制限時間の15分以内だと勝っても試合が終わらないから、チャンピオンになった瞬間に、すぐ誰かから攻撃されたりして、タイトルがドンドン移動していくんですよ。

杉J　おもしろいですなぁ～!!

HARU　だから、船木（勝一）もチャンピオンに一回なったんですよ。

リキシ　ショーンもチャンピオンになったばい？　すごいでごわす！

HARU　で、勝った瞬間、控室までベルト持って逃げてました（笑）。『ハードコア選手権』っていうのは、普段もずっと試合が続いてるらしくて、気が抜けないんですよ。ホテルとか空港で突然誰かに襲われたと思ったら、突然レフェリーとカメラクルーも現れて、タイトルが移動したり（笑）。

杉J　じゃあ、こうしている間も試合は続いてるわけですね（笑）。

HARU　そうです、そうです。いま誰がチャンピオンかわからないんで、気になってしょうがないですね。

杉J　オレが自分のホームページに変な書き込みされてないか、いつも気になってしょうがないようなもんだね（笑）。

リキシ　で、客層はどんなでごわすか？

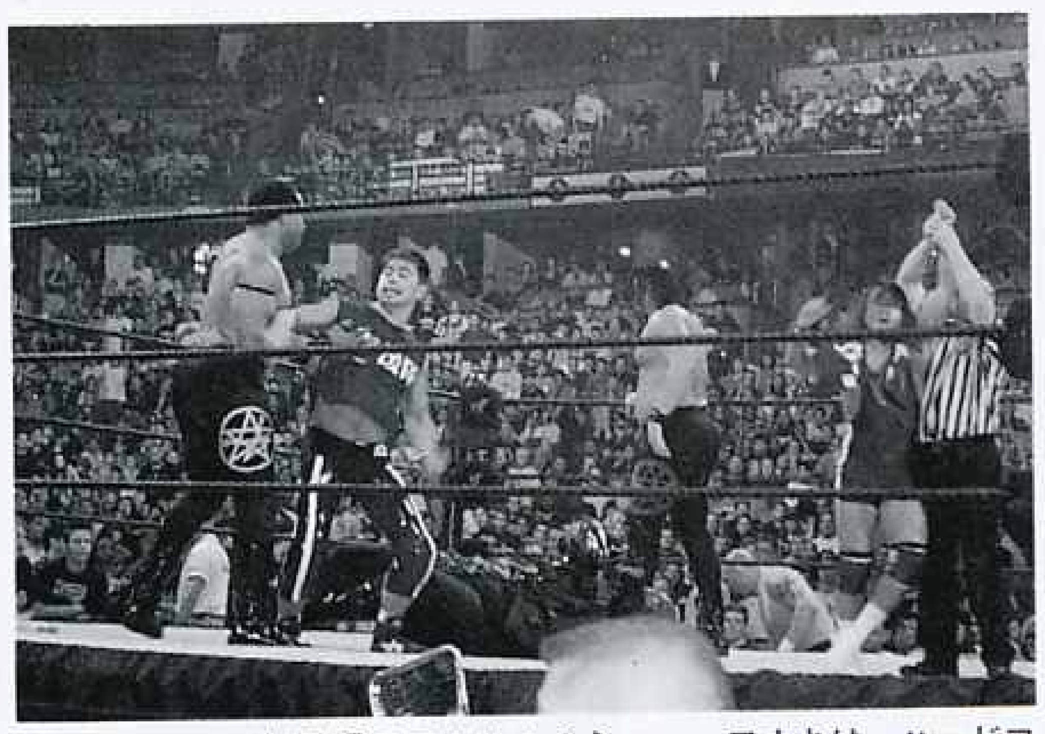
HARU　ファミリーが多いですね。ホント、家族で観るエンターテイメントですね。

杉J　コスプレ野郎とかいないんですか？

HARU　いますよ。ロックがいっぱいいました（笑）。

リキシ　ロック様がいっぱい（笑）。ロック様人気はやっぱ、すごいでごわすか？

HARU　もう、完全にオースチンと並んでますね。あとはトゥー・クールが会場人気が凄くて、みんな踊りたくてしょうがないみたいですね。



レッスルマニア初登場のＴＡＫＡ＆ショー・フナキは、ハードコア選手権に挑戦。一瞬だがフナキがハードコア王者になったのは快挙だ！　アメリカでの２人の評価は急上昇中！

杉J　そりゃそうですよ！　オレだって踊りたいもん！

HARU　むこうの人は露骨ですよ。人気のない選手には同情の声援とか一切飛ばないですし、つまんないとすぐに「ＢＯＲＩＮＧ！（退屈）」コールがおきたりして。

リキシ　ほぉ～シビアでごわすな。

HARU　カート・アングルなんかは、すごくブーイングを浴びてましたけど、あれはじつはみんなアングルのことが好きでたまらないんですよ（笑）。

リキシ　愛のある『ＢＯＯ！』ですね。そこも日本とは違いますねぇ。

杉J　みんなが好きなのに『ＢＯＯ！』と言われるのなんて、広末涼子ぐらいのもんですよ！

リキシ　そうですよね！　メインは前号で特集したロック様も出場した４ＷＡＹマッチばい？

HARU　そう！　そこで、大どんでん返しがあって。レッスル・マニアって、大体ハッピー・エンドで終わるんですけど、今回は違って。もう少しでロックがチャンピオンになれそうだってときにビンスが寝返って。結局、ヒールのトリプルＨがタイトル防衛して、会場は大ブーイングだったんです。でも、でも、試合後にロックがビンスの娘・ステファニー（・マクマホン）を捕まえて、ロック・ボトムやってピープルズ・エルボーやって、ロックのテーマ曲が流れてたら……だいたい、テーマ曲が流れればみんなどうでもよくなって、ドー！って盛り上がりますね（笑）。

リキシ　猪木さんの「ダーッ！」みたいなもんでごわすな（笑）。

杉J　（唐突に）で、で、オースチンは乱入してきたんですか？

HARU　オースチンは出て来なかったですね。でも、オースチンやアンダーテイカーが出て来なくても成立してしまう、このデカさってのが凄いですよね。

※以下、江川さんの土産話、自慢話が延々と続く。最初はニコニコしながら話を聞いていた杉Ｊだったが、再び表情が曇り始め、うなだれモードに……。

HARU　どうしたんですかＪさん？　あっ、自慢に聞こえましたかねぇ？　ハハハハ！（段々とたかねぇ？〝高飛車貴族byゴング名鑑〟トリプルＨばりの態度へと豹変していく江川さん）　Ｊさん、来年行ってみたらどうです？でも、『レッスル・マニア２０００』はもう二度と観れませんけどね、ハハハハハ！」

杉J　キィー！（唇を噛み締める杉Ｊ）い、いきたかった……（再び、うなだれる杉Ｊ）。俺はグッズ用に10万用意してたのにぃ……。

リキシ　Ｊさん、そんなに落ち込んじゃダメでごわすよ！

杉J　島田さんは『ロックに会わせてあげますよー』なんて言ってたのにぃ……。ウォー！（号泣）

昭和プロレス者はＷＷＦというジャンルをどう見た？



札幌リングスパレス店長
日野雅仁

やっぱり、吹雪の札幌から、暖かいロスに行くと開放感があるよね。やっぱりリング上も同じで、凄く開放感があって引き込まれたというか、夢中にさせるものがあるな。

いままで、僕はＷＷＦをそんなに見てなかったんですよ。でも、今回、アメリカまで行って見て思うのは、ホントにバカバカしいことばっかりやってるけど、これが本来のアメリカの姿なんじゃないかな？　ってことだね。オレたちが若い頃、それこそ'60～'70代のアメリカが戻ってきたような気がして嬉しかったな。

興行全体の割合でいえばマイクアピールが７割で、試合が３割だからね。ほとんど人間ドラマと言っていいと思うんですよ。とにかく、出てくるレスラーがみんなエネルギーを持ってるのは驚いたなあ。ビンス・マクマホンなんて、目がイッちゃってたもん（笑）。

あそこまで派手に、バカバカしくやられちゃうと、観客もバカになって見れるよね。いままでのプロレスを二階席の上から見てるような、いわゆる村松友視さん的な見方をする人も、これからは減っていくんだろうね。将来、日本の観客もアメリカ人みたいな観戦の仕方になっていくんじゃないかな？　まあ、とにかくＷＷＦはプロレス界でいちばん早く21世紀に突入してるよ。（談）

リキシ　え、江川さんが、あんまり自慢するからでごわすよ、江川さんもJさんを慰めてくださいよ！
HARU　あららら。大丈夫ですよ。こんなこともあろうかと思って、Jさんに、ちゃーんとお土産買ってきましたから！
杉J　え！（あっさり復活！）
リキシ　さすが、世界一ビッグなデザイナーでごわす！
杉J　HARU様！
※杉JにフィギュアだのヿシャツだのパンフだのとWWFグッズをプレゼントする〝現代娯楽スポーツ界で最高にシビレるデザイナー〟HARU江川様。
リキシ　Jさん、よかったでごわすなぁ！『島田裕二と行くレッスル・マニア・ツアー』はポシャったでごわすが、今年の夏は『杉作J太郎と行くサマー・スラム』をやるでごわすよ!!
杉J　ほ、ほんとうですかぁ!!
リキシ　じゃあ、みなさん今年の夏は杉作J太郎とサマースラムにいくでごわす！
杉J　ウォー！　やろうやろう！
※というわけでなんとか機嫌も直った杉J、『杉作J太郎と行くサマー・スラム』を勝手に計画し始めるリキシ、あくまでトゥー・クールなHARUであった。
HARU　あっ、Jさん！　もうひとつプレゼント。これが、M・フォーリーがメインで使った椅子ですよ。
杉J　ありがとーございます！　HARU様！　ウォーン（感動のあまり、再度号泣する杉J）。
リキシ　あれ？　その椅子って、さっきそこで花見してたM・フォーリー似の親父が座ってたヤツじゃ……？
※そんなことには気づく様子もなく大はしゃぎする杉Jの頭上に、桜の花びらがパラパラと寂しげに舞い落ちるのであった。アメリカに行けず、レッスルマニアに行けず、重度の花粉症に悩まされ、悔し涙と鼻水を飲んだ杉Jの2000年の春が終わる……。そんな昼下がり、リキシ・ノブゥーの耳にはどこかで聞き覚えのある（某レフェリー似の）かん高い笑い声が聞こえた気がしたのであった……「ハハハハハ！　サイキョ！」。



江川さんがお土産のフィギュアを渡すと「ぬぉぉ！」と声にならない声を上げる杉J。ちなみにグッズを買うために用意した10万円でパソコンを購入。「WWFを見に行けなかった」という負の怨念が、見事にホームページとして昇華した。（P98参照）



ついでにクリス・ジェリコTシャツを渡すと、跪いて涙ながらに臭いをかぎはじめた杉J。レッスルマニアのお土産のイス（?）をプレゼント。マジで感激する杉Jの5月晴れのような笑顔を見て、ボクらもひと安心。



アメプロアンケート実施!!

世界的デザイナー・HARU江川さんが『紙プロ』読者にもお土産をたっぷり持ってきてくれたのでプレゼントするぜ!　応募方法は以下の通りだ!

【WWFグッズ・プレゼント応募方法】

1住所、2氏名、3年齢、4性別、5電話番号、6衛星放送orケーブルTVでWWFを見ているかどうか、7取り上げて欲しいWWFの選手、8今後、WWF関連でやってほしい企画、以上8つの項目をハガキに書いて下記住所まで送って下さい。なお、当選発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。WWFグッズの妙技を味わいやがれ!

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス『紙のプロレスRADICAL』編集部
「オレだって踊りたいもん!」係まで
※締切は2000年5月10日必着。


WWFのテープ■選手の入場テーマ曲をランDMC、スヌープ・ドッグといったヒップ・ホップ・アーティストたちがリミックスしたCDのサンプルテープ。都内某ショップではすでに数千円で闇取引されているブツだ！
オースチン・ポスター■エッジ・コーラの宣伝用ポスター。デカい。
スマックダウン・フライヤー■ロック様が異常にカッコいいフライヤー。
FMWチラシ■ムチャクチャな合成写真だ。



扉ページに掲載したターザン山本のポエムが読めない人はコレを読め!!

WWFはアメプロではない。アメプロとはWCWのことだ。
そのWCWはホーガン、フレアー、サベージ、ハートが幅をきかせてダメになる一方。
つまりアメプロは今、時代の中でダメになっているわけです。
アメプロというジャンルが終わって、WWFという新しいジャンルが始まり、それが変化しているわけですよ。WWF＝アメプロと考えるのは大バカ野郎です〜〜〜〜〜〜。
それとも頭の古い古い連中のこと。これは私にとって大発見でした。
何がこれからの新しいプロレスかのヒントになっているじゃありませんか、もう〜
■毎年、「ターザン山本と行くレッスルマニアツアー」と題して、近畿日本ツーリストでツアーが行われているのだが、今年はターザン自身も定義しているように「WWFという新しいジャンル」に興味を持った人たちが大勢おり、「ターザン山本とプロレスを語る夕べ」には100人のツアー客のうち20人（炎上友の会の人含む）しか集まらなくてヘソを曲げていた、とのこと。だが、本人は帰国早々、成田から電話を掛けてきて「もうオレは化石みたいなもんですよぉぉ！　来年は今年の高木三四郎みたいに、少人数だけ引き連れてツアー内ツアーを組む！　死んだプロレスラーたちのお墓参りツアーをやるんですよぉぉぉぉ！」と早くも来年に向け炎上中!!



オイラはプロレス界のジャイアンだ!!

World Wrestling Federation

TAKAみちのく

世紀末の売名行為野郎！　東北のみちのくから世界のみちのくへ飛びまくる男、その名もTAKAみちのく。言わずとしれたワルガキぶりはもちろん大健在である。だが、しかし！　今日のTAKAはひと味違う。病気治療と言う名で帰国したこの男の身に、いったい何が起こったんだ!?　TAKAみちのく日本ひとり旅の始まりです。

聞き手／坂井“スモー”ノブ＆大西タマリン
interview by Sumo & Tamarin
構成／大西タマリン
text by Tamarin
撮影／NAHOMIX
photographs by Nahomix

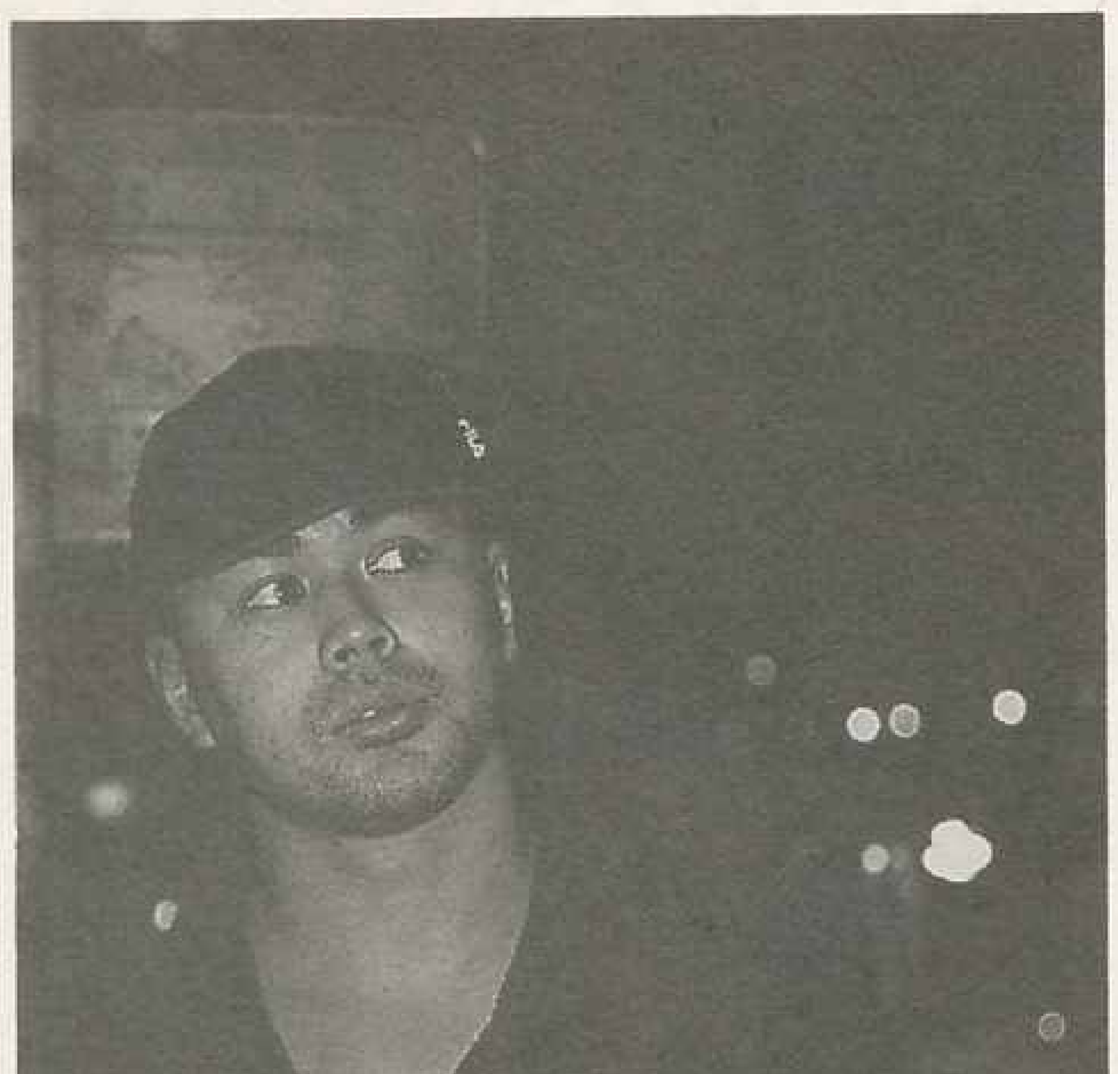
——最近どうですか、ネットナンパの調子は？（笑）。
TAKA（すかさず）やってるよ。今回の帰国は〝やりまくりツアー〟だったんだよ。ガハハハ！
——ガクッ！ 肩の治療で帰国したんじゃなかったんですか（笑）。
TAKA 肩の治療で帰ってはきたけど、1回も病院に行ってないから！
——そんな、ナンパで忙しいんですね（笑）。ボクにも口説き方を教えてください！
TAKA（ヤレヤレといった表情で）口説かないよ。単刀直入！「遊ぶ？ 密室デートね。部屋来て。何時から何時まで。じゃあバイバイ」って。面倒じゃなくていいでしょ？ ただそのとき、必ず「好きになるなよ」って言うよ。割り切った遊びなんだから、好きになられても困るからさ。
——かぁ～、かっこいいですよね。セリフだけ聞いてると（笑）。まあ、書けない話なんでしょうけど。
TAKA 別に書いていいよ。
——え～っ、いいんですかぁ⁉ 人気落ちちゃいますよ！
TAKA「彼女いた」とか「遊び人だ」ってぐらいで落ちる人気だったら、そんなもんいらねえ！
——もう、そこまで言うなら絶対載せます（笑）。TAKAさんの赤裸々なプライベートですね。
TAKA（遠い目をしながら）でも、オイラ、今回の帰国で恋しちゃったんだよね。だから、もう遊びはやめるよ！
——けっこう一途なんですね。
TAKA 好きな子が出来たらね。
——こういうところが悪ガキたる所以ですね（笑）。なんか、アメリカでは声を掛けられない日はないぐらいの人気者らしいですね。

TAKA そんな毎日じゃないよ（笑）。
——あっ、そうなんですか？
TAKA だってWWFのレスラーというのは、アメリカでは人気ドラマに出てる俳優みたいなもんだからさ。一般的な知名度も凄いよ。日本とアメリカのプロレスのステイタスは全然違うから。
——もともと、WWFは見てたんですか？
TAKA 全然大嫌い！ アメプロって眼中になかった。だけど、たまたま見て「スゲェ！ いつかこんなところでやれたらなぁ～」と思ってただけ。
——それはどういうところがですか？
TAKA アメリカでは、プロレスが1番凄いエンターテインメントなんだよ。日本のプロレスが野球、相撲のはるか下でし

今回の帰国は〝やりまくりツアー〟だったんだよ！ ガハハハハ!!

ょ？ それとはわけがちがうから。
——じゃあ、アメリカでは野球とか、アメフトよりも上を行ってる一番凄いスポーツなわけですね。
TAKA というかエンターテインメント（キッパリ）。
——そんな凄い世界の中でTAKAさんは、PPV（ペイ・パー・ビュー）の『ロイヤル・ランブル』というひのき舞台に出場したわけですよね。
TAKA しばらく出てないけどさ。『ロイヤル・ランブル』（30人近くが時間差で入場する変則バトルロイヤル）は乱入しただけどね。
——あの試合で、ケガしたんですよね。あれは何度も乱入してきて会場も沸いてましたよね。注目度も上がったし。
TAKA 本当はちゃんとエントリーされていて、直前でダメになったから。（船木）勝一と話して、「目立てばいいだろう、いっちゃえ！」ってそうしたら、目立ちまくり!! その代償は（肩をさすりながら）大きかったけどね。
——ホントにいきなり入ったんですね。
TAKA だって、予告したら乱入の意味ないじゃん！ その次の日、一応ビンスに謝ったら、許してくれて。「まぁ、じっくり直してから来いよ！」って。
——世界一のプロレス団体の社長は心も広いですねぇ。
TAKA 心広いよぉ～、うちのボスは！ 昔のボスとは違ってね（笑）。
——その昔のボスが言ってましたよ、「WWFがアメリカでブレイクしたのはオレのおかげだ」って（笑）。
TAKA バカ言ってんじゃねえよ!! 今だにサスケって言ったらWWFでは凄いブーイングものだよ。上層部の人間は、オイラが入ろうとしたときのイザコザを覚えてるから。
——その時ビンスとサスケ社長がやり合ったことで、WWFがああいう舞台裏を見せながら暴走するエンターテインメント路線へ向かったというのがサスケ社長の定説なんですけど（笑）。
TAKA ガハハハハ！ 全然違うから（キッパリ）。ほんと、相変わらず勘違いだなぁ～。まあ、サスケらしいからいいけどさ。

——アハハハハ！ でも、最近、困ったことにサスケ社長が元気ないんですよ。
TAKA そう？ 今日（みちのく福島大会）も会ったけど、相変わらず控室でバカやってたよ。やっぱり、みちのくはいいね。ホームリングだなっていう感じがする。温かいし、いやすい。
——やっぱり、TAKAさんの故郷ですよね。
TAKA まぁ、デカイ顔は出来るよね。あんまり、他団体でデカい顔はできないじゃん。
——WWFの控室ではどういう感じですか？
TAKA 控室にはいないよ。だいたい船木勝一と2人でアリーナの隅っこで話してる（笑）。……いづらい。やっぱり、オレは喋れないからさ。
——バル・ビーナス（WWFのAV男優レスラー。チ●コがデカい）に英語を教わったってホームページで書いてましたけど。
TAKA あれは嘘！ 冗談で。オイラは勉強嫌いだから全然覚えないよ。



そんなオイラも**恋**をした。

TAKA MICHINOKU

――そういえば、日本に帰ってきていろんな会場に出没してましたよね。

TAKA　しばらく日本のプロレスを見てないし、何か得るものがないかなって探してたんだよ。実際、どこ行っても「オッ」と思うものは……ないな（笑）。でも、今回見た中で一番面白かったのは大仁田劇場！　試合は見てないけど（笑）。大仁田厚という男のカリスマは凄いなぁ。

――1人WWFって言われてるぐらいですからね（笑）。それで、昨日はバトラーツ（3・18TFMホール）でエキシビジョンマッチまでやってましたよね。

TAKA　バトラーツは面白かった!!

――やっぱり、昨年10月17日（みちのく&バト合同興行『兄弟愛♥』）の田中稔選手との一戦も評価高かったですしね。

TAKA　田中稔戦は、8年プロレスラーやってきた中のベストバウトだったね。一番自分のやりたいスタイル。ジュニアだからって飛んだり跳ねたり、大技出さなくてもあれだけのことが出来るんだよっていうことだな。でも、あの試合は田中稔とだからできたんだと思うね、多分。

――新日のジュニアとは、また違う感じでした。そういう硬派な試合をやるからTAKAさんも稔さんも女性ファンも多いんでしょうね。

TAKA　どうなのかな？　みんな騙されてるだけでしょう（笑）。実際、かなり騙してるしね。

――アハハハハ！　TAKAさんみたいな悪ガキっぽい人が、実はいい人だったりとかするんですよね（笑）。

TAKA　ガハハハ！　それは違うな。オイラより悪いヤツってこの世にもう2人はいないと思うからさ。だって悪いヤツの方がかっこよく見えるじゃん！　中学校の頃って不良とかに憧れるでしょ？　だから悪が光るんだよ!!

――アハハハハ！　やっぱり中学生マインドというか、その頃の気持ちはいまでも持ってるんですね。

TAKA　オイラは永遠にクソガキだから。CIMAには負けないよ！（笑）。

――アハハハ。CIMAさんは最近、急上昇してますからね（笑）。

TAKA　天才だね。人誉めるの好きじゃないけど、アイツとは今後ずっとやっていきたいし、組んでも面白いかなぁと。女性ファン独占や！

――それは取り合いですね（笑）。

TAKA　いいよ、仲良く分け合うからさ（笑）。

――そう言えば、去年TAKAさんはみちのく、バトラーツ、闘龍門といろいろ出場してますよね。

TAKA　そりゃ、ニューヨークに怒られるわな（笑）。

――やっぱり、WWFからは上がっちゃいけないって言われてるわけですよね？

TAKA　もちろん！　勝手にやったら即（首切りポーズ）これだから。去年なんか、よく残れたなぁと思って。

――それだけWWFに大切にされてるんですよ！

TAKA　でも、オイラはWWFにどうしてもいたいわけじゃないし、別に好きで行ったわけじゃないから。

――えっ!?　そうなんですか？

TAKA　まぁいいかなっていう軽い気持ちで入ったんで。

――今、高田（延彦）さんもアレク（サンダー大塚）さんも「WWFに行きたい！」って言う中で、TAKAさんは行きたくなかったんですかぁ（笑）。

TAKA　みんながWWF行きたいっていうけど、そこをあっさり蹴って帰ってきたら面白いじゃん（笑）。でも、なんで、そんなに行きたいの？　日本でどれだけ有名でもWWFファンは日本のレスラーなんて知らないよ。

――実際、WWFファンは知らないでしょうね。

TAKA　絶対、通用しないね。行ってもアンダーテイカーみたいなトップどころとはやれないっちゅうの！　ダークマッチ（TVでも放映されない試合）でせいぜい、ちょこちょこやるくらいだよ。

――それが現状ってことですね。

TAKA　行ってみろっつ～の！　試合すら組まれないから。

――そういう中で、去年くらいからWWFの日本進出っていう話があるんですけどもズバリ言ってTAKAさんはどう思います？

TAKA　あ～んなのオフィスは全然相手にしてないよ！

――でも、日本のプロレス界にしたらWWFは〝黒船〟だと思うんですよ。ああいうエンターテイメント・プロレスが日本プロレス界に上陸したら脅威ですよね？

TAKA　あれは日本じゃ無理だから！　言葉は通じないし、いくらロックがかっこいいこと言ったって誰もわかんなきゃ意味ないしね。

――字幕付けたり、何らかのフォローはできますよね。

TAKA　アメプロはアメリカで見ないとわからねぇよ！　みちプロだって東京に出たらよそ行きになるでしょ。だからWWFファンはアメリカまで見に来い！　日本で見たって本物じゃねえ!!

――でも、今年こそ来るんじゃないかという噂は消えないですけどね。

TAKA　行かない、行かない。

※ここで、バナナミルク（甘～いカクテル）をガブ飲みしていたTAKAは「熱い！　ここで、脱ぎてぇ～」と暴れる。

――かぁ～、かっこいいですね、いきなり素肌（笑）。そういえばこの前『PRIDE』でケン・シャムロックがリング上で挨拶したんですけど、パンクラスに上がってた頃からは考えられない、マイクっぷりだったんですよ。

TAKA　そりゃ、そうでしょ。

――でも、WWFの中に入るとマイクはできない方なんですよね。

TAKA　向こうはマイクが大事だからね。

――マイクの特訓もあるんですか？

TAKA　たまにやるよ。今、インディー団体からいい選手呼んで、WWFで本隊デビューする前に道場で、ドリーファンクがレスリングの基本的なの教えたり、プロモの練習するんだよ。そこでいいヤツだけ契約できるんだ。

――ちゃんとしたシステムができているんですね。

TAKA　だから、オイラも1回そこで練習したよ。そのとき、同期だったのがバル（・ビーナス）とかエッジとか（プリンス・）アルバートとか、あの辺。

――そこを通過すると超一流になれるということですか。

TAKA　スター街道まっしぐら！

――TAKAさんの同期はみんなレギュラーになってますからね。

TAKA　なってないのはTAKAみちのくぐらいだよ。

――もう、すっかり定着してるじゃないですか（笑）。

TAKA　まぁ……これからだ。

――WWFって以前、TAKAさんが批判していたデルフィンプロレスにも通じるところはないですか？

みちのく分裂は、元に戻す！それができるのはオイラしかいない!!

ＴＡＫＡ　全然違うし、通じるところなんて全くねえよ！

——ＷＷＦと大阪プロレスが提唱している「映画のようなプロレス」っていうはエンターテイメントという意味で接点があるようには思いますけどね。

ＴＡＫＡ　あれは、デック東郷プロレスだから。大将は本場のＷＷＦを経験してるし、デルフィンとは違うでしょう。……でもさ、大阪プロレス頑張れよ！　結局デルフィンも頑張ってるんだからさ。

——ＴＡＫＡさん的には大阪とはなんのわだかまりもないわけですよね。

ＴＡＫＡ　あるのはサスケとデルフィンだけ！　他は全然何もないから。

——タイガーマスクさんは「デパートの屋上ショウみたいなものだ」とか凄い批判してますけどね（笑）。

ＴＡＫＡ　そんなこと言わなくてもねぇ～（笑）。でも、それ言ったらみちのくだって一緒じゃん。だって、原人がいたり、トラがいたり、カニがいたりさ。根本が一緒なんだから、仲良くすればいいんだよ。

——細かいことで揉める必要はないってことですね。

ＴＡＫＡ　面白ければいいの！　まぁ、裏の揉め事はファンには関係ないしね。まさか、みちのくは分裂するとは思わなかったけど……考えてみれば、引き金になってるのはオイラかなって思うんだよね。だって、オイラがＷＷＦ入って、海援隊を引き抜いたから選手が少なくなったわけでさ。それでガタガタになったからね。

——ＴＡＫＡさんが地雷しかけちゃったんですね（笑）。

ＴＡＫＡ　だから、元に戻す！　それができるのはオイラしかいない（キッパリ）。

——それは心強いですよ！　やはり、ドロドロしたことは両団体には似合わないですし、結局、元通りになることを望んでいるのはファンだけじゃないとは思うんですよね。

ＴＡＫＡ　どうせ、日本では苦しいんだからこの業界ね。まあ、金取ってる以上ショ



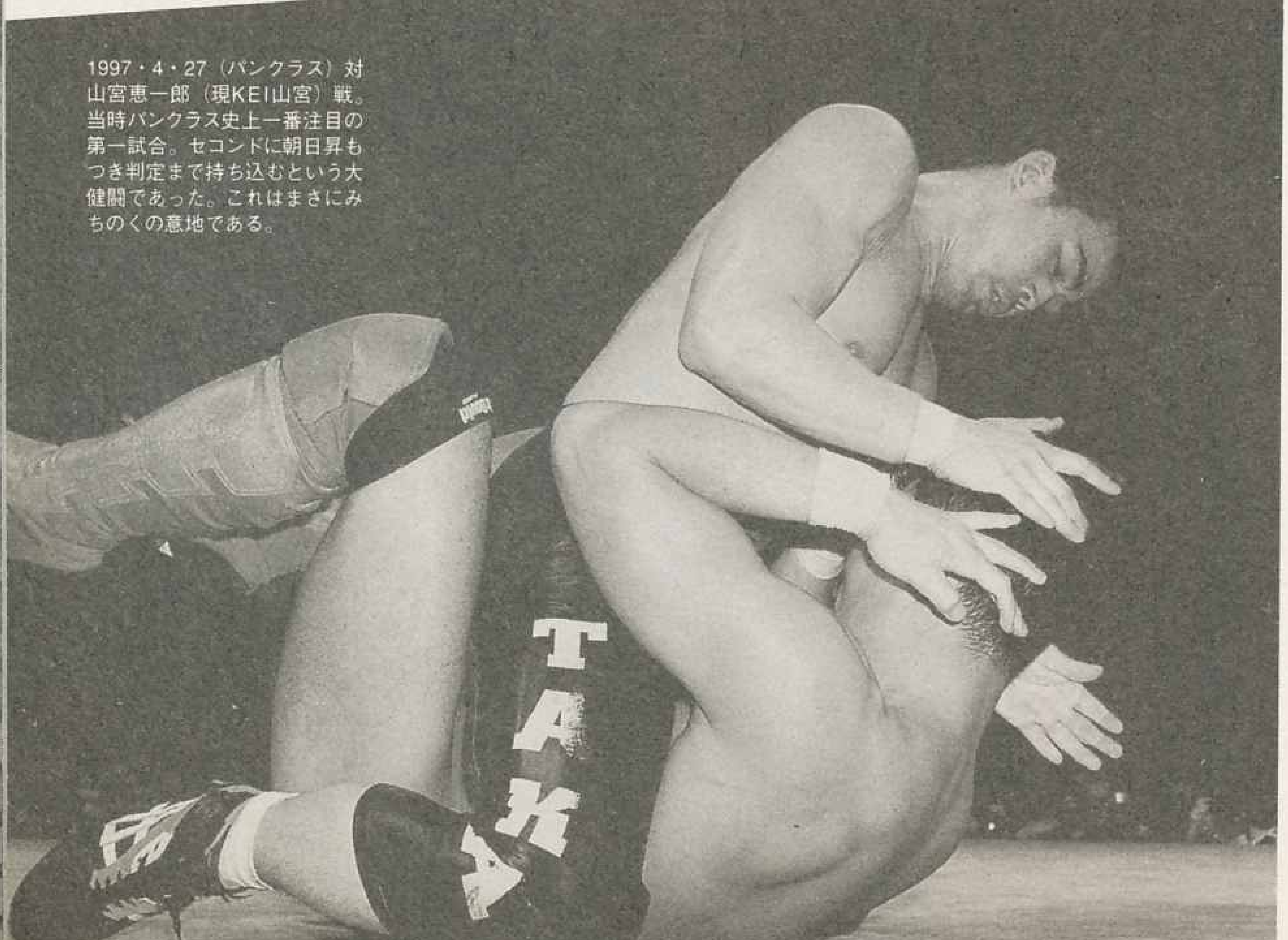
1997・7・6（ＷＷＦ）対ザ・グレート・サスケ戦。この闘いでTAKAがＷＷＦ戦士へと歩むきっかけとなる。この試合後、帰国したサスケはTAKAのＷＷＦ入りに猛反発し、怒りをあらわにする。

プロレスの看板を上げてる以上、



1999・10・17（みちのく＆バト合同興行『兄弟愛♥』）対田中稔戦。TAKA曰く「これがオレの理想の闘い」という。大技連発じゃなくても気持ちの闘いで、観客にアピールした試合であった。

全部できなくちゃいけないんだよ！



1997・4・27（パンクラス）対山宮恵一郎（現KEI山宮）戦。当時パンクラス史上一番注目の第一試合。セコンドに朝日昇もつき判定まで持ち込むという大健闘であった。これはまさにみちのくの意地である。

今後もいろんなところで売名行為するよ！
オイラの目標は全団体出場だから!!

ウなんだから。この商売は見てくれる人がいてなんぼでしょう。

──そうなると、いかに自分を売っていくかっていうことですね。

TAKA　今後もいろんなところで売名行為するよ！　これだけの団体があって、プロレスラーがいるんだから自分だけの色を出していかないと。ましてや、オイラなんか小さいし？　小さいじゃん？　なおかつ、小さいわけだから（笑）。街歩いてたら普通のあんちゃんじゃん。

──アハハハハ！　まぁ、脱いだら凄いんでしょうけど（笑）。

TAKA　ガハハハ！　だから、自分でプロデュースしないと。会社の言いなりになってたらダメだから。ちゃ〜んと、頭の中では5年、10年先のことまで考えてやってるからさ。

──ちなみに、10年後のTAKAみちのくは、どうなってるんでしょうか？

TAKA　教えない（笑）。でも、日本に帰ってきたら軽量級の枠には入りたくないだよ。だって、アメリカでは階級なんてないからさ。

──今、獣神サンダーライガーさんがジュニアの枠を壊し始めましたよね。

TAKA　そうそう、ライガーが言ってることに凄い共感できて、一緒にやりたい！　枠なんていらねえ!!

──ケガを未然に防ぐための階級別だとは思うんですけどね。

TAKA　もう関係ねぇよ。最近の全日本を見てるとジュニアの選手もヘビー級に混ざってるよね。ああいうのは「いいなぁ〜」って思うんだ。技術は凄いし、レベル高いし、出てみたいな。オイラの目標は全団体出場だから。

──パンチ田原リングアナも全団体出場が目標らしいですけどね（笑）。

TAKA　でも、パンチはWWFには上がれないから。オイラの勝ちだよ！

──でも、日本の団体で上がってないところはまだまだありますからね。例えば、リングスはどうですか？

TAKA　もう、U系はいいかなって思ってるよ。痛いし（笑）。

──プロレスだって痛いですよ！

TAKA　プロレスは痛くないの！　やり方によっては!!　だから、受け次第でどんな痛い技でも、最低限に押さえれるから。

──TAKAさんはそれを身につけたから、どんなデカイ選手とも闘ってこれたんですよね。

TAKA　まぁ、ケガしちゃうこともあるけどね。オイラはこの技受けても平気だなって思えば、派手に、豪快に受けるし、その方が見てる方も楽しいでしょ。その駆け引きが面白いんだよ！　そこが、格闘技とは違うんじゃないかな。

──駆け引きがうまくないとプロレスはできないっていう。

TAKA　そうそうそうそう。プロレスっていうのは、本当に難しい。

──TAKAさんがプロレスラーとして認める認めないっていう境界線っていうのは、「このレベルを達してないとダメだ」とかあるんですよね。

TAKA　（すかさず）全然ない！　だってリングに上がったら誰でもプロレスラーでしょ。ライセンスもないし。だから中途半端でやってるヤツらは、どうしようもないよね。プロレスで食うようにしろ！　オイラもそうだったんだからさ。

──人間って一度ステイタスが上がると下げるのは難しいじゃないですか、例えば日本に戻ってきて、みちプロが経営危機で旗揚げ当時のような雑用をしてくれって言われたらどうします？

TAKA　人手不足だったら営業とかも行くし、全然苦じゃないね。っていうか、別にWWF行ったからって鼻伸びて天狗になってる訳じゃないからさ。言うことも昔からデカイし、態度もデカイ！　サスケに聞いてみたらわかると思うよ。ガハハハ！

──今となっては貴重ですね（笑）。

TAKA　いつもこんな調子だから叩かれてリンチ食らったこともあるし……ボコにされたこともあったさ。でも、オイラにはプロレスしかないんだよ！　プロレス取ったら何も残らないから、他の仕事なんてできないね。

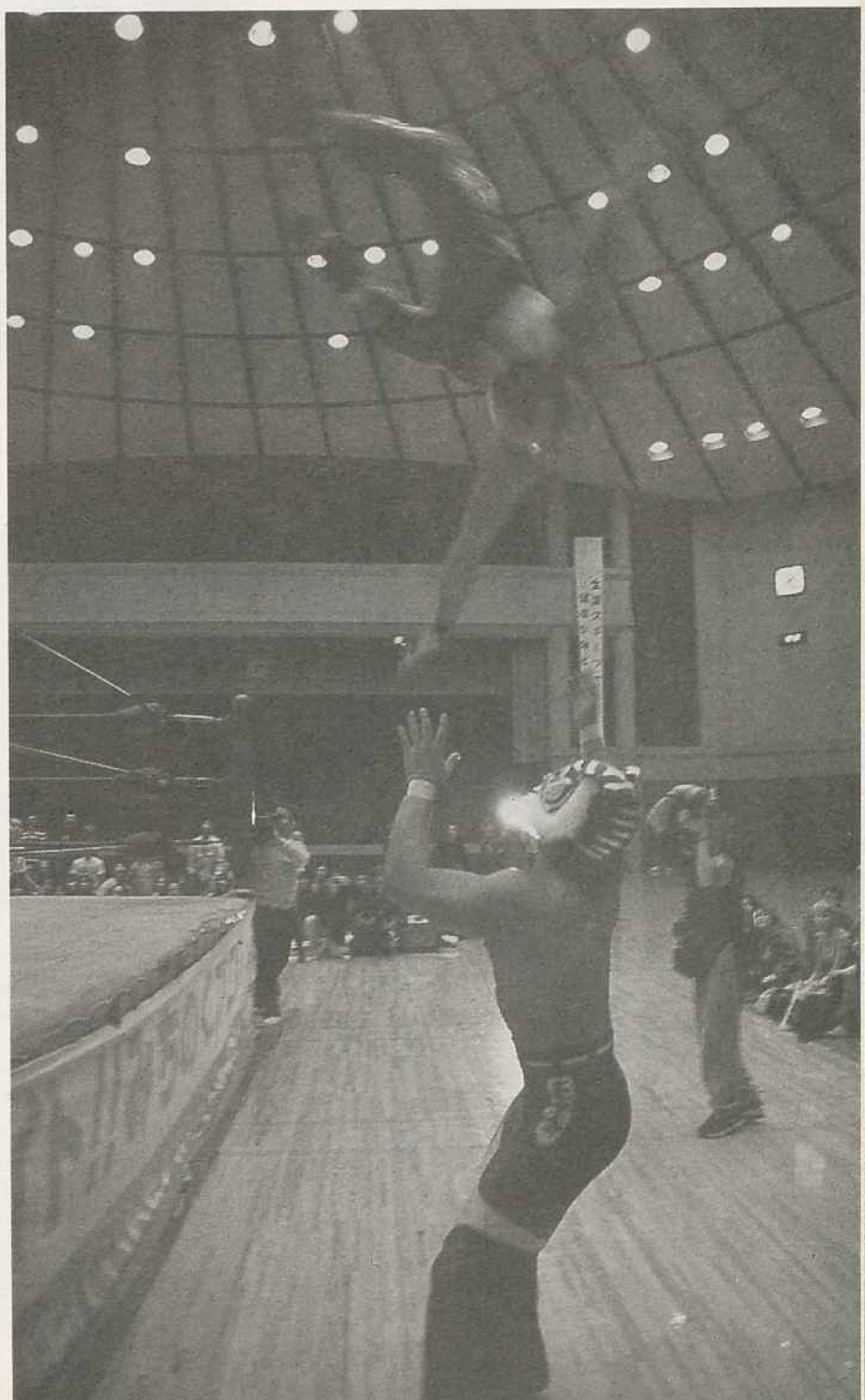
──実際、TAKAさんのプロレスラーとしてのプライドというのは、凄い感じることができますよね。

TAKA　こんな楽しい仕事辞められないでしょう！　だって上司とか蹴っ飛ばして、社長のサスケまで「バカ野郎！」って言えるしさ（笑）。そういう快感はも〜う、たまらないね。

──アハハハハ。今、TAKAさんが新人に戻ったとして、いざ、団体に入ろうってなったらどこへ入りますか？

TAKA　（すかさず）どこでもいい！　だって人間の運命って決まっていて、偶然じゃないから。全て自分で呼び寄せた必然なんだよ。

──だから、どこへ行こうがやっていく自信はあるってことですね。



「ジュニアだからって飛ばなくてもいいんだから！」とTAKAは言うが、TAKAみちのくの空中殺法は素晴らしい！　さすが、長州力に「宇宙人か!?」とうならせただけのことはある。

TAKA MICHINOKU

TAKA　絶対これで、一生やっていこうっていうやつは強いでしょう！

──例えば、みちのくがなくなったとしたら、自分で団体興すとかいう考えはないんですか？

TAKA　ないないない！　面倒臭いこと嫌いなの。オイラの信念は「面倒なことは人まかせ」、「自分の嫌なことは人にやらせろ！」、「人が嫌がることはどんどんやれ！」。そして、「恩は仇で返せ！」、「信じるものはバカを見る！」だね。極めつけは、「お前のモノはオレの物。オレの物はオレの物」。ガハハハハ！

──ジャイアンですね（笑）。

TAKA　そう、オイラはプロレス界のジャイアンだから！　欲しい物は何をしてでも手に入れるよ!!　なにしろ、1年ぶりに恋してるからさ（笑）。

──まさに手に入ったわけですね。

TAKA　でも悲しいよね。彼女できてもアメリカにオイラはいるわけだから。オイラ、遠恋しかしたことないよ。

──アハハハハ。TAKAさん、非常にフランクですねぇ（笑）。他誌のインタビューとはギャップがあり過ぎますよ。

TAKA　そういうところカットされちゃうから（笑）。バンバン載せないと。もう、考え方が古いっつうの！

──でも、会場とかでは近寄りがたい存在ですよね。

TAKA　オイラ、長州力好きだったから。でも、女の子とは遊んでるけど（笑）。だけど、プライベート「吉田貴男」とプロレスラー「TAKAみちのく」はきっちり使い分けてるから。プロレスラーは、リングで試合だけ見せればいいんだよ。リング上でひたすら目立つ！　金も欲しいけど、日本じゃ無理でしょう。

──でも、向こうでは1千万プレイヤーじゃないですか。

TAKA　向こうではそれでも少ない方だよ！

──そういう意味ではWWFに未練とかはないんですか？

TAKA　（すかさず）ない！

──お金じゃないってことですかぁ。

TAKA　プロである以上金だけど、金よりも大事なものがあるでしょう。

──それってなんですか？

TAKA　自分のやりたいことをやることだよ！　それがニューヨークではできないから。窮屈！　でも、日本は「なんでこんな狭いんだ」っていう窮屈さを感じるけどさ。だから、早くアメリカに帰りたかったけどさ。今はいい人できたから、すごい悲しい……。帰りたくねえよ!!

──ホント、可愛い人ですね（笑）。いまは小さい団体が増えてきて閉塞してるじゃないですか。

TAKA　だから、ウチらも無名の団体から出てきたわけだから。新日本から華☆激とかSGPとか全部見たいと思うし、いい選手がいたらやりたいしね。みんなに可能性があって、好きでプロレスやってるわけだからさ。見ないで批判するのはよくないと思うから。全部見たいし見た上で「なんだ、この団体⁉」って思ったら叩くけど。

──たとえば叩こうと思ってリング上で潰したりするのは、TAKAさんの流儀とは違うんですよね。

TAKA　ケンカ嫌い！　ケンカ弱いし（笑）。プロレスじゃないから。

──だから、いざ、リング上でそうなることも予想して、パンクラスに出たり修行したりしていたんじゃないのかなぁとボクは思うんですけどね。

TAKA　まぁ、パンクラスはオイラでも出来るんだぞっていう意地だよ。

──TAKAさんはそういう風に、インターネットとかで、いろんなことの批判を書いたりしますけど、かならず人の良さが漂ってますよね。

TAKA　（ムッとして）オイラは書きたいこと書いてるだけだよ！　いい人って言われるの大嫌い!!　っていうかさ、人生1度っきりなんだから、好きなように生きないとってアメリカで学んだね。

──よく海外に行った選手は「世界の大きさがわかった」って言いますよね。日本にいるボクらは、世界の大きさってよくわからないんですけど、具体的に教えてもらえませんか。

TAKA　それはアメリカに行った人しかわからないでしょう！　全然スケールが違うから。口で説明できるわけねえよ！　でも、プロレスの看板上げてる以上、同じプロレスだから、全部できなくちゃいけないんだよ。だから小さい器で「オレが最強だ！　オレらがやってることが最強だ」とか言う人には頭くるね。オイラは全部プロレスラーとして受け入れる器はあるよ。

──スケールのデカイ男ですねぇ。じゃあ最後に、10月WWFとの契約が切れるそうですけど、それ以降は日本に帰国するんですか？

TAKA　教えない（笑）。ただ、もし、日本に帰ってくることがあってもありきたりのみちのくで凱旋帰国とか普通のことは絶対やらないから！

──ということは日本には帰ってくるってことですね。

TAKA　そりゃ、いつかは帰ってくるさ。日本人なんだから。でも、今は早く帰ってきたいね（笑）。

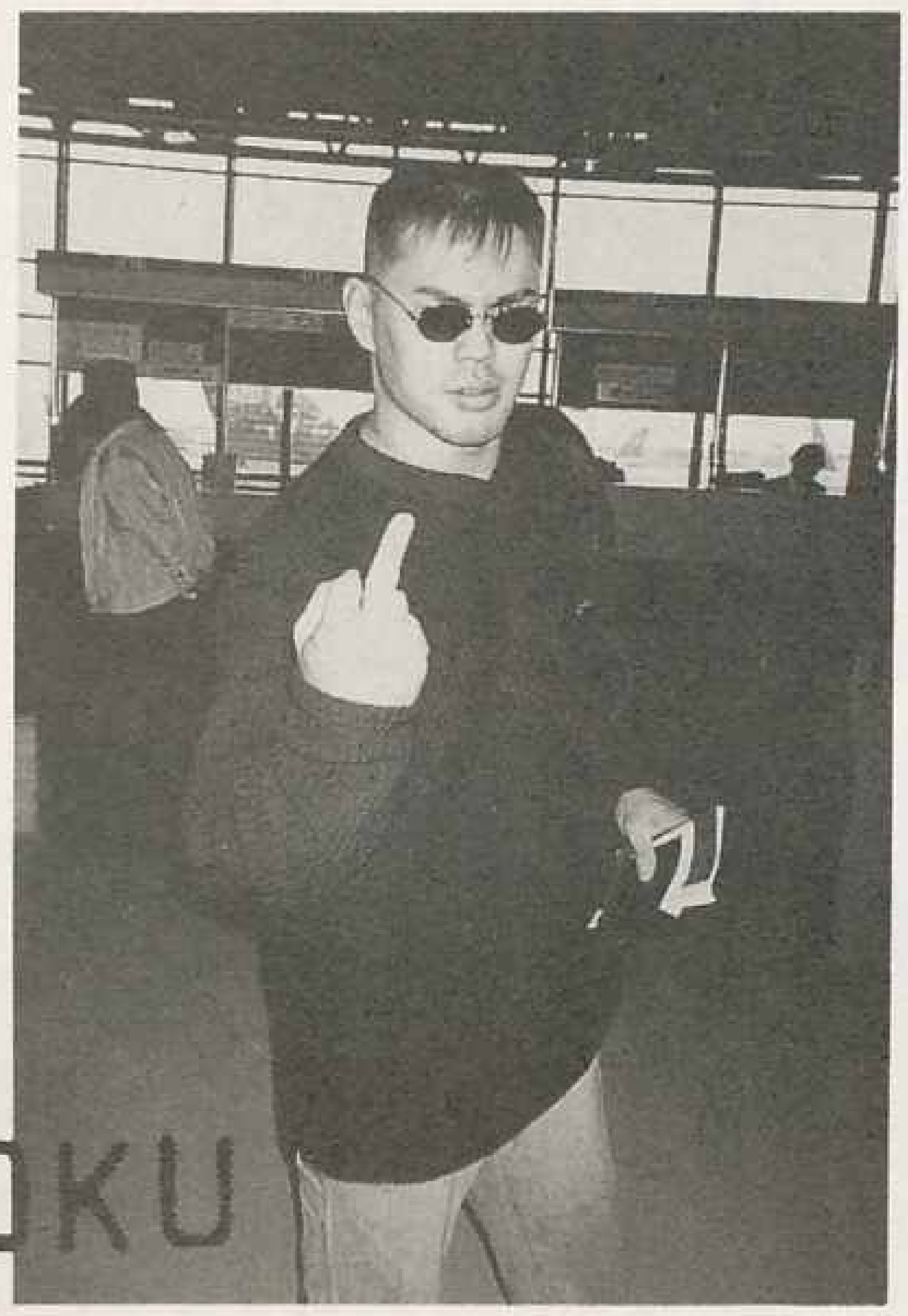
──何てったって恋してますからねぇ（笑）。

TAKA　ガハハハハハ！

──大阪プロレスに凱旋帰国とかって衝撃的ですけどね（笑）。

TAKA　……まぁ、楽しみにしとけよ。帰ってきたら日本プロレス界をオイラが動かすから！

【3月19日　都内某所にあるロイヤルホストにて収録】



書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである——(ネール元インド首相の娘への手紙)

吉田文豪人生劇場

書評の星座

PART2

アドレス公開後、続々と送られてくる応援&タレコミメール。なかでも千葉県のブル様から送られた、開業医紹介の小冊子における藤波社長の名勝負ぶりが本当に抜群すぎ。真面目に経営の話をする泌尿器科の先生に対して、猪木の狂気を別の意味で受け継いだ藤波は「ボクも花の40代、前立腺が気になる年頃」と切り出し、「パイプカットには保険かかるんですか?」と質問責めにするほどの狂気を発揮していたそうである……。今後もそんな情報をひっそり受け付けている書評コーナー〈e-mail:go-go@pdx.ne.jp〉。



情念

(石川雄規／ワニマガジン社)

真樹日佐夫先生が描く大河浪漫『無比人』に匹敵するほどの長期連載だった『紙プロ』名物の『闘いの美術館』が、遂に単行本化!

ある業界最大手のプロレス雑誌編集長は、この本を見て「どうせ山口編集長がゴーストで書いてるんでしょ?」などと失礼なことを口にしていたそうだが、それはあまりにも馬鹿丸出し。あのグータラな山口日昇が、こんなにも大量の原稿を書けるわけがねえだろ。

そもそも、あの男が単行本一冊分の原稿を書き下ろせる器かどうか、もしくは一回も落とさずに雑誌の連載を続けられるだけの器かどうかすら見切れないようでは、もはや明らかに編集長失格。最初に原稿を受け取ってからこの本を出すまでに丸1年かかった男を舐めてもらっては困るのである、ねえ浜部さん。

さて、喜怒哀楽のやたら激しい石川社長の文章自体については、クレバーな『紙プロ』読者の方々には説明不要だろう。個人的には大の石川シンパでもある強豪・浅草キッドとの録り下ろし対談を掴みにしたり、自伝部分にしても刺激的なプロレス話などを冒頭に持ってくるなど適度な編集を加えるべきだと思ったのだが、石川社長は小細工を拒否。ひたすら時間軸に沿った、ハードカバーのキッチリとした自伝を作り上げたわけなのだ。

そのため弱冠のめり込むのに時間がかかるが、やっぱり読ませるし泣かせる文章だとつくづく痛感させられた次第なのである。

「それゆえ、こだわりは半端ではない。まるで自分の羽を抜いてハタを織る鶴のように身を削って書いているわけで、だからこそ一字一句正確に校正してもらわないと納得がいかないのだ。句読点の位置も、ひらがなが漢字になったり、漢字がひらがなになったり、私の意志以外のところで勝手に変えられたりしたら私は激怒するタイプだ」

この前書きを読んで、勝手に句読点の位置を連載時に変えたり漢字に直したりしてきた担当の松澤チョロが本気で脅えていたことは、もちろん言うまでもないのであった。

RIKI力道山・世界を相手にビジネスした男

(東急エージェンシー力道山研究班・編／東急エージェンシー)



(東急エージェンシー力道山研究班=編)

相手の肛門に指を突っ込むゴッチ直伝の裏技も出せないまま、猪木がタッキーに敗れ去った衝撃の力道山メモリアル。これは別にその開催記念というわけではなく、実はいまも**「東京・赤坂台町の高台に立つリキ・マンション」**から貴重な8ミリ映像が発掘されたことにより誕生した一冊なのであった。

そのため図版は画面撮りオンリーだし、文章量もかなり少なめなので一気に読めるし、これといって目新しい話があるわけでもないしてアレなんだが、そんなことは狂信的力道山シンパのボクにしてみたらどうだっていい。なにしろ版元が大手広告代理店なだけあって**「本書はあくまでもビジネス本である」**とのことなのだから、これをプロレス本として評価しようとする方が非常に間違っているというものなのだ。

そういうわけで、**「寂しがり屋で短気で猜疑心も強い」**し**「トイレに入るときもドアは開けっ放し」**というタチの悪い私生活と、**「本気で闘っていた」**ため**「マムシの生き血や興奮剤を飲んで試合に臨む」**というタチの悪いプロレスを続けていた力道山先生。

その姿勢は、鉄人ルー・テーズに**「リキはリング上で決してギミックを使おうとしなかった。なぜなら必要がなかったからだ。リキのプロレス観とは、ただリングに上がり、そして勝つことにあった」**と証言されるほどのガチンコ野郎ぶりながら、なぜかリング外ではプロレス的なギミックを使いまくっていた様子なのであった。

つまり、**「日本一のゴルフ場を作れ!」**などとどんなビジネスでもプロレスラーらしく力尽くで日本一の座に立とうとしたため、業者たちは**「注文主は尋常な人間ではないから、予定通りできなければ殺される」**と本気で脅えたのだそうである。まあ、確かにリキ・トルコ(いわゆるソープランドではなくサウナ風呂)建設中、工事の進行状況を見に行けば「こんな手抜き工事をやりやがってッ!」と激怒して、ほぼ完成した客室を次々と破壊して警察に連行されたりするんだから、それも非常に無理はない話ではあるんだが。

本書には、そんなゴルフ場の会員権を第一時募集で買った石原まき子夫人が語る、力道山と裕次郎との関係。力道山が後援会長を務めていたパリジェンヌ・岸恵子が語る、マーロン・ブランドと共演するハリウッド映画の打ち合わせと力道山に誘われた花火大会が重なって花火を選択した男っぷりの良さなど、ちょっといいインタビューも収録済なのでマニアなら必見だろう。

なお、遺族(百田兄弟)の意向で本書の執筆者からターザンが外されたと噂されているが、ビジネスとは無縁の人生を送るターザンを蚊帳の外に置くのはビジネス本として考えれば断じて正しい姿勢なのである。合格!

力道山がいた

(村松友視／朝日新聞社)



どうも『プロレスの味方』直撃世代ではないボクにとっては他人事でしかないんだが、『紙プロ』関係者周辺には巨大な村松友視幻想というものが存在するようである。

確かにプロレスをクソ真面目に見る姿勢や発言には、これまで色々と考えさせられることも多々あったものである。本作に登場する**「プロレスを秘かに楽しもうという感覚」「私は、魔界に入り込んだ迷子のような気分に陥っていた」「〝反則〟のレベルを超え、これはもう〝反則ワザ〟だ」**といった村松さんらしいフレーズは、相変わらずの味わいだと思うし。

確かに定番ではあるんだが、**「リングの上で俺の邪魔をするやつは、誰でもこの歯で噛み殺してやる。それがたとえ、俺のオフクロでもな」「俺は絶対に力道山を噛んでなんかいない。(「しかし、フィルムにちゃんと映っているではないか?」と問われて)それは、フィルムが嘘をついているんだ」**といったフレッド・ブラッシーの名言にシビレを感じるセンスも間違いないだろう。

しかし、しつこいようだが狂信的力道山シンパのボクにとって、帯文で**「誰でも知っている力道山。誰も知らなかった力道山。二つの力道山が、この一冊に結晶した!」**などと派手にブチ上げるこの本は、期待に反してあまりにも物足りなかったのである。

なにしろ、新たなる視点を一切提示することなく誰もが知っている力道山像だけを淡々と伝えていくだけなのだから、そりゃあ物足りないのも当たり前。なぜなら**「誰も知らなかった力道山」**という意味では明らかに名著『もう一人の力道山』(李淳馹／小学館)の方が遥かに上であり、さらに連載バージョンでは1回分がまるまる当時の記事の完全引用だったりした掟破りの構成ゆえ、いちいち入り込みづらい一冊なのであった。

当時の**「力道山取調べ、大阪で2人を殴る」「力道山また暴れる」「力道山あばれる。米人2人がケガ」「力道山大暴れ」**といったスキャンダラスな見出しの新聞記事なんかをいちいち完全掲載してくれるのは、確かにマニアとしては有り難い限りである。

しかし、引用書評のプロフェッショナルを勝手に自認するボクにズバリ言わせれば、引

用にも一流から五流まであるというか。

そもそも引用するときに重要なのは作為的に抜き出すそのポイントの選び方であり、全文を当時の表記のままダラダラ引用していたら読みにくくてしょうがないわけなのだ。

「プロ・レスは一種のショウだから八百長もある。四十八州中三十三州(七割)がほとんど八百長をやっている始末で、北部は正々堂々と真剣にやるが、南部ときたらまるっきり八百長ばかりだ。とに角アメリカでは、八百長云々よりもショウとしての面白さが第一らしい」(報知新聞)

「アメリカでは八百長を平気でやる。そこを私は八百長をさけて真面目な勝負をしたらアメリカ中に人気が出た。そこですよ。ただ単なるショウではなく、真剣な試合を見せることがこれから普及しようという日本では肝要です」(報知新聞)

それらの力道山自身による発言や、以下の記事などに書かれた**「昨今ようやく『予定の筋書でやる八百長試合じゃないか』などと、批判の声も高まってきた」**などの八百長バッシングなど、料理次第でいくらでも面白くなる素材を並べておきながら、あえて放置しているのも残念極まりないのである。

「力道の修行の辛さは、いかに巧みに八百長試合をやるか、ということ」

「バンクラシオンはいざ知らず、現代のプロ・レスは明らかにショーとしてアメリカで育ち、アメリカの観衆は、むろん八百長は承知の上で、ただ楽しんで見ている」

「日本のプロ・レス関係者は『プロ・レスがショーだ』と言われることを極端にくらう傾向がある。結局日本の選手は無表情だし、テクニックの点からもマがもてないので『選手権をかけた真剣勝負』を看板にせざるを得なくなるのではなかろうか。もしプロ・レスが『真剣勝負』であり『人間闘牛』であるならば、興行の倫理性という立場から許されるべきではなかろう」

これらの現在も通用する普遍的なテーマに対してはほとんど言及せず(**「プロレスの中の真剣勝負と本当の真剣勝負のあいだには微妙な一線があり」**という秀逸なフレーズもあるんだが)、近頃再評価が高まりまくる拓大柔道の鬼・木村政彦が力道山との巌流島決戦で放った急所蹴りについても、いまでは「当たっていない」「何らかの合図」などの説が有力になりつつある中で「木村の〝急所蹴り〟は、プロレスらしいストーリーで戦うことを断たれたあげくの、苦肉の策だったのではないか」と断定してしまうのは、『プロレスの味方』としてどうかと思うのだ。

もしかしたら当時の空気感を出すために、後に書かれた暴露本的な資料にはあえて目を通さず、当時の記事だけをデータにしてみたということなのかもしれないが、それが効果的だったとは到底思えないはずなのだから。

……と憤慨していたのだが、村松ファミリーのシビレる話を読んだ瞬間、ボクの気持ちは見事なまでに和らいでいたのであった。

たとえば祖父であり作家の村松梢風氏は、当時67歳にして**「ナイトクラブへある女性をよく連れて行ったが、その女性には力道山もご執心だった」**りと、**「ひとりの女性を間にして、力道山と祖父は張り合っていた」**という男っぷりの良さが、まず発覚!

そして村松さんのクソ真面目っぷりも、ここまで見事すぎるほどだったわけなのである。

「力道山の勝ちを確認して、私は安心して電車に乗って清水の家へ帰った。そして風呂に入って湯船に身体を沈めようとすると、パンツをはいていることに気づいた。それを脱いでふたたび沈もうとすると、下着のシャツを着ていた。つまり、プロレスの興奮の余熱が私をボーッとさせていたのだろう。シャツを脱いで湯船に浸かろうとして、少し冷静になった私は腕時計を外さなきゃいけないと気づき、外そうとしたが手首に腕時計がなかった。街頭テレビで興奮してプロレスを見ていたとき、当時はやった腕時計ドロボウに盗られていたのだ」

ここまで呑気な話をクソ真面目に淡々と語る村松さんには、確かにとてつもない魅力や幻想が感じられる次第なのであった。

プロレス記念日

(週刊ゴング特別編集/日本スポーツ出版社)

今日は何の日、フッフ〜! というわけで、「身体に役に立つことを教えてくれる」ので佐藤ルミナ君も欠かさず見ている、『おもいっきりテレビ』を意識した『週刊長州力』もとい『週刊ゴング』の誰が喜ぶのかわからない不思議な長期連載が遂に単行本化!



当然、長州現場監督の誕生日や結婚記念日などの情報が満載……というわけでもなく、しかもカレンダー代わりになるのかと思えばなぜか77日分しか収録されていないのだから、もうたまらない。

さらに、無難なプロレスネタばかりの目新しい情報皆無な中身の薄さも含めて非常にひっかかる次第なのだが、**「近い将来、必ず『プロレス365日』という壮大な企画(別名『年刊長州力』?)にチャレンジして、これを一冊にまとめて残しておきたい」**という無駄に巨大な意気込みに免じてチャラにしておくこととしよう。

男を鍛える本【実践編】

(宝島社)



適度な中身の薄さがないと世間にはまず届かないと言われがちな、どうにも世知辛い昨今。そういう意味ではリニューアルを重ねて大判化しつつも極限まで中身は薄くなった別冊宝島の新生プロレス・シリーズは世間にもかなりの確率で届きそうなものなんだが、少なくともボクには全く届かないのであった。

選手個人については誰もが知っているレベルの情報をあっさり紹介するだけで、ひたすらトレーニング方と格闘技術だけをやっぱり浅めにブチ込んでみせた、この本。**「サーフィンは格闘技より凄いスポーツかもしれない」**という名言を放つ佐藤ルミナ君を筆頭に、船木誠勝(担当は当然、ハイブリッド・ボディとなって生まれ変わったヤスカクおじさん!)、チョコボール向井、ケビン・ヤマザキ、桜庭和志、中井祐樹、ビル・ロビンソン、佐山聡、アレク、村上竜司、極真、さらにはビンス・マクマホンJr.(担当は杉J!)まで、参加メンバーにいちいち外れはないはずなのに肝心の中身が外れになってしまうのでは、まったくお話にすらならないだろう。

馳浩の肉体を讃えるページでなぜか腹のボッテリ感が目立つ写真をチョイスしたり、筋肉美を強調されがちだが写真集を見る限りそうでもない神取忍を無闇に絶賛したりと、とりあえず編集に問題があることは確実なのだ。

そもそも編集者側に、もし選手個人の人生に対する興味よりも身体作りの方に興味があるのだとしたら、その人は本当に不幸だとボクは心から思う。いや、むしろ後者への興味すらもないからこそ実用書としてのパワーにも決定的に欠けているのだろう、きっと。

それでも平成の宝島イズムゆえなのか、これらの記事と同列で**「オットセイ博士の下半身トレーニング・ペニスビル」「催眠術でインポを克服」**や**「真珠中毒ギャル急増中」**などの下世話な実用企画が並ぶアナーキーな編集には、ちょっぴり感服した次第。

そんなわけで**「間もなく37歳を迎え、さすがにそちら方面(下半身)の衰えが隠せぬ筆者」**という須山浩継記者が赤裸々な告白を始めたり、新宿ロフトプラスワンでチョロ相手にノーパンで顔面騎乗したプチ伝説を持つSMの女王様(38歳)の顔が拝めたりするのが、この本の最大の収穫なのであった。

君は小人プロレスを見たか

(高部雨市/幻冬舎)



84年のクラッシュ・ブーム絶頂期から自分の経験した差別問題も絡めつつ、たっぷり時間をかけて**「小人プロレス」**を追い続けたルポルタージュの傑作『異端の小国』。

90年に現代書館からひっそりリリースされていたそんな名著が、外れのないラインナップで知られる幻冬舎アウトロー文庫から加筆&改題されて遂に登場(ちなみに同時リリースは障害者繋がりでホーキング青山だ)!

しかし、いきなり『君は小人プロレスを見たか』と聞かれたところで、TVで放送されてないんだからそう見られるものでもないし、空気投げを連発したりする演劇性の高い近頃の**「小人プロレス」**を見たぐらいでは完全に片手落ち。そういうわけで奇跡のビデオ『ミゼット物語』(ポニーキャニオン)に収録された80年代初頭のタッグ戦の映像を、まず観ていただきたいものなのである。

なにしろ、女子プロ流のハイスパート・レスリングにルチャ的な小ネタを盛り込み、迫力の無さをカヴァーするため全力で相手をマットに叩きつけていく当時の試合は、文字通りの「明るく楽しく激しいプロレス」なのだ。

しかも「こんなプロレスを続けたら10年続くプロレス人生が5年や3年で駄目になってしまう」という猪木の言葉を忠実に再現するかのように、次々と再起不能になる選手を出しながら文字通り「命懸け」で闘っていたのだから、面白くないわけがないのである!

「俺たちは、俺たちの動きや、俺たちのプロレスが、俺たちにしかできないという誇りでやっているんだヨ。猪木たちにはできないプロレスがネ」

この文庫版には、そう語っていたプリティ・アトムや唐柔太といった選手の死去から始まる全42ページのヘヴィな追録とドッグレッグス北島行徳氏の解説を追加収録。後ににっかつロマンポルノに転出した佐藤ちのや浅草キッドのコメントも押さえたりと、単行本のリリース後も地道な取材活動を続けているようで本当に頭が下がる次第なのだ。

思えば『異端の笑国』リリース後、翌91年には『吉田照美のやる気まんまん』にリトル・フランキー、角掛留三、プリティ・アトムが出演し、自ら「小人プロレス」(もちろん放送禁止用語)を連呼したり、92年にはフジテレビが深夜特番として『ミゼットプロレス伝説』(本当に面白い。必見)を放送したりと、何かが動きつつあった頃に比べて「小人プロレス」を取り巻く状況は現在、順調に悪化中。リトルゴジラにリトル・フランキーが入るのもいいが、彼らを単なる着ぐるみスターにしておいてはいけないと本気で思う今日この頃なのである。

WORLD WRITING FEDERATION

花粉も吹き飛ぶ コラム8連発

- ●花くまゆうさく『リングの汁』
- ●杉作J太郎『プロレスを見て女にモテろ』
- ●掟ポルシェ（ロマンポルシェ）『業☆勝ちます』
- ●スペースシャワーTV『マタハリ実況中継』
- ●人気者 原タコヤキ君の『紙のプロレスWEST』
- ●わかおはるか『THE ジョージ秘宝館』
- ●ブナニ酒井『もうひとつの大和魂』
- ●イナズマ★K『実録　最狂プロレスファン列伝　伊賀大介さん』

桜庭和志選手のように人を酔わせるコラムページです



イラスト◎キャプテン名倉

都合により『プロレス裏ビデオ御開帳』はお休みさせていただきます。

その後TK人形ゲット♥

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

小路

ウゴがまた負けて悲しい。どうした〝土方の星〟よ。まあ実際、ウゴが土方だったかなんて判らないし、私の勝手な想像でしかないが、あの顔と日焼け具合とランニング姿、豪快なファイトスタイルとルタ・リブリ出身（今はどうか知らんが、金持ちの柔術、貧乏人のルタというサイドストーリーはグッとくるもんがある）ということで、ウゴは肉体労働者と決めつけて見ている。もしコンピューターのプログラマーとか、あるいは金持ちのボンボンだったら興醒めしてしまう。だからウゴの正体は知らせないでほしい。ずっと夢見させておいてほしい。

そんなウゴの日本初試合（デュセル・バット戦）を見ていっぺんで好きになった。そしてもっとメジャーになってくれと心待ちにしていた。数年後、ついに本場アルティメット大会出場。これでウゴもメジャーの仲間入りと喜んだが、タンク・アボットにまさかの惨敗。メジャーへの道は失敗となった。

そして日本の『PRIDE』で汚名挽回にやってきたが、相手はマーク・ケアー。ドーム5万人の前でふがいない試合をし、完全にどん底に落ちてしまった。

もうウゴを見ることはないのだろうと覚悟した。しかし以前、新日の会場へ行き猪木に挨拶していたことがあったので、もしかしたらゴルドーのような道もありかなと思ってたりもした。

ブラジルのアブダビ予選で、ルタチームをひき連れたウゴが、柔術側との最終予選を「そんなのやる必要なし」とハナ息荒くゴネる元気な姿を見ると、その判断の是非はともかく、その元気そうな姿にホッとしたというかうれしくなった。

そんな今日この頃に突然入ってきたニュースが、「ウゴまたも負ける！」だ。しかも相手はブクブクに太り果てたボブ・シュクライバー。

もうこれでウゴのフィギュア化への道は幻となった。最初からそんな道はないが、私のささやかな夢だった（他の夢に、ゴルドー・フィギュア、サンボジャケット付きコピィロフ・フィギュアなどあり）。

しかし、TKフィギアがある！　でも、いい歳こいてオモチャ屋をいくつか回ったのに、どこにも置いてないじゃないか（3月28日現在）！　どこに売ってんだよ高阪人形は!?

高阪人形がなかったので、坂口人形と小川人形と松井（ホームランゴジラ）人形を買った。これでウチの仕事部屋にはマサ・坂口・小川の明大トリオ人形が結成されニンマリだ。

ヒクソン・ブランドも洋服ばかりでなく、ヒクソン人形を作ったらどうだろうか？　というか作ってほしい。そういえば、こないだJR総武線の中で驚いたことがある。私は電車に乗ると網棚へハンターの目を向け、日刊スポーツ、デイリースポーツ、東京スポーツなどをハンティングするクセがあるんですが、この手のハンターは何人もいて電車に乗ればすぐに判るのですが、私らアマチュア・ハンターじゃなくプロのハンターがいるじゃないですか、主に雑誌を追うのを生業としているプロのハンターが。プロは独特の匂い（異臭）を放ち電車内や駅のゴミ箱でハンティングしてます。

こないだそんなプロハンターが電車に乗ってきて、ハッとした。匂いでハッとしたのではない。その人はなんとヒクソンパーカーを着ていたのだ！　普通のオバさんがバットボーイTシャツ着て買い物してるのも見たことあるし、お手頃価格のジーンズショップなどのワゴン売りを通じてブラジル格闘技は我々の知らないところで、日本にじわじわ浸透しているのだろうか。



はなくま・ゆうさく■ヒクソンvs船木は、2R終了後に疲れたヒクソンの試合放棄により、船木のTKO勝ちのような気がするが、がんばれヒクソン！　寝技にこだわり続けた凄みを見せてくれ。あとタコヤキ君、武道館のリスペクト清志郎もちろん最高でしたよ。オープニングのビデオでもうなんかグアーと高まるもんがありましたね。

エンターテイメント・レスリング・コラム

プロレスを見て女にモテろ!!

四十八手の九『島田裕二と行くレッスルマニアツアー？』の巻

文・杉作J太郎

年に一度の超ド級ビッグイベント。米WWF、レッスルマニア。

「あの味はやはり生で体感しないとわかりませんよおー、フォフォフォッ」

アメリカのアクション映画に出てきて3番目に流れ弾が当たって絶命するよーな顔した週刊プロレスの須山さんも言ってましたんでね。こりゃ行くしかないだろうとウスウス思ってたらトントン拍子に事は進んだ。生まれて初めての海外受精……旅行だけどよ。パスポートも取得したし『レッスルマニア』見たついでに『ローイズウォー』『スマックダウン』の各大会も見てくることになったのでこりゃ長期戦だ。不景気と筆力の低下で仕事が減ったとはいえ仕事が心配だったので海外から入稿するためにノートパソコンも買った。さあ、あとは出発の時を待つだけというムードだったんだが、今にして思えば同行予定の島田さん（バトラーツ）にチケットを頼んだあたりから不安っちゃあ不安だった。

「島田さん、チケット取れた？」

「あー、何枚でも大丈夫ですよー」

「ホントに？」

「あー、それよりホテルは3人いっしょ（島田さんと東芝EMIの木目さんと俺）の部屋でいいっすよねー」

「3人いっしょっすか！」

「はいー。女を部屋にひきずりこんで、朝まで楽しく語り合いましょうよー、はいー」

絵物語みたいなこと言ってましたんでね。心配はしました。が、そこはプロレス界きってのフィクサー島田裕二ですからな。大船に乗ったつもりだったが船には穴が開いていた。「チケット取れなかったらしいよね！」

「はいー、でも全然だいじょうぶですよー、どうやってでも入れますから、はいー」

いよいよ不安になってきた。するとちょうどその頃、ディレクTVに突如大激震が発生しFMWでテレビ解説を担当してた俺にも諸問題が発生。俺も木目さんも行けなくなってしまったのだ！　なにも知らないリッキーさんからはおみやげの催促の留守番電話。

「ストーンコールドとロックの帽子、よろしくね、Jさんッ！」

ストーンコールドとロックの帽子というあまりにもアバウトな注文に、さすがリッキーさんと唸りつつもそれならチャンピオンに売ってるんじゃないかと俺は思うよ。

ま、ホント今回は残念でたまらない展開となり、意気消沈した日々をすごしていた俺に奇妙なニュースが飛び込んできた。なんと4月1日仙台のJカップ予選。リッキー・フジ×サスケ・ザ・グレート戦で島田レフェリーがポコチン蹴られてリッキーさんの反則勝ち。仙台でこの日にレフェリーやってるってことは島田さんもレッスルマニアには間に合ってないわけだ。仲間が女にフラれた時のような爽快感にウッシッシと喜んだが、最初から行く気があったのかどうか、今、はじめて気になってる。この世は恐ろしいわ！



すぎさく・じぇいたろう■というよーな感じで終わった俺のレッスルマニア。なんにも始まってなかったりして。人生だよ。で、そんな俺の人生を凝縮したとは言えないホームページを作ったよ。せっかくパソコン買いましたのでな。アドレスはhttp://rawiswar.tripod.co.jp/

パワーアップ&リニューアルした男たちの墓標

業☆勝ちます

ロマンポルシェとは何か？の巻

掟ポルシェの（ロマンポルシェ）



すっかり忘れていた。何かといえば板倉宏が板倉ヒロシと改名し、「これから街で見かけたらヒロシ！って気軽に呼んで下さいね」と言った矢先にどこ行ったのかわかんなくなってしまったことや、相田みつを美術館でのトークショーの中でドラゴンが、腰の故障でヘコんでいたとき、教会へ赴き聖書に親しんだことを感慨深げに追想した後「モーゼの十戒ですか……いや〜、昔はいろんなことがあったんですねェ」と平然と言い放ち、海が真っ二つに割れることさえ史実の一環として鵜呑みにしていたこと（もちろんオール真顔）などではない。そんなことじゃあ全然なくて、自己紹介すんの忘れてたって話だった。

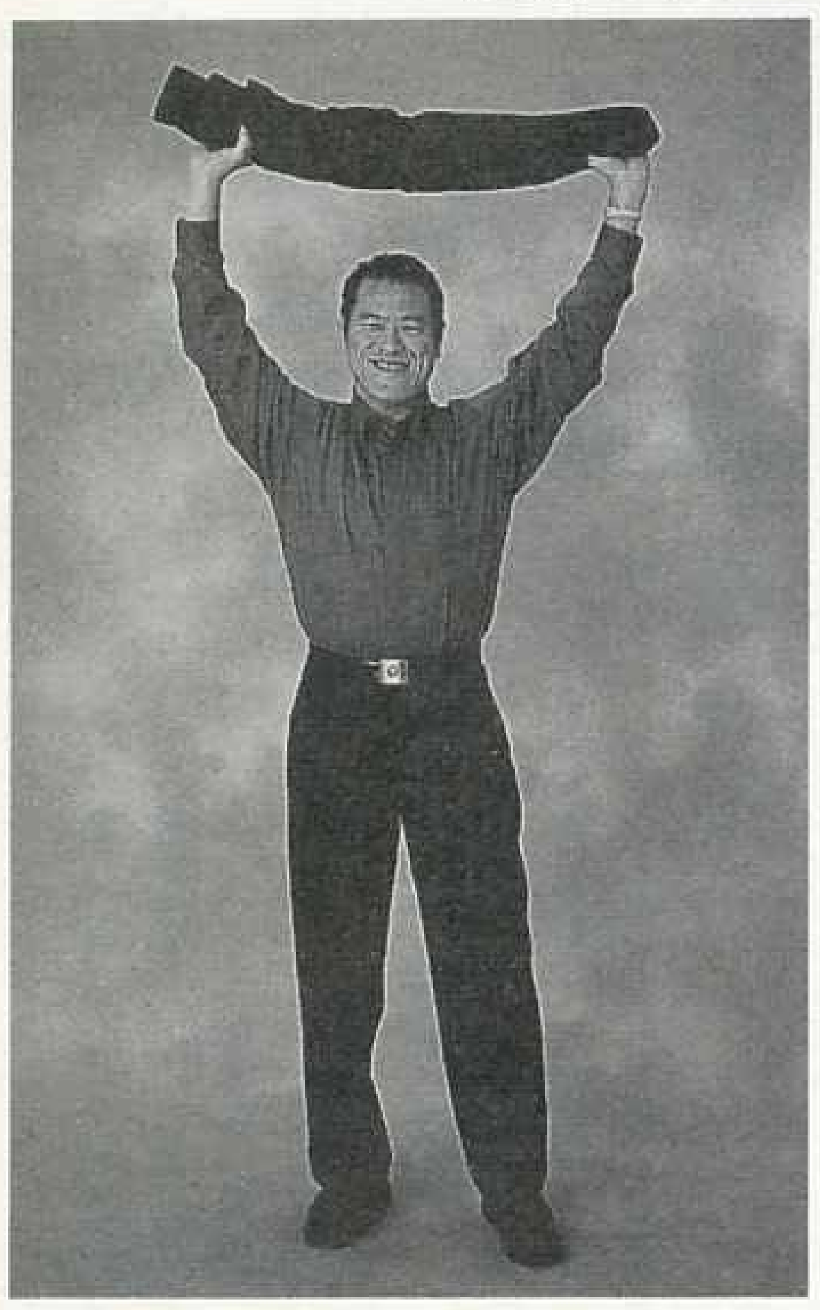
昭和逆行型金玉啓蒙部隊〝ロマンポルシェ〟は、ブッちゃけた話がバンドである。ただし、ライブでもCDでも楽曲は3割程度しか演らず、あとの7割強の時間は「男とは何か？」「男とはどう生きるべきか？」についての難クセに満ち満ちた説教をゴリ押しするという、スキ間産業的ニューウェイヴスタイルを活動の主旨としている。そのためかミュージシャンとして認識されることが極端に少なく、「スカパラの前座として武道館出演」と聞いて出向いてみたら、客電が煌煌と灯る中で前説をやらされたり、音楽誌に2万字インタビューとかされることも一切なく、『アサヒ芸能』に〝男らしさ評論家〟として電話コメントを求められたりしてる毎日。本コーナー『業★勝ちます』は、「男の価値観とチンポは曲がってナンボ」というロマンポルシェイズムの検証を、曲がった男魂アンド男根の宝庫であるプロレス界に生きる男達の生態に求め、時に紋切り型に時に鼻歌まじりに語り落としていく極道辻説法ツーサウザンドなのである……!!

まず第一に、ロマンポルシェは軽犯罪を圧倒的に推奨している。食い逃げ、カツあげ、中出しetc、そんくらいの軽ワザが日常生活に割とスンナリ盛り込まれていなければ、男の生き様とは言えない。だからといって「臭いメシの味も知らんとハクってもんがつかんからの―」などといった金バッジ獲得業の方々のように生きよと指南しとる訳ではない。法律という名のトヨタカローラの上空を足投で飛び超えていくがごとき強靭な己の掟を持てと言いたいのだ。

「アントニオ猪木なら何をしても許されるのか!?」今の日明兄さんならうすうすわかってるとは思うが、その通り！　アントン程の男ならある程度の犯罪行為は楽勝でチャラに出来るに決まっている。「あ〜、あの人だったらしょうがねえや」と万人に泣いてもらうことの出来る規格外の存在……それを俺は「男」と呼ぶ。

たとえば見知らぬ街のお食事処、半チャンラーメンだのカレー南蛮だののさんざんパクついた後、満面の笑顔とともにレジ前をスルーして店外へホイサッサと駆け抜ける行為は通常、無銭飲食といって交番へしょっぴかれた上で「親が泣いてるぞ」だの「人生設計ってもんをどう考えてんだ」だのと腰にピストルブラ下げた赤の他人に偉そうに説教されてまったくたまったもんではないが、相手がアントンではメシ屋のオヤジの方から「猪木さんから金取るワケにゃあいかねえよ！」と言ってくるに決まっているので9割9分タダ喰いOK！　ごくたまにヤボな店主に当たったとしても「坂口にツケといてくれ。アラワシにハラわします！　なんつってな、ンムフフフフ」といまだに新日を自分の財布代わりにして一件落着である。平気で2億3億各所で踏み倒……イヤ、借りっぱなし中のアントンにとってはギョーザセットの2、3人前は天下の回り物感覚。しかしその行為を誰も詐欺だ、食い逃げだ、告発だ（当然、佐藤久美子は除く）と口汚く罵ったりしないのは、ギョーザも数億の札束も皆、アントニオ猪木の男具合と等価交換したものだからだ。アントンの試合や政治活動からもらった勇気と活力は計り知れず、そりゃあ本人に何か返せるチャンスがあれば出来るだけのことはしたいと、男なら誰しも常日頃思っているのだ。俺だって、もし自分が佐川急便なら、アントンハイセルの借金の肩がわりぐらい申し出て当然だと思っている。「何をしても許される」のは、それ以上の何かを世の人々に与え続けてきたからである。何を、どのくらいまでしても、許されるか。己の男具合を知るために、時に男は軽犯罪に着手せねばならない。お前の心の中に住んでいるのはイノキなのかトム・マギーなのかカイル・ストゥージョンなのか……ラーメン屋のオヤジに決めてもらってほしい。

己の男具合を知るために、時に男は軽犯罪に着手せねばならない



撮影／森鷹博

今月の オトコラム プレッシャーズ

コインランドリーといえば通常、客の洗濯待ち用にマンガや週刊誌が置いてあるもんだが、我が掟プロモーション（っていうか俺ん家）前の店には何故か『も○みの塔』と聖○新聞が完備されている。それだけだと喰い合わせが悪いことこの上ないのだが、そのラインナップに最近『Këmpfer』が加わったことで、何か絶妙なラインを描き出していて納得。内舘牧子先生が「ツーサウザン！」なんつっても単に洗濯しに来ただけの客のヒマが潰れないことには変わりなく、本棚周辺のやるせない感じを一層アオる結果となっている。いくら自分の店とはいえ、コインランドリーなんぞでプロパガンダを目論む経営者のオヤジ、仲々ナイス。4台ある乾燥機のうち常に2台は壊れっぱなしだが、『ゴミ箱』という札が貼られて便利に再利用されているのもプロレス的な経営術を感じさせてタマラナイのであった。12台の洗濯機に対してどう見てもバランス悪いのに、一方的にドンマイを押しつけてくるあたり、なんとも男らしい。こないだ初めて経営者と思しきオヤジに出喰わしたが豊登激似で、何かすべて答えが出た気がした。男としてはパーフェクトだが、頼むから乾燥機早く直してくれ。



掟ポルシェがヴォーカルと説教を担当する“ロマンポルシェ”のCD『暴力大将』（¥1600・税抜／ch-68）は絶賛発売中!　メシがまんまして買え!!

おきて・ぽるしぇ■船木最高！『週プロ』NO.969で「レスリングは新日のときにもどきのような感じで両足タックルを教わっただけ」と発言。エッ!?　じゃあ、いままでハイブリッドレスリングってアマレス入ってなかったの？　それともこれまたヒクソンの気をゆるませる戦法？

※じつは、サスケと桜庭にはこの質問をしていないので、オモシロ発言をピックアップしました。

本誌鬼畜編集長がレギュラー出演中!!

SPACE SHOWER TVの音楽バラエティー番組 マタハリ パワフル実況中継

最終回スペシャル

アレクサンダー大塚&春一番を迎えた最終回は特別増ページでお届けだぁ！

プロレス界屈指のツワモノたちをゲストを招き、本誌鬼畜編集長・山口日昇という猛獣をホスト役に迎えながら、なんと9ヶ月も続いた奇跡的なコーナー『押忍！紙プロ道場』。こんなコーナーを持つ懐の深い音楽バラエティー番組『マタハリ』が、この3月末で惜しまれながら最終回を迎えてしまった。珍しく山口日昇が一度もバックレずに最後までまっとうしたという点だけでもズバリ言って奇跡だ。む〜、じつに残念！

というわけで、記念すべき最終回の模様は、『マタハリ』の山口日昇を見たさのあまり今年2月にスカパーに加入した本誌カリスマ読者の真下純子ママが、ブラウン管の向こう側からレポートを書いてくれました！



今回のリポーターは真下純子

ウチのスカパーは野球もサッカーも映画も映りません。サムライ目的で加入しているものですから。お仕事楽しいですか？ゲッター小林様。そんなことはいいんですがね。

で、「月に一回山口編集長がご出演」に揺らぎ、マタハリ目的、いや、山口編集長目的でスペースシャワーにも加入したのが3月頭。これから月イチで動く山口編集長が拝めますぜ、ってホクホクしてたのに3月21日で「押忍！紙プロ道場」最終回ですって。持ち前の神憑り的な運の悪さをこんなところで発揮してしまうとは。そういった個人的な憤りを腹に抱えつつ見ました生放送。

小日向しえちゃんのお茶っ葉が開ききったかのような素晴らしいライブ、そしてピエール瀧さんの悩殺ガン黒メイク（しかもセーラー服着用）。なんて怖いところなんでしょうタワーレコード渋谷店。夕飯をいただきつつ視聴していたのですが何度も箸が止まりました。最高です。（色んなコーナーがありましたが端折りまして）そして山口編集長が颯爽と登場！　しえちゃんの持ち歌を会話会話に挟み、しえちゃんにちょっぴり嫌がられたりして女心掴みまくりです。タチ悪〜い♥

そして特別ゲストのアレク選手も登場。おもてなしの串ダンゴ（きなこ）をまず一本一口でペロリ。豪快な食べっぷりの後、飛び散ったきなこをパタパタ払う繊細さも。素敵〜。

アレク選手をお迎えした最終回のテーマは「バカ」。マにふさわしくこの日のテーマは「バカ」。マルコ戦での「試合するのに自分でリング作っちゃった」伝説、ボブチャンチン戦の当日に「プロレスとVTのダブルヘッダーしちゃった」伝説を紹介。「強い奴程バカである」との山口編集長の定義に瀧さんもしえちゃんもきっと強く頷いていたことでしょう。私は頷きました。追い討ちをかけるように「こないだホモのパーティ出ました」とアレク選手。プロレスもVTもホモもなんでもござれ。こんな人いませんよ。スゴイです。瀧さんも「アレク選手はライフスタイルがバーリ・トゥード」と感心してらっしゃいました。



串団子をほおばるアレク。やっぱりおやつ大好き！　豪快な食いっぷりにプロレスラーを感じさせてくれる。

さて、以前からこのコーナーのシメでゲストに「強さとは？」という質問をぶつけていたそうです。（PRIDE GP出撃前の大刀光選手は「我慢」って答えたんですって。※がまん【我慢】つらいことや苦しいことをじっとこらえること【旺文社国語辞典より】）

最終回ということで、今回は山口編集長がお答えしていました。

曰く、「強さとは『度を超えること』である」。

あの日あの時「押忍！紙プロ道場」に写っていた皆さんはどなたも度を超えたすばらしい方たちでした。

アレク選手然り、瀧さん然り、しえちゃん然り、山口編集長然り。こんな最強なコーナーが、番組が終わってしまうなんて本当に残念です。

余談ですが、前回宇野薫選手が出演された際、おもてなしのパフェを前に瀧さんと宇野選手で去年のルミナ戦のこと等を和気あいあいとお話していたのに編集長は「言うことがなかったから」という理由で「パフェも女の子も食いまくりですからね」と話の腰・複雑骨折発言!!それを受けてしえちゃんも「まだ若いしね」「ちょうどそういうのが楽しい時期ですよね」と宇野選手を追い詰めます。「冷静」が信条の宇野選手大ピンチ!!　どうする王子様!?　私は宇野選手の大ファンですが「そこらへんもっと聞いとくれ!!」と思わず拳を振り上げました。しえちゃん、瀧さんにひっぱたかれてましたけどね。

このように『押忍！紙プロ道場』では突発的に試合や雑誌では見られないような名場面が毎回飛び出したのです。コーナー最後の最後のシメは「シメ職人」春一番さんが登場。会場の皆さんと気持ちよくダーッ締めです。



ありがとうマタハリ!!　ありがとう紙プロ道場!!

……とキレイに終わったかと思いきや。

この日は「マタハリオークション」という企画があり、FAXやネット上のマタハリBBSでおもしろいことを書くとオークション出品者（今まで出演された皆様）のプレゼントが貰えたのです。我らが山口編集長は何と、「見開きピンナップの登場権」をプレゼント!!　「ド素人大好き!!」なんておっしゃってたけどホントですか？編集長？　こんな凄いプレゼントなのに番組後半は時間がなかったらしく、FAXもBBSも山口編集長について最後まで読まれずじまい&触れられずじまい。やりっぱなしのしっぱなし、だからママには怒られっぱなし。番組終了後に放映されないところで触れたそうですね。

さて、紙のプロレスRADICAL26号のピンナップ登場権は誰の手に渡ったのでしょうか？　さぁ急いでピンナップを見ましょう皆さん!!　ああ、これから動く山口編集長をもうTVで見られなくなっちゃうのでしょうか？　サムライさん、スペースシャワー「マタハリ」はこのように伝説を作りました。紙プロの番組、作ってください！　頼みましたよ。



今回は最終回スペシャルということで最後にコミコミ党の春一番さんも登場！　最後に控室でダァーッ！　みんないい顔だ！　また、大塚愛vs春一番というドリームマッチも実現！　この日出演したリリー・フランキーさんにも、かわいがってもらってました。

ザ・検証

【今 維

前回名古 会に出くわ の日はきん っとあの集 ったのであ ールにはス さんに捧げ ん置かれて 時、突然電 口編集部の 手本人から も前回の記 の理由は筋

総集編スペシャル

さようならマタハリ!! すべての出演者に聞いた ありがとうマタハリ!! この質問をプレイバック!!

「あなたにとって強さとは?」

※じつは、サスケと桜庭にはこの質問をしていないので、オモシロ発言をピックアップしました。

99/6/29



マスクマンにあるまじき発言!

覆面を取ると試合できないんですよ

ザ・グレート・サスケ

記念すべき初ゲストはサスケ社長！　登場するなり、後ろに向かって一礼するなど、ナイス・ボケを連発！　最高でした！

99/8/31



大胆公約!!

ダブルチームスープレックスを決めます!!

桜庭和志

「PRIDE．7」直前に出てくれたサク。しえちゃんの「弱そう。保父さんみたいだし」発言とは裏腹にホイラー撃破して快進撃！　たしかに保父さんぽいけどね。

99/10/26



くじけない心

前田日明

この出演の３週間後に襲撃された前田社長。だが、このお言葉通りに「くじけない心」でKOKトーナメントは大成功！　言葉の重みが違う！

99/11/30



お菓子暴食!!

不動の心で〜す！

佐山聡

控室で、スタッフが差し入れしたお菓子ばっかり食べていた佐山先生。渋谷のキッズたちの間では、しばらく「押忍！」が流行った（一部誇張あり）。

99/12/14



ついつい本音もポロリ!!

真の貧乏!!

アレクサンダー大塚

プロレス心溢れる発言の数々に、瀧さんも感心！　具体例は挙げなかったものの、この言葉には身を持って体験した真の貧乏の重みがありました。

2000/1/25



『PRIDE』で我慢しろ!!

ガマンでしょう

大刀光

今見ると思わず吹き出してしまうこの一言。たしかに『PRIDE．GP』では我慢できなかったけど、次があるじゃないか！　ガンバレ、タチ関！

2000/2/22



冷静でいること

宇野薫

オシャレな宇野選手。「パンェも女も食いまくり」（山口のテキトー発言）には冷や汗かいた!?

2000/3/21



度を超えることである

山口日昇

打ち上げでプレゼントをもらい、ガラにもなく感激した本誌鬼畜編集長だが４月５日現在、度を超えて失踪中。

こんなにハジけまくったコーナーと半年以上も続けてくれた制作スタッフに聞く!!

「押忍！紙プロ道場とは？」

プロデューサー早坂恭子さん

山口さんと出会ってもうすぐ1年。気がつけばすっかりプロレス、格闘技ファンになってました。マタハリは終了しますが、「押忍！紙プロ道場」はきっとどこかで復活します。（ひょっとしたら、山口チャンネル？　っていうか、何それ？）「愛情と尊敬をもってバカにする」そんな姿勢を教えられた気がする半年とちょっとでした。それでは、またどこかで

ディレクター小島章敬さん

「〝犬殺し〟でおなじみの山口日昇さんで〜す！」。台本を書くとき、いつも思ったのは、なぜ民放はサダハルンバなんだ！　こんな逸材をどうして出さない？　ということ。ところで、山口さんってホント、編集長なんスか？

二代目『紙プロ』編集長（ダミー）
人気者原タコヤキ君
Presents





HARA TAKOYAKIKUN
A.F.O.

AFOイラスト／
井上きびだんご
illustration by Kibidango Inoue

第4回
次号から、『紙プロWEST』は生まれ変わります！
浪速の怪物がいよいよ登場でっせ！

「なぁ、ワシ、もう、あかんねん」
いきなり本誌元編集長（ダミー）の原タコヤキ君が、ボクに弱音を吐いてきた。らしくもないぜ。タコ兄さんが秘かに思いを寄せている人妻への実らぬ愛の切なさをコンコンと語ってくれたときも、決して弱音なぞ吐かなかったのに……いったい何があったんだ？
「あのな……『紙プロWEST』のネタがあらへんから、他に何かやらへん？」
ズコッ！　もっとシリアスな話題かと思ったがそうでもな……いや、これはゆゆしき問題だ。たしかに、この『紙WEST』は本来ならば関西圏での興行やイベントをレポートするページだったのだが、関西ではタコ兄さんのお眼鏡にかなうような行事が圧倒的に少なすぎるという問題があり、行き詰まっていたのだった。次号から関西在住のマット界最強の論客を迎えてリニューアル発進する！　さあ、その論客とは誰だ!?　まずは、『紙WEST』の最終回を読めェエエ！
（編集担当：坂井〝スモー〟ノブ）

いよいよ『紙のプロレスRADICAL』にあの男が本格参戦を果たす！
「プロレスは底が丸見えの底なし沼」
「キラー猪木」
「平成のデルフィン」
「バカなこと言っちゃイカンよ！」
といった数々の名言を生み出した〝トーク・モンスター〟こと元『週刊ファイト』編集長の井上義啓の連載インタビューついに始まります！　聞き手は私、原タコヤキ君が務めます！　思えば井上さんとボクのコンビは長い。ちっちゃい『紙プロ』で舞妓さんを挟んでの衝撃的なフォトセッションで意気投合して以来、その後は『ファイティングTVサムライ！』では二人でテレビ版喫茶店トーク（毎日の帯番組）のパーソナリティーを務め、今はなき『格闘ゲリラマガジン』でロングインタビューを敢行するなど、メディアが変われどボクと井上さんの編集長（ワシはダミーやけどな）師弟タッグは続いてきた。
あれは思い起こせば4年前……『サムライ！』の収録後、幸せそうな恋人たちが行き交う池袋を歩きながら、「あの時マクマホン・シニアは本気で猪木を抹殺しようと思っとったんだよ！」と、仰天情報を教えてもらったこともあった。折しもクリスマスイブ。あの時は本気でヘコんだもんやで……（遠い目）。そんな体験してみたいやろ？　平成のデルフィンたちも、伝説の怪物に触れてみなはれ！
そんな親子とも、ある意味恋人同士とも誤解できるほど密だったイノ・タコ編集長コンビだが、ボクが大阪に帰ってから逆になぜか疎遠になってしまった。そんな2人をかろうじてつなぎ止めていたのは、井上さんから毎年いただく「タコヤキ元変酋長殿」という宛名の年賀状だけだった。いや、ホンマにそう書いてあるんやって！　まあワシも特に媒体もないので井上さんにインタビューすることのないまま2年ほど過ぎてしまったのだが、ワシが目を離している隙に活字プロレス界の状況が激変してしまった！　フリーになってからのターザンのモテっぷりは何やねん？　『紙のプロレスRADICAL』から『SRS・DX』から浅草キッドから、とにかくみんながターザンを使いたがり（※本誌はあんまり使いたくないですよぉ〜！　実際、そんなに使ってないし：編集部注）、そしてことごとくターザンは期待以上の仕事を全うしてきた（期待はずれの場合もけっこうあるみたいです：編集部注）。そりゃターザンは凄いよ。面白いよ。でもなぁ、あのターザンをして、「あの人はキ●ガイですよ！」と言わしめる井上義啓さんという存在をプロレスファンは忘れてしまったのだろうか？
それがとにかく悔しかったのだ。活字プロレス界に非常ベルが鳴っているのに誰も気付こうとしない……。もうアカン！　ワシはホンマにボタン押す、トークの核爆弾の。本物見せるよ。
というわけで次号から井上義啓元編集長に、原タコヤキ君元編集長（ダミー）が毎号インタビューで挑む連載を開始するで〜！　井上さんがマット界はもちろん、政治経済、裏原、iモード、果てはヤマンバメイクまで、森羅万象なんでも一刀両断しまっせ！
そして、いきなりだけどお題を出すのはアナタ！　井上さんに語ってほしいことをハガキの隅っこに書いてください。面白い意見は、井上さんが必要以上に語ってくれるはずやから。次号まで嵐山の方角を拝みながら待ってや！



2人で嵐山散策に行ったこともあるイノ・タコ砲。両者とも関西に住んでいるので、タコ兄さんには毎号インタビューをしてもらう予定です！　最近、井上節が炸裂中の『ファイト』は男の必読紙であります！

ザ・検証

維【全

前回名古 会に出くわ の日はきん っとあの集 ったのであ ールにはス さんに捧げ ん置かれて 時、突然電 口編集部の 手本人から も前回の記 の理由は筋

ジョージ高野復活への道

わかおはるかの THE・ジョージ秘宝館

Mulatto Arts H.I.T

「BROTHER」の巻

私の兄は刑事だ。いわゆるマル暴の刑事というヤツだ。現場は本当の意味で死と背中合わせだから、仕事を続けて行く上で普段から〝逮捕術〟というバーリトゥードなトレーニングをやらされるらしい。大会がある程のえらいガチな訓練だ。ジョージさんと知り合って、プロレスや格闘技にも詳しくなくちゃと思って、兄に色々格闘技のことを聞いてみた。

「一番強い格闘技って何かなぁ?」「プロレスだろ」びっくりした。私はプロレスは世間的にはあまり認知されていないと思っていたが、プロレスのことを〝一番強い〟と言ったのだ。プロレスとか格闘技とか見たことしかないけど、リアルなガチの人がプロレスはスゴイと言ってるんだから、ジョージさんのような本物のプロレスラーは大いに胸を張るべきだ。私はこのコラムが心から誇らしい。

さて、ジョージさんの二人の弟(知ってた? じつは弟は二人!!)のうちのレスラーの弟さんの方のお話。その電話は2月下旬、唐突に掛かって来た。「高野拳磁と申します」イトコの十座が出る。「俊二か……」しばらく喋っていたが、十座がいきなりキレた。「てめぇ、俺に喧嘩売ってんのか!!」……びっくりした。会社の人間は皆青ざめてる。私はこのコラムのせいで喧嘩が起こっちゃったのか? とビビりまくりだ。かつて、ムラトー・アーツ・ヒットが弁護士を探してる時に、対応の高圧的なその弁護士に向かってブチキレた時以来のキレ具合だ。彼は、特に権力を振りかざす奴が大嫌いなので、こりゃクレームだと私は思った。

そうこうしてると「なぁーんだ、早く言えヨ」とフツーに戻った。「ゴメンゴメン」と謝り出した。どーやらこのコラムに「気にしないでどんどん書いて」と俊二さんが陣中見舞いに来たのを早合点したらしい。Vシネみたいな喋り方に「フツーに喋れ!」と怒鳴っていたことからも、十座にとって〝らしくない〟俊二さんを誤解したらしいのだ。実は前回は本来、俊二さんの心温まるエピソードの話だったんだけど、この一件で完成していた原稿をボツにした経緯がある。それを出していたら何か圧力があったんじゃないか?と思われたことだろう。だから今回はその時のことをありのまま書くことにした。

……と、十座がいきなり電話をオンフックにした。流れて来たのは多分、俊二さんの〝らしい〟、優しい、さっきとは違う声……。「兄貴にまたタッグ組みたいと伝えて……」真実である限り、良いことも悪いことも憲法21条の「表現の自由」がある限り、書きたいことは書く。絶対に書く。それが物書きのプロとしての姿勢だ。そしてこのコラムに出てくるのは〝姑息な奴〟以外のビッグ・ハートだけだ。すぐさまオンフックのままジョージさんに電話を掛け直した十座が俊二さんのその言葉を伝えてる。ジョージさんは優しく弾んだ声でこう言った。「それが一番嬉しい……」やっぱり兄弟とはいいものだ……。



P.S.コブラジムグッズ総合カタログ無料発送。生徒も募集中!!
お電話ください。

ザ・コブラのHPアドレス
http://www.remus.dti.ne.jp

わかおはるか■ムラトー・アーツ・ヒットの命を受け、ジョージ高野のコラムを担当させられた漫画家。「本当にあった愉快な話」他でも連載中。尚、F.S.R.(093―619―3933)はムラトー・アーツ・ヒット(03―3559―3358)に東京での連絡先を置いている。生徒も募集中。コブラジムTシャツあります。お電話下さい。

賢い野蛮人のマネージャー日記

もうひとつの大和魂

プナニ酒井(E-FORCE JAPAN)

第11回 言わせてもらいます

『紙プロ』読者がやってるインターネットHPの人気投票で、なぜか3位になったプナニ酒井です。どうやら1人が何回も投票してるみたいですね。はじめに断っておきますが、私じゃないですよ、投票してるのは。

さて、今回のエンセンですが、以前このコーナーで書いたような得意の交渉術で、最近またラッキーな結果を得たお話です。

つい最近、エンセンはグアムの弟子にプレゼントするデジタル・カメラを買いに大型電気店に行きました。

「最新型のデジタル・カメラください」

とエンセンが店員さんに言うと、その人はちょっとボケていたのか、

「ウチはデジタル・カメラは扱っていません」

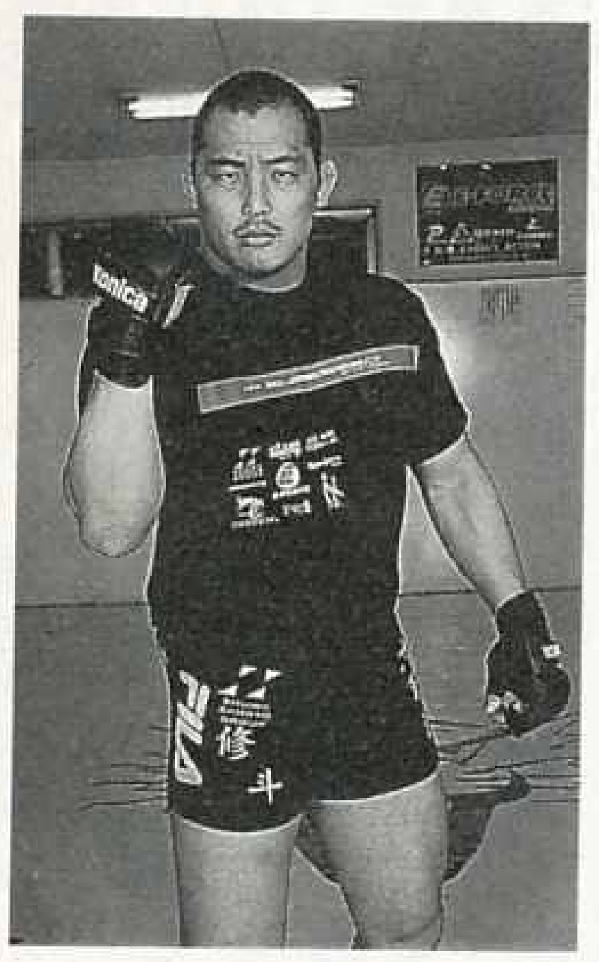
と答えたそうです。超有名店だし、扱っていないわけないないんですけどね。仕方なくエンセンはデジタル・ビデオ・カメラを買うことにしました。同じ店員さんに、自分が使っている機種を言い、それと同じモノを出してもらうことにしました。約30分待たされて、ようやく商品を持ってきてもらったのですが、説明書が日本語なので読めません。

「英語のマニュアルが欲しいんだけど」とお願いしたとき、その店員さんは探しもせずに、

「ないと思います」

と答えました。

エンセンはキレかかる気持ちを抑え、



「ちょっと待って! ワタシはお客さんだヨ! 探しもしないで『ないと思います』はないでしょ? 欲しい人がいるんだから、探してください。それでもなかったらメーカーから取り寄せてヨ」

とエンセン。確かに、お客さんに対して、「ないと思います」は言ってはいけない言葉ですね。

さらに運の悪いことに、その店員さんが英語のマニュアルを探しに行ってる間、お店の中を見ていたら、最初に探してたデジタル・カメラを発見してしまったのです。

そのとき、すでに最初に入店したときから2時間経っていました。さすがに呆れ返ったエンセンですが、その店員にはいくら言っても効果がないと思ったのか、店長さんを呼んでもらいました。店長さんは、ただただ平謝りです。

「あなたたちのサービスが悪いから2時間もムダになったヨ。この店は、ワタシたちに何をしてくれるの?」

すると店長さんは神妙な顔で、

「お詫びです」

と白い箱を持ってきてくれました。エンセンは厳しい顔のまま箱を受け取り、店を出て、車に乗った途端に箱を開けてみると、そこには最初に買うつもりだったデジタル・カメラが入っていたのです! ビデオの空テープが出てくるかと思っていたエンセンも、これにはビックリです。ガマンすると、いいことがあるもんですね。

この一件で最初に私と会った頃、エンセンが言っていた言葉を思い出しました。「ワタシといると、サカイさんエキサイティングでしょ? アハハハハ!」

このように、ちょっと図太いぐらいが格闘家としてはちょうどいいんじゃないかと思います、横で見ていて冷や冷やすることも多いですけどね。

ぷなに・さかい■エンセンは最近、暴走族やチーマーといった若者からサインを求められたときは「警察に捕まるようなことしちゃダメー!」と念を押していたのが微笑ましかったです。

実録

最狂プロレスファン列伝

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

構成/イナズマ★K



PROFILE

No.3　伊賀大介（スタイリスト）

ロック魂溢れるスタイリングで、若者の支持も熱い、若手スタイリスト。19から3年間、熊谷隆志氏の元で修行ののち、昨年4月独立。以後、『スマート』、『アサヤン』、『メンズノンノ』etc...様々な雑誌で活躍中。ロック、プロレスTシャツは古着で見つけたら即買してるという彼。自らも、架空のバンドTシャツ作ったりしてるということだ。最近はダイスのネックレスがお気に入り。パンク、ハードコア好き、最近行ったライヴで良かったのはブライアン・セッツァー・オーケストラ。彼自身格闘技歴はないものの、昔はリングス観終わった後、いとこと2時間スパーリングしてたというから素晴しい。今は『プライド』が好きということだが、プロレスも全般的にチェック。高田選手も維新軍vs正規軍時代の谷津戦での、ベスト・オブ・ミサイルキックがあるので許せるというファンの鏡（!?）。紙プロを読み出すと3時間仕事がストップするという活字フリークでもあるバリバリ猪木信者。

オシャレなヤツも、後ろ髪だけ長いヤツもいていいと思う。

ますますそのネットワークを広げるプロレス・ファンの波。逆らうことなんて出来やしないのさってことで、今回登場するのは人気スタイリストの伊賀大介クン。『スマート』、『アサヤン』などのファッション誌でロック・テイスト溢れるスタイリングでバリバリ活躍中の彼。どうやらムチャクチャプロレス・格闘技好きだという情報をゲット。それならってことで即、直撃だ!

「昔っから好きで、新日とか『世界のプロレス』を観てましたよ。ウォリアーズとロックンロール・エキスプレスのラダーマッチとか。サッカー少年だった頃はあんまりTV見れなかったんですけど、武藤選手が2回目に帰ってきた時、アメリカでのムタをダイジェストでやってて、『スゲーッ!』ってまた観始めました」

その後は、『時は来た』の新日ドーム、『レッスル・サミット』などを観に行ったという伊賀クン。ハマると突っ走る性格の彼は、昔の猪木さんのビデオ観たり、アイドール行って本探したりとプロレス研究に没頭する。『紙のプロレス』も創刊当時からの読者だという。こうしてプロレスに夢中になりつつ、それとは別にいとこの影響で格闘技も好きになったという。

「昔のシューティング好きでしたね。オレ、大原友則選手（元修斗ウェルター級王者）がムチャクチャ好きだったんですよ。極真も第4回のアンディが負けたの観てますよ。ロブ・カーマン好きだったから角田（伸朗）選手とやった時も燃えたなぁ。K—1、リングスの初期も観に行ってたんですよ。ターザンさんじゃないけどあの磁場が（笑）、凄い面白かったですよね。この間の桜庭vsホイラー戦はその頃以来の衝撃だったんですよ」

熱き思いをぶちまける伊賀クン。その『プライド8』のヴィデオ、冒頭の客席ショットで絶叫してる彼の姿を発見したぞ!

「桜庭が勝った瞬間、オレ泣いちゃったんですよ（笑）。あの時のムード最高に良かったじゃないですか。オレ知らないヤツとバリバリ握手しちゃって、抱き合ったり（笑）。そんな興奮は初めてで、あれをもう一度味わいたいんですよ」

そんな観戦好きの彼も、一切会場にいけない空白3年間があった。スタイリストになる為のアシスタント修行期間だ。3日徹夜は当たり前のむちゃハードなこの職業。新弟子はプロレス観に行く余裕すらなかったのだ。

「で、唯一1回行けたのが猪木さんの引退試合なんですよ。それもボクにとっちゃ神憑かり的で。チケット買ってたのに仕事で、しかも葉山でロケ。撮影終わってもう5時くらいだったんで、無理だから諦めてたんですよ。でも師匠に『間に合うかもしんないから行ってみろ』って言われて、『ありがとうございますっ!』ってそのまま駅までダッシュして電車のって。とにかくドーム行って中入ったら、ちょうど『猪木ボンバイエ』がかかってたんですよ! もうリュックしょったまま、猪木コールしました（笑）。15分1万円でしたけど、その価値は充分ありましたね。『オレのために待っててくれたのか』って感じで感激しちゃって、泣きそうでした（笑）」

そんな伊賀クンも、独立して1年。忙しくても大事な試合がある日の仕事は休むという。

さて、これだけの強者ファンなんで、自分の仕事のポリシー的なものにプロレスは忍び込んでることでしょう。

「プロレスもロックもファッションも、オレにとっては変わんないんです。服の見た目じゃなくて、その人がかっこいいから、何着ててもかっこいいじゃないですか。普段はプロレスやってるけどVTでも強いのと同じですね」

そこで『プロレスラーはホントは強いんです』につながるとは! プロレス、ロック、ファッションが3本柱になってる伊賀クンにとって、その境界線をなだらかにするのが彼のライフワークなのだ。

「後ろ髪長い、いかにもなファンがいなくなれば良いのかっていうとそうじゃなくて、逆にシューティングのTシャツだけ買いに来るヤツみたいのも違うと思うんです。もうちょっとフラットでいいなあと。おしゃれなヤツもいれば、興味ないヤツいてもイイじゃんって。そのカドを取る為にさり気なくファッション誌でオーチャンTシャツを使ったりしてます。プロレスに興味ない人もたまに着たら面白いかなって感じですね」

同じような考えの中からダイエットブッチャーやバンバンビガロのプロレスTシャツも出てきたわけです。

「そういうのをオレが紹介できるもんなら紹介したいなと、ちっちゃいレジスタンスです」

最後にそんな彼のお気に入りプロレスTシャツを紹介しよう。

「デストロイヤーのです。知り合いがフリマで50円で買ったからってくれたんです。いつかこのデザインのまま再発したいですね」

なるほど、そいつを期待して待つことにしよう。とにかく元気いっぱいな伊賀クン。これからもキッズ代表として、頼むぜベイベー!



エクスプロイダー
『リボルバー』という大人気ブランドのデザイナーが全日ファンだということで誕生したこのTシャツ。渋くていいね!

デストロイヤー
デストロイヤーのイラストTシャツ。サインは本人かどうか不明。「70年代テイストの細い線のイラストにやられました」。

メイプルリーフ
ダイエットブッチャーのメイプルリーフTシャツ。「ボクのお気に入りです」バックに入ってる「カルガリー・ハリケーンズ」の文字がキュート。

ザ・検証 プロレス点と線

斎藤彰俊。突如として新日を辞めた元維震軍のメンバーであった彼の消息が気になり、勉強や仕事が手につかない維震ファンも多いことだろう。なんと今回の検証では、その彰俊選手に接触する事に成功！　検証始まって以来の快挙であり、手柄であり、スクープ！　しかも2回に分けるほどボリューム満点。今回は彰俊選手はなぜ新日を辞めたのか、彰俊選手にとっての維震軍とはなんだったのかを中心におおくりします。維震ファンはハンカチを用意して読め！

ザ・検証

【今月の検証】

維震魂とは何か?
～斉藤彰俊独占インタビュー

by せき詩郎

前回名古屋へ行った時、暴走族の大集会に出くわしたわけだが、今考えるとあの日はきんさんの四十九日であった。きっとあの集会は『きんさん追悼集会』だったのであろう。そういえば、ガードレールにはスピードの向こう側をみたきんさんに捧げるためだろうか、花がたくさん置かれていた。そんな嘘を考えている時、突然電話が鳴った。電話の主は紙プロ編集部の坂井君。なんでも斎藤彰俊選手本人から編集部へ電話があり、なんでも前回の記事はNGだということだ。その理由は筋がしっかりと通っていたものであったし、私もフライング気味だった感が否めなかったので、素直に斎藤選手の申し出を受け入れ、前回の続きを諦めた。しかし話はそれだけではなかった。なんとそれ以外の取材はOKということなのだ！　しかも、「維震軍を好きでいてくれる人がいるようなので」という理由で!!　新日を辞めて以来公の場に姿を現さず、取材の依頼があっても一切受けなかった彰俊選手に話が聞けるというのだから、こんなビックニュースは無い。

4月9日、彰俊選手が名古屋のイベントにてサイン会を行うらしい。ファンの前に久々に（新日を辞めてからは初めて）姿を現す。私たちはこの日に取材することを決め、ただただ心待ちにした。

維震ファンを始めてはや8年。一口に8年といっても、短いようで長かった。8年もあれば様々な事が起こり、変化する。生まれたばかりの子が8歳になるほどである。10万30歳だったデーモン小暮が10万38歳になったり、懲役8年の実刑をくらった人が出所してくるほどの期間である。そういった時間の中、私はずっと維震ファンを続けてきた。そして初めて、維震軍のメンバーに直接会う機会にめぐり合ったのだ。



当日、私は維震軍の旗、死んだら棺桶に入れてもらおうと本気で考えている旗をかばんに詰め込み、旗以上に必要だと思われるもの（取材道具一式や宿泊した場合の着替え等）は一切持たずに東京駅へと向かった。新幹線の改札で坂井君とおちあい、ひかり号に乗った。

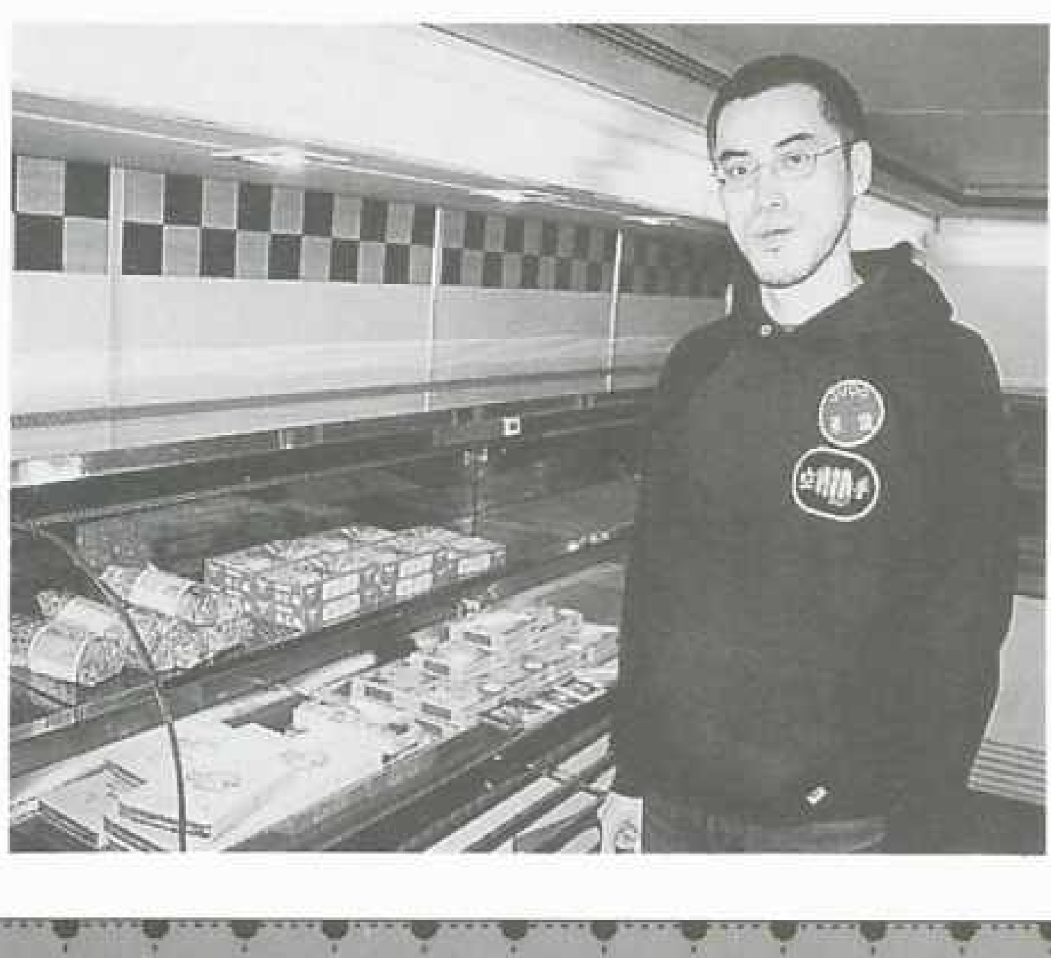
用意してもらった彰俊選手の資料に目を通していると、坂井君が私にこう言った。「カフェテリアへ行きましょう」と。

カフェテリア。かつて新幹線の食堂車だった車両である。食堂車といえば、維震軍のメンバーだった邦明選手だ。彼が食堂車のメニューをすべて食べた伝説は誰もが知っているだろう。しかし、食堂車はもう存在しない……。最近廃止になったのだ。時代は維震を忘れさせようとするだけではなく、維震ゆかりの地さえも奪っていくのか!?

とりあえず飲み物だけ買って、私たちは再び席へと戻った。そして名古屋へ着くまでの間、お互いに恋愛相談をしたり、坂井君にタロットで恋を占ってもらったりして時間を潰した（嘘）。

昼前に名古屋に到着。そのままイベント会場へと直行。私の緊張は高まって行く。それは彰俊選手がいる場所へと近づいているエレベーターの中で最高潮に達した。エレベーターを降り、喫茶店に入ると、そこには一際大きな男性がいた。そう彰俊選手である。

そういうわけで、私は緊張してまともに話せる状態ではなかったので、坂井君にフォローしてもらいつつインタビューしてきました。



車堂車は姿を消し、味気のないカフェテリアに様変わり。時代の流れは、急すぎて大事なものを奪っていく……。

彰俊 本誌独占 INTERVIEW



ある日突然、あなたの愛する人、大切な人が目の前から消えててしまう。そんな映画のワンシーンのような経験をしたことあるだろうか？　維震ファンにはある。斎藤彰俊が新日を辞めたあの日に……。

彰俊が新日を辞めた。それはあまりにも突然であった。我々維震ファンに涙を流す時間どころか、事実を受け入れる心の準備をさせる暇さえも与えなかった。維震ファンは動揺しながらもなんとか気持ちを切り替え、彰俊の新天地での活躍を期待した。新日以外の別のリングで、いつものように空手をベースにした気迫あふれるファイトをみせてくれるだろうと。しかし、その期待は儚く砕け散る。その後、彰俊は我々の前から完全に姿を消してしまったのだ……。一体なぜ？

彰俊「あのー、ちょうど夏に休みがあったんで、そのときに考えたんですよ。シリーズをずっと戦ってると、そんなこと考える暇ってないじゃないですか。毎日のことだけで。その時までの自分というのは、いままでは新幹線に乗ってたというか。速いスピードでついていったんですけど、ちょっと立ち止まって風景を見てみたら、こんなところでこんな仕事をしてる人がいたんだとか、今まで気付かずに流されていってたものが見えてきたというか。そんなことを考えはじめたんですよ。自分の意志を確認したというか。自分の心の中があやふやになってる状態で試合に出るのはお客さんに対して失礼だと思うんですよ。だから1回引いてみようと。それで外からこの世界を見れば新しい発見があると思ってるんですよ」

反選手会同盟から始まった平成維震軍の歴史は彰俊の歴史だったと言っても過言ではない。彰俊と共に始まり、彰俊と共に成長し、そして彰俊の新日離脱と共にその幕を閉じた。確かに末期の維震軍は維震ファンの目から見ても、マンネリであったし、少々きつい言い方かもしれないが、その存在意義さえも無いものと等しいものであった。しかしファン以上にそう感じていたのは彰俊本人だったのである。

彰俊「たしかにプロレス界に関わってるほうが安定はするんですけどね。でも、さっきも言いましたけど、自分は中途半端は嫌なんですよ。まあいろんな人からバカだって言われますけど。でも自分自身の成長のためにバカやらせてもらおうかなと思って。別に新日本から辞めろって言われたわけじゃないし、なんでなのってことも言われましたしね。自分もバカだと思いますけどね。ほんとに苦しいですけどね。でも、いい答えは出つつあると思いますから」

徐々にハングリーさを失って行く自分に我慢ができなくなった彰俊。では〝ハングリーさ〟とは何なのか？　新日と誠心会館の抗争時にみせた、新日ファンが敵役におくっていたブーイングを大声援へと変えていった彰俊のファイト、そしてあの形相がハングリーさの化身だったのだとすれば、確かにそれは影をひそめていったのは事実だ。しかし、久々にハングリーさを全開にして見せてくれた試合があった。辞める直前に組まれた対ドン・フライ戦である。あの試合の彰俊は昔の彰俊であった。

彰俊「やっぱりフライ戦ですね。自分はこうじゃなくちゃいけないって考えたのは。辞めるとはほんとに急に、自分のワガママで言ったもんですから、越中さんとは少し話しましたけど、他の選手は（次シリーズの）27日の開幕戦直前までほとんど知らなかったんですよ。長州さんには『意志は固いのか？』って聞かれ

「今でも維震軍は好きですし、尊敬している人もいますから!!」



92年1・30東京・大田区体育館、この一戦で彰俊はプロレスファンの脳裏に強烈に焼きついた。歴史的一戦だ!!



98・10・18兵庫・ワールド記念ホール。ドン・フライを相手に殺気あふれる名勝負をくり広げた彰俊。

斉藤

約1年、3ヶ月の沈黙を破り、維震し続ける男が『ザ・検証』で激白!!

ましたね。でも、もう1回全部捨てちゃえっていう気持ちで、むしろすがすがしい気持ちだったんで、『固いです』って言って。でも今でも維震軍は好きですし、今でも尊敬してる人もいますから。だから……そうですね、新日本とかプロレスが嫌いでやめたわけじゃないですから、今でも深いものがありますね」

「決してレスラーを、ファイターを辞めたわけではない」そう彰俊は強調していた。きっと〝辞めた〟と表現するよりも、〝休みに入った〟と表現する方が適当なのであろう。安定を捨て、自らを追いこみ、ハングリーさを取り戻すための充電期間に今の彰俊はあるのだ。再びギラギラした彰俊に変身し舞台に登場するのを、私たちは今待っている、そんな暗転時間なのかもしれない。

ところで「今でも維震軍は好き」という言葉。維震ファンにとってこれほど嬉しい言葉は無い。やはりというか、いつしか話題は維震軍についてへと変わっていく。

彰俊「いろいろな集団がありましたけど、あれだけ長く続いた集団ていうのなかったみたいですね。結束は固かったですね。一時期小原さんとか野上さんが反逆とか言われましたけど、あれだって越中さんが欠場してた時に、藤波さんとか、人の手を借りて維震軍を存続させるためにとった行動ですしね。でも、人の手を借りたら維震軍じゃないじゃないっていう、そこの対立だったから、維震軍を愛するがゆえの対立だったんですよ。それに、維震軍っていうのは、普通のグループとは違うカラーじゃないですか。女性ファンはほとんどいなかったんじゃないですか。それぞれはヴィジュアルファイターなんですけど（笑）」

維震軍を愛するがゆえの対立！ 維震軍の一番のファンは彰俊を始めとする維震軍メンバーたちだったのかもしれない。スキンヘッドに袴姿といういでたちの自称ヴィジュアルファイターたちは、女性ファンのハートを掴むにはヴィジュアルが強烈過ぎた。しかしパンク以降、もっとも衝撃的だと思われるそのヴィジュアルは我々維震ファンの心を鷲掴みにした。商店街の現金掴み取りに挑戦しているおばさんが、手が箱の中から抜けなくなっても、それでも現金を離さないように……。

彰俊「維震軍っていうのは個人個人で見ると、集団でなにかをやる人たちではなかったと思うんですよ。でも、憎しみの中からっていうと先輩がたに失礼ですけど、そういう中から男が男に惚れるっていうところから始まったんですよ」

男が男に惚れて作られた維震軍に、男のファンのみが惚れていく。男臭さが充満したその世界は、硬派な不良や任侠の世界のそれに酷似しているであろう。

そんな男たちがある日サイパンへと行った。維震ファンなら誰もが知っている伝説のサイパン合宿だ。この時、週プロに掲載されたインタビューがインタビュー史上最高のものだと私は思っているのだが、中でも特筆すべき事柄が二つあった。それは波打ち際で合体攻撃の練習をするメンバーの写真と、日焼けして真っ赤になった肌を痛そうな表情で眺める後藤の写真、ではなく、越中の発言中に登場した「彰俊ジュニア計画」と「彰俊不参加」である。



彰俊「あれはですね、いままで合宿のガの字もなかったんですけど、急にサイパン行くぞっていうことになって、その行くっていう次の日かその次の日にパスポートが切れてしまったんですよ。それで、また申請しても何週間かかかってしまうってことだったんで、出発の日に間に合うか間に合わないかっていう感じだったんですよ。途中から合流するっていう話もあったんですけど、それもなくなって。新聞には〝あのバカ〟って書いてありましたけど」

越中曰く「ここは俺たちの団結力というのを見せつけるよ」という合宿だったが、彰俊は不参加だったのである。なら、団結力のかけらも無いじゃないかと早合点してはいけない。彰俊はみんな日焼けして帰ってきたことがくやしくて、自分も負けじと日焼けしてリングに上がったのだ！ そしてリング上は全員日焼けした状態になった。リング以外でも切磋琢磨し競い合う維震軍には、やはり他の集団には無い団結力があったのであろう。

一方、越中の「彰俊だってね、体重落とさせてジュニアで暴れたっていいんじゃないかと思っている」という発言。あれは南国のリゾート気分が越中に言わせたリップサービスだったのだろうか？ それとも真面目に考えていたことなのだろうか？

彰俊「あれはですねえ、越中さんの、維震軍としていろんなところにうって出るみたいな考えだったんですよね。でも自分はちょっと……。自分にとってプロレスラーっていうのはほんとに凄い存在なんですよ。それで、空手からはじめて一生懸命体作っていったときに、また体絞ってジュニアでっていうのは、自分では『ちょっと……』っていうのがあったん

ですよ。でも実際出たらおもしろかったかもしれないですけどね。やっぱりヘヴィーで戦うってことに思い入れがありましたから。でも越中さんは思いやりがある人ですから、快く承諾してくれました」

維震軍でベルトを総なめ作戦の一環として飛び出した「彰俊ジュニア計画」。あれは本当だったのである。最近では蝶野が天山と共に体重を落とし、ジュニアのベルトを狙おうとしていたが、それと同様なことをクレバーな蝶野よりも数年前に実行しようとしていた維震軍。早すぎたとしか言いようが無い！

それにしても、彰俊の話を聞けば聞くほど、維震軍の結束力は並の固さではなかったことを思い知らされる。よく〝一枚岩〟と表現されていたが、まさにその通り。その証拠に彰俊の口から飛び出す維震軍の思い出話は尽きることが無い。『維震軍バス（維震軍専用移動バス）の中にもらったドブロクを置きっぱなしにしてたら、ガスがたまって次の日に爆発してた』話など無数にあるのだが、残念ながらこの詳細と、それ以外の爆発的におもしろい維震話を今回掲載することはできない。次号以降で、ひょっとしたら掲載できるかもしれないのだが…。それにしても〝維震軍バス〟！　世界にバスは数あれど、これほど興味をひかれるバスは無いのではないだろうか？　『BE―BOPハイスクール』の〝戸塚電車〟顔負けのバスである。そんな維震軍バスに乗っていたメンバーを彰俊はどう思っていたのだろう。


試合後の維震軍。旗、ビール、男、汗、そして笑顔……すべてが一体となった男の芸術である。

彰俊「個性がある中でも、全般的にはいい人ばっかりでしたけどね。まず越中さんは、ああしたほうがいいこうしたほうがいいっていろんなことを常に考えてましたから、やっぱりリーダー的な存在でしたね。例えば木村さんは木村さんで考えることがあって、それが変な方向にいきそうになったときとかに、こうしたほうがいいんじゃないのかってアドバイスしてたりとか。もちろん木村さんは木村さんで一世を風靡した方ですからね。小林さんは本当に不屈の精神を持ってた人ですから、体調を壊されても、ものすごい勢いで治して試合したり、体も昔から自分が見てたときから変わらないですし、小林さんが抗争した人ってけっこういい具合に光ったりしますから。そういった意味でも感謝してますね。あとは……後藤さんは確かに怖い人でしたけど……。なんですけど、すごい思いやりのある人でしたし、自分の芯をちゃんと持ってましたから。後藤さんというワクのなかでも伸び伸びやれる人ですから、その方が後藤さんらしいし、もっと暴れたほうがいいですよね。で、野上さんはレスリングがすごいうまいですよね。それに、自分からしたら大先輩ですし。やっぱり芸能界に行かれる方なのかなとは思ってましたが、でもAKIRAになってからすごいいいですよね。小原選手はちょっと違う思い入れっていうか、芯にすごい怖いイメージがありますし。巡業先でいろいろ話すと勉強になることはありますし。たとえあんまり連絡が取れなくてもつきあっていくのかなとは思いますよ。

小原選手のケンカ魂というのか、自分の忘れてた部分を思い出させてくれる部分はありましたね。青柳館長は……（しばし間）……アマチュアのときはすごいカッコよかったですね。プロになってからは……（またまた間）……またお会いしたいですね。やっぱり師弟関係ですから。なんかの記事で館長が自分と戦いたいって言ってられたみたいですけど、今は時期が時期なんで、その意味が自分のなかで見出せないんですよ。できれば戦わずにいい関係でいたいですね」

彰俊の口からは維震軍に対する誹謗中傷の類は一切出てこない。それは彰俊の性格もあるのかも知れないが、維震ファンとしては素直にうれしいことである。が、そんな維震軍も解散してしまう。それは彰俊が新日をやめてからすぐのことであった。

彰俊「維震軍ってそんなに華やかなものじゃないし、ドロ臭いものだったかもしれないですけど、侍スピリッツっていうか、心に訴えかけるものはあったと思うんですよ。じゃあ維震軍のことを考えてるんだったら、残ればいいじゃないかって言う人もいると思うんですけど、生意気ですけど、流れも変わってきてるし、今の維震軍は昔の維震軍とは変わってきてると思うんですよ。でも自分のなかに維震魂は生き残ってますから」


サイン会場には維震軍のパンフを持参するファンもいた。どうつもこいつも濃いヤツらだ!!

維震軍という反体制の集団にいながらも、その中で流され、こじんまりとまとまって行く自分にジレンマを感じてたのであろう。確かに末期の維震軍には彰俊を奮い立たせるものは皆無だったかもしれない。それはファンの目から見ても明らかであった。そして今、維震軍は存在しない。が、〝維震魂〟は存在するのだ。もしかしたら維震軍とは単なる団体ではなく〝生き方〟だったのかもしれない。かつての越中の発言「ことがなっても維震軍は永遠に維震軍だよ。ずっと維震していくわけだよ」を身をもって示しているのが今の彰俊なのであろう。自分と戦い、そして変わりゆく時代と戦う彰俊。「死ぬまでファイターですから」と語る〝BORN TO ファイター〟彰俊。決して現状に満足せずに維震し続ける彰俊を我々は見守り、応援していこうじゃないか。少なくとも私は彰俊本人に会い、その人柄に触れ、一生応援していくことに決めた。他の大事なことを忘れても、維震魂だけは忘れない、そう決めた。共に取材に行った坂井君もそう決めたことだろう。

最後に彰俊がこんなことを言った。

彰俊「僕1枚大好きな写真があって、維震軍が控え室でみんなで笑ってる写真があるんですよ。怖い維震軍の写真はいくらでもあるんですけど、実はいちばん維震軍らしい写真はそれだと思うんですよ。ほんとあの写真は大好きですね」

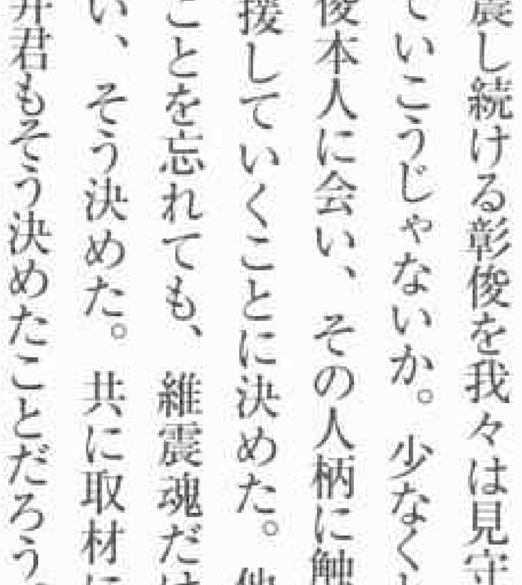
不覚にも私は泣きそうになった（本当）。横を見ると坂井君がハンカチで涙をぬぐっていた（ウソ）。私は涙がこぼれないよう上を向いた。空の雲が、〝覇〟という文字を形作っていた……。維震NOT DEAD!

取材協力／IVYブックス

次回予告

今回収録し切れなかった、彰俊選手の高校時代の武勇伝の数々を中心におおくりいたします。次回『斎藤彰俊インタビュー第2弾～「新撰組」とは何か？』にこうご期待を！

読者プレゼント



貴重な彰俊選手のサイン色紙（覇の文字入り）を3名様にプレゼント!! 応募方法はP159を参照のこと!!　必ずこのコーナーの感想も書いてください。

ザ・検証

【今月の検証】

ドラゴン引退試合～エピローグ・オブ・マッチョドラゴン～

by 椎名基樹

我らがドラゴンの周辺が慌ただしい。もちろん「エピローグ・オブ・ドラゴン」と題した藤波辰爾引退までのカウントアップ、否、カウントダウンが、ついに5月5日から開始されることになったからである。対戦相手はブラックバタフライこと蝶野。その試合に向け、蝶野は「あいつが引退する前にリング上で交渉してやる」と、〝交渉?〟と思わず首を傾げたくなる言葉を吐き、藤波もこの試合に向け「九州で試合をするのもこれが最後」と語るなど、2人の対戦はコミカルにヒート・アップしてきた。

蝶野戦が決まる以前の藤波引退が発表された直後では、藤波は引退ロードの対戦相手としてA猪木、長州、前田の名前を挙げている。猪木に対しては「やはり猪木さんだな」、「エキシビションでもいいからやりたいね」、「猪木vs滝沢君を見て）あの動きならまだまだやれる」と語り、前田に対しては「特に日明には、この傷の借りがあるからな」と言って右こめかみの傷をなでて笑ったという。指名した3人が、すべて引退した選手というドラゴンらしい人選に、昔の著書でライバルを聞かれ「日明かな」と、当時すでにUWFのカリスマ的エースとなった前田の名前を上げたときと同じドラゴン特有の寂しさを感じ、思わず首を傾げ、苦笑いした次第である。（どうせなら鶴田の名前も上げて欲しかった!）。

さらに、小川vs橋本の後には、その両者との対戦も要求。特に、小川戦は前記した前田戦を彷彿とさせ、ドラゴンた前田戦を彷彿とさせ、ドラゴン久々の「受け過ぎの試合」に期待が高まるばかりである。

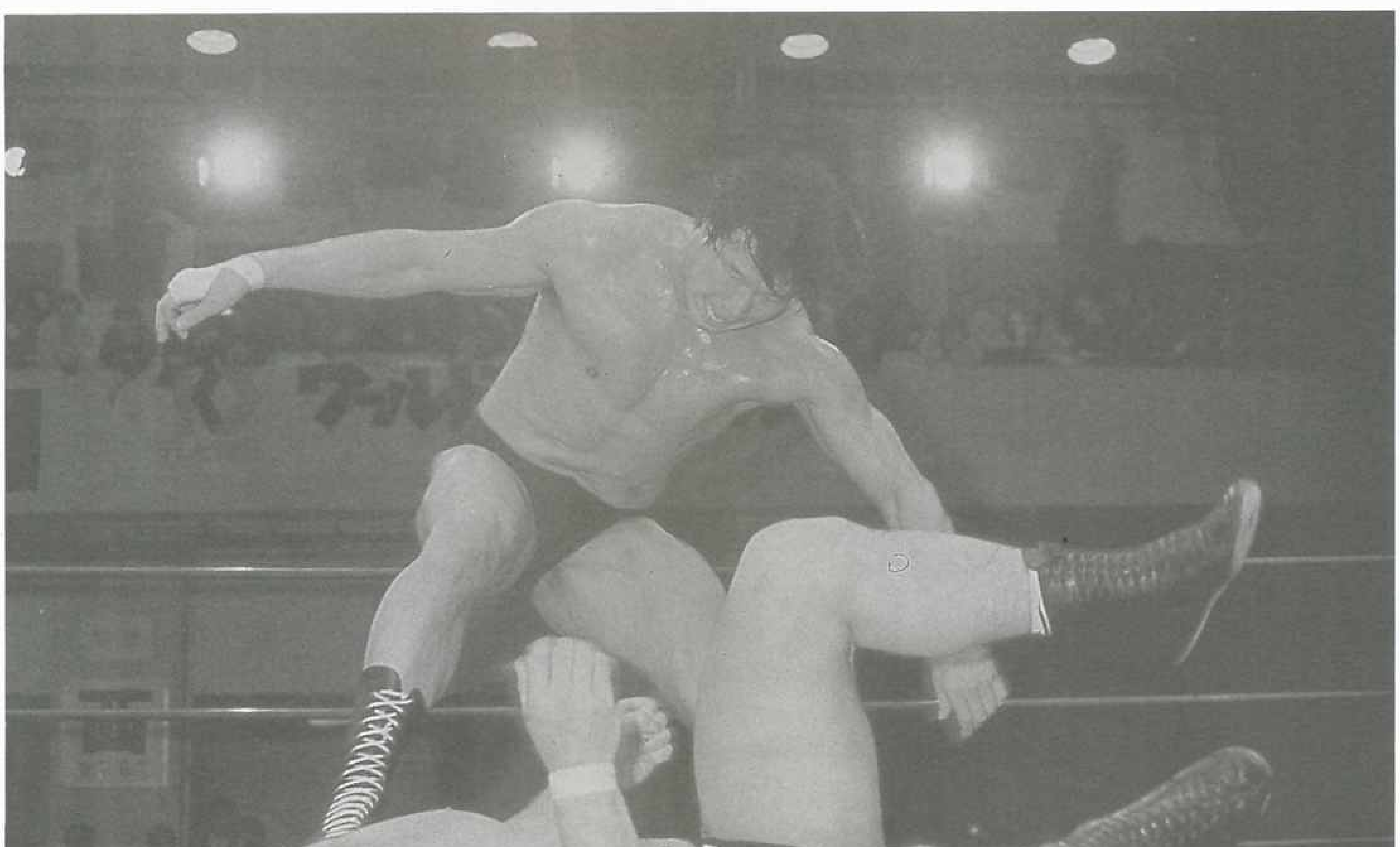
思えば2年前、長州、猪木、前田の同世代が次々と引退する中、またしても一人蚊帳の外で蚊に刺されまくってしまったドラゴンは「僕の引退試合は、どこかの地方の体育館でひっそりとやりたいですね」と語り、周囲を「スネんなよ……辰っつぁん」と心配させたものだった。それが今じゃこの盛り上がりよう、一応胸をホッとなで下ろした次第である。しかし、問題はコレっぽっちも解決していないのだ。誰がドラゴンの引退試合の相手をつとめるのだ! 指名した3人は、すでに引退。来年の5月を予定している引退試合に、小川、橋本、というワケにもいかない。では、誰が? 東京ドームを埋めるには誰が?


心配しないで欲しい、ちゃんと考えはある。藤波が「地方体育館で……」とスネたその日からズッと、藤波の対戦相手については考えてきた。それはズバリッ! 木村健悟である。さらに、負けた方が引退! それでもドームが埋まらなけりゃ、髪切りマッチもつけたる! どないだ!

「ドラゴン・スープレックス」で入場して来た藤波。顔には悲壮感が一杯だ。リング上で待ちかまえる健悟は、リングインしようとする藤波に、ロープを開けて出迎える。「お互い正々堂々いこうぜ」。健悟の無言のメッセージにニコッと応えて藤波がリングイン、と思いきや健悟はロープをシャットアウト。これには藤波もエキサイト。健悟につかみ掛かるも、これは試合前。レフェリーの山本小鉄が割って入る。

15分経過。藤波は場外。ドラゴン・ロケットの失敗で鼻を強打。ビックリしちゃうくらいの鼻血。多分、折れているだろう。フラフラとエプロンに上がり、左足を一歩リングの中に入れる。と、そのとき、その瞬間を待ちかまえていた健悟がエプロンの藤波にイナズマ! 左足を一歩入れたことが命取り、哀れドラゴンは場外に逆さ吊り! 腹筋を使って必死に起き上がろうともがくドラゴン。「バウ（1）、バウ（2）、バウ（3）」とその間にも、いつの間にかマイクを持った小鉄の場外カウントは続いている。よく見りゃ小鉄の野郎、上半身裸になっていやがる。「バウ（8）、バウ（9）、バウ（10）!」。小鉄がマイクをマットに叩きつけて、憮然とした表情で健悟腕を上げる。小踊りする健悟。エプロン・カウントアウト負け。この瞬間に藤波の引退が決定した。

引退セレモニー。花束贈呈。まず、前の試合で大仁田との電流爆破を行った長州が、頭に血が滲んだタオルを巻き付けて登場。前田はリングスUSA設立の仕事があり、渡米中のため欠席。そして最後は猪木。花束を渡し、しがみつくよう抱きついてくる涙だらけ、血だらけの藤波を軽くいなして、お気に入りのイタリア製スーツを守った後マイクを持つ猪木。「え～、藤波がまだ入門したばかりで丸坊主だったころ……」と始め、藤波の恥ずかしい過去を交えつつ、最後には豆腐パン、磁場エネルギーについて延々20分語った後、「行きますかァ～! 1、2、3、あっヨッショッ、ダァァァァァ!」。場内に響く、大音量の『炎のファイター』。長州に肩車された猪木を先頭に、越中に肩車された藤波が花道を引き上げる。それを観客がキョトンとした表情で見守る。オーロラ・ビジョンには、藤波のスマイルがアップに。どこか引きつりながらも、満面のドラゴン・スマイルが大写しに……。





村浜のプロレスラー転向は是か非か？

覚悟の叫びを聞けえええええ！

聞き手／大西タマリン
interview by Tamarin Onishi
撮影／NAHOMIX
photographs by Nahomix

村浜武洋

大阪プロレス恐るべし！　今や、関西地方でテレビをつけるとデルフィンやえべっさんがブラウン管をジャックしまくり、今年の1・4なみはやドームのテレビ中継は夜中というのにぶっちぎりの占拠率28％！　挙げ句の果てには邪道・大仁田厚にさえも「いま、おもしろい団体」といわしめたのだ。まさに、吉本新喜劇もビックリの大阪新文化に急成長なのである。

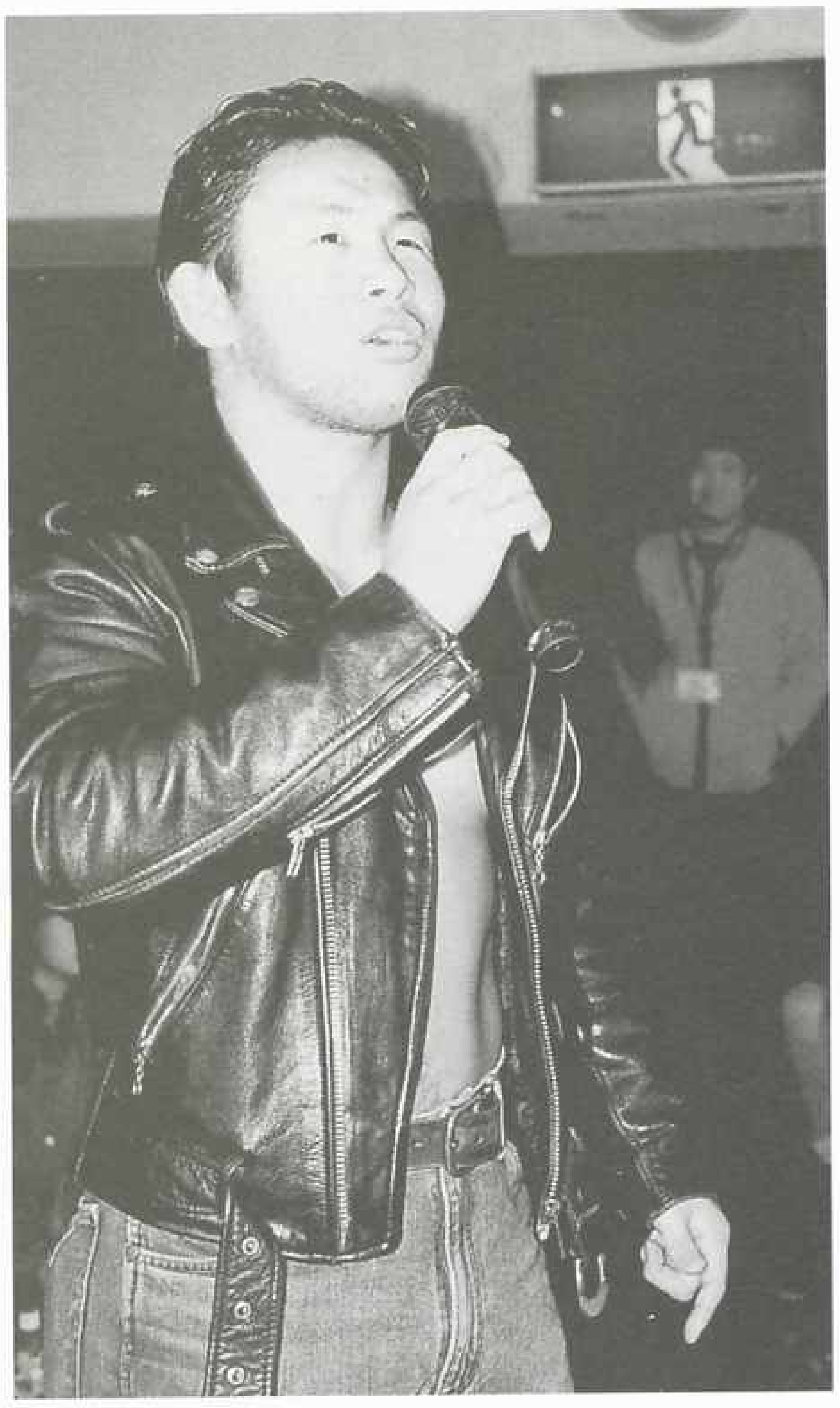
そのスペル・デルフィンの提唱する「楽しい」プロレスのなかに、なぜか元『K－1』ジャパン・フェザー級チャンピオンであり、誰もが認めるシュートボクシング（以下SB）のエースであった村浜武洋が参戦表明。そして、大阪プロレスが送り込んだ刺客をバッタバッタとなぎ倒し、遂に5・7大田区大会にて、デルフィンとの対戦まで昇りつめた！

というのが、いわゆるプロレス内プロレス絵巻。だが、本誌ではあえて大阪プロレス内の闘いではなく、過去の栄光をふっきり、プロレスのリングへ上がる村浜武洋という人物が、いま何を考えているのか？　これを追求することにした。

果たして村浜武洋がプロレスのリングに上がることは是か非か？　どっちだ!? ●

（インタビュー直前）今日は『紙プロ』っていうことで覚悟してきましたよ。

Takehiro MURAHAMA



4・2大阪大会で大王QUÄLLTがデルフィンにタイトル戦を要求し、メイン終わりでそれを飲んだデルフィン。そこで、突然「ちょっと、待ってくれよ〜」と乱入してきた村浜は「オイ、オイ！　デルフィンさんよぉ〜、大阪プロレスってタイトル戦やりたいって言うたらできるんかぁ？　くぅ〜、たまらんわ〜」とまさに、大仁田劇場ならぬ村浜劇場を繰り広げていた。これがバツグンにうまい！　おもしろい!!　間の取り方がサイコーです。

——昨日の試合（4・2大阪アムホール）を見たんですけど、マイクのうまさにビックリしました！

村浜　こっそり、車の中とかで練習してるんですわ（笑）。大仁田さんとか見て、「オイ、オイ！」ってオとイの感覚が2回目は短いんですよ！　そういうの研究して（笑）。

——だから、大仁田さんみたいに皮ジャン着用なんですか（笑）。でも、デルフィンさんに憎まれ口叩きまくって、かなりのヒールっぷりでしたね。

村浜　こ〜んな、いい兄ちゃんつかまえて、よう言うわ！（笑）。

——アハハハ。いい兄ちゃんをつかまえたので正直に言います。格闘技ファンは村浜さんが大阪プロレスに参戦していることを100％喜んでないと思うんですよ。

村浜　（あっさり）そうでしょうね。

——それで、村浜さんといえば「凄くて」「強くて」「面白い」格闘家だったわけじゃないですか。でもこのスタイルだったら、一番絶賛できる「強さ」っていう部分が見えないように思うんです。

村浜　う〜ん。大阪プロレスって強さを見せる団体ではないですからねぇ。基本的には何でもいいと思うんですけど、お客さんが「これ、面白かった」って納得してもらえればいいんですよ。

——その考え方って前からですか？

村浜　SBを辞めるにあたって結局はプロ競技ですから、お金払って見せ物にした時点で全てエンターテインメントなんですよ。「強けりゃいい」とか言う問題じゃなくて。そう考えると競技自体が面白くなかったらイカンのですわ。

——もちろん悩みに悩んだ挙げ句、辞めたわけですよね。

村浜　そうです。ノイローゼになりかけて、頭おかしくなりましたから（笑）。

——だから、SBっていう競技を確立しようとしてたのは、ファンじゃなくても感じとれてたと思うんですよ。

村浜　そうでしょ。闘う2人が勝つために最大限の努力をして、なおかつ、SBっていう競技が「面白かった」って思わせるようにしないとダメなんですよ。

——それが理想ですよね。

村浜　もう、あんまり20戦越えたらキャリアだけの試合をしたくなかったんです。そこから、悩んでしまって、だんだん団体側と亀裂が……こんなSBのことを考えてたのはボクだけだったと思いますよ。

——格闘技雑誌とかで、「好きで始めたことだから、嫌になったらイヤですから金もらうために仕事してると思えたらいい」って言ってましたよね。

村浜　あはは、子供みたい（笑）。

——だから、ノイローゼになるほど愛着があったSBを嫌になったから、お金でやれるプロレスの世界へ来たのかなって思ってしまうじゃないですか。

村浜　（あっさりと）それ、言われて間違いじゃないですからね。だから、格闘技で……（頭を抱えて）えぇ〜〜〜〜〜〜、だからうどん屋が（笑）。

——アハハハ！　田村（潔司）さんが乗り移りましたね（笑）。

村浜　あははは。団体に所属してると、正当なギャラが請求できなかったり、しちゃったりするんですよ（笑）。

——そうすると、ワンマッチ契約みたいなのだったらいいってことですよね。

村浜　それなら、どこの団体でもやりたいです！　結局、1試合1試合犠牲をともなうわけじゃないですか？　それだけのことをしているわけですから、正当なギャラを貰って仕事したいんです。でも、そういう仕事に格闘技はあんまりならないんですわ。……それが、辞めた理由です。わかりずらいですか？

——いやいや、わかりやすいですよ（笑）。今、SBという競技そのものには全然未練はないんですか？

村浜　いやぁ〜、今でもやりたいと思いますよ。ボク、好きになったもんはずぅ〜っと好きなんですよ。おねぇちゃんでもなんでも！　だから、好きは好きですがな（笑）。

——アハハハ！　そこで、これだけ格闘技雑誌の表紙を飾ったわけですし、格闘技側からすると大きなものを失ったと思うんですよね。

村浜　そうです。村浜武洋を失ったことは格闘技界の最大の損失ですね（笑）。

——それは誰もが感じていると思います！

村浜　もう、過去の自分というのには、折り合いついてますよ（キッパリ）。全然ふっきれてますがな。

――ス、スッキリしてますねぇ（笑）。では、強さを求めるっていう点ではどうなんですか？

村浜　強さちゅうのもまたこれ難しい話しで（笑）。ちょっと競技が違ったら全く違う競技になるでしょ？

――相手の土壌で勝ったら文句なしなんですけどね。

村浜　そういう中で闘っても、強さっていうのが明確に見えないんです。だから、何をもって強いとされるのか、ボクにはわからないですわ。

――もしかして、強いと思う人と闘う意志ってなくなってしまったんじゃないですか？

村浜　（すかさず）競技の中での話だったらありますよ！　それは、尼崎でミドル級最大に強い男と、今、毎週スパーリングやってるんで言えるんですけどね（笑）。

――格闘技をやる気はメチャクチャあるじゃないですか（笑）。そのミドル級最強戦士とは誰か教えていただきたいです。

村浜　内緒（笑）。だから、強い、弱いっていうのは（胸を押さえて）こっちの問題じゃないかなと。

――ハートの問題ですかぁ。

村浜　結局、本人がどの競技に価値を置いてるかってことが強さの基準なんですよ。（佐藤）ルミナとか桜井（速人）ってアブダビで負けたじゃないですか？　でも、「まぁ、ええわ。バーリ・トゥードで負けたわけじゃないし」ってなると思うんです。でもマチャドとか専門の人ってガックリくるでしょ。だから、別にどっちが強いんかなんて関係ないことなんですわ。長い格闘技人生でわかりました（笑）。

――アハハハ。それで、最後の試合（99・3・10 vs ダニー・スティール戦）でレガースを観客席へ投げたわけじゃないですか。ベストバウトと絶賛されてましたけど、あの試合が辞める決定打になったんですか？

村浜　あそこで、UWFのテーマが流れていたら完璧やったのに（笑）。

――アハハハ！　田村さんばりに。

村浜　そうそう（笑）。でも、周りの人には試合が決まる前から「次でもう辞めますわ」って言ってましたもん。

――そうなんですかぁ。その後、7月に辞めたことが発表されたんですけども。

村浜　本当はこの試合のあとすぐ辞めてたんですけど（笑）。それで、ちょっと放浪してたんです。東京にもいたくなかったし、格闘技も見たくなかったんです。

――なるほど。その約半年後に大阪プロレス参戦表明になりましたよね。村浜さんがプロレスファンというのは有名でしたけど、プロレスのリングに上がるってことは辞める時点で決めていたことなんですか？

村浜　……決めてはおりませんでした（笑）。

――はい（笑）。それは、いつ頃決めたんですか？

村浜　まあ、辞めてからですね。おぼろげには思ってたことは確かなんですけど、すぐ「じゃあ、そっち行こうか」っていうのはなかったです。

――そこで、決め手になったものがあるわけですよねぇ。

村浜　ボクはリングに上がりたいことは確かですから！　格闘技色の強い団体よりも、こういう団体のほうが自分の個性がでるかなぁと思ったんです。まぁデルフィンさんとは仲良かったので、「上がらせてもらいますわ」っていう。

――「楽しいプロレスが好きだ」って言ってましたし、全然毛色が違う大阪プロレスに参戦したのは理解できるんですよ。

村浜　格闘技のリングにも上がりたいのはやまやまなんですけどねぇ。でも、プロレス側はいいんですけど、いろいろ問題が生じまして……（※以下、問題を語りまくってくれましたが、爆弾発言続きのため大幅カット）

――村浜さんのなかでの理想の闘いについては、どう思ってるんですか？

村浜　だって、そんなん別に道場でやったらいいですやん！

――道場でやってることが、理想なんですかぁ。

村浜　まぁ、格闘技自体は大好きなんですけど……。

――では、大阪プロレスのリングに上がってみて「これを見せたい」っていうのはどんな感じなんですか？

村浜　う～～～～～～～～～～ん、また、これ難しい話や（笑）。

――ぶっちゃけた話、プロレスファンも格闘技ファンも、今の「ガチプロ」と呼ばれるような闘い方でプロレスのリングに上がる村浜さんって「何やってるねん」っていうのがあると思うんですよ。



見てみぃこの表紙！　田村潔司、村浜武洋、佐藤ルミナが表紙の『ゴング格闘技』を眺めるだけで、う～むと考えさせられてしまうじゃないか!?　ほぼ毎号、村浜記事は掲載されていた。やはり、格闘界にとっては貴重な存在であったのは間違いない。

村浜　まあまあまあ、正直言いますけど、ご飯食べれなかったらどんなきれい事言っても話にならないんですよ。じゃあ、オレに給料毎月50万くれるのなら、みんなの言うこと、望んでることなんでもやったりますよ！

――ちょっとお金持ちの人なら出してくれそうな金額なんですけどねぇ（笑）。

村浜　それがねぇ（笑）。だからメシ食っていくのがやっとぐらいやったら格闘技はできませんよ。それで、3ヶ月も4ヶ月も棒に振ることはしたくもないし。それだけのものを懸けれる価値が、ボクのなかでなくなってしまったんですわ。人間は進化する生き物なんです。

――でも、自分の闘いたい相手とだけやれるなら、お金なんてどうでもいいっていうことですよね。

村浜　もちろんです（キッパリ）。ノーギャラでやった試合もありますから！　本当に真剣にやろうと思えば、何でもやれますよ。格闘技で本気で勝とうと思ったら、どんな強い相手でも勝てますもん!!

――えっ⁉　誰でもですかぁ。

村浜　強い意志があれば、負ける要素がないんですよ。勝つ人と負ける人では100％の量が劣ってるんです。勝った人の勝ちたい量が多いんです。ずぅ〜と勝ちたいと思えば何連勝でもできますよ！

――じゃあ、SBで負けた試合は勝ちたい度数が相手に負けてたってことになりますよね。

村浜　そうですねぇ〜。やっぱり気持ちの問題ですよね。これ、一応言わしてもらいますけど、ボクSBルールで負けたことって1回もないですから！　SBの練習だけやっててムエタイに勝てるわけないんですよ。チェスやってて囲碁やるようなもんですから（笑）。でも、その当時はわからなかったんですわ。あははは！

――負けた試合はSBルールで認められた〝投げ〟がない試合ですもんね。そういう村浜さんの言葉を聞ける雑誌媒体がないっていうのは残念でしかたがないですね。

村浜　今は確かに、本音の部分を喋って、載せれるのはマジで『紙プロ』ぐらいしかないですよね。

――だから、大阪まで来たんです！（笑）。ほんと『格通』に載っていたインタビューって「ファンのニーズ」とか、「強いから何言ってもいい」っていう、小川直也選手のインタビュー読んでる感覚に近いですよね、発言が。

村浜　そうですよ。文句あるんやったらかかってきたらいいんですよ！　だから、ボクはちっちゃいオーちゃん！（笑）。

――アハハハハ！　実際、結果も出してましたね。そういうこと言える人ってあんまりいないですからね。

村浜　ただ、ボクはちっちゃいちゅうのが、大きなコンプレックスですから。もし、身長が10センチ1千万円で買えるなら借金して20センチ買って、その身長があれば、1年で返してやりますよ！　そのぐらいマット界動かす力と自信はありますから（キッパリ）。しかし、買えないんですわ〜。天はにぶつを与えずっちゅうもんです（笑）。

――そのコンプレックスが、村浜さんをここまで強くした一番の原因だと私は思いますよ！　だから、ヘビー級じゃなくてもマット界を激震させる土壌ってものを作る作業をしないといけないんですよね。

村浜　それには、やっぱりきっちりとした競技があって、ルールがあってってことに



日本キック界最強の男を決める闘い『K－1ジャパンフェザー級トーナメント』（97・11・9）。決勝戦では長年噛みつきまくっていた前田憲作と対戦するも文句なしの判定勝ち！　このトーナメントが始まる前から、「オレが勝つのは当然！」「興味ない」など、ビッグマウスぶりを発揮していたのだが、優勝が決定した瞬間、SBを背負っていた男の目に涙。場内から割れんばかりの大歓声が巻き起こった。



大阪プロレスデビュー戦（99・1・4）。ＳＢ時代のコスチューム（蝶野バージョン）で堂々と入場し、星川尚浩相手にスッキリＴＫＯ勝ち。ここから、大阪プロレスでの快進撃が始まり、今だ継続中。「『紙プロ』的じゃないですやん」という村浜。オイ、オイ、オイ！　村浜さんよぉ〜、オレはアンタとデルフィンの闘いが見たいんじゃあーーーーッ！

なりますからね。

——とりあえず、ちっちゃいオーちゃんとしては大田区のデルフィン戦までに襲撃する勢いで（笑）。実は、1・4裏ドームと言われていた〝なみはやドーム〟でのデビュー戦も見たんですよ。それで、大阪プロレスにどうやってとけ込んでいくのかなぁっていうのがあったんです。

村浜　とけこめないですもん！　一応、ボクは格闘素浪人ですから（笑）。でも、デビュー戦はマジメすぎましたね。

——やっぱり、大阪プロレスの華やかな楽しさに、村浜さんの強さの部分を入れようとしたデルフィンさんって凄いと思うんですよ！　でも、定期参戦するようになると、いずれはエンターテイメント性の高いプロレスをやられるのかなぁ〜なんて漠然と想像していたわけです。

村浜　ハッキリ言って、格闘技やるのは来年いっぱいぐらいと考えてますから。

——それは年齢ということですか？

村浜　もう、年です（笑）。

——まだ、今年の誕生日がきても26歳ですよ！

村浜　いやいや、もう来年27歳ですよ！　ボチボチね。ボク一生この世界で食っていく気ないですもん！（笑）。

——えっ!?　マット界ってことでですか？

村浜　そうで〜す。一生ですよ！　60、70歳までですよ。食えるかっちゅうねん!!　聞きたいわ〜、逆に（笑）。

——それこそ、意志の問題ということで。

村浜　松永（光弘）さんのデンジャーみたいなのとか（笑）。

——アハハハ！　カブキさんのちゃんこ屋さんとか。

村浜　あははは。いやいや、あの〜、プロレスの世界で70歳まで食えるんやったらやりたいですよ！　でもあんまり、どっぷりこの世界につかるのがイヤなんです。片足くらいにしときたいなぁ〜（笑）。

——そんなもう、どっぷりつかってますよ。長い格闘家人生過ごしてるのに（笑）。

村浜　この業界、水商売ですから！　うちのおとん公務員なんで（笑）。

——アハハハハ！　堅実さが一番ってことですかぁ。格闘家としての夢とかないんですか？

村浜　その夢がこの2〜3年で狂いっぱなしですわ（笑）。

——なるほど！　今は暗中模索状態ってことですね。

村浜　まぁ、今は人生において「強くて」「凄くて」「面白い」を目指してますから！

——素晴らしいです！　そういえば、話題騒然だった（『紙プロNO・8』の村浜インタビューを見せて）これって今読んでどう思いますか？

村浜　あっ、懐かしい！　……ガチプロ発言ですか（笑）。

——はい（笑）。村浜さんの中ではUWF系からの流れがガチプロってことなんでしょうけど。

村浜　ボクはガチプロが嫌いというよりも、オモロないことが嫌いなんです。オモロかったら、なにしてもいいんですよ！　この時はガチプロがオモロなかったんですわ。

——でも今度、その村浜さんの言うUWF系のキングダム（・エルガイツ）へ出場されるわけですよね。

村浜　今もオモロイって言えるところはナイと思いますけど……「オモロかったらいいなぁ〜」と思って（笑）。

——アハハハ！　この号の発売日（4・22）に試合なんですけど、対戦相手が今、インディー界では引っ張りダコのタノムサク鳥羽選手なんですよね。

村浜　あっ、そうなんですか!?　へぇ〜〜。……知らんかった。

——き、興味なさそうですねぇ（笑）。全然、相手のことは気にしてないんですか？

村浜　気にしません（キッパリ）。

——キングダムルールなんですよね。

村浜　知らないで〜す（笑）。

——ホント、全く興味ないんですねぇ。

村浜　あ〜〜んな、薄っぺらいグローブでボクが殴っちゃってもいいんですか？　一発当たったら「死にまっせ、アンタ！」って感じ（笑）。でも、何でもいいんです。お客さんが喜べば！

——間違いなく一発ぐらいは当たると思いますけど（笑）。それで、今、参戦している大阪プロレスで、トップになってやろう！　という意思はないんですか？

村浜　あんまりないですねぇ。その日、「一番面白かった」って言わせるような試合をしてやる！　とは思いますよ。

——まぁ、あのルールで一番うけるのは大阪プロレスのリングでは難しいですよね。

村浜　これが、もう1つなんですねぇ笑）。でも、マイクで頑張ってますから！

——だから、今の村浜さんの面白さっていうのは見ないとわからないというのが辛いですね。

村浜　見てもオモロないっていうかもしれないですけど（笑）。

——問題ないですよ！　そこで、考える人としてはオモロないって言わせない方法っていうのはないんですか？

村浜　思案中です（笑）。でも、マット界をオモロくしようとする練習はメチャクチャしてますよ！

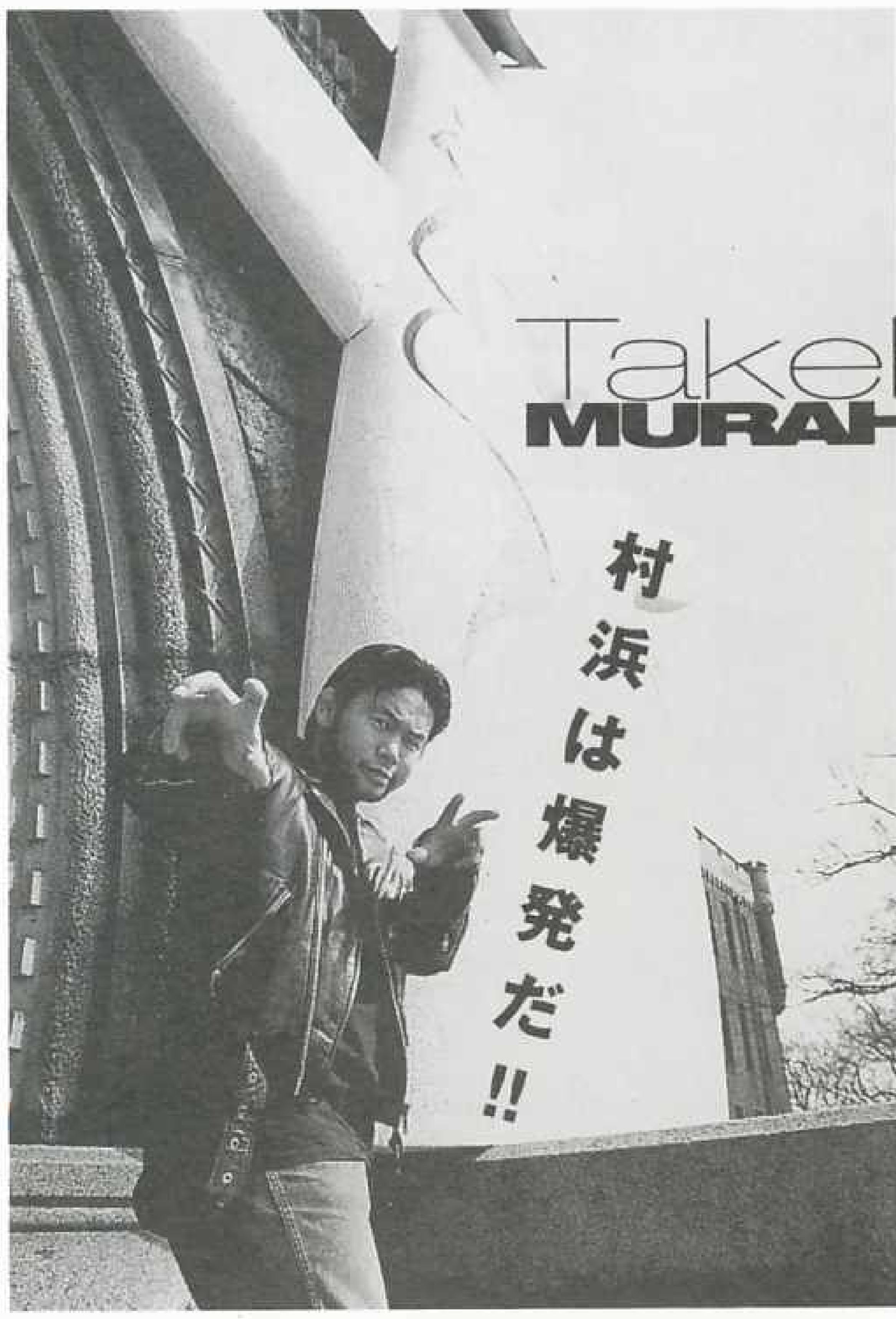
——そういえば大田区で「プロレスラーが弱いっていうのを見せてやる」って言って

マット界を面白くしようとする練習はメチャクチャしてますよ!

ますけど。

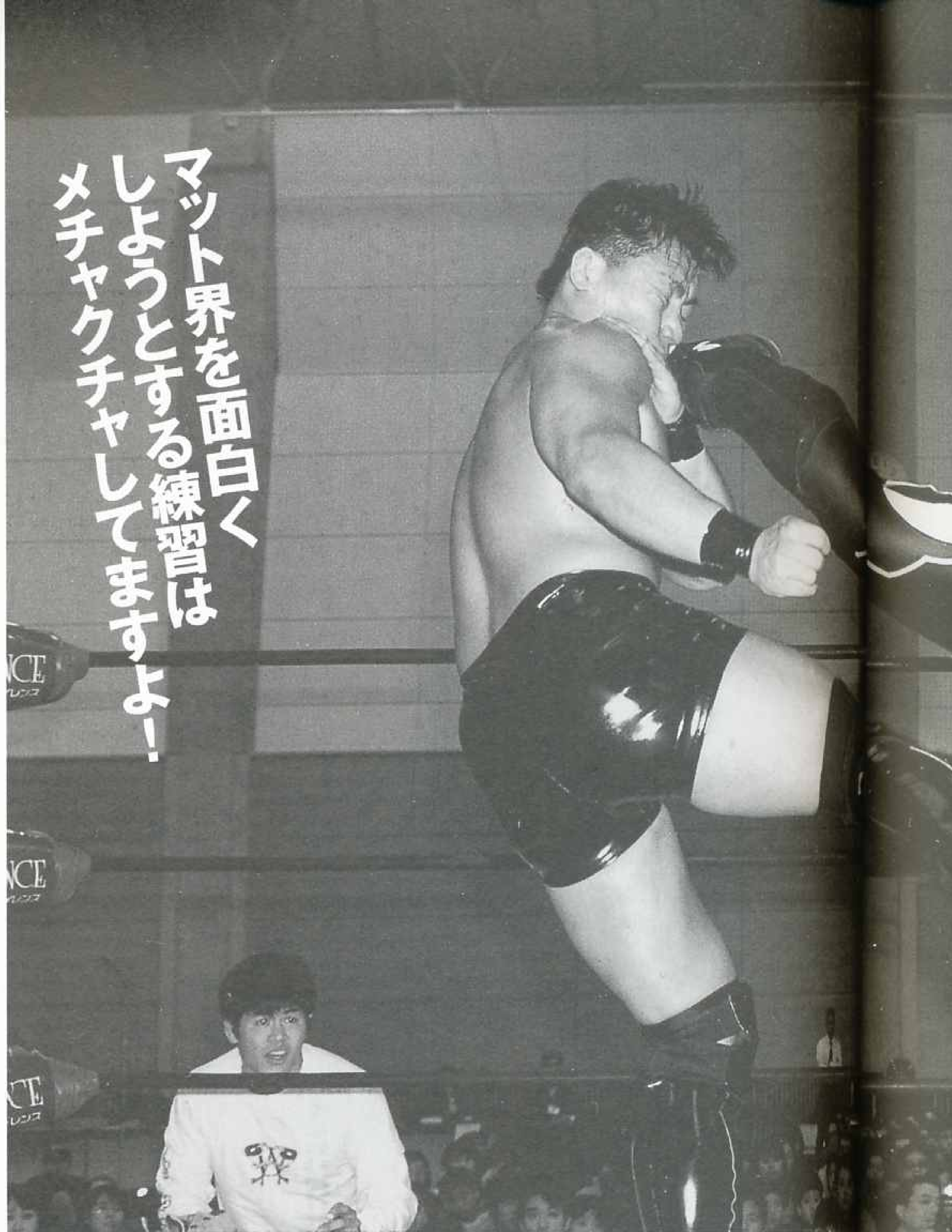
村浜　『紙プロ』向きではないですよね(笑)。それこそ、オモロないって言われる話ですよ!

——なっ、なに言ってるんですか(笑)。だから、こんな実績のある人が、今、ポンとプロレスのリングにいて、ちょっと見えにくい存在ですよね。それで、いいのかなぁって思うんですよねぇ。



Takehiro
MURAHAMA

むらはまたけひろ■1974年12月5日生まれ。石川県出身。身長163センチ、体重70キロ。SB戦績22戦(9KO)5敗。SBデビュー1年目にしてカーディナル級王者となり、KICk世界フェザー級王者、K-1ジャパン・フェザー級優勝という数々のタイトルを奪取。誰もが認めるSBのエースであった。99年3月10日の試合を最後にSBのリングから姿を消し、今年1月大阪プロレスのリングに立つ。只今、藤波社長にも負けない勢いの城マニア(城歴半年)。(※ちっちゃい太陽の塔の前にて撮影)



村浜　そんなことありませ〜ん(笑)。え〜〜〜っ、格闘技側の人が、例えばマーク・コールマンとかってWWF行くという話になるじゃないですか? そうしたら、「なんや! コールマン、格闘技しんどいからってプロレスに行きやがって」って言うでしょ? その考えそのものがハッキリ言って間違いなんです!

——どうしてですか?

村浜　それってコールマンが悪いわけじゃなくて、コールマンを食べさせてあげない格闘技側全てが悪いんですよ。逆に言うと、食べさせれるプロレスがえらいんです!

——ということは、どっちの世界でも活躍する人になるべきですね。

村浜　まぁ、理想はちっちゃいアレク選手ですけど、ほどほどに(笑)。ハッキリ言って、そこまで打ち込める魅力が欲しいですよ。どっちにも。

——悩みすぎて、ちょっと疲れてしまったんですかぁ(笑)。

村浜　あ〜、アホやったらなぁ〜ボクって思いますわ(笑)。

——アハハハハ! 賢くなってマット界のいろんなことがわかっちゃったぁ〜って感じなんですね。

村浜　格闘技時代に悩んでて「なんで、オレ納得した試合ができないのやろう?」って考えてたら、バブルの崩壊から株価の上昇、下落の方式までわかってきましたからね(笑)。

——アハハ。えらい難しいことまで考えましたね。

村浜　考えました(笑)。勝とうと思ったら、なんかヒントになるようなことでも勉強して賢くなる努力をしないといけないんです。じゃないと強くならないですよ!

——確かに、当たり前なんですけど、強い人は本当に頭がいいですから。

村浜　そうです。でも、本当は格闘技もやりたいですよ!

——まぁ、村浜さんがなんでも、上手い具合に一枚噛んだらキーマンになり得ると思うんですけどね。

村浜　上手く使ってくださ〜い(笑)。でも、ボクの場合ガチガチの格闘技やれって言われるのが大半なんでしょうね。

——それこそ、今の村浜さんだったら、そうじゃなくてもいいと思うんですよ。今だからこそ自由に動けますし、何でもできるはずです。

村浜　そうでしょ! 結局、だから、ボクは何でもいいから、面白いことをやればいいんですわ。

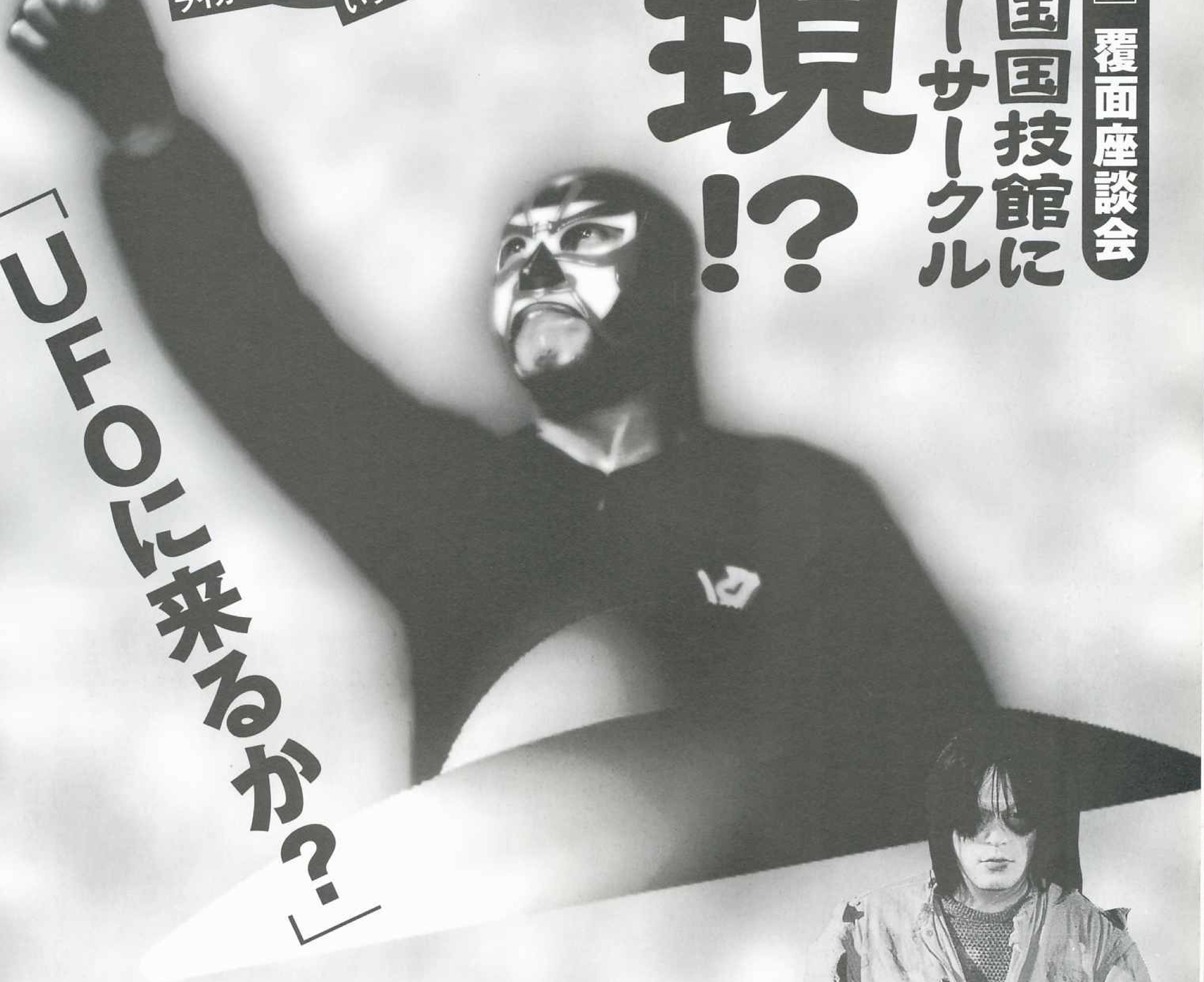
【4月3日　大阪城近くにある『カンテG』にて収録】

『J－CUP』覆面座談会

4・9両国国技館にミステリーサークル出現!?



ライガーさ～ん。いってらっしゃ～い!



「UFOに来るか?」



ついに、師匠を越えた!!

ジュニアの大祭典『J－CUP3rdSTAGE』開催! そりゃ盛り上がりまくりました。と豪語したかったが、実に寂しい客入り状況。なんてこったい、イカーン! 実にイカン。この現状を探るべく、ジュニアを愛する人物たちによる覆面座談会を緊急決行!! この複雑怪奇な現象に乗り遅れないようについてくるべし。えっ!?あ、あれは何だ? UFOだぁーーーッ!

本文構成／恒遠“おりこうさん”聖文
interview by Kiyohumi Tsunetou

構成／大西タマリン（サスケ組）
interview by Tamarin Onishi

撮影／NAHOMIX
photographs by Nahomix

試合写真／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku



頭の中は真っ白

ツネ　オイーーッス！　今日は、中立な立場のオレが（タマリンはサスケ組なので）司会をやらせてもらうよ！　よ〜しいいか？　ということで、J―POP、J文学、Jコミック、J太郎（お約束）と「J、J、J、世の中Jばかりだ！」ってな風潮のなかで、今回の『J―CUP』は、ちょっと寂しい客の入りだったよな。

タマリン　サスケ社長曰く『ミステリー・サークル』状に客が入ってなかったもんね（笑）。でも、凄くおもしろかったよね？

エミ　楽しかったでぇ〜す‼

ツネ　確かにおもしろかったけど、それが実際に観に行った人にしか伝わんないってのは残念だよな…俺も観る前までは、出場メンツ見て全く興味が沸かなかったもん。でも、今は次回も観に行きたいと思ってるよ。まぁ、というわけで、『J―CUP』のおもしろさ、ジュニアの未来はどうなるかを考えていくJ！

●測定不可のおもしろさ

ツネ　じゃあ、アミーゴたち！　それぞれ今回の『J―CUP』で気になった選手を教えてくれよ！

エミ　私は断然、怨霊ですぅうう。怨霊、超イイー！　キャハハハハ‼

タマリン　両国のベストバウトは〝怨霊vsCIMA〟って声は多いし、確かに怨霊は最初から最後までキャラを貫き通してよかったけど、どこがそんなに良かった？

エミ　えっ〜、アタシわかんな〜い。

ツネ　わかんないじゃねぇよ！　クレーロス（馬鹿野郎）‼

エミ　ごめんなさぁ〜い（泣）。だって、とにかく投げられたら白いパウダーが飛び散るしぃ、メイクもムタみたいに剥がれたりしないしぃ、最後の記念撮影で、みんな『J―CUP』Tシャツ着てるのに、怨霊は（Tシャツを）口にくわえてて、怨霊っぽ〜い！　怨霊サイコー‼

ツネ　なるほど。白いパウダーが飛び散るのはマミーみたいだったな。確かに怨霊は、真の意味での怪奇派レスラーが不在の現代マット界において、正統派の怪奇性と国際プロレス的なうさん臭さを持ち合わせてた点で魅力的だったな。

エミ　でも、『週プロ』の選手名鑑には、好きな有名人『青木裕子』とか書いてるの〜（笑）。超オチャメ♥キャハハハ！

ツネ　ガハハハハハ！　おもしれぇな、怨霊！

エミ　でも、怨霊はドームとかに出ても全然大丈夫！　超OK‼

タマリン　ドームの大掛かりな演出にも耐えれるキャラだよね。怨霊は勝っても負けても誰と闘ったとしても、光る選手だったよ。

ツネ　そうなんだよ！　最近のプロレスは勝敗重視なとこがあるじゃない？『PRIDE』しかり…。

勝敗抜きにしても楽しめる選手が『J―CUP』には何人も出場してたんだよ！

タマリン　小川VS橋本しかりね。

ツネ　そう！　でもね、勝敗抜きにしても楽しめる選手が、この『J―CUP』には何人か出場してたんだよ！

エミ　それが、怨霊！　キャーッ‼（パチパチパチ）

ツネ　そうそう、怨霊の実力なんか測定不可だろ？　測定しようとするほうが、ナンセンスだし。

タマリン　実力どころか、体重も測定不可（笑）。

エミ　不可じゃないですよぉ〜、体重0キロ、超痩せてるぅ〜！

タマリン　痩せすぎて実体がない（笑）。測定不可だけど、いいキャラ出してた怨霊と、測定不可だけど、ウルトラC級に飛びまくって観客を驚かせまくってたリッキー・マルビン。

ツネ　勝敗抜きに、かわいかったしな（笑）。タマリンは誰が良かった？

タマリン　やっぱり、準優勝したCIMAかな。

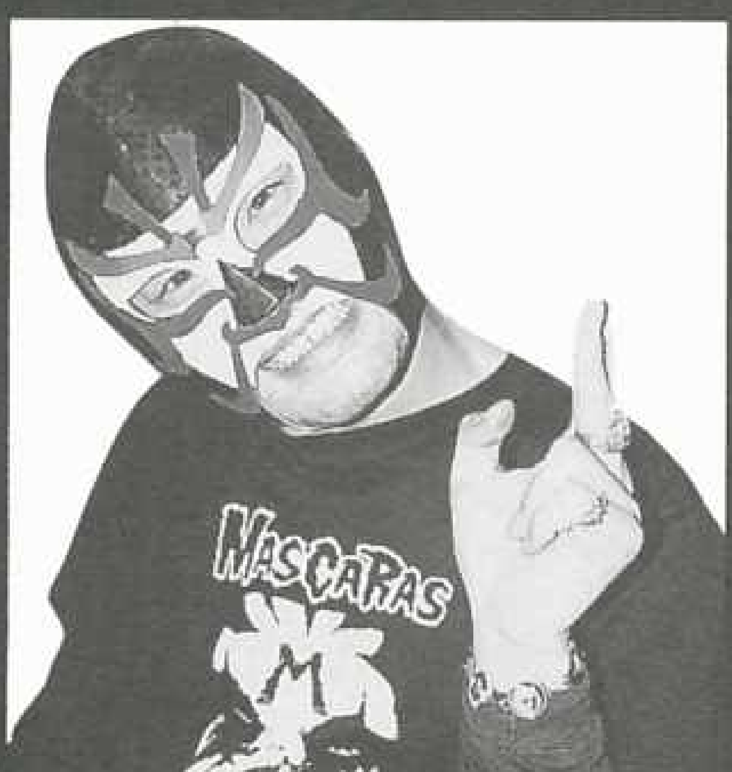
ツネ　CIMAは一番人気だったけど、どこがそんなによかった？

タマリン　でも、CIMAって疑われが

覆面座談会出席者



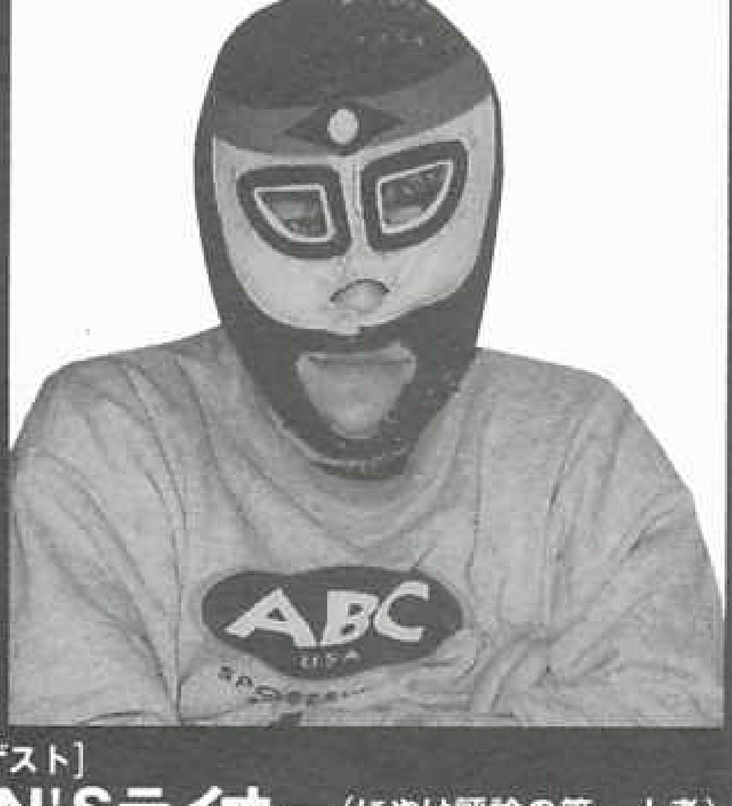
タイガー・タマリン（サスケ組）
取材キャリア約1年。本誌編集部所属。根っからのサスケ組。幼少のころ実妹キモ（本誌20号参照）を木琴のバチで殴り、救急車送りにしたり、ムカつく輩に木靴（ヒール7cm）でローキックを放ち、骨折させたりするエセ武道家。



マスク・ド・ツネ（激辛マスク・ド・ライター）
取材キャリアなし。本誌（言うだけ）助っ人兼自称・天才ライター。たまに編集部に来ては、手伝いもせずに寝て帰る失礼な男。師匠の吉田豪を見習って、プロレス会場には滅多に行かず、金髪と毒舌に磨きをかける毎日。



（ビッグ）マグナム・エミ（戦慄の個性派女優）
取材キャリアなし。本名いずみちゃん。本誌広告営業のよく笑い、なんにでも感動する女の子。好きな団体は大日本プロレスであるため、『J－CUP』にはMEN'Sテイオーの応援にきたが怨霊にすっかり取り憑かれてしまった模様。



［特別ゲスト］
GUN'Sテイオー（にやけ評論の第一人者）
寝ても覚めても100万ドルの笑顔を欠かさない本誌大型新人。選手の身長・体重までも暗唱してしまうプロレス知識には脱帽だが、入稿明けでクタクタでKO寸前にも拘わらず、翌朝、大阪まで女に会いに行く体力にも脱帽。

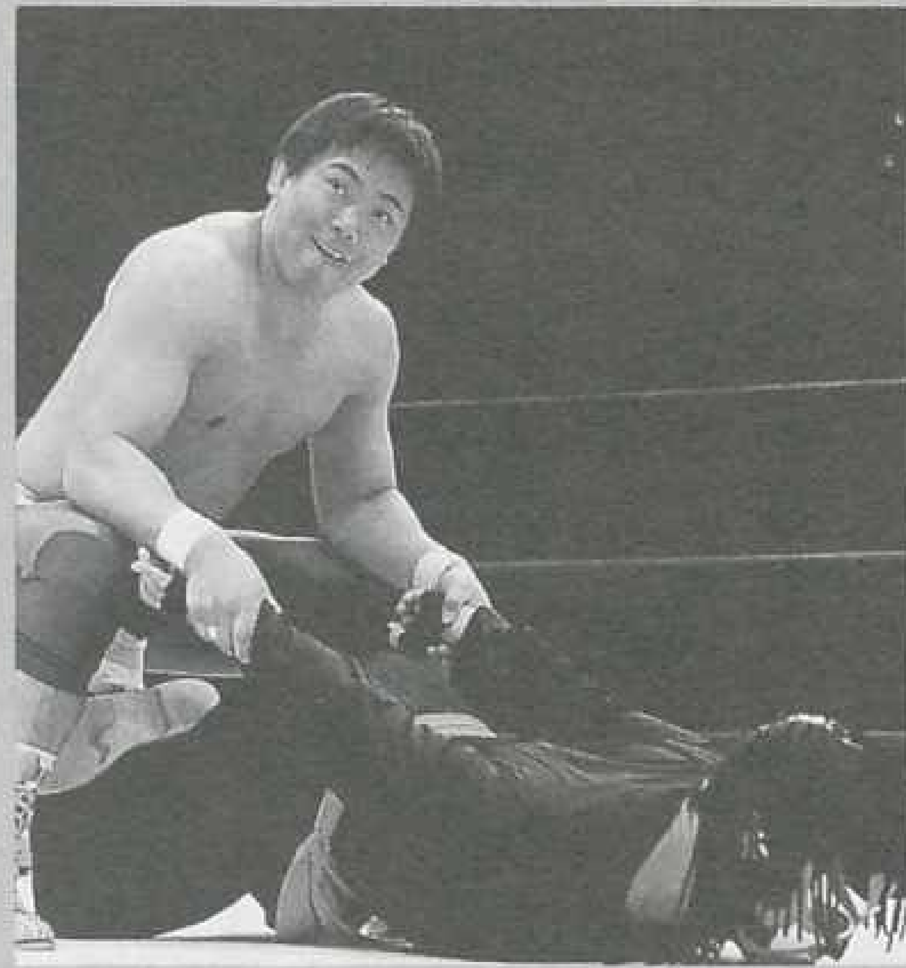
『J-CUP』トーナメント両国ダイジェスト



［第1試合］
CIMAvs怨霊
怪奇の園へようこそ。動くたびに蔓延する白粉が、エクトプラズムに見える。そして動きも素晴らしい！ だが、天才の前に惜しくも霊魂と化する。サスケ曰く"熱い風"と"冷たい風"が吹き荒れた第1試合。見事にお客さんの心をヒートアップさせた！



［第2試合］
グラン浜田vsリッキー・フジ
若菜瀬菜を引き連れ、悠々自適に入場する（歌いながら）リッキーに比べ浜田親子はハウンドドックよろしく、男気十分。エンターテインメントというカテゴリーの中で流派の違いがくっきり別れてしまった。しかし、50歳目前にしてグラン恐るべし！



［第3試合］
ザ・グレート・サスケvs佐野なおき
佐野は手品師なのだ。地味なトランプ手品をみせたかと思えば、突然鳩を飛ばしてみたり、とにかく目が離せない。この、ジュニアの祭典で唯一、じっくり試合観戦をさせた佐野のいぶし銀っぷり、それを受けるサスケの懐の深さに完敗。



［第4試合］
獣神サンダーライガーvsMEN'Sテイオー
この2人、入場が沸きに湧いた。『ギャラクシーエクスプレス』テイオーは『怒りの獣神』ライガーに、みちのく→WWF→大日本、そして海援隊魂を見せつけた。だが、ジュニアの枠越えを高らかに謳う獣の神に、帝王学くずれさる。

ちな選手なんですよ。

ツネ どういうこと？

タマリン ビジュアルだけが先行しているから。

ツネ まぁ、そうだよね。

タマリン まず、このキャリアにして、このプロレス・センスは凄い！っていうことを見て欲しいよね。華があるし。それで、新日の永島取締役が「重大発表があります！」と記者会見して、みんな、「なんだ？」と思ったら「遂に！ 福岡ドームにC―MAXが参戦します」って言っただけのことはあるんだから（笑）。

ツネ それも、橋本引退問題の真っ只中でね（笑）。

タマリン ともかく、『J―CUP』第一回大会のサスケ社長の役割をCIMAがやってくれたよねぇ。

ツネ CIMAって、生で観たのは初めてだったんだけど、もっとマイクで喋るのかと思ってたよ。

タマリン いつもは、喋り倒しですよ。でも、今回マイク・アピールって、大会を通してほとんどなかったよね。

ツネ そうだな。リッキー・フジくらいだったな。

タマリン あれ、歌じゃん（笑）。だから、マイク・アピールで説明しなくても、CIMAが闘龍門を背負ってることは、よくわかったし。

エミ アタシにもわかったぁ〜！

ジュニアに必要なのは「目を覚ましてくださ〜い！」的なインパクトなんだ!!

●Jの未来とは、J王国建設か？

ツネ 『J―CUP』の定番は、未知のスターの台頭と、大番狂わせだよな。今回で言うと、大番狂わせは佐野（なおき）にCIMAが勝ったことになるのかな？

タマリン 佐野が出たことで幅が広がったよね。

エミ 佐野さんも超カッコイイー♥

タマリン 確かにあのいぶし銀っぷりはかっこいい（笑）。

ツネ バツグンにかっこいいよ（笑）。俺はVIVA佐野だよ（笑）。佐野も誰と闘っても面白い選手だよな。J時代の藤波（辰爾）を彷彿させたし、対戦したサスケもメキシコから来た刺客というか未知の強豪みたいな感があって、それも良かったし。それで気づいたんだけど、今、〝ルチャ幻想〟とか〝マスクマン幻想〟って、薄れてきたんだよ。

エミ よく、わかんなぁ〜い。どういうことですかぁ〜？

ツネ 初代タイガーマスクと闘ったエル・カネックとか、ルチャじゃないけど、猪木と闘ったマスクド・スーパー・スターとかって、なんか不気味な強さを兼ね備えてそうな気がしたじゃない？ あの、ウルトラマンでさえ、そんな気がしたねぇ。それは、新間寿や梶原一騎のおかげかもしれないけど…。最近、新日に来てるドクトル・ワグナーJrとかには、それを感じないしなぁ…。

タマリン やっぱり、リアリティーが求められてるんだろうねぇ。あと、みちのく主催だからこそ、大阪プロレスが必要だった。そこで、スキャンダル効果も出ただろうし。

ツネ それが、客入りにも関係してるのかな？ この、現状から打破してジュニアというジャンルを確立し、新たなジュニア・ブームを作るには、ヘビー級やヘビー級的な闘い、格闘技的な闘いとは交わらず、全日的なジュニア王国を建設するしかないよな。ライガーという常勝チャンピオンがいて、それに打ち勝つまでのドラマを作っていくというか。

エミ でも、ライガー優勝って、アタシつまんなぁい〜！

ツネ あっ、言っちゃった（笑）。

タマリン 本人も「みんなライガーが優勝してつまんないと思ってるんだろうけど」とか言ってたし（笑）。

ツネ じゃあ、ライガーだけは『対ヘビー』でがんばってもらおう！（笑）あと、思ったのは、誰も誰かに期待してない、期待出来ないような感じはしたよな。だから、怨霊とかノー・マークの選手が意外性もあって光ったんだろうし……。

タマリン それと、小川vs橋本戦みたいなのは人間くさいから身近に感じるし、肩入れし易いけど…あぁいう、ジュニアの飛んだり跳ねたりする試合を楽しめる余裕はないのかなぁ……。

ツネ う〜ん……（悩む）。

タマリン う〜ん……（悩む）。

エミ キャハハハ。何、悩んでるのぉ〜？『J―CUP』楽しかったんだから、そんなに暗くなっちゃダメェ〜！

（突然） ダメだぁ――ッ！

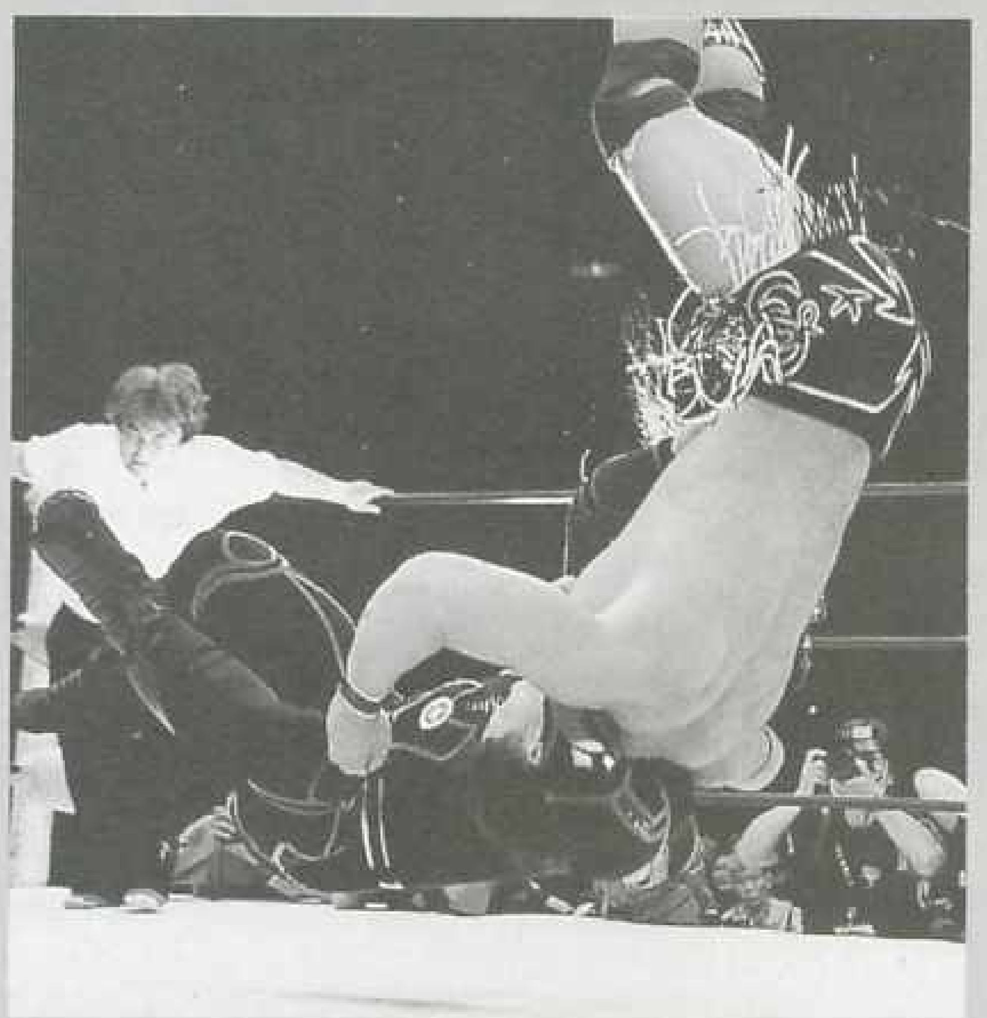
（どこからともなく、謎のマスクマン登場！）

謎のマスクマン ダメだ、ダメだ、ダメだ



［特別試合］
タイガーマスク、田中稔、望月成晃、真壁伸也、リッキー・マルビン
vs
ケンドー、カシン、エル・サムライ、SUWA、、チャビンガー、スパー・ボーイ

チャビンガー＆カシンのちゃぶだい劇場から始まった（カシンがちゃぶだいを星一徹のごとく蹴りあげる）この10人タッグ。それぞれの個性と闘いが見れたのだが、大注目は初来日のリッキー・マルビン。このおこちゃまフェイスからは想像を絶する飛び技に、目ん玉もポロンと落ちそうな勢いであった。是非、ダッコＣＨＡＮとの対決が見たいデス。



［優勝決定戦］
獣神サンダーライガーvsCIMA

「別にライガーて言うたって、緊張することはなかった」というＣＩＭＡ。今回、お得意のマイクも、笑いも一切なしで挑んだ『Ｊ－ＣＵＰ』。全力で体当たりしていったのだが、キャリア及ばずという感じである。



［第5試合］
ＣＩＭＡvs佐野なおき

佐野がマッドスプラッシュ、アイコノクラズム、ビーナスの餌食になっていることだけで文句なし！ 新旧技の公開場となったのだが、佐野は誰と闘っても素晴らしい！ 全力を使い果たしたＣＩＭＡ曰く「佐野さんに勝ったんは、奇跡！」とのこと。



［第6試合］
獣神サンダーライガーvsグラン浜田

今までの試合とはうって変わって、小さな巨人が鬼形相です。試合後ライガーは「浜田さん、はもう、しつこいよ（笑）。本当に勝ててよかった」と言うように苦戦したのは間違いない。まだまだ、グラン浜田プロレスラー生活続行ーーッ！

——ッ！ 『Ｊ—ＣＵＰ』なんてダメなんだぁああああ‼

エミ アンタ、だぁれ？

謎のマスクマン こんにちは。格闘仮面ＧＵＮＴ.Ｓテイオーです。（ニヤニヤ）

ツネ なんだよ、急に！ 『Ｊ—ＣＵＰ』のどこが、ダメなんだよ？

G・T 『Ｊ—ＣＵＰ』には、プロレスに不可欠な〝せめぎ合い〟がなかったんだ！（ニヤニヤ）

ツネ なるほどな。じゃあ〝強さ〟はジュニアにも必要ってことか？

G・T いや、さっきから聞いてたら「勝敗を越えたおもしろさ」とか言ってるけど、あまりにも勝敗に関係なかったし、執念も見えなかったんだ。（ニヤニヤ）

ツネ ニヤニヤしてるくせして、いいこというな。

タマリン 確かに勝利への執念を感じさせたのは、グラン浜田くらいだったねぇ。

G・T 一回戦はバラエティーがあるのはいいけど、上に登っていったら、そういう〝せめぎ合い〟がないとダメだ！（ニヤニヤ）ダイナマイト・キッドにもクリス・ベノワにはそれがあったんだぁああ！（ニヤニヤ）

ツネ なんだよ、ニヤニヤしやがって！

タマリン それも、サスケ社長ばりの作られた笑顔で！ でも、トーナメントってどれもそうなるんじゃない？

G・T ズバリ言って、闘いを求めるファンのニーズに応えてないのだ！（ニヤニヤ）だから、ジュニアに必要なのは全日的な王国建設じゃなくて、「目を覚ましてくださ〜い！」的なインパクトなんだ（ニヤニヤ）。じゃないと、ジュニアも、『Ｊ—ＣＵＰ』も、サスケもダメ…（突如、Ｇ・Ｔが消える）

ツネ あっ、消えた！

エミ キャーッ！ こわぁ〜い‼

※そのとき、突如、三人の頭上に発光する飛行物体が出現！

エミ キャーッ！ なんか光ってるぅ〜。

タマリン あっ！ ＵＦＯだ‼

ツネ ＯＶＮＩだ！

ＵＦＯからの声 「ジュニアの未来は俺に任せていればダイジョ〜ブ！ ＣＩＭＡも怨霊も佐野さんも、オレのＵＦＯに乗ればいいんです！ 21世紀のジュニアは団体も勝敗も越えて、飛びまくりますよォ〜！ ガハハハハ‼」（一瞬にしてＵＦＯが消え去っていった）

エミ あっ！ 消えちゃったぁ……。

タマリン なんだか、サスケ社長の声に似てたけど……。

ツネ ……まぁ、結局のところジュニアの未来は、サスケ社長にかかってるようだな。

タマリン モチのロン！（笑）。まだまだ、サスケ社長にはもっと飛びまくってもらわないとね。

ツネ 肉体的にも思考的にもね（笑）。

エミ あっ、私そろそろ帰るぅ〜。怨霊フィギュア買いにいかなくちゃ。

ツネ な、なんだとぉ！ まぁ、とにかく、俺的には、今回の『Ｊ—ＣＵＰ』には、新日から藤波とＡＫＩＲＡと小林邦昭とヒロ斎藤が出て欲しかったってことかな。

タマリン 試合前から、そればっかり‼

ツネ だって、怨霊vs藤波社長とか観たいだろ？

エミ そんなの観たくなぁ〜い！

ツネ うるせえなぁ！ それで、藤波社長は持病の腰痛を、もう1度心霊治療してもらうんだよ‼

このままフェードアウトか？
サスケーーッ‼



ザ・グレート・サスケ

また、『紙プロ』さんスクープですよォ〜！（しばらく手を叩いて1人で大爆笑）ＵＦＯが飛来するというあの予言は本当だったんです。あっ⁉ ＵＦＯというよりも、これはミステリーサークル！ お客さんがキレイに螺旋状にくり抜かれてしまったというね。ガハハハハハ！ そうかぁ、実はお客さんがさらわれちゃったんだなぁ〜〜、これ（笑）。なんかさ、大仁田さんが「ジュニアは時代じゃない」って言ってるらしいけど、とんでもない！ わかってない‼ こりゃ、オレが大仁田バンドでキーボード弾いてやるしかないな（笑）。う〜〜ん、仙台と今日だけどさ、まぁ選手も頑張ったけど、お客さんも頑張ったなぁ〜（笑）。でも、本当にジュニアヘビーを好きで楽しんでくれてるからさ、嬉しいですよねぇ。オレは、いち早く負けちゃったけどね（笑）。もう、今までどこに隠れてたんだ、佐野！ 今、来たか、佐野！（笑）。ガハハハハ！ まいったなぁ〜。なんだか、今回はホントＣＩＭＡに持っていかれちゃったね。でさ、発見したことがあるんだよ。安い席が埋まる！ ガハハハハ。 だからね、見に来ないで、ごちゃごちゃ言うやつがいるんだよねぇ。後悔するよ！ う〜ん、でも正直言ってもうひと花、欲しかったのは事実だな。そういえば優勝したライガーさんが、「ジュニアの祭典には最後の出場だ」って言ってるらしいね。それは、いってらっしゃ〜〜い！（笑）。あ〜〜〜よかった！（笑）。もう、いいよォ〜出なくても（笑）。あっ⁉ オレ負けたら『Ｊ－ＣＵＰ』撤退宣言しちゃったんだった……でもまぁ、世間の反応見ながら考えよっと。グフフ。今日は、ジュニアの分岐点にはなったと思いますよォ〜。こう、年老いた者と若い者がくんずほぐれつ……あれ？ オレってどこに入るの？ イカーーン‼ このままフェイドアウトかサスケ！（笑）。ど〜するんだ、オレ？

CAT FIGHT WORLD

◆第一回目「キャットファイトの魅力」
バトル上野本店ビデオ制作部　木根さん

キャットファイトとは？
女性同士（一部男性相手もあり）の格闘技のことです。レスリング、相撲、キックボクシング等、男性顔負けのセクシーファイトをビデオでお楽しみください

日本にキャットファイトを専門に扱ったお店があるのを皆さんご存知ですか？　今回は女子格闘技専門店バトルの、ビデオ制作部代表の木根さんにお話を伺ってきました。バトル上野本店（台東区上野2-8-7永谷ビル1001）は、上野の中心地のビル群の中にあって、店内も広く、たくさんの棚に並べられた無数のキャットファイトビデオが印象的、女子プロレスのビデオやグッズも充実していて驚かされました。（女子格闘技専門店の名は伊達じゃない！）木根さんは、事務所でデスクワークをしており、机の上には様々な書類が無造作に置かれていました。私達が事務所に扉を開けると、こちらに気づいた木根さんは笑顔で中へと迎え入れてくれました。

——はじめまして、よろしくお願いします。

木根　こちらこそ、よろしくお願いします。

——唐突ですが、キャットファイトの魅力って何ですか？

木根　いきなりですね（笑）

——女性同士の格闘技にお色気を感じちゃうわけですよね？

木根　そうですね。技を極められた女の子の苦悶の表情が良いって言われますよ。でも、それだけが魅力じゃないんです。女性同士の喧嘩一つにしたって色々あるでしょう？

——それはつまり？

木根　だからプロレスの技を知らない素人の女の子が取っ組み合うだけで良いって人もいれば、完全なプロの女の子達の技の攻防を見て色っぽいという人もいますし。

——はぁ、奥が深いんですねぇ。

木根　底が見えませんよ（笑）うちに置いてあるビデオのジャンルだって、レズファイト、マッスルファイト、マゾ&ドミネーションバトル、スムーザー&シッティングなど、本当にいっぱいあるんですよ。

——その中で自分の好みのビデオを選ぶと。

木根　そう……ですねぇ。

——話は変わりますが、チョロさんが出演したキャットファイトビデオなんですけど——

木根　正確には「ミックスファイト」って言うんですけどね。男女のバトルは。

——ナルホド。それでそのミックスファイトのビデオなんですが、木根さんから見てどうでした？

木根　面白かった（笑）

——つまり笑えたと？

木根　いえいえ、それもありますが（笑）男性のキャラが今までにないタイプだったので。こういうビデオもアリかな？　って。

——また見たいですか？

木根　それは、もちろん（笑）

——木根さんの今後の活動ってありますか？

木根　何度も言うようですが、うちのビデオを買ってくださるお客さんの好みは様々です。お客様一人一人が満足出来るビデオを作っていきたいですね。あと、四月の下旬頃バトル上野本店は変わりますよ。

——変わるというのは、場所がですか？

木根　実は今のお店が十階にあるんですけど、九階にもお店を出すことになったんですよ。

——おお、それは大ニュース！

木根　ええ、実はそうなんですよ（笑）九階はマゾ系のドミネーション専門店になる予定です。

——マゾ系ですか。なるほど。チョロさんが出演していたビデオってのは……？

木根　ええ、マゾです（笑）

バトルが遂に渋谷に進出！その名も「アジアンバトル渋谷」

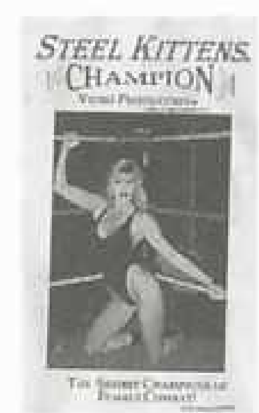


木根さんが選ぶオススメキャットファイトビデオ



コスチュームバトルNo.6

コスプレバトルの第６弾は美女２人が合計３回も着替えて闘います。スクール水着やアニメのコスプレも飛び出し、白熱したバトルは止まらない！
（BTC-6 78min/¥8,000）



STEEL KITTENS CHAMPION

オーストラリアの大スタ、スーザンが花模様のボディースーツを身をまとい、ラテン系の美女ヴィクトリアと対戦。
(SV/CVP-21 35min/7.900)

グレート・チョロのハガキ劇場

ハガキ劇場ファイアー！



オイ、オイ、橋本の猪木入り（日刊スポーツ4／11付）に続いて、グレート・チョロの大仁田入りが決定邪！　1、2、3、ファイアー!!

このページは18歳未満の方は読まなくて結構邪！

グレート・チョロ28歳 イッちゃったら即引退！ キャンキャンでスペシャル

男はみんな中牧の店へ行くん邪！ きっとお前もキャンキャン言うぞ!!



男にはやらなければイケない時がある。それが何なのか確認するために、俺は血みどろレスラー中牧昭二がオーナーを務めるピンサロ『キャンキャン』に突き進んだ。『紙プロ』でやるからには一線を越えなければ意味がないと勝手に判断した俺は、「オイ、オイ、中牧さんよぉ、俺に体験取材をさせてくれんかのぉ？」と勇気を振り絞って言ってみると、「おっ！　いいよぉ。遊んでってよ。いい娘いっぱいいるからさぁ」と、あっさりOK。中牧昭二44歳、話のわかる男である。自称・性豪の俺もピンサロは生まれて初めて。恐る恐る店内に突入すると中牧御自慢の2メートル級のロングソファーが並んでいた。女の子を待つ間、俺はウーロン茶を片手にキョロキョロと辺りを見回していたが、目の前の席でくんずほぐれつ肉弾戦の男女を発見。一気にボルテージはクライマックスに突入！（早過ぎ）。そうこうしているうちに「ど〜も、こんにちわぁ。Nで〜す」と女の子がやってきた。Nちゃんは20代前半ぐらいの可愛い江戸っ子だった。人見知りの激しい俺は、平然を装って「こんちわッス。俺はグレート・チョロって言うん邪！　1、2、3、ファイヤー！」と言うと、「大仁田みた〜い」とウケてくれ、そのまま「ブッチュゥゥ♡」と接吻タイム。そっちがその気なら「イッちゃうぞバカヤロー！」と、負けずに攻めダルマと化し、店名どおり『キャンキャン』言わせてやったん邪！（誇張あり）。「誰に似てるって言われるん邪？」と尋ねると「江口洋介とか藤井尚之って言われるのぉ」って、オイ、オイ、それは男じゃろと思ったが、可愛い子だったので問題ナス。「ズボンをおろして」と言われヒザまでズリおろし膠着状態を楽しんだ。膠着最高ーッ！　試合開始から20分を過ぎるとハイスパートな口撃が始まった。コンディション上々で舌好調の彼女の前に「オ〜マイ、ガッ！」と、大仁田Jrならぬチョロ Jrも敢えなく昇天。オイ、オイ、Nちゃんよぉ、お前の技量は確かじゃった。前評判通り一切手抜きなし！　ピンサロ『キャンキャン』、この俺が自信を持ってオススメするぜよ！　最後に『紙プロ』読者のために中牧さんからビッグなプレゼントを頂いてきたぞ。今なら「紙プロ見た」で１０００円割引じゃあ！　ありがとうNちゃん。ありがとう中牧さん。『キャンキャン』を頼んだぞぉー！　1、2、3、ファイヤー!!（強引に）

Pretty Girl キャンキャン

●料金システム
12:00〜5:30【5000円】
5:30〜8:30【6000円】
8:30〜ラスト【7000円】
指名料金　2000円
JR錦糸町南口徒歩2分
TEL03-3634-5603

「『紙プロ』見た」で 1000円割引邪！



5・2（火）、東京・恵比寿『みるく』で「ＩＬＬＥＧＡＬ」というイベントがあるん邪！　当日はキャットファイトが2試合行われるが、俺はそこへ乗り込む！

久しぶりに編集部に顔を出したジャイ子。いつものようにジャイ子をみんなでからかっていると、突然「私はシュートの女、でも○○○ちゃんは八百長女！」と物騒な事を言い出した。いつまで経ってもボーイズはボーイズ、ジャイ子はジャイ子である。んなこたぁ、どーでもいいんだよ!　オイ、オイ、5・2恵比寿『みるく』で「ILLEGAL」というイベントが開催される。「ILLEGAL」では、ガーリックボーイズ、アスフォート、スラングブギーなど7バンドのライブが行われるんじゃが、それとともにキャットファイトも2試合組まれているのだ。いまやキャットファイトと言えば俺抜きでは語れないはず（自信過剰）。しかし、今のところ対戦カードに俺の名前がないん邪！　俺は久しぶりに怒っている！　俺は何らかの形で必ずそこへ乗り込む!　お前らの期待は、邪道グレート・チョロ、絶対に裏切らん!　5・2恵比寿『みるく』、お前らの入場を心より待つ!!【お問い合わせ】みるく ☎03・5458・2826

ハガキ劇場からNEWヒロイン誕生邪！



…その名は弱冠16歳ももぢ邪!!

ある晴れた日、編集部に一通の封筒が送られてきた。開けてビックリ玉手箱邪！　封筒の中には一度見たら頭から離れないももぢのイラストと『ももぢの世界展［朝起きたらこーなってただよ〜］3月26日〜4月9日まで』というチラシ＆手作りノートが入ってたん邪！　その若さで個展を開くとは末恐ろしい16歳ぢゃ。

さっそく高円寺にある『たまごの工房』へ向かうと、ウィンドウにはももぢの作品と並んで『ハガキ劇場』の切り抜きが飾ってあったの邪！　ありがとよ、ももぢ＆たまごの工房さんよぉ。ギャラリーには大仁田、アレクにムーンライダース、サッカーのロナウド、ももぢのペットの地図ガメをはじめ数え切れないイラスト、さらに軍手で作ったぬいぐるみのてぶちゃん等々、ももぢ魂が大爆発だったん邪！　オイ、オイ、ももぢはごくごく近い将来、絶対にブレイクするぜよ！　今回は個展開催を記念して、ももぢの好きな大仁田ページでそのイラストを使わせてもらったん邪！



見てみぃ、このコラージュ。ももぢのイラストはチラシの裏に書かれているものが多く、エコロジー＆地球に優しいん邪！



よく見ると「ももぢの世界展」と書かれた絵の上に『ハガキ劇場』の切り抜きが…。ヒャッホ〜！　全部合わせて30点邪！

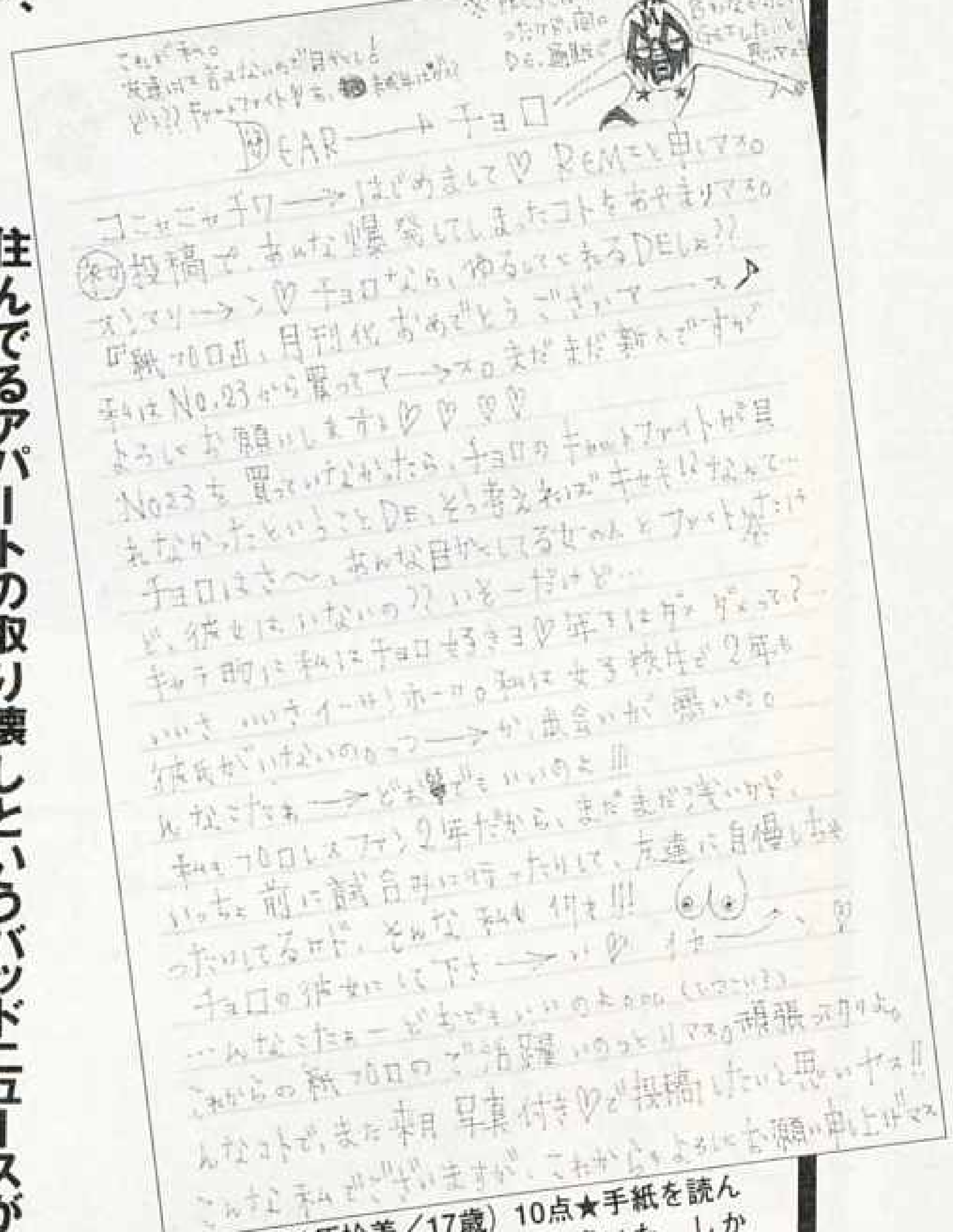


『ハガキ劇場』に対抗して旗揚げされた『ももぢ劇場』。第1回目のゲストはマサヒロ斉藤＆犬とアレク＆猫with蛇邪！

グレート・チョロのハガキ劇場



金ない、女もいないと、ないないづくしの俺の元に、住んでるアパートの取り壊しというバッドニュースが飛び込んできた。俺はどうすればいいんじゃあ！ そんな俺を不憫に思ってか本誌スーパーバイザー吉田豪は、キャバクラや女子（ファイヤーガールズ）との飲み会に連れて行ってくれた（涙）。ありがとよ、豪さん。だがなぁ、誰も相手してくれんのじゃあ！ キャットファイトではボロクソ言われるわ、性病にはかかるわ、オカマとやっちゃうわ、何にもいいことありゃしねえん邪！ そんなある日、編集部のポストに俺宛の封筒が……。差出人は松原怜美（17歳）。手紙にはうんこのイラストとともに「チョロの彼女にして下さ→い♥」というメッセージが。年の差はちっと気になるが、俺はお前に恋をした。オイ、オイ、オイ、お前は俺の彼女に決定邪！ 1、2、3、ファイヤー！


DEAR→チョロ
コニャニャチワー→はじめまして♡ REMこと申しマス。
チョロの彼女にして下さ→い♡

（岡山県／松原怜美／17歳）10点★手紙を読んだ俺は、すぐさまラブレターを書いた。しかもみんなが泊まり込みで仕事をしている最中にだ。当然、周りからは白い目で見られたが、んなこたぁ、どーでもいいんじゃよ！ 俺は邪道じゃ文句があるか！ 1週間後、怜美から再び熱い返事が届いた。なんと怜美は富永一郎の隠れファンだという。センス抜群邪！

■前号の感想邪！ おもろいもの

●「小川直也インタビュー」。『週刊・長州力』は歴史的名言だね。何なら『週刊・ラッシャー板前似の元レスラー』でもイッツ、オッケー！（札幌市／藤原章男／27歳・無職）3点

★oi、oi、oi、ラッシャー板前似の元レスラーって誰の事なんJarrrr?（国際対応モード）。

●「アブダビ紀行文」&「リングスロシアンティールーム」。ガイジンには何てステキな方が多いのでしょう。「何が起こるかわからないからこそロシア」、素晴らしすぎることわざです。アビダビ王子に嫁ぐことを夢見る17の春（第二のデビ夫人希望）。そういえば友人（男）の髪型が天山・ミーツ・ジャンボ尾崎になっていました。どうしましょう。PS・テストを受けたり、「卒業したら一緒にイギリスに行こう」と手を握られたり、パイプ椅子で追いかけ回されたりしていると（ベビーフェイス？）いつの間にか3月になっていました。ていうか前号見逃してました。すいま千円（流行中）。これからもアイブルを見つめながら頑張ります。押忍（千葉県／神子佳世／17歳・クラスの人気者ランキング第3位）5点

★アイブルと聞いて思い出した。オイ、オイ、オイ、アイフルさんよぉ、いつも返済遅れて、すいま千昌夫（流行中）。

●「コピィロフ、ミーシャ漫才」半チクな芸人なんかより断然面白い。コピの破壊力満点のボケもさる事ながら、ミーシャの冷めたツッコミが何とも言えぬ味わいがある。「石川×小路対談」八百長呼ばわりするプロレス記者に較べ、何とこの2人はすがすがしい事か！（青森県／青木雄大／24歳・素人ポンチ絵師）4点

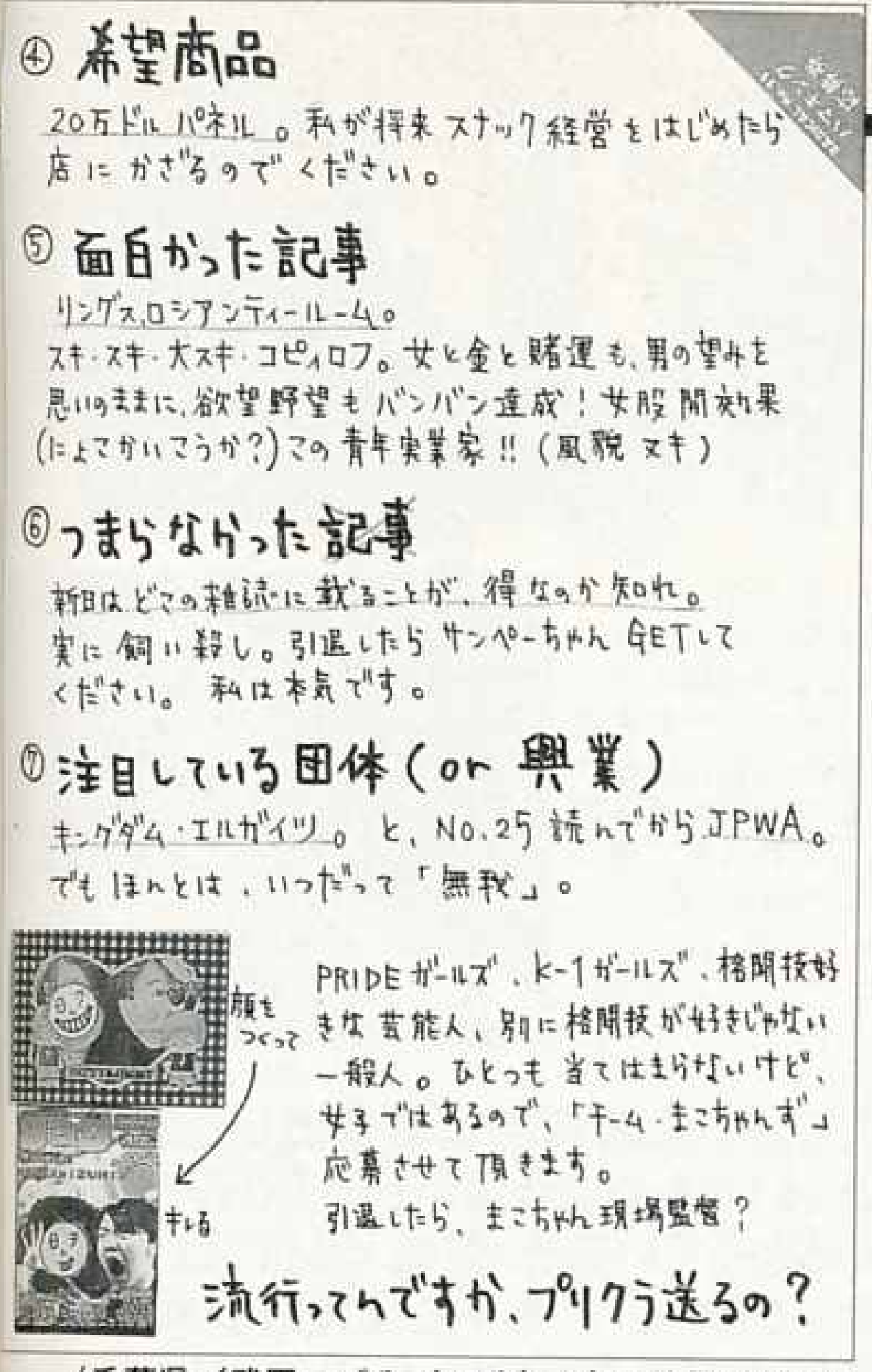
★ここだけの話だが、コピ&ミーシャの2人は北野最終兵器としてお笑い界へ殴り込みを画策してるらしいん邪！

●ロシアンティールーム。コピィロフ最高!! トーナメントのスタミナ切れと今回のインタビュー、もう増々ファンになりました。しかもめちゃ強い!! たまにはJWPも取材して下さい。よろしくお願いします（東京都／千葉道也／30歳・リングアナウンサー）5点

★これはこれは、闘うリングアナ、JWPの千葉道也さんじゃねえか。でも確かにJWPは最近取材してないな。よ～し、わかった。いま時代は橋本真也。時は来たッ！ 次号ではJWPの破壊女王・橋本真弥にインタビュー邪！ なに～ッ、一足先に引退しただとぉ！ オ～、マイ、ガッ!!

■つまらんもの

●「アントニオ猪木VS滝沢秀明」。なぜこの試合をどこのマスコミも良いというのだろうか？ 本当にもうだれでもリングに上がれる時代になってしまったんだなあと思った。チョコボール向井はある程度の下地があったからOKだと思うが、トップアイドルがプロレス好きで「試合がしたい」と言っただけで猪木さんが出てくるんだから、まじめにレスラーで「猪木さんとやりたい」と言ってもまだやれそうにないアレクはどう思うのかなあと思いました。かなりマトが外れてしまいましたが、この試合について、サスケ社長と石川社長に語ってほしいと思いました。気になる団体は、みちプロと闘龍門です。Jカップ、優勝はグラン浜さんだと思う。あとJPWA。藤原カントクなんて素晴らしすぎます。あと岡本魂の姿を見れたのでうれしかったです。本名で行くそうですが、バトで本名でやっていたときから、サインに「岡本魂」と入れていたので、入場の時に紙プロTシャツの岡本魂Tシャツを着てくれたら、ちょっとうれしいかもしれません。でも、高橋代表はちょっとカタいかな～と


④ 希望商品
20万ドルパネル。私が将来スナック経営をはじめたら店にかざるのでください。
⑤ 面白かった記事
リングスロシアンティールーム。
スキ・スキ・大スキ・コピィロフ。女と金と賭運も、男の望みを思いのままに、欲望野望もバンバン達成！女股開効果(にょこかいこうか?)この青年実業家!!（風説ヌキ）
⑥ つまらなかった記事
新日はどこの雑誌に載ることが、得なのか知れ。実に飼い殺し。引退したらサンペーちゃんGETしてください。私は本気です。
⑦ 注目している団体（or 興業）
キングダム・エルガイツ。と、No.25読んでからJPWA。でもほんとは、いつだって「無我」。
PRIDEガールズ、K-1ガールズ、格闘技好きな芸能人、別に格闘技が好きじゃない一般人。ひとつも当てはまらないけど、女子ではあるので、「チーム・まこちゃんず」応募させて頂きます。
引退したら、まこちゃん現場監督？
流行ってんですが、プリクラ送るの？

（千葉県／武田いづみ／19歳）5点★前号160Pの広告もしっかりチェック済みのよう邪な。「銀無垢やで、銀無垢！」、「女股開効果」など、実に気になる『バラキシルバ』。お前らも要チェケラ邪！

（山口県／ゆずっ子／21歳）5点★元ピュアハート練習生のゆずっ子さんよぉ、お前はキャンディー奥津系邪！ ビジュアルファイター転身の可能性も充分にアルシオン！（弱火）。



（三重県／宮崎文子／20歳）5点★文子さんよぉ、荒井社長、真樹先生、イッキー（猪木）&タッキーなど暴走イラストも破壊力抜群だったが、今回はビジュアルで勝負邪！



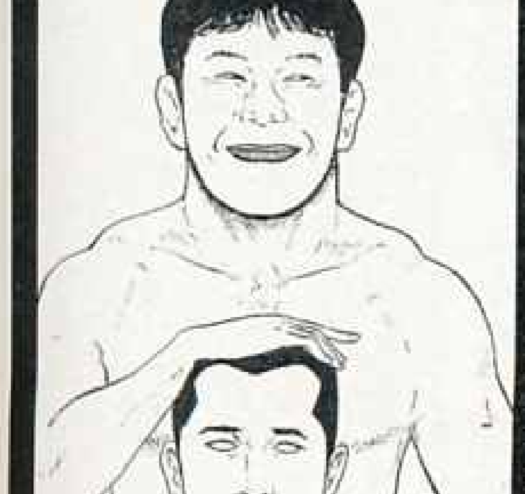
（長野県／大石剛）5点★大石さんよぉ、相変わらずうまいじゃねえか、イルカじゃねえか、小路じゃねえか。壁に耳あり、小路にメアリー（金髪のボインちゃん）。意味不明で重体！



（愛知県／たっつあん）4点★トーイのストーリーを読まないヤツは死刑邪！ たっつあんよぉ、いつも胸いっぱいのイラスト、たっつあんです（それはごっつあんナリbyコロ助）。



みんなぁ 元気がないなぁ。ホイーッス！ 2連発



（愛知県／たっつあん）4点★いいねぇ、見たいねぇ。仔牛の焼き印押しにエプロンでの毒針エルボー、ついでに半ケツも出しちゃうぞ！ そんでもって判決…勝者マードック邪!!

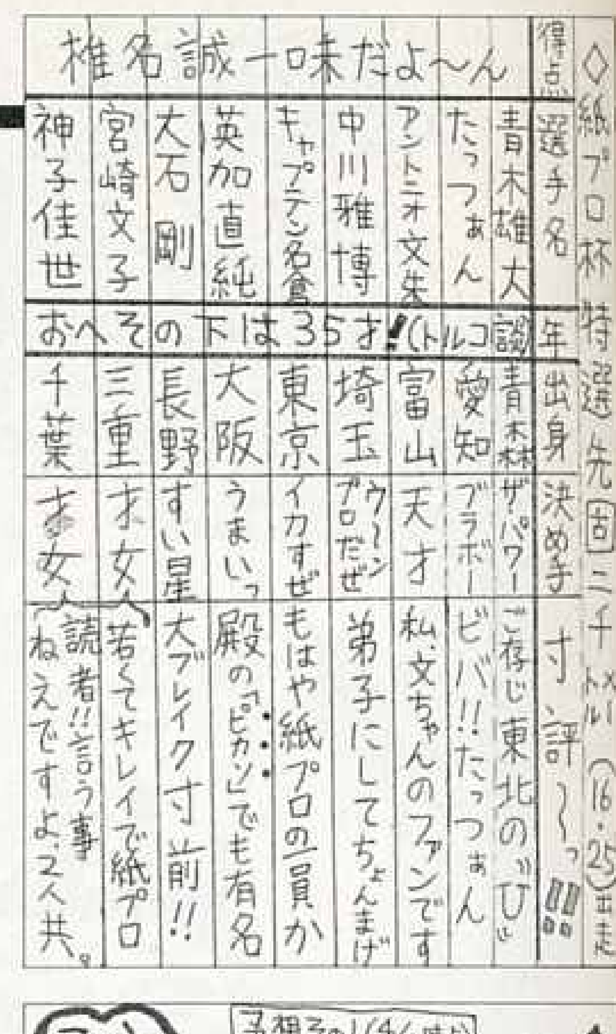
（長野県／大石剛）4点★グエェ～、ホイスの首がぁ～。これでもタップしてないって言い張ったら、俺はお前を否定せん。復活するのはクラッシュ2000。真ん中通るは中央線邪！



（東京都／キャプテン名倉）各4点・計8点★4・7ドームでは最後まで姿を見せなかった現場監督の長州さん。「長州さんよぉ、いつまで待たせるつもりなん邪！」以上、邪道王からのメッセージでした。どうですかーッ、長州さん？「シャァーコラッ!!&汗付きTシャツ（2枚目）」。ハ、ハイ、ボ、ボクも練習しておきます（弱気）。







思います。がんばって下さい（岩手県／田代祥一／15歳）3点
★最近は田代君のようなピチピチの若い読者が増えてるん邪！　喜ばしい限りじゃ。でも田代君はちょっとカタいかな〜と思います。がんばって下さい。

●先日仙台のJ−CUPに行き、怨霊選手にフォーリンラヴになりました。インタビューなどしてほしいです。ヨロシクオネガイシマス（仙台市／紺野絵理／21歳）4点
★本誌風雲広告嬢の佐藤恵美ちゃんもJ−CUP両国大会でのCIMA対怨霊戦を見て怨霊にフォーリンラヴしてたん邪！　まさに怨霊発揮じゃあ！（弱火）

●プレゼント希望はCIMAのさとうきびです。サスケとCIMA以外は読んでません。闘龍門、みちプロ大好き♡（山口県／木村江利子／23歳／OL）2点
★コラッ！　コラッ！　コラッ！　ちゃんと全部読みなさい！　おっちゃん、ええこと言ってんねんぞぉ〜！

●つまらなかったものはコレと云ってないので……『格通』への苦情を。去年の末にクイズに正解して、宇野さんのかんわいらしい写真が送られてくるはずやのに、今だに来ばれへん。どーゆうこっちゃ、コレ。その点、『紙プロ』は希望したプレゼントとは違うけど豪華グッズが届いた。ありがとう。ありがとう。気になる団体は宇野さんが居てはる修斗。カオカオ。宇野さん居てたら、結構なんでも良さ毛。だって……だってカオルコなんだもん。カオカオ（兵庫県／ナナジ／20歳・日本一のスネかじりな中忍）2点
★オイ、オイ、もうひとつおまけにオイ、ナナジさんよぉ、前号の俺の忠告を聞いてくれたようじゃな。忠告その2。のどが渇いたら生茶を飲むべし。これもまたカオルコの鉄則なん邪！　最後にひとつ！　ゴミはゴミ箱へ、『格通』への苦情は『格通』へじゃろうが！　カオカオ。



（熊本県／塩本祐介）各５点・計10点★ピンポン・タンポ〜ン！（下品・ランデルマン）。塩本師匠もファンだという、毎号20通以上の投稿を続ける『ハガキ劇場』の暴れん坊将軍アントニオ文朱が行方不明なんよぉ！　挨拶もなしに姿をくらますとは寂しい限り邪！　文ちゃん、至急連絡を待つ!!　それと破壊王からの連絡も待つ！





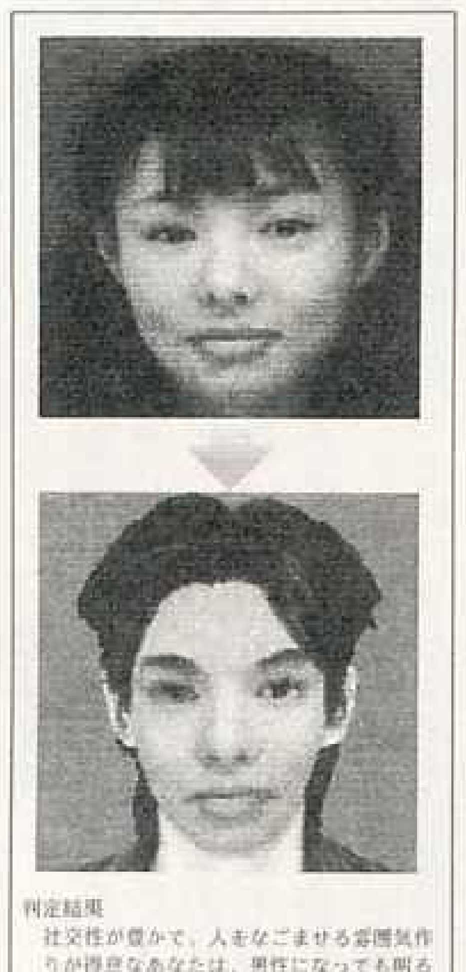
（大阪府／英加直純）各５点・計10点★前号でホーリー５の貼り絵をリクエストしたら、ホントに送ってきてくれた英加さん。義理堅い男よのぉ。英加さん、ありがとう。今回はポートレートも頼んだぞっ！（間髪入れず）いくぞーッ！　イーチ、ニーッ、サン、ダーーッ!!　今度のリクエストはイゴォ〜〜ル・ボブチャ〜ンチ〜ン邪！　胸いっぱいの貼り絵を待つ！

マシジュンの部屋



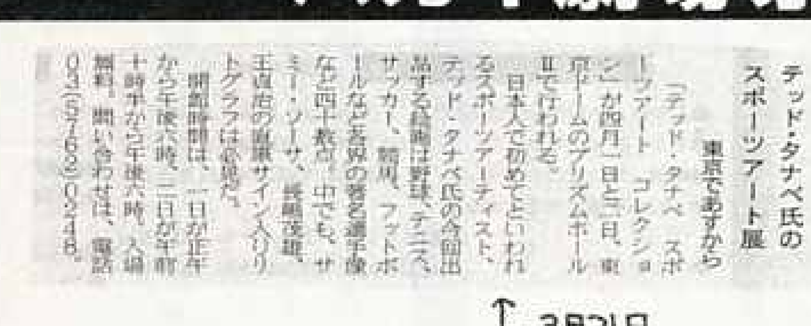
ネットの『紙プロ応援団』という所で「紙プロ人気投票」が行われているのだが、４月16日現在、マシジュンは堂々の７位！（なぜか１位はカタブツ君）。しかし中にはくだらないことを書き込むバカもいるん邪！……死ね！





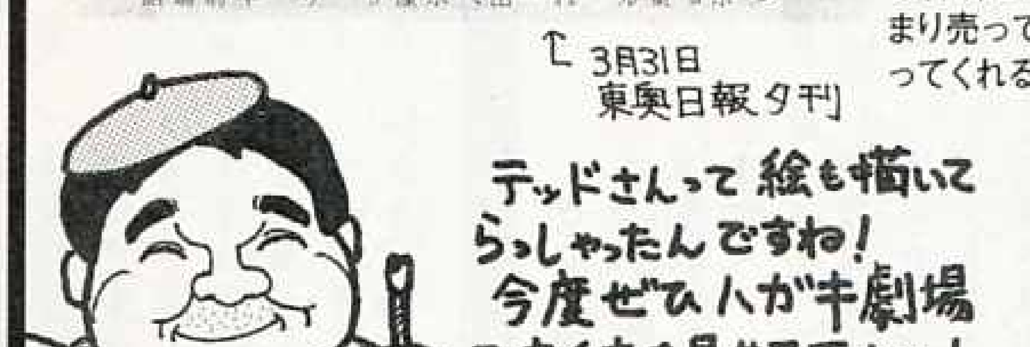
『「真下は写真に写りに命をかけていて実際はしわくちゃババア」との真理を突く書き込みにグウのネも出ない私は思わずゲームセンターに走り、「変身願望シュミレーション・シンデレラマジック」というブツで未来の自分を撮影してきました。もうしばらくしたらこうなります。ついでに「男だったら」というやつも撮りました。オバサン好きのする美少年になってたらしいです。男に生まれりゃよかったです』。マシジュンは実物も可愛いん邪！　全部で15点

ハガキ劇場専属!?　青木雄大じゃあ！



↑3月31日 東奥日報夕刊

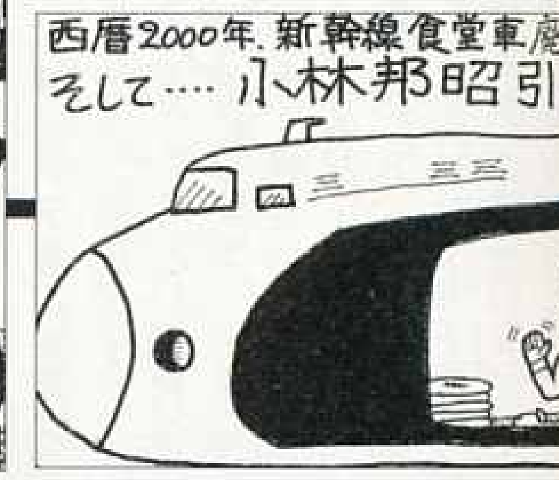
テッドさんよぉ、アート展開催なんて凄いじゃねえか。しかも日本人で初めてのスポーツアーティストだと？　言葉の意味はわからんが、とにかくめでたいん邪！『ハガキ劇場』にもそのアートを披露してくれんかのぉ？「PS・『SRS・DX』と戦争するんだったら、応援させてもらいます。何せ『SRS』も青森じゃ放送してないし、『SRS・DX』もあまり売ってませんですからね」。心強いこと言ってくれる邪ねえか！　脱藩するなよ!!



（青森県／青木雄大）４枚で18点★『はりMON！のいる時の田村はまさにＴ多重ジンカクで笑えた』。確かに俺も笑ったよ……最後に泣いたけどな。誰か金貸してくれんかのぉ？







どすこい生きてるスモーノブ







東京都の佐山龍仁さんから素敵な情報が寄せられた。「ジャングルスマイル」というミュージシャンの写真なんじゃが、メンバーの１人がスモーノブに激似なん邪!!　編集部内では本人説、双子説、クローン人間説、アイコラ説も出たが、スモーはこれらの説を頑なに否定。そのくせ「ジャングルを守るだけじゃなくジャングルを作るというか」「道はどんなに厳しくともスマイルで歩こうぜ!!」とアントン語を連発。何じゃ？　やっぱりお前はジャングルスマイルだろ！……んなこたぁ、どーでもいいんだよ！　ためしに同じポーズで写真を撮ってみたんだが、どうじゃろ、お客さん？　佐山さんには特別に10点差し上げるん邪！　★イラスト（青森県／青木雄大）４点





（埼玉県／中川雅博）各５点・計10点★Ｂ・Ｂはビカム・ボンジョビってことだったのか？それは知らなかった。それにしてもＢ・Ｂ・ジョーンズのなんちゃってピープルズ・エルボーは風情があったな。できれば次は女版Ｂ・Ｂの登場を期待したいものよのぉ。その名もＢ・Ｂクイーンズなんてどう邪？　弱火でポンポコリン邪！

中川雅博画伯じゃあ！

★ハガキ劇場★ オフィシャルランキング2000

- 1位 青木雄大 101点
- 2位 塩本祐介 42点
- 3位 たっつあん 37点
- 3位 中川雅博 37点
- 5位 ももぢ 35点
- 6位 キャプテン名倉 34点
- 6位 英加直純 34点
- 8位 大石剛 31点
- 9位 アントニオ文朱 29点
- 10位 宮崎文子 25点

具志堅用高…もとい　募集要項●『ハガキ劇場』では、皆様からの胸いっぱいのご意見、ご感想、イラスト、投稿写真DX、俳句劇場、恋文などなど、読者からの爆裂投稿を待ってるん邪！　すべての宛先は……

〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス『ハガキ劇場』係まで。合い言葉は、「つーか、お前誰だよ！」邪!!

森下さんの『PRIDE.0』での軌跡を完全プレイバック！

PRIDE.0（ゼロ）

「『PRIDE.0』がアレだけなんて…。毎回、楽しみにしてるのに!! ページがないなら『紙の新聞』のページを減らせばいいじゃないですか。納得できません」（佐藤香織／19歳）ありがとう香織ちゃん。『PRIDE.0』の存亡は読者からの投稿で決定します。5月8日（月）までに20通の投稿がなければ『PRIDE.0』は消滅します。皆様の底力を見せて下さい。え～、最後に、『紙プロ』殿堂入りにリーチを賭けていた森下潤一さんが見事5戦勝ち抜き、男子初の『紙プロ』殿堂入りとなりました。おめでとう！

『紙プロNO24』の最終結果！

ライセンスナンバー18 森下潤一さん
『まいあがれヒロ斉藤』132票

ライセンスナンバー23 柳沢諏訪郎さん
『肩書、プロレスラー』78票

ライセンスナンバー24 無軌道さん
『いしんぐんについて』65票

おめでとう！ 森下さん

そして頑張れ！ 森下社長



森下潤一さん

悲願の殿堂入りができました。投稿数の少なさに恵まれました。ジャイ子さんという手弱いライバルにも救われました。まさに木目対的浮上ゆえの勝利でした。『紙プロ』さんからは色々な物を頂きました。まず4年前の「ジュニア8大タイトルマッチ」という中古のビデオをもらいました。画像も悪く、なんだか、ていよく不用品を押しつけられたような気分になりました。それからマスカラスのTシャツももらいました。これはとても気にいったので、机の中で大切に保管しておくことにしました。ところが先日、久々に家に帰ると、いつの間にか母が下着がわりに着用していました。かなり前から着てるのか、既にペラペラのビロンビロンになってました。まるで「仮面貴族なんぞクソくらえ」といわんばかりに着こなしてました。母61歳。馬場さんより長生きするのも無理はないなあと思いました。最後にこんなワンパターンの文章に何度も付き合って下さった皆様に感謝しつつ、ハガキ劇場のアントニオ文朱さんに一言いわせていただきます。「おまえ、乱視か!?」では、ごきげんよう。

第1戦 『木戸修真理教』



僕の携帯の着メロは「王者の魂」です。鳴る度に大好きだった馬場さんを思い出してしまい、涙声で電話に出ることもしばしばです。

姉の着メロは「パラダイス銀河」です。鳴る度に周囲の失笑を買っています。しかし姉は「光ゲンジへの愛はチャンピオンベルトより重い」と言い、けして着メロを変えようとはしません。

僕や姉に限らず、携帯を持っている人ならば着メロに自分のお気に入りの曲を入れるのは当然です。が、いくらフェイバリットとはいえ、それを着メロにしたら、みんなビックリするじゃないか！ とツッコミたくなるような曲を携帯に入れている友人がいます。

谷君です。なんと彼は「♪ショーコーショーコー」の繰り返しでおなじみ、あのお方のマーチを着メロにしているのです。

え？ 谷君とやらはオウムなのかって？ エエそうです。しかし彼は、オウムの信者であると同時に木戸修さんの信者でもあるのです。

谷君の木戸さんへの情熱は凄まじいものがあり、会場観戦、テレビ観戦を問わず、木戸さんの試合前にはかならず、「木戸ォ！ 頼むぞォ！ ゴッチの息子よォ！」のフレーズを叫びます。

木戸さんが相手に握手を求められ、警戒して、ちゅうちょする場面になると「木戸ォ！ お前の腕は相手をワキ固めで絞め上げる為だけにあるんだ！ 拒め！ 拒め！」と吠え、木戸蹴り、後転してのリストロック等の定番技が飛び出す度に「う～む！ いぶし銀！」と大げさに唸り、必殺のワキ固めが決まると、もう言葉はなく、「幸せなら手を叩こう」の歌詞よろしく、バチバチと拍手をしまくります。

そんな谷君とのプロレス談義はとても楽しく、時が経つのも忘れてしまいます。

あ、断っておきますが、僕はオウムではありません。

実は前に一度だけ、谷君に信者の集いに誘われたのですが、「僕にとっての神様は馬場さんだから」と断ると、「お前は神と立ち会うことが出来てよかったな」と納得し、以来一切、僕を勧誘しなくなったのです。

というわけで、僕と彼との関係は同じプロレスという文化を共有する、良き仲間にしか過ぎません。

とはいえ、最近、再びオウムの活動がテレビなどで話題になり、僕も全く関心が無いわけでなく、谷君に「あの問題はどうなってるの？」といろいろ、質問することもあります。

彼はさすがに教団の人間だけあって、マスコミも知らないような情報をこっそりと教えてくれます。

紙面の都合であまり書けないのですが、一つだけ、特ダネを教えてあげます。

巷で噂されている「尊師の奪還計画」ですが、あれは全くのデマだそうです。

「バカバカしい。第一、そんなコトしなくったって尊師の釈放なんて時間の問題じゃないか」と谷君が言ってましたから。

警察のみなさんもこれで一つ、不安が解消できましたね。

さて、最後に、谷君の嫌いなレスラーのことも書かせていただきます。それはアルシオンの府川唯未さんです。

谷君は彼女の試合を見る度、「何故コイツは未熟な関節技をやたらと連発するんだ！ ゴッチ道場で修行してこい！」と語気荒げに吠えています。

完璧な関節技しか認めない彼は、もしかして木戸さんとはまた違う意味での「関節技の鬼」なのかもしれません。が、しかし！

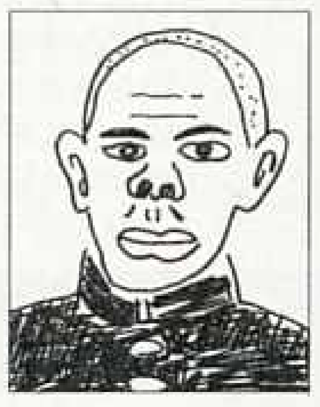
「でも府川さんが『ヤッてもいいわよ』って言ったらヤルでしょ？」と僕が訊くと、谷君は、それはそれは満面の笑みで「うん！ モッチロ～ン！」と答えます。

府川さん同様、谷君もまだまだ修行が必要だなあと思う今日この頃です。

P・S谷君というのは、あくまでも仮名ですよ。仮名静香。

（紙のプロレスRADICAL NO20より）

第2戦 『姉と高田とキラーカーン』



先日の『PRIDE7』で、桜庭さんがマシアスにまさかのモンゴリアンチョップをかましました。

緊張感たっぷりのバーリ・トゥードで、こんなハイホーな技をやってしまう桜庭さんは「なんてプロレスファン思いのサービス精神旺盛な人なんだ」と僕はすごく感心しました。

しかし、僕の姉はご立腹でした。といっても別に「ふざけてる」とか、そういうコトで怒ったのでなく、「なんでキラー・カーンみたいに打つ時に奇声を発せへんねん！」ということでキレたのです。

姉いわく「モンゴリアンチョップのメインは奇声や！ チョップはあくまでデザートなんや！ 1に奇声、2に奇声、3、4がなくて5に口ひげや！」だそうです。

なんか違うこだわりを持つ姉。そんな姉はキラーカーンさんのことを本物のモンゴル人だと信じて疑ってません。

さて、『PRIDE7』のメインの方は高田さんとアレクさんの一戦でした。プロレスラー同士のバーリ・トゥード。1・4の小川さんと橋本さんみたいに荒なきゃいいが……。そんな僕の不安をよそに、両者は入場してきました。

対峙し、にらみ合う二人。火花バチバチ。

ちなみに姉くらい、「通」（？）になるとこの試合にかける、それぞれの思いがひしひしと伝わってくるそうです。

「高田はきっと『この野郎。俺が師事を受けたマルコ・ファスを生意気にも破りやがって！ 目にモノ見せたる！ このハゲ！』くらいの気持ちでおるわ。間違いない」

「アレクは『ふん。俺は〝ヒクソンが最も対戦を恐れる男〟を破ったんじゃ！ お前も倒してもっともっと知名度をあげたるんじゃ！ それに俺は学生時代から向井亜紀のファンやったんじゃ！ 写真集かて未だに持っとんじゃ！ 寂しい夜はヨメに隠れて…はっ、何ゆわすんじゃぁ！ んむはぁ～！』と、心の中で絶叫しとるわ。ウチにはようわかる」

勝手な熱を吹いている姉をよそに、開始のゴングが鳴りました。

「カーン！」

いきなり低空ドロップキックをかますアレクさん。さらにブレーンバスターやストンピングなどプロレス技を連発するアレクさん。

それに対し、サッパリ冷めてる高田さん。ノッてこない高田さんにシビレを切らし「目を覚ませ！」と一喝するアレクさん。これに呼応してか、2R開始直後、ローリングソバットを披露する高田さん。

「佐山のと比べると、佐山や。だけど人間的には高田が上や。前田がゆうとった」と姉。

閑話休題。ジャイアントスイングをかけようとするアレクさん。それを顔面キックで阻止した高田さん。うずくまるアレクさん。すかさず、キックとパンチの猛ラッシュをする高田さん。失神寸前のアレクさん。とどめのスリーパーをきめる高田さん。レフェリーストップ。「カンカンカン！」

まあ、途中、いらん解説も入りましたが、以上が大体の試合内容でした。

いや～、すごかったです。なぐる、ける、首しめる。往年の梶原一騎先生を彷彿させる乱暴ぶりで試合をきめた高田さんに、僕は驚きを感じずにはいられませんでした。

ヒクソンに敗れ、ケアーにも敗れ、プロレスファンの心を壊しまくった、この2年。先日は神宮大会を欠場し、新日との関係も破壊した、クラッシャー・バンバン・高田さん。

そんな高田さんの、この日のファイトは、なんだかプロレスを背負わされる重圧から解放されたかのような爽快感で満ちあふれていました。まるで、最強神話時代が甦ったかのような勝ちっぷりに僕は非常に満足しました。

高田さん、がんばってください。僕は温かく見守りつづけます。あなたのファイトを。

そして、キラー・カーンさん。折っちゃってください。姉の足。アンドレと同じように。

（紙のプロレスRADICAL NO21より）

第3戦『こばしクンを訪ねて』



一般に京都人というのは、上品だというイメージがあります。しかし、これは大きな誤解です。

僕の母は京都生まれの京都育ちですが、人前で「プ～」と平気で屁をたれます。

その上、「音が鳴るのはクサくない証拠どすえ～」と開き直ります。

また母は「昔は京美人と呼ばれてたんや」と自慢します。僕の友人に「女・ハナ肇」の称号を与えられている現在、とても若い頃の面影は見えません。

下品な京美人は母だけでなく、リングにも溢れかえっています。

キッツい関西弁（それも岸和田アクセント）を撒き散らす中西学さん。1・4の新日とUFOの乱闘の際、一人イスで暴れていた卑怯者、高岩竜一さん。顔が人喰いの天山広吉さん。名前が名前なダイナマイト関西さん（TPG出身？）。などなど。

嘆かわしい限りです。「京美人の皆様、目をさましてくださ～い」と小川さんばりに吠えたくなります。

しかし、そんな乱れまくる京美人の中にも、唯一、例外と言っていい人が全日にいます。

それは誰あろう、小橋健太さんです。

誰に対しても丁寧な言葉づかい、鼻を骨折しても休まない責任感、クリーンファイト。そして、あのいかにも平安貴族な狐顔に、京都人でない僕でさえ、ついつい「ほんに素敵どすえ～」と唸ってしまう程です。

まさに小橋さんは〝崩壊寸前の京都に咲いた一輪の可憐な花〟といっても過言ではないでしょう。

そんな小橋さんの生い立ちで一つ、とても素晴らしいエピソードがあります。

それは小学生の頃、クラスでスカートめくりが流行っていて、特にHな意識は無いのですが、小橋さんも周りと一緒に面白がってやっていたそうです。

ところが、当時、習っていた少年野球チームの監督に「弱いモノいじめなんかしちゃダメだ！　か弱い女の子を守るのが男なんだ!!」と叱られ、ハッと目覚めた小橋さんは「よし、将来は女の人を守れる強い男になるぞ！」と固く誓ったそうです。

えらいです。かっこいい男です。これがもし冬木さんなら「うるせえな。てめえもパンツ見てえだろ！」で片付けてしまう所です。

え？　勝手に決めるな？　いやいや。小学生時代、女の子を柱にくくりつけ、太股を下敷きでピシャピシャと叩いていた（ようなキャラの）冬木さんなら、絶対こう言うはずです。失礼ながら断定させて頂きます。

話がかなり横にそれたので元に戻します。さて、先日、僕は仕事の出張で京都に行きました。時間が余ったので、僕はプロレス好きの同僚と一緒に、小橋さんが通っていた惇明小学校を訪ねることにしました。

福知山駅から歩いて15分ほどで、目的地に到着しました。

中に入る前に、僕らはとりあえず、校舎に向かって手をあわせ「今日の小橋さんの基礎を築いていただき、誠に有難うございました」と、感謝の意を表明しました。

それから小汚い校門をくぐりぬけ、グランドに出ました。そして砂場を発見した僕らは童心に返ってプロレスごっこをすることにしました。

聖地で打ち合うラリアットは格別でした。

目をつむると、「コバシ！　コバシ！」の大コールが聴こえてくるような、そんな心境になりました。京都弁で言うなら「マロは幸せでごじゃる～」といった案配でした。

帰宅後、これを誰かに伝えたいと、精一杯、今日の感動を母に語りました。

しかし母は僕の話など全くうわのそらで、バクバクと土産の八つ橋を食べることに全神経を集中させていました。

母の喉元にラリアットを……と思いましたが還暦なのでやめました。

（紙のプロレスRADICAL NO22より）

第4戦『ボブとケアーに贈る言葉』



マーク・ケアー。霊長類最強の男。

シカティックをしばきあげ、オタービオの腕をもぎ、ウゴの足を踏み潰し、高田さんを3分で、あの世に葬った、恐ろしき男（一部誇張）。

しかし、そんな強い強いケアーも『PRIDE7』でのボブチャンチン戦で、無惨に崩れ落ちてしまいました。

膝蹴りをガンガンくらい、「ウワ～、やられたケア～」と沈んでいく姿は実にカッコわるかったです。さらに試合後「あれは反則だケア～」とレフェリーに詰め寄る姿はマジで悲しかったです。

それに比べ、堂々と勝ち名乗りをあげるボブの顔は最高に素敵でした。

「おい、ケアー。なめるのは、ボボとチンチンだけにしときな」と言わんばかりでした。

僕はこの日からボブファンになりました。

2ヶ月後の『PRIDE8』。

ボブはブエノをパンチ3発でKOし、会場を興奮のるつぼにさせました。嵐のような歓声。沸き上がるボブ大コール。それらに混じって、聞こえてきた「ギリギリ」という欠場中のケアーの歯ぎしり（僕だけか？）。

ボブの強さが確信に変わり、僕はますます彼のコトが好きになりました。

そしてボブへの思いが決定的にとなったのは、それから2日後の『PRIDE.GP』の記者会見でした。

この日、何と小川さんが高田さんに殴りかかるという大ハプニングが起きました。

「あわわ、前田さんに続いて、今度は高田さんがやられてしまう」

誰もが思った、その瞬間、真っ先に小川さんを止めに入ったのがボブでした（グッドリッジも止めたが話に関係ないので黙殺）。

高田さんのため、その身を犠牲に立ち上がり、見事に血の惨劇を回避した、われらがヒーロー、ボブチャンチン。

そういえば金八先生も言ってました。

「困っているクラスメートを助ける勇気。それを持てない人間はどんなにいい成績をとってもダメ人間です」と。

まったくボブは優等生です。

奇しくも、彼は僕と同じ26歳。もしかしたら、同じクラスになっていたかも知れません。

こんな頼もしいクラスメイトがいたら、恐いものなんてありません。不良に呼び出しをくらっても、ボブが殴って一気に解決してくれますから（もっとも、自分がボブに呼び出しをくらったら最悪なんですけどね）。

さて話は変わりますが、僕は金八先生が大好きで、毎回かかさず見ています。

先日もこんなに素晴らしい台詞を言ってました。

「世間てのは綿菓子のようにあまくないんです。ビールのような苦さもあるんです。いろんな味があって人生なんです」

まさに今のケアーにピッタリの言葉。英訳してケアーに贈りつけてやりたい、そんな気分になりました。

また、金八先生。別の回では「君たちは見て見ぬフリして楽しいんですか？」などと、生徒よりも、プロレスのレフェリーにとって、耳の痛い台詞を吐いてました。

教育界だけでなく、プロレス界、格闘技界にまで、苦言・提言を発する金八先生。

こんなに熱心な先生が実際にいれば、非行に走る生徒なんてほとんどいなくなるのになあと、僕はつくづく思います。

しかし、この考え。姉に話したところ、彼女はこんなことをほざきました。

「まあな。アイツが担任やったら、常にカメラまわっとるからな。おちおち煙草も吸えんわな」

……姉。このバカチンが！

（紙のプロレスRADICAL NO23より）

第5戦『まいあがれヒロ斉藤』



1・4のドームで解説のマサさんが、しきりに挑発してくるマッチョマンに一発をぶちかましました。

すでに現役を退き、60も近いというのにこのパワー。

新日対UFO、山崎さんの引退などいろいろあった大会でしたが、僕は何よりも、このマサさんの勇姿に一番シビレました。

と、同時に「何故、この強さがヒロさんに遺伝しなかったのだろう」と思いました（まあ親子じゃないからあたり前なんすけど）。

2000年初のドーム大会。なのにヒロさんは試合すら組んでもらえませんでした。

武藤さんのセコンドで試合のなりゆきを、ただじっと指をくわえて見てるだけでした。

昔からそうです。マサさんが常に加害者なのに対し、ヒロさんは常に被害者です。

タッグの時など必ずヒロさんに攻撃の的が絞られ、みんなにコテンパンにされてます。

おかげで体はいつもパンパンに腫れあがってます（小太りのような気もしますが）。

フォールされるのもヒロさんです。

キャリア・年齢からして既にベテラン。なのにけして裕福でない彼の姿に、僕はつい思いをはせてしまいます。

これが並の神経なら「あ～あ！どうせ俺はいんちきマサ・サイトーだよ！」と自棄になり、傷害事件。ぶちこまれて長期欠場になっているところです。お父さんみたいに。

肉体以上に精神が鍛えられているヒロさんは、小川さんにやられるたびに登校拒否をしてしまう橋本さんとはワケが違います。

「ヒロさんの爪の垢でも煎じて飲め！」と橋本さんに諭してやりたくなります。

そしてヒロさんといえば、何と言ってもセントーンです。

小走りのヒロさんが突然、バナナの皮に滑ったかのように舞い上がり、寝ている相手に背中からドッシ～ンと落下する、マスカラスも顔負けの空中殺法。

ディック東郷さんや美咲華菜さんも、よくこの技を使用してますが、ヒロさんのと比べると「まだまだセントーンはまかせられないわね」と思ってしまいます。

というのもヒロさんのセントーンには非常に重みが感じられるのです。

「婢あつかいされ続けた、試合の間、俺はじっとこの瞬間を待ち続け、耐えに耐えて耐え抜いたのだ～！」という叫びが表情にありありで、技の名のとおり、威力が「千トン」あるように見えるのです。

ヒロさん怒りのセントーンに観客は惜しみない拍手と声援を送ります。そしてそれらを一身に浴び、悠々と宙を舞うヒロさんは、まるで真夏の太陽の様に眩しく輝いています。

しかし技としては、これほど完璧なものはないのに、何故か3カウントが入りません。

この謎をプロレス通（？）の姉に聞いたところ、彼女はこう説明してくれました。

「そらヒロが勝ったら絵にならんから、試合後に長州が怒りよんで。『コラー！　二度とセントーンできん体にしたろか！』ゆうてヒロの背中に、ごじんじょダイコの乱れ打ちをかましよるわ」

維新軍団時代のあんなしょうもない技をおしおきに使うとは到底思えないのですが、まあ姉の言ったことは当たらずとも遠からずかなあ、と妙に納得してしまいました。

ボロボロになり、花道を引き上げるヒロさんの姿には何ともいえぬ哀愁が漂ってます。

寡黙で地味であくまでバイ・プレイヤーに徹する、その真摯な姿勢、尊い犠牲に僕は崇拝に近い感情を持ってしまいます。

それゆえに田中リングアナのコールも僕の耳にはこの様に聞こえてくるのであります。

「青コーナー！　175センチ、105キロ！　ヒロー・サイコォー！」

（紙のプロレスRADICAL NO24より）

本誌発掘ネタ!!

元・本誌投稿戦士葛西純（サル・ザ・マン）がデスマッチでMr.デンジャー（松永光弘）に挑む!!

文・イナズマ★K
撮影・三浦店長
発掘・松澤チヨロ

投稿戦士サル・ザ・マンがデスマッチ戦士葛西純になるまで

すでに皆さん御存じの通り、先日行なわれたK―1ジャパンのグレート草津vs松永光弘戦で、タオルを投入したセコンドの葛西選手に対し、逆ギレ、ミスター・デンジャーが血まみれ制裁を加えるという大日本劇場が展開された。すでに会場は暗転後だったのだが、K―1のリングでそんなことやる度胸があるのは、極道社長グレート小鹿率いる大日本勢くらいだろう。秒殺されながらもただで転ぶような松永じゃない。そんな状況下で葛西にケンカをふっかけ次につなげるとは。さすがは海千山千乗り越えてきた孤高のデスマッチ・ファイター、もしくは平成不況も乗り越えてきたステーキ屋のマスター・デンジャーといったところか。

そんなこんなで、ここ最近、大日本周辺が非常に騒がしい。FMWから金村キンタロー選手が乗り込み山川竜司が見事返り打ち、WEWハードコア・ベルトまで頂いてしまった。さらには、ECW以上のハードコアぶりで一部で話題のインディー団体CZWもアメリカから上陸。WEC（ワールド・エクストリーム・カップ）トーナメントも開催されるなど、日本が誇るデスマッチ団体が一気に賑わいをみせているぞ。

ということで、先のK―1で遺恨勃発、松永光弘とのデスマッチ2連戦が決まった、大日本デスマッチ若手ナンバー1（すでに本間朋晃選挙はメインを張ってるので若手じゃないと勝手に断定）、葛西純にインタビューだ。葛西は今回紙プロ初登場ではあるのだが、レスラー・デビュー以前すでに誌面では常連だったのだ。

「ハガキ職人としてイラスト描いてました。当時、ガードマンの仕事してて、夜勤の常駐警備だったんです。暇な時間が多くて、隠れて描いてたんですよ。自分でも思ってもないほど載っちゃったんで、調子にのって描いてましたね（笑）」

そう彼はサラリーマンからサル・ザ・マンへ変身、レスラーになったのでした。

「その頃、維新力さんの店『どりんくばぁ』に通ってたんですよ。ウェイトトレーニングやってたんで、体は人並み以上にデカかったんですけど。そしたら、『プロレス好きなら身体を活かしてテスト受けてみたら』って言われて。バトラーツに履歴書送ったんですけど、書類選考でダメ。頭にきたってことで、ガードマンの仕事やめて北海道に戻ってたんです。だけど、デスマッチも好きだったんで今度は大日本を受けたんですよ。後楽園で試合あるから北海道から直接直訴しに行って、試合前にテストお願いしますって（笑）。もちろんアポなしです（笑）。自分ぐらいじゃないですか、大日本でもそんなことしたの、アハハハ」

なんてムチャな人でしょう。そんな彼が入門した時は同期が4人。中でも山川竜司選手に一番センスないといつも怒られてたのは彼だ。

「なのに自分だけ残っちゃって。初めて本間（朋晃）さんと練習した時なんか、体格的にも体力的にも雲泥の差で、この人には一生勝てないんじゃないかって思いました」

そういう、本間選手からフォールを奪う金星ゲット。まさに成長の証だ。そんな彼が一気に注目を集めるきっかけになったのは、昨年10月の山川&松永vsウィンガー&葛西戦。この日が彼のデスマッチ開眼記念日と言って良いだろう。

「でも、自分としてはただ単にボコボコにされただけなんで。回りが言うほどインパクトは残して無いですね。やられっぷりだけが目についただけで、自分としては納得も満足もして無いし。これからです」

今、本格的にデスマッチをやってる選手の中では一番小さいという葛西。とにかくイキの良いデスマッチ・ファイターとしての突っ走ってほしいぞ。ではデスマッチに惹かれたのはいつ頃からなのか。

「ボクはW★INGがかなり好きだったんですよ。いつか観に行ってやろうと思ってたら潰れちゃいましたねぇ。『ゴング』の表紙にもなってたポーゴvs松永のファイヤー戦とかインパクトありましたよ。あと、自分もウェイトやってたから松永さんの体が好きだったんですよ。トレーニングから帰って松永さんの試合のビデオ観ながらプロテイン飲んでましたからね。こういう身体になりてえって（笑）」

なんとそんな松永とデスマッチで



3月19日（日）K―JAPANのリングで行われたグレート草津vs松永光弘戦で、セコンドの葛西は哀れ、血ダルマに。ある意味ではおいしかったか？





グレート・チョロのハガキ劇場
番外編

対戦することになるとは。札幌テイセンで蛍光灯、秋葉原でファイヤーの2連戦だ。

「大丈夫なんですかね、エヘヘへ、向こうが。札幌で潰す気でいるんで、ファイヤーのことは考えてないです。恐怖心は全然ないですね。出たい時だけ出ておいしいトコだけとってくような人なら別に怖くないし。前と同じ自分だと思われてたら全然違いますからね。W★INGファン代表としてW★INGの象徴だった人を抹消します。札幌で潰して、秋葉原で焼いちゃいますよ」

さらにイキの良い発言は止まらない。

「松永が『蛍光灯やるんで、葛西はビビってTシャツ着てくるんじゃ無いかとか、長ズボン履いてくるんじゃないか』とか言ってるんで、何だったらハダシで、いやTバックでやってやりますよ。あっ、Tバックはちょっと痔ぎみなんでまずいんで（笑）・ハハハ、でもそんぐらいの覚悟で行きますよ」

葛西にとって、「松永戦は通過点」だという。彼の興味は早くもCZWの方に行っている。4・5名古屋大会でいち早く対戦した彼らの印象はどう？

「いやもう体はデカイは、パワーはスゴイはで。でも何より凄いのは肝が座ってるんですよ。大抵の外人って、なんか有刺鉄線が嫌だとかいろいろ言うのに、アイツら率先して蛍光灯も使ってましたからね」

ウワサの巨大ホッチキスの最初のエジキとなってしまったのはなんと葛西だった。

「ムチャクチャ痛かったですよー。でも、日本で最初にホッチキスくらったってことで言えばおいしいかなと（笑）。他の人嫌がるでしょうね。凶器の芝刈機も今回は未遂に終わったんですけど持ってきたからには誰か犠牲にならないといけないじゃないですか。ボクは全然平気ですね」



松永はデスマッチ・ファイターのパイオニア。受けの良さはピカ一の葛西にとっては凄惨な試合になることだけは間違いなさそうだ。

なんじゃこの度胸の座りぐあいは！　頼もしい限りだ。

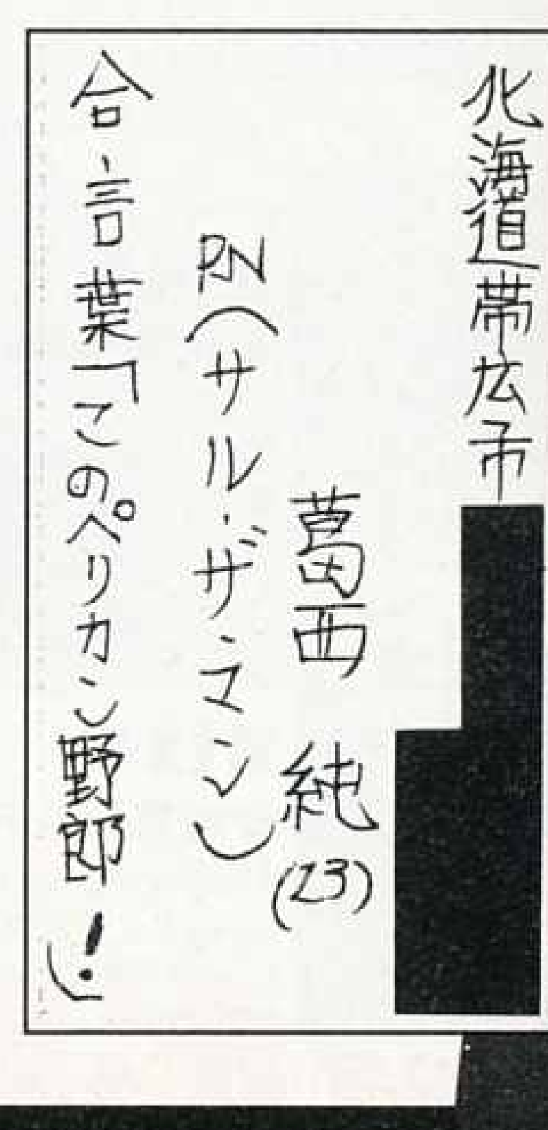
「でも、大日本のファンが求めてた外人なんじゃないですか。これからまた面白くなりますよ。ホッチキスのおかげでイラストまで頭回んなくなっちゃいましたよ（笑）。イラストを描くのは2年ぶりだったんで、またちょくちょく書きます」

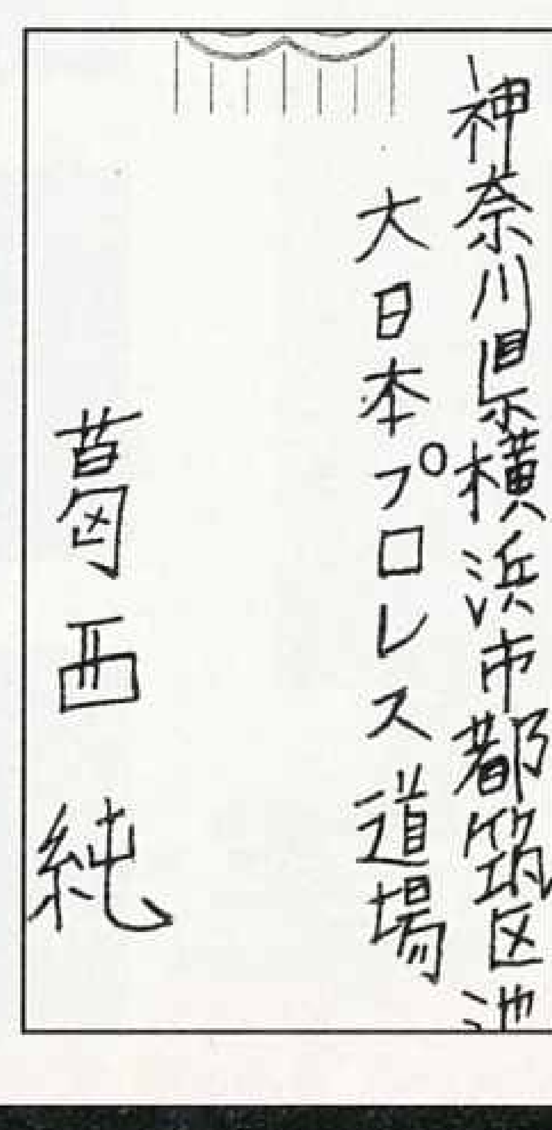
CZWという好敵手ゲットで、ハガキ職人も復活か!?　そんな彼から紙プロに注文があるそうだ。

「ずっと読んでましたね。でも最近はプロレスを応援するとか言って、格闘技指向が強いじゃないですか。格闘技見るのは好きなんですけど、もっとハメを外したレスラーのインタビューをもっと載っけてください」

そういう選手に葛西自身がなってほしいぞ。

「なっていきたいですけどね。どうなっちゃうんでしょうね（笑）。まあ何にしてもアクの強いのが好きなんです。紙プロもそうだし、女の子にしてもそう。綺麗、カワイイ娘は3日で飽きるんです。顔の作りにしても特徴のある、目が離れてるような、ちょっとずれてる顔が好きなんですよ。そういう意味ではうちの団体もちょっと……だいぶズレてますね（笑）」





本文中にもあるようにアメリカのNO.1ハードコア団体CZWが、芝刈機や巨大ホチキスといった狂気の凶器を持ち込み大日本勢と血で血を洗う抗争を展開中！　入国の際に税関で止められて、その使用理由を「マーダー（殺人）」と答えたというから、トンデモない!!

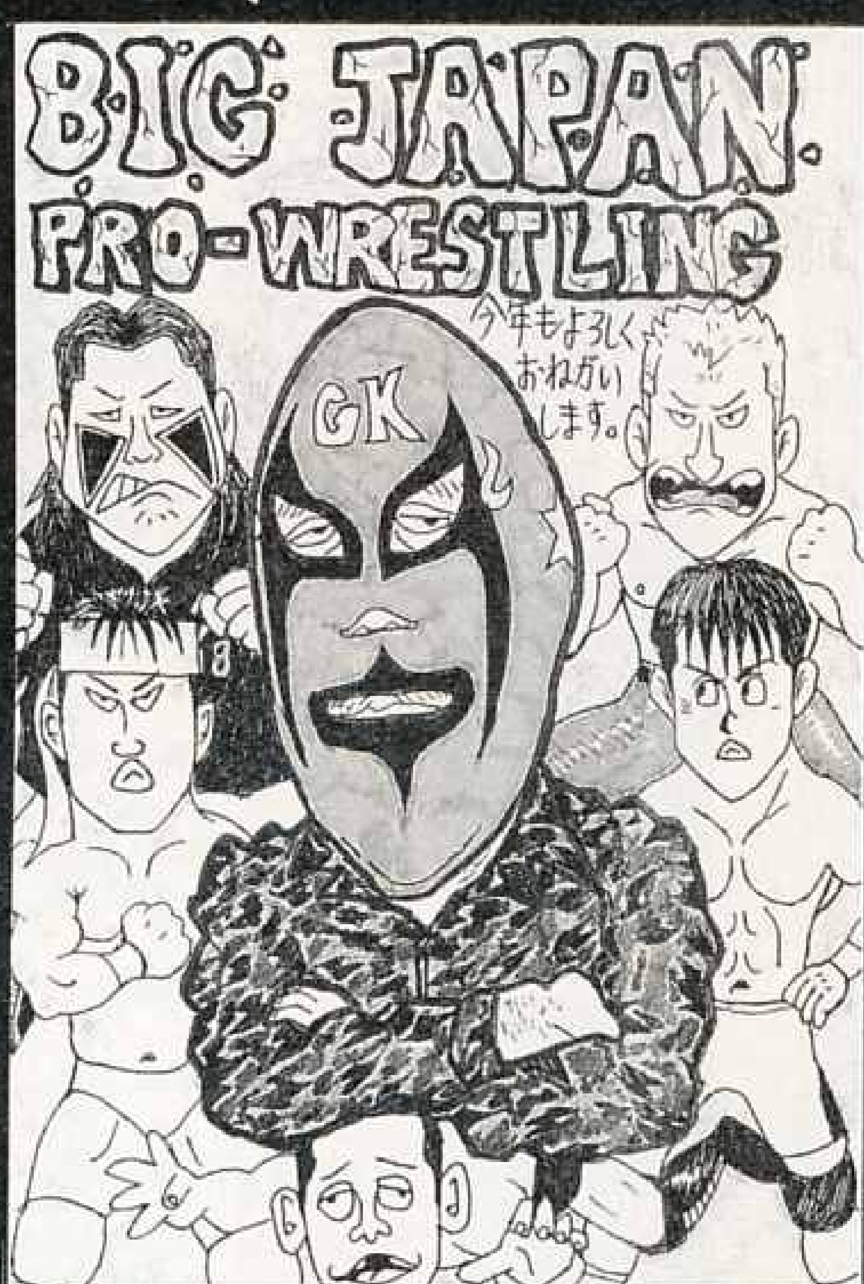
4月30日（日）北海道・札幌テイセンホール
※松永光弘 vs 葛西純（蛍光灯ボードデスマッチ）
5月3日（祝・水）東京・秋葉原駅昭和口前広場特設リング
※松永光弘 vs 葛西純（ファイヤーデスマッチ）
お問い合わせ■大日本プロレス ☎045・937・0811

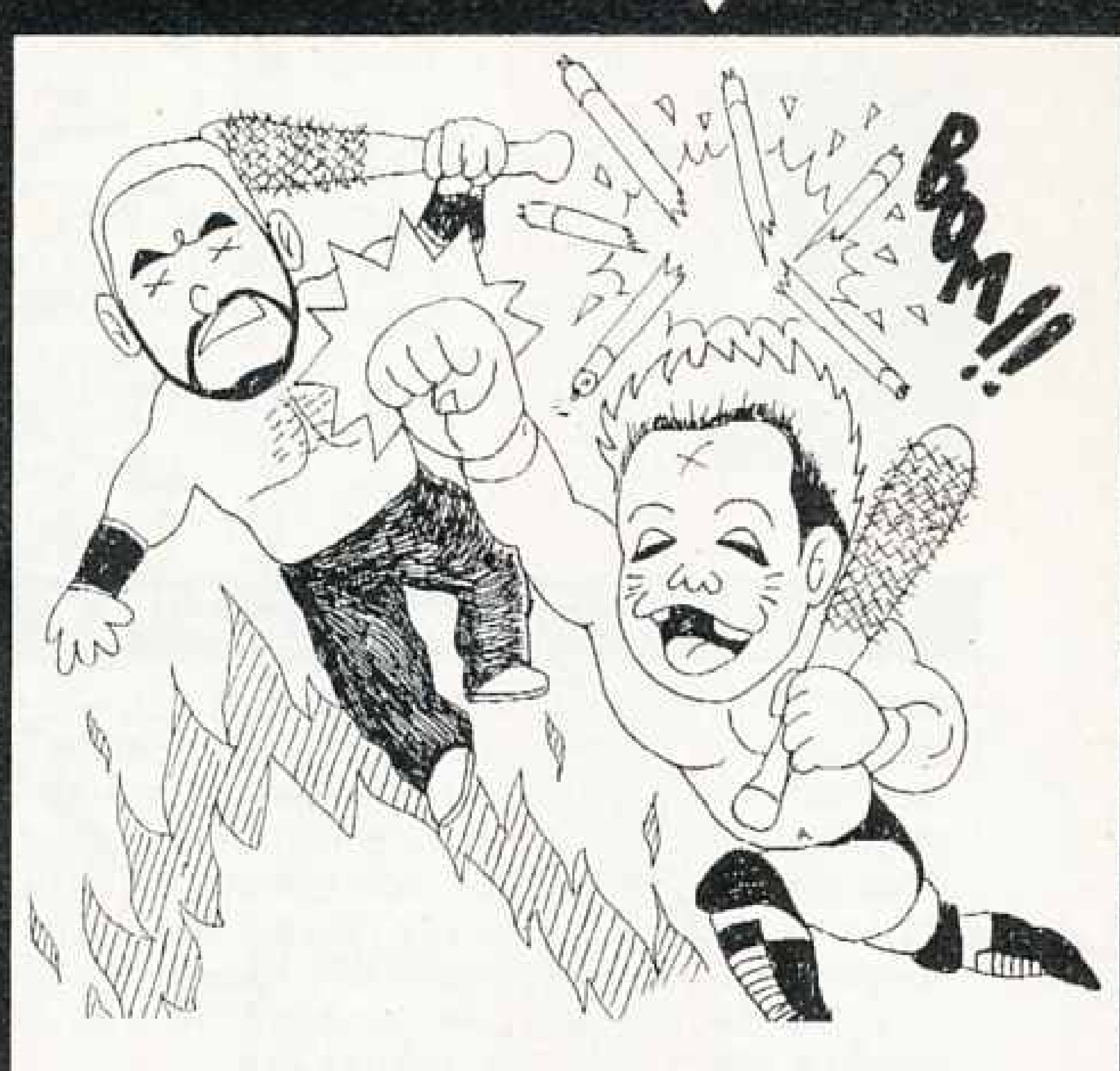
DRAWING A ~~BATHING~~ APE
サル・ザ・マンの部屋

本誌8号に掲載されたサル・ザ・マンこと葛西純の激ウマイラスト。カシン×カタブツというセンスもさることながら、パッとしないオッサンを描かせたら右に出るものはいない！　他にも桜庭を描いたイラストがNO.9に掲載されているので、こちらも必見だ！



当時、めざましい勢いで活躍していた怪覆面GKを描ききった。それとは裏腹に、なぜか手抜き感漂う大日本の精鋭4選手&自分の似顔絵は肩の力を抜きすぎたのか、それとも私情が加わったのか……。それでも、各選手の特徴はしっかり捕らえている。





vs松永戦に向けての意気込みをイラストで表現してもらったのだが、イラストの腕前は落ちてないか？　ただ、このイラストからは「いまはイラストよりもプロレス」というハートはびんびん伝わってくる。





第5号
★特集「たたかいグランプリ」
特別寄稿鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男/ロングインタビュー馳浩/デビル雅美vs氏神一番/脅威の連載陣! 高田文夫、ナンシー関、浅草キッド



第8号
★特集「さらば新日本プロレス」
ワイド座談会/初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー/セメントインタビュー関根勤/恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た



第11号
★特集「狂気とは何か?」
怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里/プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記



第12号
★特集「色気とは何か?」
村松友視が前田日明を語る!/「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所説教」事件勃発記念座談会/蝶野正洋も登場!/色気王A・猪木も登場



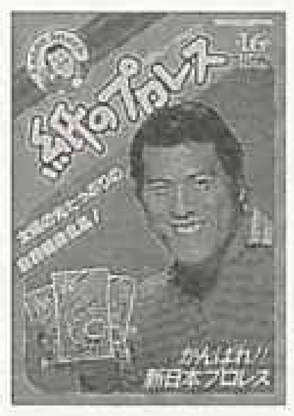
第13号
★特集「道場破りとは何か?」
安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー/サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場



第14号
★特集「神秘とは何か?」
佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!/遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!



第15号
★特集「インディペンデントの逆襲」
インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人 高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二/巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー



第16号
★特集「新日本凸凹大学校」
『紙プロ』的昭和新日総力検証 マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー/ユセフ・トルコvs由利徹対談



第17号
★特集「実況パワフル北朝鮮」
猪木×永島のナマハゲ対談(© 大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!? ブル中野、破壊王も登場/巻末特集「藤原組の逆襲」



第18号
★特集「高田延彦さんへ愛をこめて」
引退宣言の読み方座談会/サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場!/新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!



第19号
★特集「さようなら紙のプロレス」
『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!/サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー



第20号
★特集「劇的格闘技」
真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー/山口昇と東京シュガーベイブ結成記念 ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場



第21号
★特集「幻的格闘技」
古武道を通じてプロレスを考えよう! 前田日明も登場!! スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!/高田文夫、ユセフ・トルコが登場



第22号
★特集「この人が喝っ!!」
巻頭インタビュー・ジョージ高野/プロレス雑誌を斬る!!/高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー/M・マスカラス宣言号



★猪木とは何か?
スキャンダルにまみれていた時期の猪木を直撃! どうってことねえよ!/村松友視、立川談志、告発仕掛人・仙波記者が登場! 新間のPKO発言を誌上再録



★パンクラス公式読本
〜矛〜
97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!/なぜか突然、佐山聡が登場!/故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載



★パンクラス公式読本
〜盾〜
97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?/故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!



★極真とは何か?
不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!/松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー



★紙の前田日明
〜インタビューという名のエネルギー史〜
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!/引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!/完全保存版

伝説に触れたい人のための申込み方法

●現在は1号〜4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』は完売しました。ノーダウト!!●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号〜22号は780円となります。●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円、『紙の前田日明』は送料込みで、サービス価格の2000円となります。●送料は1冊=310円、2冊=340円、3冊〜4冊=450円、5冊=520円、6冊以上=700円となります。●10号、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

【現金書留送り先】
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで

【郵便振替振込先】
00130-3-769154 (株)ダブルクロス
※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。絶対おつりのないようにお願いします!

JPEC SYSTEM PRESENTS

女子総合格闘技 ReMiX WORLD CUP 2000

女子プロはそれほど取り上げていない『紙プロ』だが、LL退団後の八木淳子を発見したり、女柔術家の渡辺千景 刺青格闘家の多和田初美など、プロレス界では開花できなかった格闘家を取り上げたのだが、どれも軒並み好評であった。しかしながら、現在の女子格闘技界において、こうした人材を活かせる場所はほとんどないというのが現状である。そんな女子格闘技界に、黒船『ReMiX』が来襲したのだ！ どうする女子格闘家？

聞き手＆撮影／チョロ
interview & photographs by Choro



私は既に数十人の格闘家を確保した

女子格闘家の夢の舞台を作りました。ドンドン利用しろ！



NEO代表 **篠 泰樹**

私は女子格闘技界に万里の長城を築く

勝手に猪木イズム継承宣言!!

●参加決定格闘家●



気は早いが 驚異のメンバー集結!!

12月5日(火) 日本武道館開催決定!!





篠泰樹代表にはもうひとつの顔がある。それはDDTでの篠社長というキャラクターだ。金の力で選手を引き抜いたり、リング上でパラパラを踊ったり、『篠社長のオールナイトニッポン』でDJをしたり、最近は試合にまで出場しているのだ。一方で、『PRIDE.GP』に対抗して『誇り.GP』を企画するなど、格闘技にもうるさい男である。

『ReMiX』のパーティーの模様を報じる『ファイト』（4／6付）。「無事12・5武道館を迎えられるか不安視されているのも確か」「篠代表には、わずか2年でネオを崩壊させた前科があるため、マット界での信用はいたって低い」等といったネガティブな内容に、篠代表も「応援してくれる人達に失礼です！」とお怒りの様子だった。


ファイト　2000年4月6日

3月26日、極真空手 春季関東地区錬成大会
堀田無念のベスト8
思わず出た顔面パンチで減点
秋季大会に再挑戦

『ReMix WORLD CUP 2000』
ネオ崩壊の"前科"に「どこにそんなお金が?」の声も
『サンクス』などをスポンサーに
女子版PRIDEへの期待

3・21パーティー
豪華けんらんド派手な演出
総額3000万円、優勝賞金1000万円
女柔術家E・トーヒルに注目

3月21日、ホテル・ニューオータニで、女子総合格闘技イベント『ReMiX WORLD CUP2000』の発表パーティーが盛大に行われた。12月5日に日本武道館で行われるこの大会は、過去に行われた女子格闘技イベントを上回るものになりそうな勢いがある。なにしろ優勝賞金は聞いてビックリ1千万！　前田社長ではないが、「お金が欲しい人は来てください」状態なのである。この大会の仕掛人、篠泰樹NEO代表は一体何をしようとしているのか？　話を聞いてみた。

——一部では、12月の武道館大会開催を不安視する声も出てますけど、大丈夫ですかーッ！　篠さん（笑）。

篠　SWSの時も一緒ですけど「応援しましょう」と言ってくれる人達がいるのに、その人達に対して失礼ですよ！　それに「大会はなくなるかもしれません」ということを記事にする必要はないじゃないですか？　例えば一般週刊誌がそういうことを書くのは分かるんですけど、同じ世界でやってるプロレスマスコミがそういうことを言うのはおかしくないですか？っていうのは凄く思いますね。プロレス界のよくない体質ですよ。だから僕らに対して批判的な人達に対して言いたいのは、間違いなく武道館大会は実現しますよ、ということです。

——『ファイト』では、篠さんのことを「マット界での信用はいたって低い」とまで書かれてましたからね（笑）。やっぱりDDTのリング上でパラパラを踊ったりする〝篠社長〟というキャラクターの影響も多少あると思うんですよ。

篠　（呆れて）いいんじゃないですか。だって、信用がなかったら、いまやってないわけじゃないですか！　僕は（アントニオ）猪木さんが好きでずっとプロレスを見てきましたけど、猪木さんだって、言って実現できたことと出来なかったことがあるわけだし。でも結果が残ってきたから、いまの猪木さんがいるわけですよね。僕はプロレス団体を初めてまだ3年目ですけど、猪木さんが旗揚げ3年目で何をやってたかってことを考えてもらえばいいわけで、いまは周りから何を言われようが気にならないです。これから実績を作りますから（きっぱり）。

——わかりました。それじゃあ、篠さんから『リミックス』の設立目的を簡単に説明してもらえませんか？

篠　『リミックス』は『紙プロ』で言っていたような「新プロレス」っていうもののひとつに成り得るんじゃないかなと思うんですよ。僕はプロレスが勝つとか負けるとかじゃなくて、この大会を通じて新しいヒロインが生まれればいいなぁと思ってるんで。確かに「今まで活躍してきたプロレスラーが出ます」っていうのも戦略的には必要だけども、それよりも、いままで表に出てないけど「こりゃ、凄いわ」っていう子が上がってくることの方が重要じゃないかなと思ってます。

——八木（淳子）さんは「新プロレス」という意味ではヒロインになれる要素を持った選手だと思ってるんですか？

篠　もちろんです！　『紙プロ』で八木を見た瞬間、ひらめいたんです！　だから『紙プロ』さんのおかげなんです。ありがとうございました（笑）。

——どういたしまして（笑）。八木さんの実力は、今の女子格闘技界の中でどの程度のレベルだと見てますか？

篠　いまのレベルではまだまだだと思いますよ。例えば、浜口京子ちゃんだって毎日死ぬほど練習してるわけですから。八木は正直言ってLL（PW）を辞めてからほとんど練習してなかったわけで、勝てるかって言ったら勝てないッスよ。ただ、これからはあの子が練習だけに専念できる環境を作ったんで。ウチでは特別待遇してますから！

——アハハハ。言い切りますか（笑）。

篠　いいですよ。だってその分強くなってもらわないといけないですから。

——女子の総合格闘技の大会というと、どうしてもL－1と比較されますよね。L－1に出場した八木さんやベッキー・レビーも出るわけだし。

篠　L－1は相手にしてないです！　別にけなすつもりはないですよ。L－1は凄いなと思うし、風間（ルミ）さんも頑張ってるなって思うし。でも、簡単に言うとL－1って、オクタゴンですよね。オクタゴンと言えばUFCですよね。「UFCは日本でメジャーですか？」って言ったらメジャーではないですよ。それは何故かって言ったら殺伐としてるからですよ。それはそれで好きな人がいるかもしれないんで、いいんですけどね。だから僕は、別にL－1を見て『リミックス』をやろうと思ったわけじゃなくて、K－1とか『PRIDE』を見て『リミックス』をやろうと思ったんです。猪木さんが格闘技をやろうというのと同じことです。藤田（和之）を格闘技部門として送り出したのと同じような気持ちですよ。

——ルール的には、リングスのKOKルールに近いですよね。

篠　KOKは凄く参考にしてますよ。僕は割と女子プロの団体の人だとか、インディーの人だと思われがちですけど、別にそうじゃなくて安生洋二とかヤマケン（山本喧一）とか他にも交友関係は広いんで、このルールを決める過程の中でも様々な格闘技関係者の人とコミュニケーションとった中で一番いいルールかなぁと思ってるわけですよ。格闘技は格闘技ですけど、僕はスポーツとしてこの競技を捉えて欲しいし、寝技と立技系の選手が混じり合えるステージとして『リミックス』のルールを作ったつもりなんで。より展開がスピーディーでお客さんが見て楽しめるように。

——膠着はさせないと（笑）

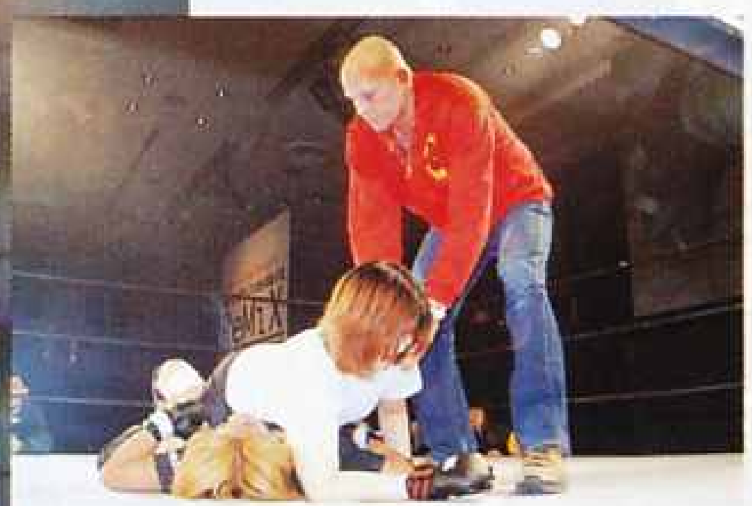
篠　そうです！　それと、『リミックス』をやっていく意味っていうのは、今はプロレスラーを育てる土壌があまりにも少ないじゃないですか。でも『リミックス』をやって行く中で「プロレスをやってみ



取材は篠代表の希望で、元Uインター代表、現・串焼き屋店長、鈴木健氏の「市屋苑」で行われた。篠代表はトイレに飾ってあったUインター時代の「夢と1億円」が表紙の『週プロ』を持ち出し記念撮影。さあ、今度は篠代表が選手に夢を与える番だ！

ない?」って声をかけれるんですよ。「私はリミックスで25歳までやって、その後はプロレスをやりたい」っていう子がいてもいいと思うんですよ。
――そういうことは前田（日明）さんも言ってますよね。若いうちは格闘技をやって、それからエンターテインメント方面に行くっていうことですね。
篠　そうです。現に今オファーしてる外人選手の中で「この大会に出た後でプロレスもやってみたいんで合わせてよろしく」って言ってる人もいますよ。
――篠さん的には、他のプロレス団体にはこちらからは声をかけないというスタンスなんですよね。
篠　別にプロレスラーが出る必要はないと思ってるんです。ただ「本当に出る気があるならどうぞ」と。でも出ないでしょ。全然世界が違いますから、野球をやってる人に「サッカーの大会に出ませんか?」って言ってるようなものなんで。それでも出られるっていう奇特な方がいればぜひどうぞ。
――奇特な方ですか（笑）。
篠　だから元気美佐恵が出たいって言ってるって聞いた時には、奇特だなって思ったんです。「へぇ〜、やる気があるんだな」って。ただ、あの子の場合はこの大会に出たいってことよりは八木に勝ちたいってことだから、「まんまと罠にかかったね、美佐恵ちゃん」って感じですね（笑）。だってエリン・トーヒルだってベッキー・レビーだって本物ですよ。本物って言い方をしたら変ですけど、実績を持ってる子たちですよ。特例は八木ぐらいですよ。でも、なぜ八木を特別扱いするかっていうと、日本人のスターを育てなきゃいけないのと、八木が「私は勝ちますよ」って言ってくれたからですよ。まあ「八木に変わって私が日本を背負います」って子がいれば考えますすよ。でもいないでしょ?
――う〜ん、いないですかねぇ。
篠　でも、エリンとかベッキーはホントに強いッスよ。ベッキーをよく知ってる人に言わせると「ベッキーに勝てる選手はいない!」って。でも八木はその方達に負けないような秘密特訓をさせますから!
――秘密特訓!?　いったいどんな特訓をさせるつもりなんですか?
篠　海外武者修行とでもいいましょうか。まだ正式には決まってないですけど、国内でも一流のトレーナーを付けますし。僕はとりあえず、主催者側でずるいですけど（笑）、八木を勝たせるためにトレーニングをさせます。基礎能力はあるんで、後は打撃と精神面、それに肉体改造ですね。1年間さぼってきた部分での肉体と精神面を磨き上げるために、友達とコミュニケーションをとれない環境で特訓させます。特別待遇といっても彼女にとっては苦しい環境にはおきますよ。
――武道館レベルでこういう大会を開くとなると、どうしてもプロレスラーの知名度は必要だと思うんですけど、各団体にも格闘技戦に対応出来る選手っていますよね。全女だったら中西（百重）選手とか、伊藤薫選手…。
篠　（遮って）今の女子プロの中にはいないと思うので考えてないです!　例えば、井上京子対堀田祐美子って見たいですか?　僕はそんなに見たくないですよ。それはプロレスのリングの中でやればいいじゃないですか。そうじゃなくてこの大会でしか見れないような試合をマッチメークすることに意味があるわけですから。僕は女子プロ同士の試合はあんまり見たくないんで、だったら井上京子対浜口京子の方が全然見たいですよ。
――あぁ、それは見たいですね。「世界最強の京子はリミックスが決める!」って感じですね（笑）。
まあ、女子プロ同士の試合でホントに見たいのは、神取忍対八木淳子とかですね（笑）。
篠　僕も見たいですね（笑）。でもそれはここじゃなくてもやれますよ。
――篠さんが日本人選手で一番出て欲しい選……。
篠　（すかさず）浜口京子!　いま日本で最強と言われてるのは浜口京子だから浜口京子に出て欲しいです。





スーパーバイザー ジェラルド・ゴルドーはReMiXをどう見るか?

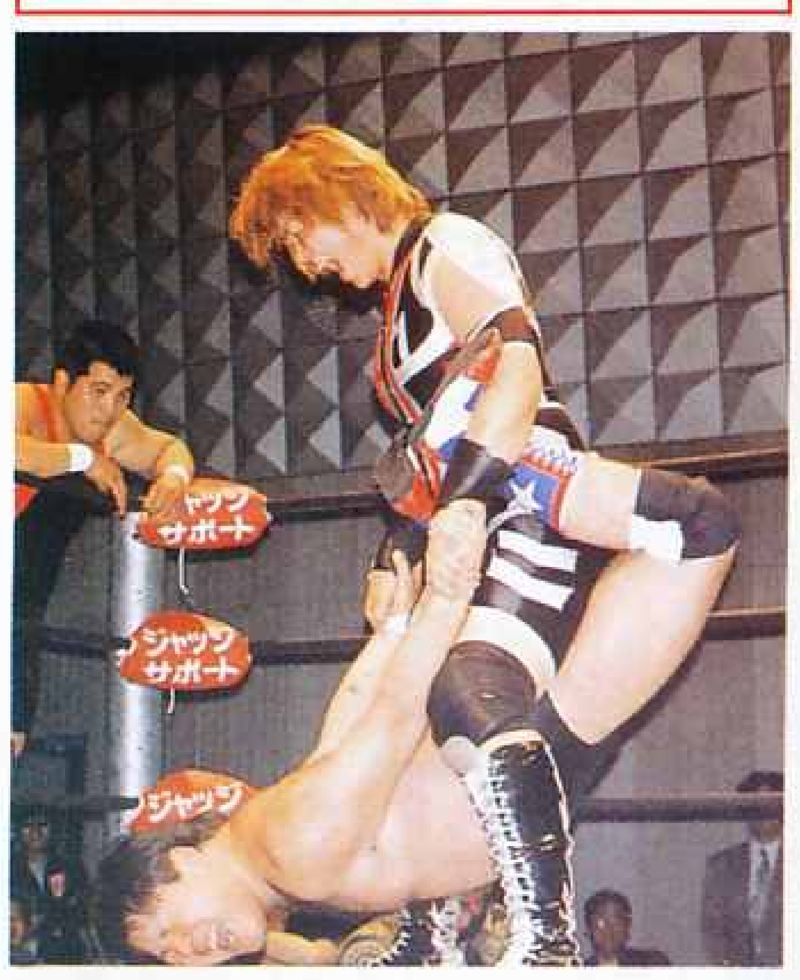
パーティー会場でジェラルド・ゴルドーの姿を発見。何かと思ったらゴルドーは『ReMiX』のスーパー・バイザーだという。この後、エキシビジョンのレフェリーを務めたゴルドーは「このルールは非常に素晴らしい。男子でもっと早く取り入れるべきでした。押忍!」と感想を述べた。『ReMiX』にカマクラジムからの刺客は現れるか?

JPEC SYSTEM PRESENTS
女子総合格闘技
ReMiX
WORLD CUP 2000

この大会でしか見られないような試合を必ずマッチメークします!

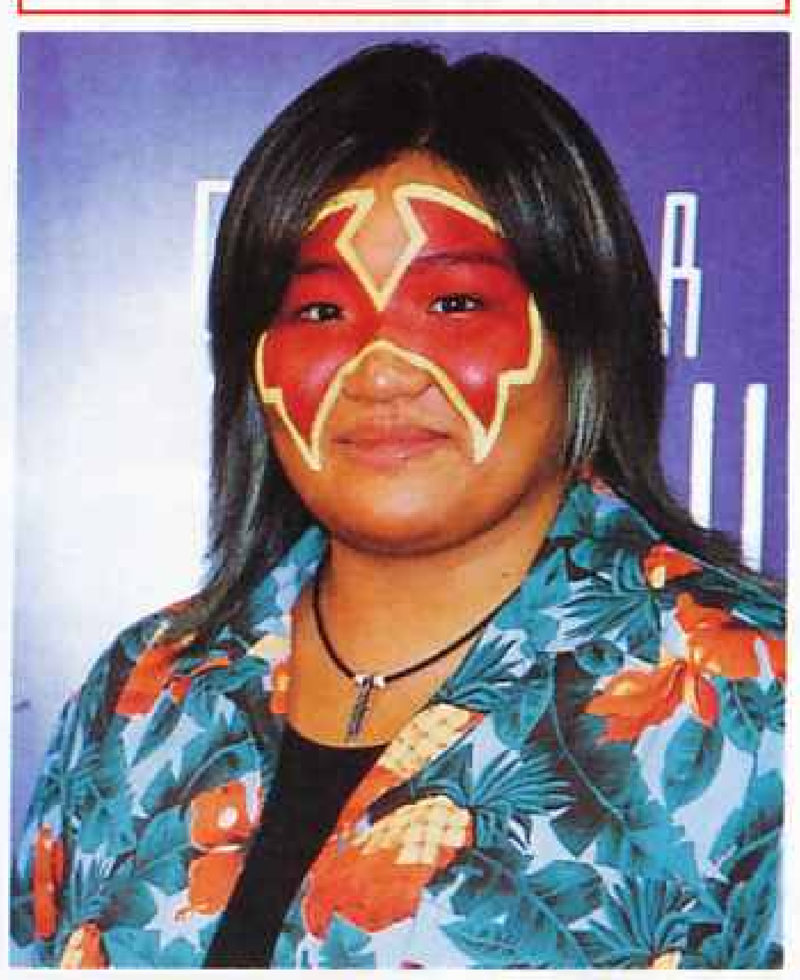
ReMiX WORLD CUP2000参加決定選手

元気美佐恵?



NEOの格闘技部門に八木淳子が入団すると、真っ先に噛みついたのが元気である。「プロレスルールでも格闘技ルールでもいいんで八木と闘いたい!『ReMiX』には自分も出ます。参加させないといったら乱入してでも参加してやりますよ!」と一部誌上でフライング発言。篠代表は「乱入はさせません。でも今の美佐恵じゃ八木に勝てないですよ。出たいんだったら練習場所を提供しますよ」とのこと。どうする元気?がんばれ元気!

井上京子



京子の格闘技戦といえばバリンヤー戦が記憶に新しいが、設立パーティーでは「人より凄く頑張ってる人とか、人より凄い強い人がもっともっと有名になってお金持ちになればいいなと前から思ってました。そんな自分の思いを全て果たしてくれるのがこの大会だと思ってます。そして、プロレスラーがもっともっとメジャーになるためならば、私はどんなことでもチャレンジしていきたいと思ってます!　応援して下さいッ!」とコメント。これは応援するしかない。Go　Go　京子!

ベッキー・レビー



現USWFヘビー級チャンピオンで、これまで何でもありの大会においては負け知らず。ウェイトリフティング全米チャンピオン、柔道黒帯など、あらゆる競技にて驚くほどの実績を積み重ねているビッグママ（byアニマル悌団）。本人もやたらと自信満々で「勝つ自信はあります。勝つ自信がなかったら今日ここに来ていません。トーナメントは3試合あるので、なるべく早くKOで決着をつけます!　ノーフィアー!!」と言い放った。

エリン・トーヒル



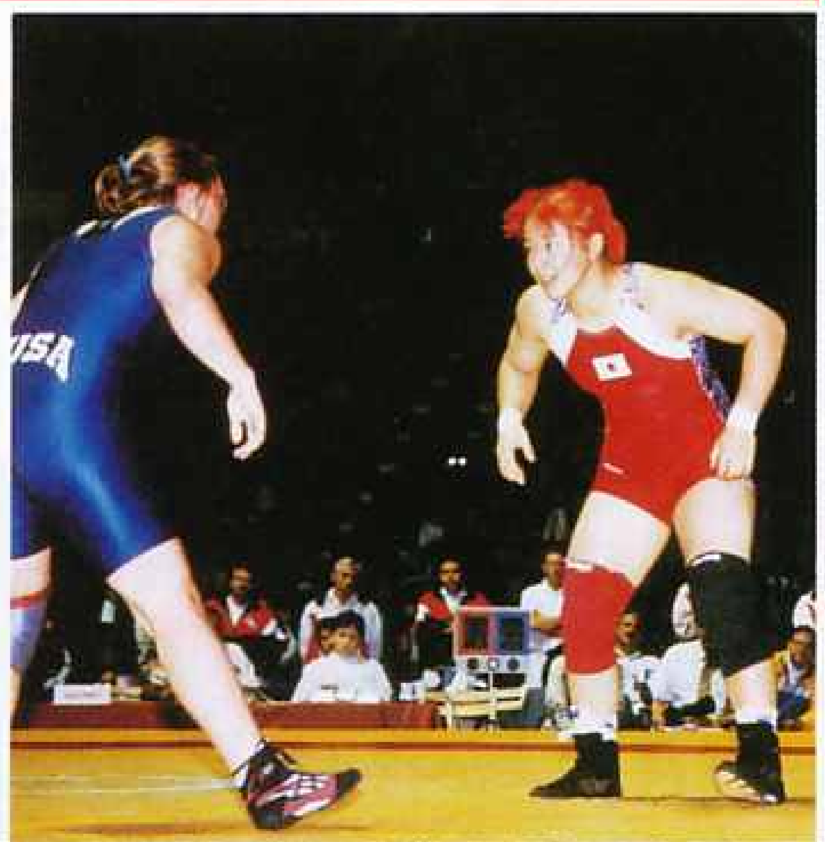


ヒクソンの弟子、クレバー・ルシアーノの元で修行し、アメリカ柔術界の頂点ともいえるカルフォルニア柔術トーナメントにおいては、97年、98年、99年とデビュー以来負けしらず、3年連続優勝をほこる身長178cm、体重100kgの22歳の刺青マンレディー。パーティー会場では「まだ時間がありますので練習に集中して大会に望みたいと思います。私はファンが面白く見れる試合ならどんなルールでもかまいません」と、グレイシー系らしからぬイイ女ぶりを発揮。脱ぎっぷりもよく、ズバリ要注目!

ReMiXワールドカップ2000にぜひとも出場していただきたい選手

現在、12・5日本武道館大会に出場が決定しているのは、井上京子、八木淳子、エリン・トーヒル、ベッキー・レビーの4選手。他にも篠代表は、モハメド・アリの娘レイラ・アリ、サンボ世界選手権銀メダリストの藤井恵をはじめとした女子格闘技界の大物にも出場を打診しているという。篠代表、この選手達も『リミックス』に呼んで下さい！

浜口京子



日本が世界に誇る女子格闘家・浜口京子。ちっちゃな頃から、ボディービル、極真、アマレスなどで鍛え上げたその強靭な肉体は半端なものではない。総合格闘技でもその強さを発揮するのは間違いなく、篠代表も出場を強く望む選手である。

山本美憂＆聖子



現在の日本女子格闘技界において、強さと技術と美しさの三拍子兼ね備えた選手といえば美憂と聖子の山本姉妹の名が挙げられる。2人ともアマレスだけではなく、総合の技術も持ち備えており、男性ファンが最も出場を期待する選手と言えるだろう。

多和田初美



『紙プロNO23』での刺青ピンナップで一躍脚光を浴びた多和田。プロレス、そしてキックでの試合経験もあり、『ReMiX』にはもってこいの選手と言えるだろう。体格的にはライト級になるだろうが、はたして多和田は動くのか？　要注目である！



渡辺千景



『紙プロNO22』で取り上げたピュアブレッド大宮所属の渡辺千景も出場が望まれる選手である。階級的にはライト級になるだろうが、一度対戦が流れているレカとの対戦も期待したいところだ。元レディースという過去も篠代表的にはたまらないはず。

レカ・ヴィエラ



女ヒクソンと異名を持つ黒帯柔術家レカ。この4月に柔術セミナーで日本を訪れた際、50キロ台にもかかわらず「無差別でもかまわない」と篠代表に電話を入れてきたというから実に力強い。トーナメント参加の可能性が非常に高い選手と言えるだろう。

――出て欲しいですよね。でも賞金一千万っていうのは凄いですよね。

篠　女子格闘技の中では史上最高額でしょうね。

――一部では「どこにそんなお金があるんだ？」って声も出てますけど。

篠　（遮って）どこにお金があるのか教えて上げますよ。サンクスです！　それとジェイペックという企業がお金を出してくれるんです。……でもNEOにはお金がないです！（苦笑）。

――NEOにはお金がない（笑）。

篠　NEOはお金ないッスよ。大変ですもん（苦笑）。でも『リミックス』は他にも続々と「ウチも応援します」って言ってくれてる企業が出てきてますよ。パーティーの模様は関西のスポーツ新聞の一面にもなりましたから。

――阪神の新庄選手を呼んだ効果がありましたね（笑）。確かにパーティーは凄かったです。この業界に入ってから一番豪華なパーティーでしたね。

篠　平成のSWSですよ（笑）。僕はSWSの旗揚げ発表パーティーに行ってるんですけど、それを上回ってる自信があります。でもさぁ、夢がなかったら格闘技やれないじゃないですか？　「夢を作ろうよ」って意味でここまで打ち上げたんですよ。経費を言いましょうか？　今回のパーティーの予算は三千万円使ってますよ。

――えええっ！　三千万ですか？

篠　だってニューオータニですよ。いいですよ、なんとか飯店とかその辺の町の居酒屋でパーティーをやっても。でもそれのどこに夢がありますか？　ここまでやるから夢があるんですよ。パーティーに参加した人はホントにお金があるんだなって思うでしょ？

――確かにお金がなきゃ、あんなド派手なパーティーはできないですよね。

篠　お金はあるんだって！（笑）。ニューオータニでビジョン作って、新庄を呼んで、アニマル悌団呼んでやってんだよ！　それを見せるためにやったんだよ！　打ち上げたんだよ！

――お金があるのはよ～くわかりました（笑）。

篠　金だけじゃないとは思うけど、金がなければ夢は手に入らないでしょ？　悲しいけど、いまの女子プロでは、そこまで出来ないから総合格闘技で夢を作ったんです。だから、これを批判するんじゃなくて、「利用しろよ！」って。全プロレスラーに言いますよ！

――自分の力に自信があるならドンドン利用しろってことですね。

篠　自信があるならっていうか、プロレス界を崩壊させたくなければ利用しなきゃダメですよ。『PRIDE』だってなんだってみんなそうでしょ。そういう格闘技の波は来てるんだって。それが現実なんだから。「一千万もらえるんだ」って、いまから特訓する子がいてもいいじゃないですか。「来年は出よう」と思っててもいいじゃないですか。そのためにやるんですよ。それを足ひっぱんなっちゅーの！（笑）。

――それは言えますよね。

篠　せっかくお金を集めてきて、女子格闘家にお金が渡るようなシステムを作ったわけですから。海外の選手なんかで、1万円もあれば1ヶ月、楽に暮らせる選手もいるわけですよ。一部の国の選手は多分死ぬ気で来ますよ。国の名前を出すと問題になりそうだから言わないけど（笑）。ベッキー・レビーなんて、初対面の第一声が「ありがとう」ですよ（笑）。「サンキュー・ベリー・マッチ」ですよ！

――彼女の中ではもう賞金はもらったも同然なんですね（笑）。

篠　「私は試合も組んでもらえなかったんだけど、今回は試合も組んでもらえるし、お金ももらえるなんて、なんて光栄なんでしょう。ありがとう」ですよ（笑）。「ちょっと待ってよ、おばちゃん」みたいな感じですけど（笑）。

――見た目はおばちゃんですけど、実績もあるし相当強いんですよね。

篠　「ウチにはもっと強い選手もいるぞ！」って言ったら、「ううん、全然負けないから！」って言ってました。

――ヒクソンの孫弟子にあたる、エリン・トーヒルも、「ルールはお客さんが楽しんでくれるならなんでもいい」って言ってましたよね。とても好感が持てるグレイシー系ですけど（笑）。

篠　グレイシーとかってそういうところがうるさいですよね。でも僕はこのルールは絶対に曲げないです（キッパリ）。『PRIDE』は曲げたじゃないですか？　僕は曲げないですよ。文句を言うんだったら出なくていいですよ！　僕は気分は石井館長ですよ。「K−1は殺し合いじゃありません」って言えるようなね（笑）。

元・Uインター代表、現・市屋苑代表 鈴木 健氏はReMiXをどう見るか？

自分がやってきた男の世界でもそうだけど、女の子も同じような方向性に行くのは大賛成だよ。大変だと思うけど篠さんだったらやり遂げてくれると思うんだよね。（頭を指して）ここが違うから（笑）。でも日本には柔道でオリンピックに出てる女の子とか、レスリングやってる女の子とか、世界的に見ても強い子が多いじゃない？　その中から必ずスターが生まれてくると思うんだよ。出て欲しいのは、浜田文子かな。文子は空手やってたし強くなると思うよ。あとは山本美憂の妹の聖子ちゃんだね。強いかどうかはわかんないけど、可愛いじゃん（笑）。この間、コンバットレスリングの会場で一緒に写真撮っちゃったよ（笑）。でもやっぱりジャイ子を出した方がいいんじゃない？



JPEC SYSTEM PRESENTS
女子総合格闘技
ReMiX
WORLD CUP 2000

ReMiXのホントの狙いは、街のまだ見ぬ強豪の発掘なんです

――あと前田さんですね。「ジス・イズ・ジャパニーズルール」っていう（笑）。

篠　イエス・ミー・ツゥーですよ。気持ちは前田イズムですよ。でも、僕は安生と仲がいいからなぁ（笑）。

――アハハハハ。あとインターネット放送が決まってるんですよね？

篠　今回の大会はインターネットで全世界に配信します！　電話が繋がるところはどこでも見れますよ。キーポイントは言葉が要らないエンターテインメントですよ。WWFになると言葉がないとちょっとキツイですけどね。

――WWFとかは確かに字幕があるとないとじゃ大違いですからね。

篠　例えば、アメリカでも中国の片隅の子でもインターネットを通じてこの試合を見ることが出来るんです。「一千万くれるなら私も出たい」と。どうやって応募するの？」ってクリックすると応募要項が出てくるんですよ。

――中国の奥地から2m級の大女が出てきたら夢がありますよね（笑）。

篠　アマゾンのアマズネス軍団が出てくるとかね（笑）。だから来年以降はもっと面白くなるんじゃないですか。

――篠さんは『リミックス』という格闘技部門とプロレス部門も両方やっていくわけですけど、いくら時間があっても足りないんじゃないですか？

篠　だから、今までは出版の仕事とかゲームの仕事とかをしてたんですけど、このために全部やめました！

――えっ、他の仕事はやめちゃったんですか？

篠　やめましたよ。いまはこれしかやってないです。極論を言うと、僕はジェイペックシステムっていう会社の役員だったんですけど、これのために仕事が出来ないんで辞任しましたから。これに人生を賭けてます！

――それは凄い意気込みですね（笑）。

篠　今までとは意気込みが違います。だって誰かがやらないとマット界は変わんないですもん、同じことをやってても。

――現状のマット界を根本から変えようとしているわけですか？

篠　やっぱり再結成したクラッシュ2000も話題になってるし、飛鳥、長与っていうのも凄いと思いますよ。でも僕はもっと新しい層を開拓したいんですよ。あとは僕は馬鹿だからぁ（笑）、猪木さんが「マット界続行ッ！」って言ってるから僕も従ったんです。「道はどんなに険しくても笑いながら歩こうぜ！アリガトーッ!!」ですよ（笑）。

――猪木イズム全開ですね（笑）。

篠　でもホント猪木さんと同じことをやってると思ってるんですよ。僕は猪木イズムを勝手に継承してるんで。だから非難される筋合いはない！　でもある意味で、この間のタッキー対猪木戦は『紙プロ』じゃないですけど、今のプロレス界に対する投げ掛けだと思うし、それを僕なりに解釈して答えを出していってるんですよ。「なんでNEOは格闘技とエンターテインメントの両方をやるの？」っていう問いに対してはそういうことですから。僕の中では何をやってもプロレスですから。タッキー戦もそうだし、（ウィリアム・）ルスカ戦とか（モハメド・）アリ戦も、格闘技戦とは言っても全部プロレスですよ。

――篠さんには、猪木イズムに前田イズム、石井館長イズムまで入ってるわけですね（笑）。

篠　でも言い方は変ですけど、猪木さんの流れで前田さんとか石井館長はみんないるんですよ。みんな元を辿れば、猪木さんなんですよ。僕から見れば猪木さんに影響されてますよ。だってみんなキ○○イだもん（笑）。

――ヒャハハハハ。でも面白い人ってみんなそうですよね。

篠　僕もキ○○イですから。でも普通の人に誰が憧れますか？ってことですよ。普通じゃないから憧れるわけじゃないですか？　僕は大仁田厚という人間にも憧れて、FMWの旗揚げの頃にずっと手伝ってたんで、いまでも大将とは仲がいいですから。僕の中では猪木さんと大仁田さんは似てるんですよ。みんな変ですから（笑）、サラリーマンレスラーじゃないんですよ。

――今はサラリーマンレスラーが多くなってきたって言われてますよね。

篠　それじゃ、ダメなんですよ。それと『リミックス』のホントの狙いは、街のまだ見ぬ強豪の発掘なんです。

――ストリートファイターですか（笑）。

全女を辞めた中原（奈々）さんとか、「喧嘩だったら負けない」っていう女の子は多いでしょうからね。

篠　プロレス的な芸術点はなくても、直線的な勝負だった負ける気がしないって子がいると思うんですよ。全国のヤンキーの皆さんに朗報です！　あなた方が輝ける場所がここにある！　履歴書に写真を同封して送ってきて下さい！　でも見たいでしょ？「何とか連合代表のなんとかです」って肩書で出て来るんですよ（笑）。

――それはいいですねぇ。スケバン対グレイシーとか見たいですね（笑）。

篠　『元気が出るテレビ』みたいなバラエティー番組とかと絡めてね。元気美佐恵も『元気が出るテレビ』出身だから、ありだと思うんですけどね。いると思うんですよ、絶対！　栃木とか群馬にいると思うんですよ（笑）。

――ヒャハハハハ。いそうですねぇ（笑）。

篠　ツッパリ・ハイスクール・ロックンロールとかで入場してきたらいいんじゃないですか（笑）。紅夜叉がいっぱい出てくるような感じで。

――リアル紅夜叉ですね。

篠　「補導歴3回ッス、よろしくッス、カメラやめて下さいッ！」みたいなね。

――ヒャハハハハ。それ最高！

篠　でも、『リミックス』はいずれは甲子園に次ぐ競技にしようと思ってますから。そこまで掘り下げていって、アマチュアクラスを作って、最終的にはプロレスに行くと。なんと壮大な計画なんでしょう（笑）。

――最終的にはプロレスで吸収しちゃおうと。いいとこ取りですね（笑）。

篠　当たり前じゃないですか！　僕はプロレス村の人ですから。全ての道はプロレスに通じるんです！

【00年3月30日、東京・市屋苑にて収録】

全国の力自慢の女の子に朗報！



「お金が欲しい人は来てください！　欲しくない人は来なくていいです！」。インタビュー中で篠代表が言っているとおり、この夏に予定される『ReMiX』ライト級（60kg以下）アジア予選トーナメント、12月5日の『ReMiX』無差別級トーナメントに出場を希望する女子格闘家（ヤンキー、レディース、スケバン、力自慢、喧嘩自慢でもOK！）を募集します。履歴書、写真を同封の上、NEO事務所「輝きたいの係」まで応募して下さい。もちろん、プロレス志望の女の子も随時募集しています。すべての宛先は〒153－0042　東京都目黒区青葉台4－22－2－101　株式会社NEO　TEL.03・5452・0344まで



ReMiXから PRESENT

「NEOにはお金がないけど、『ReMiX』にはお金があるんです！　お金はあるんだって！」（by篠代表）。ということで、篠代表のご好意により、設立パーティーで振る舞われた『ReMiX』特製清酒と『ReMiX』携帯ストラップをセットで10名の方にプレゼントします。あなたが『ReMiX』で見たいカードを書いて、P159の読者プレゼントコーナーと同じ宛先まで送ってください。

桜の季節に、総合格闘技1年生・八木淳子誕生!

YAGI JUNKO



LLPW離脱後、本誌が発見して独占インタビューを敢行した八木淳子。「この巨大な才能を眠らせておく手はない!」というわけで、各団体からのオファーが数多く舞い込んだようだが、最終的に八木が選択したのは篠社長率いるReMiXプロジェクトだった! というわけで、桜の季節に新たなスタートを切った、ピカピカの総合格闘技1年生・ヤギジュンに、満開の桜の下でインタビューしてまいりました!

聞き手/チョロ
interview by Choro

撮影/森“モーリー”鷹博
photographs by Morry

12・5ReMiX
女・小川直也の道を突き進めーッ!



出るからには優勝目指しま～す。結構、負けず嫌いなんで、ウフフフ。



——八木さん、パチンコ屋は辞めちゃったんですか？

八木 はい、辞めちゃいました（笑）。これからはマジメに練習に専念して頑張りま～す（笑）。

——頑張って下さい。ありがとうございました…って、それじゃ終わっちゃうじゃないですか！（笑）。

八木 お疲れさまで～す（笑）。

——ヤギジュン元気！って感じですね（笑）。え～、今回NEOの格闘技部門の一選手としてマット界に戻ってきたわけですけど、決め手はズバリ何だったんでしょうか？

八木 やっぱ格闘技だったんでやってみたかったんですよ（笑）。プロレスだったら、多分戻らなかったし、やらなかったと思うんですけど、篠（泰樹代表）さんは格闘技部門の選手としてという話だったんで、それだったらって感じで話が進んでいったんですけど、はい（笑）。

——八木さんは、この間のウチの雑誌のインタビュー（『紙プロNO21』）の後に、『UWFスネークピットジャパン』に入って練習してたんですよね。過去形みたいですけど（笑）。

八木 そうで～す（笑）。宮戸（優光）さんや（ビル・）ロビンソンさんにもご指導されてました（笑）。ホント行きたい時に行ってぇ、みたいな感じでしたね。やっぱスパーリング系の練習って目標がないと本腰入れて出来ないなぁ、みたいなところがあって。でも自分はウェイトとかランニングとか、あと腹筋を割らすのが好きなんですよぉ（笑）。

——今も腹筋割れてるんですか！ み、見せてくれませんか？（エロ）。

八木 いや、今はその上に飲み過ぎて脂肪が付いちゃって（苦笑）。LL辞めて……普通運動しなくなったらあんまり飲まなくなるじゃないですか？ それが全っ然ペースが変わんないんですよ（笑）。

——タバコもやめたみたいですね。まだ今日で禁煙二日目ということでしたけど（笑）。

八木 かなりキツイですねぇ（笑）。やっぱニコチンパワーというの絶対あるんですけど、でも今回の試合は3ラウンドなんでスタミナが必要じゃないですか？ それを考えて真剣に取り組もうということで、やめることにしました。これが時間無制限一本勝負とかだったら、試合前に「プカ～ッ」って吸っていけますけどね（笑）。



——今回は本腰入れてやらないと、これは勝てねえだろって思ってるんですか？

八木 そうですねぇ。フリーとして参戦する試合ならいいですけど、今回は会社も関わってるんで、せっかく自分がフラフラしてるとき拾ってくれて、なおかつ持ち上げてくれる会社なんで、私なりに会社の名前も大きくしてあげたいなぁっていうのがあるんですよ。それに、やっぱ出るからには優勝したいじゃないですか。こんなへらへらした顔してますけど（笑）、結っ構、負けず嫌いなんですよぉ。

——篠さんも「八木は特別待遇します」って言ってますし、八木さん自身も期待されてるのをヒシヒシと感じてるわけですね。会社の名前を大きくしてあげたいってことですけど、LL時代はそういうところまで意識はいってなかったわけですか？

八木 そういうのはなかったですね。そこまで考える余裕がなかったっていうのもありますけど。

——この間、風間社長に話を聞いたら、「あの子は精神的に弱いところがあるからねぇ。また逃げないように頑張って下さい」というようなことを言ってましたけど（笑）。

八木 あぁ～、でも大丈夫じゃないですか。ただ自分は寮生活っていうのが大っ嫌いなんですよ。やっぱある程度、先輩後輩の関係は大事だとは思うんですよ。でも、四六時中先輩といるとか、そういうのが全っ然ダメなんですよ。

——帝京大学の柔道部時代ってそういうのはなかったんですか？

八木 ないですね！ ある程度の敬語と礼儀さえちゃんとすれば、友達のように接してたんですよ。LL時代はそういうこと出来なかったんで、先輩の言うことが絶対っていう感じで。そういう世界では自分は絶対のびません!!（笑）。

——ヒャハハハ。断言しますね。



八木 はい、ダメで～す（笑）。今は、NEOの選手ともたまに会って話はしますけど、ずっと一緒ってわけじゃないし、自分は一人暮らしのままですから。それだったら多分逃げるとかはないと思うんですよ。

——この間のプレ旗揚げ戦で、NEOの選手は、元気美佐恵さんを筆頭にみんな八木さんに対しては感情的になってましたけど。

八木 でも、面白くないと思うのが当たり前じゃないですか？ やっぱり人間ですから、嫉妬もしますし、妬みもあると思うんですよ。だから、別にそれはそれでどうも思ってないですけど。自分が試合で結果を残せばいいことですからね。

——元気さんは「八木はプロレスを逃げた女じゃないか。プロレスでも格闘技でもルールは何でもいいから、私と闘え！」って言ってますけど、12月の大会前に試合をする可能性もありそうですね。

八木 元気さんが「やりたい！」って言って、社長が「出ろ！」って言うならいいですよ（笑）。でもプロレスは……やりたいとは思わないですね。とりあえず今のところは、自分は格闘家っていうか格闘技選手だと思ってるんで、プロレスのことは、まだ考えてないです。もしやるんだったら、ヒールで出ますよ！ 凶器使って（笑）。

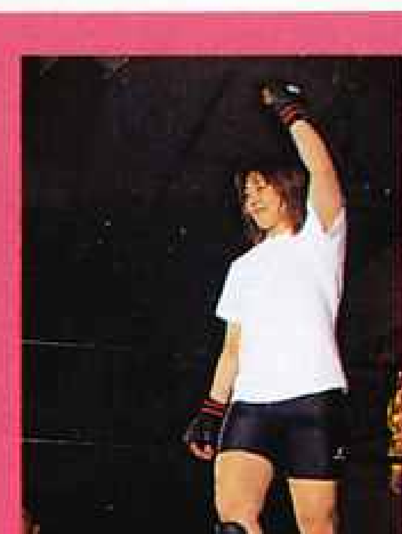
——ヒール願望があるんですか？

八木 自分、ヒール願望あるんですよぉ。メイクして凶器持って、一回やりたいですねぇ、ウフフフ。い

2000・3・21 「REMIX」開催パーティー じゅんぴぃアラカルト



帝京大学の後輩達が、八木先輩と記念写真。近い将来、この中から日本の女子総合格闘技を担う人間が出てくるかも知れない。今からチェックしておけ！



相変わらずの物怖じしない堂々とした態度で入場してきた八木。この逸材を眠らせておくのは本当にもったいない！



なんとホテルニューオータニには入場ゲート＆特設リングが組まれ、リミックスルールで遠藤紗矢とエキジビションマッチを行ったヤギジュン。Tシャツとスパッツという出で立ちは実に色気があった。



会場でジェラルド・ゴルドーと抱き合うヤギジュン。これで『リミックス・スーパーバイザー』であるゴルドーのハートをがっちりキャッチ。ヤギジュンのUFOオランダ大会参戦はあるのか？

YAGI JUNKO



つもヒール軍団にやられてたんで、やっぱ悔しいじゃないですか！ たまにはやらしてくれよ！って感じで（笑）。

――「たまにはやらして」（笑）。NEOから話がある前に、UFO入りも考えてるって言ってましたよね。

八木 そうなんですよ！ UFOは女子はないですけど（笑）、もう猪木さんに会いに成田（空港）まで行っちゃおうかなとか考えてて（笑）。それでダメだったらあきらめようと思ってた矢先に篠さんが来てくれたんですよ、最寄りの駅まで（笑）。

――最寄りの駅までですか（笑）。まあ篠さんも猪木信者ですからね。でもUFOには、なんかピンとくるものがあったんですか？

八木 小川（直也）さんと橋本（真也）さんがやってるのをテレビ見てて、「あっ、凄い。殴ってる、あっ、やりてぇ」とか思って（笑）。

――「やりてぇ」って男じゃないんだから（笑）。でも同じ柔道出身として、八木淳子は女版・小川直也になるべきだって、よく話してるんですけど、篠さんもそういう考えなんですよね。

八木 え〜、私がですかぁ。でも自分は小川さんのようなタイプじゃないと思いますけどね。

――八木さんはどういったタイプなんですか？

八木 あっ、江頭（2：50）ですぅ。昔っからいいなと思ってたんですけど、でも最近は江頭を見てると心が和むというか、ウフフフ。

――男の好みじゃなくて（笑）。

八木 アハハハ。なんですかねぇ、小川さんって一つの執念を持ってやってるじゃないですか？ 自分は違うんで。自分はただ……う〜ん、説明出来ないです！（笑）。

――ヒャハハハ。篠さんは八木さんを近々、某有名ジムに練習をさせて、夏ぐらいから大会直前まで海外のこれまた有名な方のところで特訓させるって言ってましたけど。

八木 多分そうなると思います。でも自分あんまり外国とか好きじゃないんですよ。自分は日本が一番なんで（笑）。

――でも、それが実現したら、日本人の女子格闘家としてはおそらく初めてですから話題になりますよ。女版・小川直也になるには肉体改造も必要ですからね（笑）。

八木 私も肉体は改造するつもりなんで。今のままじゃ、まだまだダメですから。半年くらいたったら変わってますよ。その予定でこれから造り上げていくんで。余分な脂肪を取って筋肉増やしてっていうのを目指してるんですよ。ただ、この8ヶ月間本腰入れて練習してなかったんで、今の時点ではハッキリ言って自信ないですけど、でも、やっぱ勝ちたいっていう気持ちがあるんで、12月までには絶対間に合わせるつもりです。



――篠さんは、他のプロレス団体の選手より、モハメド・アリの娘のレイラ・アリとか格闘家を出場させたいって思ってるみたいですけど、八木さんはどう思います？

八木 そう思いま〜す。その方がいいと思いますよ。

――確かに今は、女子プロレスラーより浜口京子さんとか、山本美憂&聖子姉妹とか女子格闘家が注目されてるところがありますからね。八木さんもあまりプロレスラーとは闘いたくないみたいなこと言ってましたよね。

八木 闘いたくないですねぇ。私はプロレスと格闘技は別に考えてるんで、それを一緒にやって格闘技の試合となったら、また違うと思うんで。レスラーの方はプロレスを頑張ってやってった方がいいと思いま〜す（笑）。やりたいっていうんだったら、それはいいんですけど、練習の仕方も全然違うし自分はあんまりやりたいとは思わないですね、プロレスラーとは。

――逆に、浜口京子さんとか女子格闘家と闘ってみたいっていう感じなんですか？

八木 そうですね。そっちの方が今は注目してますね。

――浜口京子さんをよく知る人に聞いたら、今の浜口京子に総合の試合で勝てる女子はまずいないって言ってましたよ。

八木 あぁ〜、凄い強いみたいですからね。出てきて欲しいです。浜口京子さんは特に！ 待ってま〜す。

――ヤギジュン対浜口京子戦は是非とも見たいです。そういえば、前回取材した時に「結婚もした〜い♥」とか言ってましたけど、当分できそうにないですね（笑）。

八木 そんなこと言ってました？（笑）。遠い夢になっちゃいましたねぇ。でも今は強くなりたいってことしか考えてないですから。

――八木さんには期待してるんで、ホント練習頑張って下さい。

八木 頑張ります！ でも、お酒だけはやめませんよ。多分飲まなくなったら、弱くなると思うんですよ。自分はお酒はガソリンだと思ってるんで、ウフフフ。

【00年4月2日、東京・九段下『La Fiesta』にて収録】



頑張って練習しま〜す！ でも、お酒はやめません お酒はガソリンですから



たったひとりのカラー写真名鑑 2000

八木淳子



❶八木淳子❷S50年8月9日❸愛媛県松山市❹AB型❺172cm❻78kg❼H10年8月16日、東京・後楽園ホール、vs堀田祐美子&前川久美子（パートナーは神取忍）❽LLPW（H10年〜H11年）パチンコ店（H11年〜H12年）❾なし❿柔道（三段）⓫スリーパー、ネブ投げ（巴投げ）⓬スロット、酔っ払ってなんちゃってブッチモニを踊ること、掃除⓭江頭2：50、藤井隆、RICAKO⓮酒、ラーメン、スイカ⓯じゅんぴぃ⓰肌を合わせて「あっ、コイツつえ〜！」と思ったヤツがライバルになると思うので、まだいません！⓱「試合に向けて頑張りま〜す」

❶本名❷生年月日❸出身地❹血液型❺身長❻体重❼デビュー戦❽プロレス歴・入門以後の経路❾主要タイトル歴❿スポーツ歴⓫得意技⓬趣味または特技⓭好きな有名人⓮好きな食べ物⓯ニックネーム⓰ライバル⓱抱負

甦れ! 月曜7時ゴールデンタイム伝説



ライオネス飛鳥

昭和の女子プロレスラー魂爆発!!

長与千種

伝説だよと笑いたければ笑え!

CRUSH 2000

クラッシュ2000

クラッシュギャルズからクラッシュ2000と名前を変え、5・14有明で実に11年ぶりに復活するクラッシュ。全盛期には「全日本女子プロレス中継」の視聴率を20%まで引き上げるほどの人気を誇ったこの2人。今回はそのルーツを探るべく、今まであまり語られることのなかった"昭和の女子プロレス"の世界に潜入。そこには確かに「プロレス」が存在し、彼女たちは本物の「プロレスラー」だった。

聞き手/堀江ガンツ
interview by Gantsu Horie
撮影/黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

――ウチの雑誌は、普段は女子のページが少ないんですけど、今回ばかりはクラッシュ人気に便乗してってわけじゃないんですけど（笑）、ドカーンとカラー7ページ使いますんでよろしくお願いします。

千種　ありがとうございます。ということは女子じゃなかったんだな、ウチら（笑）。

――でも、普段女子プロをあまり扱わない雑誌からページを取るほうが燃えませんか？

千種　あんまり「女子」っていうの意識したことないんですけどね。

――ブル中野さんなんかは「女子プロレスの中野じゃなくって、プロレスの中野って言われたい」って言ってましたけど、そんな感じですか？

千種　いや、（男子プロレスと）やってることって、そんなに変わんないって気がするから。違いって言ったら筋肉が乗ってるか、乗ってないか。上まで隠すか、隠さないか。もっとC調な言いかたすると、突出してる部分が上か、下かっていう部分だけだから（笑）。それ以上、なにが違うのかなって。

飛鳥　自分も、女子だからどうのっていうのはないんですよ。プロスポーツとして、女子プロレス自体が市民権を得てないっていうところでは、それを変えていかなければいけないなっていう部分はありますけど。

――では今日は、いわゆるクラッシュの再結成に至る話は専門誌にまかせて、僕はそれ以外の……。

千種　結婚についてですか？

飛鳥　ないなぁ（笑）。

――（無視して）今回は昭和の女子プロレスラーの凄みにスポットを当ててお話を聞いていこうと思うんですよ。ご自分たちでは「昭和」と「平成」のレスラーって、どういう部分が違うと思いますか？

千種　一緒だよ（笑）。自分に聞かないほうがいいですよ。トンちゃん（飛鳥）、ちゃんと話して。



男も女もやってるプロレスに変わりない。違うのは隠す部分だけ。

――ボクなんかは端から見ていて昔といまの選手だと、新人時代の厳しさ、ハングリーさが違うんじゃないかと思うんですけど。

飛鳥　いまの若い子らも練習時間とか、内容っていうのは落ちてないと思うんですよ。ただ、受け入れる門が広いか、狭いかじゃないですか。昔は全女しかなくって、凄く狭い門だったものが、いま窓口が増えたことで広くなったと思うし。

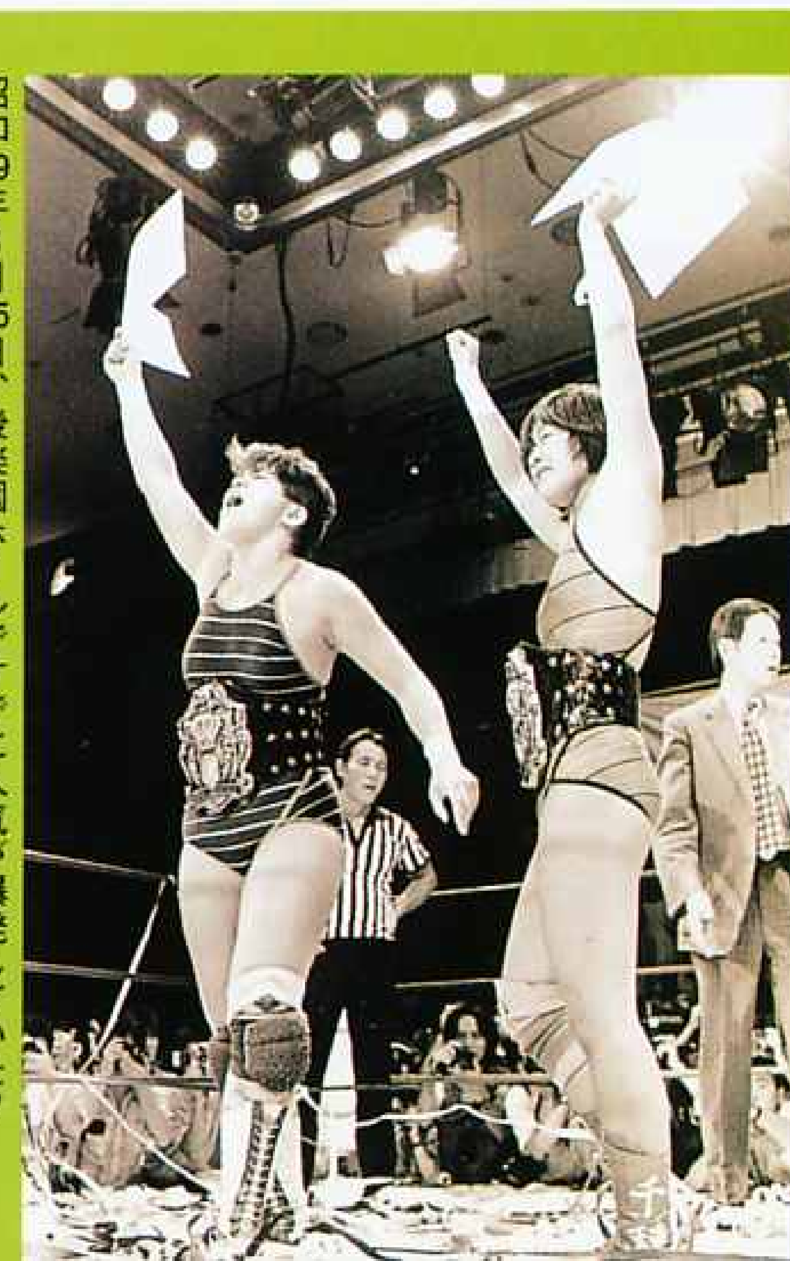
千種　あれじゃない？　いま、就職難って言われてるけど、フリーターとかでお金稼ぐ方法って、いくらでもあるじゃないですか。その部分が女子プロ界にも増えたってことですよね、単純に言えば。入りやすくなったから、そこまでの価値観しかないんじゃないかな。「行きゃ、入れるんじゃないか」って感じで。

飛鳥　志願者が少なくなったっていう部分では、いま現在プロと名乗ってる選手の中で、人に憧れられなきゃいけない職業だっていうことを認識してる人間が少なくなったんじゃないですかね。

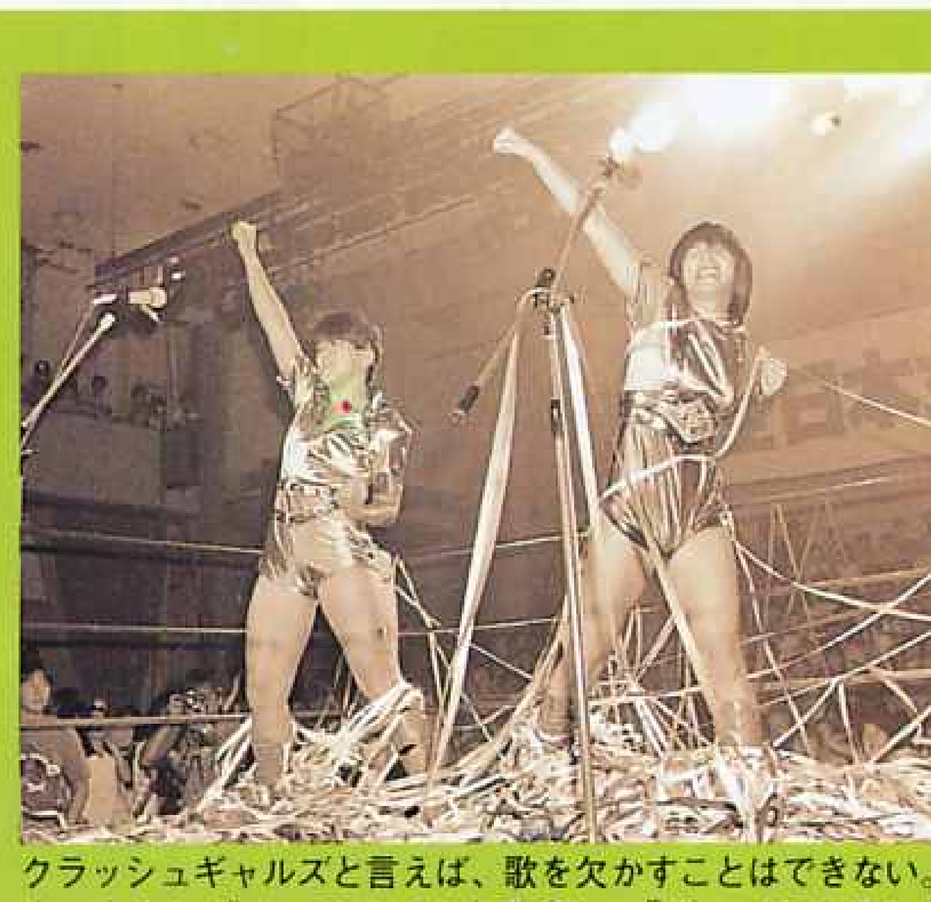
――ということは女子プロレスラーを憧れの対象に戻すっていう意味でもクラッシュ復活っていうのは、起爆剤になり得ますよね。

飛鳥　クラッシュ復活については「いまさら組むなんて」って言う人は、読者にも関係者にも選手にもいると思うんです

甦れ！クラッシュ伝説



昭和59年8月25日、後楽園ホールですでに人気が爆発していたクラッシュが、ジャンボ堀、大森ゆかり組を破り3度目の挑戦でWWWAタッグ王座を奪取。この頃から会場は女子中高生で溢れ、テレビは月曜7時からのゴールデンタイム、全盛期には20％近い視聴率を獲得するほどの人気だった。



クラッシュギャルズと言えば、歌を欠かすことはできない。次々とシングル、アルバムを発売し、「ザ・ベストテン」「ザ・トップテン」等にも出演（スポットライトだけど）、コンサートのチケットはプロレスのチケット以上に入手困難であった。



【98・11・29横浜アリーナ】女子プロレス40周年記念と銘打たれたこの日。飛鳥のタワーハッカーボムを受けた関西が失神昏倒する事件が起きてしまった。そのときショックを受ける飛鳥に手を差し伸べたのが、89年に引退して以来、全く接点がなかった千種。クラッシュ再結成はこの日が原点だ。

よ。でもひとつ言いたいのは、いまの長与千種、ライオネス飛鳥は昔の名前で成り立ってるわけじゃないっていうこと。私も千種も一度引退して戻ってきたわけだけど、復帰した時点では、ゼロ以下から始まってるわけですから。

——お二人とも復帰してからしばらくは罵声とブーイングが凄かったですよね。

飛鳥　思い出したら腹立ってきた（笑）。

千種　でも、それだけウチらみたいな存在に飢えてたわけでしょ。「こういう人、他にいなかったわけ？」って思ったよ（笑）。良くも悪くも、復帰してからこの7年っていうのは20年分ぐらい勉強しましたね。

飛鳥　罵声を浴びながら私たちはそれを吸収して、いまがあるっていうことですよ。

——だからある意味、この5年間で女子プロ界で一番成長したのはクラッシュなんじゃないかって感じもしますね。

千種　勉強しましたよ。でも、復帰したとき久しぶりに見たプロレスっていうのが凄く小っちゃく見えたね。「プロレスって、こんな小っちゃいもんじゃないだろう、これじゃあときめかんだろうな」って。

——具体的に言うとどういうことですか？

千種　技術的には進化したんだろうけど、感情が全然見えてこなかったもん。ウチらが若いときっていうのは、ベルト取って本気で泣けてたよね。「今日からチャンピオンだ！　ベルト持って帰るぞ」ってホントに家まで持って帰ってね。それで次の日からはチャンピオンという重圧で本気で悩んだし。

飛鳥　ベルト取ったら先輩と組んでも、先輩のほうが先にコールされるわけですよ。

千種　それで悩んだ時期もあったよね。でも、素直に悔しくってリングで本気で泣けたし、本気で笑えたし、全部の感情の









CRUSH 2000

度合いがいまとは違う気するね。いまってさ、自分で斜に構えて見栄切ってるのが精一杯だったりするの。それが「つまんないなぁ」って思って。

——あの頃のクラッシュ人気っていうのは、客席にも生の感情がダイレクトに届いたからなんでしょうね。そういう感情を出せるように「若い選手を育ててあげよう」っていう考えはありますか？

千種　そんなのクソほど思ってない（笑）。

——クソほど（笑）。

千種　自分で這いあがって来なきゃダメですよ。ウチらだってそうでしたから。自分は（身体が）細くて旅（女子プロ用語で巡業のこと）に連れてってもらえなかったでしょ。飛鳥だってエリートって言われてたけど、すぐ落ちこぼれましたからね。でも「自分たちで作ろうとしないと、しょうがないだろ」って、いっつも言われてましたね。

——あの頃はそうとう厳しい先輩が多かったんですか？

千種　みんな基本的には優しい先輩なんですよ。ただ、レスリングでは「試してやろう」っていう気持ちが絶対あったから、厳しかったですね。殴られて蹴られて口ん中がバカバカ切れて、味噌汁とか飲めなかったもん。「悔しかったらやり返してみろ」って感じなんだけど、やり返したら、もっと自分に戻ってくるわけですよ。それでも「コンチクショウ」って思って向かってくわけでしょ。でも、凄い大切なものを学んだのね。とにかく自分たちで這い上がっていくことを覚えたし。だからいまだに飛鳥なんてフリーだっていっても、Jdの若い選手に対しては、メチャクチャ厳しいもんね。でも、こないだ飛鳥はウチの道場来たときに千種が若いのパーンッて張ってたの見て怖がってたけど（笑）。

——新人時代の厳しさによって自分たちのいまがあるからこそ、いまの新人にも厳しく育ててあげたいっていうのがあるんでしょうね。

千種　いまは時代が時代ですから、根性なしなんていっぱいいるわけですよ。ただ、ホントに体当たりでぶつかってきて欲しいし、一緒に悩みたいし、一緒に育ちたいって気持ちでやってるから。

飛鳥　だから大切なのはド新人の頃にどれだけ大志を抱けるかだと思いますよ。ウチらは殴られても辛くても「チャンピオンになりたい」っていう部分で、大志を抱いてたんだろうなって思いますよ。「絶対に辞めてなるもんか」っていう。

——やっぱり辞めたいと思ったことはありました？

千種　もう毎日思ってた（笑）。

飛鳥　でも千種も私も一回も逃げ出さなかったんですよ。いまはなり手も少ないから、逃げても戻さなきゃいけない状況なんでしょうけど。

——昔は逃げたあとに出戻るなんてことは、まず考えられないことだったんですか？

飛鳥　そうですよ。私たちのときは逃げる子には、もう二度と会えないって覚悟の上で送り出してましたからね。

——いまとは逃げる方の覚悟も違ったんですね。

飛鳥　でもいまは戻れるって言っても「逃げても大丈夫なんだ」って思ったら、そいつのレスラーとしての一生はもう決まってますよ。「こんな思いをするなら、もう絶対逃げ出さない」って思うんだったら、その子の将来は明るいと思うし。

——時代が違うって言ったらそれまでなんですけど、それでもお二人の新人時代っていったらそうとうきつかったんじゃないですか？

飛鳥　巡業が多かったっていう現実問題もあるし、巡業が多ければ、先輩の稽古も毎日ですから。いっつも「バスがパンクすればいいのに」とか思ってましたね（笑）。

千種　ホント、厳しかったよ。試合が楽しくなかったもん。でも、あの頃の先輩には全て感謝ですよ。よく、このヤンチャを育ててくれたっていうことと、このヤンチャを確実にいたぶり続けて、見守り、そして本気で可愛がってくれたから。あの人たちがいなければ、自分たちは育たなかったって思えるし。

飛鳥　私、新人の頃池下（ユミ）さんと地方で組まれて、本気でビビりましたからね。池下さんは私をビビらそうとか思ってないんですけどね。朝起きて、ホテルで「おはようございます」って言うのも怖かったですからね。

千種　生活の全てが恐怖だったんですよ。

飛鳥　でも恐怖から逃げたらダメなんですよ。

――逃げたら戻れないわけですからね。

飛鳥　私たちから見たら、いまの子は恐怖から逃げてもカバーしてくれる人がいるから、厳しくもなんともないって思いますよね。本人は厳しいと思ってるんだろうけど。だって、そのへんから「お前、プロレスラーになれ」ってさらって来たわけじゃなくって、自分の意志でなったわけだから、もっと立ち向かえよって感じはしますよ。いまは高校卒業したり、OL辞めて入ったりする子もいるけど、それまでの自分を捨てて入るってことは変わらないわけですよ。中卒で入ろうが。だから覚悟をして入って来ないと。それでお金もらうわけですから。

千種　だからいまの時代に自分がプロレスラーになってたら、多分トップ張れないと思いますよ。うまいこと行って、「よし、雑誌に載ったぞ」ぐらい。

――あれだけ踏みつけられたからこそ。

千種　「やられた分だけ取り戻すぞ！」って（笑）。でも、あれは甘やかさなかった先輩に感謝ですよ。

飛鳥　怪我しても、代わりはいくらでもいるわけだから、遅れを取るのが嫌で「怪我した」って言えないんですよ。練習も、ウサギ飛びで体育館何周とか、いまの運動学からしたら、科学的ではないわけですよ。お陰様でお互い膝も悪いし、腰も悪いけど（笑）、いまも踏ん張ってる自分がいるっていう部分では、あれはよかったなと。

千種　いまの時代に、あの頃のやりかたを半分も持ち込もうとは思わないけど、せめて甘やかしたくはないだけ。だって、自分で上に行きたかったら、自分でもがくしかないんだから。だから、1個だけ変えちゃいけないことは、苦労しろってことですよ。

ウサギ飛びで体育館何周もしたよね。おかげで今、足腰悪いけど（笑）



飛鳥　怪我したら病院に行くのは、もう事故なんて絶対起こしちゃいけないから、当たり前のことなんですけど、そのあとの自分の気持ちですよね。無理はいけないけど、治そうという意識、動けない間になにを考えるのかっていう。ちょっと年寄り臭いんですけど、そういうものの感じかたがわかんないのかなって思うと、それに対しては一石を投じてあげないといけないのかなって思います。

――当時は自然にそれが学べるような状況だったんですね。

千種　なんにも教えてくれないんですけどね。見て、感じて、肌で覚えるっていう。

――そういう状況っていうのは、WWWAタッグ戦線に上がってくるまでずっと続いてたんですか？

飛鳥　そうだよね。だって、私たち家に電話入れたのって、クラッシュギャルズになってからだよね。

千種　だって家賃払えなくて追い出されて家がなかったんだから。給料上がらないし。トンちゃんはよく試合入ったんだけど、試合に出たら出たで大変なんですよ。怖かったのはトンちゃんとジャッキー佐藤さんと誰かと組んで6人タッグやったんですけど、彼女ずっと出っぱなしなんですよ、ずーっと出っぱなし。

飛鳥　昔ってタイトルマッチじゃなくても60分3本勝負だったんですよ。

千種　1本目も2本目もずーっとやられっぱなしで終わり。怖かったですよ。「よくこの人、耐えてられるな」って単純に思って。

飛鳥　ジャッキーさんたちの中に入れられて、新人は自分だけだったときに「頑張ってやり返そう」と思ってたら、「お前は返そうとするな、ずっとやられてればいい」って言われたんですよ。「なんでだろう？」って悲しかったんですけど、いま思えば、受け身を覚えさせるためなんですよ。そのおかげで体もできたし、どんな落とされかたしても受身取れるようになりましたからね。

――当時は実戦でやられて、投げられて、蹴られて覚えるっていう状態だったんですね。でもそんな旅から旅の中で練習はいつやってたんですか？

飛鳥　試合の日は、朝やって、会場行って試合前に練習やって、試合やって、夜中に帰ってきて東京だったら夜も練習。

――いや～、それは凄すぎますね。

千種　でも自分らには違和感ないよね。嫌なんですけど、練習は当たり前のことなんですよ。ただ「お願い、先輩は出てくんな」って（笑）。先輩がいるとリング

使わせてもらえないんですよ。だから、ただひたすら走る。でも、これもいま思えば心肺機能のためになってるんですよ。おかげでスタミナもつきましたし、その先輩だって、その前の先輩に同じことやらされてますからね。

飛鳥　それが、ある時期から「辞められたら困る」ってなって、受け継がれたものも変わってきたんでしょうね。それが昭和の時代との差なんでしょうね。

——付け人はやってたんですか？

飛鳥　ミミ（萩原）さん。ガウンひとつにしても「これも商売道具だから」って厳しかったですね。

千種　ミミさんの『スタンド・アップ』って歌の途中で「ワン・ツー・スリー・ゴー」って巻きスカート投げるところがあるんだけど、それが、どこ飛んでくるのかわかんなくって、みんなリング下でピリピリしてるんですよ（笑）。

飛鳥　昔はオープンの会場が多かったんで、落とすと汚れるから（笑）。

千種　ミミさんとか、担いで出たことあるもんね。お客さんに触られないように。先輩のことを真剣に守ろうとしてたよね。そういう時代でしたよ。

——そういう話を聞くとクラッシュの世代の人がプロ意識を持ってる秘密がわかる気がしますね。

飛鳥　でも理不尽なこともありましたよ。巡業中に先輩が財布をどっかに置き忘れたみたいで、そこにいた新人たちに「お前ら、荷物を出せ」とかね。

千種　ご飯のときに言われて、自分は人の話も聞かないで、茶碗蒸し食べてたらしいんですよ。お腹空いて（笑）。そしたら夜呼び出されましたよ「出せ」って。「お前は話を聞いてなかった。盗っただろう」って。お腹空いてただけなのに（笑）。自分がセコンド付いてる間にカバン持ってこさせて調べられたり。

飛鳥　人間不信になりますよね、そんなの（笑）。千種なんて、普通に歩いてるだけで「肩で風切って歩きやがって」とか言われてましたからね。ただのイカリ肩なのに（笑）。

千種　まぁ、目立ってたんでしょうね。

——そういう若手時代を経て、クラッシュで人気爆発したら、今度は怒涛のハードスケジュールが待っていたわけですよね？

飛鳥　それで私が壊れてしまって（笑）。私も若かったし、まわりのことも、千種のことも考えきれずに「芸能活動辞めます」って言っちゃったんですよ。ノイローゼになって試合休んだりもしましたし。千種もそれで傷ついたと思うし、嫌な思いさせたと思うけど、私が治って元気になったときに笑顔で隣に並んでくれたっていうことは、千種とは切っても切れないっていうか、そういう気持ちがありますよね。

確実に痛ぶってくれた先輩に今は感謝ですよ



CRUSH 2000

千種　でも、ノイローゼになるよね。あの試合数じゃ。

——当時、どれくらいですか？

飛鳥　最高で年間310試合。

——ゲッ！　310試合ですか！

千種　体壊すし、芸能活動もあったから練習の時間さえ取れなくなって、イライラして、恐怖感に苛まれるんですよ。「ひょっとしたら、後輩に抜かれてんじゃないか」とか。

飛鳥　その中で、背負わなければいけないものって、千種は理解してたと思うんですよ。あの頃の私は精神的に凄く弱かったと思いますよ。クラッシュギャルズとしていろんなことをやって、それを伝える最先端にいなきゃいけない人間として背負わなきゃいけない部分より、恐怖心のほうが大きくなってしまったという。

千種「ホントに自分はプロレスやってんのかな？」って思いましたよね。消化するのが精一杯で。

飛鳥　歌の時間までに会場入って、歌って、試合して、サイン会して、終わったらラジオの収録とかレコーディングとかする中で、私自身が見失ってるものって多かったし、そういうときに「千種、どう思う？」って話すこともできませんでしたね。

——当時はそんなスケジュールを入れていたマネージャーのロッシー小川さん（現・アルシオン社長）を恨んだんじゃないですか？

千種　小川さんはねぇ……ムカついた！

——やっぱりムカつきましたか（笑）。

千種　だって、年間310試合ですよ。それ以外にも毎日なんか入れるから家に帰って寝る時間もなくて、事務所の前に止めてある車のドア開けて、夏だったら蚊に刺されるけど、それも気にせず車で寝たことありますよ（笑）。「誰が来ようと構わない！」って。

飛鳥　帰っても3～4時間で、また出なきゃいけないから。私は帰りましたけど、千種は「いい、ここで寝る！」って（笑）。

千種　あの頃は怒涛のような生活でしたね。タフな人材も育ちますよ、そりゃ。

飛鳥　モンスターにならないと、生き残っていけなかったよね。

——そんな中で空手の山崎照朝先生による地獄の新島合宿っていうのがありましたよね。

千種　あれはホントにきつかった。もう、山崎先生を殺してやろうかと思った。

——アハハハ！　物騒な話ですね（笑）。

飛鳥　あのときはJB（エンジェルス）と一緒だったんだけど、

4人でお風呂入りながら「どうする？　いつ殺す？」とか言ってたよね（笑）。

――いま明かされる山崎照朝暗殺計画（笑）。

千種　ホントに殺意を覚える瞬間っていうのは、ああいうことなんだなって思ったよね。山崎先生を殺さないと自分が殺されると思ったよね。

――あの合宿はテレビで見ても、凄かったですよ。

千種　あんな特訓やらされたら、タフになりますよ。足腰だって強くなりますよ。あの特訓が続くんだったら骨折ったほうがいいぐらいだったのに、怪我しないんですよ（笑）。怪我した人羨ましかったですよ。でも、怪我しても休ませてもらえないんですけど。

――海外にもずいぶん行ってましたよね。

千種　行きましたねぇ。ニューヨーク、メキシコ、タイ。

飛鳥　あの頃は夢中だったけど、いまの自分たちで行けたら、もっといろんなものを発見できたかなって感じはしますね。

――タイではムチャクチャ人気あったらしいですね。

千種　機動隊付いてたもん。

――機動隊！　日本で言ったらビートルズ来日のときみたいなもんですね。

飛鳥　海賊版のビデオとかが出回って人気あったみたいですね。

千種　タイには、日本の女子プロレスをそのまま持っていった感じだったんですよ。それはそれで意味があると思うんですけど、メキシコやアメリカにはもともと女子プロレスがあって、その中に自分らが入って行けたっていうのがすごく勉強になりましたね。

飛鳥　MSGに出たときは、お客さんが喜ぶタイミングが違ったりして、それに驚いたり、落ち込んだりもしたんですよ。その頃のクラッシュってどの会場に行ってもファンがいっぱいいて、なにやってもキャーキャー言われてたから、アメリカ行って試合したときに「自分たちは小さかったな」って思いましたね。

千種　スケールが全然違うよね。

――GAEA見てるといまのWWFを意識してるのかなとか思うんですけど。

千種　そういう感じなんですか？



VTをやりたいのなら、プロレスラーを名乗るべきじゃない

飛鳥　似てるっていうより、自然の流れがそう見えるんであって、私と千種が絡んだこの1年3ヶ月の流れっていうのは、私たちの中でもありのままの姿だから。真似することでもないと思うんですよ。

――いま、男のプロレスでもいわゆるシュート方向と、WWF路線というか、エンターテイメントプロレスに二極分化されてそれ以外は生き残れないとか言われてますけど、そういう面でGAEAは最先端を行ってるのかなって思うんですけど。

飛鳥　でも私はプロレスが二つの見かたをされるっていうこと自体間違ってると思うんですよ。私もVTに出たことがあるけど、プロレスとは全く違うスポーツなんですよ。プロレスラーはプロレスで強くなるために練習してるんです。でも格闘技戦に出るとなるといままで練習していたことが逆にマイナスになったりするじゃないですか。

――馬場さんも「プロレスは技を受けるところから始まる」って言ってましたもんね。

飛鳥　そこらへんの違いを、提供する側がお客さんに与えてない。だからもし見てる人の区別がつかないんであれば、プロレスの興行の中で格闘技戦をやるのは間違いですよ。混乱させるから。

――12月に女子格闘技の大きい大会がありますけど、あれに出るつもりはありませんか？

飛鳥　あれは出ません！

千種　千種が出さない！　トンちゃん手に入れるの大変だったのに（笑）。だからプロレスと格闘技のふたつ楽しみかたがあってもいいんじゃない？　でもそれをリンクさせてしまうと、それは違うと思う。

飛鳥　VT系をやりたい人がいたらプロレスラーと名乗るのをやめるべきですよ。だってプロレスじゃないんだもん、やってること。だから私がVTに出たときも、興行的な部分があったから「ライオネス飛鳥」で出ましたけど、気持ち的にはプロレスラー・ライオネス飛鳥ではなく、本名の北村智子で出たつもりだし。千種なんてVT系のことやらないから、言わないじゃないですか。そういうことだと思うんですよ。批判もしないし肯定もしない。

――それだけお二人がプロレスに自信と誇りを持ってるってことですよね。

千種　格闘技やってて「プロレスラーがナンボのもんじゃ」って言ってる人たちは、格闘家として誇りは持ってると思うんですよ。でもウチらプロレスラーもプロレスラーとして誇りを持ってるんですよ。それにファンの人たちも誇り持ってるよ。自分たちはそんなプロレスが好きなんだって人たちを大事にしてるし、「プロレスラーって、これだけのもんですよ」っていうことを世間に知らしめたいですね。もっとメジャーにしたい。

――そういうことも含めて、女子プロレスの試合を変えてやろうっていう気持ちはあります？　長与さんが横浜アリーナで復帰しましたよね。あの試合って、いわゆる対抗戦のような試合とまったく違う、間のプロレスでしたよね。

千種　いまのレスラーはみんな（会場が）静かなのが嫌いなんだろうね、怖いから。でもね、いまのプロレスに、「この技は、こういう決めかたをすると、とても大変なことになってしまうよ。だとするならば、なぜ、それを使わなければいけない自分たちになってしまうんだろう？」という

ことを問いたい。だって、怪我したら勲章でもなんでもないですよね。レスリングできなくなるんだから。それはプロとしての闘いかたじゃないですよ。確実に受身を取らせながらでも、ヒットさせるボーダーラインっていうのは、プロだったら身に付けなきゃいけないんですよ。

飛鳥　VTの試合だったら「ホントに相手を殺してやろう」と思わないとやられちゃうわけだから、そういう状況でやってるわけでしょ。でもプロレスはそうではない。相手からギブアップなりカウント3を取るものだから。私と千種の中ではあるんですよ、自分たちの必殺技でも、相手の容量とか、体の大きさを考えて「これは無理だな、じゃあこれで行こうか」っていう頭の組み立てがあるわけですよ。それもプロのテクニックだと思うし。

——ジャンボ鶴田選手も言ってましたよね、「相手によってバックドロップの角度を変える」って。

千種　その技術って凄く難しいから、それを習得してナンボだと思うし。でもレスラーって個人商店ですからね、その個人個人がどう思うかによって変わるわけじゃないですか。それを変えられるだろうかっていうのは、「絶対変えますよ」とも「変えません」とも言えないですよね。凄い責任重大なことだから、簡単にはね。

——女子プロレスは不幸な事件がありましたからね。

飛鳥　私も関西がいま元気になってくれたから、言えることであって、あのときにどうかなってたら、私もいまこうなってないぐらいショックでしたからね。言い訳じゃないけど、あれは落とそうと思って落としたわけじゃないし、タイミングもずれたっていうのもあるし、私がフラフラの状態だったから、関西にあの技を仕掛けていいかどうかの状況判断もできなかったから、自分の責任も問いますけど、だからこそ、あえて頭から落としていくっていうのは許せない。そういうスポーツじゃないんですから。いままで起こった事故っていうのは、絶対アクシデントなんですよ。でもアクシデントさえも二度と繰り返しちゃいけないし、もちろんなるべくしてなっちゃいけないと思うんですよ。それに対しての問いかけはしていきたいですよね。

——そうなると5・14有明は昔のファン、いまのファン、そしてレスラーにいろんなものを気付かせてくれそうで見逃せませんね。

飛鳥　ホントにいろんな人に見に来てほしい。クラッシュ2000と名前を新しくしましたけど、懐かしいだけの気持ちで見に来てくれても構わないんですよ。でも私たちは新しいものも求めてるし、ある種、過去の清算でもあるかもしれない。だから5・14の有明は過去も未来も見れると思うんです。ぜひ歴史の証人になってほしいですね。

——では、5月14日はお楽しみということで。ところで歌はホントにやらないんですか?

飛鳥　やだ～（笑）。

千種　トンちゃん下手クソだから（笑）。

飛鳥　昔よりマシだって！　でも、『炎の聖書』『嵐の伝説』『夢色戦士』って凄いタイトルだよね。いま出しても絶対売れないよ（笑）。（ジャケットを見ながら）ヤバいよねぇ、これ（笑）。

——可愛いじゃないですか（笑）。

千種　うわぁ～!!　もう見たくない！

【00年4月3日ベイサイドテラス　キャビンにて収録】

ジャイジャイ日記
RETURNS'

キャーッ！　クラッシュ最高！　……あ、取り乱してしまいました。ご無沙汰してます、ジャイ子です。みなさんのご要望に応えて、一瞬復帰してみました。またすぐ消えるけどな。

いや～、楽しかったなぁ、取材。無理矢理ついてった甲斐があったよ。だってさぁ、クラッシュギャルズが目の前にいるのよ。クラッシュよ、クラッシュ。舞い上がるっつーの。なんかね、二人が並んでると、昔の思い出が走馬灯のように駆けめぐるのよ。なんかわかんないけど、修学旅行のことまで思い出したよ。

クラッシュ知らないヤングな読者が気の毒でしょうがないね。ビデオとか絶対見たほうがいいよ、マジで。惚れるよ。ジャイ子はさっきも見ちゃった。ステキ。



とりあえず、取材中は『炎の聖書』と、『ローリング・ソバット』がずっと頭の中で鳴ってたな。完璧な幻聴だよ。それぐらいステキなのよ、クラッシュは。わかる？

あれから毎日クラッシュと撮った写真を持ち歩き、会う人みんなに見せてあげてるよ。みんな羨ましがるよ。読者のみんなも羨ましがれば？　でもさぁ、この写真、マジで大事だから早く返してね、ガンツ。そんじゃみなさん、5月14日、有明で一緒に舞い上がりましょう。ジャイジャイ。

ファン感涙!!　クラッシュサイン入りレコードプレゼント!

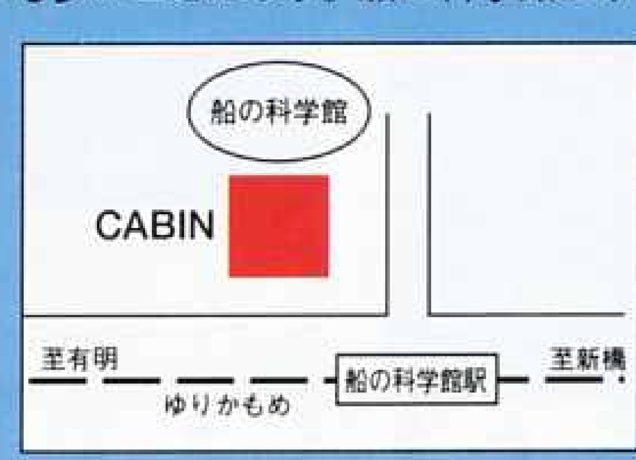


クラッシュ復活を記念して、なんと千種と飛鳥のサイン入りレコード（もちアナログ）『炎の聖書』『嵐の伝説』『夢色戦士』を各１名様に、さらにクラッシュ2000サイン入り色紙を３名様にプレゼント！　応募方法はＰ159



クラッシュ復活を見る前に千種の弟、洋さんの店へGO!

今回インタビューで使用させていただいたレストラン、「ベイサイドテラス　キャビン」は千種の弟、長与洋さんが店長を務めるお店。洋さんはクラッシュ全盛時に『デラプロ』に何度か登場したことがあるので、ご存じのクラッシュファンも多いことだろう。船の科学館のすぐ隣りにあるこのお店、クラッシュファンなら、５月14日は「ゆりかもめ」を途中下車して、ここで腹ごしらえをしよう。



ベイサイドテラス・キャビン
［営業時間］
11：00ＡＭ～10：00ＰＭ
TEL.03-5500-1150

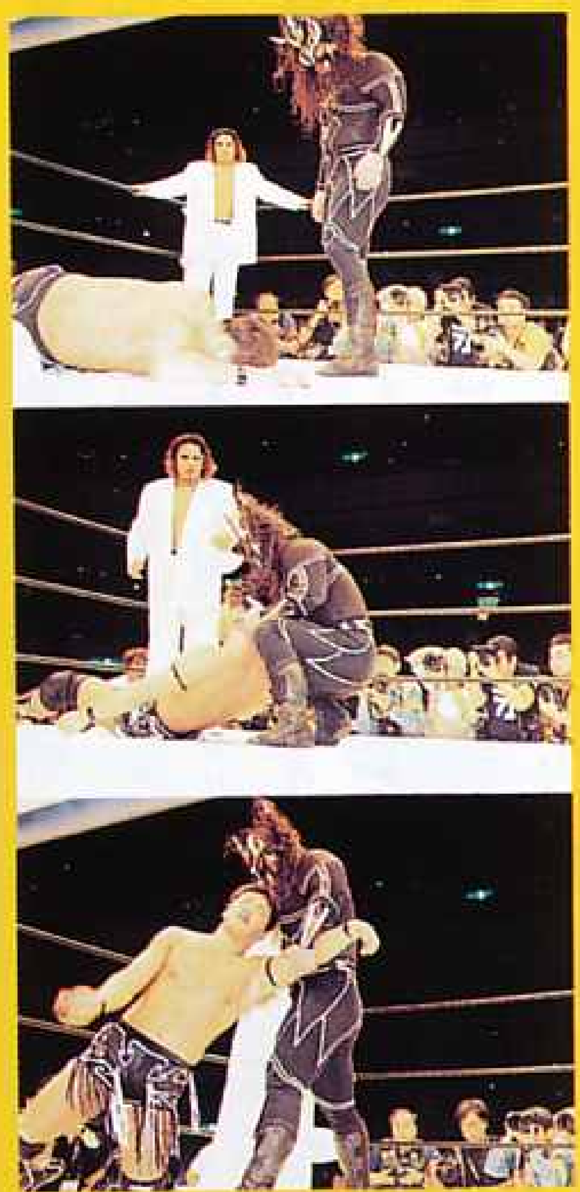
好評連載第3弾！　見たかこの活躍、見てみぃこのCIMA！
祝、『J－CUP』準優勝記念拡大版!!

CIMA（クレイジーMAX）PRESENTS

MAD SPLUSH POWER

CIMAああああ！　ジュニアを頼んだぞぉ――ッ!!





準決勝の佐野（なおき）さんに勝ったんは奇跡や。ほっそい針に糸がたまたま通ったもんやった。優勝戦のライガーに関してはもう、万分のイチや。当たって砕けろ精神でガンガン行ったつもりやってんけど、さすがに壁は厚かったなぁ。



4・9両国国技館『J－CUP』。オレはこの日ごっつい気合いを入れたんや！　オレにはもう、プロレスしかないから。ほんで、1回戦は怨霊。みんなよく聞け、こいつはなかなかやるやつなんや。怨霊言うてもオレにとっては悪霊じゃなくて、まさに守護霊！　だって、準優勝できたからな。ホンマ、両国では1回戦が怨霊でよかったと思てるでぇ～。だって取り憑かれそうになってんもん。



試合が終わったら、校長（ウルティモ・ドラゴン）が「CIMAは試合もせずにオレを越えてくれました」って言うてくれたんや。これはホンマ親離れの瞬間やった。オレはマジで泣けた。そして、ボロボロ泣いた。

CIMA初めての始球式



オレは小学校のとき、野球少年やったんやせやから、意外に緊張した。



気を取り直して解説席へ。実は今日は始球式だけやなく、解説者デビューの日でもあったんや！　せやけど、プロレスと違がって上手いこといかん。あんまり、喋られへんかった。「背番号ってどうやって決めるんですか？」とか当たり前のような質問をしてもうた（笑）。やっぱり、心は野球少年に戻ってたんやなぁ～。



遂に本番！　が終わった。本気でズバッと決めるつもりやったけど、大暴投！　なんでやねん……オレ。



あっ、中村選手やん！　オレの地元、大阪府堺市出身。これ、気が合いそうや。と思ってたら、クレイジーファッキンまで一緒にやってくれた。真樹先生に続いてクレイジーMAX入り!?

さぁ、練習、練習！　日本ハムファイターズのマスコット"ファイティ"ちゃんと本番前肩をならした。ここまではオレはストライクしか投げれない男やったけど……。



ワンポイントアドバイス。

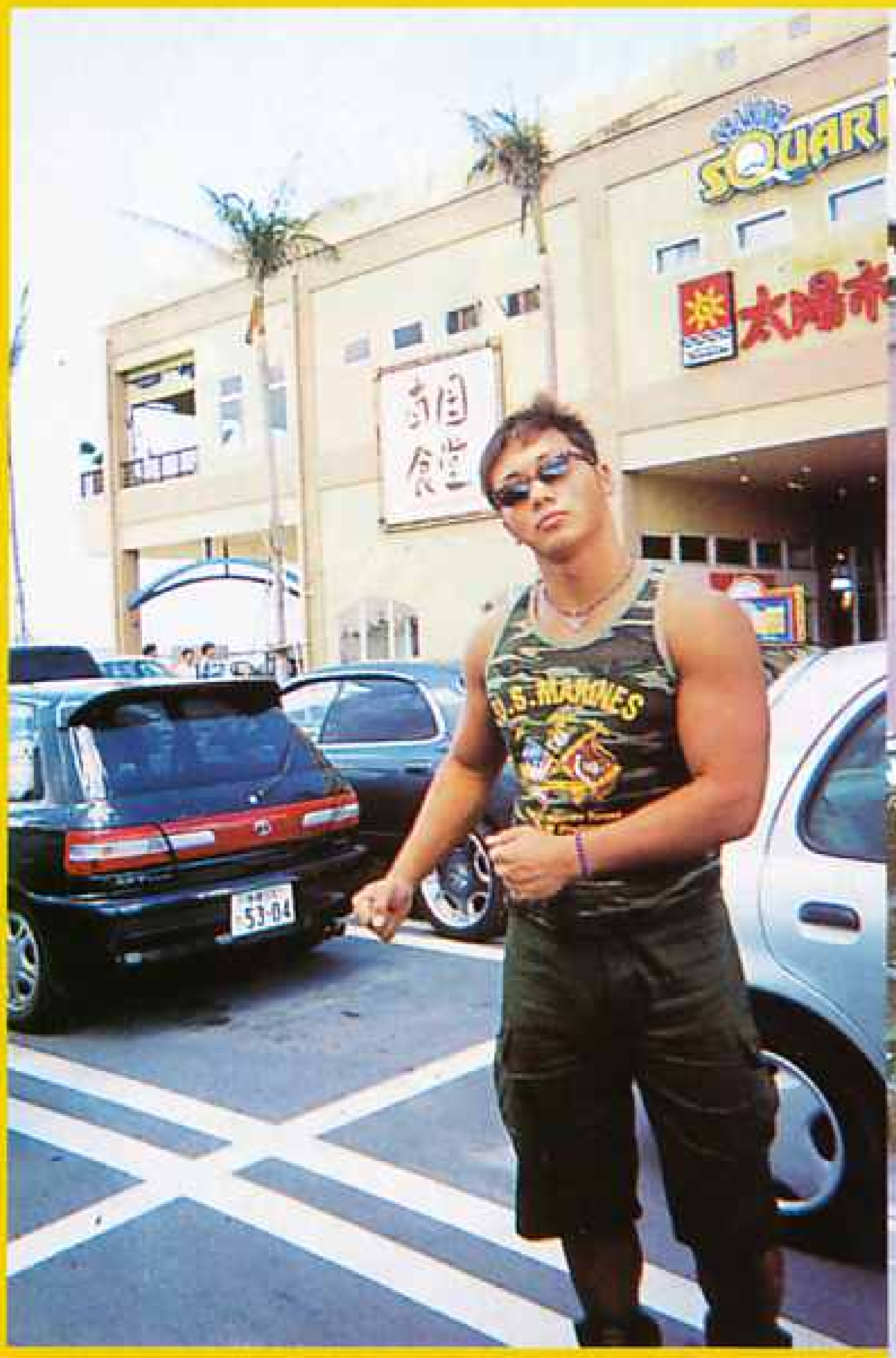
※オレ流の生活の知恵です。

。悪いと思ったらあやまりましょう。

突然やけど、クイズです。この2人は誰でしょう? っていうかお前ら誰やねん!?

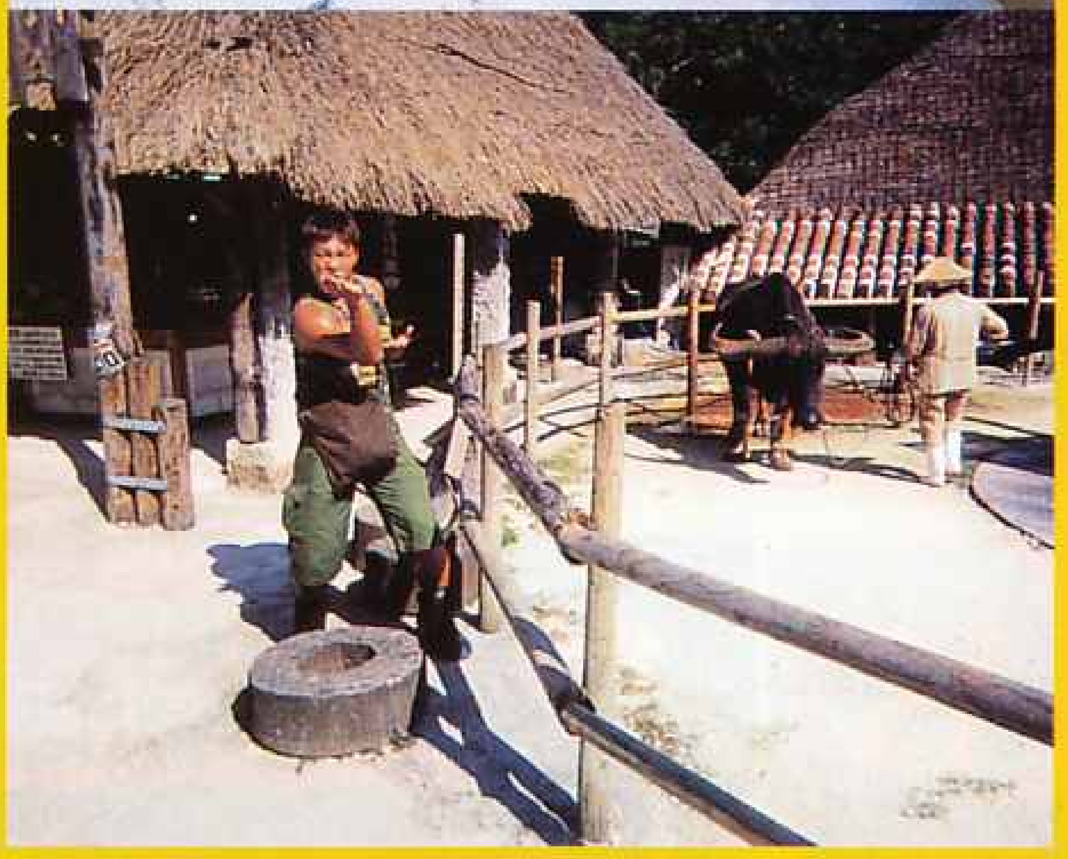
闘龍門の東北ツアーでインターチェンジに立ち寄ると、たまたま『みちのくプロレス』の宣伝カーが止まってたんや。オレは目を疑った!? やっぱり、こいつら最高や！　さぁて、ここまで言うたらわかるやろ。尚、当選者プレゼントは発送をもってかえさせていただきます。応募方法はＰ159を見てくれ！











前回読んでくれた人は、わかってると思うけど沖縄に行ったんやでぇ。▲（上）基地！　米軍基地！　ここは凄いな。ちょっち感動したから飛行機の前で祈ったわ。▲（左）その時に『南国食堂』でバイキングなどを食すことにしたで。言わずと知れた羽賀研二の店や！　なかなかウマイ!!　やるなぁ、羽賀ぁ〜。▲（中・下）ここは、ハブとマングースの決闘場！　これは凄い!!　マングースがチョークスリーパーでハブを絞め落としたんや。テッド田辺もビックリやな。

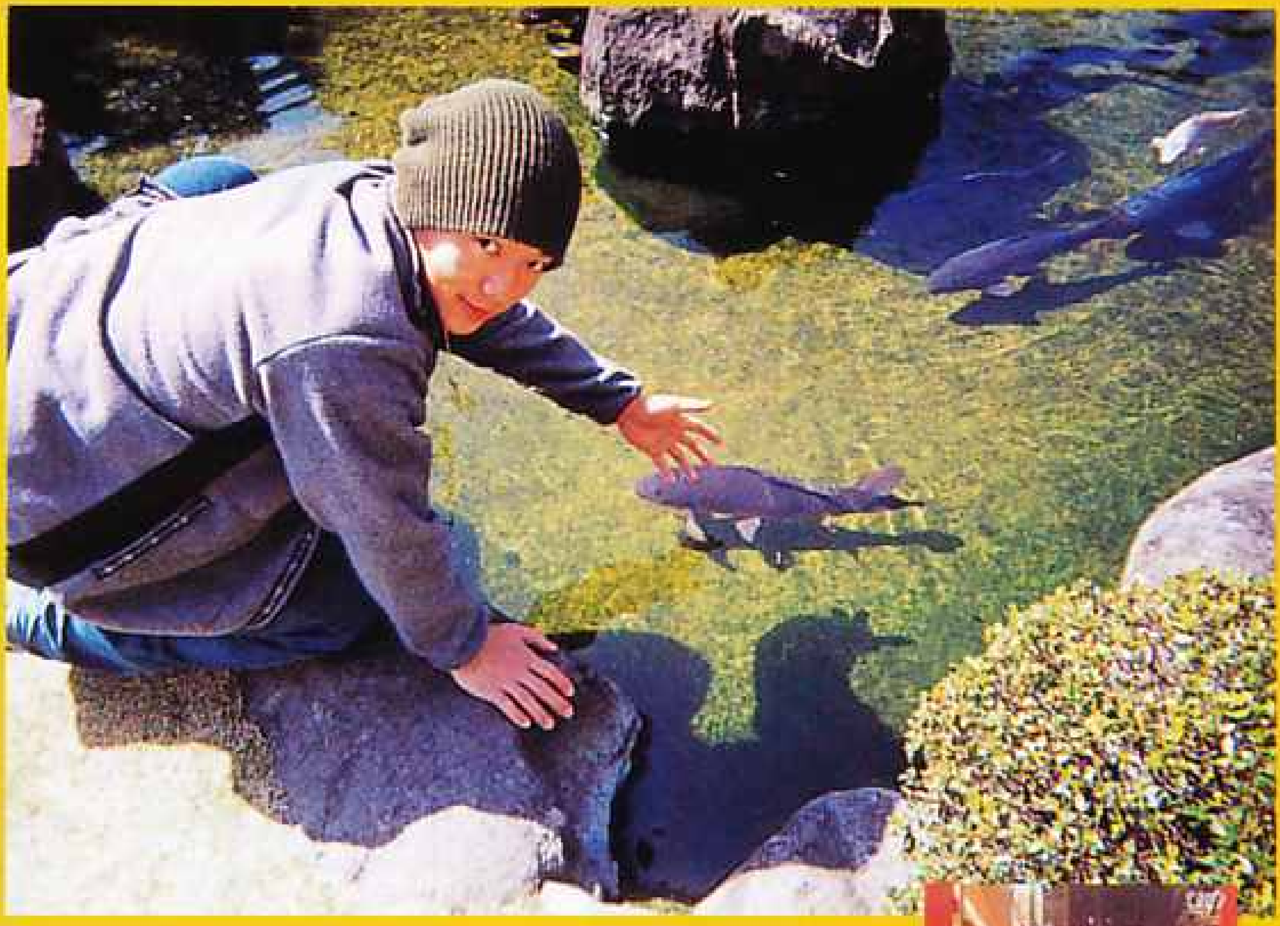
●今月のモモ●



モモは闘龍門ファンならお馴染みの合宿所のアイドルやで。オレらの心を和ませてくれる大切な存在やねん。でも、最近巡業でなかなか合宿所に帰ることができなかったんや。だから、たまに帰ると喜びすぎて嬉ションしよるねん。可愛いヤツや。だから、いつもちょっとしたしつけのために怒ねんけど、イイコイイコしてやることにしてるんや。



闘龍門のツアーでオフがあったんや。その時、湯河原温泉で至福のひとときを過ごでも、オフといえどもクレイジーＭＡＸ流練習（ブリッジ）をしてるんやでぇ。でも、温泉は気持ちいいな。朝、夜、深夜と２日に渡って６回も入ってもうた。クレイジーＭＡＸは仲良く同部屋やってん。それで、スモー・ダンディ・フジニ干!! いびきがうるさすぎるよぉ〜。　寝られへんかったちゅうねん、ダンディ！



『CIMAのCINEMAとお父さん』

※今回もまたまたまたもや、映画のことについて全く触れてませんが、『Ｊ−ＣＵＰ』準優勝ということで許す！



『欲望の街・外伝』
監督：ハーマン・ヤウ
主演：トニー・レオン



いやぁ〜、ご好評を頂いております「ＣＩＭＡのＣＩＮＥＭＡとお父さん」も第3回目を迎えたでぇ〜〜！　今回紹介する映画はカナリきてるでぇ〜。その名も『欲望の街』。この映画はシリーズもので全4作になってるんや！　この『欲望の街』を持ちまして大好評（？）のアジアン・ムービー・シリーズは終わります。というわけで今度はアメリカン・ラブ・ストーリーに挑戦や！

それにしても、どういうことやねん!?　オレは怒ってる。そして怒ってる。も〜う、ブチ切れ寸前や！　なんで怒ってるかって？　みんな聞いてくれやぁ。オレの行き着けの回転寿司屋（東京のとある街にある）がなんの前ぶれもなく店をたたんでたんや！　信じれるか？　もぉ、泣きそうや……。そこの店は回りのなかでも天下一品、ビックリするくらいウマかったんやでぇ。いやいやこれマジで！　だからな、誰か東京にあるメチャウマ回転寿司屋を知ってる人は、このコーナーか闘龍門事務所まで情報を送ってや、たのむで！　これは、オレの最近ちょくちょく来る東京での生活がかかってるからな。

しかしやなぁ、最近オレってついてないことバ〜ッカリや！　車はまたぶつけるし、高速ではスピード違反のカメラがピカッと光るしな。ほんで、寿司屋（まぁ、回ってるけどな）まで潰れやがって。あぁ〜、もう最悪!!　と思ってたら、ものスゴ〜いエエことあったんや！

なんと〝『スーパーＪ−ＣＵＰ』準優勝〟くぅ〜、コレ、に限るね。まぁ、確かにまだまだのレベルや、オレも。でもな、本当に体が動かないくらいやった。実際の話、体もボロボロになった。だけど、準優勝っていう結果と同時にオレ自身も全く知らなかった新しい『ＣＩＭＡ』という〝何か〟も見つけることもできたんや。これからはさらに突っ走るでぇ〜〜！

ズバリ！　これからのＣＩＭＡは「ハイエナ」!!　目の前のエサを全部食い散らかしてやるからな。それが、気にいらん輩どもはオレが食い散らかしたものを片づけなさぁ〜〜い!!　当然、テッド田辺と一緒にな。ギャハハハハ！　ほんで、両国でも会ったけどテッドくん。キミは太りすぎだよ。特別にキミの分もこの俺様が特別に食うてあげよう！　巡業に出てメシを食べに行くときは必ず誘うように!!　部屋に財布置いていってやるから。ギャハハハ！　ごっちゃんし!!

なっ、テッド!!



しーま■オレのおかん「紙プロ」のこと「紙ふうせん」やと思てたんや（笑）。オレの最近のビッグニュースはラジオ大阪で「アウトロラジオ格闘パンク集会」（毎週金曜日夜９時30分〜10時）ちゅうのんをやってること。これは嬉しい。このラジオを全国各地で聞かすことが目下目標やな！

3/11 ➡ 4/10 マット界の1ヶ月丸わかり

紙の新聞

KAMINO SHINBUN

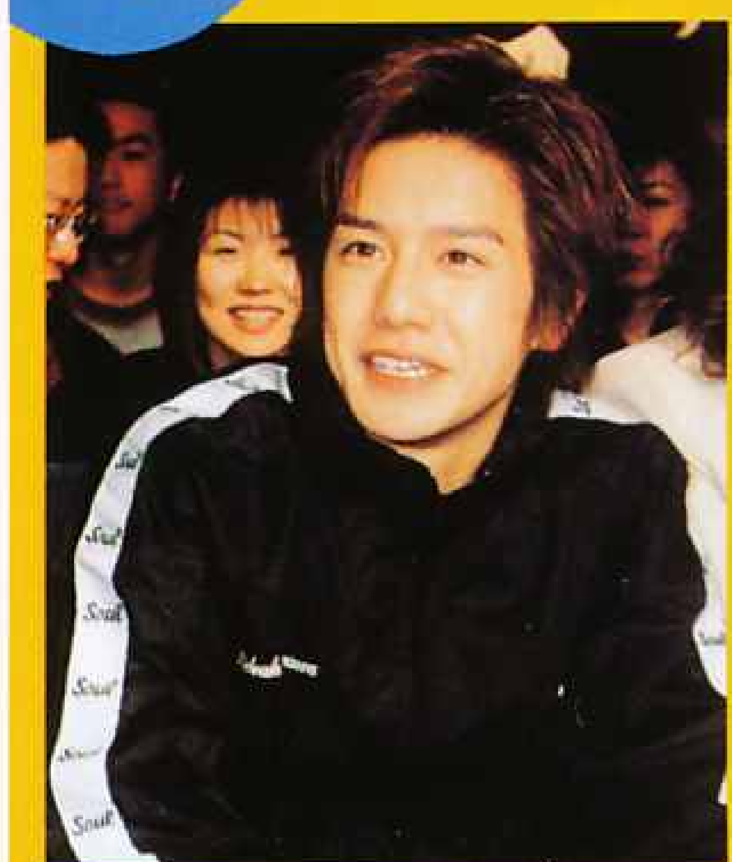
(毎月22日発行)
発行所:(株)ダブルクロス



毎日のように東スポ紙上を賑わせた破壊王劇場を始めとして、この1ヶ月もいろんなことがあったマット界。「週プロ、週ゴンは読み切らないウチに次の号が出る」とお嘆きのアナタ。トルコ印の『紙の新聞』を読めば1ヶ月の流れがひとめでわかりますよ。では、今月もいきますかーッ!

編集長/堀江ガンツ

3/11 【メモリアル力道山】横浜アリーナ
ジャニーズファンになぜか大好評!



アントン敗北という衝撃的な結末(過程はそれ以上に衝撃的)に終わったアントンvsタッキー。プロレスファンの間では「今年のベストバウト」という声と「素人をリングに上げて、しかも猪木敗北とは」という硬派な意見に真っ二つに割れたこの試合、タッキー目当てで来た女の子のファンの評判はと言うと、実は大好評なのである。なぜかというとコンサートと違って写真撮り放題だから、とのこと。理由はともあれ好評なのは良いこと。それにしても彼女達の目にあの日の破壊王がどのように映ったか気になるところだ。

【大仁田】大仁田、駿台高校を卒業。　【みちプロ】矢巾町・サスケがタイガーを破りNWA世界ミドル7度目の防衛。

【全日本プロレス】後楽園ホール
これも三沢革命か、それとも秋山革命か



【全日】多聞、雅央組、モハメド・ボンバーズ(池田、ヨネ)を破りアジアタッグ3度目の防衛。井上猛(力楼)小林健太、バトルロイヤルでデビュー。

超世代軍vs聖鬼軍リバイバル等、今回も話題豊富な後楽園ワンナイト・イベント。その中でも、最も強烈な印象を残したのがやはりこの男、秋山準。この日志賀と対戦した秋山は「リンチのような試合をする」という予告通りえげつない攻めを連発。中でもスリーパーで落としても回復次第、試合続行させるという、道場での"しごきスパー"のような非日常なシーンは強烈な印象を与えた。革命時の天龍のようなムードすら漂わせる近頃の秋山。全日ファンならずとも注目だ。

3/13 【PRIDE・GP】東京プリンスホテル
ホリオンの理論は是か非か?



発表こそされたものの、誰もがすんなり実現するわけがないと思っていた桜庭vsホイス戦。そんな中、この日ホイスとホリオンが緊急来日。案の定桜庭戦に「判定、レフェリーストップなし」「無制限ラウンド」しかも要求が通らなければ対戦拒否というワガママぶりを発揮した。この会見で大活躍したのがホリオン。その一見もっともらしい屁理屈の数々は、ある意味グレイシー一族の神髄を見た思いである。ホリオンには是非、小さい判型の頃の『紙プロ』の人気企画『勝ち抜きディベート合戦』に出場してほしいものだ。

3/12 【GAEA JAPAN】後楽園ホール
闘いの大河ドラマ、5・14有明でクライマックス



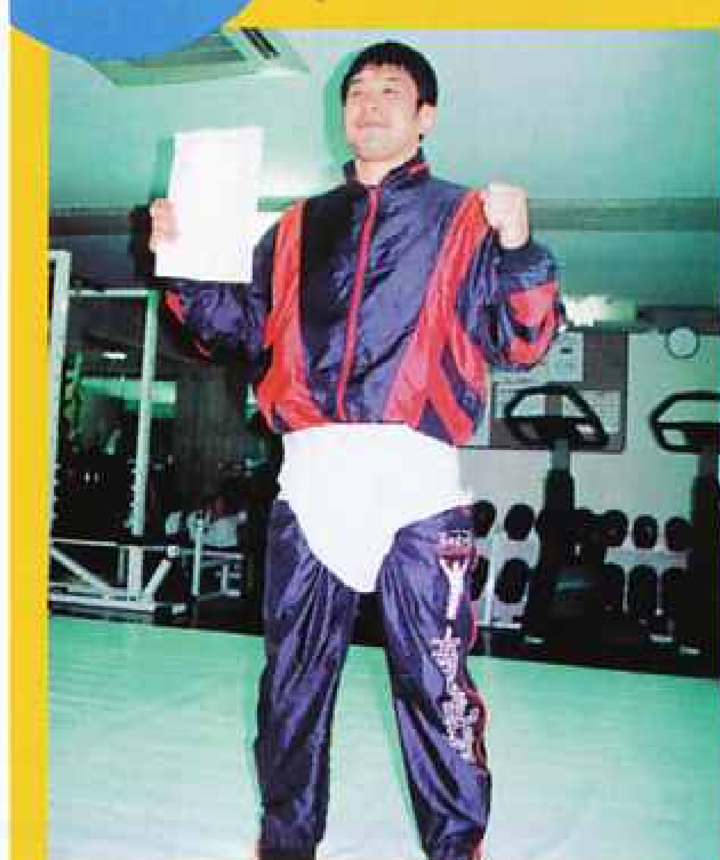
【バト】大阪IMP・J−CUP出場権を賭けたJJC決勝で臼田が日高を破り優勝。ミックスド6人タッグトーナメントで、アレク率いる「チーム★いっこく堂」が石川社長率いる「チーム・エロ三昧」を破り優勝。

黄金時代の新日本、現在のWWFを見てもわかる通り、プロレスに於いて最も理想的な流れは、ビッグマッチに向かってドラマが盛り上がっていくことである。そしていま日本で最もそれができているのがGAEA。昨年9月以来続いていた、クラッシュ復活への人間ドラマがこの日、ひとつの決着を見た。クラッシュ再結成決定! さらに敵役になんとデビル雅美が登場。一度見たら続きを見ずにはいられないこの展開。5・14有明はレッスルマニアになる!

3/15 【アルシオン】後楽園ホール
メス犬軍団、王座奪取ならず

アジャ、吉田組が"メス犬軍"玉田、矢樹を破りツインスター・オブ・アルシオン(タッグ王座)を防衛(「次の挑戦者は"オス猫軍"チョロ、カタブツ組だ!」ブチ談)。C・ASARIはマリー・アパッチェに破れスカイハイ王座から転落した。

3/14 【PRIDE・GP】高田道場
サク、ホイスの要求全て飲む



ホイス陣営の理不尽要求に桜庭がどう答えるかが注目される中、サクはホイスの会見の翌日に早くも緊急記者会見を開き、「自分のルールでしか闘えないんだから仕方がない」と要求を全面的に飲むと発表した。この日もサクは例によってニコニコだったものの、腹の中はホリオンの「桜庭よ、レフェリーの陰に隠れてないで出てこい」という発言に煮えくり返っている模様。5・1ドームはそのオムツ姿からは想像できないくらいサクのキラーな一面が見られそうだ。

【大仁田興行】大仁田、長州との巌流島の決闘、立会人にアントンを要求。【新日】フォーエバー大食い伝説　サンペイちゃん(小林邦昭)引退を発表。ラストマッチは4・21後楽園(vsライガー戦)。

3/17 【IWAジャパン】横浜文化体育館
新宿2丁目劇場、横浜特別公演

日本のプチ・ビンス・マクマホンの道を内股で迷走する浅野社長が、この日、「敗者マネージャー葬送マッチ」に敗れて棺桶葬にされた。これまで数々の悲惨な目に遭ってきた浅野社長であるが、遂に命まで奪われてしまうのか!? 緊迫の次回へ続く!である。

3/18 【キャプチャー】太田区民プラザ
地下室に"壮絶プロレス"あり！



マット１枚の超バチバチ団体キャプチャー。この日のメインは主宰・北原とが荒谷が対戦。地下室プロレスの真髄を見せるような"ケンカマッチ"の末に北原がＴＫＯ勝ち。試合後マイクを持った北原は「ＷＡＲの元ナンバー２はオレだ！」と絶叫。キャプチャーを見て思うのはＷＡＲ系レスラーの頑丈さ、ごついレスラーが顔面を蹴り合い殴り合うキャプチャーは、天龍イズムが確実に生きづいている。要注意団体である。

【バト】ＴＦＭ・アレクが石川にバトの原点のような試合で勝利。【東スポ】19日付の東スポでオーちゃんが、４・７ドームは破壊王＆ビッグ・サカとのハンディキャップ・マッチを要求。

3/16 【新日本プロレス】世田谷区・新日本プロレス道場
荒鷲伝承！ 破壊王、ビッグ・サカに弟子入り


決意の丸刈り
橋本
坂口参謀
STO封じ伝授

今年の１・４以来、ファンの期待を遥かに上回る迷走ぶりを見せてくれている我らが破壊王。アントンを「久しぶりに怒」らせようと、「死ね！」と言われようと、その暴走ぶりはとどまることを知らない。この日の破壊王は、なぜか「一からやり直したい」と敗戦後のような理由で坊主頭（それでもしかっりモミアゲは残す）で登場し、ビッグ・サカに弟子入り。反小川同盟が結成された。特訓後ビッグ・サカはかわいい弟子に明大時代の黒帯を授けたが、ビッグ・サカのことだから「後で返せよ〜」と言ったに違いない。

【ＮＥＯ】北沢タウンホール・新生「ＮＥＯ」プレ旗揚げ戦。八木淳子入団、年末に武道館で女子総合格闘技トーナメントに出場表明。

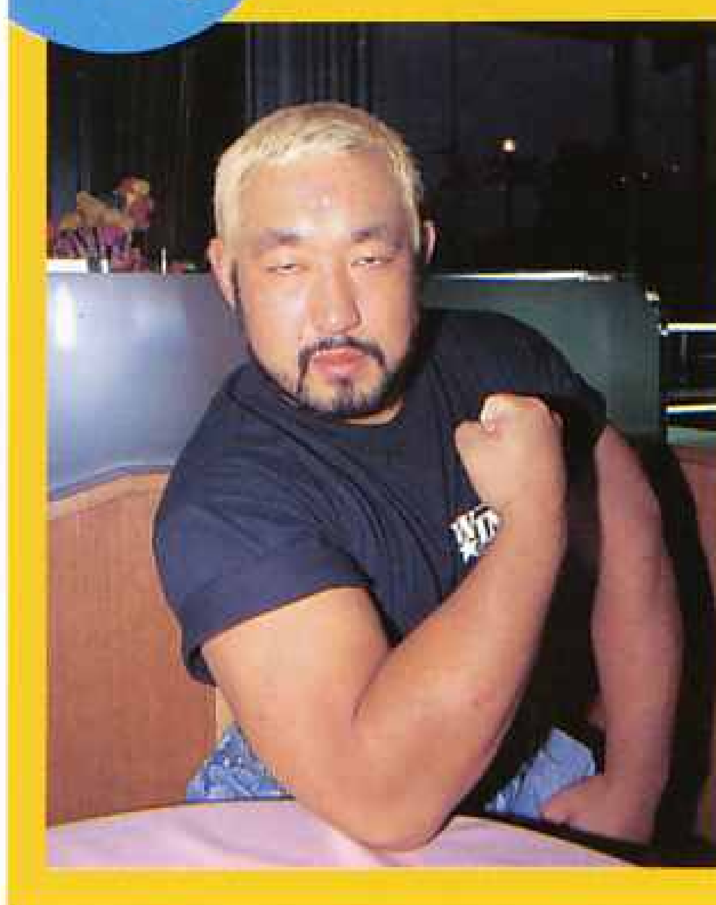
3/20 【新日本プロレス】
荒鷲咆吼！ 猪木、小川vs坂口、橋本でどうだ！


東京スポーツ
現役復帰
坂口
猪木と戦う
ウッズ優勝

世界の荒鷲がついに立ち上がった。４・７ドームでオーちゃんの顔面に強烈な張り手（ホントに強烈なおそらく語り継がれる一発）をぶちかましたビッグ・サカ。その伏線とも言うべき、現役宣言が３月21日付の東スポに掲載された。「オレが橋本と組んで、猪木さん、小川とやるのはどうだ」これは、小川の挑発にマジ切れで出てしまった言葉。結局４・７は猪木、坂口が立会人になることで落ちついたが、このタッグ入場シーンだけでも見たかった。っていうかドームで「燃えよ荒鷲」が聞きたかった！

この日発売の東スポでビッグ・サカが４・７ドームで猪木、小川組VS破壊王、坂口組を要求！

3/19 【K−1JAPAN】横浜アリーナ
Mr.デンジャー、K−1で本領発揮ならず



「草津！　お前もプロなら有刺鉄線デスマッチを飲め」等の発言で試合前から東スポを賑わせ、久しぶりにプロレス者の目をＫ－１に向けさせた松永。アル・カポネのコスプレをした小鹿社長を従え、片手に有刺鉄線バット、頭に有刺鉄線という"正装"で入場しＫ－１の客席にいる世間一般層の脳みそをフリーズさせることには成功した。しかし試合では何もできずに秒殺ＴＫＯ負け。松永には寛水流の名にかけて、鎖ガマ持参のリベンジをしてほしい。Ｐ126に関連情報。

【新日】名古屋・健介が小島を破りＩＷＧＰヘビー級２度目の防衛。

3/22 【コロシアム2000】テレビ東京本社
『PRIDE』を囲め！『コロ2000』提携第一弾



この日、午後１時よりテレビ東京本社で、コロシアム2000、パンクラス、ＵＦＣ－Ｊ協力体制発表記者会見が行われた。安生、パンクラス尾崎社長、ＵＦＣ－Ｊ坂田代表が顔を揃えたこの日の会見を見ると、同じ大会へのリングス参戦のニュースがいかにインパクトがあったかがわかるだろう。とにかくバックステージを含めて俄然注目度が増した５・26東京ドーム。ＵＦＣからの選手派遣も予定されており、全カード発表が待ち遠しい。

【大日本】米デスマッチ団体「ＣＺＷ」と大日本が業務提携を発表。

3/21 【NEO】ホテル・ニューオータニ
篠イズム爆発！ Remix開催発表パーティー



12月５日、日本武道館で予定される女子総合格闘技『ReMix　ＷＯＲＬＤ　ＣＵＰ2000』開催発表パーティーが盛大に執り行われた。この大会、優勝賞1,000万円を賭けて、世界各国から集められた女子格闘家がＫＯＫに近いルールで、ワンナイト・トーナメントを行うという、壮大かつ無謀なもの。またこのパーティー必要以上の豪華さ自体が無謀であり、誰もが「社長、何やってるんですか」とツッコミたくなるものだった。これぞ篠イズムか。Ｐ129から関連情報

【新日】尼崎・中西、永田組が蝶野、天山組を破りＩＷＧＰタッグ３度目の防衛。

3/25 【韓国】ソウル・奨忠体育館
真夜中に大木金太郎登場！



旧日本プロレスに馬場、猪木と同期入門し、一本足原爆頭突きを武器に一時代を築いたキム・イルこと大木金太郎が母国で引退式を行った。日本ではすでにあの、『夢の懸け橋』（95・４・２東京ドーム）で引退式を行っているが、母国で有志が開催した模様。この様子はフジテレビの『ニュースＪＡＰＡＮ』でも流れたので驚いたファンも多いだろう、しかしもっと驚くのは、『夢の懸け橋』に続いて、ここにもやっぱりルーテーズ来ていたことだろう。（写真は『夢の懸け橋』の時のモノです）

【バトラーツ】札幌・池田マイクで「バトの謎かけプロレスは大嫌いだ」発言。　【大仁田】茅ヶ崎・長州に４・７ドーム生中継での対面をアピール。

3/23 【ボクシング】
モハメド・アリの娘が婚約

モハメド・アリの七女（七女やで、七女！）レイラ・アリが婚約を発表した。お相手は彼女のトレーナー。レイラは昨年10月プロボクサーとしてデビューし、現在まで４勝無敗の快進撃を続ける。もし日本のリングに上がれば話題性は十分で、密かに狙っている団体も多いという。レイラよ、ＵＦＯに乗れ！

3/24 【全日本プロレス】後楽園ホール
チャンピオンカーニバル開幕

例年のリーグ戦からトーナメントに変わったチャンピオン・カーニバルがこの日開幕。かくも盛大にオープニングを迎える……かと思いきや、この日組まれた公式戦は多聞vsＪ・スミスという激シブカード。日米職人対決の趣でハズレはないものの、やはり開幕戦はトップどころに出て欲しいと思う次第。

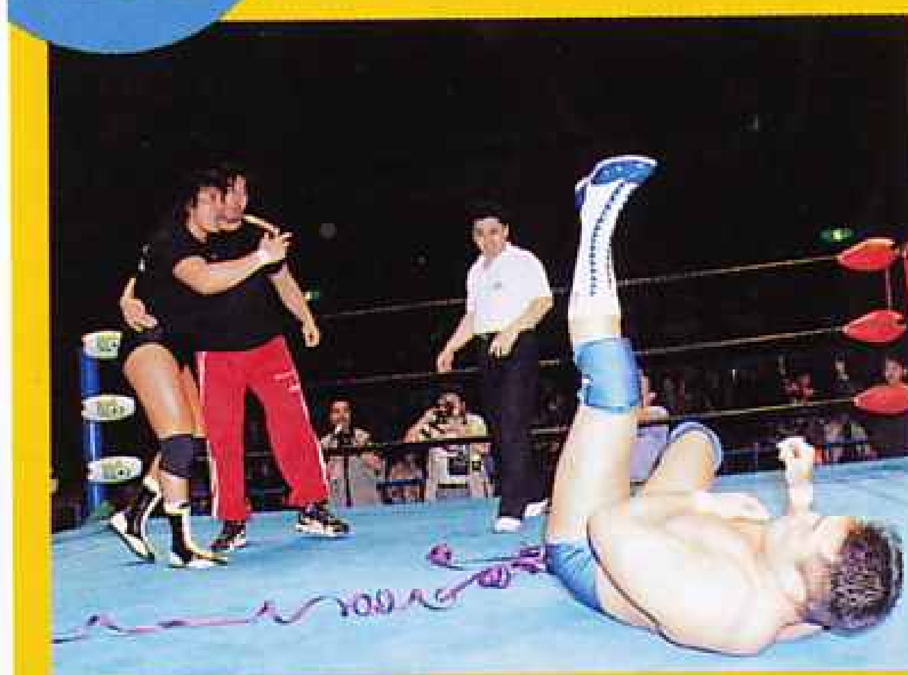
3/27 【FMW】後楽園ホール
瀬奈ちゃん、春なのにお別れですか？



全国のチビッコ（身長にコンプレックスを持つ成人男性）諸君に希望を与えた“モテモテ男”F・市原が、“くびれ女王”草凪純ちゃんだけでは飽きたらず、“永遠の現役女子高生”荒井薫子までもマネージャーにつけた。これには“元カノジョ”若菜瀬奈ちゃんも「あなたがそんな人だとは思いませんでした！」と涙。こうして瀬奈ちゃんは全国の男性諸君が待ち望んだ“一線を越えた露出”を迎えぬままFMWを去っていった……。しゃあねぇ、ビデオでも借りに行くか。

【FMW】田中が冬木をブン殴りECW－Jのドンに。H、京子にシングルでフォール勝ち。工藤あずさ、元川とユニット結成。

3/26 【全日本プロレス】愛知県体育館
大森、秋山を7秒殺！



【みちのく】タイガーマスクがカレー・マンを破り第14代英連邦ジュニア王者に。【極真】堀田祐美子が極真（松井派）の関東錬成大会に出場。結果は3回戦敗退。

これまでの全日最短試合時間はB・ブロディがW・ハリス（のちのホンキートンクマン）から奪った『16秒』だったが、この日、大森がそれを大幅に更新する『7秒』で秋山を下した。この秒殺にいたるまでの過程も、ゴング前の奇襲から始まり、レフェリーを巻き込んで秋山の攻撃を防ぐなど馬場さん存命中には考えられなかった展開。これぞ新・全日本プロレス！　……っていうか、どれもこれも昭和全日で飽きるほど見た光景のような……。

3/29 【全日本プロレス】大阪府立体育会館第2競技場
見てみ、このツラ！　高山ベイダーを追い込む



今から20年ほど前、アントン総帥が“アルバトロス殺法”で一世を風靡したキラーカーン（現・居酒屋のオヤジ）に対し「キラーカーンの顔はそんじょそこらの顔とは違う！実に素晴らしい素材というか」と褒め称えたことがあったが、このゼニの取れる顔を持った、現代のカーン的存在といえば、間違いなくこの高山だろう。最近は顔の素晴らしさに実力がついてきた高山。この日は敗れたが、カーンがアンドレの足をへし折ったように、高山もベイダーを潰す日はそう遠くはなさそうだ。

3/28 【新日本プロレス】渋谷・新日本プロレス事務所
格闘技集団「CLUB　G―EGGS」発進



「新プロレス」の時代を象徴するように、新日本に格闘技集団が発足した。その名も「CLUB　G―EGGS」。永田、中西、吉江豊、福田雅一で結成されたこの軍団。リーダー格の永田は「殻を破って、トップを食いたい」と決意のほどを語った。ところでこのチーム名、当初は長州命名の「チーム・タマゴ」になるはずだったが、さすがに断ったようだ。この長州といい「クレイジー・エッグがいい」と言い張る藤波社長といい、新日上層部のセンスには脱帽するしかないのだ。

3/31 【全日本プロレス】広島サンプラザ
三沢、川田を破りCC1回戦突破

これまでのリーグ戦は30分1本勝負のため、カーニバルでは毎年時間切れ引き分けに終わっているこのカード。今年はサクvsホイスもビックリの時間無制限の完全決着ルール。朝まで続く可能性もあったが、意外にも15分でピン。ということはサクvsホイスも結構早く終わるかもね。

4/1 【J－CUP】仙台市体育館
ジュニアの祭典、東北で開幕

大仁田厚曰く「ジュニアは時代じゃないんじゃあ」らしいが、みちのく主催ということで、仙台＆両国、2日間に渡って熱戦を繰り広げたジュニアの祭典。優勝はあまりに順当で優勝したライガー本人も「つまんないって思われる結果」と語った。詳しくはP116覆面座談会をご参照あれ！

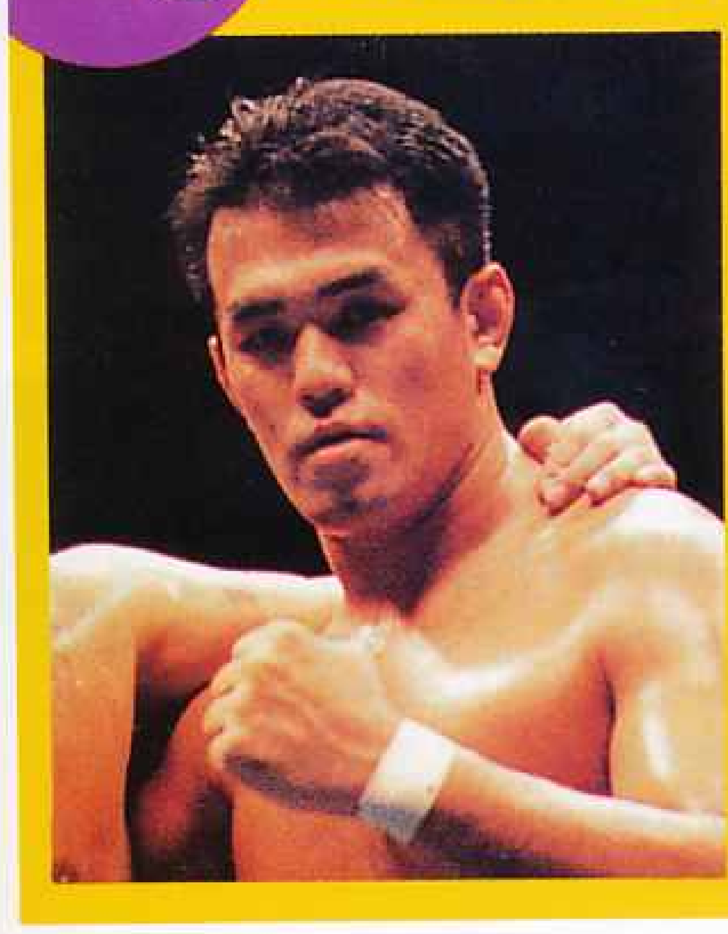
3/30 【新日本プロレス】
今月の破壊王ファッション



小川戦を前になぜか突如頭を丸めて、「やる前から負けたような」頭になった破壊王。練習中意外はその坊主頭をバンダナで隠しているが、そこに「甘い！」とばかりに噛みついた男がいる。もちろん「オレを殺すまでやれ！」でお馴染みドラゴン藤波社長である。ドラゴン曰く「バンダナはダメだ！　頭をさらして恥をかけ」とのこと。このように最近風当たりが強いバンダナ族。破壊王には、スキンヘッド時代の平成維震軍ばりにこのファッションを貫いてほしいと思う次第なのである。

【コロシアム2000】全日空ホテル・5・26ドームに田村潔司、金原弘光参戦を発表。

4/3 【全日本プロレス】
秋山準“21世紀型ユニット”結成意欲



バーニングを離脱して以来、正パートナーが決まらない秋山が“21世紀型ユニット”結成に意欲をみせた。これは特定のパートナーを固定する全日マットの常識にとらわれず、対戦相手によって適材適所でパートナーを変えて闘っていこうというもので、現在組むことが多いモスマン以外にもチャンスが与えられそうだ。というわけなので“21世紀型”と聞いて「仕事は早々に終わらせて、充実したプライベート を送りたい」などと秋山が言い出したのではないかと、早とちりしたファンの皆様は安心していただきたい。

【パンクラス】梅田ステラホールにて菊田早苗が柳澤龍志に勝ちランキング入り。

【新日本プロレス】
ドラゴン・引退カウントダウン開始



藤波社長の引退カウント・ダウンが目玉不在を心配されていた5・5福岡ドームからスタートすることが決定。当のドラゴンは対戦相手に師匠アントン、リングス総帥・前田日明、永遠のライバル長州力と既に引退した選手ばかりを希望する相変わらずのドラゴンぶりで、放っておくとまた「ジャンボ鶴田との対戦も諦めていない」と言い出しそうな勢いである。さらにはホーガン、ゴールドバーグなど、次々と夢の対戦をブチ上げ始め、破壊王に「カウントアップしてるじゃねぇか！」と突っ込まれるのも時間の問題であろう。

4/7 【B—FLAT】
狂気！ノアの方舟御一行様



【新日本】東京ドーム・破壊王が引退を賭けた一戦でオーちゃんに敗れる。【全日本】松本・三沢がベイダーの腕を裏十字で折る。 ウイリアムスがオブライト追悼興行開催を発表。

破壊王の敗北、アントンの唐突な「1・2・3ダーッ！」などあとに引きずるものがあったこの日のドーム大会。金曜日ということで朝まで飲んだファンも多いかと思うが、わざわざ泊まり掛けで酒を飲んで、ターザンとプロレスを語るという狂気の会も開かれていたのだ。それが「ノアの方舟」である。ま、要は寝床付き「ミッドナイト道場」か。ドーム前でビラを配り有志を募ったこの会、「B—FLAT」で朝5時まで語りまくったらしい。ホント、ターザンはタフだ。

4/2 【レッスルマニア】カリフォルニア州アナハイム、アローヘッド・ポンド
大悪党ビンス・マクマホン復活

王者HHHvsザ・ロックのWWF世界戦。HHHには愛妻ステファニーがつき、ロックにはビンスがついたこの試合。観客はビンスが愛娘ステファニーをHHHの悪の手から取り戻すことを望んでいたが、なんとビンスがロックを裏切ってHHHにつくドンデン返し。やっぱりWWFは先が読めない。

4/4 【FMW】北海道・Zepp Sappro
冬木弘道39歳、Hに負けて即引退？

引退を賭けて闘った破壊王が敗れる3日前、遠く札幌の地でも一人の男がひっそりと引退を表明した。冬木弘道39歳。4月4日、5日の札幌2連戦でHに負けたら引退を表明していた冬木は2日目にフォール負けを喫し、5・5駒沢での引退を表明した。はたして5・5はどうなるのか？

4/8 【大仁田】明海大学
邪道大学生誕生じゃ！



【大阪】神戸・デルフィンが大王QUALLTを破り大阪プロレス選手権初防衛。

4・7東京ドーム。誰もが大仁田乱入を期待していた頃、大仁田厚は心のオアシス『日サロ』にて大好物のハンバーガーをかじりながら「明日は羽織袴できめるかなぁ」などと遠足前の小学生のようにウキウキ気分であった。オイ、オイ、オイ！　悪いかよぉ。俺は大学生になってサークルに入るんじゃ！　と大学さえも邪道色に染めようとしているのである。この明海大学経済学部経済学科2部に入学した入学式の模様はP150のインタビューを見るんじゃあーーーーーッ!!

【新日本プロレス】
え!? 破壊王、猪木入り？



引退を賭けた勝負に敗れたため、その去就が注目された破壊王。UFO入りを始めとして様々な憶測が飛んだが、ひとつ仰天情報が舞い込んできた。9日付の日刊スポーツ紙に「橋本、猪木入り」の見出しを発見。これは猪木自身がジャンルであり、団体であるということか。破壊王も思いきったことをするもんだ。闘魂伝承どころか、闘魂と一体化、さもなくば闘魂挿入!?　まぁ、なんにしても破壊王はいろんな意味で、マット界には必要不可欠な存在。引退などせず、これからもリングの内外で我々を楽しませてほしいものだ。

4/10 【新日本プロレス】
破壊王の新リングネーム募集



引退を賭けた闘いに敗れた破壊王に、各方面から「引退させるな」と様々さ救済案が出ているが、その中でも我らがアントン総帥の提案は群を抜いて大胆だ「引退なら橋本の名を捨てて、改名すりゃあいいんだ」。あ〜なるほど、ってそれでいいのか!?　まぁ、アントンが言うのだからいいのでしょう。というわけで本誌では破壊王の新リングネームを募集します。「アントニオとかグレートは似合わねぇんで、何か考えてみろ」ってことなんで斬新なのを頼むゾーッ！　宛先はP159参照、「橋本真也34歳、新リングネームが決まったら即復帰スペシャル」係まで。

4/9 【J—CUP】両国国技館
平直行プロレスデビュー発表



【全日】宮城スポセン・大森ウイリアムスを破り決勝進出。ベイダー帰国。

本誌21号で既報のとおり、平直行のプロレスデビューが遂に決定（みちのく5・4宮城・岩沼大会）。この日のリング上で発表された。平はシューティング、SB、牛丼屋の店長、正道会館と渡り歩いた“さまよえる格闘家”。立ち技、総合どちらにも精通し、観客を意識したトリッキーなファイトで人気。36歳とかなり遅いデビューとなるが、どんなルールでもこなす格闘技の申し子だけに、そのファイトは期待できる。p71に関連情報。

番外情報
4月11日以降の情報はまとめていくぜ！



【WWF】
ビンスが英国の高級日刊紙ガーディアンが発表した「世界の最強人間50」の39位に登場した。これは上位に新聞王マードックやNBAのジョーダンらが名を連ねるもので、「成功者」の意味合いが強い。何にせよビンスの名は世界的に評価されていることは間違いない。

【NJWA】
14日後楽園・旗揚げ戦日米5vs5を開催。4—1で日本が圧勝。

【新日本】
14日気仙沼・新日本の福田雅一選手が柴田勝頼選手との試合中に頭部を強打し、意識不明に陥る事故が起こった。福田選手は救急車で市内の病院に搬送され、直ちに緊急開頭手術を受けた。約2時間に渡る手術は成功。17日現在、小康状態保っている。一日も早い回復をお祈りしております。頑張れ福田選手。

番外情報 【リングス】
滑川康仁、オーストラリアから極秘帰国!?



3月12日、リングスオーストラリア大会でクリストファー・ヘイズマンと対戦（残念ながら敗戦）した滑川康仁がこの日、帰国。取材陣は誰1人いなく、たなぼた式に、前田総帥の田村へのロレックス贈呈式に続き本誌独占第2弾となった。「いままでボクは漠然とした目標しか無かったんスよ。でもやっと目標ができまして。ボクにはこれしかないっていうのがわかったんで、今度言いたいですね。あることを見て凄く感激して……でも、いま言っても注目されないんで試合で勝って実績を作ります！」と力強く宣言してくれた滑川。力道山、仮面ライダー、キン肉マンをこよなく愛すリングスジャパンの超新星・滑川康仁を注目して損はないはずだ。



オイ！オイ!!猪木!!!さんよぉ

番しつこい男

仁田厚

INTERVIEW

今回、大仁田の取材日は、ゴールデンタイム生中継の4・7新日ドーム大会当日。リング上で長州力との公開会談を要求した大仁田だったが、その願いは叶わず。しかし、当日の『東スポ』には「大仁田、橋本に共闘か？」との見出しが！　さらに直前になって取材時間が6時半迄と変更になったのだ。「大仁田厚ドーム乱入！」これはありえる、と思ったのだが……結果はお前らも先刻承知じゃろうが、4・7、邪道・大仁田厚はここにいた！

聞き手／チョロ
interview by Choro
付き添い／タマリン
helper by Tamarin
撮影／松本崇
photographs by Takashi Matsumoto
イラスト／ももぢ
illustration by momozi



世界を邪道で塗り潰す男

大仁田厚が長州力に続きアントニオ猪木に噛みついた!

客寄せパンダはもうゴメン邪!

世界で一番

大

—大仁田さん、今日の『東スポ』（4／8付）見ました？

大仁田　いや、見てない。なんで？

—『東スポ』に、「大仁田と橋本が共闘か？」って書かれてるんですけど。

大仁田　俺が？（『東スポ』を読み込む）なんで俺が橋本と共闘なんだよ？

—ボクもさっぱりわかりませんけど、今日の『東スポ』に出るってことは、この取材後ドームに行くわけですよね（自信満々で）。

大仁田　行くわけねえじゃん（あっさりと）。だって俺、今日仕事あるもん。

—（疑って）仕事って、水道橋方面じゃないんですかぁ？　テレ朝関係の。

大仁田　違うよ！　共闘って、それで当日券売ろうとしてんだよ（笑）。猪木さんが利用してるだけだろ。ふざけんなよ！「怪情報」って自分で流したんじゃねえかよ（笑）。

—また客寄せパンダに使われてしまったんですね（笑）。でもホントに行かないんですか？……っていうか行って下さいよ！

大仁田　行かねえよ！　10時から生（放送）あるもん。毎週金曜日10時からラジオの2時間番組。その前に俺、明日の試合に備えて日サロ（日焼けサロン）行ったり……。

—ヒャハハハ。大仁田さんは日サロに行ってるんですか？　ボクは今日、中牧さんのピンサロに行ってきたんですけど（笑）。

大仁田　それは違うだろ（笑）。あとなぁ、（つらそうな顔で）アバラが痛いんだよ。

—ここで煙に巻いても、何時間後には結果が出ますから、まあ行かないんでしょうね。

大仁田　だって、そんなことしたら俺が喰っちゃうだろ！　俺が持ってっちゃうよ。

—持っていくつもりはないんですか？

大仁田　持ってくつもりって、猪木さんは持ってかれるつもりはないだろうよ（苦笑）。

—まあ、ないですよね（笑）。

大仁田　別に橋本vs小川戦を俺は否定してるわけじゃないよ。あれはストロングスタイルの猪木さんの世界の中で、いいんじゃないの？　ただ、それだけだと「ゴールデンでは弱いよ」ということを俺は言いたかったんだよ。まあテレ朝側としては俺を使いたくてしょうがなかったんだろうけどな（笑）。

—まあ、実際そうでしょうね。大仁田さんが出たら確実に視聴率は稼げますからね。

大仁田　だって面白いじゃない！　俺が先に入場してきて長州を呼び込むんだよ。俺、計ったんだよ、2回のドームで。最初のドームの入場は3分40秒かかったんだよ。2回目はタバコをくわえて火付けて行ったから3分50秒かかったわけ。ということはリングインまで大体4分かかるわけよ。それからマイクをとって呼び込む。それで、長州が出てくるまで7分か8分かかる。それから向かい合う、それでどうたらこうたらやると15分稼げるわけだ。この15分の間に視聴率を上げるんだよ。

—計算済みですか（笑）。でも、それが瞬間最大視聴率を取る可能性も充分ありますよね。

大仁田　そうだよな。もうなんかさぁ、別に講釈じゃないけどさぁ、21世紀が今まさに終わろうとしてて、TV番組の一覧表をガーッと見てても、ニュース番組から芸能ネタから詰め込んでる、何でもありの世界だろ。プロレスという何でもかんでも吸収してしまうジ


決着へ今夜運命のゴング

小川vs橋本

遺恨　最終回

橋本

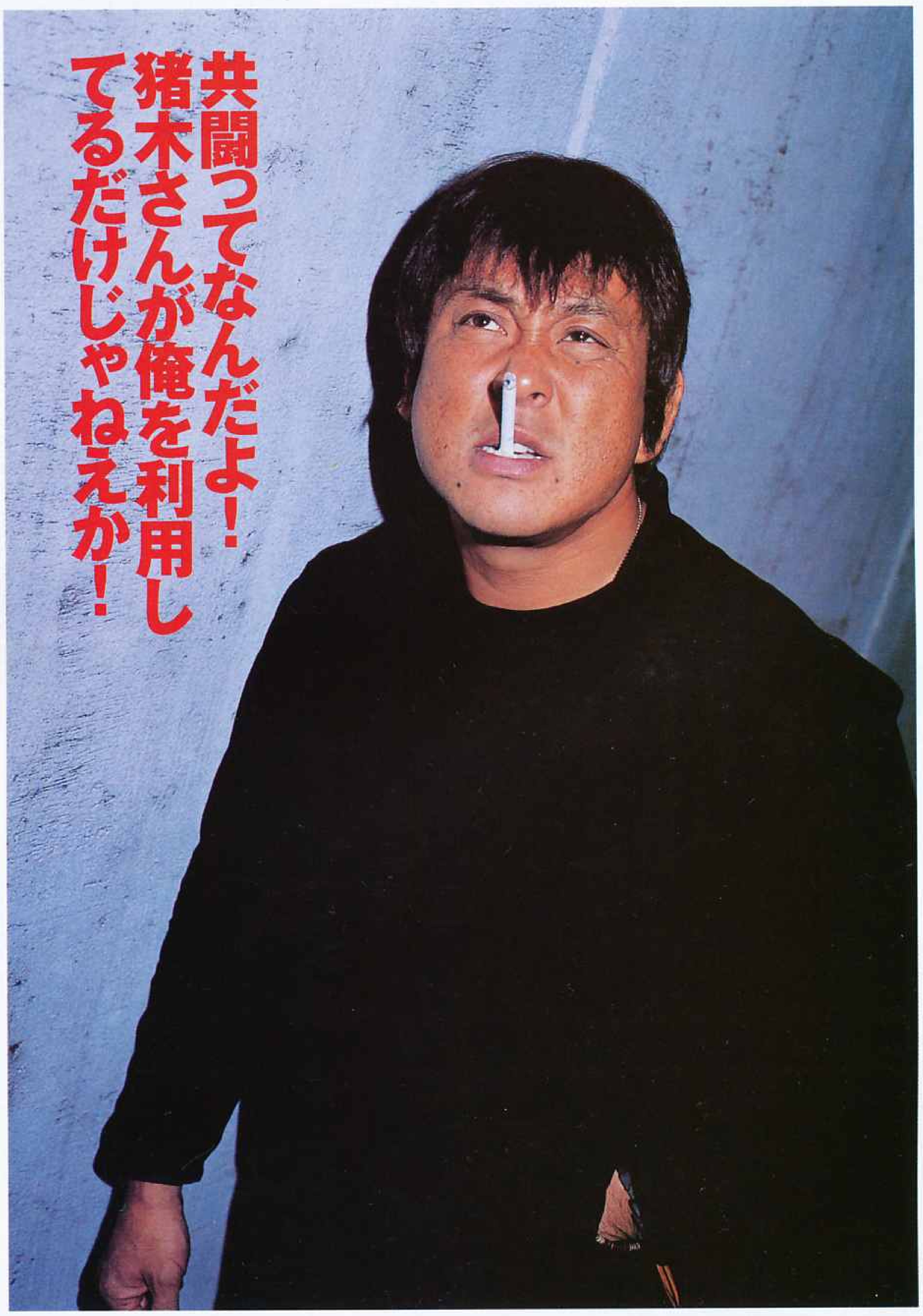
大仁田と共闘？

猪木の口から漏れた怪情報

邪道魂開眼か心理作戦か

マシン眼

これが4・7新日ドーム大会当日の東スポ（4／8付）。一面には「橋本に大仁田の影」と打たれ、プロレス面には、「大仁田が橋本につくとか、ついたというウワサがあるんだ。橋本に何かを吹き込んでいるとか。ホントかウソか知らないよ。ヤロー（大仁田）一流の情報戦かもしれないがね…」との猪木の口から漏れた怪情報が掲載された。



ャンルの中でさぁ、ひとつでなくたっていいわけよ。猪木さんは言うわけよ。「邪道色に染まってしまうから」って。なにも、そんなにビビることないじゃない（笑）。

―猪木さんは大仁田さんの毒の部分を気にしてるっていうか、嫌ってますよね。

大仁田 だろ？ そこまで嫌わなくてもいいのになぁ。俺もホントはボロクソ言いたいんだけどな。だけど、まだ長州戦がキチンと決まってねえから言えねえんだよ（苦笑）。

―そういう駆け引きもあるんですね（笑）。

大仁田 だって俺、橋本も小川も接点ねえもん。行かねえよ！ 別に橋本も小川も嫌いじゃねえもん。誰も嫌いじゃねえよ。武藤（敬司）なんかも嫌いじゃねえしな。





2月27日、邪道高校生・大仁田厚の母校・駿台学園高校で前代未聞の卒業プロレスが行われた。担任の藤江先生と師弟タッグを結成した大仁田は、同級生の鈴木太一君＆B・タニグチと対戦。最後は超満員札止め2550人によるファイアー！

俺もホントは猪木さんのことボロクソ言いたいんだけどな

大仁田厚

―蝶野（正洋）さんも認めてますよね。

大仁田 そうだよ。高田（延彦）のこと嫌いだとか言ってるけど、高校行くようになってからは嫌いじゃないよ。

―高校生活でなにか心境に変化でもあったんですか？（笑）

大仁田 なんか否定から入らなくなったよ。

―それが「俺はお前を否定せん！ お前も俺を否定するな！」ってことなんですね。

大仁田 そう！ たとえ俺が否定されても、だからって否定から入ったってしょうがないじゃない。認めるところは認めてやろうよ。高田だってヒクソンと2回もしつこくやったって聞けば「高田はいいな」って思うんだよ。

―しつこさがいいと（笑）。まあ大仁田さんはしつこさは誰にも負けないですよね（笑）。

大仁田 俺、しつこい！（キッパリ）。

―世界で一番しつこい男ですよね（笑）。

大仁田 そうだよな。世界で一番しつこいかもしれないな（笑）。ただ俺はさぁ、視聴率上げなきゃいけないと思ってるんだよ。最後の決戦なわけじゃない。これで視聴率悪かったらねえ？ まずいんじゃないの？

―まずいですよね、せっかくのいいチャンスなのに。でもぶっちゃけた話、長州戦はいつなんですか？ 5・5福岡ドームで決定と言われたり、なくなったりしてますけど。

大仁田 バ～カ、俺だって知りてえよ（笑）。

―す、すいません（笑）。そういえば、長州戦に向けて猛練習してましたよね。

大仁田 もうやめたよ（あっさりと）。

―アラッ！（笑）。でも、さすがにここまで待たされたら、大仁田さんの気持ちも冷めちゃうところがあるんじゃないですか？

大仁田 うん。俺の中でも冷めてしまうな。5・5がターニングポイントだよ！ 試合があるないは別としてな。5・5に長州が出て来るか来ないかで決まるんじゃないの。やっぱり正式な声を聞きたいじゃない。いっつも週刊誌にさぁ、長州の顔がバーンってあってさ、「やるといったらやる！」って言ってるけど、人が言ってるわけじゃん。

―小川さんが言うところの『週刊・長州力』ですね（笑）。まあ一説には『週刊・大仁田厚』とも言いますけど（笑）。

大仁田 俺はどこでもいいんだよ。『週プロ』が俺のこと嫌いなだけだろ（笑）。でもさぁ、みんな俺のこと嘘つきだとか言うけど、俺から言わせれば、レスラーなんて、みんな嘘つきだよ。この嘘がいいんだよな（笑）。武藤だって「もうムタはやらない」とか言ってたのに、やってんじゃねえか！ オイオイ、みたいな（笑）。あと笑えるのは、こないだFMWでさぁ、Hが負けて、それで荒井（社長）がギター持ってきて歌ったじゃん。

―「翼を下さい」を熱唱したんですよね。

大仁田 俺から言わせればそこでギターを持ってきちゃいけないんだよ。

―それはまた何でですか？

大仁田 あれはタブーだろ。だって出来レースじゃねえか！ もう歌うの決まってたんじゃねえか。もう練習してたんじゃねえか、みたいな（笑）。俺から言わせると、そこはアカペラで歌うわけよ。それで会場が盛り上がるんなら話は別だよ。でもギター持って歌っちゃいかんだろ。メチャメチャ邪道だよ！

―ヒャハハハ。でもそういうところで荒井社長は邪道イズムを受け継いでるんじゃないですか（笑）。同じように、この間の力道山メモリアルで、試合前に襲われた橋本さんが、リングに上がるなり「小川ァァァ！ なんで村上に襲わせたんだァ！」って……。

大仁田 古いよ！ 20年前だよ、それ！

―猪木さんは、客の前でそんな説明する必要あるか！って、激怒したみたいですね。

大仁田 一緒だよ。つまんないよ、猪木さんって（笑）。会見はいつも成田だろ？（笑）。

―行く方も大変ですよね。面白いからいいんですけど、たまに変装も見れるし（笑）。

大仁田 あの人はズバ抜けてるんだよな、自分でやることに対しては。

―プロデュース方面はダメってことですか？

大仁田 だってさぁ、橋本vs小川戦もさぁ、橋本が引退するどうのこうのってのを見たいと思う奴は、まあいるかもしれないけど、個人的に言わせてもらうと、俺はテレビにかじりついて見ようとは思わないもん！ アンディ・フグの引退試合だったら見ようとは思うけどよぉ。そうだろ？

―フグの引退試合？ 別に見たくないですけど（笑）。今日の試合はあまり気にならないと？（早口で）「橋本真也34歳、小川直也に負けたら即引退スペシャル」ですよ（笑）。

大仁田 いや気にしてない。VTRも撮らなかったもん。面白くないだろうと思って。原稿書かなきゃいけないのがたまってるから、それどころじゃねえよ。忙しいんだよ。

―日本で一番忙しいプロレスラーとしては寝る時間もないんじゃないですか？

大学は『紙プロ』的なんだよ、どっちかというと。主流じゃないんだよ！

大仁田厚

大仁田　寝てるよ！　昨日なんか爆睡してたよ！（笑）。まあ今日は遊ぶ日だからな。フライデーナイトは遊ぶ日だよ。ヒッヒッヒッ。

――フライデーナイトは何するんですか？

大仁田　遊びに行くの。色々あるんだよ！（笑）。女を見に行ったりとかさぁ。

――ガールウォッチングですかぁ。くれぐれもフライデーされないように（笑）。

大仁田　大丈夫だよ。まあ今日は楽しい一日なんだよ。でも明日は入学式なんだよな。

――やっぱり大学生活は期待で胸いっぱいなわけですか？

大仁田　別に。あんまり大学って面白くないんだよな。大学は『紙プロ』的かなと思って。

――それは『紙プロ』は面白くないってことですか？（笑）。

大仁田　いや、大学は『紙プロ』的なんだよ、どっちかっていうと。主流じゃないんだよ！

――ヒャハハハ。主流じゃない（笑）。

大仁田　そう（笑）。俺はさぁ、学生プロレスを使って、全国にオンラインを引こうかと思って。それで国会議事堂の前でプロレスやるとか、ブチ上げようかと思ってるんだよ。

――馳先生も見に来て欲しいですね（笑）。

大仁田　そうそうそう（笑）。

――それは「プロレスに市民権を」みたいな感じでやるんですか？

大仁田　違う違う。学生がなぜプロレスをやるのかっていうのを教えてあげるんだよ。

――でも学生プロレスって、プロレスラーは否定する人が多いじゃないですか。学プロ経験者も過去を消そうとしますからね。

大仁田　いいじゃんなぁ。俺はそれをもっと面白くしてやるよ。だって、21世紀はもうそこまで来てるもん。21世紀は面白いか、面白くないかだと思う。だから、最近いいなと思うのは大阪プロレスなんだよ。

――「だから」って（笑）。でも大阪プロレスの良さっていうのはどの辺ですか？

大仁田　やっぱ徹底的にエンターテインメント中心ってとこでしょ。FMWとかの場合は中途半端なんだよな。もっと単純にわかりやすくしないと、わかりにくくて。

――やっぱりFMWは気になるわけですね。

大仁田　まあどうでもいいんだけどさぁ。俺は長州戦が終わったらプロレスのジャンルの中に入らないと思うから。そういうジャンルじゃないと思うし。だからどっちかっていうと、プロレスに関わっているマガジンの中で、『紙プロ』みたいな存在になっていくと思う。

――大仁田厚が『紙プロ』化するんですか（笑）。



大仁田　枠からはみ出していくんじゃねえかな。「お前、何でこれが旬なんだよ！」みたいなところを追うって感じだよな（笑）。

――そうきますか（笑）。じゃあ高校っていうのは、例えれば『ゴング』とか『週プロ』といったクラスマガジンにあたるわけですか？

大仁田　『週プロ』、『ゴング』っていうのは、大人になれるかなれないかの瀬戸際で、もの凄く悩んでたり、そこにヒューマニズムの世界がなんかグシャグシャにして、義務教育的なところがあるんじゃねえか。それから離れたところに『紙プロ』があるんだよ。それが大学だよな。だから大学はさぁ、遊ぶところだよ。それで感じるところだよ。面白くなかったらやめるし。やめてもいいじゃない？

――その辺は、実に『紙プロ』的ですね（笑）。

大仁田　だろ？　あとサークルも自分で作ろうかなって思ってんだよ。

――まあ一番インパクトがあるのは明海大学の学生プロレスに大仁田さんが入るってことでしょうね（笑）。

大仁田　あんのか？　学生プロレスは？

――う〜ん、明解はできませんけど……明海なだけに（弱火）。

大仁田　うまいねぇ（笑）。でもそこにずっといるとは限らないからな。他の大学行くかもしれないし。

――邪道・大仁田厚が経済学部を選択したっていうのはどうしてなんですか？

大仁田　まあ俺のレベルってのは日本経済を語るとかさぁ、GNPとかじゃないもん。エンゲル係数の世界だから（笑）。GNPとかは馳さんとかが語ればいいんだよ（笑）。俺はもうエンゲル係数止まりだから。どっちかっていうと「食費もっと減らした方がいいんじゃないの？」とか、そっちの方が似合ってるような気がするからな。やっぱアホはアホなりの生き方はあるよ。でもさぁ、関係ねえけど、最近客がメチャメチャ入るんだよな。なんでだろ？

――最近また入ってるんですか？

大仁田　おいおい、ちょっと待てよ！　お前よぉ、「最近」ってどういうことだよ！　いままで入ってなかったってのかよ！

――い、いや、入ってたのは知ってますけど、最近は大仁田さんも驚くぐらい入ってるわけですね？

大仁田　だって、新日も全日もウチより入らないってプロモーターが言うんだもん。だって俺1人だぜ？

――大仁田さんの一本人気ですもんね。ヤセ矢口なんて僕も正体知りませんから（笑）。

大仁田　いいじゃねえかよ！（笑）。あんたらに文句を言われる筋合いはねえよ！

――いやいや、文句なんて全然ないですよ。

大仁田　ちゃんと、来た客が何かを感じて喜んで帰ればいいんだよ。

タマリン　WWFで活躍してるTAKAみちのくさんも言ってましたよ。「ひとりであれだけの客を呼べる男はいねえよ!!」って。

大仁田　（なぜか急に怒りだし）なんだよ！

――「なんだよ！」って、ホメられてるんですから、怒るところじゃないですよ（笑）。

大仁田　ありがとう（笑）。フッフッフッ。

タマリン　（ツボに入り必要以上に笑うタマリン）ギャハハハハハ！

大仁田　なんだよ、コノヤロウ！　ボコッ！

（タマリンを攻撃する大仁田）

タマリン　イタッ！

大仁田　そこまで、ホメられるとなんかテレくせえじゃねえか！　なあ？（笑）。

――でも、バリバリのWWF戦士が言ってるんですから、やっぱり凄いですよ。

大仁田　オイ、オイ、オイ、TAKAみちのくさんよぉ、ありがとよ（笑）。



俺は長州戦が終ったらプロレスのジャンルの中には入らないと思う

——ヒャハハハ。この間の力道山メモリアルでの猪木さんとタッキー（滝沢秀明）の試合が凄い好評だったんですけど、見ました？

大仁田 俺ね、滝沢君とずっとドラマやってたんだよ。「タイムキーパーズ」っての。俺は剛田刑事って役で。彼はプロレス好きでねぇ、二人でよくプロレスごっこやってたよ。

——その経験が生きたわけですね（笑）。

大仁田 そうそうそう。滝沢君のプロレスの先生は俺だよ。ハッハッハッハッ。

——大仁田さんが黒幕だったと（笑）。猪木さんは他の番組でもナインティナインの岡村（隆史）さんとかとも試合をしたことあるんですけど、素人相手でも凄い試合をするんですよ。その辺のプロフェッショナル振りは大仁田さんも一緒ですよね。大仁田さんも、この間、芸人さん相手にいい試合……。

大仁田 （遮って）俺、いい試合しねぇもん！

——そんな自信満々に言わなくても（笑）。この間のターザン（山本）との絡み（2・3後楽園）の前に、芸人さんがターザンからの挑戦状とうんこ付きパンツを大仁田さんに持ってったじゃないですか？ あの時のＶＴＲは抜群でしたよ。周りにいた女の子も大仁田さんのあまりの迫力に泣いてましたからね。

大仁田 あぁ。あれはねぇ、メリハリの部分もあるよな。芸人もビビってたしね。

——いや、あれはビビりますよ。

大仁田 ビビらせなきゃダメだよ、あそこは。そのぐらい、やっぱりテンションの切り換えって必要だよ。それがエンターテインメントだからな。一瞬にしてこれは何なんだみたいなものを判断できないとな。そこで普通のレスラーは芸人に合わせようとするんだよ。何で合わせなきゃいけねえんだって！ 自分のペースに引き込めばいいんだよ。

オイ！ オイ！ オイ！ 長州さんよぉ、いつまで待たせるつもりなん邪!!



——そういう意味では、大仁田さんの場合は対戦相手はあまり関係ないですよね。

大仁田　ああ関係ない。勝ち負けなんて知ったこっちゃない。

——知ったこっちゃない（笑）。

大仁田　俺は、観客がそこで何を感じて喜んで帰っていくか、それしか追求してないから。

——そういえば、藤波社長が5月からカウントダウンを始めるみたいですね。なぜか対戦希望選手として、前田さんとか猪木さんとか引退した人の名前を挙げてますけど（笑）。

大仁田　（興味なさそうに）勝手にやれば（苦笑）。ただ、ひとつだけ面白い案があるんだけどさ。大仁田&天龍組対長州&藤波組っていうのはどうかな？　お前は見たいか？

——見たいです。それはしっくりきますね。

大仁田　しっくりくるよな。だって前田さんってもうやめたんだろ？　それを言ったら長州を引き出す俺はなんなんだ？ってことになるけどな（笑）。みんな矛盾だらけじゃない。男と女だって矛盾だらけだしさ。関係ないじゃん。ふられたら次の人だよ。もう、バンバン次の人行くよ（笑）。ふられるのはいいよ、なかなか（笑）。

——大仁田さんもふられるわけですか？

大仁田　あるある。しょっちゅうだよ（笑）。

——落ち込んでる暇もないわけですね。

大仁田　いや、俺は落ち込まないよ。「あっそう。じゃあバイバイ」って。でも（携帯の登録番号の）消し方がわかんないんだよ。だから間違ってかけちゃって、「あっ、ごめんなさい」なんつってな（笑）。

——ヒャハハハ。でも、長州さんの場合はふられたのか気があるのかわかんないから、次へ行くにも行けないって感じですよね。

大仁田　うん。長州さんもここらでねぇ、女じゃなくてそろそろ男にならないとね。女はさぁ、家の中にいて外に出なくてもいいけど、そろそろ男にならないと。（急に大仁田劇場口調になり）オイ、オイ、オイ、長州さんよぉ、いつまで待たせるつもりなん邪！

——以上、大仁田さんからのメッセージでした（笑）。そういえば、新日を抜けて『PRIDE』に上がった藤田（和之）さんは、長州さんが「グレイシーはウチの誰々だったら軽く倒せるよ」とか言ってることに対して、「長州さんはこっちの世界では童貞なんだから、そういうことは言わないで欲しい」みたいなことを言ってたらしいんですよ。

大仁田　いいんじゃないの。でも藤田選手はなんか忘れちゃったけどいいこと言ってたよ。最初はバカなんじゃないかと思ってたけど、なかなか利口な人だよ。自分の売り方ってのを考えてるね。そういった部分ではね、認めない奴が多すぎるんだよ。プロレスラーは意固地になってさぁ、別に相手を認めてやったっていいじゃないかよ。ホントよくわかんねぇよ。もう、（佐々木）健介だってさぁ、ライダースかなんか着ちゃってさぁ。それは俺だろって！（笑）。

——パクられちゃいましたか（笑）。

大仁田　よくわかんねぇよな。フッフッフッ。ホントにレスラーだけはよくわかんねぇよ。話は戻るけどさぁ、例えば、永田（裕志）とか中西（学）が挑戦したいって言ってもグレイシーは受けないよ。勝てる相手しかやらないもん。

——永田さんや中西さん相手だったらグレイシーは勝てないですかね。

大仁田　たぶんな。400連勝ってのは、あれは宮本武蔵が原点なんだよ。宮本武蔵が原点っていうのは、もう、地理からなにから全部調べ上げて、それで絶対勝てる相手としかやらないんだよ。だから生存できるんだよ。ホントだよ！　これは嘘じゃないよ。これは統計学上そうなんだよ。

——統計学上ですか（笑）。今度、ヒクソンは船木（誠勝）さんとやりますけど。

大仁田　勝てる相手としかやらないよ（あっさり）。……でもわかんないよ。グレイシーにも計算の過ちってのはあるわけだから。

——2000年問題が起こるかもしれないですからね（笑）。

大仁田　そうそうそう（笑）。

——大仁田さん的は、船木対ヒクソン戦はそれほどピンとこないわけですか？

大仁田　いや、俺、船木選手好きだよ。好きだけど、別に見たいとは思わないよねぇ。18万出したくないもんね（苦笑）。

——でも、すでに18万の席は完売しちゃったらしいですよ。

大仁田　ああ、そうなの？　それは凄いな。やっぱり、気持ち的には船木選手に勝ってもらいたいけど、相手はかなりリサーチをかけてやるだろうからな。姑息だからさぁ、意外とヒクソンって（笑）。商売としか考えて

オイ！　オイ！　オイ！　俺に力をかしてくれんかのぉ？

大仁田厚ロックバンド結成につきメンバーを大募集するんじゃあ！



募集するパートはドラムとキーボード。採用条件としては、ドラマーはなるべくデブっちょ、キーボードはできるだけノッポさんとのこと。ちなみに、この話を聞いたプロレス界一のキーボーディスト、G・サスケは「やってもいいよぉ」と炎上。我こそはと思う邪道ロッカーは（株）ダイプロデュース☎03・5496・4900まで問い合わせるん邪！



「お前らこそ、ドーム行かなくていいのかよ」と言う邪道王を「一緒に行きましょう」と誘うと「ダメだよ、日サロ行くから。日サロは俺の心のオアシスだからな。そこでハンバーガー食うんだよ。 あばよ！」。

ないからつらいよな。まあでも、万が一ってのがあるからな。

——万が一ですか（笑）。

大仁田　でもさぁ、いまのグレイシーに勝ったからといって、じゃあなんになるのかっていったらわかんないよね。そっからどうなんのかって。俺らは違うからわかんない（苦笑）。

——そのコロシアム2000にリングス勢の参戦が決まったんですよ。

大仁田　リングスなんかは語るにもさぁ、わかんないんだよね。前田さんは「大仁田のこと嫌い」みたいなこと言ってるけど、なんか、嫌いなら嫌いで結構だけど、相手を否定してさぁ、しょうがないなって。ただ、その辺の部類をもう別ジャンルとして打ち立てていかないと、みんながごっちゃにするじゃない、週刊誌とかでもな。いまはしょうがないんだよ。20世紀はゴチャゴチャにしてんだよ。大仁田もありき、何でもありきで全部やるんだよ。それじゃないと視聴率が上がらない、チケットが売れないってところがあるんだよ。やっぱり21世紀にステップオーバーした時にちゃんとジャンル分けした方がいいと思うけどね。俺はね。俺はそう思うんだよ。

——プロレスと格闘技はジャンル分けした方がいいってことですけど、逆に小川さんとか、アレクサンダー大塚さんのように何をやってもプロレスという人もいますよね。大仁田さんはあえて線引きをしたいと？

大仁田　いや、線引きをしたいっていうんじゃなくて、こっちのラインならこっちのラインとしてキチンと確立しないとわからなくなっちゃうよっていう。21世紀を跨ぐわけじゃない？　プロレスファンていうのはなんだろうってことをもう一回見直さないとな。格闘技に流れる奴は流れてもいいし、プロレスの面白さがわかる奴はわかってもいいしって、そういう線引きをしないとダメな時期に来てるんじゃないかってことを言ってるんだよ。だって蝶野選手とか武藤選手はプロレスがやりたいってハッキリ言ってるじゃん。まあ、新日本ってのはまた船頭が多いところでさぁ（笑）、猪木さんであったり、長州さんであったり、藤波さんもいるけどな（笑）。ねえ？

——最近は坂口会長も出てきましたし（笑）。

大仁田　そうそう（笑）。でも、新日本という古い看板があって、やっぱり潰れて欲しくないんだよ。俺は新日本嫌いだよ。でも嫌いだからって潰れろとは思わないよ。ただな、新日本にプロレスの牙城をガッチリ守ってもらいたいという俺の意気込みや想いがあるんだけど、それも通じないようだしな。

——なかなかその想いは通じないですねぇ。

大仁田　通じないよな。わかんねぇな。でもいいじゃない。別に人から何と言われようと、「そんなのできるわけない」とかな。FMW自体ができるかわかんなかったんだから。いまの大仁田厚の存在だって無かったんだから。新日に出るって言った時だって最初はみんなは潰されるだろって思ってたわけじゃない？　結局、潰されてないのは俺だけだよな。ひとり生き残ってるよな。

——いい意味で、ゴキブリみたいな生命力ですよね（笑）。

大仁田　オイオイ、いい意味でゴキブリってどういうことだよ！　ホメ言葉になってねえよ！（笑）。まあ、俺はしつこいんだよ。

——やっぱり、しつこい（笑）。

大仁田　なんでこんなにしつこいのかな？　嫌われるな、やっぱ。嫌われるわ（キッパリ）。

——でも、好きな人は熱狂的ですよね。

大仁田　なんでだろ？　わかんないんだけど。それも魅力のひとつかもしれないじゃない？　だけどよぉ、この20世紀、最後まで生き残る奴が21世紀に繋がるかもしれねえだろ。なあ？　これぱっかりは、わかんないよ。プロレスでも何でもそうだけど、「あぁ、決まってんな」っていうより全然決まってないプロセスの方が見てて面白いじゃない？　長州vs大仁田ってさぁ、何も決まってないからさ、だからわけわかんないんだよ。ホントに決まってるっていうんならさ、4・7に出て「ウワァ～、オウ、長州やるぞ！」って、やった方が面白いわけだよな。それでも覆されるわけだよ。何なのかと思うじゃない。わっかんないよ、俺も。ホントあとわずかなんだよ、タイムリミットは。あとわずかなんだよ！

大仁田厚



——早くしないと膝の時限爆弾が爆発しちゃいますからね。

大仁田　そうだよ。……それでさぁ、リング上で長州さんと向かい合ったら敬意を表して敬礼しようかなって思ってるんだよ（敬礼して）こうやってな（笑）。

——押忍！（敬礼）。それじゃ最後に読者にメッセージをお願いします。

大仁田　お前らもなぁ、否定的なモノにはファックユーと言える勇気を持つんじゃあ！

——ありがとうございました。大仁田さん、今日の東京ドーム楽しみにしてます（笑）。

大仁田　だから行かねえって！　お前もしつこいなぁ（笑）。あばよ!!

【00年4月7日、東京・都ホテルにて収録】



インタビュー後、フライデーナイトを満喫した大仁田（門前仲町で目撃談あり）。翌8日は大学の入学式に出席（ノット羽織袴）。小川に敗れた橋本について「橋本と共闘？　ありえるよ」と意味深発言。その後、マスコミ用の撮影をしていると、人気者の大仁田だけに周りは一瞬にして人だかりとなった。そしてお約束のファイアー！

橋本真也 34歳負けたら即引退プレゼント



その昔、『目撃ドキュン』で破壊王が大阪にいる行方不明のお父さまと涙の対面をした時のように、奥様のかずみさんがケリーバック（エルメス）を片手に号泣していた4・7東京ドーム。モチのロン、橋本夫妻（&お子さま）にはもれなくプレゼントいたしまする。

プロレスを頼んだゾーッ!!



1名様

アントニオ猪木『1、2、3ダァーッ!』フィギュア

引退記念バージョンガウン（金箔のほう）は限定444体。価格￥12800でございます。北朝鮮版紫ガウンは￥9800。どちらも、1、2、3、ダァーとカウントがとれるように手が付け替えれる！　こりゃ遊び心たっぷりですな。お問い合わせ☎03-5670-9283

【インスパイア提供】

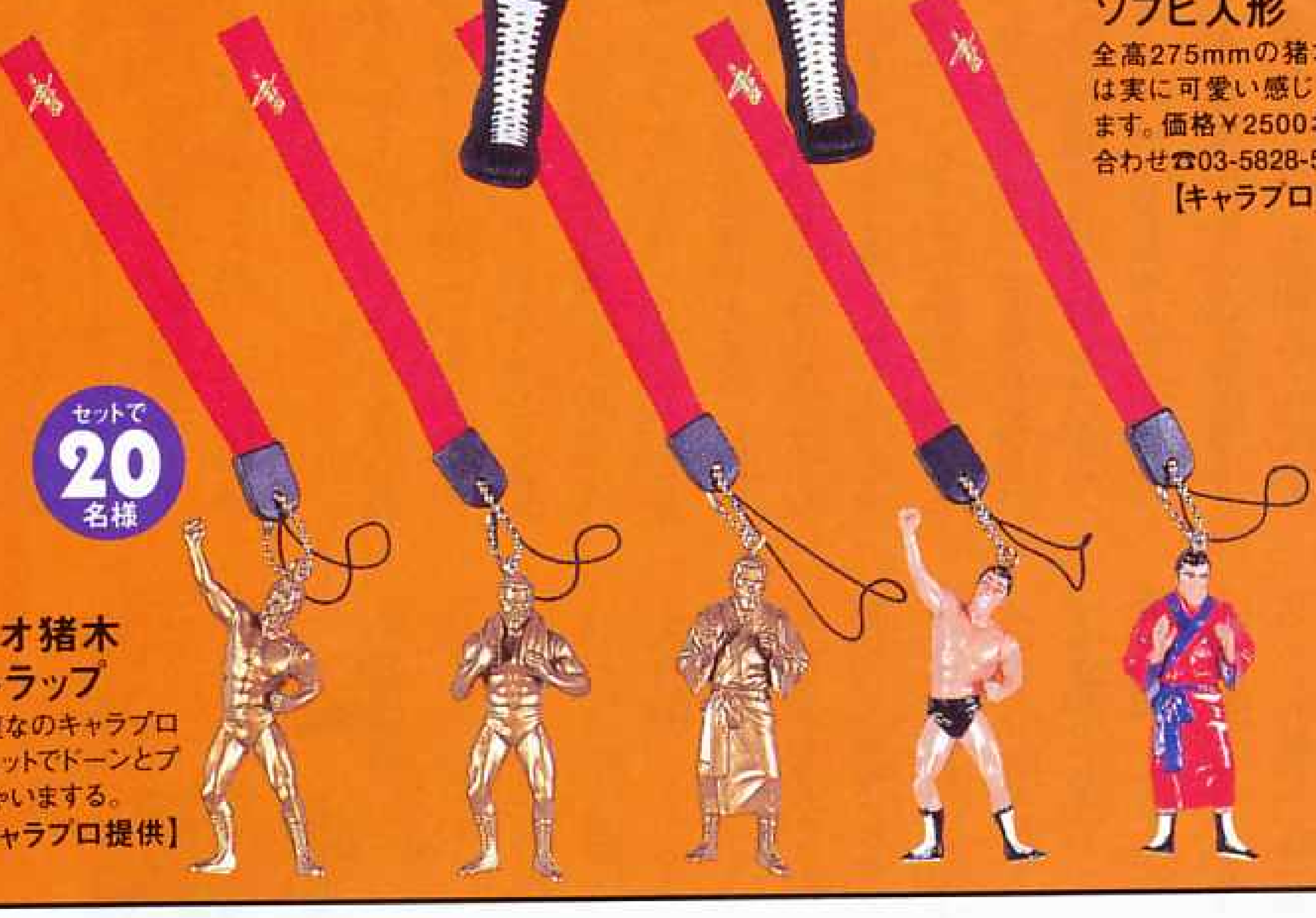


5名様

アントニオ猪木ソフビ人形

全高275mmの猪木さんは実に可愛い感じであります。価格￥2500お問い合わせ☎03-5828-5243

【キャラプロ提供】



セットで20名様

アントニオ猪木携帯ストラップ

なんて太っ腹なのキャラプロさん♥5本セットでドーンとプレゼントしちゃいまする。

【キャラプロ提供】

チャンピオンカーニバル



1名様

馬場さんフィギュア

本誌スーパーバイザーでありビンテージ・ブック・サーファーである吉田豪氏が「ギャラいらないので馬場ソフビ下さい」とおねだりしてGETした“死期が近づいていた馬場さんが最後に残した分身”（©吉田豪）という馬場さん人形をステキに提供してくれました。もう、ベタ惚れッス。

【吉田豪提供】



1名様

三沢光晴フィギュア

99・5・2東京ドームVSベイダー三冠戦のときに着用していたジャンパー&コスチューム&アンタッチャブルTシャツが付いてるなんてステキすぎな代物。価格￥18000　お問い合わせ☎055-254-4444

【ファイブスター・トイ提供】

『J−CUP』ベストバウト!



1名様

怨霊フィギュア

『J−カップ』でカレー・マンに勝利した怨霊選手がフィギュアになりました。ってこれは枕元に置くと恐い夢が見れそうです、はい。お問い合わせ☎03-5828-8494

【レッスル夢ファクトリー提供】



1名様

カレー・マンフィギュア

CIMA先生がいつも「食べてぇ〜〜」とカレー・マンの腕に書いているというので、書いてもらうことにしちゃいます。限定100体！今すぐ急いでぇ〜〜。

【インスパイアー提供】

どうする！ どうなる!? コロシアム!!



各3名様

船木誠勝フィギュア2バージョン、ヒクソングレイシーフィギュア

黒髪船木&ヒクソンセットで5・28コロシアム2000で限定発売！　安心してください。その後バラ売りされます。

【キャラプロ提供】



1名様

コロシアム2000　Tシャツ

リングス勢参戦で盛り上がりを増してきたコロシアム2000。残念ながら18万円イス付き席は完売ですが、タムタムから船木へ……見るしかないでしょ。

【コロシアム2000提供】

未来のWWFスター!?



1名様

アレクのアメリカ土産『WWF』ヴォイスチェンジャー

どう聞いても「スティーブオースチンです」と聞こえるカッチョイイおみやげをくれたアレク。さすが、今やベンツを颯爽と乗りこなすオットコ前です。

【アレクサンダー大塚提供】

マストアイテム



各1名様

リングスパーカー、『KOK』パンフレット

いまやもう、激レア、プレミアものの『KOK』パンフレット。本誌編集長山口日昇（携帯ストラップマニア）も原稿書いてま～す。パーカーはちょいと小粋な感じですよん。

【リングス提供】

兄弟愛♥



1名様

SIZE L

『芸人魂』Tシャツ

村浜兄ちゃん所属のワイルドフェニックス『芸人魂』Tシャツを村浜武洋インタビュー記念『兄弟愛』ということで、タマリンの私物（サイズが大きく着れないため未着用）をプレゼントしちゃいます。

【タマリン提供】

オーちゃん度MAX



3名様

オーちゃん ロングTシャツ

な、な、なんと、4・7東京ドームから発売されたこのオーちゃんTシャツ。太陽パワーを吸収すると目＆口が夜光で光っちゃいま～す。（サイズS.M.Lあり）価格は¥4500なので購入希望の方は佐竹死刑Tシャツのところをご参照あれ。

SIZE S

【井上きびだんごさん提供】

着なくちゃ死刑!!



SIZE S

3名様

佐竹死刑　Tシャツ

本人も着用している「佐竹死刑」Tシャツは絶妙なお言葉＆色使いです。（サイズM・Lあり）購入ご希望の方は住所、氏名、電話番号、サイズを明記したメモを添えて、代金¥3500＋送料¥500を現金書留で〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F SRS DX『グッズ通販』係までお送り下さいまし。

【井上きびだんご提供】

これで君もスター!!



各3名様

バンバンビガロ・マスカラスターズTシャツ

マスカラスターズ、めちゃグーです。そんなビガロホームページはhttp://www.bambam88.comです。お問い合わせ☎03-3460-1145 住所 東京都世田谷区北沢2-33-11野崎ビル2F　※ビガロ勢も大活躍のイベント『イリーガル』。本誌変態編集者チョロ（彼女は17歳）も襲撃予告！　5月2日恵比寿みるくにて、オールナイトで夜8時から行われま～す！

【バンバンビガロ提供】

北野チャンネルよ! 永遠に



1名様

北野チャンネル・ネックピース

北野チャンネル終焉。誠に残念であります。大仁田VSターザンはホント最終回にふさわしいオモロさでありました。

【チョロ提供】

応　募　要　項

希望商品が決まった方は、直ちにハガキに下記の要領で記入の上、送ってくださ～い。

応募券

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事＆その理由
❻つまらなかった記事＆その理由
❼あなたが紙プロ関係者で1番好きなのは誰?（レスラー団体者不可）

【宛　先】

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「即引退」係まで

※締切は5月15日です

超豪華新作本だ!!



3名様

『格闘ボーダレス』

前田日明、桜庭和志、髙阪剛、藤田和之、アレクサンダー大塚、山本宜久、佐竹雅昭、エンセン井上、小路晃、宇野薫、桜井マッハ速人、ヘンゾ・グレイシー、ティム・カタルフォ、ケビン・ヤマザキ……名前を連ねただけでも、それはそれは凄い面子が勢揃いし、本音を語りまくる必見の1冊。お問い合わせ☎03-5464-1888

【ソフトガレージ提供】

ブッチャーサイキョ!!



1名様

SIZE F

ダイエットブッチャー・パーカー

ダイエットブッチャーからまたしても、ステキなパーカー登場ですわ。これ、着心地サイコーなのです。お問い合わせは直販店のオクタゴン☎03-3486-5539住所 東京都渋谷区神宮前5-16-8へどうぞ。

【ダイエットブッチャースリムスキン提供】

心はみちのくにあり



セットで3名様

タイガー＆サスケ＆浪花キーホルダー ザ・グレート・サスケソフビ

ゴールドのキーホルダーはみちプロ会場でも大人気！　そして、このサスケミニミニソフビはサスケ10周年記念パーティーで配られたのを頂いちゃいました。

【インスパイヤー＆みちプロ提供】



2名様

紙のプロレス RADICAL
No.26
2000年5月25日発行

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
坂井“スモー”ノブ
松澤チョロ
大西タマリン
堀江ガンツ
八木賢太郎(カタブツ君にiMacを教えていたため非番)

スーパーバイザー
吉田豪

広告営業
佐藤恵美

助っ人
恒遠“おりこうさん”ツネ
中村愚乱
金田謙太郎
ジャイ子
藤井宏幸
大坪ケムタ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツ
村松さん
セッキー
グッチー（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上さおとめの事務所）

出前
出前持ち入江（TwoThree）

カメラマン
斉藤ユーリ
遠藤政文
森鷹博
黒田史夫
戸成ぶつぞう
古澤聖三
松本崇

試合写真
平工幸雄
乾晋也

お勘定
林ヘックション一枝

季節はずれの皮コート
中村カタブツ君（37歳）

フィニッシュ
ツー・スリー／さおとめの事務所

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元
株式会社ワニマガジン社
〒160-8580　東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911（販売・営業）

発行元
株式会社ダブルクロス
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188（編集・制作）

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 135
2000 NO.26
「プロレス」を頼むゾ、ジーッ!!
小川、桜庭、船木、田村が究極始動!
平成12年5月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体800円＋税



9784898296165
1929476008008
雑誌　69862-35

印刷：図書印刷株式会社
ISBN4-89829-616-5
C9476 ¥800E



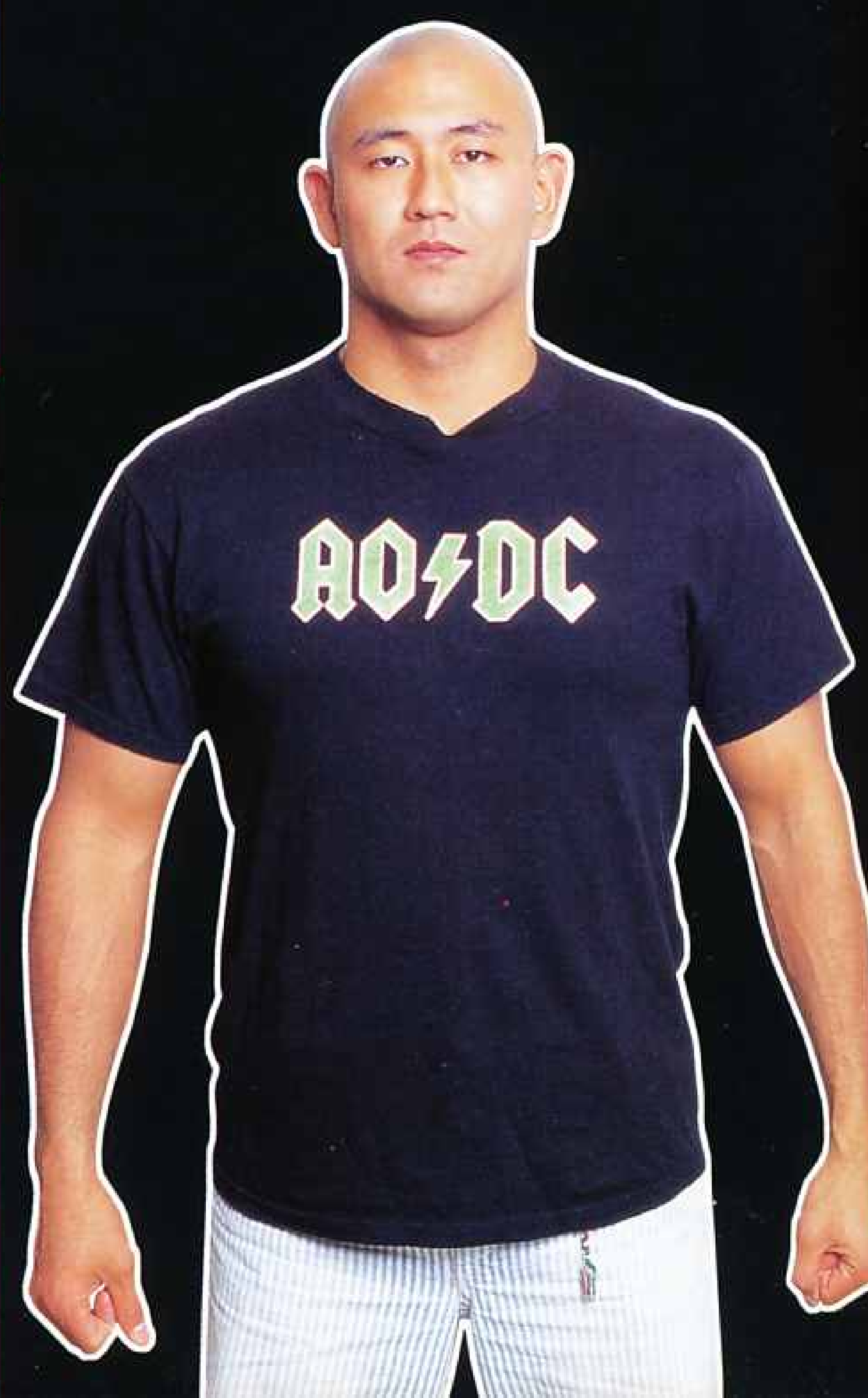
モデル／アレクサンダー大塚&愛（いと）ちゃん&『マタハリ』でピンナップ登場権をゲットした野郎ども

近日 結成イベント 開催（予定）!! できんのかーッ!

ミレニアム・イヤーの今年、日本列島をダンス旋風が覆い尽くす！ 日本一の観光名所である『東京ディズニーランド』は“クラブディズニー”を営業中で、連日パラパラを踊りまくる若者で埋め尽くされているという。さらに、ヒットチャートの上位ではモーニング娘。が『恋のダンスサイト』を100万枚も売り、メガ・ヒット街道をバク進中だ！ プロレス界に目を移しても、WWFではリキシ・ファトゥー＆トゥー・クールのダンスユニットが大ブレイク！ さらには、DDTでは篠社長がパラパラ軍団を率いて暴れ回っている。そんな中で、プロレスダンス・シーンに間違いなく一石を投じるであろう新たなダンスチームが新たに誕生した。それが、このアレクサンダー大塚ダンスクラブ（略してAO/DC、AC/DCではない！）である。本誌は、その結成式の模様を独占でキャッチしたので、カラーピンナップを使ってその模様をお届けするぜ！

先月から『ＳＲＳ・ＤＸ』の通販で、Ｔシャツだけは販売を開始したこの軍団が、遂にベールを脱いだ。怪しげな学ランの男子高校生４人をバックに、アレクは延々とダンスを披露！ 一説によるとバトラーツが最近、『Ｂ―ＣＬＵＢ』で指導開始したエアロ・レスリングか？ という見方はあるものの、その真の活動内容＆活動目的はいまなお謎に包まれたままだ。なお、アレクと親しい、このＴシャツの生みの親でもあるデザイナー井上きびだんご氏によれば、近々このAO/DCの結成イベントを行いたいと絶賛企画中のようだ。今後、何か動きがあり次第、逐一報告していくので要注目だ！

AO/DC Ｔシャツ（カラー：黒のみ／サイズ：Ｓ・Ｍ・Ｌ ￥3500）は『ＳＲＳ・ＤＸ』の通販と全国ショップで絶賛発売中！ ヒンズー・ハリケーン＆ダイエット・ブッチャー・スリムスキンのダブルネームＴシャツだ！ マスト・バイ！
お問い合せは『ＳＲＳ・ＤＸ』編集部までTEL.03―3295―4445




AO/
alexander otsuka
ウッ!!
ハッ!!
「アレクサンダー大塚
ダンスクラブ」結成!!
AO/DC
BABU!!
BABU!!
BABU!!
♪殴っちゃお!! ♪
モアエナジ
のダン
愛
20

CAL CALENDAR

13:00)

)
ー 1回会員¥3000 一般¥5000

)
:00)
場(18:00)

★

:30)

00~17:00)
サンダー大塚サイン会
ラーツレフェリー)トークショー
秀脚本賞受賞)&サムライキャス
受賞)※予定

:30)

3:00)

)
リング(14:00)◎
3:00)
)
:00)

00)
14:00)
3:00)
)♠

5 FRI.
新日本■福岡・福岡ドーム(15:00)★
FMW■東京・駒沢公園野外球技場(17:00)◎
みちのく■山形・中山町総合体育館(15:00)
大日本■神奈川・新川崎駅小倉陸橋下広場(13:00)
大阪■兵庫・淡路勤労センター(17:00)
全女&JWP■東京・後楽園ホール(12:00)
アルシオン■神奈川・横須賀市臨海公園(14:00)

6 SAT.
みちのく■青森・三沢市総合体育館(18:30)
大日本■埼玉・本庄市民体育館(18:30)
●田村潔司格闘技セミナー■東京・ティップネス渋谷 1回会員¥3000 一般¥5000
お問い合わせティップネス渋谷☎03-3770-3531

7 SUN.
みちのく■岩手・岩手町トレーニングセンター(15:00)
大日本■石川・産業会館3号館(15:00)
大阪■東京・大田区体育館(15:00)♥
アルシオン■東京・後楽園ホール(12:00)

9 TUE.
大日本■静岡・キラメッセぬまづ(18:30)
全女&JWP■東京・後楽園ホール(12:30)
アルシオン■群馬・高崎市中央体育館(18:30)

10 WED.
大日本■富山・高岡テクノドーム(18:30)

11 THU.
バトラーツ■東京・後楽園ホール(18:30)
大日本■長野・箕輪町民体育館(18:30)

12 FRI.
大日本■長野・松本やまびこドーム(18:30)

13 SAT.
アルシオン■岐阜・恵那市民体育館(18:30)
●田村潔司格闘技セミナー■東京・ティップネス渋谷 1回会員¥3000 一般¥5000
お問い合わせティップネス渋谷☎03-3770-3531

14 SUN.
バトラーツ■新潟・新潟フェイズ(15:00)
大日本■神奈川・新川崎駅小倉陸橋下広場(13:00)
GAEA■東京・有明コロシアム(18:00)♦
Jd'■大阪・NGKスタジオ(15:00)
アルシオン■岐阜・多治見市美濃焼却センター(15:00)

17 WED.
LLPW■東京・後楽園ホール(19:00)

18 THU.
全女&JWP■東京・後楽園ホール(19:00)

19 FRI.
●島田裕二トークイベント『浜田文子とは誰だ!』■東京・渋谷ロックウエスト(19:00)
ゲスト 浜田文子(アルシオン) お問い合わせロックウエスト☎03-5459-7988

20 SAT.
全日本■埼玉・大宮市民体育館(18:00)
GAEA■大阪・IMPホール(18:00)

21 SUN.
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
DDT■神奈川・鶴見青果市場(15:00)
LLPW■千葉・夷隅地区多目的センター(14:00)
Jd'■神奈川・Jd'道場(14:00)

22 MON.
みちのく■鹿児島・川内市太陽パレス(18:30)
修斗■東京・後楽園ホール(18:30)♥

23 TUE.
全日本■秋田・大館市民体育館(18:30)
みちのく■鹿児島・串良平和アリーナ(18:30)

24 WED.
全日本■青森・青森県総合運動公園体育館(18:30)
みちのく■宮崎・砂土原町立体育館(18:30)

25 THU.
全日本■岩手・矢巾町民総合体育館(18:30)
みちのく■大分・竹田市勤労センター(18:30)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)

26 FRI.
コロシアム2000■東京・東京ドーム(18:30)★♦
全日本■新潟・新潟市体育館(18:30)
みちのく■宮崎・都城市体育館(18:30)

27 SAT.
全日本■福島・ビッグパレット福島(18:30)
新日本■埼玉・草加市スポーツ健康都市記念体育館(18:30)
みちのく■福岡・甘木市甘木青果市場(18:30)★
IWA■北海道・札幌テイセンホール(18:30)

28 SUN.
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
FMW■東京・後楽園ホール(18:30)
みちのく■福岡・行橋市民体育館(17:00)
バトラーツ■東京・TFMホール(時間未定)
大日本■栃木・益子町陶芸広場特設体育館(14:00)
DDT■東京・葛飾区金町地区センター(15:00)
全女&JWP■東京・日本青年館(12:00)
Jd'■東京・アルーンホール(時間未定)
K-1■北海道・北海道立総合スポーツセンター(時間未定)

29 MON.
全日本■長野・飯田市勤労者体育センター(18:30)
みちのく■佐賀・唐津市文化体育館(18:30)

30 TUE.
全日本■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:30)
大日本■新潟・上越市厚生南体育館(18:30)
キャプチャー■静岡・キラメッセぬまづ(時間未定)

31 WED.
全日本■京都・KBSホール(18:30)
大日本■山形・酒田市営体育館(18:30)

『紙プロ』編集部おススメ興行
- ★ 山口日昇
- ◎ スモー・ノブ
- ♠ 松澤チョロ記者
- ♥ 大西タマリン
- ♦ ガンツ堀江

RADICAL CA

●はイベント情報です。

4 April

22 SAT.

新日本■愛知・知立福祉体育館（18:00）
SPWF■富山・東富山体育館（18:30）
キングダム■福岡・小倉市西日本総合展示場新館（18:00）
闘龍門■愛知・名古屋レインボーホール（15:00）
アルシオン■愛知・名古屋市総合体育館（18:00）
●井上京子バースデーイベント■東京・飯田橋『マスカレード』¥4500
お問い合わせエイエムシー☎03-3875-9393

23 SUN.

新日本■大阪・岸和田市総合体育館（15:00）
パンチ田原興行■東京・TFMホール（14:00）♠
バトラーツ■東京・TFMホール（18:00）
全女■東京・後楽園ホール（12:00）
GAEA■東京・後楽園ホール（18:30）
Jd'■大阪・NGKスタジオ（18:30）
アルシオン■兵庫・神戸サンボーホール（13:00）
K−1■大阪・大阪ドーム（13:00）

24 MON.

大日本■東京・後楽園ホール（18:30）
●紙のプロレスPRESENTS「暗闇プロレス道場」第2弾!■東京・新宿ロフトプラスワン（19:00頃）お問い合せロフトプラスワン☎03-3205-6864

25 TUE.

新日本■広島・広島サンプラザ（18:30）
FMW■東京・渋谷ON AIR EAST（20:00）
大日本■宮城・仙台市体育館第2競技場（18:30）
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ（19:00）
アルシオン■千葉・沼南町総合体育館（18:30）

26 WED.

新日本■山口・徳山市体育館（18:30）
大日本■青森・弘前市民体育館（18:30）

27 THU.

新日本■鹿児島・鹿児島アリーナ（18:30）
全女&JWP■東京・JWPホール（19:00）
●モハメド・ヨネトークライブ■東京・渋谷ロックウエスト（19:00）
お問い合わせロックウエスト☎03-5459-7988

28 FRI.

新日本■熊本・益城町総合体育館（18:30）
FMW■長野・佐久市総合体育館（18:30）
大日本■北海道・札幌テイセンホール（15:00）
Jd'■東京・アルーンホール（時間未定）

29 SAT.

新日本■長崎・長崎県立総合体育館（15:00）
FMW■静岡・アクトシティ浜松（14:00）
みちのく■新潟・新潟フェイズ（15:00）
SPWF■埼玉・川本町トレーニングセンター（13:00）
大阪■大阪・和泉市民体育館（13:00）
GAEA■大阪・IMPホール（18:30）
Jd'■東京・後楽園ホール（12:00）
アルシオン■三重・伊勢サンアリーナ（15:00）
●田村潔司格闘技セミナー■東京・ティップネス渋谷　1回会員¥3000　一般¥5000
お問い合わせティップネス渋谷☎03-3770-3531

30 SUN.

新日本■大分・別府ビーコンプラザ（18:30）
FMW■石川・産業展示館2号室（15:00）
みちのく■福島・保原町民体育館（15:00）
パンクラス■神奈川・横浜文化体育館（16:30）
大阪■三重・四日市オーストラリア記念館（17:00）
LLPW■山口・海峡メッセ下関展示見本市会場（18:00）

5 May

1 MON.

PRIDE GP 2000■東京・東京ドーム（17:00）★
FMW■広島・アステールプラザ（18:30）
みちのく■福島・喜多方市小野瀬体育館（18:30）
大日本■北海道・函館市民体育館（18:30）
DDT■東京・北沢タウンホール（18:30）
大阪■愛知・CLUB OZON（19:00）
LLPW■東京・大田区民プラザ（19:00）
●『プロ格祭り』■東京・後楽園プリズムホール（12:00〜17:00）
12:30―アラーキー写真集『格闘男』先行発売アレクサンダー大塚サイン会
14:00―谷川貞治（SRS DX編集長）&島田裕二（バトラーツレフェリー）トークショー
15:00―本誌編集長　山口日昇（みちプロ大賞最優秀脚本賞受賞）&サムライキャスター　三田佐代子（みちプロ大賞最優秀主演女優賞受賞）※予定

2 TUE.

FMW■福岡・北九州市立小倉北体育館（18:30）
みちのく■山形・米沢市営体育館（19:00）
大阪■大阪・南港インティックス大阪6号館（13:00）
アルシオン■長野・上田市民体育館（18:30）

3 WED.

FMW■福岡・博多スターレーン（14:00）
みちのく■岩手・一関市文化センター（15:00）
大日本■東京・秋葉原駅昭和口前広場特設リング（14:00）◎
大阪■大阪・南港インティックス大阪6号館（13:00）
キャプチャー■東京・大田区民プラザ（19:30）
Jd'■東京・北沢タウンホール（13:00）&（17:00）
アルシオン■新潟・長岡市厚生会館（18:30）

4 THU.

FMW■大阪・IMPホール（15:00）
みちのく■宮城・岩沼市民体育センター（15:00）
大日本■福島・いわき市平競輪場東駐車場（14:00）
大阪■大阪・南港インティックス大阪6号館（13:00）
キャプチャー■東京・大田区民プラザ（19:30）♠

5 FRI.

新日本■福岡・福岡ド
FMW■東京・駒沢公
みちのく■山形・中山
大日本■神奈川・新川
大阪■兵庫・淡路勤労
全女&JWP■東京・後
アルシオン■神奈川・

6 SAT.

みちのく■青森・三沢
大日本■埼玉・本庄市
●田村潔司格闘技セミナー
お問い合わせティップネス

7 SUN.

みちのく■岩手・岩手
大日本■石川・産業会
大阪■東京・大田区体
アルシオン■東京・後

9 TUE.

大日本■静岡・キラメッ
全女&JWP■東京・後
アルシオン■群馬・高

10 WED.

大日本■富山・高岡テ

11 THU.

バトラーツ■東京・後楽
大日本■長野・箕輪町

12 FRI.

大日本■長野・松本や

13 SAT.

アルシオン■岐阜・恵那
●田村潔司格闘技セミナー
お問い合わせティップネス

14 SUN.

バトラーツ■新潟・新潟
大日本■神奈川・新川
GAEA■東京・有明コ
Jd'■大阪・NGKスタ
アルシオン■岐阜・多治

17 WED.

LLPW■東京・後楽園

18 THU.

全女&JWP■東京・後

19 FRI.

●島田裕二トークイベント
ゲスト　浜田文子（アルシ

20 SAT.

全日本■埼玉・大宮市
GAEA■大阪・IMPホー

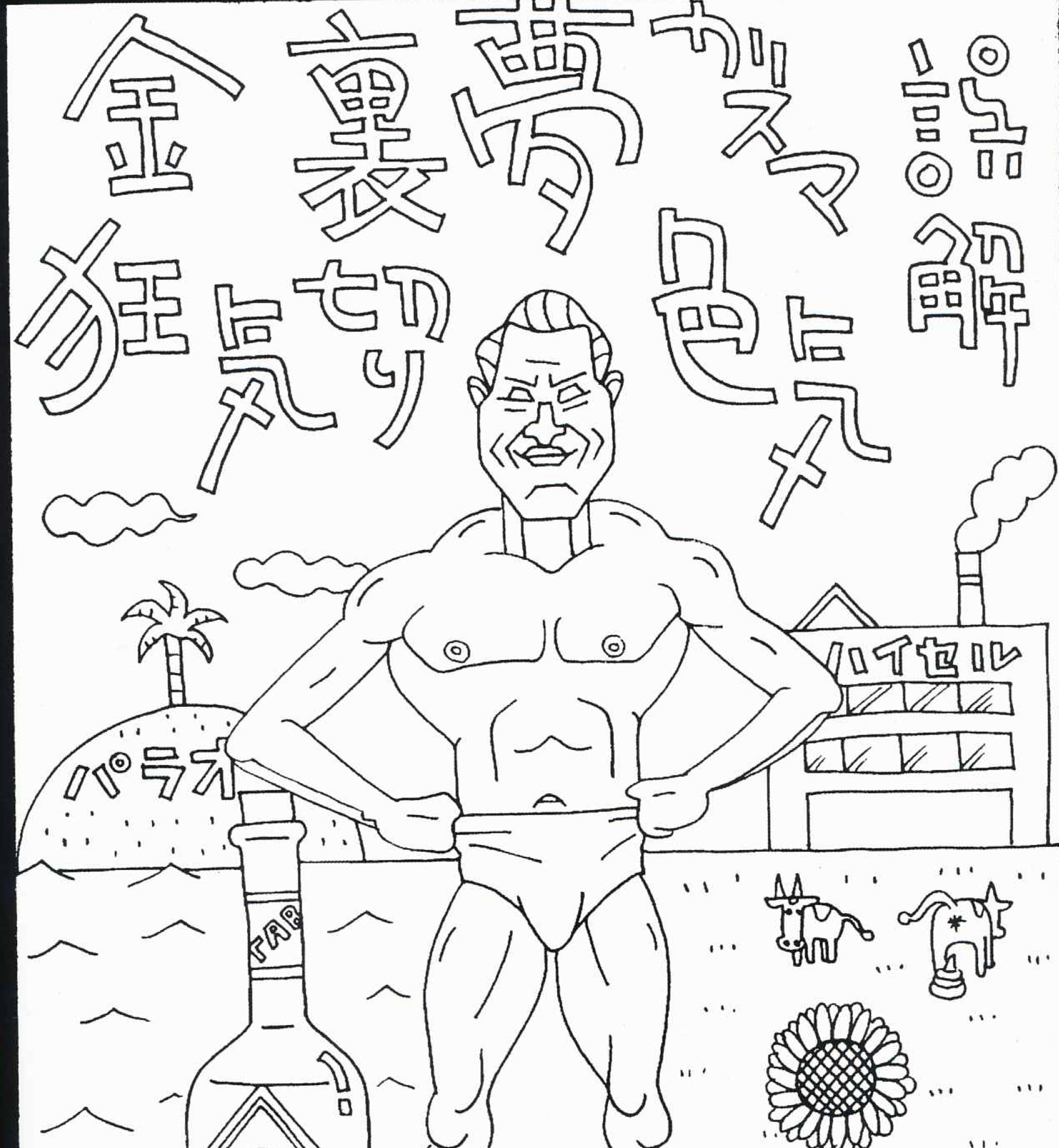
TLINDEX

全日本プロレス 〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12	03-3403-7344	つぼプロモーション 〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1　アパルトマン青山2F－E	03-3498-4710
新日本プロレス 〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11	03-5468-3111	華☆激 〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29　エステートピア薬院302	092-522-1901
FMW 〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15　ダヴィンチ下目黒6F	03-5496-0671	喧嘩プロレス二瓶組 〒212-0055 神奈川県川崎市川崎区南町18-17　第5大昭ビル502	044-244-8942
リングス 〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1　サトウビル202	03-3461-0257	ZIPANG 〒229-0002 神奈川県相模原市渕野辺本町2-37-19 コスモハイグランド106	0427-54-8851
WAR 〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23　萬豊ビル2F	03-5477-0461	T.A.M.A 〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5	042-572-6795
みちのくプロレス 〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8	019-626-1333	CMLL・JAPAN 〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151	075-601-7816
SPWF 〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4　クロサキビル	03-3814-6371	UNW 〒164-0003 東京都中野区4-4-5-311	03-3362-3014
パンクラス 〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25	03-5792-0815	日本プロ・レスリング協会(JPWA) 〒160-0004 東京都新宿区四谷4-14-2F	03-3351-2604
IWAジャパン 〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1　四谷サンハイツ401	03-3352-3366	栗栖ジム 〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7	06-6790-8896
大日本プロレス 〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347	045-937-0811	ドリームステージエンターテインメント 〒104-0033 東京都中央区新川2-3-9　新川第二ビル	03-3552-6300
バトラーツ 〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町2-158-1	0489-63-0005	K－1事務局 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14	03-3796-2977
DDT 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内	03-3356-8493	修斗コミッション 〒173-0001 東京都板橋区本町34-4　石田コーポラス501	03-3961-2704
髙田道場 〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6　ワイルドパレス武蔵小山1F-B1	03-5749-5030	WK/Network(和術慧舟會、A³GYM、RJW) 〒103-0021 東京都中央区日本橋石町3-3-11　山田ビル5F	03-5200-3546
UFO 〒108-0071 東京都港区白金台3-19-50　K白金台ビル7F	03-5447-2121	シュートボクシング協会 〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8　ワコー花川戸ハイツ1～3F	03-3843-1212
大阪プロレス 〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7　日宝東心斎橋ビル301	06-6243-5131	UFC－J事務局 〒163-0430 東京都新宿区西新宿2-1-1　新宿三井ビル30F	03-3343-2444
闘龍門JAPAN 〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り5-3-18	078-362-0707	怪獣王国 〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F	03-5952-1177
ダイプロデュース(大仁田興行) 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-28-3　ハイラーク五反田505	03-5496-4900	コロシアム2000 〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12　テレビ東京事業部内	03-3432-1682
世界のプロレス 〒807-0054 福岡県遠賀郡水巻町二東2-8-6	093-203-5170	全日本女子プロレス 〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17	03-3493-6541
掣圏道 〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14　恵比寿スカイハイツ607	03-5456-7333	JWP 〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10　大秀ビル502	03-3839-4161
レッスル夢ファクトリー 〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11	03-5828-8494	LLPW 〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4　ビクセル文京105	03-3945-7926
キングダム・エルガイツ 〒206-0822東京都稲城市坂浜2305	0423-31-2797	GAEA JAPAN 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3　COVAMOC BUILDING 2F	03-3795-2555
キャプチャー 〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1　横山ビルB1	044-959-3333	Jd' 〒107-0052 東京都港区赤坂2-12-10　国際溜池ビル7F	03-5561-0522
国際プロレス 〒253-0052神奈川県茅ケ崎市幸町20-14	0467-86-0197	アルシオン 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1　代官山島田ビル3F	03-5720-5217
メビウス 〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15	03-5382-6991	NEO 〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-22-2-101	03-5452-0344

「オマエはキャンバスに色を塗ったことがあるか？」

（byアントニオ猪木：ホントは前号で村上一成選手に言った「オマエはキャンバスに絵を描いたことがあるか？」なんですが……ぬりえは頼んだゾ————ッ!!）

ぬりえ



The ANTON

イラスト／ハガキ劇場の歌麿こと**英加直純さん**（『たけしの誰でもピカソ』グランプリ受賞者）の投稿を勝手にポートレートにするゼ!!